

DB2 照会報告書作成プログラム



DB2 QMF メッセージおよびコード

バージョン 8 リリース 1

DB2 照会報告書作成プログラム



DB2 QMF メッセージおよびコード

バージョン 8 リリース 1

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、735 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM DB2 Universal Database Server (z/OS 版) バージョン 8 リリース 1 (プログラム番号 5625-DB2) のフィーチャーである IBM DB2 照会報告書作成プログラムに適用されます。また、改訂版などで特に断りのない限り、これ以降のすべてのリリースにも適用されます。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： GC18-7447-00
DB2 Query Management Facility
DB2 QMF Messages and Codes
Version 8 Release 1

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2003.12

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1982, 2004. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2003

目次

本書について	v	第 10 章 メッセージ	
メッセージのオンライン・ヘルプ	v	DSQ70001・DSQ70171	631
メッセージ内の変数	v	第 11 章 メッセージ	
呼び出し可能インターフェースの使用時の		DSQ80011・DSQ85729	639
QMF メッセージの検索	vi	第 12 章 メッセージ	
メッセージのタイプ	vi	DSQ90001・DSQ90575	723
第 1 章 初期化とインターフェースのメッセー		第 13 章 SQLSTATE コード	729
ジ	1	特記事項	735
第 2 章 割り込みメッセージ (TSO および		商標	737
CMS)	5	参考文献	739
第 3 章 標準の QMF メッセージとユーザーの		APPC の資料	739
応答	7	CICS の資料	739
第 4 章 メッセージ DSQ10001・DSQ19633	9	COBOL の資料	740
第 5 章 メッセージ		DB2 UDB の資料	740
DSQ20005・DSQ23723	207	DCF の資料	741
第 6 章 メッセージ		DRDA の資料	741
DSQ30005・DSQ36999	399	図形データ表示管理プログラム (GDDM) の	
第 7 章 メッセージ		資料	741
DSQ40001・DSQ40594	517	HLASM の資料	741
第 8 章 メッセージ		ISPF/PDF の資料	741
DSQ50001・DSQ51305	527	OS/390 の資料	742
第 9 章 メッセージ		PL/I の資料	742
DSQ60001・DSQ60902	589	REXX の資料	743
		ServiceLink の資料	743
		VM の資料	743
		VSE の資料	743

本書について

本書は、QMF のメッセージとコードをリストし、説明しています。本書は、メッセージを使用する必要はあるが、メッセージを見るために QMF を始動したくない、QMF のプログラマーや情報センターの要員の方々を対象にしています。本書は、読者が QMF 製品の基本機能に精通しており、「DB2 QMF 使用の手引き」に掲載されている演習問題を終了していることを前提としています。

QMF では、膨大なメッセージ・コードとメッセージ・テキストが提供されています。これらのメッセージは、エラーが起こったか否かを判別し、そのエラーを訂正する方法を知るのに役立ちます。

重要: メッセージ番号およびメッセージ・テキストはリリースごとに変化することがあるので、それらをアプリケーション・プログラミングの際に使用しないようにしてください。

エラーが起こると、QMF は通常、メッセージ番号を表示します。大部分のメッセージ番号の形式は、DSQnnnnn です。ここで、n はそれぞれ、0 から 9 までの数字です。初期化メッセージの番号の形式は、DSQInnnn です。メッセージ番号の後に、必ず簡単なメッセージが示されます。

メッセージのオンライン・ヘルプ

対話式に作業を行う場合に、QMF のメッセージ・ヘルプ機能を使用することができます。大部分の標準的なメッセージの場合、QMF のメッセージ・ヘルプ機能は、ヘルプ・パネルに詳細なメッセージ・テキストを表示します。メッセージ・ヘルプ・パネルを表示するには、Help 機能キーを押します。コマンド行に HELP DSQnnnnn を入力して、ヘルプ・パネルを表示させることもできます。

メッセージのヘルプ・テキストの形式は次のとおりです。

メッセージ番号 簡単なメッセージ・テキスト 説明:
説明のテキスト アクションの提案 : 提案のテキスト

メッセージ内の変数

多くのメッセージ・ヘルプ・パネルでは、変数が使用されます。本書では、変数は &Vn または &n の形式で示しています。ここで、『n』は数字です。オンラインでヘルプ・パネルを見る場合には、これらの変数の値は決定されています。

呼び出し可能インターフェースの使用時の QMF メッセージの検索

呼び出し可能インターフェースを使用して QMF を始動する場合には、連絡域 (DSQCOMM) からメッセージ番号とメッセージ・テキストを検索することができます。

メッセージのタイプ

本書には、3 種類のメッセージがリストされています。

- 初期化とインターフェースのメッセージ

QMF START の処理、またはコマンドあるいは呼び出し可能インターフェースの呼び出しの過程で、QMF メッセージ処理プログラムが使用可能になる前にエラーが起ることがあります。START コマンドまたはコマンドあるいは呼び出し可能インターフェースからの呼び出しが失敗した場合、QMF はメッセージ番号とメッセージ・テキストを戻します。呼び出し可能インターフェースを用いてコンパイルされたアプリケーションの場合、QMF はメッセージ番号とメッセージ・テキストを DSQCOMM に入れます。REXX 呼び出し可能インターフェースを用いるアプリケーションの場合、メッセージ番号は REXX 変数 DSQ_MESSAGE_ID に、またメッセージ・テキストは REXX 変数 DSQ_MESSAGE_TEXT に入れられます。コマンド・インターフェースから出されるコマンドの場合には、メッセージ番号は ISPF 変数 DSQCIMNO に入れられます。メッセージ・テキストは ISPF 変数 DSQCIMSG に入れられます。初期化とインターフェースのメッセージは、DSQInnnn の形式であり、QMF メッセージ処理プログラムでは扱われません。したがって、それらのメッセージに対してヘルプは使用できません。それらのメッセージのリストについては 1 ページの『第 1 章 初期化とインターフェースのメッセージ』を参照してください。

- 割り込みメッセージ

ユーザーまたはシステムのいずれかが QMF の処理に割り込みを行うと、QMF を出します。割り込みメッセージは QMF を終了させることがあります。割り込みメッセージは、DSQ505nn の形式であり、QMF メッセージ処理プログラムでは扱われません。したがって、それらのメッセージに対してヘルプは使用できません。それらのメッセージは 5 ページの『第 2 章 割り込みメッセージ (TSO および CMS)』にリストされています。

- 標準の QMF メッセージ

標準の QMF メッセージは、QMF が始動した後、QMF メッセージ処理プログラムによって生成されます。大部分の標準の QMF メッセージは、v ページの『メッセージのオンライン・ヘルプ』で説明されている形式の関連するヘルプ・テキストを伴っています。標準の QMF メッセージは 7 ページの『第 3 章 標準の QMF メッセージとユーザーの応答』にリストされています。

CICS ユーザーへの注: REXX、ISPF、およびコマンド・インターフェースは CICS ではサポートされません。

第 1 章 初期化とインターフェースのメッセージ

CICS® ユーザーへの注: REXX、コマンド・インターフェース、および ISPF は CICS ではサポートされません。コマンド・インターフェースのエラーの場合、メッセージ・テキストは ISPF 変数 DSQCIMSG に入れます。

START コマンドまたはコマンドあるいは呼び出し可能インターフェースからの呼び出しが失敗した場合、QMF は、その失敗の原因の判別に役立つメッセージを提供します。それらのメッセージの番号は、DSQInnnn の形式です。ここで、nnnn は 4 桁の数です。

START コマンドおよびコマンドあるいは呼び出し可能インターフェースからの呼び出しをデバッグしやすくするために、次のリストは メッセージ・テキストとそれに該当するメッセージ番号との対応関係を示しています。現行レベルの DSQCOMM を使用している場合、メッセージ・テキストはその DSQCOMM に入っています。REXX 言語では、メッセージ番号は変数 DSQ_MESSAGE_ID に、メッセージ・テキストは変数 DSQ_MESSAGE_TEXT に入っています。メッセージ・テキストの中の &V1 は、値またはプログラムの置換パラメーター (長さは 1 文字) を指定します。

DSQI0001

正しくないバージョンの QMF インターフェースを使用しています。最新バージョンのものをを使ってプログラムを再リンクしてください。

DSQI0002

QMF 製品を始動するための仮想記憶域が不足しています。

DSQI0003

DSQSDCSS で指定された QMF プログラム・セグメント &V1 は QMF V3 には正しくありません。

DSQI0004

サポートされていないシステム環境です。CMS、TSO、または CICS を使用してください。

DSQI0005

QMF モジュール &V1 をロードすることができません。

DSQI0006

呼び出し可能インターフェースへの無効な呼び出しです。

DSQI0007

QMF プログラム・セグメント V1 が存在しません。DSQSDCSS 内の値をチェックしてください。

DSQI0008

QMF プログラム・セグメント V1 に対して SEGMENT FIND 関数を試行したためのエラーです。

DSQI0009

QMF プログラム・セグメント V1 に対して FINDSYS 関数を試行したためのエラーです。

DSQI0010

エラー。QMF プログラム・セグメント V1 がユーザー記憶域をオーバーレイする可能性があります。

DSQI0011

QMF プログラム・セグメント V1 に対して SEGMENT PURGE 関数を試行したためのエラーです。

DSQI0012

QMF プログラム・セグメント V1 に対して SEGMENT LOAD 関数を試行したためのエラーです。

DSQI0013

QMF プログラム・セグメント V1 に対して LOADSYS 関数を試行したためのエラーです。

DSQI0014

DSQSCMD で指定された REXX プログラム V1 を実行することができません。

DSQI0015

DSQSCMD プログラム・パラメーターの値の長さが長過ぎます。

DSQI0016

DSQSDCSS プログラム・パラメーターの値の長さが長過ぎます。

DSQI0017

DSQALANG プログラム・パラメーターの値の長さが長過ぎます。

DSQI0018

DSQSCMD プログラム・パラメーターの値がありません。

DSQI0019

DSQSDCSS プログラム・パラメーターの値がありません。

DSQI0020

DSQALANG プログラム・パラメーターの値がありません。

DSQI0021

DSQALANG プログラム・パラメーターの値 V1 が正しくありません。

DSQI0022

呼び出しパラメーターのキーワードが多過ぎます。

DSQI0023

呼び出しパラメーターの値がないか、無効な区切り記号があります。

DSQI0024

QMF 製品を始動するための仮想記憶域が不足しています。

DSQI0025

パラメーターの数が正しくありません。3 または 9 です。

DSQI0026

QMF モジュール DSQCBST をロードすることができません。

DSQI0027

QMF 連絡域 (DSQCOMM) 内の DSQ_INSTANCE_ID が正しくありません。

DSQI0028

コマンドを実行することができません。START コマンドを出す必要があります。

DSQI0029

QMF 製品を始動するための仮想記憶域が不足しています。

DSQI0030

コマンド・ストリングの長さのパラメーター・アドレスが正しくありません。

DSQI0031

コマンド・ストリングの長さの値が正しくありません。

DSQI0032

コマンド・ストリングのパラメーター・アドレスが正しくありません。

DSQI0033

QMF REXX インターフェース・モジュール DSQCIX への呼び出しがサポートされていません。

DSQI0034

QMF モジュール DSQCIX を NUCXLOAD しようとする試行のためのエラーです。

DSQI0035

DSQSCMD で指定された REXX プログラム V1 が結果を戻しませんでした。

DSQI0036

QMF インターフェース・モジュール DSQQMFE への呼び出しがサポートされていません。

DSQI0037

モジュール DSQCBST への CICS LINK を EXEC することができません。

DSQI0041

モジュール V1 (複数の場合もある) をロードすることができません。

初期化とインターフェースのメッセージ

DSQI0042

DCSS 内で モジュール V1 (複数の場合もある) を検出することができません。

DSQI0045

ISPLINK SELECT PGM(DSQCCISW) TCB スイッチの障害です。

DSQI0046

初期化の際の TCB とは違う TCB で QMF が呼び出されました。

DSQI0047

コマンドを実行することができません。START コマンドを出す必要があります。

DSQI0048

QMF はすでにアクティブです。START コマンドは許可されません。

DSQI0049

予期しない CICS エラーです。CICS サービスおよび EIBRESP: &1。

第 2 章 割り込みメッセージ (TSO および CMS)

QMF は、ユーザーまたはシステムのいずれかが QMF の処理に割り込みを行うという状況に備えて、特殊な一連のメッセージを提供しています。これらのメッセージは、すべて DSQ505 で始まり、QMF 処理に対する割り込みに対処します。QMF はメッセージ処理プログラムを使用せず、メッセージのヘルプ・テキストも提供しません。

- DSQ50517 QMF は異常終了しました。
-->異常終了コード =
-->プログラム名 =
-->CSECT 名 =
-->CSECT アドレス =
-->ABEND の CSECT オフセット =
-->プログラム状況ワード =
-->汎用レジスター (0-F) は :

-->QMF CSECT トレース :
==>"PA1" キーを押して "CP" デバッグ・モードに入る。
==>"ENTER" キーを押して QMF の終了を続行する (CMS のみ)。
- DSQ50518 QMF 異常終了が進行中。
- DSQ50519 QMF は異常終了の情報を記録することができない。
次の情報を記録する。

-->プログラム名 =
-->CSECT 名 =
-->CSECT アドレス =
-->ABEND の CSECT オフセット =
-->プログラム状況ワード =
-->汎用レジスター (0-F) は :

-->QMF CSECT トレース :

==>"PA1" キーを押して "CP" デバッグ・モードに入る。
==>"ENTER" キーを押して QMF の終了を続行する
- DSQ50546 QMF コマンドに割り込みが行われた。画面をクリアし Enter を押す。
- DSQ50547 QMF コマンドに割り込みが行われた。以下のいずれか 1 つを行う。
==> QMF コマンドを続行するには、"CONT" と入力する。
==> QMF コマンドを取り消すには、"CANCEL" と入力する。
==> QMF デバッグに入るには、"DEBUG" と入力する。
- DSQ50548 OK、QMF コマンドは続行する。

割り込みメッセージ

- DSQ50549 正しくない応答。QMF コマンドは続行する。
- DSQ50550 OK、QMF コマンドの取り消しを試みる。
- DSQ50551 OK、QMF デバッグに入る。QMF CSECT トレースは：
==> QMF コマンドを取り消すには CANCEL と入力する。
==> QMF コマンドを取り消すには、CANCEL と入力する。
==> QMF を異常終了するには、ABEND と入力する。
==> QMF トレースを設定するには、TRACEALL または TRACENONE と
入力する。
- DSQ50552 QMF は異常終了されている。
- DSQ50553 QMF トレースは設定できません。使用中ですので後で再試行してください。
- DSQ50554 取り消しできない。エラーが処理中である。
- DSQ50560 オペレーターがシャットダウンを要求した。作業を終了し、セッションを終了すること。
- DSQ50561 データベース・マネージャーはアクティブでない。即時にセッションを終了すること。
- DSQ50565 セッションはエラーで終了した。理由コード =

第 3 章 標準の QMF メッセージとユーザーの応答

このセクションでは、QMF の実行の過程で発生するエラーに対する標準の QMF メッセージをリストしています。標準のメッセージには、望ましい解決方法を示し、エラーの診断に役立つヘルプ情報が含まれています。

第 4 章 メッセージ DSQ10001・DSQ19633

DSQ10001

メッセージ: 無効な入力パラメーターに '&1' の値があります。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ10010, DSQ1011

メッセージ: 無効な機能コード '&1' がモジュールに渡されました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ10012

メッセージ: 記憶スペースがありません。

説明: 仮想記憶域または QMF 内部バッファーにスペースがないので、コマンドを実行できません。

ユーザーの処置: RESET DATA コマンドを使用してください。これにより、追加の記憶スペースを使用できます。現在 DATA を使用していない場合、セッションでさらに記憶スペースが必要になる可能性があります。エラーが繰り返される場合は、QMF 管理者に連絡してください。QBE 照会を実行中の場合は、メッセージを受け取らなくなるまで、照会操作行を減らしてください。

DSQ10013

メッセージ: このデータベースは 3 部分名をサポートしていません。

説明: 指定された名前にはロケーション修飾子 "&V1" があります。使用中のデータベースはロケーション修飾子をサポートしていません。

ユーザーの処置: ロケーション修飾子 "&V1" を除去してコマンドを再試行してください。QMF 管理者に連絡して、正しいデータベースを使用していることを確認してください。

DSQ10014

メッセージ: DSQ10010 を参照してください。

DSQ10015

メッセージ: &1. EXEC の実行中にエラーが検出されました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうか

かチェックしてください。 QMF は継続して使用できます。

DSQ10016

メッセージ: 記憶域の解放が失敗しました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。 QMF は継続して使用できます。

DSQ10017

メッセージ: QMF は、通信データベースを読み取ることができませんでした。パッケージ &V1. をバインドします。

説明: QMF プログラムがローカル・データベースにインストールされていない可能性があります。一方、QMF プログラムはインストールされていますが、DB2 通信データベースのインストールは QMF のプログラムのインストール後に行なわれる可能性があります。

ユーザーの処置: ローカル・データベースのパッケージに対して &V1. の DBRM をバインドするように QMF 管理者に依頼してください。

DSQ10018

メッセージ: DSQ10012 を参照してください。

DSQ10019

メッセージ: モジュール &1 をロードできません。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよ

び QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。 QMF は継続して使用できます。

DSQ10020

メッセージ: モジュール &1 を削除できません。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。 QMF は継続して使用できます。

DSQ10026

メッセージ: セッションを開始するためにはプロファイル情報が必要です。

説明: 端末セッションを制御するために必要な特性が、QMFに使用可能な状態になっていません。プロファイルを入手するまでは、処理を進めることはできません。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して、QMF システムに登録してもらってください。登録が完了した時点で、セッションを再始動してください。

DSQ10028

メッセージ: リセットできません : プロファイルは保管されていません。

説明: システム制御表 Q.PROFILES の中に、ユーザー ID に該当するプロファイルがなく、デフォルトのシステム・プロファイルもありません。したがって、プロファイルのリセットはできません。一時記憶域の中の現プロファイルによって操作を続けることはできます。

ユーザーの処置: DISPLAY PROFILE コマンドを出して、必要な値が入るように現行プロファイルを変更してください。次に、SAVE PROFILE コマンドを実行して、ユーザー ID のプロファイルが記録されるようにしてください (さもないと、再び QMF にサインオンすることはできません)。

DSQ10029

メッセージ: QMF のためのディレクトリー項目が無効です。

説明: QMF にサインオンするためには、QMF が接続される DB2 サーバー (VSE および VM 版) 仮想計算機を指定するディレクトリー項目がなければなりません。

ユーザーの処置: QMF 管理者の指示にしたがって、ディレクトリー項目を訂正してください。

DSQ10030

メッセージ: &V1. として接続するためのプロファイル情報が必要です。

説明: 端末セッションをユーザー &V1 として制御するために必要な特性が QMF にとって使用可能な状態になっていません。&V1 のためのプロファイルが入るまでは、処理を続けることはできません。

ユーザーの処置: 要求されているユーザーを QMF システムに登録するように、QMF 管理者に依頼してください。登録が完了すれば、そのユーザーに対しての接続も行うことができます。

DSQ10042

メッセージ: DSQ10010 を参照してください。

DSQ10043

メッセージ: OK、&1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ10045, DSQ10046

メッセージ: DSQ10012 を参照してください。

DSQ10049

メッセージ: DSQ10016 を参照してください。

DSQ10050 - DSQ10052

メッセージ: DSQ10012 を参照してください。

DSQ10053

メッセージ: Q.RESOURCE-VIEW の読み取りエラー。SQLCA は &V1 です。

説明: QMF 統御プログラムのリソース視点を読み取ろうとしたさいに、エラーが検出されました。SQLCA には、この特定エラーに関する情報が含まれています。QMF は、リソース表にアクセスしないで機能し続けます。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。

DSQ10059, DSQ10062, DSQ10063

メッセージ: DSQ10010 を参照してください。

DSQ10065

メッセージ: DSQ10012 を参照してください。

DSQ10076

メッセージ: DI 機能の入力として、無効な機能コード '&1' が見つかりました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ10077

メッセージ: 無効なデータ・タイプ '&1' が DBM から戻されました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ10078

メッセージ: 照会に使用されている列が多すぎます。

説明: &V1. は、1 つの照会で、どのような単一の表または一連の表からも使用できる最大数の列 &V2. を超えて、選択または挿入される列の数です。

ユーザーの処置: 使用する列の数をもっと少なくして、照会を書き直してください。SQL の照会の場合には、「SELECT * FROM A, B, C」に類するステートメントを検査してください。このステートメントは、表 A、B、および C からすべての列を選択することを指定しています。

DSQ10079, DSQ10080

メッセージ: DSQ10012 を参照してください。

DSQ10081

メッセージ: 'DESCRIBE' に予期しないエラーが起きました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ10082

メッセージ: DSQ10016 を参照してください。

DSQ10084

メッセージ: DESCRIBEd ステートメントが 'SELECT' ではありません。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ10086 - DSQ10089

メッセージ: DSQ10016 を参照してください。

DSQ10091

メッセージ: DSQ10012 を参照してください。

DSQ10092

メッセージ: DSQ10016 を参照してください。

DSQ10093, DSQ10096

メッセージ: 列名 '&V.' は、18 文字を超えています。

説明: 現在ご使用の &LS. へのデータベース接続は、この長さをサポートします。データベース列名は最大 18 文字まで指定できます。

ユーザーの処置: 列名を短くして、QMF の使用を続けてください。

DSQ10101

メッセージ: '&1' の無効なデータ・タイプが見つかりました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ10103, DSQ10104

メッセージ: DSQ10012 を参照してください。

DSQ10105

メッセージ: DSQ10016 を参照してください。

DSQ10106

メッセージ: DSQ10012 を参照してください。

DSQ10107

メッセージ: DSQ10016 を参照してください。

DSQ10110, DSQ10116, DSQ10117

メッセージ: DSQ10010 を参照してください。

DSQ10122

メッセージ: DSQ10043 を参照してください。

DSQ10123

メッセージ: タイプ '&1' は Q.OBJECT_DIRECTORY の行 '&2' において無効です。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ10124

メッセージ: 許可 ID '&C1.' は長過ぎます。

説明: データベース接続でサポートされる最大長は &C3. です。許可IDの長さは &C2. です。

ユーザーの処置: 正しい許可IDを使用するか、この長さの許可IDをサポートするデータベースに接続してください。

DSQ10125 - DSQ10127

メッセージ: &V1 コマンドに指定されたオブジェクトは処理できません。

説明: &V1 コマンドで、データベース内のオブ

ジェクトの名前として、&V2..&V3 が使用されています。その名前を持つ &V4 オブジェクトはデータベースの中にありますが、そのサブタイプが &V5 であるため、QMF にはその処理ができません。

ユーザーの処置: &V1 コマンド上の名前を、QMF によって処理できるオブジェクトの名前に変更し、コマンドを再入力してください。リスト・パネルからこのコマンドを入れた場合には、コマンドの形式が正しかったかどうか確認してください。このパネルから QMF コマンドを入れる場合の詳細は、リスト・パネルから呼び出されるヘルプを参照してください。

DSQ10128

メッセージ: &C1. コマンドに指定されたオブジェクトは処理できません。

説明: &C1. コマンドで、データベース内のオブジェクトの名前として、&C2.&C3 が使用されています。その名前を持つ &C4 オブジェクトはデータベースの中にありますが、その版レベルが &C5 であるため、QMF にはその処理ができません。

ユーザーの処置: &C1. コマンド上の名前を、QMF によって処理できるオブジェクトの名前に変更し、コマンドを再実行してください。リスト・パネルからこのコマンドを入れた場合には、コマンドの形式が正しかったかどうか確認してください。リスト・パネルからの QMF コマンドの入力の詳細は、リスト・パネルのヘルプを参照してください。

DSQ10129

メッセージ: DSQ10010 を参照してください。

DSQ10130

メッセージ: このデータベースは 3 部分名をサポートしていません。

説明: 指定された名前にはロケーション修飾子

'&V1' があります。使用中のデータベースはロケーション修飾子をサポートしていません。

ユーザーの処置: ロケーション修飾子 '&V1' を除去してコマンドを再試行してください。管理者に連絡して、正しいデータベースを使用していることを確認してください。

DSQ10131

メッセージ: QMF 照会、プロシージャまたは書式名に位置は使用できません。

説明: QMF オブジェクトはローカル・データベースに保管されていなければいけません。照会、プロシージャ、または書式名一部として位置を指定することはできません。QMF 照会、プロシージャまたは書式名は次の形式です。

AUTHID.OBJECTNAME

ユーザーの処置: 名前から位置修飾子 "&V1" を除去してコマンドを再試行してください。

DSQ10132

メッセージ: DSQ10012 を参照してください。

DSQ10133

メッセージ: DSQ10016 を参照してください。

DSQ10134 - DSQ10138

メッセージ: モデル '&1' は Q.OBJECT_DIRECTORY の行 '&2' において無効です。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうか

かチェックしてください。 QMF は継続して使用できます。

DSQ10139

メッセージ: DSQ10124 を参照してください。

DSQ10162

メッセージ: DSQ10010 を参照してください。

DSQ10140, DSQ10141

メッセージ: オブジェクト名 '&C1.' は長すぎます。

説明: データベース接続でサポートされる最大長は &C3. です。オブジェクト名の長さは &C2. です。

ユーザーの処置: 正しいオブジェクト ID を使用するか、この長さの許可 ID をサポートするデータベースに接続してください。

DSQ10144

メッセージ: DSQ10016 を参照してください。

DSQ10162

メッセージ: DSQ10010 を参照してください。

DSQ10163

メッセージ: 視点 &V1 がありません。

説明: グローバル変数 &V2. によって指定された視点から QMF が選択するような情報を要求しました。視点 &V1. がデータベースにありませんでした。データベースが 3 部分名をサポートし、ロケーション修飾子が視点の名前に追加された場合には、使用されたロケーション修飾子は次のとおりです。 &V3.

ユーザーの処置: &V1. が正しい名前か確認してください。正しくない場合には、グローバル変数 &V2. を変更して、正しい名前を指定してくだ

さい。正しい場合には、QMF 管理者に連絡して詳しい情報を調べてください。

注: 視点名が Q.DSQEC_QMFOBJS の場合には、違う視点名を指定するよう設定できるグローバル変数はありません。 Q.DSQEC_QMFOBJS を再作成する必要があります。この場合には、QMF 管理者に連絡して、詳しい情報を調べてください。

DSQ10164

メッセージ: 視点 &V2. の定義は無効です。

説明: グローバル変数 &V1. で名前が付けられた視点から QMF が選択するような情報を要求しました。視点の定義は無効です。SELECT DISTINCT 文節を含み、QMF で予期されたより多い列が視点にあります。

リスト視点の定義が SELECT DISTINCT 文節を含む場合、定義にはご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」のこの視点に対して指定された列のみを含めてください。

ユーザーの処置: &V2. は正しい名前であることを確認してください。そうでない場合は、グローバル変数 &V1. を変更して、正しい名前を指定してください。正しい場合には、QMF 管理者に連絡して詳しい情報を調べてください。

DSQ10165

メッセージ: 位置の修飾子は使用できません。

説明: 指定された名前には、位置の修飾子があります。3 つの部分からなるオブジェクト名は、ローカルの位置名が定義されるまでは使用できません。

ユーザーの処置: 位置の修飾子を除去し、コマンドを再試行してください。QMF 管理者に連絡して、正しいデータベースを使用していることを確認するか、ローカルの位置名を定義してもらってください。

DSQ10166

メッセージ: &V2 は無効な位置名です。

説明: 次のいずれかの状況が起きています。

1. 名前 &V2. の位置がない。
2. &V2 に英字の特殊文字 (#, @, \$) があります。これらの文字は、位置名に使用できません。

ユーザーの処置: 位置名を訂正し、再試行してください。

DSQ10167

メッセージ: LIST コマンドの実行エラー。
SQLCA は &1 です。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ10168

メッセージ: 列 &V4. は視点 &V2. にありません。

説明: グローバル変数 &V1. で名前が付けられた視点から QMF が選択するような情報を要求しました。指定した視点 &V2. は、要求された列 &V4. で定義されていなければなりません。

データベースが 3 部分名をサポートし、ロケーション修飾子が視点の名前に追加された場合には、使用されたロケーション修飾子は次のとおりです。 &V3.

ユーザーの処置: 要求されたように &V4. 列を定義して、視点 &V2. を再作成してください。

DSQ10169

メッセージ: オブジェクト情報用に選択した 2 つ以上の行が長過ぎます。

説明: オブジェクト情報 (名前リストのような) を得る位置を制御する、グローバル変数に指定された 1 つまたは複数の視点からの選択を必要とする情報を要求しました。QMF はその視点を使用して、要求を処理できませんでした。要求処理に使用された視点は次のとおりです。 &V1. &V2. &V3. 視点名を得るために使用されたグローバル変数は、次のとおりです。 &V4. &V5. &V6..

この問題が起こる大部分の原因は、視点が SELECT DISTINCT で定義されていて、QMF が検索しようとする、少なくとも 1 つの行が、データベースには長過ぎて SELECT DISTINCT の処理中にソートできないデータを含むことにあります。

ユーザーの処置: グローバル変数の視点名が正しいか確認してください。正しい場合には、QMF 管理者に連絡して詳しい情報を調べてください。オブジェクト明細の検索のための代替視点の作成に関する情報は、ご使用中のオペレーティング・システムの「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ10170

メッセージ: 視点の列が正しく定義されていません。

説明: オブジェクト情報 (名前リストのような) を得る位置を制御する、グローバル変数に指定された 1 つまたは複数の視点からの選択を必要とする情報を要求しました。これらの視点の OWNER, TNAME、または CNAME 列が、列関数または式から引き出されました。これらの列は実際の表列から引き出されなければなりません。

要求処理に使用された視点は次のとおりです。 &V1. &V2. &V3. 視点名を得るために使用されたグローバル変数は、次のとおりです。 &V4. &V5. &V6..

データベースが3部分名をサポートしていて、ロケーション修飾子が視点名に追加された場合には、使用されるロケーション修飾子は次のとおりです。 &V7.

ユーザーの処置: グローバル変数の視点名が正しいか確認してください。正しい場合には、QMF 管理者に連絡して詳しい情報を調べてください。オブジェクト明細の検索のための代替視点の作成に関する情報は、ご使用中のオペレーティング・システムの「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ10171

メッセージ: 視点 &V1. を使用する権限がありません。

説明: グローバル変数 &V2. によって指定された視点から QMF が選択するような情報を要求しました。この視点から選択する権限を持っていない場合は、要求した情報を得ることができません。データベースが 3 部分名をサポートし、ロケーション修飾子が視点の名前に追加された場合には、使用されたロケーション修飾子は次のとおりです。 &V3.

ユーザーの処置: &V1. が正しい名前か確認してください。正しくない場合には、グローバル変数 &V2. を変更して、正しい名前を指定してください。正しい場合には、情報センターに連絡して詳しい情報を調べてください。

DSQ10172

メッセージ: &V2 は無効な位置名です。

説明: 次のいずれかの状況が起きています。

1. 名前 &V2. の位置がない。
2. &V2 に英字の特殊文字 (#, @, \$) があります。これらの文字は、位置名に使用できません。

ユーザーの処置: 位置名を訂正し、再試行してください。

DSQ10182

メッセージ: &V2. の列 &V3. には NULL が許可されます。

説明: グローバル変数 &V1. で名前が付けられた視点から QMF が選択するような情報を要求しました。その視点 &V2. は、定義が無効である &V3. という列を含みます。要求した情報を得るために視点を使用する前に、列を NOT NULL として定義しなければなりません。

データベースが 3 部分名をサポートし、視点名にロケーション修飾子が追加された場合、使用されるロケーション修飾子は次のとおりです。 &V4.

ユーザーの処置: &V3. 列を NOT NULL として定義する、視点 &V2. を再作成してください。

DSQ10183

メッセージ: 視点 &V2. の列 &V3. が長すぎます。

説明: グローバル変数 &V1. で名前が付けられた視点から QMF が選択するような情報を要求しました。その視点 &V2. は、長すぎる &V3. という列を含みます。列は &V4. の長さで定義されますが、可能な最大の長さは &V5. です。要求した情報を得るために視点を使用する前に、列を &V5. またはそれ以下で定義しなければなりません。

データベースが 3 部分名をサポートし、視点名にロケーション修飾子が追加された場合、使用されるロケーション修飾子は次のとおりです。 &V6.

ユーザーの処置: &V3. 列を &V5. またはそれ以下の長さとして定義する、視点 &V2. を再作成してください。

DSQ10184

メッセージ: &V2. の &V3. は文字データではありません。

説明: グローバル変数 &V1. で名前が付けられた視点から QMF が選択するような情報を要求し

ました。その視点 &V2. は、定義が無効である &V3. という列を含みます。要求した情報を得るために視点を使用する前に、列を文字データとして定義しなければなりません。

データベースが 3 部分名をサポートし、視点名にロケーション修飾子が追加された場合、使用されるロケーション修飾子は次のとおりです。&V4.

ユーザーの処置: &V3. 列を文字データとして定義する、視点 &V2. を再作成します。

DSQ10185

メッセージ: DSQ10016 を参照してください。

DSQ10186

メッセージ: DSQ10012 を参照してください。

DSQ10187

メッセージ: DSQ10010 を参照してください。

DSQ10189

メッセージ: グローバル変数 &V1. の ID の一部が欠落しています。

説明: グローバル変数 &V1. で名前が付けられた視点から QMF が選択するような情報を要求しました。グローバル変数で指定された ID &V2. は、必要な部分が欠落しています。たとえば、次のようになります。

SMITH.

これは、"." の後に名前が予期されるので不完全です。この ID を完全な名前にしたい場合には、二重引用符で囲まなければなりません。

(例、"SMITH.")

ユーザーの処置:

グローバル変数 &V1. の値を変更し、完全な ID を指定してください。

DSQ10190

メッセージ: グローバル変数 &V1. の ID は、「.」で始めることはできません。

説明: グローバル変数 &V1. で名前が付けられた視点から QMF が選択するような情報を要求しました。グローバル変数で指定された ID &V2. は、「.」で始まっています。「.」(ピリオド) は、引用符で囲まれていない名前の最初の文字として使用できません。

ユーザーの処置: グローバル変数 &V1. の ID から最初の文字「.」を取り除くか、二重引用符で名前全体を囲んでください (例、".ABC")。

DSQ10191

メッセージ: グローバル変数 &V1. の名前に、対でない二重引用符があります。

説明: グローバル変数 &V1. で名前が付けられた視点から QMF が選択するような情報を要求しました。グローバル変数で指定された ID &V2. には、名前の最初か終わりに二重引用符がありますが、対になっていません。たとえば、次のようになります。

"MY*TABLE

これは、末尾の二重引用符がないので無効です。

ユーザーの処置: 二重引用符が対になるように、グローバル変数 &V1. で指定した名前に追加してください。

DSQ10192

メッセージ: グローバル変数 &V1. での名前に組み込み二重引用符があります。

説明: グローバル変数 &V1. で名前が付けられた視点から QMF が選択するような情報を要求しました。グローバル変数で指定した ID &V2. は組み込み二重引用符を含んでいます。ID は組み込み二重引用符を持つことはできません。たとえば、ABC"XYZ は無効です。二重引用符は名前を

囲むために使用できます。たとえば、表名 "MY*TABLE*" は有効です。

ユーザーの処置: グローバル変数 &V1. で指定された名前から組み込み二重引用符を取り除いてください。

DSQ10193

メッセージ: パッケージ &2 からの予期されない結果 &1 です。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ10195

メッセージ: グローバル変数 &V1. にある名前に位置名を付けてはなりません。

説明: グローバル変数 &V1. で名前が付けられた視点から *QMF* が選択するような情報を要求しました。グローバル変数内で指定した ID &V2. には、位置修飾名 &V3. があります。必要な場合、*QMF* は自動的に位置修飾名を追加するので、視点名の一部として位置修飾名を指定してはなりません。

ユーザーの処置: 位置修飾名を含まないように、グローバル変数 &V1. の値を変更してください。

DSQ10196

メッセージ: DSQ10093 を参照してください。

DSQ10207

メッセージ: DSQ10010 を参照してください。

DSQ10215

メッセージ: DSQ10012 を参照してください。

DSQ10220, DSQ10228

メッセージ: DSQ10010 を参照してください。

DSQ10243

メッセージ: Q.OBJECT_DATA に '&1'.'&2' が見つかりません。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび *QMF* トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。 *QMF* は継続して使用できます。

DSQ10245

メッセージ: DSQ10010 を参照してください。

DSQ10246 - DSQ10248

メッセージ: RPT: &1 から予期されていない戻りコードです。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ10254

メッセージ: DSQ10010 を参照してください。

DSQ10274

メッセージ: DSQICONN に渡されるパラメーターが不足しているための内部エラー。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストール

ルおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ10275

メッセージ: 始動ロケーション名の長さが &V2 の文字数を超えました。

説明: ロケーション名、&V1 を QMF の起動中に供給しました。しかし、インストール先システムのロケーション名は &V2 の文字数を超えることはできません。

QMF は、有効な始動ロケーション名を与えるまで開始できません。

ユーザーの処置: ロケーション名、&V1 が正しいかどうか検査してください。QMF のリモート作業単位を処理したくない場合、始動ロケーション名を省略し、QMF を再始動します。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ10276

メッセージ: DSQ10012 を参照してください。

DSQ10277

メッセージ: DSQ10016 を参照してください。

DSQ10278

メッセージ: ロケーション名は現行のデータベースではサポートされていません。

説明: QMF を開始したとき、ロケーション名を指定しました。しかし、ロケーション名パラメーターは、データベースでサポートされていないリモート・ロケーションに接続したために使用することができません。

QMF は、ロケーション名を指定して開始することはできません。

ユーザーの処置: ロケーション・パラメーターの中のロケーション名の値を取り除き、QMF を再始動してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ10282

メッセージ: データベースを使用できません; ATTACH サブタスク・エラー。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF インストールおよび管理の手引き*」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ10283, DSQ10284, DSQ10286

メッセージ: データベースを使用できません; RC = &1。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF インストールおよび管理の手引き*」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ10287

メッセージ: QMF は使用不可です。データベース・マネージャーがアクティブではありません。

説明: QMF は、データベース・マネージャーと併用されてはじめて機能を果たします。データベース・マネージャー &V1 は現在実行されていません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーを実行状態にするために、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ10288

メッセージ: データベースを使用できません; サブシステム id=&1、reason=&2。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ10289

メッセージ: データベースの PLANID &V1 の使用権がありません。

説明: QMF の呼び出しに用いるプロシージャで、DB2 PLANID "&V1" が参照されています。あなたには、この PLANID の使用権がありません。

ユーザーの処置: 呼び出しプロシージャを検査してください。PLANID のスペルを間違えて指定したものと思われる。

DSQ10290

メッセージ: 使用ユーザーが多すぎるためローカルの DB2 を使用できません。

説明: ローカルの DB2 サブシステムは現時点のユーザー以上を取り扱えません。

ユーザーの処置: 現在使用中のユーザーが 1 人以上ログオフするまで待ってから QMF を使用してください。

DSQ10291

メッセージ: データベースを使用できません; PLANID=&1、reason=&2。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ10294

メッセージ: データベースの使用を取り止めることができません。RC=&1。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ10297

メッセージ: 現在のオペレーティング・システムのサブシステム ID SID &V1 は無効です。

説明: QMF を呼び出すために使用したプロシージャは、DB2 サブシステム ID SID "&V1" を参照しました。SID "&V1" は現在のオペレーティング・システムでは無効です。

ユーザーの処置: 呼び出しプロシージャを検査してください。おそらく、その SID のつづりが誤っています。

DSQ10298

メッセージ: データベースの PLANID &V1 が無効です。

説明: QMF の呼び出しに用いるプロシージャで、DB2 PLANID "&V1" が参照されています。PLANID "&V1" は無効です。

ユーザーの処置: 呼び出しプロシージャを検査してください。PLANID のスペルを間違えて指定したものと思われる。

DSQ10299

メッセージ: 警告 - 呼び出し接続機能のリリースが DB2 のリリースと一致していません。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ10301

メッセージ: 無効な入力パラメーターに '&I' の値があります。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ10307

メッセージ: &C2 のデータ・タイプ &C2 は、&C3 または &C4. でなければなりません。

説明: QMF コントロール表にある &C2 はデータ・タイプ &C3 または &C4. でなければなりません。これは、新しいデータベース・レベルへの移行が不完全なために起こったと考えられます。

ユーザーの処置: 移行を検証し、もう一度移行しなおしてください。QMF コントロール表の名前は以下のとおりです。

- Q.OBJECT_DIRECTORY
- Q.OBJECT_REMARKS
- Q.OBJECT_DATA

詳しくはシステム管理者に連絡してください。

DSQ10308, DSQ10309

メッセージ: 列 '&C2.' のデータ・タイプ &C1. は、&C3. でなければなりません。

説明: QMF コントロール表にある列名 '&C2.' はデータ・タイプ &C1. です。このデータ・タイプは &C3. でなければなりません。この状態では、QMF の導入や、ロング・ネームをサポートする QMF コントロール表の新しいバージョンへの移行が必要になる場合があります。

ユーザーの処置: QMF インストールまたは以降を検証してください。入力エラーを訂正し、再実行してください。

DSQ10315

メッセージ: DSQ10010 を参照してください。

DSQ10316

メッセージ: DSQ10084 を参照してください。

DSQ10317

メッセージ: 表の列の数が多すぎます。

説明: 表には、使用可能な最大列数 &V2. を超える &V1. 列があります。

ユーザーの処置: 最大列数よりも少ない数の列を選択する照会を作成し、実行してください。

DSQ10319

メッセージ: DSQ10012 を参照してください。

DSQ10320

メッセージ: DSQ10016 を参照してください。

DSQ10325

メッセージ: Q.DSQ_RESERVED から選択する許可が与えられていません。

説明: QMF のインストール時に、QMF 表の Q.DSQ.RESERVED に PUBLIC を指定する許可が与えられていません。この表には PUBLIC の権限が必要です。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ10326

メッセージ: DSQ10019 を参照してください。

DSQ10327

メッセージ: DSQ10020 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ10328

メッセージ: SYSTEM.SYSOPTIONS から選択する許可が与えられていません。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ10329

メッセージ: SQLOPTION &1 が SYSTEM.SYSOPTIONS に定義されていません。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ10330

メッセージ: SYSTEM.SYSOPTIONS の SQLOPTION &1 の値 &2 が誤りです。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ10331

メッセージ: DB2 リソースの制限により、QMF の実行が停止されました。

説明: QMF 初期化で、DB2 がリソース制限の超過を示しました。QMF での動的 SQL ステートメントの実行には、さらに時間が必要です。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して、DB2 リソース制限を変更してもらってください。

DSQ10332

メッセージ: 無効な機能コード '&1' がモジュールに渡されました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ10333

メッセージ: データベース製品 (&C1) は QMF によりサポートされていません。

説明: QMF は、以下をサポートしません。

- データベース・タイプ &C2。
- データベースのリリース・レベル &C3。

QMF の当該リリースでサポートされるデータベース製品のタイプは、次のとおりです。

ARI- VM または VSE 用の DB2 サーバー (VSE および VM 版)。最低リリース・レベルは 7.1.0。

DSN- DB2 (z/OS 版)。最低リリース・レベルは 6.1.0。

SQL- DB2 (UDB または DataJoiner 版)。DB2 UDB の最低リリース・レベルは 7.1.0 です。DataJoiner の最低リリースは 2.1.1 です。

ユーザーの処置: 接続に指定されたロケーション名を検査してください。修正して、接続を再試行してください。

サポートされているデータベース製品のレベルを判別する際は、QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ10334

メッセージ: &1. EXEC の実行中にエラーが検出されました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ10335

メッセージ: DSQ10016 を参照してください。

DSQ10336

メッセージ: DSQ10333 を参照してください。

DSQ10337

メッセージ: 接続には &C3 以下の長さの許可 ID が必要です。

説明: 接続時に使用されている許可 ID '&C1.' の長さは &C2 ですが、QMF でサポートされる最大長 &C3 を超えています。

ユーザーの処置: QMF コントロール表と一致するように許可 ID を変更するか、またはあなたの許可 ID と一致する同じレベルの QMF コントロール表を持つ別のデータベースに接続してください。

DSQ10338 - DSQ10343

メッセージ: DSQ10033 を参照してください。

DSQ10346

メッセージ: DSQ10043 を参照してください。

DSQ10347

メッセージ: 表、視点、および別名だけがリストされています。

説明: リスト要求で LOCATION オプションを使用しました。QMF オブジェクト (照会、プロシージャ、書式) を参照するためにロケーション名を使用することはできないため、これらのオブジェクトはリストに含まれません。リストにはデータベース内のすべての表、視点、別名などが含まれます。

ユーザーの処置: QMF オブジェクトのリストを表示させたい場合、リスト要求にロケーション名を使用しないでください。

DSQ10348

メッセージ: DSQ10012 を参照してください。

DSQ10349

メッセージ: DSQ10016 を参照してください。

DSQ10350, DSQ10351

メッセージ: DSQ10012 を参照してください。

DSQ10352

メッセージ: DSQ10076 を参照してください。

DSQ10353

メッセージ: DSQ10013 を参照してください。

DSQ10354

メッセージ: 位置が指定された場合、QMF オブジェクトはリストされません。

説明: QMF オブジェクト (照会、プロシージャ、書式) のリスト要求で位置名を使用しました。QMF オブジェクトを参照するために位置名を使用することはできません。現在のデータベー

スに保管されている QMF オブジェクトだけが使用できます。

ユーザーの処置: 現在のデータベースに保管されている QMF オブジェクトのリストを表示させたい場合、リスト要求に位置名を使用しないでください。

DSQ10355

メッセージ: タイプ '&1' は Q.OBJECT_DIRECTORY の行 '&2' において無効です。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ10361

メッセージ: DSQ10076 を参照してください。

DSQ10362

メッセージ: DSQ10016 を参照してください。

DSQ10364

メッセージ: DSQ10012 を参照してください。

DSQ10370

メッセージ: DSQ10019 を参照してください。

DSQ10371

メッセージ: DSQ10020 を参照してください。

DSQ10381 - DSQ10386

メッセージ: SQL ステートメントを入れるにはバッファが小さすぎます。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ10392, DSQ10400

メッセージ: DSQ10010 を参照してください。

DSQ10403

メッセージ: DSQ10307 を参照してください。

DSQ10404

メッセージ: DSQ10308 を参照してください。

DSQ10405, DSQ10406

メッセージ: QMF オブジェクト・コントロール表構造が予想されたものと異なります。

説明: 現行の QMF オブジェクト・コントロール表は、列名 'OWNER' の場合は以下のとおりです。

- データ・タイプは &C1。
- 列の長さは &C2。

列名 'NAME' の場合は以下のとおりです。

- データ・タイプは &C5。
- 列の長さは &C6。

QMF オブジェクト・コントロール表構造は、列名 'OWNER' の場合は以下のとおりです。

- データ・タイプは &C3。
- 列の長さは &C4。

列名 'NAME' の場合は以下のとおりです。

- データ・タイプは &C7 でなければならない。
- 列の長さは &C8 でなければならない。

ユーザーの処置: この状態では、QMF の導入や、ロング・ネームをサポートする QMF コントロール表の新しいバージョンへの移行が必要になる場合があります。QMF インストールまたは以降を検証してください。入力エラーを訂正し、再試行してください。QMF オブジェクト・コントロール表の名前は以下のとおりです。

- Q.OBJECT_DIRECTORY
- Q.OBJECT_REMARKS
- Q.OBJECT_DATA

詳しくはシステム管理者に連絡してください。

DSQ10411

メッセージ: DSQ10307 を参照してください。

DSQ10412, DSQ10413

メッセージ: DSQ10308 を参照してください。

DSQ10420

メッセージ: ロケーション &V5. でリソースを使用できません。

説明: システム・リソースはリモート要求がロケーション &V5 で処理されたときに使用されませんでした。今までどおりに現行ロケーションに接続しています。

- SQLCODE = &V9
- 理由コード = &V1
- リソース・タイプ = &V2
- リソース名 = &V3

- 製品 ID = &V4
- ロケーション名 = &V5

このエラーの詳細な説明については、「*DB2 UDB for z/OS Messages and Codes*」を参照してください。

ユーザーの処置: QMF は継続して使用できません。問題が解決しない場合は、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ10421

メッセージ: &V5 への接続はリソースを利用できないため失われました。

説明: ロケーション &V5 への接続は失われました。リモート要求がロケーション &V5 で処理されたとき、特定のシステム・リソースが利用できなかったのが原因です。

- SQLCODE = &V9
- 理由コード = &V1
- リソース・タイプ = &V2
- リソース名 = &V3
- 製品 ID = &V4
- ロケーション名 = &V5

このエラーの詳細な説明については、「*DB2 UDB for z/OS Messages and Codes*」を参照してください。

QMF は現行のロケーションに再接続を試みました。成功した場合は、引き続き QMF を使用できます。失敗した場合、接続喪失プロンプト・パネルは他のロケーションに接続するか、QMF を終了するかのプロンプトを出します。

ユーザーの処置: QMF が正しく現行のロケーションに再接続した場合、引き続き QMF を使用できます。

接続喪失プロンプト・パネルが表示された場合、他のロケーションに接続することを選択できません。あるロケーションに接続できない場合は、

QMF を終了し、QMF 管理者に連絡してください。

問題が解決しない場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -30041 **Database:** DB2
QMF Function: All

DSQ10422

メッセージ: 指定したロケーションにアクセスすることは許可されていませんでした。

説明: 指定したロケーションにアクセスしようとした試みが失敗したのは、ユーザー ID が十分な権限を持っていないからです。SQLCODE は &V9 です。

現行ロケーションへの接続はこのエラーによって失われました。QMF は現行ロケーションに再接続することを試みました。再接続が失敗した場合、接続喪失プロンプト・パネルは他のロケーションに接続するか、または QMF を終了することを指示します。

ユーザーの処置: QMF が正しく現行ロケーションに再接続する場合、QMF を引き続き使用できます。

接続喪失プロンプト・パネルが表示された場合、他のロケーションに接続することを選択できません。あるロケーションに接続できない場合は、QMF を終了し、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -30060 **Database:** DB2
QMF Function: All

DSQ10423

メッセージ: 指定したロケーションは見つかりませんでした。

説明: 指定したロケーションにアクセスする試みは、そのロケーションが見つからなかったため失敗しました。これは指定したロケーションがリモートにあり、ローカル DB2 サブシステムに不正確に定義されていたために起こった可能性があります

ます。SQLCODE は &V9. です。

現行ロケーションへの接続はこのエラーによって失われました。QMF は現行ロケーションに再接続することを試みました。再接続の試みが失敗した場合、接続喪失プロンプト・パネルは他のロケーションに接続するか、または QMF を終了することを指示します。

ユーザーの処置:

QMF が正しく現行のロケーションに再接続した場合、引き続き QMF を使用できます。

接続喪失プロンプト・パネルが表示された場合、他のロケーションに接続することを選択できます。あるロケーションに接続できない場合は、QMF を終了し、QMF 管理者に連絡してください。

指定したロケーションがローカル DB2 サブシステムに不正確に定義されている場合、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -30061 **Database:** DB2
QMF Function: A11

DSQ10424

メッセージ: 通信エラーが検出されました。

説明: このエラーの詳細な説明については、「DB2 UDB for z/OS Messages and Codes」を参照してください。

SQLCA は &V1. です。

このエラーはデータベース・システムが指定されたターゲット・ロケーションに対して接続をサポートしていないために起こります。

またはアプリケーション・サーバーが DB2 サーバー (VSE および VM 版) で「FORCE WITHOUT DISABLE」コマンドが AVS か TSAF を介して接続を経路指定した間に出された場合に、エラーになります。

このエラーにより、接続は失われました。QMF はエラーが検出される前に接続していたロケーションに接続することを試みました。再接続が失敗

した場合は、接続喪失プロンプト・パネルを参照してください。

ユーザーの処置: QMF が以前のロケーションへの再接続に成功した場合、QMF を引き続き使用できます。

接続喪失プロンプト・パネルが表示される場合、他のロケーションに接続するか、QMF を終了するかを選択できます。あるロケーションに接続できない場合は、QMF を終了し、QMF 管理者に相談してください。

問題が解決しない場合は、QMF 管理者に SQLCA データを送ってください。

SQLCODE: -30080 **Database:** DB2
QMF Function: A11

DSQ10425

メッセージ: READ-ONLY の環境においては、リモート更新は許可されません。

説明: リモート・ロケーションでデータの更新、挿入、削除を試みましたが、現行の操作環境ではリモートの読み取り専用になっています。たとえば、サーバー・データベースが、2 フェーズ・コミットをサポートしない場合、CICS 操作環境ではリモート・データの更新はできません。

READ-ONLY 操作環境でリモート・データをアクセスするには、以下のいずれかを使用できます。

- SQL SELECT ステートメント
- QMF DISPLAY コマンド

ユーザーの処置: 引き続き QMF を使用できます。リモート・データを更新する必要がある場合には、サポートしている操作環境に切り換えてください。そうでない場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -30090 **Database:** DB2
QMF Function: A11

DSQ10426

メッセージ: サーバーは、DDM パラメーター &V1. をサポートしません。

説明: リモート・サーバーが分散データ管理 (DDM) コマンド・パラメーターの値 &V1. をサポートしていないため、サーバーへの接続に失敗しました。

SQLCODE は &V9. です。

次のことが、このエラーの原因と考えられます。

- サーバーに接続しようとした。不適切な CCSID 変換規則がそのサーバーに定義されていたため、リクエスターからの文字ストリングがターゲット・サーバーで変換されなかった。

ユーザーの処置: QMF コマンドが正しいかを調べてください。正しい場合、QMF 管理者 に連絡して援助を受けてください。このエラーの詳細については、現在接続しているサーバーの資料「メッセージおよびコード」を参照してください。

SQLCODE: -30073 **Database:** DB2

QMF Function: All

DSQ10427

メッセージ: 通信エラーが検出されました。

説明: リモート・クライアントまたはリモート・サーバーと通信中に、通信エラーが検出されました。以下のデータが戻されました。

- &V1 エラーが起きた通信プロトコル
- &V2 DB2 で使用される通信アプリケーション・プログラム・インターフェース (API)
- &V3 パートナー・システムのネットワーク・ロケーション
- &V4 障害が起きた通信機能
- &V5 第 1 戻りコード標識
- &V6 第 2 戻りコード標識
- &V7 第 3 戻りコード標識

戻りコード値は、OPENEDITION MVS のアセンブラー呼び出し可能サービスに記録されています。

ユーザーの処置: 障害の原因を判別するには、通信の担当者に尋ねてください。

SQLCODE: -30081 **Database:** DB2

QMF Function: All

DSQ10428

メッセージ: 無効なセキュリティ情報のために、接続に失敗しました。

説明: 無効または不正なセキュリティ情報のために、リモート・データベースへ接続しようとしてリジェクトされました。セキュリティ・エラーの原因は、理由コードおよび理由ストリング値によって記述されます。理由コードおよび理由ストリングとして考えられる値は、以下のとおりです。

- 1 (PASSWORD EXPIRED) リモート・サーバーへの接続に使用されるパスワードは有効期限が切れています。
- 2 (PASSWORD INVALID) リモート・サーバーへの接続に使用されるパスワードは、リモート・サーバーに保管されているパスワードと一致しません。
- 3 (PASSWORD MISSING) 接続要求にパスワードが含まれていなかったため、リモート・サーバーはこれをリジェクトしました。
- 4 (PROTOCOL VIOLATION) 接続要求に正しいセキュリティ情報が含まれていなかったため、リモート・サーバーはこれをリジェクトしました。サーバー・システムにより、セキュリティ違反の種類を説明するエラー・メッセージまたはトレース・レコードが生成されます。
- 5 (USER ID MISSING) 接続要求はユーザー ID を指定しなかったため、リモート・サーバーはこれをリジェクトしました。
- 6 (USER ID INVALID) 接続要求で指定したユーザー ID はリモート・サーバー・システムに定義されていません。

- 7 (USER ID REVOKED) 接続要求で指定したユーザー ID は取り消されました。
- 15 (SECURITY FAILURE &V3 &V4) リモート・サーバー・システムで認証が失敗しました。DDM 用語 SECCHKCD および SVCERRNO の意味の詳細については、「*Distributed Data Management (DDM) DDM Architecture Reference Manual*」を参照してください。
- 16 (NEW PASSWORD INVALID) パスワード変更要求で指定したパスワードがサーバーの要件に合っていません。

ユーザーの処置: 要求を再試行してください。問題が解決しない場合は、QMF 管理者に失敗の情報を伝えてください。

DSQ10429

メッセージ: サーバーでサポートされない関数が原因で実行に失敗しました。

説明: サーバーでサポートされない関数: ロケーション &V1、製品 ID &V2、理由コード &V3。要求された関数をサポートしないサーバーに経路指定されていたため、現行 SQL ステートメントが失敗しました。このエラーによって、これ以上の SQL ステートメントを正常に実行できなくなります。次の SQLSTATE が戻されました: 42704。

ユーザーの処置: SQL ステートメントに関する支援をデータベース管理者に依頼してください。

DSQ10430

メッセージ: サーバーでサポートされない関数が原因で接続が終了しました。

説明: サーバーでサポートされない関数が原因で接続が終了しました: ロケーション &V1、製品 ID &V2、理由コード &V3。要求された関数をサポートしないサーバーに経路指定されていたため、現行 SQL ステートメントが失敗しました。このエラーによって、これ以上の SQL ステートメ

ントを正常に実行できなくなります。次の SQLSTATE が戻されました: 42704。

ユーザーの処置: SQL ステートメントに関する支援をデータベース管理者に依頼してください。

DSQ10450

メッセージ: ロケーション &V1 でリソースは利用できません。

説明: リモート要求がロケーション &V1 で処理されたとき、システム・リソースは利用できませんでした。しかし現行ロケーションにまだ接続しています。

- SQLCODE = &V9
- リソース・タイプ = &V2
- 理由コード = &V3
- サブコード = &V4

詳細な説明については、「*DB2 サーバー (VSE および VM 版) SQL 解説書*」を参照してください。

ユーザーの処置: 引き続き QMF を使用できません。問題が解決しない場合は、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ10451

メッセージ: &V1 への接続は、リソースを利用できないため失われました。

説明: ロケーション &V1 への接続は失われました。リモート要求がロケーション &V1 で処理されたとき、システム・リソースを利用できなかったからです。

- SQLCODE = &V9
- リソース・タイプ = &V2
- 理由コード = &V3
- サブコード = &V4

このエラーの詳細な説明については、「*DB2 サーバー (VSE 版) メッセージおよびコード*」または

「DB2 サーバー (VM 版) メッセージおよびコード」の資料を参照してください。

QMF は現行ロケーションに再接続することを試みました。成功すると、引き続き QMF を使用できます。失敗した場合、接続喪失プロンプト・パネルは他のロケーションに接続するか、QMF を終了するかのプロンプトを出します。

ユーザーの処置: QMF が正しく現行ロケーションに再接続する場合、引き続きロケーション &V1. で QMF を使用できます。

接続喪失プロンプト・パネルが表示された場合、他のロケーションに接続することを選択できます。あるロケーションに接続できない場合は、QMF を終了し、QMF 管理者に連絡してください。

問題が解決しない場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -30041 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: A11

DSQ10452

メッセージ: ロケーション &V1. をアクセスすることは許可されていません。

説明: ロケーション &V1 をアクセスする試みは成功しませんでした。その理由はユーザー ID がそのロケーションをアクセスするための十分な権限を持っていないからです。SQLCODE は &V9. です。

現行ロケーションへの接続はこのエラーによって失われました。QMF は現行ロケーションに再接続することを試みました。再接続の試みが失敗した場合、接続喪失プロンプト・パネルは他のロケーションに接続するか、または QMF を終了することを指示します。

ユーザー ID とロケーション名の両方を指定した CONNECT コマンドを出した場合、目標のロケーションで明示接続の権限を持たなければなりません。

ユーザーの処置:

QMF が現行ロケーションに正しく再接続し、ロケーション &V1 で使用しているデフォルトのユーザー ID で十分である場合には、“CONNECT TO &V1” コマンドを出すことができます。データベースによって提供された暗黙接続によってデフォルト・ユーザー ID を使用して &V1 にアクセスが可能です。

再接続を指示され、ロケーション &V1 でデフォルト・ユーザー ID の使用で十分であれば、ロケーションの値として &V1 を入力し、ユーザー ID とパスワードをブランクのままにしてください。ロケーション &V1 に接続することができない場合は、別のロケーションを指定してください。

&V1. のデフォルト値とは別のユーザー ID を使用しなければならない場合、QMF を終了し、QMF 管理者を通してロケーション &V1 での明示接続権限を得てください。

SQLCODE: -30060 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: A11

DSQ10453

メッセージ: 指定したロケーション名が見つかりませんでした。

説明: 指定したロケーションへのアクセスの試みは、そのロケーションが見つからなかったため失敗しました。これは指定したロケーションがリモート・ロケーションで、DB2 サーバー (VSE および VM 版) データベースに誤って定義されたため起こる可能性があります。SQLCODE は &V9. です。

現行ロケーションへの接続はこのエラーによって失われました。QMF は現行ロケーションに再接続することを試みました。再接続が失敗した場合、接続喪失プロンプト・パネルは別のロケーションに接続するか、QMF を終了することを指示します。

ユーザーの処置:

指定したロケーション名がユーザー通信ディレクトリーに定義されている場合、その指定したロケーションに対する入力为正しく定義されているか確かめてください。正しくない場合は、修正し、再度試みてください。

QMF が正しく現行のロケーションに再接続した場合、引き続き QMF を使用できます。

接続喪失プロンプト・パネルが表示された場合、他のロケーションに接続することを選択できません。あるロケーションに接続できない場合は、QMF を終了し、QMF 管理者に連絡してください。

デフォルト DB2 サーバー (VSE および VM 版) データベースの中にロケーション &V1 を正しく定義するために QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -30061 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: A11

DSQ10454

メッセージ: 通信エラーが検出されました。

説明: このエラーの詳細な説明については、「DB2 サーバー (VSE 版) メッセージおよびコード」または「DB2 サーバー (VM 版) メッセージおよびコード」の資料を参照してください。

SQLCA は &V1. です。

このエラーは次の理由で起こることもあります。

- ユーザーは CONNECT コマンドを出し、通信ディレクトリーは定義されていますが、目標のロケーションのパスワードが失効しています。
- アプリケーション・サーバーが DB2 サーバー (VSE および VM 版) で、"FORCE WITHOUT DISABLE" コマンドが、AVS または TSAF を介して接続が経路指定されている間に出されました。

このエラーにより、接続は失われました。

QMF はエラーが検出される前に接続していたロケーションに接続することを試みました。もし再接続が失敗した場合、接続喪失プロンプト・パネルが表示されます。

ユーザーの処置: QMF が以前のロケーションへの再接続に成功した場合、QMF を引き続き使用できます。

接続喪失プロンプト・パネルが表示される場合、他のロケーションに接続するか、QMF を終了するかを選択できます。あるロケーションに接続できない場合は、QMF を終了し、QMF 管理者に相談してください。

CONNECT コマンドを出し、ユーザー通信ディレクトリーに古いパスワードがある場合は、そのパスワードを更新し、通信ディレクトリーをロードし直してください。

問題が解決しない場合は、QMF 管理者に SQLCA データを送ってください。

SQLCODE: -30080 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: A11

DSQ10455

メッセージ: READ-ONLY の環境においては、リモート更新は許可されません。

説明: リモート・ロケーションでデータの更新、挿入、削除を試みましたが、現行の操作環境ではリモートの読み取り専用になっています。たとえば、サーバー・データベースが、2 フェーズ・コミットをサポートしない場合、CICS 操作環境ではリモート・データの更新はできません。

READ-ONLY 操作環境でリモート・データをアクセスするには、以下のいずれかを使用できます。

- SQL SELECT ステートメント
- QMF DISPLAY コマンド

ユーザーの処置: 引き続き QMF を使用できます。リモート・データを更新する必要がある場合には、サポートしている操作環境に切り換えてく

ださい。そうでない場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -30090 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: All

DSQ10456

メッセージ: サーバーは、DDM パラメーター &V1. をサポートしません。

説明: リモート・サーバーが分散データ管理 (DDM) コマンド・パラメーターの値 &V1. をサポートしていないため、サーバーへの接続に失敗しました。

SQLCODE は &V9. です。

次のことが、このエラーの原因と考えられます。

- サーバーに接続しようとした。不適切な CCSID 変換規則がそのサーバーに定義されていたため、リクエストからの文字ストリングがターゲット・サーバーで変換されなかった。

ユーザーの処置: QMF コマンドが正しいかを調べてください。正しい場合、QMF 管理者 に連絡して援助を受けてください。このエラーの詳細については、現在接続しているサーバーの資料「メッセージおよびコード」を参照してください。

SQLCODE: -30073 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: All

DSQ10480, DSQ10481

メッセージ: FP 機能のシステム問題です。
FPCODE = &1.

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してくだ

さい。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ10493

メッセージ: 接続許可エラーが発生しました。

説明: 接続許可エラーが発生しました。SQLCA は &V1. です。このエラーの原因になる可能性のある問題は以下のとおりです。

- ユーザー許可の失敗
- 計画アクセス
- 出口要求の重複
- インストールのエラー

このエラーの詳細な説明については、「DB2 UDB for z/OS Messages and Codes」を参照してください。SQLCA の SQLERRM フィールドには DB2 理由コードが含まれます。このエラーにより、接続は失われました。QMF はエラーが検出される前に接続していたロケーションに接続することを試みました。もし再接続が失敗した場合、接続喪失プロンプト・パネルが表示されます。

ユーザーの処置: QMF が以前のロケーションへの再接続に成功した場合、QMF を引き続き使用できます。接続喪失プロンプト・パネルが表示される場合、他のロケーションに接続するか、QMF を終了するかを選択できます。あるロケーションに接続できない場合は、QMF を終了し、QMF の管理者に相談してください。問題が解決しない場合は、QMF 管理者に SQLCA データを伝えてください。

DSQ10497, DSQ10498

メッセージ: 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。SQLCA は次のとおりです : &1.

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ10501

メッセージ: 照会が長すぎるか、または複雑すぎます。

説明: QBE 照会の結果生成された SQL ステートメントが長すぎるかまたは複雑すぎて、解釈できません。これは、次のものの数を減らすことによって簡素化できます。

1. あるデータ・タイプから別のデータ・タイプへの変換
2. 10 進演算
3. 挿入される定数
4. 組み込み関数

ユーザーの処置: 照会を短くするか、または 2 つ以上の照会として書き直してください。分割方法には、中間結果の表を生成するための照会をまず作成します。その表を保管し、これを用いて最終結果を出すための第 2 の照会を作成します。

SQLCODE: -00101 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10503

メッセージ: &V1 は数字で始まっていますが、有効な数値ではありません。

説明: &V1 は数字で始まっています。しかし、有効な整数、10 進数、または浮動小数点数ではありません。指定する内容が、

1. 浮動小数点数の場合、「E」の次に正または負の符号を付け、その次に指数を指定してください。

2. 文字定数の場合、単一引用符で囲んでください。
3. 名前の場合、数字で始まってはなりません。別の名前を指定してください。

ユーザーの処置: &V1 を訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00103 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10505

メッセージ: 照会の中の NULL、式、または比較が無効です。

説明: 照会で NULL を使う場合、= の右側に指定するようにしてください。また、NULL を式の一部または式を含む条件の一部とはしないようにしてください。

照会で I. を使う場合に I. 行がほかの行との関係を含んでいなければ、I. 行の中では定数だけを使うようにしてください。

照会で U. を使う場合には、U. を含む列に比較演算子が含まれないようにしてください。

ユーザーの処置: 無効な使われ方をしている NULL を訂正するか、I. を含む行から式を除去するか、U. を含む行から比較演算子を除去するかしてください。

SQLCODE: -00105 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10518

メッセージ: D、I、または U. の入った行が同じ表の中の行に連係することはできません。

説明: D、I、または U. の入った行を、それと同じ表を参照する別の行に連係させることはできません。

ユーザーの処置: 連係を除去し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00118 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10521

メッセージ: 同一の照会で同じ列を二度変更することはできません。

説明: 「変更」には、挿入 (I.) および更新 (U.) が含まれます。たとえば、次の照会は無効な例で、"YEARS" (勤続年数) という列は 2 回以上変更することはできません。

誤:

Q.STAFF	ID	* YEARS	JOB	* YEARS
I.	400	7	CLERK	8

ユーザーの処置: 照会を変更して、実行し直してください。

SQLCODE: -00121 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10524

メッセージ: AO. または DO. を、17 列以上の列に使用しています。

説明: AO. または DO. を使用することができるのは 16 列以内です。

ユーザーの処置: AO. または DO. を含む列の数を、16 以下に減らしてください。

SQLCODE: -00124 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10527

メッセージ: 1 つの行に対して複数の UNQ. または COUNT. 参照があります。

説明: 1 つの行には、UNQ. または CNT. 参照は 1 つしか指定できません。次の無効な照会では、Q.STAFF 表の同じ列に対し、CNT. と UNQ. の両方の参照が指定されています。

無効な照会:

Q.STAFF	DEPT	SALARY	YEARS
	P.G.	_S	_Y

CONDITIONS	
P.CNT._S	AVG.UNQ._Y > 5

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00127 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10529

メッセージ: 照会で使用している表または列の数が多すぎます。

説明: 照会で以下の項目の 1 つが、リストされた制限を超えています。

表名	15
選択された列	255

ユーザーの処置: 所定の限度内になるように照会を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00129 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10534

メッセージ: LONG VARCHAR 列が誤って使われています。

説明: LONG VARCHAR または LONG VARGRAPHIC のデータ・タイプの列を使用する場合に、以下の制限が適用されます。

- その列を、探索条件の中で、算術演算または組み込み関数を含んで使用することはできません。
- NULL の値だけが列に挿入できるか、または列だけが NULL に更新できます。

- SQL 照会では、このような列を以下のものとともに使用することはできません。
 - GROUP BY、ORDER BY、UNION、または索引
 - 副照会で、SELECT DISTINCT、UPDATE の SET 文節、または SUBSTR か LENGTH 以外の関数
 - LIKE 以外の述部の単独で
- QBE の場合には、AO.、DO.、または G. とともに使用することはできません。
- 長ストリング列からなっている基本表から派生する視点では使用できません。

ユーザーの処置: LONG VARCHAR または LONG VARGRAPHIC のデータ・タイプの列に対して前に示された条件と比較するか、列を取り除いてから、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00134 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10535

メッセージ: LONG VARCHAR 列が誤って使われています。

説明: LONG VARCHAR または LONG VARGRAPHIC のデータ・タイプの列を使用する場合に、以下の制限が適用されます。

- その列を、探索条件の中で、算術演算または組み込み関数を含んで使用することはできません。
- NULL の値だけが列に挿入できるか、または列だけが NULL に更新できます。
- SQL 照会では、このような列を以下のものとともに使用することはできません。
 - GROUP BY、ORDER BY、UNION、または索引
 - 副照会で、SELECT DISTINCT、UPDATE の SET 文節、または SUBSTR か LENGTH 以外の関数
 - LIKE 以外の述部の単独で

- QBE の場合には、AO.、DO.、または G. とともに使用することはできません。
- 長ストリング列からなっている基本表から派生する視点では使用できません。

ユーザーの処置: LONG VARCHAR または LONG VARGRAPHIC のデータ・タイプの列に対して前に示された条件と比較するか、列を取り除いてから、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00135 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10541

メッセージ: 挿入または更新の値が視点定義の条件を満たしていません。

説明: データを変更しようとしている視点の定義の中で、WITH CHECK オプションが使用されています。このような視点の行の挿入または更新を行おうとすると、その結果が視点の定義に適合するかどうかの検査が必ず行われます。照会の中に、その定義の中の条件を満たさない値があります。

ユーザーの処置: 視点の定義を調べて、変更が拒否された理由を判断し、照会中の該当する値を変更してください。

SQLCODE: -00141 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10550, DSQ10551

メッセージ: この照会は視点の中のデータを変更しようとしています。

説明: 次のような視点には I.、U.、または D. は使用できません。

1. 複数の表を基礎としているもの。
2. 式または組み込み関数によって定義された列を含むもの。例: _SALARY_COMM
AVG._SALARY

3. DISTINCT または GROUP BY を使用する
SQL SELECT ステートメントによって定義されているもの。

ユーザーの処置: 視点の作成に使われた各表を変更するために、それぞれ異なる照会を書いてください。

SQLCODE: -00150 **Database:** DB2 Server for SE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10552

メッセージ: 視点の照会が無効です。

説明: この操作は、次の規則のいずれかに違反しています。

1. 次のものを使用する視点は I、U、または D. を行えません。

- 複数の表からのデータ
- SQL DISTINCT または GROUP BY で選択されたデータ

2. SQL の式 (SALARY/12 など) または SQL の組み込み関数 (AVG (SALARY) など) で定義された列に、I. または U. の使用はできません (D. は使用できます。)

3. 視点の 2 つの列が表の同じ列を基礎としている場合、またはその視点が表の中の NOT NULL と定義されている列を使用している場合には、I. を使用することはできません。

ユーザーの処置: 照会を、上記の規則に照らして有効なものにしてください。

SQLCODE: -00152 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10554

メッセージ: 視点の照会が無効です。

説明: この操作は、次の規則のいずれかに違反しています。

1. 次のものを使用する視点は I、U、または D. を行えません。

- 複数の表からのデータ
- SQL DISTINCT または GROUP BY で選択されたデータ

2. SQL の式 (SALARY/12 など) または SQL の組み込み関数 (AVG (SALARY) など) で定義された列に、I. または U. の使用はできません (D. は使用できます。)

3. 視点の 2 つの列が表の同じ列を基礎としている場合、またはその視点が表の中の NOT NULL と定義されている列を使用している場合には、I. を使用することはできません。

ユーザーの処置: 照会を、上記の規則に照らして有効なものにしてください。

SQLCODE: -00154 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10555

メッセージ: 照会で、グループ化で定義された視点が使用されています。

説明: 定義に GROUP BY または HAVING が使用されている場合には、視点はグループ化で定義されます。このような視点は、ほかの視点または表とともに照会の中で使用することはできません。

ユーザーの処置: 次のような方法をとってください。

1. グループ化で定義した視点からデータの選択に照会を実行する。
2. そのデータを新しい表として保管する。
3. 新しい表からのデータを他の視点および表からのデータとともに選択する照会を実行する。

SQLCODE: -00155 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10556

メッセージ: 視点の定義または使用法が無効です。

説明: DISTINCT か GROUP-BY を使用して視点が作成されました。視点を使用するには以下のルールに従わなければなりません。

- 複数の DISTINCT の列で視点が作成されている場合は、選択リストにすべての列を含まなければならないが、AVG などの列関数を視点の列には使用できません。

たとえば視点が以下のように定義されていたとします。

```
CREATE VIEW V1 (COLA,COLB)
AS SELECT DISTINCT (COL1,COL2)
FROM TABLEA
```

V1 からは COLA、COLB の両方を選択しなければなりません。さらに、AVG(COLA)、またはそのほかの列関数は使用できません。

- GROUP-BY を指定して視点が作成されている場合は、視点の列には列関数を使用できません。
- 1 つ以上の DISTINCT 列を指定して、視点が作成されている場合は列関数には計算式を使用できず、作成した視点を結合できません。
- 1 つの DISTINCT 列を指定して視点が作成されている場合は、視点から選択処理をするさいには、選択リストには 1 つの列関数しか使えません。

ユーザーの処置: 照会を変更して、実行し直してください。

SQLCODE: -00156 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10565

メッセージ: 照会中の名前の最初か終わりがブランクです。

説明: 名前の始まりと終わりはブランクではがなりません。無効な照会の例を次に示します。この例では、"YEARS" という名前の始まりに、ブランクがあるために無効です。

無効な
照会 :

```
Q.STAFF | NAME | "YEARS" |
-----+-----+-----+
P.      |      |      |
```

ユーザーの処置: 名前から始めか、後ろのブランクを取り除いてください。

SQLCODE: -00165 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10566

メッセージ: DBCS 定数が無効です。

説明: 照会の中に、"DBCS 定数" すなわち G'、N'、または X' で始まる漢字リテラルが含まれています。

文字定数を使いたい場合には、定数全体を単一引用符で囲んでください。

DBCS 定数を使いたい場合には、次の形式で使うようにしてください。

G'<aabbcc>' または N'<aabbcc>'

< および > は、シフトアウト (SO) およびシフトイン (SI) を表しています。SI と SO との間には偶数バイトの文字がなければなりません。

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00166 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10580

メッセージ: 日付時刻の値の構文が無効です。

説明: 有効な日付を表すストリングは、次のいずれかの形式です。

'mm/dd/yyyy' 'dd.mm.yyyy' 'yyyy-mm-dd'
または LOCAL 形式

有効な時刻を表すストリングは、次のいずれかの形式です。

'mm/dd/yyyy' 'dd.mm.yyyy' 'yyyy-mm-dd'
または LOCAL 形式

有効なタイム・スタンプを表現するストリング
は、次の形式です。

'yyyy-mm-dd-hh.mm.ss.nnnnnn'

ユーザーの処置: 日時値の構文を変更して、再度
その照会を実行してください。

SQLCODE: -00180 **Database:** DB2 Server for
VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10581

メッセージ: 日時の値が無効です。

説明: 日時値を表すストリングの値が、範囲外に
あります。日時値の正しい範囲は次のとおりで
す。

年	-	1	から	9999
月	-	1	から	12
日	-	1	から	31
時	-	0	から	24
分	-	0	から	59
秒	-	0	から	59

ユーザーの処置: 日時の値を訂正して、再度照会
し直してください。

SQLCODE: -00181 **Database:** DB2 Server for
VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10582

メッセージ: 日付時刻の値を使っている算術式が
無効です。

説明: 指定された算術式で、日付時刻か、単一の
期間の使用方法が、間違っています。正しい使用
例を以下に示します。

Q.PROJECT		STARTD		
-----	+	-----	+	-----
		_D		P._D + 10102433.

ユーザーの処置: 日付時刻値を調べて再度、照会
し直してください。

SQLCODE: -00182 **Database:** DB2 Server for
VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10583

メッセージ: 日付、またはタイム・スタンプに関
する算術演算で、無効な結果が出ました。

説明: 日付、またはタイム・スタンプの値を求め
る算術演算で、有効範囲外の値が求められまし
た。有効な日付は、0001-01-01 から 9999-12-31
までです。

ユーザーの処置: 日時の値を訂正して、再度照会
し直してください。

SQLCODE: -00183 **Database:** DB2 Server for
VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10585

メッセージ: 日付または時刻の値をフォーマット
設定できません。

説明: 次のいずれかの状況が起きています。

1. LOCAL オプションを使って日付または時刻の
値を書式化しようとしたが、使用可能なイン
ストール先定義の日付または時刻ルーチンが
存在しない。
2. 日付または時刻の値をストリングで表現して
指定したが、ストリングがデータベースの認
識できる形式ではない。または、そのストリ
ングを処理できるインストール先定義の日付
または時刻ルーチンが存在しない。

ユーザーの処置: 日付または時刻の値のストリ
ング表現を認識可能な形式に変更するか、QMF 管
理者に連絡してデータベースでインストール先定
義の日付・時刻ルーチンを利用可能にしてもら
ってください。

SQLCODE: -00185 **Database:** DB2 Server for
VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10591

メッセージ: 混合データが、不適切な DBCS データの値で構成されています。

説明: 混合データで X'OE' (シフトアウト) または X'OF' (シフトイン) が抜けているか、またはそこに DBCS 文字の 1 バイト分が含まれていません。

理由コードが &V1. の、このエラーの詳細説明は、「DB2 サーバー (VSE 版) メッセージおよびコード」または「DB2 サーバー (VM 版) メッセージおよびコード」を参照してください。

ユーザーの処置: 参照したデータの値が正しいことを確認してください。正しくない場合は、必要な変更を行ってから照会を再実行してください。

SQLCODE: -00191 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10592

メッセージ: スカラー関数 &V1 の最初の引き数はサブタイプを MIXED にできません。

説明: スカラー関数 &V1 の最初の引き数として混合サブタイプの式を使用することはできません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正し、再試行してください。

SQLCODE: -00192 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10602

メッセージ: 列 &V1 は、指定された表の中ではありません。

説明: 例示表の列名として &V1 が入力されていますが、これはデータベース内の、その表の列ではありません。

ユーザーの処置: 列名を変更してください。すべての列名が正しく記入されている例示表を取得す

るには、コマンド「DRAW テーブル名」(テーブル名は表の名前) を実行してください。

SQLCODE: -00202 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10604

メッセージ: &V1.&V2 は、システム・カタログにありません。

説明: ステートメントに指定されているオブジェクトが、システム・カタログの中に見当たりません。名前のスペルが違っているか、または誤った修飾子 (&V1) を指定したと考えられます。

ユーザーの処置: 名前を訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00204 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10605

メッセージ: 列名 &V1 は表 &V2. の中にありません。

説明: 列名 &V1. が指定されています。これは、表 &V2. の中に見つかりませんでした。名前のスペルが違っているか、または表名を修飾する必要があると考えられます。

ユーザーの処置: 列名と所有者が正しいかどうか、およびスペルが正しいかどうかを検査してください。

SQLCODE: -00205 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10712

メッセージ: コロン (:) の使用は無効です。

説明: 照会で、「WHERE NAME = :NAME」のように、前にコロンのついた名前が使用されています。(この用法は、プリプロセッサ・プログラムに実行依頼される照会では意味がありますが、

QMFでの照会では無効です。)

ユーザーの処置: 照会を訂正してください。表、列、または視点の名前を使うかその他の文字定数は、一重引用符で囲んでください。

SQLCODE: -00312 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10713

メッセージ: "?" の使用法が無効です。

説明: 文字 "?" がデータベース中のいずれかの名前の一部である場合は、二重引用符で囲まなければなりません。照会に指定する名前では "?" のこれ以外の使用法は無効です。文字 "?" は文字定数としても使用できますが、その場合は単一引用符で囲まなければなりません。

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00313 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10730

メッセージ: 1 つまたは複数の文字が現行サーバーによって使用可能なコードに変換されませんでした。

説明: SQL ステートメントはアプリケーション・サーバーに適合するコードに変換されるべき文字ストリングを参照しましたが、データ表示の誤った組み合わせが原因で参照できません。文字ストリングが対応する列のデータ・タイプと互換性がありません。したがって、指定された文字ストリングを使用できません。

ユーザーの処置: 文字列および参照した値が正しいかどうか検査してください。誤りがあれば、必要な変更を行い、再度照会を試みてください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00330 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10732

メッセージ: 互換性のない CCSID によって文字ストリングは変換されませんでした。

説明: SQL ステートメントは現行文字セットと違ったコード化文字セットの中にあるコード化文字セット ID(CCSID) &V1 を持つ文字ストリングを参照しました。現行サーバーでこの文字ストリングを使用するには、ソース CCSID &V1 からターゲット CCSID &V2 に変換されなければなりません。しかし、この CCSID の対の変換ルールは SYSSTRINGS システム表に定義されていません。したがって、データベース・システムは文字ストリングをアプリケーション・サーバーに適合するコードに変換できません。

理由コードが &V3 の、このエラーの詳細説明は、「DB2 サーバー (VSE 版) メッセージおよびコード」または「DB2 サーバー (VM 版) メッセージおよびコード」を参照してください。この変換エラーが起こりうる原因は、次のとおりです。

- SQL ステートメントは MIXED サブタイプのように定義されましたが、MIXED CCSID はアプリケーションの要求側によって指定されていない。
- 図形または混合データは、SQL ステートメントで使用され、現行サーバーで DBCS オプションまたは要求側が NO とセットされている。

ユーザーの処置: 参照した文字列と値が正しいかどうか検査してください。誤りがあれば必要な変更を行い、照会を再実行してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00332 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10751

メッセージ: 位置 &V1. のデータ・タイプが無効です。

説明: アプリケーション・リクエスターによりサポートされない SQL データ・タイプがあります。 &V1 は、無効なデータ・タイプを持つ SQLDA の最初のエレメントです。このエラーの一般的な原因として、アプリケーション・リクエスターがアプリケーション・サーバーにあるラージ・オブジェクト・データを記述しようとしたことが考えられます。 このエラーの原因となる SQLTYPE には、LOB、BLOB、CLOB および DBLOB があります。

ユーザーの処置: 無効なデータ・タイプを除去し、照会を再実行してください。

DSQ10801

メッセージ: 式または条件の中で、異なるタイプのデータを用いることはできません。

説明: 1 つの式または条件の中で、異なるタイプのデータを使用しています。 たとえば、以下は文字データ (SMITH) と数値データ (_SALARY) を比較しているため、無効です。

無効な例: _SALARY = SMITH

ユーザーの処置: 同じタイプのデータが使用されるように、該当するすべての式または条件を訂正してください。

DSQ10802

メッセージ: 算術式に文字データが含まれていません。

説明: 算術式、および組み込み関数 AVG と SUM を用いる式では、数値データしか使用することができません。照会で用いている式の中には文字データがあります。

ユーザーの処置: 数値データだけを用いて式を書きなおし、照会を再実行してください。

DSQ10804

メッセージ: 長すぎて該当の列に収まらない文字値があります。

説明: 挿入しようとしている値の 1 つが、それを入れる列の桁数を超過しています。

ユーザーの処置: その列に収まるように値を変更して、照会を再実行してください。

DSQ10805, DSQ1-806

メッセージ: 数値が、列に使用できる値の範囲外にあります。

説明: 照会に指定されている値が、関連する列に使用可能な値の範囲内にありません。値は、式の結果としての値の場合もあります。

適切な SQL の値の範囲は次のとおりです。

FLOAT -7.2E75 から -5.4E-79, 0,
 5.4E-79 から 7.2E75
INTEGER -2147483648 から 2147483647
SMALLINT ... -32768 から 32767
DECIMAL 範囲は列の精度と位取りによって
 決まります。たとえば、精度 = 5、
 位取り = 2 で定義された 10 進数の
 の列に指定される場合、その値は
 -999.99 から 999.99 です。

ユーザーの処置: 許容範囲内の値を指定してください。入力先の列を間違えていないかどうか確かめてください。

DSQ10807

メッセージ: NOT NULL と定義された列に NULL を入れることはできません。

説明: 照会で、NOT NULL と指定されている列に NULL を入力しようとして I. または U. が用いられています。次に示す照会では、ID に NULL を挿入しようとしていますが、ID は NOT NULL 列として定義されています。I. 行では、NULL は下記の列に入力されることに注意してください。

1. 挿入値を持たない指定された列
2. NULL を含む列
3. 表を定義しているが、照会で指定していない列

Q.STAFF	ID	NAME	DEPT
I.		'J.Harris'	

YEARS
NULL

ユーザーの処置: NOT NULL 列に対して値を指定してください。

DSQ10808

メッセージ: 更新または挿入する値が、関連する列のデータ・タイプに合いません。

説明: この照会は、ある列の値を、互換性のある他の列の値で挿入 (または更新) しようとしています。たとえば、次に示す無効な照会は、文字列 (NAME) からの値を数値列 (ID) に挿入しようとしています。

無効な
照会 :

MYSTAFF	ID	NAME
I.	_N	_N

Q.STAFF	ID	NAME
	_I	_N

ユーザーの処置: 適合性のある値を使用してください。

DSQ10810

メッセージ: &V1 は、有効な数値ではありません。

説明: 照会が、&V1 を数値フィールドに割り当てようとしたのですが、31 桁以上の浮動小数点数であるか、または数値以外の文字を含む値でした。

ユーザーの処置: &V1 を訂正し、照会を再実行してください。

DSQ10811

メッセージ: "USER" の使い方が無効です。USER が式の中で使われたか、数値データと比較されたか、条件に使われていません。

説明: USER は条件の中でだけ使用できます。また、数値データとの比較はできません。下記は USER の有効な使い方の例です。

Q.STAFF	NAME	SALARY	COMM	YEARS
P.	USER			

ユーザーの処置: 照会での USER の使い方を訂正してください。

DSQ10813

メッセージ: データ・タイプの変換中に算術オーバーフローが生まれました。

説明: 算術オーバーフローが生じたために、算術演算または挿入演算の結果は無効です。たとえば、INTEGER のデータ・タイプを持つ値を SMALLINT のデータ・タイプの列に挿入しようとした可能性があります。INTEGER の値が十分に小さいものであれば変換を正常に行うことができます。しかし、32767 を超える値は、算術オーバーフローを招く結果となります。

ユーザーの処置: 演算を訂正し、照会を再実行してください。

DSQ10814

メッセージ: 照会内の LIKE 演算子が、文字データまたはグラフィック・データを参照していません。

説明: LIKE 演算子は、文字データまたはグラフィック・データが含まれている列だけで使用できます。照会では、文字データまたは漢字データが含まれていない列を参照するのに LIKE を使用しています。たとえば、次のようになります。

無効な 照会 :	Q.STAFF	NAME	SALARY
	P.		LIKE '20%'

ユーザーの処置: 数値データまたは日付 / 時刻データを参照している LIKE を削除し、照会を再実行してください。

P.		_L2	
YOURTABLE		LONGVARCHAR2	
-----+		-----	
		_L2	

DSQ10815

メッセージ: 2 つの異なる P. 行の同じ列に検索して入れるデータは、比較可能な定義をされていなければなりません。

説明: 照会の中に 2 つ以上の P. 行で比較できないデータが定義されています。この照会と同じ列にデータを検索して入れようとして失敗しました。P. 行のデータの定義は検索して比較に成功しなければなりません。さらに、同じ列に検索して入れられる列は同一のフィールド・プロシージャでなければならず、検索される列に提供される列 CCSID の値はフィールド・プロシージャをもたなければなりません。

次の照会では、数値データ (DEPT) と文字データを (JOB) を同じ列に入れようとしています。

無効な
照会 :

Q.staff		DEPT				JOB	
-----+		-----		-----		-----	
		_D		P._D			
				P._J		_J	

ユーザーの処置: 同じ列には、比較ができる定義のデータを入れるようにしてください。

DSQ10816

メッセージ: 2 つの異なる P. 行により検索されて同じ列に入れられるデータは、長い可変文字属性のデータを参照してはなりません。

説明: この照会は、2 つのデータ・ソースから検索したデータを同じ列に入れようとしています。これらのデータ・ソースの少なくとも一方が、長い可変文字データとして定義されています。無効な例を下に示します。

無効な
照会 :

MYTABLE		LONGVARCHAR1	
-----+		-----	
P.			

ユーザーの処置: 長い可変文字属性データに対する同一列内の参照を除去してください。

DSQ10817, DSQ10818

メッセージ: DSQ10713 を参照してください。

DSQ10819

メッセージ: 使用されている値を用いた 10 進除算はできません。

説明: 分子の精度または分母の位取りが、10 進除算を行うには大きすぎます。

ユーザーの処置: 10 進除算に使用する値の精度または位取りを変更してから、照会を再実行してください。INTEGER、または SMALL INTEGER の値が、この計算のために 10 進数に変換された可能性があることに注意してください。

SQLCODE: -00419 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10930

メッセージ: 外部キーの値が無効です。

説明: 更新または挿入照会で、外部キーの値を指定しました。しかし、その値は、親表の基本キーの値のいずれにも等しくありません。

データベースに外部キーの参照制約がある場合は、名前は次のようになります。 &V1.&V2.

ユーザーの処置: 基本キーの値のどれかに一致する外部キーの値を使用してください。

SQLCODE: -00530 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10932

メッセージ: 従属行のため、行の更新または削除はできません。

説明: 親行を更新または削除しようとしたが、親行が従属行をもっているか、または RESTRICT 規則を使用して制限された従属行にカスケードしているため失敗しました。

データベースに外部キーの参照制約がある場合は、名前は次のようになります。 &V1..&V2.

ユーザーの処置: 行の選択が、正しかったことを確かめてください。正しかった場合には、RESTRICT が指定された従属行を更新または削除してください。その次に、親の行を更新または削除してください。

SQLCODE: -00532 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10934

メッセージ: 複数行の基本キー、または固有制約は更新できません。

説明: U. を使用して、一度に複数行の基本キーまたは固有制約を更新できません。

ユーザーの処置: 更新要求がデータ行を 1 行だけ選択することを確認してください。

SQLCODE: -00534 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10936

メッセージ: 表 &V1..&V2 が影響を受けるため、削除は無効です。

説明: D. を使った表からの削除操作を、表 &V1..&V2 の値に基づいて実行できません。それは、表 &V1..&V2 がその削除によって影響を受ける可能性があるからです。

ユーザーの処置: 影響を受ける可能性がある表の

中の値に基づいて、表に対する削除操作を実行しないでください。

SQLCODE: -00536 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10951, DSQ10952

メッセージ: 照会の実行に必要な権限がありません。

説明: QBE 照会で次に示す演算子の 1 つが使用されています。したがって、該当する表に対してこの演算子に対応する権限が必要です。

D. -- DELETE (削除)
I. -- INSERT (挿入)
P. -- SELECT (選択)
U. -- UPDATE (更新)

ユーザーの処置: 照会に必要な許可を得るために QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00551 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ10961

メッセージ: CONNECT 権限がなければデータベースを使用できません。

説明: データベースを使用するためには CONNECT 権限が必要です。このセッションですでにデータベースを使用している場合は、実行中に他のユーザーによって CONNECT 権限が取り消された可能性があります。

ユーザーの処置: QMF 管理者に問題を報告してください。

SQLCODE: -00561 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ11040

メッセージ: グラフィックと混合データ・タイプは現行サーバーによってサポートされていません。

説明: SQL ステートメントはその文節またはスカラー関数 &V1 を参照しましたが、現行サーバーがそれをサポートしていませんでした。

これは、次のいずれかによります。

- ALTER または CREATE TABLE ステートメントは FOR MIXED DATA 文節を指定し、現行サーバーのデフォルトの混合 CCSID はゼロであった。
- ALTER または CREATE TABLE ステートメントは GRAPHIC データ・タイプを指定し、現行サーバーのデフォルトの図形 CCSID はゼロであった。
- SQL ステートメントは VARGRAPHIC スカラー関数を指定し、現行サーバーのデフォルトの図形 CCSID はゼロであった。

ユーザーの処置: 混合、グラフィックおよび VARGRAPHIC データ・タイプをサポートしているサーバーで SQL ステートメントを出してください。これらのデータ・タイプが現行サーバーに使用されている場合、そのシステムのデフォルト CCSID をリセットするよう、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00640 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ11068

メッセージ: 表 &V1.&V2 はアクセスできません。&V3 &V4 はアクティブではありません。

説明: &V3 &V4 がアクティブではないので、表 &V1.&V2 に対し操作を実行できません。

ユーザーの処置: キーがアクティブになった時点で、再度操作を試みてください。

SQLCODE: -00668 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ11087

メッセージ: フィールド・プロシージャで定義された列との比較が無効です。

説明: フィールド・プロシージャで定義された列と比較された値が、同じフィールド・タイプではありません。比較は列の値のエンコードされた書式で実行されます。たとえば、列のエンコードされた値が INTEGER の場合は、比較される値のデータ・タイプは同じでなければなりません。ストリングの場合は、そのデータ・タイプは互換性がなければなりません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正して、もう一度、照会を実行してください。

SQLCODE: -00687 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ11101

メッセージ: DBSPACE のデータのために割り振られているスペースがいっぱいです。

説明: DBSPACE にデータのための十分なスペースがないので、この照会は実行されません。

ユーザーの処置: 表を作成しようとしている場合には、別の DBSPACE を指定してください。その他の場合には、QMF 管理者の指示にしたがってデータ・スペースを大きくして、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00701 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ11102

メッセージ: DBSPACE で索引用に割り当てられているスペースがいっぱいです。

説明: DBSPACE に索引のためのスペースが追加されるまでは、照会は実行されません。

ユーザーの処置: 表を作成しようとしている場合には、別の DBSPACE を指定してください。そ

他の場合には、QMF 管理者の指示にしたがって索引スペースを大きくして、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00702 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ11103

メッセージ: DBSPACE のヘッダー情報用のスペースがいっぱいです。

説明: NHEADER パラメーターによって、ヘッダー情報用として DBSPACE の中で割り振られているスペースが、いっぱいになりました。追加の DBSPACE スペースを確保しないかぎり、この照会の処理はできません。

ユーザーの処置: 表を作成しようとしている場合には、別の DBSPACE を指定してください。その他の場合には、QMF 管理者の指示にしたがってヘッダー・スペースを大きくして、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00703 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ11110

メッセージ: この照会に必要な私用 DBSPACE は使用中です。

説明: 1 つの私用 DBSPACE を、同時に複数のユーザーがアクセスすることはできません。照会の中で要求されている表は、現在使用中の私用 DBSPACE に入っています。

ユーザーの処置: 私用 DBSPACE が使用可能になってから、照会を実行しなおしてください。

SQLCODE: -00710 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ11112

メッセージ: INTERNAL DBSPACE に照会を実行するだけの余地がありません。

説明: QMF が十分な数または十分な大きさの INTERNAL DBSPACE を獲得することができませんでした。照会を簡素化するか、またはそれを 2 つ以上の照会に分割してください。

ユーザーの処置: QMF のためにもっと多くの INTERNAL DBSPACE を確保するよう、QMF 管理者に要求してください。

SQLCODE: -00712 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ11201

メッセージ: SQL ステートメントの算術演算が、エラーに終わりました。

説明: 視点を使用しようとしたのですが、視点定義の副選択文節中にある算術演算がエラーに終わりました。例外タイプは &V1、演算タイプは &V2、データ・タイプは &V3 です。

ユーザーの処置: 視点の所有者に連絡して、算術演算と視点の副選択文節列を調べてもらい、どのデータが問題を引き起こしたか判別してください。

SQLCODE: -00801 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ11202

メッセージ: SQL コマンドの算術演算で、エラーが発生しました。

説明: SQL コマンドで乗算または除算のような算術演算を行おうとしました。しかし、コンピューターは選択された列で 1 つ以上の値が無効であることを検出しました。たとえば、乗算の結果がコンピューター内部記憶域を超えたか、0 による除算になっています。

ユーザーの処置: プログラム例外を起こすデータを決定するためにコマンドの算術演算および列を検査してください。

SQLCODE: -00802 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ11203

メッセージ: 固有索引列の中に重複値がありません。

説明: 新たな値を挿入しようとしている、または新たな値で更新しようとしている列の 1 つに、その値と同じ値がすでに入っています。その列は、固有索引列です。固有索引列は重複値をとることはできません。

ユーザーの処置: 既存の値と重複することのないように、新たな値を変更してください。そして、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00803 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ11205

メッセージ: パッケージ &V1 が、カタログ表に見つかりません。

説明:

DB2 サーバー (VSE および VM 版) が、QMF プログラムを実行しようとした際に、カタログ表 SYSTEM.SYSACCESS 中でパッケージを見つけることができませんでした。これは次の原因で起こります。

- QMF プログラムが、正しくプリプロセスされていないかった。
- QMF が、接続先のロケーションでインストールされていないかった。

ユーザーの処置: このエラーの詳細説明は、「DB2 サーバー (VSE 版) メッセージおよびコード」または「DB2 サーバー (VM 版) メッセージおよびコード」を参照してください。また、この問題を QMF 管理者に報告してください。

SQLCODE: -00805 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

48 QMF: QMF メッセージおよびコード

DSQ11208

メッセージ: システム・カタログを変更する権限がありません。

説明: 権限を付与されていなければ、システム・カタログを変更することはできません。照会または DISPLAY コマンドを用いてシステム・カタログの読み取りおよびデータの検索を行うことはできます。

ユーザーの処置: 権限が必要であれば、QMF 管理者の手続きに従ってください。

SQLCODE: -00808 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ11223

メッセージ: システム・カタログに対しこの操作は実行できません。

説明: 要求でシステム・カタログを指定しました。ユーザーはシステム・カタログから削除したり、1 次または外部キーをシステム・カタログに追加したり、システム・カタログを外部キーの親として参照することはできません。

ユーザーの処置: データベースからオブジェクト "NAME1" を除去する場合、ERASE NAME1 コマンドを入力してください。

SQLCODE: -00823 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ11311

メッセージ: データベースの必要な部分が使用中です。

説明: 別のユーザーが処理を完了するまでは、データベース中の必要なオブジェクトをアクセスすることはできません。

ユーザーの処置: QMF セッションを打ち切り、あとで再度サインオンしてください。

SQLCODE: -00911 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ11312

メッセージ: データベースの必要な部分が使用中です。

説明: 別のユーザーが処理を完了するまでは、データベース中の必要なオブジェクトをアクセスすることはできません。

ユーザーの処置: QMF セッションを打ち切り、あとで再度サインオンしてください。

SQLCODE: -00912 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ11314

メッセージ: 取り消し要求が出されました。

説明: CANCEL は、ユーザーあるいはシステムによって出された可能性があります。システムによって出された CANCEL はロック要求ブロックの限界に達したためです。

ユーザーの処置: 必要ならば変更を再実行してください。CANCEL 要求を出していないのに SQLCODE -914 を受け取り続ける場合は、システム・プログラマーに連絡して、アプリケーション・サーバーが開始するときの NLRBU または NLRBS パラメーターを大きくするようにしてください。

SQLCODE: -00914 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ11315

メッセージ: システム作業負荷が原因で照会は処理されませんでした。

説明: データベース・システムの作業負荷のために、いまは照会を処理することができません。

ユーザーの処置: 他の処理を続行し、あとでもう

一度照会の実行を試みてください。現在のシステム作業負荷の詳細を知りたい場合には、QMF 管理者にお問い合わせください。

SQLCODE: -00915 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ11316

メッセージ: オペレーターの処置が原因で照会は処理されませんでした。

説明: システム・オペレーターが照会の処理を中断しました。照会にはエラーはありません。

ユーザーの処置: その後照会を実行してください。

SQLCODE: -00916 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ11330

メッセージ: データベース・マネージャーは記憶域を使い果たしました。

説明: データベース・マネージャーには、ユーザーの照会を実行する十分な仮想記憶域がありません。

ユーザーの処置: あとで、QMF のアクティビティが少なくなった時点で、この照会を再度実行してください。同じ状態が続く場合には、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00930 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ11333

メッセージ: &V1 への通信経路が使用できません。

説明: 以下のいずれかの理由で、データベース &V1 をアクセスできません。

- データベースが停止されています。

- DB2 サーバー (VSE および VM 版) 仮想計算機に許された最大接続数 (MAXCONN) を超えています。
- DB2 サーバー (VSE および VM 版) システム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: データベース名 &V1. が正しいか確認してください。正しくない場合は、データベース名を訂正して、要求を再試行してください。

DB2 サーバー (VSE および VM 版) 仮想計算機に許される接続数の制限は DB2 サーバー (VSE および VM 版) 仮想計算機ディレクトリーの MAXCONN の値で設定されます。この制限を超えた場合、後でシステムのアクティビティーが少なくなると要求を実行してみてください。この条件が頻繁に起きる場合は、MAXCONN の値を増やすよう QMF 管理者に連絡してください。

"CONNECT TO <ロケーション>" コマンドがサポートされていれば、QMF は現在のロケーションに再接続します。この場合 QMF の使用を継続できます。QMF が再接続できない場合は、接続喪失プロンプト・パネルで別のロケーションに接続するよう指示されます。

SQLCODE: -00933 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ11339

メッセージ: DSQ11330 を参照してください。

DSQ11340

メッセージ: データベース &V1 が作動可能でないか、または見つかりません。

説明: 下記のいずれかの理由により、このデータベースにはアクセスできません。

- データベースが開始されていない。
- データベース名 &V1 が DB2 サーバー (VSE および VM 版) アプリケーションの要求側に認識されていない。

- システム・エラーが発生しました。たとえば、AVS ゲートウェイとサーバーの LU 間に SNA セッションが開設されていないか、または中間通信サーバー (TSAF や AVS など) がアクティブではありません。
- アプリケーション・プログラムまたはアプリケーション・サーバーが異常終了した後に、VM システムにより COMDIR がアンロードされた。

ユーザーの処置: データベース名 &V1. が正しいか確認してください。正しくない場合は、データベース名を訂正して、要求を再試行してください。

"CONNECT TO <ロケーション>" コマンドがサポートされていれば、QMF は現在のロケーションに再接続します。この場合 QMF の使用を継続できます。QMF が再接続できない場合は、接続喪失プロンプト・パネルで別のロケーションに接続するよう指示されます。

SQLCODE: -00940 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ11342

メッセージ: DSQ11330 を参照してください。

DSQ11343

メッセージ: QMF 仮想計算機 &V2 はデータベース &V1. にアクセスできません。

説明: QMF 仮想計算機が正しく定義されていません。QMF 仮想計算機の A ディスクにあるファイル ARISRMBS MODULE に、QMF がアクセスしようとしているデータベース・プログラムが記述されていません。

ユーザーの処置: このメッセージが出たことを QMF 管理者に知らせ、その指示を待ってください。QMF 仮想計算機が正しく定義されるまでは、なにもすることはできません。

SQLCODE: -00943 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ11348

メッセージ: DB2 サーバー (VSE および VM 版) への接続は、オペレーターの処置のため切断されました。

説明: DB2 サーバー (VSE および VM 版) 仮想計算機のオペレーターが **FORCE** コマンドを入力したため、現行の作業論理単位の **ROLLBACK** を引き起こし、DB2 サーバー (VSE および VM 版) システムへの接続を切断しています。ユーザー ID、パスワード、データベース名はすべてデフォルト値にリセットされます。

ユーザーの処置: 継続できます。発行した明示的 **CONNECT** はすべて、失われました。元々の接続を再確立するには、同じユーザー ID を使用して、再度、明示的 **CONNECT** 要求を発行する必要があります。

SQLCODE: -00948 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: QBE

DSQ11419

メッセージ: この視点は使用できません。

説明: コマンドに指定された視点の定義に次のエラーがあります。

1. **SELECT** のあとに列名と列関数の両方が使用されているが、**GROUP BY** がない。

正:
`SELECT DEPT, AVG(SALARY)
FROM Q.STAFF GROUP BY DEPT`

2. **SELECT** のあとにリストされた列が、**GROUP BY** のあとにない。

正:
`SELECT DEPT, JOB, AVG(SALARY)
FROM Q.STAFF
GROUP BY DEPT, JOB
(誤: GROUP BY DEPT)`

3. **HAVING** のあとに、グループには適用されない条件がある。

正: `HAVING MIN(YEARS) > 6`
(誤: `HAVING YEARS > 6`)

4. 式でのグループ値と単一値が混用されている。

正: `SUM (UNITS * RATE)`
(誤: `SUM(UNITS) * RATE`)

ユーザーの処置: 視点の定義を訂正して、コマンドを再入力してください。

SQLCODE: -00119 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ11429

メッセージ: 指定されている表には列が多すぎます。

説明: 指定表中には、次の項目が限界値を超えています。

選択された列 255

ユーザーの処置: コマンドを修正して限界値と一致させてください。

SQLCODE: -00129 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ11441

メッセージ: 挿入または更新の値が視点定義の条件を満たしていません。

説明: **&V1** コマンドは、**"WITH CHECK OPTION"** 文節を使用している視点の挿入または更新を試みました。この視点の中に行の挿入または更新しようとする試みは、結果が視点定義に一致していることを確認するためにチェックされます。挿入または更新を試みた値は定義の条件を満たしていません。

ユーザーの処置: 視点定義を調べて、変更が拒否された理由を判別してください。次に、処理を試みようとした **&V1** コマンドの値を変更してください。

SQLCODE: -00141 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ11449

メッセージ: 指定されたオブジェクトを変更することができません。

説明: 指定されたオブジェクトは、複数の表に基づく視点です。この場合、視点の INSERT、DELETE、UPDATEはできません。

ユーザーの処置: 指定した表または視点の名前が正しいかどうかを確認してください。

SQLCODE: -00149 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ11450

メッセージ: この視点では &V1 を用いることはできません。

説明: コマンドの実行によって QMF に下記の処理が要求される場合には、そのようなコマンドに視点を指定することはできません。

1. 下記のものの挿入、更新、または削除
 - 複数の表からのデータ
 - 組み込み関数によって定義された列 (例: SUM(COMM))
 - DISTINCT または GROUP BY によって選択されたデータ
2. 式によって定義された列 (例:SALARY/12) の挿入または更新
3. 視点のもととなっている表の中の、NOT NULL として定義されている列への、値 NULL の挿入

ユーザーの処置: データの新しい名前を選択し、コマンド「SAVE DATA AS newname」を実行すると、新しい表が作成されます。

SQLCODE: -00150 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ11451

メッセージ: 列 &V2 は変更できません。

説明: &V1 コマンドは REPLACE オプションを指定して実行できません。それは、次の列の内容を変更します。

1. 複数の表に基づく視点
2. 式または組み込み関数によって定義される列を含む視点 例: UNITS*PRICE または AVG(SALARY)
3. DISTINCT または GROUP BY を使用する SELECT ステートメントによって定義された視点
4. 表スペースの区分化キー
5. 列が更新されないカタログ表

ユーザーの処置: 保管するデータの新しい名前を選択し、新しい表として保管してください。

SQLCODE: -00151 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ11454

メッセージ: この視点では &V1 を用いることはできません。

説明: コマンドの実行によって QMF に下記の処理が要求される場合には、そのようなコマンドに視点を指定することはできません。

1. 下記のものの挿入、更新、または削除
 - 複数の表からのデータ
 - 組み込み関数によって定義された列 (例: SUM(COMM))
 - DISTINCT または GROUP BY によって選択されたデータ
2. 式によって定義された列 (例:SALARY/12) の挿入または更新
3. 視点のもととなっている表の中の、NOT NULL として定義されている列への、値 NULL の挿入

ユーザーの処置: データの新しい名前を選択し、

コマンド「SAVE DATA AS newname」を実行すると、新しい表が作成されます。

SQLCODE: -00154 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ11465

メッセージ: ブランクで始まるか、終わる名前を二重引用符で囲むことはできません。

説明: コマンドに、ブランクで始まるか、終わる二重引用符付きの名前がありますが、データベースに、このような形式の名前を持つことはできません。

ユーザーの処置: タイプ・エラーと思われま。訂正を行なって、コマンドを再入力してください。リスト・パネルからこのコマンドを入れた場合には、コマンドの形式が正しかったかどうか確認してください。そのパネルから QMF コマンドを入力する方法の詳細は、リスト・パネルでヘルプ・キーを押してください。

SQLCODE: -00165 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ11480

メッセージ: &V1 コマンドは無効な DATETIME 値を参照しました。

説明: &V1 コマンドは無効な DATETIME 値を参照しました。それは視点定義の中に無効な DATETIME 値を含んでいる視点を参照した場合、起こる可能性があります。有効な日付を表すストリングは、次のいずれかの形式です。

'mm/dd/yyyy' 'dd.mm.yyyy' 'yyyy-mm-dd'
または LOCAL 形式

有効な時刻を表すストリングは、次のいずれかの形式です。

'mm/dd/yyyy' 'dd.mm.yyyy' 'yyyy-mm-dd'
または LOCAL 形式

有効なタイム・スタンプを表現するストリングは、次の形式です。

'yyyy-mm-dd-hh.mm.ss.nnnnnn'

ユーザーの処置: &V1 コマンドが視点を参照している場合、視点定義の中の DATETIME 値の構文を修正し、再度 &V1 コマンドを実行してください。QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

SQLCODE: -00180 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ11504

メッセージ: &V2..&V3. が見つかりません。

説明: &V3. は、&V2. が所有しているデータベース内のどのような名前にも該当しません。&V1 コマンドに、表 &V2.&V3. に基づく同義語が指定されていると考えられます。この表はもはやデータベースにありません。したがって、この表に基づく同義語を使用するコマンドも、実行できません。

ユーザーの処置: 別の操作を続けてください。

SQLCODE: -00204 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ11505

メッセージ: 列名 &V1 は表 &V2. の中にありません。

説明: 列名 &V1. が指定されています。これは、表 &V2. の中に見つかりませんでした。名前のスペルが違っているか、または表名を修飾する必要があると考えられます。

ユーザーの処置: 列名と所有者が正しいかどうか、およびスペルが正しいかどうかを検査してください。

SQLCODE: -00205 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ11630

メッセージ: 1 つ以上の変換された文字が使用可能ではありません。

説明: &V1 コマンドは、アプリケーション・サーバーに適合するコードに変換する必要がある文字ストリングを参照しましたが、データ表示の誤った組み合わせが原因で参照できません。文字ストリングが対応する列のデータ・タイプと互換性がありません。指定された文字ストリングをそのまま使用できません。

ユーザーの処置: コマンドが正しいかどうか検査してください。もし誤りがあれば、必要な変更を行いコマンドを再実行してください。あるいは、QMF 管理者に相談してください。

SQLCODE: -00330 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ11632

メッセージ: 互換性のない CCSID によって文字ストリングは変換されませんでした。

説明: &V1 コマンドは、現行文字セットと違ったコード化文字セットの中にあるコード化文字セット ID (CCSID) &V2 を持つ文字ストリングを参照しました。現行サーバーでこの文字ストリングを使用するには、ソース CCSID &V2 からターゲット CCSID &V3. に変換されなければなりません。

しかし、この CCSID の対の変換ルールは SYSSTRINGS システム表に定義されていません。したがって、データベース・システムは文字ストリングをアプリケーション・サーバーに適合するコードに変換できません。

理由コード &V4. のエラーの詳細説明は、「DB2 サーバー (VSE および VM 版) メッセージおよびコード」を参照してください。

ユーザーの処置: コマンドが正しいかどうか検査してください。正しくない場合、必要な変更を行って、再度コマンドを出してください。あるいは、

は、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00332 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ11651

メッセージ: 位置 &V2. のデータ・タイプはサポートされていません。

説明: アプリケーション・リクエストによりサポートされない SQL データ・タイプがあります。&V2 は、サポートされないデータ・タイプをもつ SQLDA の最初のエレメントの位置です。このエラーの一般的な原因として、アプリケーション・リクエストがアプリケーション・サーバーに接続し、そのアプリケーション・サーバーに属するデータ・タイプを記述しようとしたことが考えられます。このエラーの原因となる SQLTYPE には、CLOB、BLOB および DBCLOB があります。

ユーザーの処置: サポートされないデータ・タイプを除去し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00351 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ11707

メッセージ: この視点では &V1 を用いることはできません。

説明: コマンドの実行によって QMF に下記の処理が要求される場合には、そのようなコマンドに視点を指定することはできません。

1. 下記のもの、挿入、更新、または削除
 - 複数の表からのデータ
 - 組み込み関数によって定義された列 (例: SUM(COMM))
 - DISTINCT または GROUP BY によって選択されたデータ
2. 式によって定義された列 (例:SALARY/12) の挿入または更新

3. 視点のもととなっている表の中の、NOT NULL として定義されている列への、値 NULL の挿入

ユーザーの処置: データの新しい名前を選択し、コマンド「SAVE DATA AS newname」を実行すると、新しい表が作成されます。

SQLCODE: -00407 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ11830

メッセージ: 外部キーの値が無効です。

説明: コマンドで置き換えられる表に外部キーがあります。新しいデータに外部キー &V2..&V3 の値がありますが、それは親表の基本キーのどの値にも等しくありません。

データベースに外部キーの参照制約がある場合は、名前は次のようになります。 &V2..&V3.

ユーザーの処置: 表を、新しいデータで置き換えることはできません。データを新しい表として保管してください。

SQLCODE: -00530 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ11832

メッセージ: RESTRICT の指定のために、表を置き換えることができません。

説明: 置き換えようとした表には、基本キーが定義されています。その表を置き換える場合は、既存の行および基本キーを削除しなければなりません。しかし、RESTRICT が 1 つまたは複数の子表に指定されていたため、基本キーの値は削除できません。

ユーザーの処置: データを新しい表として保管するか、またはすべての従属表に関する制約規則を再検査してください。

SQLCODE: -00532 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ11850

メッセージ: SYSTEM を所有者として作成することはできません。

説明: たとえば、次のようなステートメントの入った照会を実行することはできません。

誤:
CREATE TABLE SYSTEM.NEWTABLE

また、次のようなコマンドを出すこともできません。

誤:
SAVE DATA AS SYSTEM.NEWTABLE

ユーザーの処置: この操作は行わないようにしてください。

SQLCODE: -00550 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ11851, DSQ11852

メッセージ: この &V1 コマンドを使用するために必要な権限がありません。

説明: DRAW、DISPLAY、EXPORT、または PRINT を用いるためには、指定した表または視点についての SELECT 権限が必要です。

ERASE を使用できるのは、自分が所有する表または視点の場合にかぎります。

SAVE または IMPORT を用いて既存の表を置き換えるためには、SELECT 権限、DELETE 権限、および INSERT 権限が必要です。

SAVE または IMPORT で新しい表を作成するためには、命名した表を作成するための権限が必要です。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して、適切な許可を得てください。

SQLCODE: -00551 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ11860

メッセージ: CONNECT 権限がなければデータベースを使用できません。

説明: データベースを使用するためには CONNECT 権限が必要です。

このセッションですでにデータベースを使用している場合は、実行中に他のユーザーによって CONNECT 権限が取り消された可能性があります。

CONNECT コマンドを使用しようとしていた場合には、指定したユーザー ID またはパスワード (またはその両方) が無効です。

データベースをすでに使用していて CONNECT で別のIDに結合していた場合、ユーザーの元の ID に結合し直せば、そのユーザー ID への明示的な結合に必要な権限がなくてもかまいません。QMF をそのユーザー ID で開始していれば暗黙的に結合されています。

ユーザーの処置: QMF 管理者に問題を報告してください。

SQLCODE: -00560 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ11861, DSQ11864

メッセージ: CONNECT 権限がなければデータベースを使用できません。

説明: データベースを使用するためには CONNECT 権限が必要です。

このセッションですでにデータベースを使用している場合は、実行中に他のユーザーによって CONNECT 権限が取り消された可能性があります。

CONNECT コマンドを使用しようとしていた場合には、指定したユーザー ID またはパスワード (またはその両方) が無効です。

データベースをすでに使用していて CONNECT で別のIDに結合していた場合、ユーザーの元の

ID に結合し直せば、そのユーザー ID への明示的な結合に必要な権限がなくてもかまいません。QMF をそのユーザー ID で開始していれば暗黙的に結合されています。

ユーザーの処置: QMF 管理者に問題を報告してください。

SQLCODE: -00561 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ11901

メッセージ: 同じ名前のオブジェクトがすでにあります。

説明: 作成しようとしているオブジェクト、または獲得しようとしている DBSPACE と同じ名前のものが、すでにあります。

ユーザーの処置: 名前を、データベースに存在しない名前に変更して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00601 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ11904

メッセージ: データ長、位取り、または精度が無効な列があります。

説明: 保管しようとしているデータ、またはエクスポートしようとしている表に、ゼロか、データベースでサポートしている最大値を超えたデータ長、10 進位取り、または精度があります。

ユーザーの処置: SAVE DATA を処理しようとして、しかも保管したいデータが照会を実行して、検索したものであれば、照会でデータ長がゼロの列を選択した可能性があります。照会を変更して、この列を選択しないようにして、照会を再実行してください。

すでにインポートした表、データを IMPORT、または SAVE しようとしている場合は、データベースがサポートしている最大長を超える精度が指

定された 10 進数の列がデータにあった可能性があります。データ形式を変更して、データベースの制限に精度を合わせてください。

SQLCODE: -00604 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ11907

メッセージ: データを保管するスペースがありません。

説明: プロファイルで指定された DBSPACE には、すでに 255 の表が入っています。

ユーザーの処置: プロファイルに異なる DBSPACE を入れるか、または表を消去して入力用のスペースを解放してください。

SQLCODE: -00607 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ11908

メッセージ: &V1. のために使用できる DBSPACE がありません。

説明: 次のいずれかの状況が生じています。

1. プロファイルで DBSPACE が指定されておらず、私用 DBSPACE もない。
2. プロファイルで指定されている DBSPACE を使用する権限がない。
3. 使用できる DBSPACE がいっぱいになっている。
4. プロファイルで指定されている DBSPACE が存在していない。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して、正しい DBSPACE を獲得してください。

SQLCODE: -00608 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ11910

メッセージ: プロファイルに指定した SPACE 中の表に &V1 を行えません。

説明: プロファイルの中で指定されている SPACE は、別のユーザーまたはシステムが所有しています。あなたには、その中の表に対して &V1 を行う権限がありません。

ユーザーの処置: SET (SPACE=QMF オブジェクト・パネルの表スペース名) というコマンドを使用するか、またはプロファイルの中の SPACE の値を変更して、表スペースの名前を変更してください。またはインストール先の手続きに従って、ほかのユーザーが所有する表スペースを使用する権限を得てください。

SQLCODE: -00610 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ11920

メッセージ: 表に使用可能な私用 DBSPACE がありません。

説明: プロファイル中の SPACE 値がブランクに設定されているため、私用 DBSPACE がありません。&V1 コマンドを出した結果、CREATE TABLE ステートメントが実行され、&V2. が所有する私用 DBSPACEが検索されました。

DBSPACE が見つからなかったか、いっぱいであったか、あるいは回復不能記憶域プールに入っていたかのいずれかです。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡をして、プロファイル中の SPACE 値に使用できる有効な DBSPACE を得るか、または私用 DBSPACE を作成してください。

SQLCODE: -00620 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ11968

メッセージ: &V4 &V5 はアクティブではありません。

説明: &V4 &V5 がアクティブでないので、表 &V2.&V3 に対し &V1 を実行できません。

ユーザーの処置: キーがアクティブになった時点で、再度操作を試みてください。

SQLCODE: -00668 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: Command

DSQ12001

メッセージ: &V1 の実行に必要な十分な DBSPACE スペースがありません。

説明: DBSPACE に十分な使用可能スペースがないので、&V1 を実行することができません。

ユーザーの処置: 新しい表を保管しようとしている場合には、プロファイルの SPACE オプションで別の DBSPACE を指定してください。データを挿入する余地がなくても、指定した表は &V1 コマンドによって作成されてしまっているので、まずその表を消去する必要があります。

既存の表を保管しようとしている場合には、その表を消去すると、既存の権限、視点または索引が失われてしまうおそれがあります。既存の表を削除し、もっと大きい DBSPACE を使用したい場合には、上記に従って、表を消去し、プロファイルの SPACE オプションを変更してください。その他の場合には、QMF 管理者に連絡して詳しい情報を調べてください。

SQLCODE: -00701 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: Command

DSQ12002

メッセージ: DBSPACE で索引用に割り当てられているスペースがいっぱいです。

説明: DBSPACE に索引に必要な新たなスペース

が追加されるまでは、&V1 コマンドを実行することはできません。

ユーザーの処置: 新しい表を保管しようとしている場合には、プロファイルの SPACE オプションで別の DBSPACE を指定してください。その他の場合には、QMF 管理者の指示にしたがって索引スペースを大きくして、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00702 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: Command

DSQ12003

メッセージ: DBSPACE でヘッダー情報に割り当てられているスペースがいっぱいです。

説明: NHEADER パラメーターによって、ヘッダー情報として DBSPACE の中で割り当てられているスペースが、いっぱいになりました。追加の DBSPACE を確保しないかぎり、&V1 の処理はできません。

ユーザーの処置: 新しい表を保管しようとしている場合には、プロファイルの SPACE オプションで別の DBSPACE を指定してください。その他の場合には、QMF 管理者の指示にしたがってヘッダー・スペースを大きくして、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00703 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: Command

DSQ12010

メッセージ: 要求された私用 DBSPACE は使用中です。

説明: コマンドの実行に必要な私用 DBSPACE は、一時点で 1 人のユーザーしか使用することができません。

ユーザーの処置: あとで私用 DBSPACE が使用可能になった時点で、&V1 コマンドを再入力してください。

SQLCODE: -00710 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ12012

メッセージ: &V1. を実行する余地在 INTERNAL DBSPACE 中ではありません。

説明: QMF が十分な数または十分な大きさの INTERNAL DBSPACE を獲得することができませんでした。コマンドが視点を使用している場合には、その視点の改訂によって、そのコマンドの簡素化ができることもあります。

ユーザーの処置: QMF のためにもっと多くの INTERNAL DBSPACE を確保するよう、QMF 管理者に要求してください。

SQLCODE: -00712 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ12101

メッセージ: 視点定義の算術演算が、エラーに終わりました。

説明: &V1 コマンドは視点を参照しています。視点定義の副選択文節中にある算術演算がエラーに終わりました。例外タイプは &V2、操作タイプは &V3、データ・タイプは &V4 です。

ユーザーの処置: 視点の所有者に連絡して、算術演算と視点の副選択文節列を調べてもらい、どのデータが問題を引き起こしたか判別してください。

SQLCODE: -00801 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ12102

メッセージ: SQL コマンドの算術演算で、エラーが発生しました。

説明: SQL コマンドで乗算または除算のような算術演算を行おうとしました。しかし、コンピ

ューターは選択された列で 1 つ以上の値が無効であることを検出しました。たとえば、乗算の結果がコンピューター内部記憶域を超えたか、0 による除算になっています。

ユーザーの処置: プログラム例外を起こすデータを決定するためにコマンドの算術演算および列を検査してください。

SQLCODE: -00802 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ12103

メッセージ: 固有索引列の中に重複値があります。

説明: コマンドによって変更しようとしている列の 1 つに、挿入しようとしている値と同じ値が含まれています。その列は、固有索引列です。固有索引列は重複値をとることはできません。&V1 コマンドは実行されませんでした。

ユーザーの処置: 既存の表または視点を、このデータによって変更したり置き換えたりすることはできません。このデータは新たな表として保管するようにしてください。

SQLCODE: -00803 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ12105

メッセージ: パッケージ &V2 が、カタログ表に見つかりません。

説明:

DB2 サーバー (VSE および VM 版) が、QMF プログラムを実行しようとした際に、カタログ表 SYSTEM.SYSACCESS 中でパッケージを見つけることができませんでした。これは次の原因で起こります。

- QMF プログラムが、正しくプリプロセスされていなかった。

- QMF が、接続先のロケーションでインストールされていないかった。

ユーザーの処置: このエラーの詳細説明は、「DB2 サーバー (VSE 版) メッセージおよびコード」または「DB2 サーバー (VM 版) メッセージおよびコード」を参照してください。また、この問題をインフォメーション・センターに報告してください。

SQLCODE: -00805 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: Command

DSQ12108

メッセージ: システム・カタログを変更する権限がありません。

説明: 権限を付与されていないければ、システム・カタログを変更することはできません。SQL の照会ステートメントを用いて、カタログの読み取りとデータの検索を行うことはできます。“&V1” コマンドは実行されませんでした。

ユーザーの処置: 権限が必要であれば、QMF 管理者の手続きに従ってください。

SQLCODE: -00808 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: Command

DSQ12115

メッセージ: アカウンティング・ユーザー出口ルーチンによって接続が拒否されました。

説明: DB2 サーバー (VSE および VM 版) への接続要求は、インストール先システムのアカウンティング・ユーザー出口ルーチンによって拒否されました。

ユーザーの処置: QMF 管理者 に相談してください。

SQLCODE: -00815 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: Command

DSQ12123

メッセージ: システム・カタログの &V1 はできません。

説明: 操作が許可されていません。どのユーザーにも、この操作を行う権限はありません。

ユーザーの処置: この操作は行わないようにしてください。

SQLCODE: -00823 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: Command

DSQ12136

メッセージ: 現行ロケーションに接続しているときは、ユーザー ID は使用できません。

説明: 現在のロケーションまたは目的のロケーションが DB2 サーバー (VSE および VM 版) の独自プロトコルをサポートしていないため、CONNECT コマンドにユーザー ID とパスワードを使用することができません。ロケーションが DB2 または VSE DB2 サーバー (VSE および VM 版) の場合は、CONNECT コマンドにユーザー ID とパスワードを指定できません。

VM で実行中で、ロケーションが DB2 か VSE DB2 サーバー (VSE および VM 版) であり、SQLINIT 中のプロトコル・オプションが AUTO の場合、以下の CONNECT コマンドを出すことが可能です。

- CONNECT TO <DB2 Server for VSE & VM or DB2 location>
- CONNECT <userid> TO <DB2 Server for VSE & VM location> (PASSWORD = <password>)

プロトコル・オプションが DRDA で、ロケーションが DB2 サーバー (VSE および VM 版) または DB2 の場合、次のコマンドを出すことができます。

- CONNECT TO <DB2 Server for VSE & VM or DB2 location>

ユーザーの処置:

他のユーザー ID に接続しようとしていた場合、CONNECT コマンドを正しいロケーションで入力したかどうか確認してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

他のロケーションのユーザー ID に接続しようとしていた場合、ロケーションが正しいかどうか確認してください。正しい場合は、コマンドのユーザー ID とパスワードを消してみてください。それ以外の場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00836 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ12141

メッセージ: コマンドは通信ディレクトリーのエラーによって失敗しました。

説明:

ローカルのインストール先はシステムか、または &V1. コマンドに指定されたロケーション名の通称項目を含んだユーザー通信ディレクトリーを定義しなければなりません。DB2 サーバー (VSE および VM 版) データベースは、通称項目を解決しようとしたとき、エラーを検出しました。しかし、同じロケーションにまだ接続しています。SQLCODE は &V9、理由コードは &V2. です。このエラーの詳細な説明については、「DB2 サーバー (VSE 版) メッセージおよびコード」または「DB2 サーバー (VM 版) メッセージおよびコード」を参照してください。

このエラーの 1 つの理由は通信ディレクトリーに定義されていないロケーション名を指定している可能性があります。

ユーザーの処置:

指定したロケーション名が不正確な場合、修正し、再度試みてください。

通信ディレクトリーの中で指定したロケーション名の通称項目が正しい TPN、LUNAME そして DBNAME であることを検査してください。

ユーザー通信ディレクトリーを持っていないか、ユーザー通信ディレクトリーが指定したロケーションにニックネームがない場合、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00841 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ12200

メッセージ: QMF の使用を続行するにはロケーションに接続する必要があります。

説明: 前のエラーのためにデータベース・サーバーが失われています。QMF を続けて使用したい場合は再結合を行うことができます。そうしない場合は QMF の終了を選択することができます。

ユーザーの処置: 別のロケーションに接続することを選んだ場合、有効なロケーションに接続するためには正しい値を入力してください。そうでないときは、QMF を終了する必要があります。

SQLCODE: -00900 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ12211, DSQ12212

メッセージ: データベースの必要な部分が使用中です。

説明: 別のユーザーが処理を完了するまでは、データベース中の必要なオブジェクトをアクセスすることはできません。

ユーザーの処置: QMF セッションを打ち切り、あとで再度サインオンしてください。

SQLCODE: -00911 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ12214

メッセージ: DSQ11314 を参照してください。

DSQ12215

メッセージ: システム作業負荷が原因で &V1 は処理されませんでした。

説明: QMFシステムの作業負荷のために、いまは &V1 を行うことができません。

ユーザーの処置: ほかの操作を続行し、あとでもう一度 &V1 を試みてください。現在のシステム作業負荷の詳細を知りたい場合には、QMF 管理者にお問い合わせください。

SQLCODE: -00915 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ12216

メッセージ: オペレーターの処置が原因で &V1 は実行されませんでした。

説明: システム・オペレーターが &V1. の処理を中断しました。コマンドは正しく入力されましたが、処理はされませんでした。

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。

SQLCODE: -00916 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ12230

メッセージ: DSQ11330 を参照してください。

DSQ12233

メッセージ: &V2 への通信経路が使用できません。

説明: 以下のいずれかの理由で、データベース &V2 をアクセスできません。

- データベースが停止されています。
- DB2 サーバー (VSE および VM 版) 仮想計算機に許された最大接続数 (MAXCONN) を超えています。

- "CONNECT TO &V2." を出そうとしましたが、通信プロトコルはリクエスターでDRDAに設定されており、サーバー &V2. はこのプロトコルをサポートしていません。
- "CONNECT TO &V2." を出そうとしましたが、通信プロトコルは SQLDS に設定されており、違うサーバー &V2. に接続することができません。
- DB2 サーバー (VSE および VM 版) システム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置:

"CONNECT TO &V2." コマンドを出した場合は、ロケーション名 &V2 が正しく、通信ディレクトリーに定義されていることを検証してください。正しくない場合は、修正し、再度試みてください。そうでない場合は、QMF 管理者 に連絡して、正しい通信プロトコルにしてもらってください。

DB2 サーバー (VSE および VM 版) 仮想計算機に許される接続数の制限は DB2 サーバー (VSE および VM 版) 仮想計算機ディレクトリーの MAXCONN の値で設定されます。この制限を超えている場合は、システム・アクティビティーが少なくなったあと、コマンドを試してください。この条件が頻繁に起きる場合は、MAXCONN の値を増やすよう QMF 管理者に連絡してください。

"CONNECT TO <ロケーション>" コマンドがサポートされていて、CONNECT 以外のコマンドを出した場合は、QMF は現在のロケーションに再接続します。この場合は、QMF の使用を継続してください。そうでない場合は、接続喪失プロンプト・パネルが別のロケーションに接続するよう指示します。

SQLCODE: -00933 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ12239

メッセージ: DSQ12230 を参照してください。

DSQ12240

メッセージ: データベース &V2 が作動可能でないか、または見つかりません。

説明: 下記のいずれかの理由により、このデータベースにはアクセスできません。

- データベースが開始されていない。
- データベース名 &V2 が DB2 サーバー (VSE および VM 版) アプリケーションの要求側に認識されていない。
- システム・エラーが発生しました。たとえば、AVS ゲートウェイとサーバーの LU 間に SNA セッションが開設されていないか、または中間通信サーバー (TSAF や AVS など) がアクティブではありません。
- アプリケーション・プログラムまたはアプリケーション・サーバーが異常終了した後に、VM システムにより COMDIR がアンロードされた。

ユーザーの処置:

"CONNECT TO &V2." コマンドを出した場合は、ロケーション名 &V2 が正しく、通信ディレクトリーに定義されていることを検証してください。正しくない場合は、修正し、再度試みてください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

"CONNECT TO <ロケーション>" コマンドがサポートされていて、CONNECT 以外のコマンドを出した場合は、QMF は現在のロケーションに再接続します。この場合は、QMF の使用を継続してください。そうでない場合は、接続喪失プロンプト・パネルが別のロケーションに接続するよう指示します。

SQLCODE: -00940 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ12242

メッセージ: DSQ12230 を参照してください。

DSQ12243

メッセージ: QMF 仮想計算機 &V3 はデータベース &V2. にアクセスできません。

説明: QMF 仮想計算機が正しく定義されていません。QMF 仮想計算機の A ディスクにあるファイル ARISRMBT MODULE に、QMF がアクセスしようとしているデータベース・プログラムが記述されていません。

ユーザーの処置: このメッセージが出たことを QMF 管理者に知らせ、その指示を待ってください。QMF 仮想計算機が正しく定義されるまでは、なにもすることはできません。

SQLCODE: -00943 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ12248

メッセージ: DB2 サーバー (VSE および VM 版) への接続は、オペレーターの処置のため切断されました。

説明: DB2 サーバー (VSE および VM 版) 仮想計算機のオペレーターが FORCE コマンドを入力したため、現行の作業論理単位の ROLLBACK を引き起こし、DB2 サーバー (VSE および VM 版) システムへの接続を切断しています。ユーザー ID、パスワード、データベース名はすべてデフォルト値にリセットされます。

ユーザーの処置: 継続できます。発行した明示的 CONNECT はすべて、失われました。元々の接続を再確立するには、同じユーザー ID を使用して、再度、明示的 CONNECT 要求を発行する必要があります。

SQLCODE: -00948 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Command

DSQ12301

メッセージ: DSQ10501 を参照してください。

DSQ12302

メッセージ: データが最大長を超えています。引用符を検査してください。

説明: 文字定数は引用符で囲まなければなりません。引用符で囲むことを省略すると、データは最大長 &LE を超えてしまいます。

ユーザーの処置: データを訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00102 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12303

メッセージ: &V1 は数字で始まっていますが、有効な数値ではありません。

説明: &V1 は数字で始まっています。しかし、有効な整数、10 進数、または浮動小数点数ではありません。指定する内容が、

1. 浮動小数点数の場合、「E」の次に正または負の符号を付け、その次に指数を指定してください。
2. 文字定数の場合、単一引用符で囲んでください。
3. 名前の場合、数字で始まってはなりません。別の名前を指定してください。

ユーザーの処置: &V1 を訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00103 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12304

メッセージ: &V1 またはその近くにあるものが無効です。

説明: 次のような原因が考えられます。

1. 1 つまたは複数の無効な文字がある。
2. 正常な照会のあとに余計な入力が続いている。

3. 名前が下線で始まっている。
4. 長さゼロの (二重引用符で囲まれた) 名前。
5. 数値が必要であるのに、数値以外のものがある。
6. 最後の語のあとに、なにか抜けたものがある。
7. UPDATE の使用中で、SET のあとに副照会がある。

ユーザーの処置: 照会の内容を調べ、必要な訂正を加えた上で再実行してください。

SQLCODE: -00104 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12305

メッセージ: &V2 を &V1 の次に続けることはできません。

説明: 次のような原因が考えられます。

1. &V2 の指定の順序に誤りがある。(たとえば、WHERE は ORDER BY の次には指定できません)
2. &V1 または &V2 が予約語であるのに誤って使用した。たとえば、列名に FROM を用いることはできません。SQL の予約語のリストは「QMF 解説書」を参照してください。
3. &V2 が文字定数のつもりで指定されている。文字定数にするためには、引用符で囲まなければなりません。
4. リストの中で、次の例のようにコンマが抜けている。SELECT COLUMN A COLUMN B

ユーザーの処置: 照会を変更して、実行し直してください。

SQLCODE: -00105 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12306

メッセージ: 照会の終わりに、何らかの欠落があります。

説明: 欠落している項目は、単一の引用符からいくつかの行に至るまで、あらゆるものが考えられます。次の例に示すような終わり方をする照会を実行しようとする、このメッセージが出されません。

```
incomplete) (未完了)
missing) (欠落)
everything after
is missing)
(これ以降のすべてが欠落)
```

ユーザーの処置: 照会を完全にして、再実行してください。

SQLCODE: -00106 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12307, DSQ12308

メッセージ: &V1 が長すぎます。使用できる最大長は &V2 文字です。

説明: 照会に最大長を超える名前が含まれています。この名前の長さを決める場合は、EBCDIC 文字は 1 バイトで、DBCS 文字は 2 バイトです。

表名または視点名の修飾子は &LA バイトの長さを超えることができません。

ユーザーの処置: &V1 を短くして、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00107 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12310

メッセージ: &V1 は関数ではありません。

説明: 関数には、AVG、MAX、MIN、SUM、COUNT、DATE、TIME、TIMESTAMP、YEAR、MONTH、DAY、HOUR、MINUTE、SECOND、MICROSECOND、CHAR、および DAYS があります。&V1 がこれらの内のどれかである場合は、その関数が指定されているステートメントの句読点が正しいことを確認してください。次に例を示します。

トメントの句読点が正しいことを確認してください。次に例を示します。

```
SELECT MIN(PRICE), MAX(PRICE)
is correct.
```

```
SELECT DATE('1996-10-01') - 10102433.
is correct.
```

ユーザーの処置: 関数の名前またはステートメントの句読点を変更し、照会を再び実行してください。

SQLCODE: -00110 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12311

メッセージ: 列関数が、列名を使用していません。

説明: 列関数 AVG、MAX、MIN、および SUM は、アクセスされた表の列名を含む式上で使用しなければなりません。

正:
SELECT SUM (SALARY * 1.15) FROM Q.STAFF

誤:
SELECT SUM (18000 * 1.15) FROM Q.STAFF

ユーザーの処置: すべての列関数が処理する列を持っていることを確認して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00111 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12312

メッセージ: 列関数が使用する式が無効です。

説明: 列関数は、AVG、COUNT、MAX、MIN、および SUM です。これらの列関数の式に別の列関数を含んではなりません。

正: AVG(UNITS * PRICE)
誤: AVG(UNITS * MAX(PRICE))

ユーザーの処置: 列関数が正しい式になるように訂正して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00112 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: SQL Query

DSQ12314

メッセージ: 指定した 3 部分名が無効です。

説明: &V1. のロケーション修飾子が接続ロケーション &V2 の名前と一致しません。DB2 サーバー (VSE および VM 版) は、現行ロケーションの名前と一致するロケーション修飾子をもつ 3 部分名だけをサポートします。

ユーザーの処置:

QMF CONNECT コマンドを出して、指定ロケーションに接続してから、照会アクティビティを続行してください。

SQLCODE: -00114 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: SQL Query

DSQ12315

メッセージ: &V1 の使用法に誤りがあります。

説明: '>' または '=' などの単純比較演算子の後には、項目のリストを続けることはできません。ANY および ALL 比較演算子の後には、式や項目のリストではなく、副選択を続ける必要があります。例:

正:
WHERE SALARY > ALL (SELECT COMM
FROM Q.STAFF)

誤:
WHERE SALARY > ALL (10000)

ユーザーの処置: &V1 の使用法を変更し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00115 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: SQL Query

DSQ12316

メッセージ: データベースのラベルが長すぎます。

説明: 列または表のラベルの長さが、上限である 30 バイトを超えています。EBCDIC の 1 文字は 1 バイト、DBCS の 1 文字は 2 バイトとして数えます。

ユーザーの処置: ラベルを短くして照会を実行し直してください。

SQLCODE: -00116 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: SQL Query

DSQ12317

メッセージ: 値の数と列の数が一致しません。

説明: たとえば INSERT INTO Q.STAFF などのステートメントでは、NOT NULL と定義された各列に値を指定しなければなりません。

表名のあとに列のリストを指定しない場合には、VALUES のあとに、表内の各列に関する値を指定します。

表名のあとに列のリストを指定する場合には、VALUES のあとにそのリストの中の各列に関する値を指定します。

例:
INSERT INTO Q.STAFF (ID, NAME, DEPT)
VALUES (400, 'HARRISON', 20)

ユーザーの処置: INSERT INTO によって処理したい個々の列に値を指定して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00117 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: SQL Query

DSQ12318

メッセージ: 副照会の中で使用される表を変更することはできません。

説明: ここでいう変更には、INSERT、

UPDATE、および DELETE があります

誤:

```
INSERT INTO Q.STAFF
SELECT * FROM Q.STAFF WHERE YEARS > 7
```

上記の例では、受け取るデータの出所である表を変更しようとしています。

ユーザーの処置: 副照会に使用されている表が変更されることのないような形に照会を訂正するか、またはその表を変更するための別個の照会を作成してください。

SQLCODE: -00118 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12319

メッセージ: グループ化に矛盾があります。

説明: 次のいずれかの状況が起きています。

1. SELECT に列名と列関数があるが、GROUP BY がない。

正:

```
SELECT DEPT, AVG(SALARY) FROM Q.STAFF
GROUP BY DEPT
```

2. SELECT のあとにリストされた列が、GROUP BY のあとにない。

正:

```
SELECT DEPT, JOB, AVG(SALARY)
FROM Q.STAFF
GROUP BY DEPT, JOB
(誤: GROUP BY DEPT)
```

(SELECT のあとに * を用いた場合には、GROUP BY のあとにすべての列名をリストしなければなりません。)

3. HAVING キーワードのあとに、グループには適用されない条件がある。

正: HAVING MIN(YEARS) > 6
(誤: HAVING YEARS > 6)

4. 式でのグループ値と単一値が混用されている。

正:

```
SELECT DEPT, AVG(SALARY) FROM Q.STAFF
GROUP BY DEPT
```

5. GROUP BY のあとに、リストした列は定数、式、または関数から引き出した視点列である。
6. HAVING は GROUP BY を付けずに指定する。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00119 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12320

メッセージ: 組み込み関数またはグループ化列の使用法に誤りがあります。

説明: 副照会の一部として使う場合を除き、WHERE または SET のあとに組み込み関数 (AVG、COUNT、MAX、MIN または SUM) を用いることはできません。

正:

```
WHERE YEARS > (SELECT AVG(YEARS)
FROM Q.STAFF)
```

誤:

```
WHERE YEARS > AVG(YEARS)
```

照会が視点を参照している場合には、その視点の定義の中で GROUP BY のあとに指定されている列名を照会の条件の中で使用することはできません。たとえば、VIEW の定義中で GROUP BY のあとに DEPT が使用されていれば、次の例は誤りです。

誤:

```
SELECT DEPT, SUMSALARY FROM VIEW
WHERE DEPT = 20
```

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。照会で視点を引用している場合は、視点のもととなっている表から選択するように照会を書いてください。

SQLCODE: -00120 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12321

メッセージ: 同一の照会で同じ列を二度変更することはできません。

説明: 「変更」には INSERT および UPDATE が含まれます。無効な指定の例を次に示します。YEARS は一度しか変更することはできません。

誤:
INSERT INTO Q.STAFF (ID, YEARS, JOB,
YEARS)
VALUES (400, 7, 'clerk', 8)

ユーザーの処置: 一度の変更だけですむように SQL ステートメントを訂正し、再度実行してください。

SQLCODE: -00121 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12322

メッセージ: グループ化に矛盾があります。

説明: 次のいずれかの状況が起きています。

1. SELECT に列名と列関数があるが、GROUP BY がない。

正:
SELECT DEPT, AVG(SALARY) FROM Q.STAFF
GROUP BY DEPT

2. SELECT のあとにリストされた列が、GROUP BY のあとにない。

正:
SELECT DEPT, JOB, AVG(SALARY)
FROM Q.STAFF
GROUP BY DEPT, JOB
(誤: GROUP BY DEPT)

(SELECT のあとに * を用いた場合には、GROUP BY のあとにすべての列名をリストしなければなりません。)

3. HAVING キーワードのあとに、グループには適用されない条件がある。

正: HAVING MIN(YEARS) > 6
(誤: HAVING YEARS > 6)

4. 式でのグループ値と単一値が混用されている。

正:
SELECT DEPT, AVG(SALARY) FROM Q.STAFF
GROUP BY DEPT

5. GROUP BY のあとに、リストした列は定数、式、または関数から引き出した視点列である。
6. HAVING は GROUP BY を付けないで指定する。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00122 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12324

メッセージ: ORDER BY のあとに指定できるのは最大 16 列までです。

説明: ORDER BY リストに、名前または整数によって参照された列が、17 以上含まれていません。指定できる列の最大数は 16 です。

ユーザーの処置: ORDER BY 文節中で参照される列の数を 16 以下に減らし、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00124 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12325

メッセージ: 列 &V1. は ORDER BY に指定できません。

説明: SELECT のあとのリストに &V1 という列はありません。(列番号は、SELECT のあとのリストの中の列の位置を示します。たとえば、リストされている列が 8 つもないのに、列 8 を指定することはできません。)

ユーザーの処置: 照会を訂正して、再実行してください。

SQLCODE: -00125 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12327

メッセージ: DISTINCT は、1 つの照会中では一度しか使用できません。

説明: DISTINCT の使用例:

正:
SELECT AVG(DISTINCT SALARY), DEPT
FROM STAFF
GROUP BY DEPT
HAVING AVG(SALARY) > 16000

誤:
SELECT AVG(DISTINCT SALARY), DEPT
FROM STAFF
GROUP BY DEPT
HAVING AVG(DISTINCT SALARY) > 16000

ユーザーの処置: 照会の中の DISTINCT を 1 つだけ残して他をすべて除去し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00127 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12328

メッセージ: NULL は、IS または IS NOT とともに使用してください。

説明: WHERE 文節内の IN に続くリストの中の項目として NULL を用いることはできません。次に例を示します。

誤: WHERE AMT IN (20,50,NULL)
正: WHERE AMT IN (20,50) OR AMT IS NULL

ユーザーの処置: NULL の構文を訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00128 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12329

メッセージ: 照会で使用している表または列の数が多すぎます。

説明: 照会で以下の項目の 1 つが、リストされた制限を超えています。

表名	15
選択された列	255

ユーザーの処置: 所定の限度内になるように照会を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00129 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12330

メッセージ: SELECT を 2 回使用する場合には、括弧が必要です。

説明: 照会の中で、副照会と呼ばれる別の照会によって計算される 1 つまたは 1 組の値が参照されています。照会全体の中の副照会部分は括弧で囲まなければなりません。

ユーザーの処置: (SELECT.....) のように、副照会の前後に括弧を付けた上で、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00130 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12331

メッセージ: LIKE で使用されている拡張文字が無効です。

説明: 拡張文字は、ESCAPE 文節で 1 文字を引用符でかこまなければなりません。拡張文字はその後に % か _ がある場合だけ LIKE の次に指定できます。LIKE または NOT LIKE の左側の列名が混合属性であれば ESCAPE 文節を指定できません。たとえば次の WHERE 文節を参照してください。

WHERE COL1 LIKE 'AA+%BB%' ESCAPE '+'

+ は ESCAPE 文字で COL1 は文字のタイプです。この WHERE 文節で 'AA%BB' で始まる COL1 の値を求められます。この例では LIKE の後の文字ストリングでは '++', '+%', または '+_' 以外の + の使用はエラーとなります。(COL1 が混合属性である場合は ESCAPE 文字を指定できないことに注意してください。)

ユーザーの処置: 文字ストリングを直すか、または別の拡張文字を選択して文字ストリングを訂正してください。LIKE か NOT LIKE の左にある列名が混合属性でないかを確認してください。

SQLCODE: -00131 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12332

メッセージ: LIKE や NOT LIKE が正しく使用されていません。

説明: LIKE や NOT LIKE で書かれた条件が無効です。LIKE や NOT LIKE の後には文字ストリングを続けてください。'%' と '_' のシンボルを使用することもできます。

NAME LIKE 'J0%' と書いてください。
NAME は列名です。

UPDATE または DELETE ステートメントの WHERE 文節に LIKE 条件が現れる場合は、使用された列を、視点定義の式、定数、またはスカラー関数から引き出さないようにしなければなりません。

ユーザーの処置: LIKE や NOT LIKE を使用している条件を変更し、もう一度照会を実行してください。

SQLCODE: -00132 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12333

メッセージ: HAVING または WHERE 文節のあの式の用法に誤りがあります。

説明: その列が HAVING か WHERE 文節の相関参照列の場合、組み込み関数の引き数として式ではなく列名を使用しなければなりません。次に例を示します。

```
SELECT DEPT,SUM(YEARS) FROM Q.STAFF VARX
GROUP BY DEPT HAVING SUM(YEARS) >
ANY (SELECT AVG(YEARS) FROM Q.STAFF
      GROUP BY DEPT HAVING MAX(YEARS) >
      MIN(1*VARX.YEARS))
```

は正しくありません。-- (1*VARX.YEARS) を組み込み関数 MIN の引き数にはできません。これは相関参照変数 VARX.YEARS を含む式だからです。

ユーザーの処置: 照会を訂正した上で、再実行してください。

SQLCODE: -00133 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12334, DSQ12335

メッセージ: LONG VARCHAR 列が誤って使われています。

説明: LONG VARCHAR または LONG VARGRAPHIC のデータ・タイプの列を使用する場合に、以下の制限が適用されます。

- その列を、探索条件の中で、算術演算または組み込み関数を含んで使用することはできません。
- NULL の値だけが列に挿入できるか、または列だけが NULL に更新できます。
- SQL 照会では、このような列を以下のものとともに使用することはできません。
 - GROUP BY、ORDER BY、UNION、または索引
 - 副照会で、SELECT DISTINCT、UPDATE の SET 文節、または SUBSTR か LENGTH 以外の関数
 - LIKE 以外の述部の単独で
- QBE の場合には、AO.、DO.、または G. とともに使用することはできません。

- 長ストリング列からなっている基本表から派生する視点では使用できません。

ユーザーの処置: LONG VARCHAR または LONG VARGRAPHIC のデータ・タイプの列に対して前に示された条件と比較するか、列を取り除いてから、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00134 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12337

メッセージ: &V1 の結果の長さが、&V2. を超えています。

説明: &V1 の操作の結果が長すぎます。 &V2. を超えることはできません。

ユーザーの処置: 結果を短くするために照会を変更し、照会をふたたび実行してください。

SQLCODE: -00137 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12340

メッセージ: この視点には WITH CHECK は使用できません。

説明: 次のような場合には WITH CHECK オプションは使用できません。

1. 視点は「読み取り専用」と定義されました。(たとえば、視点の定義に DISTINCT GROUP BY または JOIN が含まれている場合)。
2. 視点が副照会を含む場合。

ユーザーの処置: 別の操作を続けてください。

SQLCODE: -00140 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12341

メッセージ: 挿入または更新の値が視点定義の条件を満たしていません。

説明: データを変更しようとしている視点の定義の中で、WITH CHECK オプションが使用されています。このような視点の行の挿入または更新を行おうとすると、その結果が視点の定義に適合するかどうかの検査が必ず行われます。照会の中に、その定義の中の条件を満たさない値があります。

ユーザーの処置: 視点の定義を調べて、変更が拒否された理由を判断し、照会中の該当する値を変更してください。

SQLCODE: -00141 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12349

メッセージ: 指定されたオブジェクトを変更することができません。

説明: 指定されたオブジェクトは、複数の表に基づく視点です。この場合、視点の INSERT、DELETE、UPDATEはできません。

ユーザーの処置: 指定した表または視点の名前が正しいかどうかを確認してください。

SQLCODE: -00149 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12350, DSQ12351

メッセージ: この視点の中のデータを変更することはできません。

説明: INSERT、UPDATE、または DELETE を次のような視点に使用できません。

1. 複数の表をもととしているもの。
2. 式または組み込み関数によって定義された列を含む視点。例: UNITS*PRICE, AVG(SALARY)
3. DISTINCT または GROUP BY を使用する SELECT ステートメントによって定義されたもの。

4. 参照表にすべての非 NULL 可能列を含まないもの。

ユーザーの処置: 視点の作成に使われた各表を変更するために、それぞれ異なる照会を書いてください。

SQLCODE: -00150 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: SQL Query

DSQ12352

メッセージ: 組み込み関数によって定義された列を条件に使用しています。

説明: 照会の中で使用されている表の 1 つが視点です。WHERE のあとで、ある条件がこの視点からの列を使用していますが、その列は、組み込み関数 (AVG、COUNT、MAX、MIN、SUM) のいずれかによって定義されたものです。このような列は条件の中では使用できません。

ユーザーの処置: その視点の定義を調べて、WHERE のあとでどのような列を使用することができないかを確認してください。照会を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00152 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: SQL Query

DSQ12353

メッセージ: 式または関数によって定義された視点の列には名前が必要です。

説明: CREATE VIEW ステートメントに、式 (UNITS * PRICE など)、組み込み関数 (AVG(YEARS) など)、または定数 ('JUNE 1' など) に基づいて定義される列が含まれています。このような列には名前を与えなければなりません。したがって、各列の名前を示す名前リストが必要です。

ユーザーの処置: CREATE VIEW 照会の中で、関数または式に基づいて定義されるすべての列に、新しい名前を与えてください。

SQLCODE: -00153 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: SQL Query

DSQ12354

メッセージ: 視点の定義または使用法が無効です。

説明: この操作は、次の規則のいずれかに違反しています。

- UNIONで視点を定義することはできません。
- 次のものを使用する視点の挿入、更新、削除はできません。
 - 複数の表からのデータ
 - DISTINCT または GROUP BY によって選択されたデータ
- 式 (SALARY/12 など) または組み込み関数 (AVG(SALARY) など) で定義された列を、挿入または更新することはできません (ただし削除は可能)。
- 視点の 2 つの列が表の同じ列に基づいている場合、またはその視点が、NOT NULL として定義されている表の列を使用していない場合には、挿入はできません。

ユーザーの処置: コマンドを視点の規則に照らし、再度入力してください。

SQLCODE: -00154 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: SQL Query

DSQ12355

メッセージ: FROM のあとに、GROUP BY または HAVING で定義された視点が指定されていません。

説明: 照会の中の FROM のあとに指定されている表の 1 つが、GROUP BY または HAVING を使用する照会によって定義されている視点です。このような視点を、FROM のあとで他の表とともに指定することはできません。

ユーザーの処置: FROM のあとで、ほかの表と一緒にその視点を指定することのないように、照

会を書きなおしてください。その後照会を実行してください。

SQLCODE: -00155 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12356

メッセージ: 視点の定義または使用法が無効です。

説明: DISTINCT か GROUP-BY を使用して視点が作成されました。視点を使用するには以下のルールに従わなければなりません。

- 複数の DISTINCT の列で視点が作成されている場合は、選択リストにすべての列を含まなければならない。AVG などの列関数を視点の列には使用できません。

たとえば視点が以下のように定義されていたとします。

```
CREATE VIEW V1 (COLA,COLB)
AS SELECT DISTINCT (COL1,COL2)
FROM TABLEA
```

V1 からは COLA、COLB の両方を選択しなければなりません。さらに、AVG(COLA)、またはそのほかの列関数は使用できません。

- GROUP-BY を指定して視点が作成されている場合は、視点の列には列関数を使用できません。
- 1 つ以上の DISTINCT 列を指定して、視点が作成されている場合は列関数には計算式を使用できず、作成した視点を結合できません。
- 1 つの DISTINCT 列を指定して視点が作成されている場合は、視点から選択処理をするさいには、選択リストには 1 つの列関数しか使えません。

ユーザーの処置: 照会を変更して、実行し直してください。

SQLCODE: -00156 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12357

メッセージ: 視点は、FOREIGN KEY 文節では使用できません。

説明: &V1.&V2. は、CREATE または ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 文節で指定された視点です。FOREIGN KEY 文節は、視点ではなく、表を指定しなければなりません。

ユーザーの処置: 正しい名前が使用されていることを確認してください。FOREIGN KEY 文節では視点を参照しないでください。

SQLCODE: -00157 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12358

メッセージ: CREATE VIEW と SELECT の両リストには、同数の列が必要です。

説明: CREATE VIEW リストの各列名に対応する列名が SELECT リストにも入っていない必要ありません。SELECT リストの中の名前リストをアスタリスク (*) で置き換えた場合には、元の表と同じ列名が視点に入ります。

ユーザーの処置: CREATE VIEW リストに合わせて SELECT リストの列名を変更し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00158 **Database:** DB2 Server for SE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12363

メッセージ: DSQ10712 を参照してください。

ユーザーの処置: 照会を訂正してください。表、列、または視点の名前を使うかその他の文字定数は、一重引用符で囲んでください。

DSQ12364

メッセージ: DBCS 定数が無効です。

説明: 照会の中に、“DBCS 定数” すなわち G’、N’、または X’ で始まる漢字リテラルが含まれています。

文字定数を使いたい場合には、定数全体を単一引用符で囲んでください。

DBCS 定数を使いたい場合には、次の形式で使うようにしてください。

G’<aabbcc>’ または N’<aabbcc>’

< および > は、シフトアウト (SO) およびシフトイン (SI) を表しています。SO と SI のあいだの文字数は偶数でなければなりません。

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00164 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: SQL Query

DSQ12365

メッセージ: 二重引用符で囲まれた名前の始まりか終わりをブランクにできません。

説明: 二重引用符で囲まれていて、始まりか終わりがブランクの名前を含む照会を実行しようとしてきました。これは許可されません。たとえば、次に示す照会は、“1978 PARTS” がブランクで始まっているので、正しくありません。

誤:
CREATE VIEW " 1978 PARTS"
AS SELECT * FROM INVNTRY
WHERE DATE = '1978'

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00165 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: SQL Query

DSQ12366

メッセージ: DBCS 定数が無効です。

説明: 照会の中に、“DBCS 定数” すなわち G’、N’、または X’ で始まる漢字リテラルが含まれています。

文字定数を使いたい場合には、定数全体を単一引用符で囲んでください。

DBCS 定数を使いたい場合には、次の形式で使うようにしてください。

G’<aabbcc>’ または N’<aabbcc>’

< および > は、シフトアウト (SO) およびシフトイン (SI) を表しています。SO と SI のあいだの文字数は偶数でなければなりません。

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00166 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: SQL Query

DSQ12367

メッセージ: 16 進数リテラルが無効です。

説明: 照会は、定数が X’ で始まる、「16 進数リテラル」を含んでいます。

文字定数を使いたい場合には、定数全体を単一引用符で囲んでください。

16 進数リテラルの使用を意図しているのであれば、偶数個の文字で表した有効な 16 進数コードを使用してください。

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00167 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: SQL Query

DSQ12369, DSQ12370

メッセージ: DBCS 定数が無効です。

説明: 照会の中に、“DBCS 定数” すなわち G’、N’、または X’ で始まる漢字リテラルが含まれています。

文字定数を使いたい場合には、定数全体を単一引用符で囲んでください。

DBCS 定数を使いたい場合には、次の形式で使うようにしてください。

G'<aabbcc>' または N'<aabbcc>'

< および > は、シフトアウト (SO) およびシフトイン (SI) を表しています。SO と SI のあいだの文字数は偶数でなければなりません。

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00169 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: SQL Query

DSQ12371

メッセージ: スカラー関数 '&V2' の引き数 '&V1' は無効です。

説明: スカラー関数 '&V2' に指定されたデータ・タイプ、データの長さ、またはデータの値が間違っています。詳しくは、SQL 照会の資料を参照してください。

ユーザーの処置: 関数 '&V2' のデータ・タイプ、データの長さ、またはデータの値を変更して再度、照会し直してください。

SQLCODE: -00171 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: SQL Query

DSQ12372

メッセージ: スカラー関数 '&V1' に指定した引き数の数が無効です。

説明: SQL ステートメントにあるスカラー関数

&V1 の引き数が多すぎるか少なすぎます。提供されている関数は、以下のとおりです。

DATE, TIME, TIMESTAMP, YEAR, MONTH, DAY, HOUR, MINUTE, SECOND, MICROSECOND, CHAR, DAYS, AVG, MAX, MIN, COUNT.

ユーザーの処置: スカラー関数 '&V1' の使用法を確かめてください。スカラー関数を変更して再度、照会を実行してください。

SQLCODE: -00172 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: SQL Query

DSQ12380

メッセージ: 日付時刻の値の構文が無効です。

説明: 有効な日付を表すストリングは、次のいずれかの形式です。

'mm/dd/yyyy' 'dd.mm.yyyy' 'yyyy-mm-dd'
または LOCAL 形式

有効な時刻を表すストリングは、次のいずれかの形式です。

'mm/dd/yyyy' 'dd.mm.yyyy' 'yyyy-mm-dd'
または LOCAL 形式

有効なタイム・スタンプを表現するストリングは、次の形式です。

'yyyy-mm-dd-hh.mm.ss.nnnnnn'

ユーザーの処置: 日時値の構文を変更して、再度その照会を実行してください。

SQLCODE: -00180 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: SQL Query

DSQ12381

メッセージ: 日時の値が無効です。

説明: 日時値を表すストリングの値が、範囲外にあります。日時値の正しい範囲は次のとおりです。

年 - 1 から 9999
月 - 1 から 12
日 - 1 から 31
時 - 0 から 24
分 - 0 から 59
秒 - 0 から 59

ユーザーの処置: 日時の値を訂正して、再度照会し直してください。

SQLCODE: -00181 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: SQL Query

DSQ12382

メッセージ: 日付時刻の値を使っている算術式が無効です。

説明: 指定された算術式で、日付時刻か、単一の期間の使用方法が、間違っています。正しい使用例を以下に示します。

```
SELECT STARTD + 10102433. FROM Q.PROJECT  
SELECT STARTD + 1 YEAR FROM Q.PROJECT
```

ユーザーの処置: 式を訂正して、再度その照会を実行してください。

SQLCODE: -00182 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: SQL Query

DSQ12383

メッセージ: 日付、またはタイム・スタンプに関する算術演算で、無効な結果が出ました。

説明: 日付、またはタイム・スタンプの値を求める算術演算で、有効範囲外の値が求められました。有効な日付は、0001-01-01 から 9999-12-31 までです。

ユーザーの処置: 日時の値を訂正して、再度照会し直してください。

SQLCODE: -00183 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: SQL Query

DSQ12384

メッセージ: DSQ10713 を参照してください。

DSQ12385

メッセージ: 日付または時刻の値をフォーマット設定できません。

説明: 次のいずれかの状況が起きています。

1. LOCAL オプションを使って日付または時刻の値を書式化しようとしたが、使用可能なインストール先定義の日付または時刻ルーチンが存在しない。
2. 日付または時刻の値をストリングで表現して指定したが、ストリングがデータベースの認識できる形式ではない。または、そのストリングを処理できるインストール先定義の日付または時刻ルーチンが存在しない。

ユーザーの処置: 日付または時刻の値のストリング表現を認識可能な形式に変更するか、QMF 管理者に連絡してデータベースでインストール先定義の日付・時刻ルーチンを利用可能にもらってください。

SQLCODE: -00185 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: SQL Query

DSQ12387

メッセージ: 単純期間が、日付 / 時刻算術式にありません。

説明: MONTH などの単純期間は、正しい日付 / 時刻の算術文脈で使用しなければなりません。たとえば、次のステートメントの WHERE 文節は次のようになります。

```
SELECT PROJNO FROM Q.PROJECT could be:  
WHERE STARTD - 1 MONTH > '1987-05-05'  
WHERE STARTD > DATE('1987-05-05') +  
1 MONTH
```

次のように式の中で、単純期間だけを使用しないでください。

WHERE STARTD > 1 MONTH.

また、単純期間を日付として識別できない式で使用しないでください。

```
SELECT PROJNO FROM Q.PROJECT could be:
  WHERE STARTD - 1 MONTH > '1987-05-05'
  WHERE STARTD > DATE('1987-05-05') +
    1 MONTH
```

ユーザーの処置: 単純期間を正しい日付 / 時刻算術式で使用し、照会を再度、実行してください。

SQLCODE: -00187 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12389

メッセージ: ステートメントが無効な CCSID &V1 を参照しました。

説明: CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントは、無効なコード化文字セット ID (CCSID) &V1 を参照しました。次の理由の 1 つの場合、この CCSID は DB2 サーバー (VSE および VM 版) データベースによって認識されていません。

- CCSID &V1 は、1 から 65534 の認められる範囲を超えている。
- CCSID &V1 は、CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントに指定したサブタイプと互換性がない。(サブタイプは FOR SBCS DATA、FOR MIXED DATA、または FOR BIT DATA になる。)
- CCSID &V1 は、DB2 サーバー (VSE および VM 版) データベースによってサポートされていない。

ユーザーの処置: CCSID タグまたは CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの文字列のサブタイプを訂正してください。

SQLCODE: -00189 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12391

メッセージ: 混合データが、不適切な DBCS データの値で構成されています。

説明: 混合データで X'OE' (シフトアウト) または X'OF' (シフトイン) が抜けているか、またはそこに DBCS 文字の 1 バイト分が含まれていません。

理由コードが &V1. の、このエラーの詳細説明は、「DB2 サーバー (VSE 版) メッセージおよびコード」または「DB2 サーバー (VM 版) メッセージおよびコード」を参照してください。

ユーザーの処置: 参照したデータの値が正しいことを確認してください。正しくない場合は、必要な変更を行ってから照会を再実行してください。

SQLCODE: -00191 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12392

メッセージ: スカラー関数 &V1 の最初の引き数はサブタイプを MIXED にできません。

説明: スカラー関数 &V1 の最初の引き数として混合サブタイプの式を使用することはできません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正し、再試行してください。

SQLCODE: -00192 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12401

メッセージ: FROM のあとに修飾子 &V1 が指定されていません。

説明: 照会の SELECT、WHERE、GROUP BY、または ORDER BY 文節中で使われた修飾子 &V1 が、照会の FROM 文節に見つかりません。FROM が、副照会などで使われる場合のように二度以上使用されている場合、ある場所で使われた

修飾子が別の個所でも必要なことがあります。

修飾子として使われる表の名前は、FROM 文節内と同一の形式で指定しなくてはなりません。

修飾子として使われる相関変数は、FROM 文節で定義しなくてはなりません。

ユーザーの処置: FROM のあとに &V1 を指定してください。

SQLCODE: -00201 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12402

メッセージ: 照会で指定されている表のいずれにも、列 &V1 がありません。

説明: &V1 は、照会で指定されているどの表または視点の列でもありません。これが文字定数のつもりで入力したものであれば前後に一重引用符を付けてください。

ユーザーの処置: 列の名前を変えるか、または、列 &V1 の入っている表を照会に追加した上で、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00202 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12403

メッセージ: 列 &V1 が複数の表にあります。

説明: FROM 文節の複数の表または視点にその名前の列がある場合、またはネストされた表の式の複数の列がその名前である場合、非修飾列名は未確定です。列名またはネストされた表の式の相関名が固有である場合のみ、修飾列名は未確定です。

ユーザーの処置: この問題が、ネストされた表の式の非固有列名により起こる場合は、ネストされた表の式を変更して、列が固有になるようにしてください。問題が非修飾名の使用によって起こる場合は、表、視点または相関名で修飾してください。

SQLCODE: -00203 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12404

メッセージ: &V1..&V2 は、システム・カタログにありません。

説明: ステートメントに指定されているオブジェクトが、システム・カタログの中に見当たりません。名前のスペルが違っているか、または誤った修飾子 (&V1) を指定したと考えられます。

ユーザーの処置: 名前を訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00204 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12405

メッセージ: 列名 &V1 は表 &V2. の中にありません。

説明: 列名 &V1. が指定されています。これは、表 &V2. の中に見つかりませんでした。名前のスペルが違っているか、または表名を修飾する必要があると考えられます。

ユーザーの処置: 列名と所有者が正しいかどうか、およびスペルが正しいかどうかを検査してください。

SQLCODE: -00205 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12406

メッセージ: &V3..&V4 に &V1 &V2 が見つかりません。

説明: この照会では &V1 &V2. を参照しています。この &V1 は、表 &V3..&V4. には存在していません。

ユーザーの処置: スペルの誤りがないかどうかを検査してください。

SQLCODE: -00206 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12407

メッセージ: ORDER BY のあとには、列名ではなく列番号を使用してください。

説明: UNION とともに ORDER BY を使用するさいには、ORDER BY のあとには列名を使用しないで、SELECT のあとのリスト上での列の位置を示す番号を使用してください。

例:
SELECT NAME, ID FROM Q.STAFF
UNION
SELECT NAME, TEMPID FROM Q.APPLICANT
ORDER BY 1

ユーザーの処置: 列名を列番号に変更して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00207 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12408

メッセージ: SELECT リストに &V1 がなければなりません。

説明: ORDER BY のあとに &V1 が続いています。 &V1 が SELECT リストに含まれていないか、または、ORDER BY のあとのそのスペルに誤りがあります。

ユーザーの処置: &V1 を SELECT リストに付け加えてください。そして、それが ORDER BY のあとの列名に一致することを確認してください。

SQLCODE: -00208 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12409

メッセージ: ORDER BY のあとに列 &V1 が指定されていますが、この列は、SELECT のあとに 2 回出てきています。

説明: SELECT リストに複数の表の列名 &V1 が含まれています。この同じ名前の列のどちらを、ORDER BY したいのでしょうか。

ユーザーの処置: ORDER BY のあとに、正しい列を番号で指定するか、または、列名に修飾子を付けてください。

SQLCODE: -00209 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12411

メッセージ: FROM のあとの表名 &V1 は表ラベルを必要とします。

説明: FROM のあとに 2 回以上出てくる表名が、修飾子として SQL コマンドに含まれています。その表名は固有のものではないので、FROM のあとの各表名は、列名を修飾するための固有の表ラベルを必要とします。

ユーザーの処置: FROM のあとの表名にそれぞれ固有の表ラベルを付加して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00211 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12512

メッセージ: DSQ10712 を参照してください。

DSQ12513

メッセージ: DSQ10713 を参照してください。

DSQ12530

メッセージ: 1 つまたは複数の文字が現行サーバーによって使用可能なコードに変換されませんでした。

説明: SQL ステートメントはアプリケーション・サーバーに適合するコードに変換されるべき文字ストリングを参照しましたが、データ表示の誤った組み合わせが原因で参照できません。文字

ストリングが対応する列のデータ・タイプと互換性がありません。したがって、指定された文字ストリングを使用できません。

ユーザーの処置: 文字列および参照した値が正しいかどうか検査してください。誤りがあれば、必要な変更を行い、再度照会を試みてください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00330 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12532

メッセージ: 互換性のない CCSID によって文字ストリングは変換されませんでした。

説明: SQL ステートメントは現行文字セットと違ったコード化文字セットの中にあるコード化文字セット ID(CCSID) &V1 を持つ文字ストリングを参照しました。現行サーバーでこの文字ストリングを使用するには、ソース CCSID &V1 からターゲット CCSID &V2 に変換されなければなりません。しかし、この CCSID の対の変換ルールは SYSSTRINGS システム表に定義されていません。したがって、データベース・システムは文字ストリングをアプリケーション・サーバーに適合するコードに変換できません。

理由コードが &V3 の、このエラーの詳細説明は、「DB2 サーバー (VSE 版) メッセージおよびコード」または「DB2 サーバー (VM 版) メッセージおよびコード」を参照してください。この変換エラーが起こりうる原因は、次のとおりです。

- SQL ステートメントは MIXED サブタイプのように定義されましたが、MIXED CCSID はアプリケーションの要求側によって指定されていない。
- 図形または混合データは、SQL ステートメントで使用され、現行サーバーで DBCS オプションまたは要求側が NO とセットされている。

ユーザーの処置: 参照した文字列と値が正しいか

どうか検査してください。誤りがあれば必要な変更を行い、照会を再実行してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00332 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12551

メッセージ: 位置 &V1. のデータ・タイプが無効です。

説明: アプリケーション・リクエスターによりサポートされない SQL データ・タイプがあります。&V1 は、無効なデータ・タイプを持つ SQLDA の最初の元素です。このエラーの一般的な原因として、アプリケーション・リクエスターがアプリケーション・サーバーにあるラージ・オブジェクト・データを記述しようとしたことが考えられます。このエラーの原因となる SQLTYPE には、LOB、BLOB、CLOB および DBLOB があります。

ユーザーの処置: 無効なデータ・タイプを除去し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00351 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12601

メッセージ: 式または条件の中で、異なるタイプのデータを用いることはできません。

説明: 1 つの式または条件の中で、異なるタイプのデータを使用しています。たとえば、以下は文字データ (COMM) が数値式に使用されているため無効です。

無効な例: WHERE SALARY = 12*'COMM'

ユーザーの処置: 同じタイプのデータが使用されるように、該当するすべての式または条件を訂正してください。

SQLCODE: -00401 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12602

メッセージ: 数字データが必要です。

説明: 算術式、および組み込み関数 AVG と SUM では、数値データが必要です。数字以外のデータは使用できません。照会は処理されませんでした。

ユーザーの処置: 算術式または組み込み関数が数値データだけを含むように照会を訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00402 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12604

メッセージ: 長すぎて該当の列に収まらない文字値があります。

説明: 挿入しようとしている値の 1 つが、それを入れる列の桁数を超えています。

ユーザーの処置: その列に収まるように値を変更して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00404 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12605, DSQ12606

メッセージ: 数値が、列に使用できる値の範囲外にあります。

説明: 照会に指定されている値が、関連する列に使用可能な値の範囲内にありません。値は、式の結果としての値の場合もあります。

適切な SQL の値の範囲は次のとおりです。

```
FLOAT ..... -7.2E75 から -5.4E-79, 0,  
              5.4E-79 から 7.2E75  
INTEGER .... -2147483648 から 2147483647  
SMALLINT ... -32768 から 32767  
DECIMAL .... 範囲は列の精度と位取りによって  
              決まります。たとえば、精度 = 5、  
              位取り = 2 で定義された 10 進数  
              の列に指定される場合、その値は  
              -999.99 から 999.99 です。
```

ユーザーの処置: 許容範囲内の値を指定してください。入力先の列を間違えていないかどうかも確かめてください。

SQLCODE: -00405 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12607

メッセージ: NOT NULL の列をヌル値で更新することはできません。

説明: 更新しようとしている列には NULL の許されないものがありますが、その列をヌル値で更新しようとしています。そのヌル値は副照会から生じた可能性があります。

ユーザーの処置: 無効なヌル値を照会から取り除いて、それを再実行してください。

SQLCODE: -00407 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12608

メッセージ: 副照会から、適合性のないタイプのデータが返されました。

説明: 更新または挿入のために使用された副照会からの値が、対応する列に適合しません。副照会からの値とそれに対応する列は、いずれも同じデータ・タイプを備えていなければなりません。たとえば、数値列を更新するためには、副照会の中で数値だけを選択しなければなりません。

ユーザーの処置: 副照会を訂正して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00408 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12609

メッセージ: COUNT の用法に誤りがあります。

説明: 組み込み関数 COUNT のあとに使用できるのは、"*"、または DISTINCT および列名だけ

です。下にその使用例を示します。

1. COUNT (*) は、選択された行の数を数えて示します。
2. COUNT (DISTINCT 列名) は、その列の中の異なる値の数を数えて示します。

ユーザーの処置: COUNT の用法を変更した上で、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00409 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: SQL Query

DSQ12610

メッセージ: &V1 は、有効な数値ではありません。

説明: 照会が、&V1 を数値フィールドに割り当てようとしたが、31桁以上の浮動小数点数であるか、または数値以外の文字を含む値でした。

ユーザーの処置: &V1 を訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00410 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: SQL Query

DSQ12611

メッセージ: USER の用法に誤りがあります。

説明: USERは「ユーザー識別」を表します。値は &LA. 文字です。次の内のどちらかのエラーが生じました。

1. 算術式の中で USER が使われている。
誤: USER - 50
2. 数値データ・タイプ、または &LA. 文字未満の列に対する更新または挿入に USER が使用される。
3. SELECT リストの中で USER が使われている。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してから、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00411 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: SQL Query

DSQ12612

メッセージ: 副照会の SELECT のあとには列を1つしか使用できません。

説明: 副照会で SELECT を使用する場合、それによって選択できる列名は1つだけです (ただし INSERT のあとの場合は別です)。

誤: (SELECT PARTNO, PRICE.....)

ユーザーの処置: 副照会の SELECT リストを訂正して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00412 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: SQL Query

DSQ12613

メッセージ: データ・タイプの変換中に算術オーバーフローが生じました。

説明: 算術オーバーフローが生じたために、算術演算または挿入演算の結果は無効です。たとえば、INTEGER のデータ・タイプを持つ値を SMALLINT のデータ・タイプの列に挿入しようとした可能性があります。INTEGER の値が十分に小さいものであれば変換を正常に行うことができます。しかし、32767 を超える値は、算術オーバーフローを招く結果となります。

ユーザーの処置: 演算を訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00413 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: SQL Query

DSQ12614

メッセージ: LIKE は文字またはグラフィック・データを指定しますが、この列は数字または日時のデータです。

説明: たとえば、LIKE '1%' または LIKE

'%12.40.25' のような形式で指定されています。ここで、LIKE は部分値をある列の値と比較しています。その列は数字または日時のデータ・タイプですが、LIKE では文字またはグラフィック・データを指定する必要があります。

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。数字データの場合、"n >= 1000 and n < 2000" のような数字比較を使用してください。

SQLCODE: -00414 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12615

メッセージ: SELECT リストの列属性が統一されていません。

説明: UNION か UNION ALL で複数の照会を結合しました。その場合、各照会の SELECT リストには、同数の列がなければなりません。各 SELECT リストの対応する列はすべて、後続の SELECT のデータ定義と比較可能でなければなりません。対応する列にフィールド・プロシージャがあれば、両者は同じフィールド・プロシージャおよび CCSID 値をもたなければなりません。

ユーザーの処置: 照会を比較が可能な列の SELECT リストで書き直して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00415 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12616

メッセージ: 幅の広い列を UNION で使用することはできません。

説明: UNION を使用する照会の中の SELECT のあとのリストに、データ・タイプが LONG VARCHAR である列 (すなわち、幅が 255 以上の列) を含めることはできません。使用できるデータ・タイプは、INTEGER、SMALLINT、DECIMAL、FLOAT、

CHAR のいずれかです。幅が 255 未満であれば VARCHAR の列も使用できます。

ユーザーの処置: UNION で使用するすべての照会の SELECT リストから、幅が 254 文字を超える列をすべて除去してください。

SQLCODE: -00416 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12618

メッセージ: DSQ10713 を参照してください。

DSQ12619

メッセージ: 使用されている値を用いた 10 進除算はできません。

説明: 分子の精度または分母の位取りが、10 進除算を行うには大きすぎます。

ユーザーの処置: 10 進除算に使用する値の精度または位取りを変更してから、照会を再実行してください。INTEGER、または SMALL INTEGER の値が、この計算のために 10 進数に変換された可能性があることに注意してください。

SQLCODE: -00419 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12621

メッセージ: 偶数個の 16 進文字が必要です。

説明: 照会は、定数が X' で始まる、「16 進数リテラル」を含んでいます。この定数は GRAPHIC データ・タイプの列に結びついており、したがって偶数個の 16 進文字を表していなければなりません。定数の長さ (一重引用符の間の長さ) が 4 で割り切れることを確かめてください。

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00421 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12622

メッセージ: 各 SELECT リストの列数が一致していません。

説明: UNION によって複数の照会を連結する場合には、その場合、各照会の SELECT リストには、同数の列がなければなりません。

ユーザーの処置: 照会を訂正して、再実行してください。

SQLCODE: -00422 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12623

メッセージ: IN のあとの 16 進数リテラルは無効です。

説明: 照会は、定数が 'X' で始まる、「16 進数リテラル」を含んでいます。IN の前に 16 進数リテラルがある場合には、IN のあとのリスト上の最初の項目は、16 進数リテラルであってはなりません。

誤:
X'C9C4' IN (X'F1F0', X'F2F0')

正:
X'C9C4' IN (10, X'F2F0')

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00423 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12716

メッセージ: GROUP BY または HAVING 文節を使用する副照会には、ALL、ANY、EXISTS、または IN が必要です。

説明: GROUP BY または HAVING を用いる副

照会では複数の値の生成が予測されます。したがって、先行する ALL、ANY、EXISTS、または IN のいずれかのキーワードが必要です。

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00516 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12730

メッセージ: DSQ10930 を参照してください。

DSQ12732

メッセージ: 従属行のため、行の更新または削除はできません。

説明: 親行を更新または削除しようとしたのですが、親行が従属行をもっているか、または RESTRICT 規則を使用して制限された従属行にカスケードしているため失敗しました。

データベースに外部キーの参照制約がある場合は、名前は次のようになります。 &V1..&V2.

ユーザーの処置: 行の選択が、正しかったことを確かめてください。正しかった場合には、RESTRICT が指定された従属行を更新または削除してください。その次に、親の行を更新または削除してください。

SQLCODE: -00532 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12734

メッセージ: 複数行の基本キー、または固有制約は更新できません。

説明: UPDATE 操作で表の複数行の基本キーまたは固有制約を更新しようとした。基本キーまたは固有制約に影響を与える UPDATE ステートメントは、表の複数行の更新には使用できません。

ユーザーの処置: UPDATE ステートメントの探

索条件が、更新する表の 1 行だけを選択することを確認してください。

SQLCODE: -00534 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12736

メッセージ: 表 &V1.&V2 が影響を受けるため、DELETE ステートメントは無効です。

説明: 表 &V1.&V2 に関して DELETE 操作が試みられましたが、この表は副照会で参照されています。しかし、この表は削除操作のオブジェクト表に従属していて、しかも RESTRICT の規則によって変更に対し保護されていないため、削除は実行できません。

ユーザーの処置: 表がそのステートメントによって影響を受ける可能性がある場合は、DELETE ステートメントの副照会で指定されている表を参照しないでください。

SQLCODE: -00536 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12737

メッセージ: 複数の列名を使用しました。

説明: 基本キー、外部キー、または固有の制約に、重複した列名を含めることはできません。基本キー、外部キー、または固有の制約文節に、複数の同じ列名を使用しました。エラーの列は、&V1 &V2 です。

ユーザーの処置: 固有の列名を指定してください。

SQLCODE: -00537 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12738

メッセージ: 外部キー &V1 が、表 &V2.&V3 の基本キーの記述と一致していません。

説明: 以下の理由の 1 つでこのエラーを受け取った可能性があります。

- &V1 によって示されている外部キーが表 &V2.&V3 の基本キーの列数と同じでない。
- 両方のキーの記述が同一ではありません。(記述が同一であるためには、データ・タイプ、長さ属性、およびフィールド・プロシージャが同じでなければなりません。)

フィールド・プロシージャが対応する列に定義されている場合は、これらの列の CCSID 値は同一でなければなりません。

ユーザーの処置: 外部キーの記述が示されている表の基本キーの記述と一致するように、FOREIGN KEY 文節を訂正してください。

SQLCODE: -00538 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12739

メッセージ: 表 &V1.&V2 には、基本キーがありません。

説明: FOREIGN KEY 文節で親表として表 &V1.&V2 を指定しましたが、この表は基本キーがないため、親表は定義できません。

ユーザーの処置: ALTER TABLE を使用し表に基本キーを定義してください。

SQLCODE: -00539 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12741

メッセージ: 外部キー &V1 は重複した参照制約であるため、無効です。

説明: 指定された FOREIGN KEY 文節では同じ外部キーおよび親表を別の参照制約として定義しています。

ユーザーの処置: 重複した参照制約をステートメントから削除してください。

SQLCODE: -00541 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12742

メッセージ: &V1 は基本キーまたは固有制約の列にはなりません。

説明: 列 &V1 は NULL 値を含むことができます。そのため、基本キー文節、固有制約文節、または親キー (REFERENCES 文節経由) に組み込むことはできません。

ユーザーの処置: 基本キー、または固有制約を定義する場合、NULL 値を含むことができない列だけを使用してください。基本キー、または固有制約の文節を訂正し、ステートメントを再実行してください。REFERENCES 文節で識別される列を定義する場合、親表をドロップしてから、NOT NULL と定義される参照列によって列を再作成します。

SQLCODE: -00542 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12750

メッセージ: 所有者を "SYSTEM" とする &V1 の作成はできません。

説明: たとえば、次のようなステートメントの入った照会を実行することはできません。

```
CREATE TABLE SYSTEM.&V1 .....
```

ユーザーの処置: この操作は行わないようにしてください。

SQLCODE: -00550 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12751

メッセージ: 指定されたオブジェクトが存在しないか、または必要な権限がありません。

説明: 指定されたオブジェクトが存在しないか、

または読み取り専用の視点か、または必要とされる以下の権限がありません。

1. 他のユーザーの表または視点から選択する SELECT 権限。
2. 他のユーザーの表または視点に対する INSERT、UPDATE、DELETE または ALTER 権限。 INDEX 権限は、索引を作成するのに必要とされます。
3. 他のユーザーの表または視点に対する権限を付与する (WITH GRANT オプションを用いる) GRANT 権限。
4. FOREIGN KEY または、DROP FOREIGN KEY の実行、または DROP PRIMARY KEY の操作の ALTER 権限。
5. 表の作成、データの保管、または、データベース内のスペースの予約に必要な特定の権限。

ユーザーの処置: 既存のオブジェクトの名前を誤って指定した場合には、正しい名前を使ってください。必要な権限がない場合には、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00551 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12752

メッセージ: 指定されたオブジェクトが存在しないか、または必要な権限がありません。

説明: 指定されたオブジェクトが存在しないか、または読み取り専用の視点か、または次のような必要とされる権限がありません。

1. 他のユーザーの表または視点から選択する SELECT 権限。
2. 他のユーザーの表または視点に対する INSERT、UPDATE、DELETE または ALTER 権限。 INDEX 権限は、索引を作成するのに必要とされます。

3. 他のユーザーの表または視点に対する権限を付与する (WITH GRANT オプションを用いる) GRANT 権限。
4. FOREIGN KEY または、DROP FOREIGN KEY の実行、または DROP PRIMARY KEY の操作の ALTER 権限。
5. 表の作成、データの保管、または、データベース内のスペースの予約に必要な特定の権限。

ユーザーの処置: 既存のオブジェクトの名前を誤って指定した場合には、正しい名前を使ってください。必要な権限がない場合には、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00552 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: SQL Query

DSQ12754

メッセージ: 自分自身に対して特権を付与することはできません。

説明: "GRANT CONNECT TO ALL USERS" コマンドで明示的に CONNECT 権限を付与されていても、自分自身に対して特権を付与したり、またはパスワードを設定したりすることは、データベース・マネージャーにより許可されていません。パスワードを変更できるのは、DBA が CONNECT 権限を明示的に付与し、パスワードを初期化するよう設定した場合のみです。

ユーザーの処置: ステートメントを訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00554 **Database:** DB2 Server for VSE & VM **QMF Function:** SQL Query

DSQ12755

メッセージ: 自分自身が保有している特権を取り消すことはできません。

説明: あるユーザーが持っている特権を取り消すことができるのは、所定の権限を持つ別のユーザーだけです。ただし、SQLRULES(STD) が有効で

あるか、または CURRENT RULES に STD が含まれている場合は、自分自身への GRANT が可能です。

ユーザーの処置: 自分の持つデータベース特権のいずれかを削減したい場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00555 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: SQL Query

DSQ12756

メッセージ: この特権を &V1. から取り消すことはできません。

説明: 取り消そうとしている特権を &V1 が持っていないか、または、その特権を付与したユーザーの許可識別名がユーザー自身のものではありません。取り消すことのできる特権は、ユーザー自身の許可識別名のもとに付与されている特権だけです。

ユーザーの処置: 別の操作に移ってください。

SQLCODE: -00556 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: SQL Query

DSQ12757

メッセージ: この組み合わせの特権を付与または取り消すことはできません。

説明: 同一ステートメントの中で、両立しない 2 つの権限を同時に付与または取り消そうとしています。

ユーザーの処置: GRANT または REVOKE ステートメントを、それぞれ独立したいくつかのステートメントに分けてから、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00557 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: SQL Query

DSQ12758

メッセージ: DBA から「特殊」特権を取り消すことはできません。

説明: ユーザーは、DBA 権限を持つユーザーから、RESOURCE などの「特殊」特権を取り消すことはできません。

ユーザーの処置: この操作は行わないようにしてください。

SQLCODE: -00558 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12761

メッセージ: CONNECT 権限がなければデータベースを使用できません。

説明: データベースを使用するためには CONNECT 権限が必要です。このセッションですでにデータベースを使用している場合は、実行中に他のユーザーによって CONNECT 権限が取り消された可能性があります。

ユーザーの処置: QMF 管理者に問題を報告してください。

SQLCODE: -00561 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12764

メッセージ: ステートメントが無効なユーザー ID を参照しています。

説明: SQL のユーザー ID は、英字で始まっていて、8 文字以内の英字または数字で構成されていなければなりません。途中にブランクを入れたり、特殊文字を用いたりすることはできません。

PUBLIC と SYSTEM のユーザー ID は、特定の限定された文脈でしか使用できません。

特に、PUBLIC または SYSTEM から、特殊な特権 (CONNECT、DBA、および RESOURCE) を付与したり取り消したりすることはできません。

ユーザーの処置: 指定されているユーザー ID を変更できなければ、この操作を実行しないでください。

SQLCODE: -00564 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12801

メッセージ: 作成しようとしているオブジェクトの名前がすでに存在しています。

説明: 作成または獲得しようとしているオブジェクトの名前が、既存の項目の名前と同じです。

ユーザーの処置: 名前を、データベースに存在しない名前に変更して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00601 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12802

メッセージ: 表または視点の中の列が多すぎます。

説明: この照会の結果作成される表または視点に対して、列の数が許容最大数を超過してしまいます。

ユーザーの処置: 作成しようとしている表または視点の列の数が 256 未満になるように、照会を訂正してください。

SQLCODE: -00602 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12803

メッセージ: &V1 の列に重複値があります。

説明: 重複値がある &V1 列を作成できません。指定した列の 1 つがそうになっています。

VARCHAR または VARGRAPHIC のタイプの列であれば 2 つの列の違いは後ろのブランクの数だけで、重複することになります。

ユーザーの処置: 重複値を含む列が参照されることがないように、CREATE ステートメントを変更するか、または表から重複値が含まれている列を削除してください。

SQLCODE: -00603 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: SQL Query

DSQ12804

メッセージ: 列の定義に問題があります。

説明: 照会が、データ・タイプ限界を超える長さ、精度、または位取りをもつ列を指定しています。ユーザー照会エラーの原因として次のことが考えられます。

- DECIMAL 列の精度または位取りがデータ・タイプ限界を超えた。
- CHAR、FLOAT、GRAPHIC、VARCHAR または VARGRAPHIC 列の長さがデータ・タイプ限界を超えた。

ユーザーの処置: 列定義を変更してデータ・タイプ限界に合うようにし、SQL 照会を再度実行してください。データ・タイプの制限についての詳細な説明は、使用しているデータベース管理システム用の SQL 解説書を参照してください。

SQLCODE: -00604 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: SQL Query

DSQ12805

メッセージ: ステートメントは 1 つの表の最大許容索引数を超えています。

説明: 1 つの DB2 サーバー (VSE および VM 版) 表の最大許容索引数は 255 であり、目標の表は現在それだけの索引数があります。

この状態は目標とするテーブルがすでに 255 の索引を持ち、ADD PRIMARY KEY または ADD UNIQUE の制約文節を指定して CREATE INDEX または ALTER TABLE ステートメントを出した場合に発生します。

ユーザーの処置: 不必要な索引をすべて除去し、ステートメントを再度出してください。

これを行うためには、DROP PRIMARY KEY または DROP UNIQUE の制約文節を指定して DROP INDEX ステートメントまたは ALTER TABLE ステートメントを用いることによって可能になります。すべての DB2 サーバー (VSE および VM 版) 索引をリストする場合は、SYSINDEXES システム表を表示してください。

SQLCODE: -00605 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: SQL Query

DSQ12806

メッセージ: 指定の表または列が存在しないか、他のユーザーが所有しています。

説明: COMMENT ON ステートメントまたは、LABEL ステートメントで指定されている表または列が、存在していないか、または他のユーザーにより所有されています。これらのステートメントは、自分が作成した表だけに使用することができます。ただし、DBA 権限があれば、他のユーザーの表に対して COMMENT ON または、LABEL ON を指定できます。

ユーザーの処置: 別の操作を続けてください。

SQLCODE: -00606 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: SQL Query

DSQ12807

メッセージ: この DBSPACE にはこれ以上表を追加できません。

説明: DBSPACE 当たりの表の最大数は 255 です。

ユーザーの処置: 別の DBSPACE に表を作成するか、指定した DBSPACE の表を除去して、スペースを解放してください。

SQLCODE: -00607 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: SQL Query

DSQ12808

メッセージ: DBSPACE が見つかりません。

説明: DBSPACE とともに IN を使用した場合には次のいずれかが原因です。

1. 該当する DBSPACE が存在しない。
2. DBSPACE を使用する権限がない。
3. DBSPACE がいっぱいである。

IN を使用しなかった場合には、次のいずれかが原因です。

1. デフォルトの DBSPACE がない。
2. デフォルトの DBSPACE がいっぱいである。

ユーザーの処置: 使用することのできる DBSPACE の名前を入力して、SQL 照会を再実行してください。

SQLCODE: -00608 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12809

メッセージ: システム DBSPACE を変更することはできません。

説明: どのようなユーザーも、システム DBSPACE を変更することはできません。この記憶域の中にある情報は、システムの操作にとって重要なものばかりであり、したがってユーザーが変更することはできません。

ユーザーの処置: この操作は行わないようにしてください。

SQLCODE: -00609 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12810

メッセージ: 指定した DBSPACE に表を作成することはできません。

説明: 他のユーザーまたはシステムが所有する DBSPACE に表を作成するには、そのために必要

な権限を持っていなければなりません。

ユーザーの処置: 別の DBSPACE を用いて表を作成してください。他のユーザーまたはシステムが所有する DBSPACE の使用権が必要ならば、該当の手続きに従ってください。

SQLCODE: -00610 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12811

メッセージ: ALTER TABLE とともに NOT NULL を使用することはできません。

説明: ALTER TABLE ステートメントは、表に新しい列を 1 つ追加します。既存のすべての行は、その新しい列にヌル値の入った形で拡張されます。したがって、NOT NULL オプションは使用できません。

ユーザーの処置: ALTER TABLE ステートメントから NOT NULL オプションを除去して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00611 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12812

メッセージ: 列名 &V1 が 2 回使われています。

説明: 1 つの表に、同じ名前の列を 2 つ設けることはできません。CREATE TABLE、CREATE VIEW、または CREATE INDEX の中で、列名 &V1 が 2 回以上使用されています。または、ALTER TABLE の中で使われている列名 &V1 が、すでに表の中にあります。

ユーザーの処置: 別の列名を選んで、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00612 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12814

メッセージ: 選択された列に索引を付けることができません。

説明: CMS のもとでは、LONG VARCHAR 列または LONG VARGRAPHIC 列に索引を付けることはできません。

TSO のもとでは、許容最大長が 254 文字を超える VARCHAR に索引を付けることはできません。

CMS または TSO のもとでは、列のグループの内部長さの合計が 255 文字を超えている場合には、そのグループに索引を付けることはできません。

ユーザーの処置: 列を 1 つまたは 2 つ以上除外するか、または長い列を短い列で置き換えることによって、索引定義または初期キー定義を修正してください。

SQLCODE: -00614 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12817

メッセージ: CREATE INDEX または PRIMARY KEY ステートメントの列の指定が多すぎます。

説明: CREATE INDEX または PRIMARY KEY ステートメントで指定されている列の数が、許容されている最大数を超えています。

- DB2 (MVS版) は 64 までです。
- DB2 共通サーバーは 16 までです。

ユーザーの処置: CREATE INDEX または PRIMARY KEY ステートメントを変更して、列の数が列の最大数を超えないようにしてください。

SQLCODE: -00617 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12819

メッセージ: EXPLAIN 表に、正しくない定義があります。

説明: 必要な説明表が正しく定義されていないために、EXPLAIN ステートメントの実行中にエラーが発生しました。

EXPLAIN 表 (および認識されている場合は列):
&V1 &V2.

次の理由で、定義が正しくない可能性があります。

- 表に列がない。
- 表に余分な列がある。
- 列が間違った順番で定義されている。
- 列に、次の属性のいずれかに関連した無効な定義がある。
 - 列名
 - 列のデータ・タイプ
 - 列の長さ
 - NOT NULL

ユーザーの処置: EXPLAIN を使用する前に、必要な説明表の定義を訂正してください。

EXPLAIN ステートメントと説明表の定義方法の詳細については、SQL 解説書を参照してください。

SQLCODE: -00619 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12820

メッセージ: 私用の回復可能 DBSPACE が使用できません。

説明: CREATE TABLE コマンドで DBSPACE 名が指定されていないため、&V1. が所有する私用 DBSPACE を見つけるために探索が行われました。

DBSPACE が見つからなかったか、いっぱいであ

ったか、あるいは回復不能記憶域プールに入っていたかのいずれかです。

ユーザーの処置: 私有 DBSPACE を獲得するか、既存のスペース内に余裕をもたせるか、または必要な DBSPACE を明示的に指定するかしてください。

SQLCODE: -00620 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12829

メッセージ: 外部キー &V1. には SET NULL を指定できません。

説明: キーの列にはヌル値を指定できないため、FOREIGN KEY 文節 &V1 には SET NULL 削除規則は指定できません。

ユーザーの処置: キーの列を変更してヌル値を指定できるようにするか、または削除規則を変更してください。

SQLCODE: -00629 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12830

メッセージ: キーワード &V1 が二度指定されています。

説明: この照会では、キーワード &V1 を一度だけ使用します。2 回以上出てきました。

ユーザーの処置: 照会を訂正して、再実行してください。

SQLCODE: -00630 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12832

メッセージ: 規則制限のため、表を &V3..&V4 の従属表には定義できません。

説明: この表は、表 &V3..&V4. の従属表には定義できません。両方の関数が、既存の関数と矛盾

します。たとえば、従属表を、特定の親表と複数の SET NULL 関係を持つようには定義できません。この関係を定義できない理由は、理由コード '&V5' によって示されています。

ユーザーの処置: FOREIGN KEY 文節を訂正するか、またはその文節をステートメントから削除してください。理由コード '&V5' の説明は、SQL/DS メッセージおよびコードを参照してください。

SQLCODE: -00632 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12840

メッセージ: グラフィックと混合データ・タイプは現行サーバーによってサポートされていません。

説明: SQL ステートメントはその文節またはスカラ関数 &V1 を参照しましたが、現行サーバーがそれをサポートしていませんでした。

これは、次のいずれかによります。

- ALTER または CREATE TABLE ステートメントは FOR MIXED DATA 文節を指定し、現行サーバーのデフォルトの混合 CCSID はゼロであった。
- ALTER または CREATE TABLE ステートメントは GRAPHIC データ・タイプを指定し、現行サーバーのデフォルトの図形 CCSID はゼロであった。
- SQL ステートメントは VARGRAPHIC スカラ関数を指定し、現行サーバーのデフォルトの図形 CCSID はゼロであった。

ユーザーの処置: 混合、グラフィックおよび VARGRAPHIC データ・タイプをサポートしているサーバーで SQL ステートメントを出してください。これらのデータ・タイプが現行サーバーに使用されている場合、そのシステムのデフォルト CCSID をリセットするよう、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00640 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12844

メッセージ: &V1 は重複名です。

説明: この表ですでに使用されているので &V1 を新しい外部キー名または固有制約として使用できません。現在の表で同じ外部キーか、固有制約に対して、指定した名前がある場合、重複が発生します。

ユーザーの処置: 別の名前を使用するか、または名前を指定しないでください。外部キー名を指定しないと、デフォルトの名前が割り当てられます。

SQLCODE: -00644 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12848

メッセージ: 複数経路を使用する削除結合規則のために、外部キーを定義できません。

説明: 関係により、表 &V1..&V2 が表 &V3..&V4 に、複数経路を介して削除結合されます。理由コード &V5. のために、外部キーを定義することができません。

- 理由コード '01' は、両方の表が SET NULL について同じ削除規則を使用していることを示します。
- 理由コード '02' は、両方の表で使用している削除規則が異なっていることを示します。

このエラーの詳細な説明については、「DB2 Server (VSE 版) メッセージとコード」を参照してください。

ユーザーの処置: 関連する表に対する結合が正しく定義されていることを確認してください。正しくない場合は、それを訂正してから SQL ステートメントを再実行してください。あるいは、QMF 管理者に連絡して援助を求めてください。

SQLCODE: -00648 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12856

メッセージ: 表 &V1..&V2 には、すでに基本キーがあります。

説明: 表 &V1..&V2 には、すでに基本キーがあるので、その定義はできません。表には複数の基本キーは持てません。

ユーザーの処置: この表で、異なる基本キーを持ちたい場合、最初に存在する基本キーを落とさなくてはなりません。

SQLCODE: -00656 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12857

メッセージ: UPDATE STATISTICS は視点について使用することはできません。

説明: UPDATE STATISTICS ステートメントを視点について使用することはできません。このステートメントは 1 つの表についてだけ使用することができます。

ユーザーの処置: その視点を構成する表が操作の対象となるように照会を書きなおしてから、それを再実行してください。例:

```
UPDATE STATISTICS FOR TABLE PRICES
```

SQLCODE: -00657 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12867

メッセージ: 表 &V3..&V4 に定義されている &V1 &V2 はアクティブにすることができません。

説明: キーが無効になるため、&V1 &V2 はアクティブにすることができません。たとえば、アクティブでない基本キーに重複値が含まれている場

合、そのキーはアクティブにすることはできません。キーをアクティブにすることができない理由は、理由コード '&V5' で示されます。

ユーザーの処置: 理由コード '&V5' の説明は、SQL/DS メッセージおよびコードを参照してください。

SQLCODE: -00667 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12868

メッセージ: 表 &V1..&V2 はアクセスできません。&V3 &V4 はアクティブではありません。

説明: &V3 &V4 がアクティブではないので、表 &V1..&V2 に対し操作を実行できません。

ユーザーの処置: キーがアクティブになった時点で、再度操作を試みてください。

SQLCODE: -00668 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12869

メッセージ: 基本キー索引は明示的に除去することはできません。

説明: DROP INDEX を使用して基本キーを除去できません。

ユーザーの処置: 基本キー索引を再編成したい場合は、ALTER TABLE ステートメントの ACTIVATE PRIMARY KEY 文節を使用できません。この文節では、基本キー索引を除去して再作成します。基本キーを除去したい場合は、ALTER TABLE ステートメントの DROP PRIMARY KEY 文節を使用できます。

SQLCODE: -00669 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12870

メッセージ: 表 &V2..&V3 の外部キー &V1 は作成できません。

説明: キーが無効になるため、外部キー &V1 は作成できません。たとえば、外部キーによって参照されている親表に非アクティブの基本キーがある場合、外部キーは作成できません。キーをアクティブにすることができない理由は、理由コード '&V4' によって示されます。

ユーザーの処置: 理由コード '&V4' の説明は、SQL/DS メッセージおよびコードを参照してください。

SQLCODE: -00670 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12874

メッセージ: DB2 サーバー (VSE および VM 版) が、DBCS データ変換ルーチンをロードできません。

説明: データベースが、理由コード &V2 およびサブコード &V3 のため、DBCS データ変換ルーチン &V1 のロードに失敗しました。このエラー状態の原因として、以下が考えられます。

- &V1 ルーチンが使用可能でない。
- 十分な記憶域がない。
- 他のシステムのロード・エラー。

また、サブコードが X'01' の場合、エラーはアプリケーション・リクエスターで検出され、サブコードが X'02' の場合、エラーはアプリケーション・サーバーで検出されました。

ユーザーの処置: 変換ルーチン &V1 が正しい場合は、QMF 管理者に連絡して援助を求めてください。

SQLCODE: -00674 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12883

メッセージ: 列 &V2 のデータ・タイプ &V1 は許されません。

説明: データ・タイプ &V1 は、文字の列 (CHAR、VARCHAR、および LONGVARCHAR) に対してのみ有効です。

ユーザーの処置: 列 &V2 から &V1 オプションを削除してください。

SQLCODE: -00683 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12887

メッセージ: フィールド・プロシーチャーで定義された列との比較が無効です。

説明: フィールド・プロシーチャーで定義された列と比較された値が、同じフィールド・タイプではありません。比較は列の値のエンコードされた書式で実行されます。たとえば、列のエンコードされた値が INTEGER の場合は、比較される値のデータ・タイプは同じでなければなりません。ストリングの場合は、そのデータ・タイプは互換性がなければなりません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正して、もう一度、照会を実行してください。

SQLCODE: -00687 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12898

メッセージ: そのステートメントで、無効なエンティティー表のオーバーフローが起こります。

説明: そのステートメントは、索引に無効という印を付けるため、無効なエンティティー表の入力を予約しておかなければなりません。しかし、無効な索引と、無効の可能性のある索引の数が、データベースの内部限界を超えています。ステートメントを処理することはできません。ステートメントを処理することはできません。

ユーザーの処置: CREATE INDEX と REORGANIZE INDEX を同時に実行するユーザーがたくさんいる場合、後でもう一度ステートメントを試してください。エラーが残っている場合は、QMF 管理者に連絡し、無効な索引を見つけ、エンティティー表をクリーンアップしてください。

SQLCODE: -00698 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12899

メッセージ: DBSPACE の利用可能な記憶域プールが、いっぱいです。

説明: DBSPACE は利用可能ですが、DBSPACE が存在する記憶域プールに、DBSPACE を得るために十分なスペースがありません。

STORPOOL 文節を使用した場合は、指定した記憶域プールはいっぱいなので、別の記憶域プールを使用できます。STORPOOL 文節を使用していない場合は、利用可能な記憶域プールはすべていっぱいであることを意味します。DBSPACE を得るのに十分な記憶域プール・スペースはありません。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して、いっぱいになった記憶域プールを見つけ、DBEXTENTS を記憶域プールに追加し、サイズを増やしてください。

SQLCODE: -00699 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12900

メッセージ: 記憶域プール &V1 に使用可能なスペースがありません。

説明: SQL ステートメントが、新しいページまたはシャドー・ページを要求していますが、記憶域プール &V1 には十分なスペースがありません。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡をして、記

憶域プール &V1. のサイズを増やしてください。
SQL ステートメントが REORGANIZE INDEX である場合、索引に無効の印が付いているかどうかを判別するように QMF 管理者に頼んでください。索引が無効の場合は、索引を除去して再作成するか、記憶域の問題が訂正された後で、もう一度索引を再編成してください。

SQLCODE: -00700 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12901

メッセージ: DBSPACE のデータのために割り振られているスペースがいっぱいです。

説明: DBSPACE にデータのための十分なスペースがないので、この照会は実行されません。

ユーザーの処置: 表を作成しようとしている場合には、別の DBSPACE を指定してください。その他の場合には、QMF 管理者の指示にしたがってデータ・スペースを大きくして、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00701 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12902

メッセージ: DBSPACE で索引用に割り当てられているスペースがいっぱいです。

説明: DBSPACE に索引のためのスペースが追加されるまでは、照会は実行されません。

ユーザーの処置: 表を作成しようとしている場合には、別の DBSPACE を指定してください。その他の場合には、QMF 管理者の指示にしたがって索引スペースを大きくして、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00702 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12903

メッセージ: DBSPACE のヘッダー情報用のスペースがいっぱいです。

説明: NHEADER パラメーターによって、ヘッダー情報用として DBSPACE の中で割り振られているスペースが、いっぱいになりました。追加の DBSPACE スペースを確保しないかぎり、この照会の処理はできません。

ユーザーの処置: 表を作成しようとしている場合には、別の DBSPACE を指定してください。その他の場合には、QMF 管理者の指示にしたがってヘッダー・スペースを大きくして、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00703 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12904

メッセージ: 要求されたサイズとタイプの使用可能な DBSPACE がありません。

説明: ACQUIRE DBSPACE ステートメントは実行されませんでした。次のいずれかの状況が起きています。

- 要求したページ数が使用可能ページ数より多かった。
- すべての共用、または私用 DBSPACE がすでに獲得されていた。
- 指定した記憶域プールがない。

ユーザーの処置: 記憶域プールを指定した場合、その記憶域プールがあるかどうかを QMF 管理者に連絡して、確認してください。記憶域プールがある場合は、PAGES オプションの中のページ数を減らすか、または別のタイプの DBSPACE を要求してください。それでも状況が改善されない場合には、QMF 管理者に連絡して、DBSPACE の追加を要求し、それが追加されたら、ACQUIRE DBSPACE ステートメントを再入力してください。

SQLCODE: -00704 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12905

メッセージ: &V1 に指定された値が無効です。

説明: ACQUIRE または ALTER DBSPACE ステートメントの場合、対応するパラメーターが指定されていない場合は次の値が使用されます。

NHEADER	- 8	PAGES	- 128
PCTFREE	- 15	LOCK	- PAGE
PCTINDEX	- 33		

CREATE INDEX の場合または 1 次キーを表に追加する場合、PCTFREE が指定されていない場合はデフォルト値 10 が使用されます。

&V1 の最大および最小値はアプリケーションに依存します。特定情報については QMF 管理者に連絡してください。

ユーザーの処置: &V1 の値を変更して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00705 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12908

メッセージ: 公用 DBSPACE の除去、ロック、または変更はできません。

説明: 公用 DBSPACE の除去、ロック、または変更ができるのは、所定の権限を持つユーザーだけです。

ユーザーの処置: 必要な権限を持っているユーザーに連絡し、除去または変更の処置を要求してください。

SQLCODE: -00708 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12909

メッセージ: この DBSPACE にはシステム・カタログ表が入っています。

説明: どのユーザーも、システム・カタログ表の入った DBSPACE を除去することはできません。

ユーザーの処置: この DBSPACE を除去しようとししないでください。

SQLCODE: -00709 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12910

メッセージ: この照会に必要な私用 DBSPACE は使用中です。

説明: 1 つの私用 DBSPACE を、同時に複数のユーザーがアクセスすることはできません。照会の中で要求されている表は、現在使用中の私用 DBSPACE に入っています。

ユーザーの処置: 私用 DBSPACE が使用可能になってから、照会を実行しなおしてください。

SQLCODE: -00710 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ12912

メッセージ: INTERNAL DBSPACE に照会を実行するだけの余地がありません。

説明: QMF が十分な数または十分な大きさの INTERNAL DBSPACE を獲得することができませんでした。照会を簡素化するか、またはそれを 2 つ以上の照会に分割してください。

ユーザーの処置: QMF のためにもっと多くの INTERNAL DBSPACE を確保するよう、QMF 管理者に要求してください。

SQLCODE: -00712 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ13001

メッセージ: SQL ステートメントの算術演算が、エラーに終わりました。

説明: 視点を使用しようとしたのですが、視点定義の副選択文節中にある算術演算がエラーに終わりました。例外タイプは &V1、演算タイプは &V2、データ・タイプは &V3 です。

ユーザーの処置: 視点の所有者に連絡して、算術演算と視点の副選択文節列を調べてもらい、どのデータが問題を引き起こしたか判別してください。

SQLCODE: -00801 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ13002

メッセージ: SQL コマンドの算術演算で、エラーが発生しました。

説明: SQL コマンドで乗算または除算のような算術演算を行おうとしました。しかし、コンピューターは選択された列で 1 つ以上の値が無効であることを検出しました。たとえば、乗算の結果がコンピューター内部記憶域を超えたか、0 による除算になっています。

ユーザーの処置: プログラム例外を起こすデータを決定するためにコマンドの算術演算および列を検査してください。

SQLCODE: -00802 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ13003

メッセージ: 固有索引列の中に重複値がありません。

説明: 新たな値を挿入しようとしている、または新たな値で更新しようとしている列の 1 つに、その値と同じ値がすでに入っています。その列は、固有索引列です。固有索引列は重複値をとることはできません。

ユーザーの処置: 既存の値と重複することのないように、新たな値を変更してください。そして、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00803 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ13005

メッセージ: パッケージ &V1 が、カタログ表に見つかりません。

説明: DB2 サーバー (VSE および VM 版) が、QMF プログラムを実行しようとした際に、カタログ表 SYSTEM.SYSACCESS 中でパッケージを見つけることができませんでした。これは次の原因で起こります。

- QMF プログラムが、正しくプリプロセスされていなかった。
- QMF が、接続先のロケーションでインストールされていなかった。

ユーザーの処置: このエラーの詳細説明は、「DB2 サーバー (VSE 版) メッセージおよびコード」または「DB2 サーバー (VM 版) メッセージおよびコード」を参照してください。また、この問題を QMF 管理者に報告してください。

SQLCODE: -00805 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ13008

メッセージ: システム・カタログを変更する権限がありません。

説明: 権限を付与されていなければ、システム・カタログを変更することはできません。照会または DISPLAY コマンドを用いてシステム・カタログの読み取りおよびデータの検索を行うことはできます。

ユーザーの処置: 権限が必要であれば、QMF 管理者の手続きに従ってください。

SQLCODE: -00808 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ13009

メッセージ: 行が長すぎます。

説明: この挿入または更新操作を行うと、許容長より長い行が作成されます。LONG VARCHAR 列または LONG VARGRAPHIC 列がないかぎり、最大長は 4070 桁です。

ユーザーの処置: もっと短い行が作成されるように照会を変更し、それを再実行してください。

SQLCODE: -00809 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ13010

メッセージ: 複数の値を生成する副照会がありません。

説明: 副照会は、表の 2 つ以上の列をもとにして値を生成するものであってはならず、また、多くの場合、2 つの行をもとにして値を生成するものであってはなりません。複数の値を生成する副照会には、ALL、ANY、EXISTS、または IN を使用してください。

例 :

```
WHERE DEPT = ANY (SELECT DEPTNUMB  
FROM Q.ORG)
```

```
HAVING AVG(X) > ALL (SELECT X FROM Y)
```

```
WHERE EXISTS (SELECT * FROM X  
WHERE N1 = N2)
```

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00810 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ13013

メッセージ: 視点のロックはできません。

説明: LOCK は、表または DBSPACE のロックの場合にかぎり使用できます。視点は表として保管されるものではなく、したがってこれをロックすることはできません。

ユーザーの処置: 視点を形成する 1 つまたは複数の表をロックすることはできません。

SQLCODE: -00813 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ13014

メッセージ: システム・カタログ表やシステム DBSPACE はロックできません。

説明: LOCK ステートメントで、システム・カタログ、または、システム・カタログ表の入った DBSPACE をロックしようとしています。権限に関係なく、どのようなユーザーもこれらの項目をロックすることはできません。

ユーザーの処置: システム・カタログの排他的アクセスが必要なのであれば、QMF 管理者に連絡して、データベースの排他使用を要求してください。アクティブな他のユーザーが存在しない場合には、LOCK は不要です。

SQLCODE: -00814 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ13015

メッセージ: アカウンティング・ユーザー出口ルーチンによって接続が拒否されました。

説明: DB2 サーバー (VSE および VM 版) への接続要求は、インストール先システムのアカウンティング・ユーザー出口ルーチンによって拒否されました。

ユーザーの処置: QMF 管理者 に相談してください。

SQLCODE: -00815 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ13023

メッセージ: システム・カタログに対しこの操作は実行できません。

説明: 要求でシステム・カタログを指定しました。ユーザーはシステム・カタログから削除したり、1 次または外部キーをシステム・カタログに追加したり、システム・カタログを外部キーの親として参照することはできません。

ユーザーの処置: データベースからオブジェクト "NAME1" を除去する場合、ERASE NAME1 コマンドを入力してください。

SQLCODE: -00823 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ13036

メッセージ: DRDA プロトコルを使用して現行ステートメントを実行できません。

説明: 現行ステートメントが DRDA プロトコルに定義されていません。以下は、DRDA プロトコルの使用時にはサポートされないステートメントのリストです。

- 拡張 PREPARE SINGLE ROW (FORTRAN の場合は SELECT INTO)。
- FORTRAN 内の位置付け UPDATE または位置付け DELETE
- 拡張 EXECUTE...USING OUTPUT DESCRIPTOR
- CONNECT (ユーザー ID) IDENTIFIED BY (パスワード)
- VM オペレーター・コマンド用の DB2 サーバー
- 変更可能パッケージ用の拡張動的ステートメント

SQL ステートメントの処理は終了しました。次の SQLSTATE が戻されました: &DSQSQLST。

ユーザーの処置: データベース・アプリケーション・サーバーに対してプログラムをプリプロセスおよび実行し、DRDA プロトコルは使用しないでください。VM アプリケーション・サーバーのために DB2 サーバー以外に対して実行する必要がある場合は、プログラムを再書き込みし、これらのステートメントを書き直してください。たとえば、現行ステートメントが PREPARE SINGLE ROW の場合は、これを基本 PREPARE に置換し、カーソル操作を使用して必要なデータを検索してください。

DSQ13111, DSQ13112

メッセージ: データベースの必要な部分が使用中です。

説明: 別のユーザーが処理を完了するまでは、データベース中の必要なオブジェクトをアクセスすることはできません。

ユーザーの処置: QMF セッションを打ち切り、あとで再度サインオンしてください。

SQLCODE: -00911 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ13114

メッセージ: DSQ11314 を参照してください。

DSQ13115

メッセージ: システム作業負荷が原因で照会は処理されませんでした。

説明: データベース・システムの作業負荷のために、いまは照会を処理することができません。

ユーザーの処置: 他の処理を続行し、あとでもう一度照会の実行を試みてください。現在のシステム作業負荷の詳細を知りたい場合には、QMF 管理者にお問い合わせください。

SQLCODE: -00915 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ13116

メッセージ: オペレーターの処置が原因で照会は処理されませんでした。

説明: システム・オペレーターが照会の処理を中断しました。照会にはエラーはありません。

ユーザーの処置: その後照会を実行してください。

SQLCODE: -00916 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ13130

メッセージ: DSQ11330 を参照してください。

DSQ13133

メッセージ: &V1 への通信経路が使用できません。

説明: 以下のいずれかの理由で、データベース &V1 をアクセスできません。

- データベースが停止されています。
- DB2 サーバー (VSE および VM 版) 仮想計算機に許された最大接続数 (MAXCONN) を超えています。
- DB2 サーバー (VSE および VM 版) システム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: データベース名 &V1. が正しいか確認してください。正しくない場合は、データベース名を訂正して、要求を再試行してください。

DB2 サーバー (VSE および VM 版) 仮想計算機に許される接続数の制限は DB2 サーバー (VSE および VM 版) 仮想計算機ディレクトリーの MAXCONN の値で設定されます。この制限を超えた場合、後でシステムのアクティビティが少なくなるとき要求を実行してみてください。この条

件が頻繁に起きる場合は、MAXCONN の値を増やすよう QMF 管理者に連絡してください。

"CONNECT TO <ロケーション>" コマンドがサポートされていれば、QMF は現在のロケーションに再接続します。この場合 QMF の使用を継続できます。QMF が再接続できない場合は、接続喪失プロンプト・パネルで別のロケーションに接続するよう指示されます。

SQLCODE: -00933 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ13139

メッセージ: DSQ11330 を参照してください。

ユーザーの処置: あとで、QMF のアクティビティが少なくなった時点で、この照会を再度実行してください。同じ状態が続く場合には、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ13140

メッセージ: データベース &V1 が作動可能でないか、または見つかりません。

説明: 下記のいずれかの理由により、このデータベースにはアクセスできません。

- データベースが開始されていない。
- データベース名 &V1 が DB2 サーバー (VSE および VM 版) アプリケーションの要求側に認識されていない。
- システム・エラーが発生しました。たとえば、AVS ゲートウェイとサーバーの LU 間に SNA セッションが開設されていないか、または中間通信サーバー (TSAF や AVS など) がアクティブではありません。
- アプリケーション・プログラムまたはアプリケーション・サーバーが異常終了した後に、VM システムにより COMDIR がアンロードされた。

ユーザーの処置: データベース名 &V1. が正しいか確認してください。正しくない場合は、デー

データベース名を訂正して、要求を再試行してください。

"CONNECT TO <ロケーション>" コマンドがサポートされていれば、QMF は現在のロケーションに再接続します。この場合 QMF の使用を継続できます。QMF が再接続できない場合は、接続喪失プロンプト・パネルで別のロケーションに接続するよう指示されます。

SQLCODE: -00940 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ13142

メッセージ: DSQ11330 を参照してください。

DSQ13143

メッセージ: QMF 仮想計算機 &V2 はデータベース &V1. にアクセスできません。

説明: QMF 仮想計算機が正しく定義されていません。QMF 仮想計算機の A ディスクにあるファイル ARISRMBT MODULE に、QMF がアクセスしようとしているデータベース・プログラムが記述されていません。

ユーザーの処置: このメッセージが出たことを QMF 管理者に知らせ、その指示を待ってください。QMF 仮想計算機が正しく定義されるまでは、なにもすることはできません。

SQLCODE: -00943 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ13145

メッセージ: アクセス・モジュールの DBSPACE がすべていっぱいなので、視点を作成できません。

説明: アクセス・モジュールの DBSPACE がすべていっぱいなので、アクセス・モジュール用に別の DBSPACE を得た後でなければ、視点を正しく作成することができません。DBSPACE の使

用可能なアクセス・モジュールがすべて使用されている場合や、DBSPACE に使用可能なフリー・スペースがない場合は、DBSPACE はいっぱいになります。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して、アクセス・モジュール用の追加 DBSPACE を取ってもらい、再度照会を実行してください。

SQLCODE: -00945 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ13146

メッセージ: DBSPACE 番号 &V1. には、十分な余裕がないので視点を作成できません。

説明: DBSPACE 番号 &V1 がいっぱいであるために視点を作成できませんでした。DBSPACE の使用可能なアクセス・モジュールがすべて使用されている場合や、DBSPACE に使用可能なスペースがない場合は、DBSPACE はいっぱいになります。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して、アクセス・モジュール用の追加 DBSPACE を取ってもらい、再度照会を実行してください。

SQLCODE: -00946 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ13148

メッセージ: DB2 サーバー (VSE および VM 版) への接続は、オペレーターの処置のため切断されました。

説明: DB2 サーバー (VSE および VM 版) 仮想計算機のオペレーターが FORCE コマンドを入力したため、現行の作業論理単位の ROLLBACK を引き起こし、DB2 サーバー (VSE および VM 版) システムへの接続を切断しています。ユーザー ID、パスワード、データベース名はすべてデフォルト値にリセットされます。

ユーザーの処置: 継続できます。発行した明示的 CONNECT はすべて、失われました。元々の接続

を再確立するには、同じユーザー ID を使用して、再度、明示的 CONNECT 要求を発行する必要があります。

SQLCODE: -00948 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: SQL Query

DSQ14000 - DSQ14014

メッセージ: SQL ステートメントを入れるにはバッファが小さすぎます。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ14020 - DSQ14021

メッセージ: モジュール &1 の内部エラーを検出しました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ14045

メッセージ: DSQ10093 を参照してください。

DSQ14076

メッセージ: DSQ10076 を参照してください。

DSQ14077

メッセージ: DSQ10077 を参照してください。

DSQ14078

メッセージ: DSQ10078 を参照してください。

DSQ14079 - DSQ14080

メッセージ: DSQ10012 を参照してください。

DSQ14081

メッセージ: DSQ10081 を参照してください。

DSQ14082

メッセージ: DSQ10016 を参照してください。

DSQ14084

メッセージ: DSQ10084 'SELECT' を参照してください。

DSQ14085

メッセージ: データベースからの行の長さが 32,767 を超えています。

説明: 照会によって選択された行が長すぎて処理ができません。

ユーザーの処置: 選択した列のリストからなにかを除去して、データ行の長さが 32,767 以下になるようにしてください。各列の最小の幅はデータ長に 2 を加えた値です。254 文字より広い列は、32,767 の制限を超えないようにするために、必要に応じて QMF によって切り捨てられます。

DSQ14086

メッセージ: DSQ10016 を参照してください。

DSQ14087

メッセージ: DSQ10317 を参照してください。

DSQ14088

メッセージ: データベースからの行の長さが 32,767 を超えています。

説明: &V1 コマンドによって選択された行が長すぎて処理できません。

ユーザーの処置: 使用する列の数を表の全列数より少なく (32,767 文字未満に) した照会を書いて実行してください。各列の最小の幅はデータ長に 2 を加えた値です。254 文字より広い列は、32,767 の制限を超えないようにするために、必要に応じて QMF によって切り捨てられます。

DSQ14089

メッセージ: DSQ10016 を参照してください。

DSQ14091

メッセージ: DSQ10012 を参照してください。

DSQ14092

メッセージ: DSQ10016 を参照してください。

DSQ14093

メッセージ: DSQ10012 を参照してください。

DSQ14094

メッセージ: データ・タイプ &V1 はサポートされません

説明: 参照した表の列に、サポートされないデータ・タイプ &V1 を持つ列があります。

ユーザーの処置: データ・タイプ &V1 は、QMF DRAW コマンドおよび 表編集プログラムでのみサポートされます。その他の状態でも、データ・タイプ &V1 は参照できません。

DSQ14095

メッセージ: DSQ10093 を参照してください。

DSQ14176

メッセージ: DSQ10076 関数を参照してください。

DSQ14177

メッセージ: DSQ10077 を参照してください。

DSQ14178

メッセージ: DSQ10078 を参照してください。

DSQ14179, DSQ14180

メッセージ: DSQ10012 を参照してください。

DSQ14181

メッセージ: DSQ10081 を参照してください。

DSQ14182

メッセージ: DSQ10016 を参照してください。

DSQ14184

メッセージ: DSQ10084 を参照してください。

DSQ14186 - DSQ14189

メッセージ: DSQ10016 を参照してください。

DSQ14191

メッセージ: DSQ10012 を参照してください。

DSQ14192

メッセージ: DSQ10016 を参照してください。

DSQ14193

メッセージ: DSQ10093 を参照してください。

DSQ14200 - DSQ14205

メッセージ: 必要な記憶域を割り当てることができませんでした。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ14206

メッセージ: DSQ10016 を参照してください。

DSQ14207

メッセージ: テンプレート・ツリーを作成できませんでした。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ14210

メッセージ: 選択式を追加することができませんでした。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ14212

メッセージ: RM 呼び出しエラー - 関数 (&1) CRC(&2) CSI(&3)。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ14213 - DSQ14220

メッセージ: リポジトリ管理プログラムの呼び出しのさいに内部エラーが発生しました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ14221

メッセージ: DSQ14212 を参照してください。

DSQ14223

メッセージ: DSQ14207 を参照してください。

DSQ14224, DSQ14225

メッセージ: DSQ10016 を参照してください。

DSQ14226

メッセージ: DSQ14213 を参照してください。

DSQ14227

メッセージ: リポジトリ管理プログラムが無効なデータを受け取りました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ14228, DSQ14229

メッセージ: DSQ10016 を参照してください。

DSQ14230 - DSQ14252

メッセージ: RM 呼び出しエラー - 関数 (&1) CRC(&2) CSI(&3) 戻りコード (&4)。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ14253, DSQ14254

メッセージ: DSQ14227 を参照してください。

DSQ14255 - DSQ14257

メッセージ: DSQ14213 を参照してください。

DSQ14258, DSQ14259

メッセージ: DSQ14230 を参照してください。

DSQ14260

メッセージ: DSQ14213 を参照してください。

DSQ14261

メッセージ: DSQ14227 を参照してください。

DSQ14400

メッセージ: 必要な記憶域を割り当てることができませんでした。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ14401, DSQ14402

メッセージ: DSQ14230 を参照してください。

DSQ14403 - DSQ14411

メッセージ: DSQ14230 を参照してください。

DSQ14412, DSQ14413

メッセージ: 照会のリセット中にエラーが起きました。エラー (&1)。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しまし

た。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できません。

DSQ14414, DSQ14415

メッセージ: DSQ10016 を参照してください。

DSQ14416 - DSQ14421

メッセージ: DSQ14213 を参照してください。

DSQ14422 - DSQ14425

メッセージ: DSQ14227 を参照してください。

DSQ14426

メッセージ: DSQ14213 を参照してください。

DSQ14427

メッセージ: DSQ10016 を参照してください。

DSQ14428

メッセージ: DSQ14213 を参照してください。

DSQ14438, DSQ14439

メッセージ: DSQ10012 を参照してください。

DSQ14440, DSQ14441

メッセージ: DSQ14020 を参照してください。

DSQ14442

メッセージ: DSQ10076 関数を参照してください。

DSQ14443, DSQ14444

メッセージ: DSQ14020 を参照してください。

DSQ15101

メッセージ: 照会が長すぎるか、または複雑すぎます。

説明: QBE 照会の結果生成された SQL ステートメントが長すぎるかまたは複雑すぎて、解釈できません。これは、次のものの数を減らすことによって簡素化できます。

1. あるデータ・タイプから別のデータ・タイプへの変換
2. 10 進演算
3. 挿入される定数
4. 組み込み関数

ユーザーの処置: 照会を短くするか、または 2 つ以上の照会として書き直してください。分割方法には、中間結果の表を生成するための照会をまず作成します。その表を保管し、これを用いて最終結果を出すための第 2 の照会を作成します。

SQLCODE: -00101 **Database:** DB2

QMF Function: QBE

DSQ15103

メッセージ: &V1 は数字で始まっていますが、有効な数値ではありません。

説明: &V1 は数字で始まっています。しかし、有効な整数、10 進数、または浮動小数点数ではありません。指定する内容が、

1. 浮動小数点数の場合、「E」の次に正または負の符号を付け、その次に指数を指定してください。

2. 文字定数の場合、単一引用符で囲んでください。

3. 名前の場合、数字で始まってはなりません。別の名前を指定してください。

ユーザーの処置: &V1 を訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00103 **Database:** DB2

QMF Function: QBE

DSQ15104

メッセージ: 照会の中の NULL、式、または比較が無効です。

説明: 照会で NULL を使う場合、= の右側に指定するようにしてください。また、NULL を式の一部または式を含む条件の一部とはしないようにしてください。

照会で I. を使う場合に I. 行がほかの行との関係を含んでいなければ、I. 行の中では定数だけを使うようにしてください。

照会で U. を使う場合には、U. を含む列に比較演算子が含まれないようにしてください。

ユーザーの処置: 無効な使われ方をしている NULL を訂正するか、I. を含む行から式を除去するか、U. を含む行から比較演算子を除去するかしてください。

SQLCODE: -00104 **Database:** DB2

QMF Function: QBE

DSQ15113

メッセージ: 名前 &V1 に無効な文字が含まれています。

説明: データベース、記憶域グループ、表スペース、およびバッファ・プールの名前に使用できる文字は、英字の大文字、国別文字 (*、&&、または @)、および数字だけです。最初の文字は、英字または国別文字でなければなりません。

ユーザーの処置: 名前 &V1 の無効な文字を訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00113 **Database:** DB2

QMF Function: QBE

DSQ15118

メッセージ: D、I、または U. の入った行が同じ表の中の行に連係することはできません。

説明: D、I、または U. の入った行を、それと同じ表を参照する別の行に連係させることはできません。

ユーザーの処置: 連係を除去し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00118 **Database:** DB2

QMF Function: QBE

DSQ15120

メッセージ: 照会に、視点に対する無効な参照があります。

説明: 視点の定義で GROUP BY で使用された列は、更新することや、条件で使用することはできません。組み込み関数で定義されている列は更新できません。

誤:

```
CREATE VIEW VJ(A, B) AS
SELECT JOB, AVG(COMM)
FROM Q.STAFF GROUP BY JOB
```

```
VJ | A | B |
-----+-----+---|
      | MGR |   |
```

次に示す照会は無効です。なぜなら、列 A が暗黙条件の中で使用されているからです。

さらに、列 A も列 B も、U. とともに使用することはできません。

ユーザーの処置: 視点の基礎となっている表にアクセスするための照会を作成してください。

SQLCODE: -00120 **Database:** DB2

QMF Function: QBE

DSQ15121

メッセージ: 同一の照会で同じ列を二度変更することはできません。

説明: 「変更」には、挿入 (I.) および更新 (U.) が含まれます。たとえば、次の照会は無効な例で、"YEARS" (勤続年数) という列は 2 回以上変更することはできません。

誤:

Q.STAFF	ID	YEARS	JOB	YEARS
I.	400	7	CLERK	8

ユーザーの処置: 照会を変更して、実行し直してください。

SQLCODE: -00121 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15123

メッセージ: &V1 の位置のパラメーターは、定数またはキーワードである必要があります。

説明: 関数 &V2 の &V1 の位置のパラメーターは、定数であるよう要求された場合に定数でないか、またはキーワードであるよう要求された場合にキーワードではありません。

ユーザーの処置: 関数呼び出しを訂正して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00123 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15127

メッセージ: 1 つの行に対して複数の UNQ. または COUNT. 参照があります。

説明: 1 つの行には、UNQ. または CNT. 参照は 1 つしか指定できません。次の無効な照会では、Q.STAFF 表の同じ列に対し、CNT. と UNQ. の両方の参照が指定されています。

無効な
照会 :

Q.STAFF	DEPT	SALARY	YEARS
P.G.	_S	_Y	

CONDITIONS	
P.CNT._S	AVG.UNQ._Y > 5

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00127 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15129

メッセージ: 照会で 15 を超える表参照が用いられています。

説明: 1 つの照会で、15 を超える表参照を行うことはできません。

ユーザーの処置: 照会を 2 つ以上の照会に分割し、それぞれの表参照が 15 以下になるようにしてください。

SQLCODE: -00129 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15131

メッセージ: LIKE に、適合できないデータ・タイプが指定されています。

説明: 列の名前が文字タイプのものであれば、LIKE または NOT LIKE の右にある式も文字タイプでなければなりません。同様に、列の名前が漢字タイプのものであれば、LIKE または NOT LIKE の右にある式も、漢字タイプのものでなければなりません。

ユーザーの処置: すべてのオペランドのデータ・タイプを調べて、もう一度、照会し直してください。

SQLCODE: -00131 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15134

メッセージ: 幅広の文字列が間違っ使われています。

説明: 文字データ・タイプで 254 文字を超える幅の列を使う場合には、いくつかの制限があります。このような列は、探索条件、ソート、または算術演算に使用することはできません。また、このような列に対する挿入または更新に使用する値は定数でなければならず、副照会の結果として得られた値であってはなりません。

QBE 照会では、このような列の中で使用できる照会は、P.、I.、または U. 演算子だけです。

ユーザーの処置: 幅の広い文字列の使用を変更するか、またはその列を除去して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00134 **Database:** DB2

QMF Function: QBE

DSQ15136

メッセージ: 複合ソート・キーが長すぎるため表のソートができません。

説明: 複合ソート・キーは次の内のどちらかから導き出されます。

1. 例示表の中で AO.、DO.、または G. が使用されていないならば、検索されるすべての列がソートの公式化に使われます。
2. 列のすべてに AO. または DO. が含まれています。
3. G. 演算子を含む列。

複合ソート・フィールドの長さが 4000 を超えている場合には、表のソートはできません。

ユーザーの処置: 複合ソート・キーをもっと短くしてください。

SQLCODE: -00136 **Database:** DB2

QMF Function: QBE

DSQ15150

メッセージ: この視点の中のデータを変更することはできません。

説明: INSERT、UPDATE、または DELETE を次のような視点に使用できません。

1. 複数の表をもととしているもの。
2. 式または組み込み関数によって定義された列を含む視点。例: UNITS*PRICE, AVG(SALARY)
3. DISTINCT または GROUP BY を使用する SELECT ステートメントによって定義されたもの。
4. 参照表にすべての非 NULL 可能列を含まないもの。

ユーザーの処置: 視点の作成に使われた各表を変更するために、それぞれ異なる照会を書いてください。

SQLCODE: -00150 **Database:** DB2

QMF Function: QBE

DSQ15151

メッセージ: 列 &V1 は変更できません。

説明: INSERT、UPDATE、または DELETE (SQL の場合) の使用、または I.、U.、または D. (QBE の場合) の使用で、下記の中の列を変更できません。

1. 複数の表に基づく視点
2. 式または組み込み関数によって定義される列を含む視点 例: UNITS*PRICE または AVG(SALARY)
3. DISTINCT または GROUP BY を使用する SELECT ステートメントによって定義された視点
4. 表スペースの区分化キー
5. 列が更新されることのないカタログ表

ユーザーの処置: 視点の作成に使われた各表を

更するために、それぞれ異なる照会を書いてください。

SQLCODE: -00151 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15155

メッセージ: 照会で、グループ化で定義された視点が使用されています。

説明: 定義に GROUP BY または HAVING が使用されている場合には、視点はグループ化で定義されます。このような視点は、ほかの視点または表とともに照会の中で使用することはできません。

ユーザーの処置: 次のような方法をとってください。

1. グループ化で定義した視点からデータの選択に照会を実行する。
2. そのデータを新しい表として保管する。
3. 新しい表からのデータを他の視点および表からのデータとともに選択する照会を実行する。

SQLCODE: -00155 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15161

メッセージ: 挿入または更新の値が視点定義の条件を満たしていません。

説明: データを変更しようとしている視点の定義の中で、WITH CHECK オプションが使用されています。このような視点の行の挿入または更新を行おうとすると、その結果が視点の定義に適合するかどうかの検査が必ず行われます。照会の中に、その定義の中の条件を満たさない値があります。

ユーザーの処置: 視点の定義を調べて、変更が拒否された理由を判断し、照会中の該当する値を変更してください。

SQLCODE: -00161 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15180

メッセージ: 日時の値 &V1 が無効です。

説明: 有効な日付を表すストリングは、次のいずれかかの形式です。

'mm/dd/yyyy' 'dd.mm.yyyy' 'yyyy-mm-dd'
または LOCAL 形式

有効な時刻を表すストリングは、次のいずれかの形式です。

'mm/dd/yyyy' 'dd.mm.yyyy' 'yyyy-mm-dd'
または LOCAL 形式

有効なタイム・スタンプを表現するストリングは、次の形式です。

'yyyy-mm-dd-hh.mm.ss.nnnnnn'

ユーザーの処置: 日時値の構文を変更して、再度その照会を実行してください。

SQLCODE: -00180 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15181

メッセージ: 日時の値が無効です。

説明: 日時値を表すストリングの値が、範囲外にあります。日時値の正しい範囲は次のとおりです。

年	-	1	から	9999
月	-	1	から	12
日	-	1	から	31
時	-	0	から	24
分	-	0	から	59
秒	-	0	から	59

ユーザーの処置: 日時の値を訂正して、再度照会し直してください。

SQLCODE: -00181 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15182

メッセージ: 日付時刻の値を使っている算術式が無効です。

説明: 指定された算術式で、日付時刻か、単一の期間の使用方法が、間違っています。正しい使用例を以下に示します。

```
Q.PROJECT | STARTD |  
-----+-----  
          | _D   | P._D + 10102433. |
```

ユーザーの処置: 日付時刻値を調べて再度、照会し直してください。

SQLCODE: -00182 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15183

メッセージ: 日付、またはタイム・スタンプに関する算術演算で、無効な結果が出ました。

説明: 日付、またはタイム・スタンプの値を求める算術演算で、有効範囲外の値が求められました。有効な日付は、0001-01-01 から 9999-12-31 までです。

ユーザーの処置: 日時の値を訂正して、再度照会し直してください。

SQLCODE: -00183 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15185

メッセージ: 日付または時刻の値をフォーマット設定できません。

説明: 次のいずれかの状況が起きています。

1. LOCAL オプションを使って日付または時刻の値を書式化しようとしたが、使用可能なインストール先定義の日付または時刻ルーチンが存在しない。
2. 日付または時刻の値をstringで表現して指定したが、stringがデータベースの認識できる形式ではない。または、そのstringを処理できるインストール先定義の日付または時刻ルーチンが存在しない。

ユーザーの処置: 日付または時刻の値のstring表現を認識可能な形式に変更するか、QMF 管理者に連絡してデータベースでインストール先定

義の日付・時刻ルーチンを利用可能にしてもらってください。

SQLCODE: -00185 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15204

メッセージ: &V1 が見つかりません。

説明: 照会の中で &V1. が参照されています。データベースにこの名前を持つものがありません。

ユーザーの処置: スペルの誤りがないかどうかを検査してください。

SQLCODE: -00204 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15205

メッセージ: 列名 &V1 は表 &V2. の中にありません。

説明: 列名 &V1. が指定されています。これは、表 &V2. の中に見つかりませんでした。名前のスペルが違っているか、または表名を修飾する必要があると考えられます。

ユーザーの処置: 列名と所有者が正しいかどうか、およびスペルが正しいかどうかを検査してください。

SQLCODE: -00205 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15206

メッセージ: 列 &V1 は、指定された表の中にありません。

説明: 例示表の列名として &V1 が入力されていますが、これはデータベース内の、その表の列ではありません。

ユーザーの処置: 列名を変更してください。すべての列名が正しく記入されている例示表を取得するには、コマンド「DRAW テーブル名」(テーブル名は表の名前)を実行してください。

SQLCODE: -00206 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15250

メッセージ: 位置の修飾子は使用できません。

説明: 指定された名前には、位置の修飾子があります。3つの部分からなるオブジェクト名は、ローカルの位置名が定義されるまでは使用できません。

ユーザーの処置: 位置の修飾子を除去し、照会を再試行してください。QMF 管理者に連絡して、正しいデータベースを使用していることを確認するか、ローカルの位置名を定義してもらってください。

SQLCODE: -00250 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15251

メッセージ: &V1 は、無効な位置名です。

説明: &V1 には、英字の特殊文字 (#, @, \$) が含まれています。これらの文字は、位置名に使用することはできません。

ユーザーの処置: 位置名を訂正し、再試行してください。

SQLCODE: -00251 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15270

メッセージ: 関数はサポートされていません。
(理由コード =&V1)

説明: 以下のいずれかの理由コードで示されたように制約に違反しているため、ステートメントを処理することができません。

- (1) 基本キーおよび各索引には、表の区分化列がすべて含まれている必要があります。
- (2) 区分化キー列値の更新はサポートされていません。
- (3) 参照保全是サポートされていません。

ユーザーの処置: 理由コードに対応する処置を次に示します。

- (1) CREATE TABLE、ALTER TABLE または CREATE UNIQUE INDEX ステートメントを訂正してください。
- (2) 多重ノード表の区分キー列を更新しないようにしてください。行を削除して、新規の値の行を区分化列に挿入し、更新をシミュレートすることができます。
- (3) CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 文節を除去してください。

SQLCODE: -00270 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15312

メッセージ: ID &V1. に対する文脈が無効です。

説明: 照会の中のなにかが、プリプロセッサに送り込まれる照会の中では有効ですが、QMF の中には無効です。ID またはその前の予約語のどれかにエラーがあるものと考えられます。

誤:
WHERE NAME IN (JONES, SMITH)
('JONES' と 'SMITH' を単一引用符で
囲んでください)

誤:
WHERE NAME = :JONES
(": " は無効)

誤:
SELECT NAME INTO TYPE
(INTO ではなく FROM を使用)

ユーザーの処置: 照会を訂正して、再実行してください。

SQLCODE: -00312 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15313

メッセージ: DSQ10713 を参照してください。

ユーザーの処置: 照会を訂正し、その照会を再度実行してください。

DSQ15332

メッセージ: 文字ストリングが CCSID の未定義によって変換されませんでした。

説明: SQL ステートメントは、現行文字セットと違ったコード化文字セットの中にあるコード化文字セット (CCSID) &01 を持つ文字ストリングを参照しました。現行サーバーでこの文字ストリングを使用するには、ソース CCSID &01 からターゲット CCSID &02 に変換しなければなりません。&03 は、DB2 から戻された理由コードを示しています。

DB2 から戻された理由コードは、'DSN' で開始し、変換が要求された文脈を示します。'DSN' 以外で始まる値は、他の DB2 プラットフォームから戻されたもので、そのプラットフォームの資料で説明されています。

ユーザーの処置: 文字列および参照した値が正しいかどうか検査してください。誤りがあれば、必要な変更を行い、再度照会を試みてください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00332 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ15338

メッセージ: ON 文節の使用が無効です。

説明: ON 文節が以下のいずれかの理由で、誤って使用されています。

- 述部の式の 1 つは、関連した結合演算子のオペランドの 1 つの列のみを参照し、述部の別の式は、別のオペランド表の列のみを参照する必要があります。

- 結合演算子が FULL OUTER JOIN または FULL JOIN の場合にのみ、VALUE または COALESCE 関数を ON 文節で使用できます。
- '=' 以外の演算子は、FULL OUTER JOIN または FULL JOIN では許可されていません。

ユーザーの処置: ON 文節の構文を訂正して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00338 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15351

メッセージ: 位置 &V1. のデータ・タイプが無効です。

説明: アプリケーション・リクエストによりサポートされない SQL データ・タイプがあります。&V1 は、無効なデータ・タイプを持つ SQLDA の最初のエレメントです。このエラーの一般的な原因として、アプリケーション・リクエストがアプリケーション・サーバーにあるラージ・オブジェクト・データを記述しようとしたことが考えられます。このエラーの原因となる SQLTYPE には、LOB、BLOB、CLOB および DBLOB があります。

ユーザーの処置: 無効なデータ・タイプを除去し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00351 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15399

メッセージ: ROWID 列に無効な値があります。

説明: ROWID 列に無効な値を挿入しようとした。

ユーザーの処置: 前もって DB2 で生成された ROWID の値だけを ROWID 列に挿入する値として使用することができます。代替手段として、ROWID 列の値としてキーワード DEFAULT を指定した行を挿入するか、または挿入用の列リストから ROWID 列を除去してください。

この状況に使用できる解決策として、

OVERRIDING 文節も使用できます。
OVERRIDING USER VALUE 文節についての詳細は、「DB2 SQL 解説書」の INSERT を参照してください。

DSQ15401

メッセージ: 式または条件の中で、異なるタイプのデータを用いることはできません。

説明: 1 つの式または条件の中で、異なるタイプのデータを使用しています。たとえば、以下は文字データ (SMITH) と数値データ (_SALARY) を比較しているため、無効です。

無効な例: _SALARY = SMITH

ユーザーの処置: 同じタイプのデータが使用されるように、該当するすべての式または条件を訂正してください。

SQLCODE: -00401 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15402

メッセージ: 算術式に文字データが含まれていません。

説明: 算術式、および組み込み関数 AVG と SUM を用いる式では、数値データしか使用することができません。照会で用いている式の中には文字データがあります。

ユーザーの処置: 数値データだけを用いて式を書きなおい、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00402 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15404

メッセージ: 与えられた値が列 &V1. には長すぎます。

説明: 列 &V1 に入れようとしている文字数が、その列の最大行数を超えています。

ユーザーの処置: その列に収まるように値を変更して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00404 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15405

メッセージ: 数値 &V1 はユーザーの列の許容範囲外にあります。

説明: &V1 は、該当の列に許される範囲外の値です。

適切な SQL の値の範囲は次のとおりです。

FLOAT -7.2E75 から -5.4E-79, 0,
 5.4E-79 から 7.2E75
INTEGER -2147483648 から 2147483647
SMALLINT ... -32768 から 32767
DECIMAL 範囲は列の精度と位取りによって決まります。たとえば、精度 = 5、位取り = 2 で定義された 10 進数の列に指定される場合、その値は、-999.99 から 999.99 です。

ユーザーの処置: &V1 を変更し、処理を続けてください。

SQLCODE: -00405 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15406

メッセージ: 数値が、列に使用できる値の範囲外にあります。

説明: 照会に指定されている値が、関連する列に使用可能な値の範囲内にありません。値は、式の結果としての値の場合もあります。

適切な SQL の値の範囲は次のとおりです。

FLOAT -7.2E75 から -5.4E-79, 0,
 5.4E-79 から 7.2E75
INTEGER -2147483648 から 2147483647
SMALLINT ... -32768 から 32767
DECIMAL 範囲は列の精度と位取りによって決まります。たとえば、精度 = 5、位取り = 2 で定義された 10 進数の列に指定される場合、その値は、-999.99 から 999.99 です。

ユーザーの処置: 許容範囲内の値を指定してください。値を正しい列に入力しているか、確認してください。

SQLCODE: -00406 Database: DB2
QMF Function: QBE

DSQ15407

メッセージ: NOT NULL と定義された列に NULL を入れることはできません。

説明: 照会で、NOT NULL と指定されている列に NULL を入力しようとして I. または U. が用いられています。次に示す照会では、ID に NULL を挿入しようとしていますが、ID は NOT NULL 列として定義されています。I. 行では、NULL は下記の列に入力されることに注意してください。

1. 挿入値を持たない指定された列
2. NULL を含む列
3. 表を定義しているが、照会で指定していない列

```
Q.STAFF | ID | NAME | DEPT |
-----+-----+-----+-----+
I.      |   | 'J.Harris' |   |
        | YEARS |
        +-----+
        | NULL |
```

ユーザーの処置: NOT NULL 列に対して値を指定してください。

SQLCODE: -00407 Database: DB2
QMF Function: QBE

DSQ15408

メッセージ: 更新または挿入する値が、関連する列のデータ・タイプに合いません。

説明: この照会は、ある列の値を、互換性のある他の列の値で挿入 (または更新) しようとしています。たとえば、次に示す無効な照会は、文字列 (NAME) からの値を数値列 (ID) に挿入しようとしています。

無効な
照会:

```
MYSTAFF | ID | NAME |
```

```
-----+-----+-----+
I.      | _N | _N |
        |   |   |
Q.STAFF | ID | NAME |
-----+-----+-----+
        | _I | _N |
```

ユーザーの処置: 適合性のある値を使用してください。

SQLCODE: -00408 Database: DB2
QMF Function: QBE

DSQ15409

メッセージ: 照会中の名前の最初か終わりがブランクです。

説明: 名前の始まりと終わりはブランクではがなりません。無効な照会の例を次に示します。この例では、" YEARS" という名前の始まりに、ブランクがあるために無効です。

無効な
照会:

```
Q.STAFF | NAME | " YEARS" |
-----+-----+-----+
P.      |   |   |
```

ユーザーの処置: 名前から始めか、後ろのブランクを取り除いてください。

SQLCODE: -00409 Database: DB2
QMF Function: QBE

DSQ15410

メッセージ: '&V1' が 30 文字を超えています。

説明: 浮動小数点定数の長さは 30 文字を超えることはできません。

ユーザーの処置: &V1 を丸めて、30 文字以下で表されるようにしてください。

SQLCODE: -00410 Database: DB2
QMF Function: QBE

DSQ15411

メッセージ: "USER" の使い方が無効です。
USER が式の中で使われているか、または数字データか図形データと比較されています。

説明: USER は条件の中でだけ使用できます。また USER は数字データまたは図形データとは比較できません。下記は USER の有効な使い方の例です。

Q.STAFF	NAME	SALARY	COMM	YEARS
P.	USER			

ユーザーの処置: ユーザーの照会の中の USER の使用箇所を訂正して再度、照会し直してください。

SQLCODE: -00411 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15413

メッセージ: データ・タイプの変換中に算術オーバーフローが生じました。

説明: 算術オーバーフローが生じたために、算術演算または挿入演算の結果は無効です。たとえば、INTEGER のデータ・タイプを持つ値を SMALLINT のデータ・タイプの列に挿入しようとした可能性があります。INTEGER の値が十分に小さいものであれば変換を正常に行うことができます。しかし、32767 を超える値は、算術オーバーフローを招く結果となります。

ユーザーの処置: 演算を訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00413 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15414

メッセージ: 照会内の LIKE 演算子が、文字データまたはグラフィック・データを参照していません。

説明: LIKE 演算子は、文字データまたはグラフィック・データが含まれている列だけで使用でき

ます。照会では、文字データまたは漢字データが含まれていない列を参照するのに LIKE を使用しています。たとえば、次のようになります。

無効な
照会:

Q.STAFF	NAME	SALARY
P.		LIKE'20%'

ユーザーの処置: 数値データまたは日付 / 時刻データを参照している LIKE を削除し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00414 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15415

メッセージ: 2 つの異なる P. 行の同じ列に検索して入れるデータは、比較可能な定義をされていなければなりません。

説明: 照会の中に 2 つ以上の P. 行で比較できないデータが定義されています。この照会と同じ列にデータを検索して入れようとして失敗しました。P. 行のデータの定義は検索して比較に成功しなければなりません。さらに、同じ列に検索して入れられる列は同一のフィールド・プロシージャでなければならず、検索される列に提供される列 CCSID の値はフィールド・プロシージャをもたなければなりません。

次の照会では、数値データ (DEPT) と文字データを (JOB) を同じ列に入れようとしています。

無効な
照会:

Q.staff	DEPT	JOB
	_D	P. _D
		P. _J

ユーザーの処置: 同じ列には、比較ができる定義のデータを入れるようにしてください。

SQLCODE: -00415 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15416

メッセージ: 2つの異なる P. 行により検索されて同じ列に入れられるデータは、長い可変文字属性のデータを参照してはなりません。

説明: この照会は、2つのデータ・ソースから検索したデータを同じ列に入れようとしています。これらのデータ・ソースの少なくとも一方が、長い可変文字データとして定義されています。無効な例を下に示します。

```
無効な照会:  MYTABLE | LONGVARCHAR1 |
              -----+-----
                P. |
                P. |      _L2
              -----+-----

YOURTABLE | LONGVARCHAR2 |
           -----+-----
                |      _L2
           -----+-----
```

ユーザーの処置: 長い可変文字属性データに対する同一列内の参照を除去してください。

SQLCODE: -00416 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15417, DSQ15418

メッセージ: DSQ10713 を参照してください。

DSQ15419

メッセージ: 使用されている値を用いた 10 進除算はできません。

説明: 分子の精度または分母の位取りが、10 進除算を行うには大きすぎます。

ユーザーの処置: 10 進除算に使用する値の精度または位取りを変更してから、照会を再実行してください。INTEGER、または SMALL INTEGER の値が、この計算のために 10 進数に変換された可能性があることに注意してください。

SQLCODE: -00419 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15420

メッセージ: 無効な文字ストリング引き数が、&V1 関数で使用されました。

説明: 文字ストリング引き数が、関数の規則に合っていない。たとえば、DECIMAL 関数に渡される文字ストリングが、SQL 整数または 10 進数定数の形式の規則に合っていない。

ユーザーの処置: 引き数の値を変更して、関数の要件に合うようにしてください。

SQLCODE: -00420 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15430

メッセージ: &V1 &V2 は異常終了しました。

説明: &V1 &V2 (SPECIFIC NAME &V3) は、異常終了しました。次の SQLSTATE が戻されました: 42704。

ユーザーの処置: ストアード・プロシージャまたは関数を修正する必要があります。ルーチンの作成者またはデータベース管理者に連絡してください。修正されるまでそのルーチンは使用しないでください。

DSQ15441

メッセージ: DISTINCT または ALL を &V1. とともに使用することは無効です。

説明: キーワード DISTINCT または ALL が、関数 &V1. への参照の括弧内で検出されました。この関数はスカラー関数として認識されました。

ユーザーの処置: スカラー関数が使用されている場合、キーワード DISTINCT または ALL を除去してください。これはスカラー関数には無効です。

列関数を使用されている場合、関数解決に問題があります。特殊レジスター CURRENT FUNCTION PATH の値を検査してください。また関数名のスペル、および照会とシステム・カタ

ログの両方にあるパラメーターの数とタイプも検査してください。

SQLCODE: -00441 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15442

メッセージ: ルーチン &01 の参照エラーです。

説明: ルーチン &01 への参照で引き数の指定が多すぎます。使用できる最大数は 90 です。次の SQLSTATE が戻されました: &DSQSQLST。

ユーザーの処置: ステートメントを訂正して使用されている引き数の数が正しいことを確認し、照会を再度実行してください。

SQLCODE: -00442 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15443

メッセージ: 外部関数 &V1 がエラーを戻しました。

説明: 外部関数 &V1 (SPECIFIC NAME &V2) は、次の診断テキストを持つエラー SQLSTATE 42704 を戻しました。

&V3。SPECIFIC NAME の最初の 3 文字が 'DSQ' の場合、失敗した外部関数は QMF 関数です。失敗の原因を判別するには、「DB2 QMF メッセージおよびコード」を参照してください。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。

DSQ15495

メッセージ: この照会を行うと、DB2 のコストの見積りの制限を超えます。

説明: DB2 は、この照会でのコストの見積もりが、照会の実行を防ぐリソース限定機能 (DB2 管理プログラム) に指定された制限を超えると判別しました。

照会ステートメントのコスト見積りの詳細は、次のとおりです。

- コスト見積もりは &V2 サービス単位 * である。
- 指定された制限は &V4 サービス単位 * である。
- DB2 のコスト・カテゴリーは '&V3.' である。
- 約 &V1 プロセッサ・ミリ秒ほどかかる。
- * サービス単位はプロセッサ使用量の測度で、異なるプロセッサ・タイプ間でも一貫しています。

ユーザーの処置: コスト・カテゴリー値が 'B' の場合、DB2 管理者に援助を依頼してください。DB2 カタログ統計またはリソース限定表 (RLST) の更新が必要になることがあります。

SQL ステートメントの費やすプロセッサ時間があまりにも多い場合は、より効果的に実行できるようにステートメントを書き直して、照会を再実行してください。

次の事項について検査してください。

- 照会で選択された列で、使用されていないものはないか。
- 不必要な ORDER BY または GROUP BY 文節がないか。
- WHERE 文節が正しく記述されているか。
- 照会に副照会が含まれているか。
- 照会に列関数が含まれているか。

照会によっては、照会から GROUP BY 文節を除去し、代わりに QMF FORM の GROUP 取扱コードを使用すると、簡略化できる場合があります。

また照会によっては、外部結合や CASE 式などの拡張 SQL 構文を使用すると、パフォーマンスが向上する場合があります。

拡張分析の場合、EXPLAIN SQL ステートメントを使用して、照会の構造および実行パフォーマンスについての情報を収集できます。

照会および EXPLAIN ステートメントの情報については、SQL 解説書を参照してください。

照会の調整、および効率的な述部および副照会の記述の詳細については、「DB2 UDB for z/OS Administration Guide」を参照してください。

SQLCODE: -00495 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15512

メッセージ: リモートのオブジェクトを参照する照会が無効です。

説明: 以下に示した無効条件の 1 つがあります。

1. 照会が複数のロケーションを参照している。
2. 照会が別名を不正に使用している。
3. 照会がリモートのオブジェクトを参照していますが、この参照が無効です。たとえば、現在のロケーション以外のロケーションにある表を CREATE または DROP できません。

ユーザーの処置: リモート・オブジェクトの使用法については、「DB2 UDB for z/OS SQL Reference」を参照してください。

SQLCODE: -00512 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15513

メッセージ: 別名 &V1 は他のローカルかリモートの別名として定義できません。

説明: &V1 によって示されたオブジェクトは、示された位置に存在しますが、その位置で別名として定義されています。

ユーザーの処置: すべてのオブジェクト参照が表された位置にある表、または視点になることを確認するために照会を変更してください。

SQLCODE: -00513 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15530

メッセージ: DSQ10930 を参照してください。

DSQ15471

メッセージ: 理由 &V2 により、関数またはプロシージャ &V1 の呼び出しに失敗しました。

説明: ルーチンが呼び出されましたが、呼び出しは許可されていませんでした。戻された DB2 理由コードは &V2 です。失敗の原因を判別するには、「DB2 UDB for z/OS Message and Codes」を参照してください。ステートメントは実行できません。エラーを説明する DSN9xx メッセージが、MVS システム・コンソールに表示される場合があります。次の SQLSTATE が戻されました: 42704。

ユーザーの処置: DB2理由コードで説明された状態を訂正して、関数またはストアード・プロシージャを再実行してください。

SQLCODE: -00513 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15531

メッセージ: 親行の基本キー &V1 は更新できません。

説明: 更新要求で更新される表の基本キーの値を指定していますが、その基本キーによって指定されている行には関連する従属行があります。親行の基本キーの値は、親行に従属行がある場合は更新できません。

ユーザーの処置: 更新する行として正しい行を指定したか確認してください。親行の基本キーの値を更新する前に、親行に従属行があってはなりません。

SQLCODE: -00531 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15532

メッセージ: RESTRICT 削除規則のため、行は削除できません。

説明: 削除操作で親行を削除しようとした。しかし、その親行は削除できません。それは、RESTRICT の削除規則がこの削除操作によって影響を受ける表と関連しているからです。その親行に RESTRICT の削除規則との関係で従属表が存在するか、または削除が RESTRICT の削除規則との関係で従属表になっている行にカスケードするからです。

ユーザーの処置: 削除する正しい行を選択しているか確認してください。選択している場合は、RESTRICT の削除規則によって従属行を削除した後、親行を削除してください。

SQLCODE: -00532 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15533

メッセージ: 自己参照表には複数行を挿入できません。

説明: 自己参照表には、I. を使用して一度に複数行を挿入することはできません。

ユーザーの処置: 挿入要求で 1 行のデータ行だけ挿入することを確認してください。

SQLCODE: -00533 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15534

メッセージ: 複数行の基本キー、または固有制約は更新できません。

説明: U. を使用して、一度に複数行の基本キーまたは固有制約を更新できません。

ユーザーの処置: 更新要求がデータ行を 1 行だけ選択することを確認してください。

SQLCODE: -00534 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15536

メッセージ: 表 &V1 が影響を受ける可能性があるため、削除は無効です。

説明: 表 &V1 の値による表からの削除操作を実行するために、D. は使用できません。それは、表 &V1 はその削除によって影響を受ける可能性があるからです。

ユーザーの処置: 影響を受ける可能性がある表の中の値に基づいて、表に対する削除操作を実行しないでください。

SQLCODE: -00536 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15540

メッセージ: 表 &V1 には、基本キーの基本索引がありません。

説明: 表 &V1 は使用できません。その表には基本キーはありますが、基本索引がありません。

ユーザーの処置: 表の参照に先立って、その表に対する基本キーを定義してください。

SQLCODE: -00540 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15551, DSQ15552

メッセージ: 照会の実行に必要な権限がありません。

説明: QBE 照会で次に示す演算子の 1 つが使用されています。したがって、該当する表に対してこの演算子に対応する権限が必要です。

D. -- DELETE
I. -- INSERT
P. -- SELECT
U. -- UPDATE

ユーザーの処置: 照会に必要な許可を得るために QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00551 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15607

メッセージ: このカタログ・オブジェクトに対して &V1 は使用できません。

説明: SQL ステートメントで指定されたどのカタログ・オブジェクトに対しても

INSERT、UPDATE または DELETE は使用できません。カタログ・オブジェクト

SYSINDEXES、SYSKEYS および

SYSINDEXPART で、索引の DEFER YES オプションは使用できません。

ユーザーの処置: この操作は行わないようにしてください。

SQLCODE: -00607 **Database:** DB2

QMF Function: QBE

DSQ15618

メッセージ: システム・データベースに対しては &V1 はできません。

説明: システム・データベースは、&V1. も含めて特定の操作の対象とすることはできません。

ユーザーの処置: この操作は行わないようにしてください。

SQLCODE: -00618 **Database:** DB2

QMF Function: QBE

DSQ15642

メッセージ: 固有キーに指定された桁が多過ぎます。

説明: ユーザーの CREATE TABLE ステートメントの UNIQUE 文節にある桁が多過ぎます。指定された合計の桁数がデータベース制限を超えています。

ユーザーの処置: UNIQUE 文節のキーの合計桁数を減らすようにしてください。データベースの制限については、「DB2 UDB for z/OS SQL Reference」を参照してください。

SQLCODE: -00642 **Database:** DB2

QMF Function: QBE

DSQ15652

メッセージ: プロシージャ &V1 が結果を拒否しました。

説明: &V1 は照会の結果の編集または検証を目的としてインストール先で定義されているプロシージャです。照会の結果が、このプロシージャの要件を満たしていませんでした。

ユーザーの処置: インストール先の編集および検証プロシージャについては、QMF 管理者に説明を求めてください。

SQLCODE: -00652 **Database:** DB2

QMF Function: QBE

DSQ15659

メッセージ: 表オブジェクトの最大サイズを超えました。

説明: 表を構成している 1 つまたは複数のオブジェクトが、最大サイズに達しました。表を構成している記憶域オブジェクトを以下に示します。

- データ-基本列データが保管されている場所です。
- 索引 - 表のすべての索引が格納されている場所です。
- 長データ - LONG VARCHAR および LONG VARGRAPHIC 列データが格納されている場所です。
- LOB/LOB - BLOB、CLOB および DBCLOB 列データ、および制御情報が格納されている場所です。

一度記憶域オブジェクトがその最大サイズになると、それ以上拡張することはできません。

ユーザーの処置: オブジェクト内の既存のスペースを新規データを保管するのに使用するには、以下を行うことができます。

- 表を再編成する。
- 表から不必要な行を削除する。
- 表から索引を除去する。

- 行を更新してデータの量を減らす。

SQLCODE: -00659 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15666

メッセージ: ユーティリティ、リソース限定機能、または分散データ機能が実行中です。

説明: システム・ユーティリティが実行中の場合は、照会が実行される前に、実行を完了しなければなりません。リソース限定機能が実行中の場合は、照会が実行される前に、停止されるかまたは別のリソース限定管理表に切り替えられなければなりません。分散データ機能が実行中の場合、通信データベースのオブジェクトが除去される前に停止していなければなりません。

ユーザーの処置: ユーティリティが終了するまで待つか、またはリソース限定機能が停止するか別のリソース限定管理表に切り替えられるまで待ち、照会を再度実行してください。または、分散データ機能が停止するまで待ち、そのオブジェクトを除去してください。

SQLCODE: -00666 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15681

メッセージ: 列 &V1 が、インストール先で定義したフィールド・プロシージャに違反しました。 RT: &V2, RS: &V3, MSG: &V4.

説明: 列 &V1 で、フィールド・プロシージャの誤りがありました。 下記の戻りコード (RT) で、問題点を調べてください。

- 4 エンコードまたはデコード作業時に、無効な値があったか、または列の定義が無効です。
- 8 パラメーターの値が無効です。
- 12 フィールド・プロシージャのエラーが関数のいずれかにありました。

詳細は、理由コード (RS) およびメッセージ (MSG) を利用してください。

ユーザーの処置: フィールド・プロシージャに誤りがない場合には、そのフィールド・プロシ

ジャーに必要な条件を判別してください。フィールド・プロシージャに誤りがある場合には、そのフィールド・プロシージャを調べてください。

SQLCODE: -00681 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15686

メッセージ: 互に異なるフィールド・プロシージャを使って定義された 2 つの列を、比較することはできません。

説明: フィールド・プロシージャに従う 2 つの列を比較する場合は、2 つの列のフィールド・プロシージャが、同じでなければなりません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正して、もう一度、照会を実行してください。

SQLCODE: -00686 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15687

メッセージ: 列のフィールド・タイプが適合しません。

説明: フィールド・プロシージャをもつ列を別の列と比較する場合には、両方の列が、同じフィールド・プロシージャ、および同じフィールド・タイプでなければなりません。比較は、列にある値がエンコードされた書式で行なわれます。たとえば、エンコードされた値が数字であれば、それらのデータ・タイプは同じでなければなりません。エンコードされた値がストリングであれば、それらのデータ・タイプも適合しなければなりません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正して、もう一度、照会を実行してください。

SQLCODE: -00687 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15735

メッセージ: データベース &V1 は所有サブシステムの共有データベースではありません。

説明: &V1 で示されるデータベース中のオブジェクトにアクセスしようとしてしました。そのデータベースは、アクセスしているサブシステムで ROSHARE READ として定義されています。そのデータベースは所有サブシステムで ROSHARE OWNER として定義されていません。したがって、オブジェクトにアクセスすることはできません。

ユーザーの処置: 正しいオブジェクトが指定されていることを検査してください。

SQLCODE: -00735 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15766

メッセージ: DB2 補助表は、直接参照することはできません。

説明: 補助表にあるデータは、補助表名を指定してアクセスすることはできません。補助表にあるデータは、基本表での操作によってのみアクセスできます。

ユーザーの処置: 該当する基本表を使用し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00766 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15798

メッセージ: ROWID GENERATED ALWAYS 列に値を挿入しようとしてしました。

説明: 表に挿入する場合に、ROWID GENERATED ALWAYS 列の &V1. に値が指定されました。VALUE リストの対応するエントリが DEFAULT である場合を除き、GENERATED ALWAYS 列を追加用の列リストに指定することはできません。

ユーザーの処置: 列リストから ROWID 列を除

去するか、または VALUE 文節の ROWID ID 列に DEFAULT を指定してください。

SQLCODE: -00798 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15801

メッセージ: ゼロによる除算が試みられました。

説明: 列または演算式の処理の結果が、ゼロによる除算となりました。

ユーザーの処置: ステートメントを訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00801 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15802

メッセージ: SQL コマンドの算術演算で、エラーが発生しました。

説明: SQL コマンドで乗算または除算のような算術演算を行おうとしてしました。しかし、コンピューターは選択された列で 1 つ以上の値が無効であることを検出しました。たとえば、乗算の結果がコンピューター内部記憶域を超えたか、0 による除算になっています。

ユーザーの処置: プログラム例外を起こすデータを決定するためにコマンドの算術演算および列を検査してください。

SQLCODE: -00802 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15803

メッセージ: 固有索引列の中に重複値がありません。

説明: 新たな値を挿入しようとしている、または新たな値で更新しようとしている列の 1 つに、その値と同じ値がすでに入っています。その列は、固有索引列です。固有索引列は重複値をとることはできません。

ユーザーの処置: 既存の値と重複することのない

ように、新たな値を変更してください。そして、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00803 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15805

メッセージ: 現行のプランにプログラムが見つかりません。

説明:

QMF は、アプリケーションのプラン &V2 を実行しましたが、プログラムには &V1. が必要です。

リモート・データをアクセス中であった場合には、プランの名前が DISTSERV に変更されていた可能性があります。

このプログラムは、プラン &V2. には見つかりませんでした。次は、このエラーのいくつかの原因です。

- QMFが、接続先のロケーションでインストールされていない。
- コレクション ID またはロケーション名が、プラン &V2 がバインドされた際に誤っていた。

ユーザーの処置: 詳細な説明については、「*DB2 UDB for z/OS Messages and Codes*」を参照し、この問題については、QMF 管理者に報告してください。

SQLCODE: -00805 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15840

メッセージ: ユーザーの照会で使用している列の数が多すぎます。

説明: 1つの照会では、どのような単一の表または一連の表からも、データベースで使用できる最大の列の数を超えて、選択または挿入できません。

ユーザーの処置: 使用する列の数をもっと少なくして、照会を書き直してください。SQL の照会の

場合には、「SELECT * FROM A, B, C」に類するステートメントを検査してください。このステートメントは、表 A、B、および C からすべての列を選択することを指定しています。

SQLCODE: -00840 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15900

メッセージ: QMF の使用を続行するにはロケーションに接続する必要があります。

説明: 前のエラーのためにデータベース・サーバーが失われています。QMF の使用を続行したいときには、QMF 接続喪失プロンプト・パネルを使用して別のロケーションに接続するか、または QMF の終了を選ぶことができます。

ユーザーの処置: 別のロケーションに接続することを選んだ場合、有効なロケーションに接続するためには正しい値を入力してください。そうでないときは、QMF を終了する必要があります。

SQLCODE: -00900 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15904

メッセージ: リソースを使用できなかったため、実行は不成功に終わりました。理由コードは &V1、リソースのタイプは &V2、リソース名は &V3. です。

説明: タイプ '&V2' のリソース '&V3' が '&V1' で示される理由のため使用できず、要求は実行できませんでした。理由コード &V1. の詳細については、「*DB2 UDB for z/OS Messages and Codes*」を参照してください。

これは一時的な条件です。

この条件の一般的な原因は次のとおりです。

- ローカルオブジェクトを参照したが、リモート・ロケーションに接続されている。たとえば、リモート・ロケーションに接続されているときは、ローカルの表を CREATE、DROP または SELECT できません。

- 参照したリソースが、別のユーザーに所有されている。
- DB2 分散データ機能 (DDF) が停止されていた。CONNECT コマンドがサポートされており、QMF が現在のロケーションから切断されている場合は、接続喪失プロンプト・パネルが表示されます。

ユーザーの処置:

MVS JES ログ情報にアクセスできる場合は、この使用不可リソース・エラーのログ・レコードをブラウズしてください。

ローカルのオブジェクトを参照する必要がありますが、現在リモート・ロケーションに接続されている場合は、ローカルのロケーションに接続して、ローカルのオブジェクトを参照できます。

リソースが一時的に使用不可の場合は、照会を再度行ってください。

DDF が停止して、接続喪失指示が表示される場合、ローカルの DB2 にのみ接続可能になります。

エラー状態が続く場合、QMF 管理者に援助を求めてください。

SQLCODE: -00904 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15905

メッセージ: DB2 のリソース限界を超えたので、実行が失敗しました。リソース名 = &V1、限界 = &V2。

説明: DB2 のリソース限界を超えたので、SQL ステートメントの実行が終了しました。

- リソースの名前は &V1. です。
- CPU 秒の超過した限度は &V2. です。
- サービス装置の超過した限度は &V3. です。
- 限度を引き出すのに使用されたリソースは、DB2 リソース限定表または DB2 システム・パラメーターのどちらかの名前です。制限リソース名は &V4. です。

ユーザーの処置: DB2 のリソース限界を超えないようにするため、SQL ステートメントの単純化、表および索引の再構成、またはリソース限界の変更を検討してください。さらに援助が必要な場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00905 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15907

メッセージ: リモートの位置で実行された更新が、成功したかどうか判断できません。

説明: システム・エラーが、更新の実行されたりリモート位置で発生したか、そこの通信に失敗しました。エラーは更新のコミット要求をリモート・ロケーションに送信した後で起きました。DB2 ではコミット操作が成功したかどうか判断できません。コミットが成功した場合、データベースは更新されます。コミットが失敗した場合、更新は取り消されます。

ユーザーの処置: 通信が再確立した後、データ照会をして、コミット操作が成功したかどうか判断してください。

SQLCODE: -00907 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15911, DSQ15913

メッセージ: データベースの必要な部分が使用中です。

説明: 別のユーザーが処理を完了するまでは、データベース中の必要なオブジェクトにアクセスすることはできません。

ユーザーの処置: QMF セッションを打ち切り、あとで再度サインオンしてください。

SQLCODE: -00911 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15918

メッセージ: QMF の使用を続行するにはロケーションに接続する必要があります。

説明: 前のエラーのためにデータベース・サーバーが失われています。QMF の使用を続行したいときには、QMF 接続喪失プロンプト・パネルを使用して別のロケーションに接続するか、または QMF の終了を選ぶことができます。

ユーザーの処置: 別のロケーションに接続することを選んだ場合、有効なロケーションに接続するためには正しい値を入力してください。そうでないときは、QMF を終了する必要があります。

SQLCODE: -00918 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15930

メッセージ: ステートメントを処理するのに使用できる記憶域が十分にありません。

説明: 別のメモリー・ページを必要とする要求がデータベース・マネージャーになされましたが、データベース・マネージャーで使用できるメモリーはもうありません。次のような原因が考えられます。

- 実記憶域が不十分である。
- 仮想記憶域が不十分である。
- 実行中のバックグラウンド・プロセスが多すぎる。

ユーザーの処置: 問題を訂正して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00930 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ15948

メッセージ: DDF がアクティブでない場合には、リモート・データへはアクセスできません。

説明: ユーザーの照会がリモート・データベースのデータにアクセスしようとしたのですが、分散データ機能が開始されていません。ユーザーの照会はロール・バックされます。

ユーザーの処置:

QMF の使用を継続することができます。問題が

解決しない場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00948 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ16060

メッセージ: &V3. の &V2. の値は無効です。

説明: この &V1 コマンドで生成された SQL ステートメントは、&V3. の正しくない &V2. 指定を含んでいるデータ・タイプを指定しています。そのデータ・タイプに対する &V2 の指定は制限を超えてはなりません。

ユーザー照会エラーの原因として次のことが考えられます。

- DECIMAL データ・タイプに対して指定された位取りまたは精度が、データ・タイプの限界を超えた。
- CHARACTER、FLOAT または GRAPHIC データ・タイプに対して指定された長さが、データ・タイプの限界を超えた。

ユーザーの処置: &V1 コマンドに対する入力データがデータベースの制限を超えていないことを確認してください。超えている場合は、&V2 の指定を変更して、それがデータ・タイプの限界内に収まるようにしてください。データ・タイプの制限についての詳細な説明は、使用しているデータベース管理システム用の SQL 解説書を参照してください。

SQLCODE: -00060 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16113

メッセージ: 名前 &V2 に、無効な文字があります。

説明: データベース、記憶域グループ、表スペース、およびバッファー・プールの名前に使用できる文字は、英字の大文字、国別文字 (*、&&、または @)、および数字だけです。最初の文字は、英字または国別文字でなければなりません。

ユーザーの処置: 名前 &V2 (小文字ではないかどうか検査してください) の無効な文字を訂正して、もう一度コマンドを実行してください。

SAVE DATA や IMPORT TABLE を使用して新しい表を作成している場合は、間違っているのは、プロファイルに指定されている表スペース名である場合があります。その場合、DISPLAY PROFILE を使用して、この SPACE 値を見てください。

SQLCODE: -00113 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16119

メッセージ: この視点は使用できません。

説明: コマンドに指定された視点の定義に次のエラーがあります。

1. SELECT のあとに列名と列関数の両方が使用されているが、GROUP BY がない。

正: SELECT DEPT, AVG(SALARY)
FROM Q.STAFF GROUP BY DEPT

2. SELECT のあとにリストされた列が、GROUP BY のあとにない。

正:
SELECT DEPT, JOB, AVG(SALARY)
FROM Q.STAFF
GROUP BY DEPT, JOB
(誤: GROUP BY DEPT)

3. HAVING のあとに、グループには適用されない条件がある。

正: HAVING MIN(YEARS) > 6
(誤: HAVING YEARS > 6)

4. 式でのグループ値と単一値が混用されている。

正: SUM (UNITS * RATE)
(誤: SUM(UNITS) * RATE)

ユーザーの処置: 視点の定義を訂正して、コマンドを再入力してください。

SQLCODE: -00119 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16150

メッセージ: この視点では &V1 を用いることはできません。

説明: コマンドの実行によって QMF に下記の処理が要求される場合には、そのようなコマンドに視点を指定することはできません。

1. 下記のもの挿入、更新、または削除
 - 複数の表からのデータ
 - 組み込み関数によって定義された列 (例: SUM(COMM))
 - DISTINCT または GROUP BY によって選択されたデータ
2. 式によって定義された列 (例:SALARY/12) の挿入または更新
3. 視点のもととなっている表の中の、NOT NULL として定義されている列への、値 NULL の挿入

ユーザーの処置: データの新しい名前を選択し、コマンド「SAVE DATA AS newname」を実行すると、新しい表が作成されます。

SQLCODE: -00150 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16151

メッセージ: 列 &V2 は変更できません。

説明: &V1 コマンドは REPLACE オプションを指定して実行できません。それは、次の列の内容を変更します。

1. 複数の表に基づく視点
2. 式または組み込み関数によって定義される列を含む視点 例: UNITS*PRICE または AVG(SALARY)
3. DISTINCT または GROUP BY を使用する SELECT ステートメントによって定義された視点
4. 表スペースの区分化キー
5. 列が更新されないカタログ表

ユーザーの処置: 保管するデータの新しい名前を

選択し、新しい表として保管してください。

SQLCODE: -00151 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16180

メッセージ: &V1 コマンドは無効な DATETIME 値を参照しました。

説明: &V1 コマンドは無効な DATETIME 値を参照しました。それは視点定義の中に無効な DATETIME 値を含んでいる視点を参照した場合、起こる可能性があります。有効な日付を表す文字列は、次のいずれかの形式です。

'mm/dd/yyyy' 'dd.mm.yyyy' 'yyyy-mm-dd'
または LOCAL 形式

有効な時刻を表す文字列は、次のいずれかの形式です。

'mm/dd/yyyy' 'dd.mm.yyyy' 'yyyy-mm-dd'
または LOCAL 形式

有効なタイム・スタンプを表現する文字列は、次の形式です。

'yyyy-mm-dd-hh.mm.ss.nnnnnn'

ユーザーの処置: &V1 コマンドが視点を参照している場合、視点定義の中の DATETIME 値の構文を修正し、再度 &V1 コマンドを実行してください。QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

SQLCODE: -00180 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16204

メッセージ: &V2 が見つかりません。

説明: 名前 "&V2" が &V1 コマンドで、または &V1 コマンドの処理の結果で見つかりましたが、データベース中にその名前の付いたものは見つかりません。

ユーザーの処置: スペルの誤りがないかどうかを検査してください。使用可能な書式、プロシージャ、照会、または表のリストを見たい場合に

は、次のコマンドの中から該当のものを入力して、

LIST FORMS LIST PROCS
LIST QUERIES LIST TABLES

(OWNER=ALL) のオプションを指定してください。

新しいテーブルをデータベースに保管しようとした場合は、ユーザー・プロファイル内の SPACE 値が正しいか確認してください。

SQLCODE: -00204 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16205

メッセージ: 列名 &V1 は表 &V2. の中にありません。

説明: 列名 &V1. が指定されています。これは、表 &V2. の中に見つかりませんでした。名前のスペルが違っているか、または表名を修飾する必要があると考えられます。

ユーザーの処置: 列名と所有者が正しいかどうか、およびスペルが正しいかどうかを検査してください。

SQLCODE: -00205 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16250

メッセージ: 位置の修飾子は使用できません。

説明: 指定された名前には、位置の修飾子があります。3つの部分からなるオブジェクト名は、ローカルの位置名が定義されるまでは使用できません。

ユーザーの処置: 位置の修飾子を除去し、コマンドを再試行してください。QMF 管理者に連絡して、正しいデータベースを使用していることを確認するか、ローカルの位置名を定義してもらってください。

SQLCODE: -00250 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16251

メッセージ: &V2 は無効な位置名です。

説明: 次のいずれかの状況が起きています。

1. 名前 &V2. の位置がない。
2. &V2 に英字の特殊文字 (#, @, \$) があります。これらの文字は、位置名に使用できません。

ユーザーの処置: 位置名を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00251 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16301

メッセージ: &V1. コマンドは、現行データ・オブジェクトを処理することはできません。

説明: 現行データ・オブジェクトの列番号 &V2. は、ターゲット表の対応する列とは互換性がありません。この非互換性は、ROWID データ・タイプがサポートされていない DB2 環境から QMF を実行しているためです。

ユーザーの処置: 列の位置 &V2. がデータ・オブジェクトの最後の列である場合、その最後の列なしでデータ・オブジェクトを再作成し、&V1. コマンドを再び実行してください。

あるいは、必要な QMF アクションを完了させるためには、その前に ROWID データ・タイプをサポートする DB2 環境から QMF を実行する必要があります。ROWID データ・タイプは、DB2 (OS/390 版) バージョン 6 およびそれ以降によりサポートされます。

SQLCODE: -00301 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16332

メッセージ: 文字ストリングが CCSID の未定義によって変換されませんでした。

説明: &V1 コマンドは、現行文字セットと違っ

たコード化文字セットの中にあるコード化文字セット ID (CCSID) &V2 を持つ文字ストリングを参照しました。現行サーバーでこの文字ストリングを使用するためには、文字ストリングをソース CCSID &V2 からターゲット CCSID &V3 に変換しなければなりません。

しかし、この CCSID の対の変換ルールは SYSSTRINGS システム表に定義されていません。したがって、データベース・システムは文字ストリングをアプリケーション・サーバーに適合するコードに変換できません。

ユーザーの処置: &V1 コマンドが正しいかどうか検査してください。正しくない場合、必要な変更を行って、再度コマンドを出してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00332 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16351

メッセージ: 位置 &V2. のデータ・タイプはサポートされていません。

説明: アプリケーション・リクエスターによりサポートされない SQL データ・タイプがあります。&V2 は、サポートされないデータ・タイプをもつ SQLDA の最初のエレメントの位置です。このエラーの一般的な原因として、アプリケーション・リクエスターがアプリケーション・サーバーに接続し、そのアプリケーション・サーバーに属するデータ・タイプを記述しようとしたことが考えられます。このエラーの原因となる SQLTYPE には、CLOB、BLOB および DBCLOB があります。

ユーザーの処置: サポートされないデータ・タイプを除去し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00351 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16372

メッセージ: 表で ROWID として定義できる列は 1 つだけです。

説明: &V1 コマンドで複数の ROWID 列を作成しようとしたか、または既に 1 つの ROWID 列がある表にさらに ROWID 列を追加しようとした。

ユーザーの処置: &V1 コマンドのデータで、複数の ROWID データ・タイプの列を保管することはできません。

SQLCODE: -00372 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16407

メッセージ: この視点では &V1 を用いることはできません。

説明: コマンドの実行によって QMF に下記の処理が要求される場合には、そのようなコマンドに視点を指定することはできません。

1. 下記のものの挿入、更新、または削除
 - 複数の表からのデータ
 - 組み込み関数によって定義された列 (例: SUM(COMM))
 - DISTINCT または GROUP BY によって選択されたデータ
2. 式によって定義された列 (例:SALARY/12) の挿入または更新
3. 視点のもととなっている表の中の、NOT NULL として定義されている列への、値 NULL の挿入

ユーザーの処置: データの新しい名前を選択し、コマンド「SAVE DATA AS newname」を実行すると、新しい表が作成されます。

SQLCODE: -00407 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16430

メッセージ: DSQ15430 を参照してください。

DSQ16440

メッセージ: 互換性のある引き数を持つ名前 &V2 ごとの &V1 が見つかりませんでした。

説明: これは、DB2が参照をインプリメントする関数またはストアード・プロシージャを検出できないときに、ルーチン(ストアード・プロシージャまたは関数) &V2 の参照で発生します。これが発生するには、いくつかの理由があります。

- &V2 が正しく指定されていないか、またはデータベースにありません。
- 修飾参照が行われたが、修飾子のスペルが正しくない。
- ユーザーの現行パスに要求された関数が属するスキーマが含まれていないが、非修飾参照が使用された。
- 組み込まれた引き数の数が正しくありません。
- 引き数の1つ以上のデータ・タイプが関数に対して誤っている。
- ルーチン起動側がルーチンの実行を許可されていない。

次の SQLSTATE が戻されました: 42704。

ユーザーの処置: ステートメントを訂正し、再実行してください。

DSQ16443

メッセージ: DSQ15443 を参照してください。

DSQ16471

メッセージ: DSQ15471 を参照してください。

DSQ16495

メッセージ: この照会を行うと DB2 のコストの見積もりの制限を越えます。&C1 は終了されません。

説明: この照会でのコスト見積もりが、照会の実行を防ぐために資源限界機能 (DB2管理プログラム)に指定された制限を超えるとDB2が判別したため、&C1 コマンドは終了しました。

照会ステートメントのコスト見積もりの詳細は、次のとおりです。

- コスト見積もりは &C3 サービス単位*。
- 指定された限界は &C5 サービス単位*。
- DB2 のコスト・カテゴリーは 「&C4」。
- 消費されるプロセッサ時間は、およそ &C2 ミリ秒。

* サービス単位はプロセッサ使用量の測定で、異なるプロセッサ・タイプ間でも一貫しています。

ユーザーの処置: コスト・カテゴリー値が 'B' の場合、DB2 管理者に援助を依頼してください。DB2 カタログ統計またはリソース限定表 (RLST) の更新が必要になることがあります。

SQL ステートメントの費やすプロセッサ時間あまりにも多い場合は、より効果的に実行できるようにステートメントを書き直して、照会を再実行してください。

次の事項について検査してください。

- 照会で選択された列で、使用されていないものはないか。
- 不必要な ORDER BY または GROUP BY 文節がないか。
- WHERE 文節が正しく記述されているか。
- 照会に副照会が含まれているか。
- 照会に列関数が含まれているか。

照会によっては、照会から GROUP BY 文節を除去し、代わりに QMF FORM の GROUP 取扱コードを使用すると、簡略化できる場合があります。

また照会によっては、外部結合や CASE 式などの拡張 SQL 構文を使用すると、パフォーマンスが向上する場合があります。

拡張分析の場合、EXPLAIN SQL ステートメントを使用して、照会の構造および実行パフォーマンスについての情報を収集できます。

照会および EXPLAIN ステートメントの情報については、SQL 解説書を参照してください。

照会の調整、および効率的な述部および副照会の記述の詳細については、「DB2 UDB for z/OS Administration Guide」を参照してください。

SQLCODE: -00495 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16512

メッセージ: リモートのオブジェクトを参照するコマンドは無効です。

説明: ユーザーの入力した &V1 コマンドはリモートのオブジェクトを参照しています。リモートの参照は別名を使用した結果である場合があります。以下の条件のいずれかが存在します。

- 現在のロケーション以外のロケーションにある表を消去しようとした。
- 現在のロケーション以外のロケーションにある表を作成しようとした。たとえば、リモートの表を SAVE または IMPORT できませんが、これらのコマンドを使用してリモートの表を置換できます。
- 正しく定義されていない別名を参照しました。

ユーザーの処置:

1. ローカルの表を作成または消去したい場合、指定した名前を検査してつづりが正しいことを確かめてください。
2. リモートの表を作成または消去したい場合で、CONNECT コマンドがサポートされている場合は、そのリモート・ロケーションに接続して、その表を作成または消去できます。CONNECT コマンドがされていない場合は、QMF 管理者に連絡してください。
3. 使用したコマンドのリモートの参照が、別名を使用した結果の場合、別名が正しく定義されているかを確認するか、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00512 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16530

メッセージ: DSQ11830 を参照してください。

DSQ16532

メッセージ: RESTRICT の指定のために、表を置き換えることができません。

説明: 置き換えようとした表には、基本キーが定義されています。その表を置き換える場合は、既存の行および基本キーを削除しなければなりません。しかし、RESTRICT が 1 つまたは複数の子表に指定されていたため、基本キーの値は削除できません。

ユーザーの処置: データを新しい表として保管するか、またはすべての従属表に関する制約規則を再検査してください。

SQLCODE: -00532 Database: DB2
QMF Function: Command

DSQ16540

メッセージ: &V2 に基本キーの基本索引がない。

説明: 表 &V2. に対し &V1 コマンドは使用できません。表には基本キーがありますが、基本索引がありません。

ユーザーの処置: &V1 コマンドを使用する前に、表に基本索引を定義してください。

SQLCODE: -00540 Database: DB2
QMF Function: Command

DSQ16551

メッセージ: &V1 コマンドに必要な権限がありません。

説明: (&V2 ID は) この &V1 コマンドを出すことができません。それは、オブジェクト &V4. に対して &V3 を実行する権限がないからです。

DRAW、DISPLAY、EXPORT、または PRINT で

は、ID &V2 は、表や視点に対する SELECT 権限を必要とします。

自分の持っている、または管理権限を所有している表に対する視点でだけ、ERASE を使用できません。

既存の表を SAVE または IMPORT で置き換えるには、表に対する SELECT DELETE および INSERT 権限が必要です。

新しい表を SAVE や IMPORT で作成するには、オブジェクト &V4. に対して &V3 を実行する権限を必要とします。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して、適切な許可を得てください。

SQLCODE: -00551 Database: DB2
QMF Function: Command

DSQ16552

メッセージ: この &V1 コマンドを使用するために必要な権限がありません。

説明: DRAW、DISPLAY、EXPORT、または PRINT を用いるためには、指定した表または視点についての SELECT 権限が必要です。

ERASE を使用できるのは、自分が所有する表または視点の場合にかぎります。

SAVE または IMPORT を用いて既存の表を置き換えるためには、SELECT 権限、DELETE 権限、および INSERT 権限が必要です。

SAVE または IMPORT で新しい表を作成するためには、命名した表を作成するための権限が必要です。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して、適切な許可を得てください。

SQLCODE: -00552 Database: DB2
QMF Function: Command

DSQ16553

メッセージ: &V1 は、有効な許可 ID ではありません。

説明: CONNECT COMMAND に指定された許可 ID は、1 次許可 ID でもなく、2 次許可 ID のいずれでもありません。

ユーザーの処置: ステートメントに指定された許可 ID を訂正するか、または QMF 管理者に連絡し指定された許可 ID をユーザー用に定義するように依頼してください。

DSQ16571

メッセージ: READ-ONLY の環境においては、リモート更新は許可されません。

説明: リモート・ロケーションでデータの更新、挿入、削除を試みましたが、現行の操作環境ではリモートの読み取り専用になっています。たとえば、サーバー・データベースが、2 フェーズ・コミットをサポートしない場合、CICS 操作環境ではリモート・データの更新はできません。

READ-ONLY 操作環境でリモート・データをアクセスするには、以下のいずれかを使用できます。

- SQL SELECT ステートメント
- QMF DISPLAY コマンド

ユーザーの処置: 引き続き QMF を使用できません。リモート・データを更新する必要がある場合には、サポートしている操作環境に切り換えてください。そうでない場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00571 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16601

メッセージ: &V2 はデータベースの既存 &V3 と同じ名前です。

説明: &V3 に &V2 という名前が割り当てられました。しかし、それと同じ名前のものがすでにデータベースの中にあります。同じ名前を 2 回使用することはできません。

ユーザーの処置: &V2 という名前を変更し操作を続けてください。

SQLCODE: -00601 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16604

メッセージ: データ長、位取り、または精度が無効な列があります。

説明: 保管しようとしているデータ、またはエクスポートしようとしている表に、ゼロか、データベースでサポートしている最大値を超えたデータ長、10 進位取り、または精度があります。

ユーザーの処置: SAVE DATA を処理しようとして、しかも保管したいデータが照会を実行して、検索したものであれば、照会データ長がゼロの列を選択した可能性があります。照会を変更して、この列を選択しないようにして、照会を再実行してください。

すでにインポートした表、データを IMPORT、または SAVE しようとしている場合は、データベースがサポートしている最大長を超える精度が指定された 10 進数の列がデータにあった可能性があります。データ形式を変更して、データベースの制限に精度を合わせてください。

SQLCODE: -00604 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16607

メッセージ: このカタログ・オブジェクトに対して &V1 は使用できません。

説明: どのカタログ・オブジェクトに対しても ERASE または SAVE は使用できません。

ユーザーの処置: この操作は行わないようにしてください。

SQLCODE: -00607 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16618

メッセージ: システム・データベースに対して &V2 は許されません。

説明: &V1 コマンドに、データベースに対して &V2 操作が指定されています。しかし、システム・データベースに対してこの操作は許されません。

ユーザーの処置: この操作は行わないようにしてください。

SQLCODE: -00618 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16646

メッセージ: 表スペース &V3 には、すでに表があります。

説明: コマンドが CREATE TABLE ステートメントを生成し、データベースは、表スペース &V3 に表を置こうとしました。しかし &V3 は、すでに既存の表を含む区分表スペース、またはデフォルトの表スペースでした。1 つの区分化またはデフォルトの表スペースには、表を 1 つしか入れられません。

ユーザーの処置: QMF ユーザー・プロファイルの SPACE 値が正しいことを確認してください。1 つの区分化表スペースまたはデフォルト表スペースの中に、複数の表を作成しようとししないでください。

SQLCODE: -00646 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16652

メッセージ: プロシージャ &V2 が結果を拒否しました。

説明: &V1 コマンドは、照会の結果の編集または検証を目的として、インストール先で定義されているプロシージャ &V2 によって拒絶された操作を必要としています。

ユーザーの処置: インストール先の編集および検証プロシージャについては、QMF 管理者に説明を求めてください。

SQLCODE: -00652 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16653

メッセージ: 表 &V2 に、区分索引がありません。

説明: &V1 コマンドは、区分表を作成、または使用しようとしたが、表の区分索引が作成されていませんでした。作成された表に対する索引が作成されるまで、区分表 (区分表スペースの表) を参照することはできません。区分表スペース &V3 の表 &V2 に索引はありません。

ユーザーの処置: 既存の表を使用しようとしている場合は、&V1 コマンドに正しい表が指定されていることを確かめてください。その場合は、CLUSTER 文節を使用して、表に対する索引を作成し、もう一度コマンドを実行してください。

新しい表を作成しようとする場合は、プロファイルの SPACE 値が、区分表スペースの名前を指定していないことを確かめてください。データを区分表に保管、または搬入したい場合は、表とその索引を作成した後に、SAVE や IMPORT コマンドを出してください。

SQLCODE: -00653 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16659

メッセージ: 表オブジェクトの最大サイズを超えました。

説明: 表を構成している 1 つまたは複数のオブジェクトが、最大サイズに達しました。表を構成している記憶域オブジェクトを以下に示します。

- データ-基本列データが保管されている場所です。
- 索引 - 表のすべての索引が格納されている場所です。
- 長データ - LONG VARCHAR および LONG VARGRAPHIC 列データが格納されている場所です。

- LOB/LOB - BLOB、CLOB および DBCLOB
列データ、および制御情報が格納されている場所です。

一度記憶域オブジェクトがその最大サイズになると、それ以上拡張することはできません。

ユーザーの処置: オブジェクト内の既存のスペースを新規データを保管するのに使用するには、以下を行うことができます。

- 表を再編成する。
- 表から不必要な行を削除する。
- 表から索引を除去する。
- 行を更新してデータの量を減らす。

SQLCODE: -00659 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16666

メッセージ: システム機能がアクティブなので、&V1 は実行できません。

説明: システム・ユーティリティー、リソース限定機能、または分散データ機能が実行中です。ユーティリティーが実行中の場合、完了してから &V1 を再度実行してください。リソース限定機能が実行中の場合には、停止させるか、異なるリソース限定管理テーブルに切り替えてから &V1 を実行してください。分散データ機能が実行中の場合は、&V1 が実行される前に停止してください。

ユーザーの処置: ユーティリティーが完了するまで、またはリソース限定機能が停止または異なるテーブルに切り替わってから、または分散データ機能が停止するまで待ってから &V1 を再度実行してください。

SQLCODE: -00666 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16669

メッセージ: この表に &V1 は実行できません。

説明: 消去しようとしている表は区分化表スペース

の中にあります。このような表を消去するためには、表スペース全体を消去しなければなりません。

ユーザーの処置: この操作は行わないようにしてください。

SQLCODE: -00669 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16670

メッセージ: 行の長さが表スペースのページ・サイズを超えています。

説明: 作成しようとしている表の行の長さが、割り当てられている表スペースのページ・サイズを超えています。

ユーザーの処置: 次の内のどちらかを行なってください。

1. 列をいくつか削除するか、または列の幅を狭くして、行を短くする。
2. プロファイルの中の SPACE の値を、32K のバッファ・プールを備えた表スペースの名前に変更して、ページ・サイズを 32K に増量する。

SQLCODE: -00670 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16690

メッセージ: コマンドは DB2 データ定義制御サポートによって拒否されました。

説明:

コマンド &V1 は理由コード &V2. で DB2 データ定義制御サポート (DDCS) によって拒否されました。説明については、「DB2 UDB for z/OS Messages and Codes」を参照してください。

ユーザーの処置: 正しいオブジェクト名が指定されていることを確認してください。QMF 管理者に連絡し、DDL 登録インストール・オプションが適切に設定されていることを確認してください。また、データ定義制御サポート・モードが実

行されているかを確認してください。その後、アプリケーション登録表とオブジェクト登録表を検査して、入力が正しいかを判別してください。正しくない場合は、必要に応じて登録表を更新してください。

SQLCODE: -00690 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16691

メッセージ: 必要な登録表 &V2 が見つかりません。

説明: データ定義制御サポートはアプリケーション登録表またはオブジェクト登録表 &V2、あるいはその両方を見つけることができませんでした。コマンド &V1 は登録表が正しく定義されるまで実行しません。

ユーザーの処置: 正しいオブジェクト名が指定されていることを確認してください。QMF 管理者に連絡し、登録表が適切に作成され、表名が正しいことを確認してください。

SQLCODE: -00691 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16733

メッセージ: 表スペース、索引または表が所有サブシステムと整合していません。

説明: ROSHARE READ として定義されている ROSHARE READ データベースの表スペース、索引または表の定義は、所有サブシステムの記述と整合していなければなりません。

ユーザーの処置: 表スペース、索引または表の定義が所有サブシステムのそれと整合しているか確認してください。

SQLCODE: -00733 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16735

メッセージ: データベース &V2 は所有サブシステムの共有データベースではありません。

説明: &V2 で示されるデータベース中のオブジェクトにアクセスしようとしました。そのデータベースは、アクセスしているサブシステムで ROSHARE READ として定義されています。そのデータベースは所有サブシステムで ROSHARE OWNER として定義されていません。したがって、オブジェクトにアクセスすることはできません。

ユーザーの処置: 正しいオブジェクトが &V1 コマンドに定義されていることを確認してください。

SQLCODE: -00735 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16737

メッセージ: 読み取り専用共有データベースで暗黙の表スペースは使用できません。

説明: &V1 コマンドは QMF に表の作成をさせようとしました。しかし、プロファイル中の SPACE 値に、表に表スペースを暗黙的に作成するためのデータベース名だけが指定されていました。データベースは読み取り専用共有データベースであり、表スペースを暗黙的に読み取り専用共有データベースに作成することはできません。

ユーザーの処置: 所有サブシステムと同じ名前を使用して、表に表スペースを作成してください。プロファイルに DBNAME.TSNAME と同一の SPACE 値を設定してください。DBNAME はデータベース名、TSNAME は表名です。(プロファイルの値から「DATABASE」という語を取り除いたことを確認してください。)その後で &V1 コマンドをもう一度出してください。

SQLCODE: -00737 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16747

メッセージ: 表 &V2. の定義が不完全です。

説明: 表 &V2. は、外部に保管される列のための補助表と索引が作成されるまで、利用不能です。

ユーザーの処置: 欠落している補助表と索引を作成し、コマンドを再実行してください。

SQLCODE: -00747 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16766

メッセージ: &V1. コマンドは、補助表では許可されません。

説明: 補助表にあるデータは、補助表名を指定してアクセスすることはできません。補助表にあるデータは、基本表での操作によってのみアクセスできます。

ユーザーの処置: コマンドで、該当する基本表を使用してください。

SQLCODE: -00766 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16798

メッセージ: &V1. コマンドは、現行データ・オブジェクトを処理することはできません。

説明: 現行データ・オブジェクトは、ターゲット表の列 "&V2." とは互換性がありません。この非互換性は、ROWID データ・タイプがサポートされていない DB2 環境から QMF を実行しているためです。

ユーザーの処置: 列 "&V2." がターゲット表の最後の列である場合、データのその対応する列なしでデータ・オブジェクトを再作成し、&V1. コマンドを再び実行してください。

あるいは、必要な QMF アクションを完了させるためには、その前に ROWID データ・タイプをサポートする DB2 環境から QMF を実行する必要があります。ROWID データ・タイプは、DB2 (OS/390 版) バージョン 6 およびそれ以降によりサポートされます。

SQLCODE: -00798 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16801

メッセージ: ゼロによる除算が試みられました。

説明: 列または演算式の処理の結果が、ゼロによる除算となりました。

ユーザーの処置: ステートメントを訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00801 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16802

メッセージ: SQL コマンドの算術演算が、エラーで終了しました。

説明: SQL コマンドで乗算または除算のような算術演算を行おうとしました。しかし、コンピューターは選択された列で 1 つ以上の値が無効であることを検出しました。たとえば、乗算の結果がコンピューター内部記憶域を超えたか、0 による除算になっています。

ユーザーの処置: プログラム例外を起こすデータを決定するためにコマンドの算術演算および列を検査してください。

SQLCODE: -00802 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16803

メッセージ: 固有索引列の中に重複値があります。

説明: コマンドによって変更しようとしている列の 1 つに、挿入しようとしている値と同じ値が含まれています。その列は、固有索引列です。固有索引列は重複値をとることはできません。&V1 コマンドは実行されませんでした。

ユーザーの処置: 既存の表または視点を、このデータによって変更したり置き換えたりすることはできません。このデータは新たな表として保管するようにしてください。

SQLCODE: -00803 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16805

メッセージ: コマンドが現行のプランに見つからないプログラムを呼び出しました。

説明: &V1 コマンドがアプリケーションのプラン &V3 を実行しましたが、これにはプログラム &V2 が必要です。

リモート・データをアクセス中であった場合には、計画の名前が DISTSERV に変更されていた可能性があります。

しかし、このプログラムはプラン &V3. には見つかりませんでした。次は、このエラーのいくつかの原因です。

- QMFが、接続先のロケーションでインストールされていない。
- コレクション ID またはロケーション名が、計画 &V3 がバインドされた際に誤っていた。

ユーザーの処置: 詳細な説明については「*DB2 UDB for z/OS Messages and Codes*」を参照し、この問題については、インフォメーション・センターに報告してください。

SQLCODE: -00805 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16817

メッセージ: READ-ONLY の環境においては、リモート更新は許可されません。

説明: リモート・ロケーションでデータの更新、挿入、削除を試みましたが、現行の操作環境ではリモートの読み取り専用になっています。たとえば、サーバー・データベースが、2 フェーズ・コミットをサポートしない場合、CICS 操作環境ではリモート・データの更新はできません。

READ-ONLY 操作環境でリモート・データをアクセスするには、以下のいずれかを使用できます。

- SQL SELECT ステートメント
- QMF DISPLAY コマンド

ユーザーの処置: 引き続き QMF を使用できま

す。リモート・データを更新する必要がある場合には、サポートしている操作環境に切り換えてください。そうでない場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00817 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16900

メッセージ: QMF の使用を続行するにはロケーションに接続する必要があります。

説明: 前のエラーのためにデータベース・サーバーが失われています。QMF の使用を続行したいときには、QMF 接続喪失プロンプト・パネルを使用して別のロケーションに接続するか、または QMF の終了を選ぶことができます。

ユーザーの処置: 別のロケーションに接続することを選んだ場合、有効なロケーションに接続するためには正しい値を入力してください。そうでないときは、QMF を終了する必要があります。

SQLCODE: -00900 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16904

メッセージ: リソースを使用することができません。

説明: タイプが '&V3' であるリソース '&V4' を、 '&V2' で示されている理由のため要求は実行できませんでした。正しくないリソース名を入力した可能性があります。またはリソースが一時的に使用できない場合もあります。理由コード &V2. の詳細については「*DB2 UDB for z/OS Messages and Codes*」を参照してください。

この条件の一般的な原因は次のとおりです。

- ローカルのオブジェクトを参照したが、リモート・ロケーションに接続されている。たとえば、リモート・ロケーションに接続されているときは、ローカルの表を SAVE または ERASE できません。

- コマンドで参照したリソースは他のユーザーに所有されています。
- DDF が停止しており、接続喪失指示が表示されている場合は、ローカルの DB2 に接続できるだけです。

ユーザーの処置: 指定したリソースが有効か確認してください。

MVS JES ログ情報にアクセスできる場合は、この使用不可リソース・エラーのログ・レコードをブラウズしてください。

ローカルのオブジェクトを参照する必要がありますが、現在リモート・ロケーションに接続されている場合は、ローカルのロケーションに接続して、ローカルのオブジェクトを参照できます。

リソースが一時的に使用不可の場合は、照会を再度行ってください。

DDF が停止して、接続喪失指示が表示される場合、ローカルの DB2 にのみ接続可能になります。

エラー状態が続く場合、QMF 管理者に援助を求めてください。

SQLCODE: -00904 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16905

メッセージ: DB2 リソース限度を超えました。
&V1 は終了しました。

説明: DB2 リソース限度を超過したため、&V1 コマンドは終了しました。

- リソースの名前は &V2. です。
- CPU 秒の超過した限度は &V3. です。
- サービス装置の超過した限度は &V4. です。
- 限度を引き出すのに使用されたリソースは、DB2 リソース限定表または DB2 システム・パラメーターのどちらかの名前です。制限リソース名は &V5. です。

ユーザーの処置: DB2 リソース限度を超えないようにするため、表および索引の再構成またはリ

ソース限度の変更を考慮してください。さらに援助が必要な場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00905 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16907

メッセージ: リモートの更新が成功したかどうか判断できません。

説明: システム・エラーが、更新の実行されたりリモート位置で発生したか、そこの通信に失敗しました。エラーは更新のコミット要求をリモート・ロケーションに送信した後で起きました。DB2 ではコミット操作が成功したかどうか判断できません。コミットが成功した場合、データベースは更新されます。コミットが失敗した場合、更新は取り消されます。

ユーザーの処置: 通信が再確立した後、データ照会をして、コミット操作が成功したかどうか判断してください。

SQLCODE: -00907 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16911

メッセージ: データベースの必要な部分が使用中です。

説明: 別のユーザーが処理を完了するまでは、データベース中の必要なオブジェクトにアクセスすることはできません。

ユーザーの処置: QMF セッションを打ち切り、あとで再度サインオンしてください。

SQLCODE: -00911 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16913

メッセージ: データベースの必要な部分が使用中です。

説明: 別のユーザーが処理を完了するまでは、デ

ータベース中の必要なオブジェクトをアクセスすることはできません。

ユーザーの処置: QMF セッションを打ち切り、あとで再度サインオンしてください。

SQLCODE: -00913 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16918

メッセージ: QMF の使用を続行するにはロケーションに接続する必要があります。

説明: 前のエラーのためにデータベース・サーバーが失われています。QMF の使用を続行したいときには、QMF 接続喪失プロンプト・パネルを使用して別のロケーションに接続するか、または QMF の終了を選ぶことができます。

ユーザーの処置: 別のロケーションに接続することを選んだ場合、有効なロケーションに接続するためには正しい値を入力してください。そうでないときは、QMF を終了する必要があります。

SQLCODE: -00918 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16930

メッセージ: ステートメントを処理するのに使用できる記憶域が十分にありません。

説明: 別のメモリー・ページを必要とする要求がデータベース・マネージャーになされましたが、データベース・マネージャーで使用できるメモリーはもうありません。次のような原因が考えられます。

- 実記憶域が不十分である。
- 仮想記憶域が不十分である。
- 実行中のバックグラウンド・プロセスが多すぎる。

ユーザーの処置: 問題を訂正して、コマンドを再実行してください。

SQLCODE: -00930 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16948

メッセージ: DDF がアクティブでない場合にユーザーのコマンドがリモート・データにアクセスしようとした。

説明: &V1 コマンドがリモート・データベースのデータにアクセスしようとしたが、分散データ機能が開始されていません。コマンドはロールバックされます。

ユーザーの処置: QMF の使用を継続することができます。問題が解決しない場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00948 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ16950

メッセージ: ロケーション名はローカル DB2 サブシステムに認知されていません。

説明: "CONNECT TO <ロケーション>" コマンドを出しましたが、そのロケーション名はローカル DB2 サブシステムを指定していないか、または DB2 通信データベース中にもリストされていません。

ロケーション名がローカル DB2 サブシステム名でない場合は、DB2 SYSIBM.SYSLOCATIONS 表に定義しなければなりません。

ユーザーの処置: 指定したロケーション名が正しいか検査してください。正しくない場合は、修正し、再度試みてください。

SYSIBM.SYSLOCATIONS テーブルに定義されているすべてのロケーション名をリストするためには次のステップが使用できます。

1. CONNECT コマンド・プロンプト・パネルを表示するために "CONNECT ?" コマンドを入力する。
2. ロケーション名リストを表示するために <PF4> キーを押す。(QMF がスタートした後

に SYSIBM.SYSLOCATIONS 表に追加されているロケーション名はリストに表示されない。))

必要なロケーションにまだ接続することができない場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00950 **Database:** DB2
QMF Function: Command

DSQ17007

メッセージ: 照会の中の文字 "&V1" は無効です。

説明: 文字 "&V1" になんらかの誤りがあるために、照会の処理ができません。たとえば、使用位置に誤りがあるか、使用されている文脈では無効です。

ユーザーの処置: "&V1" を除去するか、またはそれを有効な文字に変更してください。

SQLCODE: -00007 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17010

メッセージ: '&V2' &V1 で始まる値には終わりの引用符が必要です。

説明: 文字定数は単一引用符で囲まなければなりません(たとえば 'SANDERS')、データベースのオブジェクトの名前(表や列など)は二重引用符で囲むことができます(たとえば "MYTABLE")。最後の引用符がないと定数や名前がどこで終わっているか判断できません。

引用符を別の引用符で囲まれたストリング内で使用する場合、2つの連続する引用符で示さなければなりません。次に例を示します。

正: ... WHERE NAME = 'O'CONNOR'
誤: ... WHERE NAME = 'O'CONNOR'

ユーザーの処置: その値が文字定数または二重引用符で囲まれた名前の場合、その中に最終引用符または二重に引用符を追加してください。または、最初の引用符の除去をしてください。

SQLCODE: -00010 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17060

メッセージ: &V2. の値 &V1. は、無効です。

説明: 照会が、&V2. の正しくない &V1 指定のあるデータ・タイプを指定しています。 &V1 は、データ・タイプが制限を超えてはならないことを指定しています。

ユーザー照会エラーの原因として次のことが考えられます。

- DECIMAL データ・タイプに対して指定された位取りまたは精度が、データ・タイプの限界を超えた。
- CHARACTER、FLOAT または GRAPHIC データ・タイプに対して指定された長さが、データ・タイプの限界を超えた。

ユーザーの処置: データ・タイプの限界内になるように、&V1 の指定を変更し、もう一度照会を実行してください。データ・タイプの制限についての詳細な説明は、使用しているデータベース管理システム用の SQL 解説書を参照してください。

SQLCODE: -00060 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17084

メッセージ: このデータベース・マネージャーではそのステートメントは無効です。

説明: 実行しようとしているステートメントは、他のデータベース・マネージャーでは有効であったとしても、DB2 では無効です。DB2 で使用できない SQL ステートメントおよびオプションの詳細いリストは、「DB2 UDB for z/OS Reference Summary」に示されています。

ユーザーの処置: このデータベース・マネージャーを使用しているときは、DB2 のステートメントだけを使用してください。

SQLCODE: -00084 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17101

メッセージ: 照会が長すぎるか、または複雑すぎます。

説明: ステートメントが長すぎるか、または複雑すぎて、解釈することができません。副照会および相関照会のネスティングが複雑すぎて、SQL 処理ができないことも考えられます。並列処理を使用可能にすると、ステートメントがより複雑になります。

ユーザーの処置: 照会を短くするか、または 2 つ以上の照会として書き直してください。並列処理が可能にされている場合は、CURRENT DEGREE 特殊レジスターを「1」に設定してみてください。この問題が続く場合、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00101 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17102

メッセージ: '&V3.' で始まる定数 &V1. は長過ぎます。

基準線: ==>&V2.

説明: 数は許可された最大値よりも大きくなっています。文字定数は引用符で囲まなければなりません。引用符で囲むことを省略すると、データは最大長を超えてしまいます。通常、文字ストリングの長さは 254 文字または 2 バイト文字を使用している場合は、124 図形文字となります。CURRENT SQLID 値は 8 文字で CURRENT DEGREE 値は 3 文字になります。

ユーザーの処置: 定数を修正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00102 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17103

メッセージ: &V3.&V1. は無効な数字です。

基準線: ==>&V2.

説明: &V3. は数字で始まっています。しかし、有効な整数、10 進数、または浮動小数点数ではありません。指定する内容が、

1. 浮動小数点数なら、正または負の符号の次に "E" を付け、その次に指数を指定してください。
2. 文字定数の場合、単一引用符で囲みます。
3. 名前の場合、数字で始めてはなりません。別の名前を指定してください。

ユーザーの処置: &V3. を変更し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00103 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17104

メッセージ: &V3. またはその前で SQL エラーが起きました。 &V1.

基準線: ==>&V2.

説明: このメッセージは、通常以下の原因によります。

1. 無効な文字、または下線で始まる名前。
2. 句読点の欠落または余分な句読点。
3. キーワードを必要としている定数または名前。
4. 数値を必要としている非数値。
5. 照会の最後が欠落している。
6. 最初の単語が SQL コマンドでない。
7. 他のデータベース・システムで有効であるが、DB2 では無効なキーワードを使用した。

以下のシンボルの行は、これまでの文脈から見れば正といえるでしょうが、照会全体から見れば正しく働かない可能性があります。

代替シンボルのリストは単なる提案です。これらの中には、使用されているデータベース・マネージャのステートメントとして正しくない場合があります。それらのシンボルは、他のデータベース管理システムに送られると正しいステートメントになる場合があります。&V4.

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00104 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17105

メッセージ: ステートメントに無効なストリングが指定されています。

説明: ステートメントに無効なストリングが指定されています。有効なストリングは、文字ストリングと漢字ストリングのみです。

ユーザーの処置: 正しい形式のストリングを指定してください。グラフィック・データの場合は、ストリング内で区切り文字が対になっていること、文字G、バイト数が偶数であることを確認してください。

SQLCODE: -00105 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17107

メッセージ: 名前 &03. は、長すぎます。最大サイズは &04.です。

説明: 名前 &03. は、長すぎます。データベース・サーバー &LS. でサポートされるこの名前の最大長は &04. です。

以下の項目名は、< 文字を超えてはいけません。

- SQL 表
- SQL 視点
- SQL 索引
- SQL 別名
- SQL 同義語

- 関数
- ストアード・プロシージャ

SQL 列名は &LC. バイトを超えてはいけません。

ロケーション名は16 バイトを超えてはいけません。

以下の項目は、&LA. バイトを超えてはいけません。

- 許可 ID
- 表修飾子
- 視点修飾子
- スキーマ名

次の SQLSTATE が戻されました:
&DSQSQLST.

ユーザーの処置: 名前を短くして、QMF の使用を続けてください。ユニコード・カタログを持つデータベースでは、名前はユニコード・バイトで保管されます。データベース・サーバー &LS. でサポートされる実際のユニコード文字数は、この画面で指定される数より少ない可能性があります。

DSQ17108

メッセージ: 名前 &V1 に、正しくない数の修飾子が含まれています。

説明: 名前 &V1 を持つオブジェクトでは、修飾子は 1 つしか持てません。列名が、修飾名、非修飾名、または関連名のいずれかの表名で修飾されています。コンテキストでは、列名に表名修飾子が必要です。

ユーザーの処置: オブジェクトを正しく修飾して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00108 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17109

メッセージ: この文脈の中では &V1 は無効です。

説明: ある種の SQL キーワードは、ある種の文脈の中では使用できません。たとえば、ORDER BY、INTO、および FOR UPDATE を CREATE VIEW とともに使用することはできません。また、どの SELECT ステートメントの中にも INTO があってはなりません。

ユーザーの処置: 照会を訂正して、再実行してください。

SQLCODE: -00109 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17110

メッセージ: &V3.&V1. で始まる値に、正しくない 16 進データが見つかりました。

基準線: ==>&V2.

説明: 1 つの 16 進文字は 2 つの英字または数字で表されます。したがって、16 進数値は、0 から 9 までの数字および英字 A、B、C、D、E、または F の偶数個の組み合わせにより表されていない必要があります。誤りのある 16 進数値は、奇数個の数字または英字により表されているか、または無効な英字か、そのほかの文字が含まれています。

ユーザーの処置: 無効な値を訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00110 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17111

メッセージ: 列関数が、列名を使用していません。

説明: 列関数 AVG、MAX、MIN、および SUM は、アクセスされた表の列名を含む式上で使用しなければなりません。

正:
SELECT SUM (SALARY * 1.15) FROM Q.STAFF

誤:
SELECT SUM (18000 * 1.15) FROM Q.STAFF

ユーザーの処置: すべての列関数が処理する列を持っていることを確認して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00111 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17112

メッセージ: DSQ12312 を参照してください。

DSQ17113

メッセージ: 名前 &V3.&V1. に無効な文字が含まれています。

基準線: ==>&V2.

説明: データベース、記憶域グループ、表スペース、およびバッファ・プールの名前に使用できる文字は、英字の大文字、国別文字 (*、&、または @)、または数字だけです。最初の文字は、英字または国別文字でなければなりません。

ユーザーの処置: 名前 &V3 の無効文字を訂正してください。照会を再実行してください。

SQLCODE: -00113 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17115

メッセージ: &V3.&V1. の使用法に誤りがあります。

基準線: ==>&V2.

説明: '>' または '= ' などの単純比較演算子の後には、項目のリストを続けることはできません。ANY および ALL 比較演算子の後には、式や項目のリストではなく、副選択を続ける必要があります。例:

正: WHERE SALARY > ALL (SELECT COMM
FROM Q.STAFF)

誤: WHERE SALARY > ALL (10000)

ユーザーの処置: &V3. の使用方法を変更して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00115 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17117

メッセージ: 値の数と列の数が一致しません。

説明: たとえば INSERT INTO Q.STAFF などのステートメントでは、NOT NULL と定義された各列に値を指定しなければなりません。

表名のあとに列のリストを指定しない場合には、VALUES のあとに、表内の各列に関する値を指定します。

表名のあとに列のリストを指定する場合には、VALUES のあとにそのリストの中の各列に関する値を指定します。

例:
INSERT INTO Q.STAFF (ID, NAME, DEPT)
VALUES (400, 'HARRISON', 20)

ユーザーの処置: INSERT INTO によって処理したい個々の列に値を指定して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00117 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17118

メッセージ: 副照会の中で使用される表を変更することはできません。

説明: ここでいう変更には、INSERT、UPDATE、および DELETE があります

誤:
INSERT INTO Q.STAFF
SELECT * FROM Q.STAFF WHERE YEARS > 7

上記の例では、受け取るデータの出所である表を変更しようとしています。

ユーザーの処置: 副照会に使用されている表が変更されることのないような形に照会を訂正するか、またはその表を変更するための別個の照会を作成してください。

SQLCODE: -00118 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17119

メッセージ: グループ化に矛盾があります。

説明: 次のいずれかの状況が起きています。

1. SELECT に列名と列関数があるが、GROUP BY がない。

正:
SELECT DEPT, AVG(SALARY) FROM Q.STAFF
GROUP BY DEPT

2. SELECT のあとにリストされた列が、GROUP BY のあとにない。

正:
SELECT DEPT, JOB, AVG(SALARY)
FROM Q.STAFF
GROUP BY DEPT, JOB
(誤: GROUP BY DEPT)

(SELECT のあとに * を用いた場合には、GROUP BY のあとにすべての列名をリストしなければなりません。)

3. HAVING キーワードのあとに、グループには適用されない条件がある。

正: HAVING MIN(YEARS) > 6
(誤: HAVING YEARS > 6)

4. 式でのグループ値と単一値が混用されている。

正:
SELECT DEPT, AVG(SALARY) FROM Q.STAFF
GROUP BY DEPT

5. GROUP BY のあとに、リストした列は定数、式、または関数から引き出した視点列である。

6. HAVING は GROUP BY を付けずに指定する。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正

し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00119 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17120

メッセージ: WHERE 文節、SET 文節、または VALUES 文節は列関数を含みます。

説明: 列関数または列関数をソースとするユーザー定義関数は、SET または VALUES 文節で許可されません。WHERE 文節が HAVING 文節の副照会に現れる場合、列関数または列関数をソースとしたユーザー定義関数は、WHERE 文節でのみ使用できます。

正: WHERE YEARS > (SELECT AVG(YEARS)
FROM Q.STAFF)

誤: WHERE YEARS > AVG(YEARS)

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。視点の中のグループ化列に関する問題の場合には、その視点の基礎となる表の使用を試みてください。

SQLCODE: -00120 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17121

メッセージ: 同一の照会で同じ列を二度変更することはできません。

説明: 「変更」には INSERT および UPDATE が含まれます。無効な指定の例を次に示します。YEARS は一度しか変更することはできません。

誤:
INSERT INTO Q.STAFF (ID, YEARS, JOB,
YEARS)
VALUES (400, 7, 'clerk', 8)

ユーザーの処置: 一度の変更だけですむように SQL ステートメントを訂正し、再度実行してください。

SQLCODE: -00121 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17122

メッセージ: グループ化に矛盾があります。

説明: 次のいずれかの状況が起きています。

1. SELECT に列名と列関数があるが、GROUP BY がない。

正:
SELECT DEPT, AVG(SALARY) FROM Q.STAFF
GROUP BY DEPT

2. SELECT のあとにリストされた列が、GROUP BY のあとにない。

正:
SELECT DEPT, JOB, AVG(SALARY)
FROM Q.STAFF
GROUP BY DEPT, JOB
(誤: GROUP BY DEPT)

(SELECT のあとに * を用いた場合には、GROUP BY のあとにすべての列名をリストしなければなりません。)

3. HAVING キーワードのあとに、グループには適用されない条件がある。

正: HAVING MIN(YEARS) > 6
(誤: HAVING YEARS > 6)

4. 式でのグループ値と単一値が混用されている。

正:
SELECT DEPT, AVG(SALARY) FROM Q.STAFF
GROUP BY DEPT

5. GROUP BY のあとに、リストした列は定数、式、または関数から引き出した視点列である。

6. HAVING は GROUP BY を付けなくて指定する。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00122 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17123

メッセージ: &V1 の位置のパラメーターは、定数またはキーワードである必要があります。

説明: 関数 &V2 の &V1 の位置のパラメーターは、定数であるよう要求された場合に定数でないか、またはキーワードであるよう要求された場合にキーワードではありません。

ユーザーの処置: 関数呼び出しを訂正して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00123 **Database:** DB2

QMF Function: SQL Query

DSQ17125

メッセージ: SELECT リストの番号が列を識別していません。

説明: エラーの認められた列番号は、0 であるか、または SELECT のあとにリストされている列の数より大きい可能性があります。

正しくない例:

```
ORDER BY 5   これは SELECT リストの 5 番目の
              項目に基づく順序付けを示します。
              SELECT リスト上に 4 項目しか
              なければ、これは無効です。
ORDER BY 0   これは常に無効です。
```

ユーザーの処置: SELECT リストに適合するように ORDER BY のあとの列番号を変更し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00125 **Database:** DB2

QMF Function: SQL Query

DSQ17127

メッセージ: DISTINCT は、1 つの照会中では一度しか使用できません。

説明: DISTINCT の使用例:

```
正:
SELECT AVG(DISTINCT SALARY), DEPT
FROM STAFF
GROUP BY DEPT
HAVING AVG(SALARY) > 16000
```

誤:

148 QMF: QMF メッセージおよびコード

```
SELECT AVG(DISTINCT SALARY), DEPT
FROM STAFF
GROUP BY DEPT
HAVING AVG(DISTINCT SALARY) > 16000
```

ユーザーの処置: 照会の中の DISTINCT を 1 つだけ残して他をすべて除去し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00127 **Database:** DB2

QMF Function: SQL Query

DSQ17128

メッセージ: NULL は、IS または IS NOT とともに使用してください。

説明: WHERE 文節内の IN に続くリストの中の項目として NULL を用いることはできません。次に例を示します。

```
誤: WHERE AMT IN (20,50,NULL)
正: WHERE AMT IN (20,50) OR AMT IS NULL
```

ユーザーの処置: NULL の構文を訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -0

Database: DB2

QMF Function: SQL Query

DSQ17129

メッセージ: 照会で 15 を超える表参照が用いられています。

説明: 1 つの照会で、15 を超える表参照を行うことはできません。

ユーザーの処置: 照会を 2 つ以上の照会に分割し、それぞれの表参照が 15 以下になるようにしてください。

SQLCODE: -00129 **Database:** DB2

QMF Function: SQL Query

DSQ17130

メッセージ: LIKE で使用されている拡張文字が無効です。

説明: 拡張文字は、ESCAPE 文節で 1 文字を引

用符でかこまなければなりません。拡張文字はその後に % か _ がある場合だけ LIKE の次に指定できます。LIKE または NOT LIKE の左側の列名が混合属性であれば ESCAPE 文節を指定できません。たとえば次の WHERE 文節を参照してください。

```
WHERE COL1 LIKE 'AA+%BB%' ESCAPE '+'
```

+ は ESCAPE 文字で COL1 は文字のタイプです。この WHERE 文節で 'AA%BB' で始まる COL1 の値を求められます。この例では LIKE の後の文字ストリングでは '++'、'+%'、または '+_' 以外の + の使用はエラーとなります。(COL1 が混合属性である場合は ESCAPE 文字を指定できないことに注意してください。)

ユーザーの処置: 文字ストリングを直すか、または別の拡張文字を選択して文字ストリングを訂正してください。LIKE か NOT LIKE の左にある列名が混合属性でないかを確認してください。

SQLCODE: -00130 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17131

メッセージ: LIKE 使用のステートメントに不適合なデータ・タイプがあります。

説明: LIKE または NOT LIKE の左側の列名が文字タイプである場合は、右側の式も文字タイプでなければなりません。列名が図形タイプのものであれば、右側の式も同様に、図形タイプでなければなりません。

LIKE または NOT LIKE の右側の式に拡張文字があると、拡張文字は左側の列名のタイプと互換性がなければなりません。

ユーザーの処置: すべてのオペランドのデータ・タイプを調べて、もう一度、照会し直してください。

SQLCODE: -00131 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17132

メッセージ: LIKE 比較 &V1. で無効な値が使用されています。

基準線: ==>&V2.

説明: 実際のエラーは LIKE の直前または直後にあるかもしれません。

LIKE の前には列名、あとには文字定数が必要です。定数の中では、ゼロまたは複数の文字のストリングを示す場合には '%' を使用してください。単一文字は、すべて '_' で表します。

たとえば、JOHNSON のディレクトリーを探索したいがスペルが正確にわからない場合には、次のように入力できます。

```
WHERE NAME LIKE 'J%NS_N'
```

ユーザーの処置: LIKE を用いる条件を訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00132 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17133

メッセージ: HAVING または WHERE 文節のあとの式の使用法に誤りがあります。

説明: その列が HAVING か WHERE 文節の相関参照列の場合、組み込み関数の引き数として式ではなく列名を使用しなければなりません。次に例を示します。

```
SELECT DEPT,SUM(YEARS) FROM Q.STAFF VARX  
GROUP BY DEPT HAVING SUM(YEARS) >  
ANY (SELECT AVG(YEARS) FROM Q.STAFF  
GROUP BY DEPT HAVING MAX(YEARS) >  
MIN(1*VARX.YEARS))
```

は正しくありません。-- (1*VARX.YEARS) を組み込み関数 MIN の引き数にはできません。これは相関参照変数 VARX.YEARS を含む式だからです。

ユーザーの処置: 照会を訂正した上で、再実行してください。

SQLCODE: -00133 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17134

メッセージ: LONG ストリング列は正しく使用されませんでした。

説明: 文字データ・タイプで、幅が 254 文字より大きいか、解決の結果、幅が 254 文字より大きくなる式を持つ列を使用する場合、いくつかの制限があります。このような列は、探索条件、ソート、または算術演算に使用することはできません。また、このような列に対する挿入または更新に使用する値は定数でなければならず、副照会の結果として得られた値であってはなりません。

SQL 照会では、列幅の広い列を、組み込み関数、HEX 関数、VARGRAPHIC 関数、ORDER BY、GROUP BY、UNION、または、索引で使用することはできません。

ユーザーの処置: 幅の広い文字列の使用を変更するか、またはその列を除去して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00134 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17136

メッセージ: ソート・キーの長さが 4,000 バイトを超えることはできません。

説明: ソート・キーは、DISTINCT のあとか、ORDER BY または GROUP BY 文節の中で指定されている列のリストによって形成されます。DISTINCT と ORDER BY または GROUP BY の両方があれば、ソート・キーはその両方の列リストによって構成されます。

ユーザーの処置: ソート・キーの内部長が 4,000 バイトを超えないように、ステートメントを変更してください。そのためには、ORDER BY 文節か GROUP BY 文節から、または DISTINCT 修飾子のあとのリストから、1 つまたはいくつかの列名を削除しなければなりません。

SQLCODE: -00136 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17137

メッセージ: 連結の結果が長すぎます。

説明: 連結 (縦棒 2 本 '||') の結果、長さが 32,765 文字、または 16,383 文字以上になりました。

ユーザーの処置: ストリングが短くなるように照会を変更して、もう一度、やり直してください。

SQLCODE: -00137 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17138

メッセージ: 関数 SUBSTR の 2 番目か 3 番目の引き数が、範囲外にあります。

説明:

SUBSTR(ARG1, ARG2, ARG3)

ARG1: 1 桁の文字または漢字ストリングでなければなりません。

ARG2: 1 <= ARG2 <= L でなければなりません。

ARG3: 0 <= ARG3 <= L-N+1 の整数でなければなりません。

ここで、L は ARG1 の長さです。
N は ARG2 の長さです。

ユーザーの処置: SUBSTR の 2 番目と 3 番目の引き数を変えて、照会しなおしてください。

SQLCODE: -00138 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17150

メッセージ: この視点の中のデータを変更することはできません。

説明: INSERT、UPDATE、または DELETE を次のような視点に使用できません。

1. 複数の表をもととしているもの。

- 式または組み込み関数によって定義された列を含む視点。例: UNITS*PRICE, AVG(SALARY)
- DISTINCT または GROUP BY を使用する SELECT ステートメントによって定義されたもの。
- 参照表にすべての非 NULL 可能列を含まないもの。

ユーザーの処置: 視点の作成に使われた各表を変更するために、それぞれ異なる照会を書いてください。

SQLCODE: -00150 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17151

メッセージ: 列 &V1 は変更できません。

説明: INSERT、UPDATE、または DELETE (SQL の場合) の使用、または I、U、または D (QBE の場合) の使用で、下記の中の列を変更できません。

- 複数の表に基づく視点
- 式または組み込み関数によって定義される列を含む視点 例: UNITS*PRICE または AVG(SALARY)
- DISTINCT または GROUP BY を使用する SELECT ステートメントによって定義された視点
- 表スペースの区分化キー
- 列が更新されることのないカタログ表

ユーザーの処置: 視点の作成に使われた各表を変更するために、それぞれ異なる照会を書いてください。

SQLCODE: -00151 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17152

メッセージ: ALTER ステートメントの DROP &V1 文節が無効です。

説明: &V2 が &V3. なので、ALTER ステートメントの DROP &V1 文節が無効です。ALTER TABLE ステートメントの DROP 文節が、DROP 文節に制約タイプと一致しない制約をドロップしようとしてしました。文節は適切な制約タイプを識別する必要があります。

- REFERENTIAL CONSTRAINT- 識別された制約は参照制約です。
- CHECK CONSTRAINT- 識別された制約はチェック制約です。
- PRIMARY KEY CONSTRAINT- 識別された制約は基本キー制約です。
- UNIQUE KEY CONSTRAINT- 識別された制約は固有キー制約です。

ユーザーの処置: ステートメントを変更して、ALTER TABLE ステートメントの DROP 文節を正しく使用してください。

SQLCODE: -00152 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17153

メッセージ: 式または関数によって定義された視点の列には名前が必要です。

説明: CREATE VIEW ステートメントに、式 (UNITS * PRICE など)、組み込み関数 (AVG(YEARS) など)、または定数 ('JUNE 1' など) に基づいて定義される列が含まれています。このような列には名前を与えなければなりません。したがって、各列の名前を示す名前リストが必要です。

ユーザーの処置: CREATE VIEW 照会の中で、関数または式に基づいて定義されるすべての列に、新しい名前を与えてください。

SQLCODE: -00153 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17154

メッセージ: UNION を使用するか、またはリモート・オブジェクトを使用する視点を作成することはできません。

説明: 作成しようとしている視点の定義の中で、キーワード UNION を使用しているか、またはリモート・オブジェクトが含まれています。これは、視点の定義では使用できません。

ユーザーの処置: 視点の定義を別の形に変えてください。

SQLCODE: -00154 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17155

メッセージ: FROM のあとに、GROUP BY または HAVING で定義された視点が指定されていません。

説明: 照会の中の FROM のあとに指定されている表の 1 つが、GROUP BY または HAVING を使用する照会によって定義されている視点です。このような視点を、FROM のあとで他の表とともに指定することはできません。

ユーザーの処置: FROM のあとで、ほかの表と一緒にその視点を指定することのないように、照会を書きなおしてください。その後照会を実行してください。

SQLCODE: -00155 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17156

メッセージ: 照会に、表が指定されていません。

説明: ALTER TABLE、DROP TABLE、LOCK TABLE、または CREATE INDEX を使用することができるのは表に対してだけです。視点またはリモート・オブジェクトの名前はこのステートメントの後で使えません。

ユーザーの処置: 照会で正しい表名が使われていることを確認してください。上記にリストしたス

テートメントのあとでは、視点またはリモート・オブジェクトの名前は使用しないでください。

SQLCODE: -00156 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17157

メッセージ: 表名は FOREIGN KEY 文節でだけ指定できます。&V1 は表名ではありません。

説明: &V1 が、CREATE または ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 文節に指定されました。しかし &V1 は表名ではありません。FOREIGN KEY 文節では、表を指定しなければなりません。

ユーザーの処置: FOREIGN KEY 文節で、表名が使用されたか確認してください。

SQLCODE: -00157 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17158

メッセージ: CREATE VIEW と SELECT の両リストには、同数の列が必要です。

説明: CREATE VIEW リストの各列名に対応する列名が SELECT リストにも入っていなければなりません。SELECT リストの中の名前リストをアスタリスク (*) で置き換えた場合には、元の表と同じ列名が視点に入ります。

ユーザーの処置: CREATE VIEW リストに合わせて SELECT リストの列名を変更し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00158 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17159

メッセージ: 使用されている名前は視点または別名でなく表です。

説明:

DROP VIEW は視点の除去にのみ使用されます。
DROP ALIAS は別名の除去にのみ使用されます。

COMMENT ON ALIAS は別名のコメントにのみ使用
されます。

DROP VIEW、DROP ALIAS または COMMENT
ON ALIAS を使って表を除去、またはコメントを
付けることはできません。

ユーザーの処置: 表を除去、またはコメントを付
けたい場合、DROP TABLE か COMMENT ON
TABLE ステートメントを使ってください。

SQLCODE: -00159 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17160

メッセージ: この視点には WITH CHECK は使用
できません。

説明: 次のような場合には WITH CHECK オプ
ションは使用できません。

1. 視点は「読み取り専用」と定義されました。
(たとえば、視点の定義に DISTINCT GROUP
BY または JOIN が含まれている場合)。
2. 視点が副照会を含む場合。

ユーザーの処置: 別の操作を続けてください。

SQLCODE: -00160 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17161

メッセージ: 挿入または更新の値が視点定義の条
件を満たしていません。

説明: データを変更しようとしている視点の定義
の中で、WITH CHECK オプションが使用され
ています。このような視点の行の挿入または更新
を行おうとすると、その結果が視点の定義に適合
するかどうかの検査が必ず行われます。照会の中
に、その定義の中の条件を満たさない値があり
ます。

ユーザーの処置: 視点の定義を調べて、変更が拒

否された理由を判断し、照会中の該当する値を変
更してください。

SQLCODE: -00161 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17164

メッセージ: 他のユーザーの名前で視点を作成す
ることはできません。

説明: この照会は、修飾子付きの名前
(USERID.TABLENAME という形式の名前) で視
点を作成しようとしています、その名前の修飾
子があなたの DB2 許可 ID ではありません。自
分以外の許可 ID を用いて視点を作成すること
ができるのは、“SYSADM” 権限を持つユーザー
だけです。

ユーザーの処置: 照会を訂正して再実行するか、
または他の人のための視点を作成する許可を得
てください。

SQLCODE: -00164 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17170

メッセージ: スカラー関数 '&V1' に指定した引
き数の数が無効です。

説明: SQL ステートメントにあるスカラー関数
&V1 の引き数が多すぎるか少なすぎます。サポ
ートされるスカラー関数は次のとおりです。

DECIMAL、DIGITS、FLOAT、HEX、INTEGER、
VARGRAPHIC、DATE、TIME、TIMESTAMP、DAYS、
YEAR、MONTH、DAY、HOUR、MINUTE、SECOND、
MICROSECOND、LENGTH、SUBSTR、および VALUE。

ユーザーの処置: スカラー関数 '&V1' の使用法
を確かめてください。スカラー関数を変更して再
度、照会を実行してください。

SQLCODE: -00170 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17171

メッセージ: スカラー関数 '&V2' の引き数 '&V1' は無効です。

説明: スカラー関数 '&V2' に指定されたデータ・タイプ、データの長さ、またはデータの値が間違っています。詳しくは、SQL 照会の資料を参照してください。

ユーザーの処置: 関数 '&V2' のデータ・タイプ、データの長さ、またはデータの値を変更して再度、照会し直してください。

SQLCODE: -00171 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17180

メッセージ: 日時の値 &V1 が無効です。

説明: 有効な日付を表すストリングは、次のいずれかの形式です。

'mm/dd/yyyy' 'dd.mm.yyyy' 'yyyy-mm-dd'
または LOCAL 形式

有効な時刻を表すストリングは、次のいずれかの形式です。

'mm/dd/yyyy' 'dd.mm.yyyy' 'yyyy-mm-dd'
または LOCAL 形式

有効なタイム・スタンプを表現するストリングは、次の形式です。

'yyyy-mm-dd-hh.mm.ss.nnnnnn'

ユーザーの処置: 日時値の構文を変更して、再度その照会を実行してください。

SQLCODE: -00180 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17181

メッセージ: 日時の値が無効です。

説明: 日時値を表すストリングの値が、範囲外にあります。日時値の正しい範囲は次のとおりです。

年	-	1	から	9999
月	-	1	から	12
日	-	1	から	31
時	-	0	から	24
分	-	0	から	59
秒	-	0	から	59

ユーザーの処置: 日時の値を訂正して、再度照会し直してください。

SQLCODE: -00181 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17182

メッセージ: 日付時刻の値を使っている算術式が無効です。

説明: 指定された算術式で、日付時刻か、単一の期間の使用方法が、間違っています。正しい使用例を以下に示します。

```
SELECT STARTD + 10102433. FROM Q.PROJECT  
SELECT STARTD + 1 YEAR FROM Q.PROJECT
```

ユーザーの処置: 式を訂正して、再度その照会を実行してください。

SQLCODE: -00182 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17183

メッセージ: 日付、またはタイム・スタンプに関する算術演算で、無効な結果が出ました。

説明: 日付、またはタイム・スタンプの値を求める算術演算で、有効範囲外の値が求められました。有効な日付は、0001-01-01 から 9999-12-31 までです。

ユーザーの処置: 日時の値を訂正して、再度照会し直してください。

SQLCODE: -00183 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17184

メッセージ: DSQ10713 を参照してください。

DSQ17185

メッセージ: 日付または時刻の値をフォーマット設定できません。

説明: 次のいずれかの状況が起きています。

1. LOCAL オプションを使って日付または時刻の値を書式化しようとしたが、使用可能なインストール先定義の日付または時刻ルーチンが存在しない。
2. 日付または時刻の値をストリングで表現して指定したが、ストリングがデータベースの認識できる形式ではない。または、そのストリングを処理できるインストール先定義の日付または時刻ルーチンが存在しない。

ユーザーの処置: 日付または時刻の値のストリング表現を認識可能な形式に変更するか、QMF 管理者に連絡してデータベースでインストール先定義の日付・時刻ルーチンを利用可能にしてみてください。

SQLCODE: -00185 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17193

メッセージ: 列 &V1 の指定が、NOT NULL として正しくありません。

説明: ALTER TABLE ステートメントで、列 &V1 が NOT NULL として指定され、DEFAULT 文節が指定されなかったか、または DEFAULT NULL として指定されたかのいずれかです。新規列が既存の表に追加される場合は、値はすべての既存の行に割り当てられる必要があります。デフォルト値で、ヌル値が割り当てられています。ところが、列は NOT NULL として定義されたので、ヌルではないデフォルト値を定義する必要があります。

ユーザーの処置: 列の NOT NULL 制限を除去するか、または列に NULL 以外のデフォルト値を与えて、ステートメントを訂正してください。その後、ステートメントを再実行してください。

SQLCODE: -00193 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17197

メッセージ: 修飾列名を ORDER BY に使用しないでください。

説明: ORDER BY を UNION または UNION ALL と一緒に使用するときは、修飾列名を ORDER BY の後に続けて使用しないでください。代わりに、非修飾名か、または SELECT の後のリストの列の位置を示す数値を使用してください。

例 1:
SELECT NAME, ID FROM Q.STAFF
UNION
SELECT NAME, TEMPID FROM Q.APPLICANT
ORDER BY 1

例 2:
SELECT NAME, ID FROM Q.STAFF
UNION
SELECT NAME, TEMPID FROM Q.APPLICANT
ORDER BY NAME

ユーザーの処置: 修飾列名を使用しないようにステートメントを変更して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00197 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17198

メッセージ: 照会が空であるか、またはコメントしか入っていません。

説明: 空の照会またはコメントだけを含む照会には、処置を指示する命令が入っていないため、実行することはできません。

ユーザーの処置: 別の照会を書いてください。

SQLCODE: -00198 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17199

メッセージ: &V3. またはその前で SQL エラーが起きました。 &V1。

基準線: ==>&V2.

説明: このメッセージは、通常以下の原因により
ます。

1. 副照会で DISTINCT という語を複数使用。
2. 余分なキーワード、句読点またはそれらの欠落
3. SELECT 後の括弧なしの副照会

以下の行は、これまでの文脈から見れば正しいかもしれませんが、照会全体から見れば正しく働かない可能性があります。

代替シンボルのリストは単なる提案です。これらの中には、使用されているデータベース・マネージャのステートメントとして正しくない場合があります。それらのシンボルは、他のデータベース管理システムに送られると正しいステートメントになる場合があります。&V4.

ユーザーの処置: 照会を訂正して、再実行してください。

SQLCODE: -00199 **Database:** DB2

QMF Function: SQL Query

DSQ17203

メッセージ: 列 &V1 が複数の表にあります。

説明: FROM 文節の複数の表または視点にその名前の列がある場合、またはネストされた表の式の複数の列がその名前である場合、非修飾列名は未確定です。列名またはネストされた表の式の相関名が固有である場合のみ、修飾列名は未確定です。

ユーザーの処置: この問題が、ネストされた表の式の非固有列名により起こる場合は、ネストされた表の式を変更して、列が固有になるようにしてください。問題が非修飾名の使用によって起こる場合は、表、視点または相関名で修飾してください。

156 QMF: QMF メッセージおよびコード

SQLCODE: -00203 **Database:** DB2

QMF Function: SQL Query

DSQ17204

メッセージ: &V1 が見つかりません。

説明: 照会の中で &V1. が参照されています。データベースにこの名前を持つものはありません。

ユーザーの処置: スペルの誤りがないかどうかを検査してください。

SQLCODE: -00204 **Database:** DB2

QMF Function: SQL Query

DSQ17205

メッセージ: 列名 &V1 は表 &V2. の中にありません。

説明: 列名 &V1. が指定されています。これは、表 &V2. の中に見つかりませんでした。名前
のスペルが違っているか、または表名を修飾する必要があると考えられます。

ユーザーの処置: 列名と所有者が正しいかどうか、およびスペルが正しいかどうかを検査してください。

SQLCODE: -00205 **Database:** DB2

QMF Function: SQL Query

DSQ17206

メッセージ: DSQ12402 を参照してください。

DSQ17207

メッセージ: ORDER BY のあとには、列名ではなく列番号を使用してください。

説明: UNION とともに ORDER BY を使用するさいには、ORDER BY のあとには列名を使用しないで、SELECT のあとのリスト上での列の位置を示す番号を使用してください。

例：
SELECT NAME, ID FROM Q.STAFF
UNION
SELECT NAME, TEMPID FROM Q.APPLICANT
ORDER BY 1

ユーザーの処置: 列名を列番号に変更して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00207 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17208

メッセージ: SELECT リストに &V1 がなければなりません。

説明: ORDER BY のあとに &V1 が続いています。 &V1 が SELECT リストに含まれていないか、または、ORDER BY のあとのそのスペルに誤りがあります。

ユーザーの処置: &V1 を SELECT リストに付け加えてください。そして、それが ORDER BY のあとの列名に一致することを確認してください。

SQLCODE: -00208 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17212

メッセージ: &V1 の使用が、SQL ステートメント内で固有ではありません。

説明: 名前 &V1 が SQL ステートメントで複数回出てきて、競合しています。

CREATE TRIGGER ステートメントでは、REFERENCING 文節で使用されている名前は固有ではありません。

- 名前がトリガーのサブジェクト・テーブルと同じである可能性がある。
- 1 つの名前が OLD や NEW 相関名、または OLD_TABLE や NEW_TABLE ID で複数回使用されている可能性がある。

SELECT ステートメントでは、FROM 文節で使用されている名前は固有ではありません。

ユーザーの処置: 固有の名前を指定するよう、ステートメントを変更してください。

トリガー定義では、REFERENCING 文節で重複している名前がないように変更してください。

SELECT ステートメントでは、FROM 文節を書き直してください。相関名を表名と関連付けるか、またはすべての表が個別に識別されるように、既存の相関名を変更してください。

SQLCODE: -00212 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17214

メッセージ: &V2 文節の式が無効です。

説明: &V2 文節の "&V1" で始まる式が無効です。

次のリストにある理由番号 &V3 を参照してください。

1. UNION 演算子を使用されている場合、SELECT ステートメントの ORDER BY 文節には、ソート・キー式を使用できません。
2. 選択文節で DISTINCT が使用されている場合、ORDER BY 文節にはソート・キー式を使用できません。
3. ORDER BY 文節に列関数があっても GROUP BY 文節がない場合は、グループ化が発生しません。
4. GROUP BY 文節の式はスカラー全選択にはできません。
5. GROUP BY 文節の式はスカラー全選択、つまり単一値を返す全選択にはできません。

ユーザーの処置: SELECT ステートメントを変更して、照会を再実行してください。次のリストの処置番号 &V3 を参照してください。

1. ORDER BY 文節からソート・キー式を除去してください。列名または番号を使用してください。

2. 選択文節から **DISTINCT** を除去するか、または **ORDER BY** 文節のソート・キーを列名または番号に変更してください。
3. **GROUP BY** 文節を追加するか、**ORDER BY** 文節から列関数を除去してください。
4. **GROUP BY** 文節から式を除去してください。代わりに、ネストされた表の式、または共通表式で照会を書き直すことができます。

SQLCODE: -00214 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17216

メッセージ: "&V1" の両側のエレメントの値が、同じではありません。

説明: 述部演算子 "&V1" の左側と右側のエレメントの数と同じではありません。エレメントの数は、左右で同じでなければなりません。

これらのエレメントは括弧で閉じてある式のリストに表示されることがあり、また括弧で閉じてある選択ステートメントの列として表示されることもあります。

ユーザーの処置: 同じ数のエレメントが述部演算子の両側にあるように、述部を訂正してください。

示されている述部演算子が "=" の場合、**SELECT** ステートメントで書かれている **IN** 述部に問題がある可能性があります。

SQLCODE: -00216 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17219

メッセージ: **EXPLAIN** 表 &V1. がありません。

説明: **EXPLAIN** ステートメントには、1 つまたは複数のユーザー提供の説明表が必要で、ステートメントはここに情報を入れます。表 &V1 は、現行のデータベースのロケーションには定義されていません。

ユーザーの処置: **EXPLAIN** を使用する前に、必

要な説明表を作成してください。 **EXPLAIN** ステートメントと説明表の作成については、「*DB2 UDB for z/OS SQL Reference*」を参照してください。

SQLCODE: -00219 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17220

メッセージ: **EXPLAIN** 表に、正しくない定義があります。

説明: 必要な説明表が正しく定義されていないために、**EXPLAIN** ステートメントの実行中にエラーが発生しました。

EXPLAIN 表 (および認識されている場合は列):
 &V1 &V2.

次の理由で、定義が正しくない可能性があります。

- 表に列がない。
- 表に余分な列がある。
- 列が間違った順番で定義されている。
- 列に、次の属性のいずれかに関連した無効な定義がある。
 - 列名
 - 列のデータ・タイプ
 - 列の長さ
 - NOT NULL

ユーザーの処置: **EXPLAIN** を使用する前に、必要な説明表の定義を訂正してください。

EXPLAIN ステートメントと説明表の定義については、「*DB2 UDB for z/OS SQL Reference*」を参照してください。

SQLCODE: -00220 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17250

メッセージ: 位置の修飾子は使用できません。

説明: 指定された名前には、位置の修飾子があり

ます。3つの部分からなるオブジェクト名は、ローカルの位置名が定義されるまでは使用できません。

ユーザーの処置: 位置の修飾子を除去し、照会を再試行してください。QMF 管理者に連絡して、正しいデータベースを使用していることを確認するか、ローカルの位置名を定義してもらってください。

SQLCODE: -00250 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17251

メッセージ: &V1 は、無効な位置名です。

説明: &V1 には、英字の特殊文字 (#, @, \$) が含まれています。これらの文字は、位置名に使用できません。

ユーザーの処置: 位置名を訂正し、再試行してください。

SQLCODE: -00251 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17270

メッセージ: 関数はサポートされていません。
(理由コード =&V1)

説明: 以下のいずれかの理由コードで示されたように制約に違反しているため、ステートメントを処理することができません。

- (1) 基本キーおよび各索引には、表の区分化列がすべて含まれている必要があります。
- (2) 区分化キー列値の更新はサポートされていません。
- (3) 参照保全是サポートされていません。

ユーザーの処置: 理由コードに対応する処置を次に示します。

- (1) CREATE TABLE、ALTER TABLE または CREATE UNIQUE INDEX ステートメントを訂正してください。

- (2) 多重ノード表の区分キー列を更新しないようにしてください。行を削除して、新規の値の行を区分化列に挿入し、更新をシミュレートすることができます。
- (3) CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 文節を除去してください。

SQLCODE: -00270 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17312

メッセージ: &V1. で &V3 の使用法が間違っています。

説明: このメッセージの原因となるエラーをいくつか示します。

1. LIKE のあとに、文字定数でなく名前がある。

正: WHERE NAME LIKE 'J%'
誤: WHERE NAME LIKE J%

2. IN、ALL、または ANY のあとの括弧内のリストに、数値定数または文字定数でなく名前がある。

正: WHERE NAME IN ('JOB','JIM')
誤: WHERE NAME IN (JOB, JIM)

3. 名前またはキーワードの前にコロン(':') がある。

正: WHERE NAME = 'JOB' または
WHERE NAME = JOB
誤: WHERE NAME = :JOB

ユーザーの処置: 照会を訂正して、再実行してください。

SQLCODE: -00312 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17313

メッセージ: DSQ10713 を参照してください。

DSQ17332

メッセージ: DSQ15332 を参照してください。

DSQ17338

メッセージ: ON 文節の使用が無効です。

説明: ON 文節が以下のいずれかの理由で、誤って使用されています。

- 述部の式の 1 つは、関連した結合演算子のオペランドの 1 つの列のみを参照し、述部の別の式は、別のオペランド表の列のみを参照する必要があります。
- 結合演算子が FULL OUTER JOIN または FULL JOIN の場合にのみ、VALUE または COALESCE 関数を ON 文節で使用できます。
- '=' 以外の演算子は、FULL OUTER JOIN または FULL JOIN では許可されていません。

ユーザーの処置: ON 文節の構文を訂正して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00338 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17351

メッセージ: 位置 &V1. のデータ・タイプが無効です。

説明: アプリケーション・リクエストによりサポートされない SQL データ・タイプがあります。 &V1 は、無効なデータ・タイプを持つ SQLDA の最初のエレメントです。このエラーの一般的な原因として、アプリケーション・リクエストがアプリケーション・サーバーにあるラジ・オブジェクト・データを記述しようとしたことが考えられます。このエラーの原因となる SQLTYPE には、LOB、BLOB、CLOB および DBLOB などがあります。

ユーザーの処置: 無効なデータ・タイプを除去し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00351 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17372

メッセージ: 表で ROWID として定義できる列は 1 つだけです。

説明: 複数の ROWID 列を作成しようとしたか、または既に 1 つの ROWID 列がある表にさらに ROWID 列を追加しようとした。

ユーザーの処置: CREATE TABLE または ALTER TABLE SQL ステートメントに複数の ROWID データ・タイプの列を含めてはなりません。

SQLCODE: -00372 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17397

メッセージ: オプション GENERATED の指定に誤りがあります。

説明: GENERATED が CREATE または ALTER TABLE ステートメントで指定されましたが、列のデータ・タイプは ROWID、あるいは ROWID に基づく特殊タイプのいずれでもありません。GENERATED は、データ・タイプが ROWID、あるいは ROWID に基づく特殊タイプの列に対してのみ指定できます。

ユーザーの処置: GENERATED 文節を除去するか、またはオブジェクトのデータ・タイプが ROWID であることを確認してください。

SQLCODE: -00397 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17399

メッセージ: DSQ15399 を参照してください。

DSQ17401

メッセージ: 式または条件の中で、異なるタイプのデータを用いることはできません。

説明: 1 つの式または条件の中で、異なるタイプのデータを使用しています。たとえば、以下は

文字データ (COMM) が数値式に使用されているため無効です。

無効な例: WHERE SALARY = 12*'COMM'

ユーザーの処置: 同じタイプのデータが使用されるように、該当するすべての式または条件を訂正してください。

SQLCODE: -00401 **Database:** DB2

QMF Function: SQL Query

DSQ17402

メッセージ: 数字データが必要です。

説明: 列関数である AVG および SUM、スカラー関数である DECIMAL、DIGITS、FLOAT、および INTEGER には、数字データが必要です。数字以外のデータは使用できません。算術式には、数字データ、または日付時刻データが必要です。

ユーザーの処置: 算術式または関数に数字データだけが入るようにユーザーの照会を変更して、その後照会を実行してください。

SQLCODE: -00402 **Database:** DB2

QMF Function: SQL Query

DSQ17404

メッセージ: 与えられた値が列 &V1. には長すぎます。

説明: 列 &V1 に入れようとしている文字数が、その列の最大行数を超えています。

ユーザーの処置: その列に収まるように値を変更して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00404 **Database:** DB2

QMF Function: SQL Query

DSQ17405

メッセージ: 数値 &V3.&V1. はユーザー列の許容範囲内にありません。

基準線: ==>&V2.

説明: &V3. は、関連する列で使用できる範囲外

の値です。値は、式の結果としての値の場合もあります。

適切な SQL の値の範囲は次のとおりです。

FLOAT -7.2E75 から -5.4E-79, 0,
5.4E-79 から 7.2E75

INTEGER .. -2147483648 から 2147483647

SMALLINT . -32768 から 32767

DECIMAL .. 範囲は列の精度と位取りによって決まります。たとえば、精度 = 5、位取り = 2 で定義された 10 進数の列に値が指定されている場合、その値は、-999.99 から 999.99 までの範囲です。

ユーザーの処置: 数値を変更し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00405 **Database:** DB2

QMF Function: SQL Query

DSQ17406

メッセージ: 数値が、列に使用できる値の範囲外にあります。

説明: 照会に指定されている値が、関連する列に使用可能な値の範囲内にありません。値は、式の結果としての値の場合もあります。

適切な SQL の値の範囲は次のとおりです。

FLOAT -7.2E75 から -5.4E-79, 0,
5.4E-79 から 7.2E75

INTEGER -2147483648 から 2147483647

SMALLINT ... -32768 から 32767

DECIMAL 範囲は列の精度と位取りによって決まります。たとえば、精度 = 5、位取り = 2 で定義された 10 進数の列に値が指定される場合、その値は、-999.99 から 999.99 までの範囲です。

ユーザーの処置: 許容範囲内の値を指定してください。値を正しい列に入力しているか、確認してください。

SQLCODE: -00406 **Database:** DB2

QMF Function: SQL Query

DSQ17407

メッセージ: 列 &V1 に NULL 値を含めることはできません。

説明: 列 &V1 に対する更新値または挿入値が NULL でしたが、列 &V1 は表定義の中で NOT NULL と指定されています。行を挿入しようとしている場合には、ある列に値の指定を忘れると、NULL の挿入を望んでいるものと見なされます。

ユーザーの処置: 列 &V1. のための値を入力してください。

SQLCODE: -00407 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17408

メッセージ: 新たな値のデータ・タイプが、列 &V1. に適合しません。

説明: 列 &V1 に入れる新たな値のデータ・タイプがその列のデータ・タイプに一致していません。すなわち、両方とも数値、文字ストリング、漢字ストリング、日付、時刻またはタイム・スタンプでなければなりません。

ユーザーの処置: 列 &V1 に別の値を入力してください。照会を再度、実行してください。

SQLCODE: -00408 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17409

メッセージ: COUNT の用法に誤りがあります。

説明: 組み込み関数 COUNT のあとに使用できるのは、"*"、または DISTINCT および列名だけです。下にその使用例を示します。

1. COUNT (*) は、選択された行の数を数えて示します。
2. COUNT (DISTINCT 列名) は、その列の中の異なる値の数を数えて示します。

ユーザーの処置: COUNT の用法を変更した上で、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00409 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17410

メッセージ: '&V1' が 30 文字を超えています。

説明: 浮動小数点定数の長さは 30 文字を超えることはできません。

ユーザーの処置: &V1 を丸めて、30 文字以下で表されるようにしてください。

SQLCODE: -00410 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17411

メッセージ: CURRENT DATE/TIME、CURRENT SQLID、または USER キーワードを指定のように使用できません。

説明: SQL ステートメントに CURRENT DATE/TIME、CURRENT SQLID、または USER キーワードが指定されていますが、その使用法がデータ・タイプに関し無効です。

1. CURRENT SQLID または USER の暗黙のデータ・タイプは CHAR(8) です。
2. CURRENT SQLID は、リモート・データのアクセス時には使用できません。
3. CURRENT DATE の暗黙のデータ・タイプは DATE です。
4. CURRENT TIME の暗黙データ・タイプは TIME です。
5. CURRENT TIMESTAMP の暗黙データ・タイプは TIMESTAMP です。
6. CURRENT TIMEZONE の暗黙データ・タイプは DECIMAL(6,0) です。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを変更し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00411 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17412

メッセージ: 副照会の SELECT のあとには列を 1 つしか使用できません。

説明: 副照会で SELECT を使用する場合、それによって選択できる列名は 1 つだけです (ただし INSERT のあとの場合は別です)。

誤: (SELECT PARTNO, PRICE.....)

ユーザーの処置: 副照会の SELECT リストを訂正して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00412 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17413

メッセージ: データ・タイプの変換中に算術オーバーフローが生じました。

説明: 算術オーバーフローが生じたために、算術演算または挿入演算の結果は無効です。たとえば、INTEGER のデータ・タイプを持つ値を SMALLINT のデータ・タイプの列に挿入しようとした可能性があります。INTEGER の値が十分に小さいものであれば変換を正常に行うことができます。しかし、32767 を超える値は、算術オーバーフローを招く結果となります。

ユーザーの処置: 演算を訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00413 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17414

メッセージ: LIKE は文字またはグラフィック・データを指定しますが、この列は数字または日時 of データです。

説明: たとえば、LIKE '1%' または LIKE '%12.40.25' のような形式で指定されています。ここで、LIKE は部分値をある列の値と比較しています。その列は数字または日時のデータ・タイプですが、LIKE では文字またはグラフィック・データを指定する必要があります。

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。数字データの場合、"n >= 1000 and n < 2000" のような数字比較を使用してください。

SQLCODE: -00414 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17415

メッセージ: SELECT リストの列属性が統一されていません。

説明: UNION か UNION ALL で複数の照会を結合しました。その場合、各照会の SELECT リストには、同数の列がなければなりません。各 SELECT リストの対応する列はすべて、後続の SELECT のデータ定義と比較可能でなければなりません。対応する列にフィールド・プロシージャがあれば、両者は同じフィールド・プロシージャおよび CCSID 値をもたなければなりません。

ユーザーの処置: 照会を比較が可能な列の SELECT リストで書き直して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00415 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17416

メッセージ: 幅の広い列を UNION で使用することはできません。

説明: UNION を使用する照会の中の SELECT のあとのリストに、データ・タイプが LONG VARCHAR である列 (すなわち、幅が 255 以上の列) を含めることはできません。使用できるデータ・タイプは、INTEGER、SMALLINT、DECIMAL、FLOAT、CHAR のいずれかです。幅が 255 未満であれば VARCHAR の列も使用できます。

ユーザーの処置: UNION で使用するすべての照会の SELECT リストから、幅が 254 文字を超える列をすべて除去してください。

SQLCODE: -00416 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17417, DSQ17418

メッセージ: DSQ10713 を参照してください。

DSQ17419

メッセージ: 使用されている値を用いた 10 進除算はできません。

説明: 分子の精度または分母の位取りが、10 進除算を行うには大きすぎます。

ユーザーの処置: 10 進除算に使用する値の精度または位取りを変更してから、照会を再実行してください。INTEGER、または SMALL INTEGER の値が、この計算のために 10 進数に変換された可能性があることに注意してください。

SQLCODE: -00419 Database: DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17420

メッセージ: 無効な文字ストリング引き数が、&V1 関数で使用されました。

説明: 文字ストリング引き数が、関数の規則に合っていない。たとえば、DECIMAL 関数に渡される文字ストリングが、SQL 整数または 10 進数定数の形式の規則に合っていない。

ユーザーの処置: 引き数の値を変更して、関数の要件に合うようにしてください。

SQLCODE: -00420 Database: DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17421

メッセージ: 各 SELECT リストの列数が一致していません。

説明: UNION によって複数の照会を連結する場合には、その場合、各照会の SELECT リストには、同数の列がなければなりません。

ユーザーの処置: 照会を訂正して、再実行してください。

SQLCODE: -00421 Database: DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17430

メッセージ: DSQ15430 を参照してください。

DSQ17433

メッセージ: "&V1" で始まる値は長すぎます。

説明: 値をなんらかの方法で変換するために、システム・キャストまたは調整関数が呼び出されましたが、その値が長すぎます。この値が使用されている場所では、切り捨てはできません。

この値は次のいずれかの状況で現れます。

- ユーザー定義関数に対する引き数として
- UPDATE ステートメントの SET 文節への入力として
- 表に挿入されている値として
- 別のコンテキスト内のキャスト関数への入力として
- 再帰が進行するにつれて長くなる、再帰的参照列

ユーザーの処置: 値が SQL ステートメント内でリテラル・ストリングである場合、本来の使用目的からすると長すぎます。

値がリテラル・ストリングでない場合は、SQL ステートメントを調べて、どこで変換されるのかを判断してください。変換用に入力されたものが長すぎるか、ターゲットが短すぎます。

それぞれの長さの制限については、「DB2 UDB for z/OS SQL Reference」を調べてください。これはそれぞれのデータベース・サーバーによって異なる可能性があります。

使用法を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00433 Database: DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17438

メッセージ: アプリケーションでエラー &V1. が発生しました。

説明: このエラーは、RAISE_ERROR 関数または SIGNAL SQLSTATE ステートメントの実行結果として発生しました。

ユーザーの処置: エラーの原因を判別するには、アプリケーションで提供される (提供されていれば) テキストを使用してください。

DSQ17440

メッセージ: DSQ16440 を参照してください。

DSQ17441

メッセージ: DISTINCT または ALL を &V1. とともに使用することは無効です。

説明: キーワード DISTINCT または ALL が、関数 &V1. への参照の括弧内で検出されました。この関数はスカラー関数として認識されました。

ユーザーの処置: スカラー関数が使用されている場合、キーワード DISTINCT または ALL を除去してください。これはスカラー関数には無効です。

列関数を使用されている場合、関数解決に問題があります。特殊レジスタ CURRENT FUNCTION PATH の値を検査してください。また関数名のスペル、および照会とシステム・カタログの両方にあるパラメーターの数とタイプも検査してください。

SQLCODE: -00441 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17442

メッセージ: DSQ15442 を参照してください。

DSQ17443

メッセージ: DSQ15443 を参照してください。

DSQ17444

メッセージ: ユーザー・プログラム &01 は見つかりませんでした。

説明: DB2は、ユーザー定義関数の呼び出しを含むストアード・プロシージャまたはSQLステートメントのためのSQL CALLステートメントを受け取り、要求されたプロシージャ名に関連するSYSIBM.SYSROUTINES カタログ表の行を検出しました。しかし、SYSIBM.SYSROUTINES 行のLOADMOD 列で識別されるMVSロード・モジュールが見つかりませんでした。

&01 - 見つからなかった MVS ロード・モジュールの名前。次の SQLSTATE が戻されました。
&DSQSQLST.

ユーザーの処置: SYSIBM.SYSROUTINES 表のLOADMOD 列値が誤っている場合は、ALTER FUNCTION または ALTER PROCEDURE ステートメントを使用して値を訂正してください。

LOADMOD 列の値が正しい場合は、MVS リンケージ・エディターを使用して、ストアード・プロシージャの導入に使用されるいずれかの MVS ロード・ライブラリー内に、必要な MVS ロード・モジュールを作成してください。

DSQ17449

メッセージ: CREATE または ALTER ステートメントに無効なフォーマットが含まれています。

説明: &01 の CREATE FUNCTION、ALTER FUNCTION、または ALTER PROCEDURE ステートメントの EXTERNAL NAME 文節でエラーが見つかったか、その文節は必要ですが指定されていませんでした。

次の SQLSTATE が戻されました:
&DSQSQLST.

ユーザーの処置: SQL ステートメントの構文を訂正してください。EXTERNAL NAME 文節の詳細については、DB2 SQL 解説書を参照してください。

言語が JAVA または COMPJAVA の場合は、以下の原因が考えられます。

- EXTERNAL NAME 文節が省略されている
- ブランクが含まれている
- 名前の先頭または末尾に「!」が使用されている
- 無効な外部 Java ルーチン名が指定されている

DSQ17450

メッセージ: ユーザー定義関数が宣言された長さを超えています。

説明: 特定関数名またはストアド・プロシージャからのリターン時に、DB2 は、パラメーターの宣言長を超えるオーバーレイ記憶域を検出しました。パラメーター番号が、ストアド・プロシージャまたは関数について指定されていません。これは許されません。

MVS ロード・モジュールの名前が見つかりませんでした。次の SQLSTATE が戻されました:
&DSQSQLST.

ユーザーの処置: 関数の作成者またはデータベース管理者に連絡してください。修正されるまで、その関数は使用しないでください。

DSQ17457

メッセージ: 名前 &V1 はシステムが使用するために予約されています。

説明: 選択された名前はシステムが使用するために予約されているので、ユーザー定義関数または特殊タイプを作成できません。

区分化されたIDも含めて、関数や特殊タイプに使用できない名前は次のとおりです。

"=" "<" ">" ">=" "<="

"&&=" "&&>" "&&<" "!=" "!">"

"!<" "<>" "~= " "~<" " ~>" ALL

AND ANY BETWEEN DISTINCT

EXCEPT EXISTS FALSE FOR FROM

IN IS LIKE MATCH NOT NULL

ONLY OR OVERLAPS SIMILAR SOME TRUE

TYPE UNIQUE UNKNOWN

組み込みデータ・タイプの名前は、特殊タイプの名前 (たとえば、CHAR) として使用することはできません。

ユーザーの処置: システム用に予約されていない関数または特殊タイプの名前を選択してください。

SQLCODE: -00457 **Database:** DB2

QMF Function: SQL Query

DSQ17463

メッセージ: 外部ルーチン &O1 は、無効な SQLSTATE &O2 を戻しました。

説明: ユーザー定義関数またはストアド・プロシージャが戻ることができる有効な

SQLSTATE は、38xxx (エラー)、38502 (エラー) および 01Hxx (警告) です。ユーザー定義関数またはストアド・プロシージャのルーチン名が、無効な SQLSTATE をメッセージ・テキストとともに戻しました。ユーザー定義関数またはストアド・プロシージャはエラーの状態です。

ステートメントは実行できませんでした。次の SQLSTATE が戻されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置: ユーザー定義関数またはストアド・プロシージャを訂正する必要があります。データベース管理者または関数の作成者に連絡して、警告の意味を確認してください。呼び出し中のアプリケーションの不正 SQLSTATE の意味は、関数の作成者に確認できる可能性があります。

DSQ17471

メッセージ: DSQ15471 を参照してください。

DSQ17478

メッセージ: オブジェクトの従属関係が原因で、ステートメントを実行できません。

説明: DROP または REVOKE ステートメント

は、別のオブジェクトが従属関係を持っている間はオブジェクトを除去できません。

オブジェクト名 (または認識されている場合そのタイプ):

&V1.

従属オブジェクトおよび (認識されている場合) タイプ: &V2. &V3.

DROP オブジェクトが関数である場合、DROP の従属関係は次のようになります。

- 別の関数がソースになっている (実装されている)。
- ビューがこの関数を使用する。
- トリガー・パッケージがこの関数を使用する。
- 表が、検査制約またはユーザー定義のデフォルト値で、この関数を使用する。

オブジェクトが特殊タイプである場合、従属関係は次のようになります。

- この特殊タイプは関数のパラメーターである。
- この特殊タイプは表の列に使用されている。

REVOKE

オブジェクトが関数である場合、REVOKE の従属関係は次のようになります。

- REVOKE の所有する関数は、このオブジェクトのソースになっている。
- REVOKE の所有するビューは、このオブジェクトを使用する。
- REVOKE の所有するトリガー・パッケージは、このオブジェクトを使用する。
- 表が、検査制約またはユーザー定義のデフォルト値で、この関数を使用する。

オブジェクトが特殊タイプである場合、REVOKE の従属関係は次のようになります。

- この特殊タイプは、REVOKE の所有する関数のパラメーターである。
- 特殊タイプは、REVOKE の所有する表の列に使用されている。

ユーザーの処置: オブジェクトを一切除去しないか、または従属オブジェクトを最初に除去するか、どちらかにしてください。

SQLCODE: -00478 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17480

メッセージ: 手順 &01 はまだ呼び出されていません。

説明: DESCRIBE PROCEDURE または ASSOCIATE LOCATORS ステートメントに示された手順がアプリケーション・プロセスで呼び出されていないか、手順は呼び出されたが、明示的または暗黙的なコミットがステートメントの前に行われました。

ステートメントは実行できませんでした。次の SQLSTATE が戻されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置: ステートメントを訂正し、手順名をCALLステートメントで指定するために使用する完全な構文が、ASSOCIATE LOCATOR および/または DESCRIBE PROCEDURE 上のものと同一になるようにします。手順の呼び出しに非修飾名が使用されている場合は、1 部分名が別のステートメントでも使用される必要があります。CALL ステートメントが 3 部分名からなり、現行サーバーがその 3 部分名と同じロケーションの場合、ASSOCIATE LOCATOR または DESCRIBE 手順はロケーションを省略できます。ステートメントを再実行してください。

SQLCODE: -00481 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17481

メッセージ: GROUP BY 文節が、&V2. 内にネストされた &V1 を含んでいます。

説明: 次のタイプのネストは、GROUP BY 文節内では許されません。

CUBE、ROLLUP 内の CUBE、または
CUBE、ROLLUP 内の GEL ROLLUP、または
CUBE、ROLLUP、または GEL 内の GEL ()
CUBE、ROLLUP、GROUPING SET または GEL
内の GROUPING SET

GEL はグループ化式リスト
(GROUP BY 文節の構文図に表示されるエレメント) を表します。詳細については、「DB2 UDB for z/OS SQL Reference」を参照してください。

ユーザーの処置: GROUP BY 文節を変更して、ネストを除去し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00481 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17482

メッセージ: 手順 &01 はロケーターを戻しませんでした。

説明: ASSOCIATE LOCATORS ステートメントに示された手順が、結果セット・ロケーターを戻しませんでした。

ステートメントは実行できませんでした。次の SQLSTATE が戻されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置: DESCRIBE PROCEDURE ステートメントを使用して、結果セット・ロケーターが確認された手順から戻されるかどうか判別してください。

DSQ17487

メッセージ: 関数/手順の定義が &01&02 のSQL 試行を指定していませんでした。

説明: ユーザー定義関数またはストアード・プロシージャ &02 が呼び出され、SQLステートメ

ントの実行が試行されましたが、関数または手順は NO SQL オプションを指定して定義されました。

ネストされた関数および手順の環境では、指定されたオプションの中で SQL オプションが、最も限定的です。SQLデータ・アクセス・オプションはデータの変更を許可していません。

次の SQLSTATE が戻されました:
&DSQSQLST.

ユーザーの処置: ALTER ステートメントを使用して SQL ステートメントを許可するように関数または手順の定義を変更するか、外部関数または手順から障害のある SQL ステートメントを削除してください。

DSQ17495

メッセージ: この照会を行うと、DB2 のコストの見積もりの制限を超えます。

説明: DB2 は、この照会でのコストの見積もりが、照会の実行を防ぐリソース限定機能 (DB2 管理プログラム) に指定された制限を超えると判別しました。

照会ステートメントのコスト見積もりの詳細は、次のとおりです。

- コスト見積もりは &V2 サービス単位 * である。
- 指定された制限は &V4 サービス単位 * である。
- DB2 のコスト・カテゴリーは '&V3.' である。
- 約 &V1 プロセッサ・ミリ秒ほどかかる。

* サービス単位はプロセッサ使用量の測定度で、異なるプロセッサ・タイプ間でも一貫しています。

ユーザーの処置: コスト・カテゴリー値が 'B' の場合、DB2 管理者に援助を依頼してください。DB2 カタログ統計またはリソース限定表 (RLST) の更新が必要になることがあります。

SQL ステートメントの費やすプロセッサ時間があまりにも多い場合は、より効果的に実行できるようにステートメントを書き直して、照会を再実行してください。

次の事項について検査してください。

- 照会で選択された列で、使用されていないものはないか。
- 不必要な ORDER BY または GROUP BY 文節がないか。
- WHERE 文節が正しく記述されているか。
- 照会に副照会が含まれているか。
- 照会に列関数が含まれているか。

照会によっては、照会から GROUP BY 文節を除去し、代わりに QMF FORM の GROUP 取扱コードを使用すると、簡略化できる場合があります。

また照会によっては、外部結合や CASE 式などの拡張 SQL 構文を使用すると、パフォーマンスが向上する場合があります。

拡張分析の場合、EXPLAIN SQL ステートメントを使用して、照会の構造および実行パフォーマンスについての情報を収集できます。

照会および EXPLAIN ステートメントの情報については、SQL 解説書を参照してください。

照会の調整、および効率的な述部および副照会の記述の詳細については、「DB2 UDB for z/OS Administration Guide」を参照してください。

SQLCODE: -00495 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17496

メッセージ: SQL ステートメントは実行できません。

説明: 現行サーバーがストアード・プロシージャを呼び出したサーバーと異なるため、SQL ステートメントを実行できません。SQL ステートメントは以下のいずれかです。

- ALLOCATE CURSOR

- DESCRIBE CURSOR
- FETCH (割り当てカーソルを使用)
- CLOSE (割り当てカーソルを使用)

次の SQLSTATE が戻されました:
&DSQSQLST.

ユーザーの処置: 失敗した SQL ステートメントを実行する前に、結果セットを作成したストアード・プロシージャを呼び出したサーバーに接続してください。

DSQ17499

メッセージ: カーソル &01 はすでに割り当てられています。

説明: SQL ステートメント ALLOCATE CURSOR を使用して、カーソルを結果セットに割り当てようとしてしました。以下のステートメントのいずれかが該当します。

- ALLOCATE CURSOR ステートメントで指定された結果セット・ロケータ変数は、以前にカーソルのカーソル名に割り当てられたものです。
- ALLOCATE CURSOR ステートメントに指定されたカーソル &01 は、ストアード・プロシージャの手順名の結果セットに割り当てられたものです。

次の SQLSTATE が戻されました:
&DSQSQLST.

ユーザーの処置: ALLOCATE CURSOR ステートメントで指定されたターゲット結果セットが、以前にカーソルに割り当てられたものかどうか判別してください。結果セットが以前にカーソル &01 に割り当てられていた場合は、別のターゲット結果セットを選択するか、ストアード・プロシージャのプロシージャ名を再度呼び出して、ASSOCIATE LOCATOR と ALLOCATE CURSOR ステートメントを再発行してください。

結果セットが以前にカーソルに割り当てられてい

なかった場合、`ALLOCATE CURSOR` ステートメントに指定されたカーソル `&01` は、以前はストアード・プロシージャのプロシージャ名から結果セットに割り当てられていました。カーソルのカーソル名は別の結果セットに割り当てることはできないため、`ALLOCATE CURSOR` ステートメントに別のカーソル名を指定する必要があります。ステートメントを訂正し、手順名を`CALL` ステートメントで指定するために使用する完全な構文が、`ASSOCIATE LOCATOR` およびまたは `DESCRIBE PROCEDURE` 上のものと同じになるようにします。手順を `CALL` するときに非修飾名が使用されている場合は、別のステートメントでも 1 部分名を使用する必要があります。

`CALL` ステートメントが 3 部分名で作成される場合に、現行サーバーがその 3 部分名と同じロケーションの場合は、`ASSOCIATE LOCATOR` または `DESCRIBE` 手順はロケーションを省略できます。

DSQ17504

メッセージ: カーソル名 `&01` は定義されていません。

説明: カーソル `&01` が `SQL` ステートメントで参照されていました。次のいずれかの状況が生じています。

- カーソル `&01` が、参照前にアプリケーション・プログラムで (`DECLARE CURSOR` ステートメントを使用して) 宣言されていないか、(`ALLOCATE CURSOR` ステートメントを使用して) 割り当てられていません。
- カーソル `&01` が、配置された `UPDATE` または `DELETE` ステートメントで参照されています。これは割り当てカーソルではサポートされない操作です。
- カーソル `&01` が割り振られましたが、カーソル名を指定する `CLOSE` カーソル・ステートメントが発行され、このカーソルが参照される前にカーソルが割り振り解除されました。

- カーソル `&01` が割り振られましたが、`ROLLBACK` 操作が発生し、このカーソルが参照される前にカーソルが割り振り解除されました。
- カーソル `&01` が割り振られましたが、その関連カーソルがストアード・プロシージャで `WITH HOLD` を宣言されていません。`COMMIT` 操作が発生し、このカーソル参照の前にカーソルが割り振り解除されました。`COMMIT` 操作は、明示的 (`COMMIT` ステートメント) または暗黙的 (このカーソル参照の前に呼び出される `COMMIT_ON_RETURN = 'Y'` として定義されるストアード・プロシージャ) のいずれかです。
- カーソル `&01` が割り振られましたが、それに関連するストアード・プロシージャが再度呼び出されました。カーソルが割り振られたため、新しい結果セットが戻され、カーソルのカーソル名が割り振り解除されました。

次の `SQLSTATE` が戻されました:

`&DSQSQLST`。

ユーザーの処置: カーソル宣言または割り振りで、指定が正しいか、またスペルの誤りがないかについて、アプリケーション・プログラムを調べてください。カーソルの宣言または割り振りは、カーソルを参照する `SQL` ステートメントの前で、アプリケーション・プログラムに現れなければなりません。

`&01` が `<UNKNOWN>` の場合、カーソルのカーソル名が正常に宣言されていないか、割り振られていませんでした。これは `SQL(DB2)` が使用され、プリコンパイル中に警告メッセージが発行された場合に発生する可能性があります。

`CURSOR` または `ALLOCATE CURSOR` ステートメントの警告メッセージについてプリコンパイル出力を検査し、ステートメントを訂正してください。

割り当てカーソルの場合、カーソルが正常に割り当てられてから暗黙的または明示的な `COMMIT`、`ROLLBACK`、または `CLOSE` が発生

した場合は、アプリケーション・プログラム・ロジックを修正して、以下のいずれかを行ってください。

- コミット、ロールバック、またはクローズ操作の後に、関連するストアード・プロシージャを再度呼び出して、ASSOCIATE LOCATORS および ALLOCATE CURSOR ステートメントを再発行してください。
- COMMIT の場合は、ストアード・プロシージャで関連カーソルに WITH HOLD を宣言して、コミット操作がカーソルを割り振り解除しないようにします。

関連ストアード・プロシージャが再度呼び出され、新しい結果セットが割り当てカーソルに戻された場合は、ASSOCIATE LOCATORS および ALLOCATE CURSOR ステートメントを再発行してください。

DSQ17512

メッセージ: リモートのオブジェクトを参照する照会が無効です。

説明: 以下に示した無効条件の 1 つがあります。

1. 照会が複数のロケーションを参照している。
2. 照会が別名を不正に使用している。
3. 照会がリモートのオブジェクトを参照していますが、この参照が無効です。たとえば、現在のロケーション以外のロケーションにある表を CREATE または DROP できません。

ユーザーの処置: リモート・オブジェクトの使用法については、「DB2 UDB for z/OS SQL Reference」を参照してください。

SQLCODE: -00512 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17513

メッセージ: 別名 &V1 は他のローカルカリモートの別名として定義できません。

説明: &V1 によって示されたオブジェクトは、示された位置に存在しますが、その位置で別名として定義されています。

ユーザーの処置: すべてのオブジェクト参照が表された位置にある表、または視点になることを確認するために照会を変更してください。

SQLCODE: -00513 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17528

メッセージ: 表 &V1 にはすでに固有の制約があります。

説明: 固有の制約を重複させることはできません。

CREATE TABLE ステートメントの場合、UNIQUE 文節は同じ列リストを PRIMARY KEY 文節または別の UNIQUE 文節として使用します。

ALTER TABLE ステートメントの場合、UNIQUE 文節は同じ列リストを PRIMARY KEY、またはその表にすでに存在する UNIQUE 制約として使用します。

"&V2" は SQL ステートメント内の CONSTRAINT 名か、または 3 つのピリオドの続いている UNIQUE 文節の列リストに指定された最初の名前のいずれかです。

ユーザーの処置: 重複した UNIQUE 文節を除去するか、または列リストを固有の制約の一部になっていない一連の列に変更してください。

SQLCODE: -00528 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17530

メッセージ: DSQ10930 を参照してください。

DSQ17531

メッセージ: 親行の基本キー &V1 は更新できません。

説明: 更新要求で更新される表の基本キーの値を指定していますが、その基本キーによって指定されている行には関連する従属行があります。親行の基本キーの値は、親行に従属行がある場合は更新できません。

ユーザーの処置: 更新する行として正しい行を指定したか確認してください。親行の基本キーの値を更新する前に、親行に従属行があってはなりません。

SQLCODE: -00531 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17532

メッセージ: DSQ15532 を参照してください。

DSQ17533

メッセージ: 自己参照表には複数行を挿入できません。

説明: 副選択のINSERT 操作で、自己参照表に複数行を挿入しようとしてしました。INSERT 操作の副選択では、データ行は 1 行だけ返します。

ユーザーの処置: 副選択の探索条件が、データ行を 1 行だけ返していることを確認してください。

SQLCODE: -00533 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17534

メッセージ: 複数行の基本キー、または固有制約は更新できません。

説明: UPDATE 操作で表の複数行の基本キーまたは固有制約を更新しようとしてしました。基本キーまたは固有制約に影響を与える UPDATE ステートメントは、表の複数行の更新には使用できません。

ユーザーの処置: UPDATE ステートメントの探索条件が、更新する表の 1 行だけを選択することを確認してください。

SQLCODE: -00534 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17536

メッセージ: DELETE ステートメントは、表 &V1 が影響を受ける可能性があるため無効です。

説明: DELETE 操作が表 &V1 に対し試みられましたが、この表は副照会で参照されています。しかし、この表は削除操作のオブジェクト表の子表であり、しかも RESTRICT の削除規則による変更から保護されていないため、削除操作は実行できません。

ユーザーの処置: 表がそのステートメントによって影響を受ける可能性がある場合は、DELETE ステートメントの副照会で指定されている表を参照しないでください。

SQLCODE: -00536 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17537

メッセージ: 列名 &V1 を複数回使用しました。

説明: 主キー、外部キー、または固有のキーは、重複した列名を含むことはできません。次の SQLSTATE が戻されました: 42704

ユーザーの処置: ステートメントを訂正して、固有の列名を指定してください。

SQLCODE: -00537 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17538

メッセージ: 外部キー &V1 は、表 &V2. の基本キーの記述と一致しません。

説明: 示された外部キーの定義は、以下のいずれかの理由で、示された表の親キーの記述に準拠していません。

- 参照された親キーが、基本キーまたは固有キーとして定義されていない。

- &V1 によって識別される外部キーに、表 &V2 の基本キーと同じ数の列がない。
- これらのキーの記述が同一でない。記述が同一であるためには、データ・タイプ、長さ属性、およびフィールド・プロシージャが一致していなければなりません。

ユーザーの処置: 外部キーの記述が指定された表の基本キーの記述と一致するように、FOREIGN KEY 文節を訂正してください。

SQLCODE: -00538 **Database:** DB2

QMF Function: SQL Query

DSQ17539

メッセージ: 表 &V1 には基本キーがありません。

説明: 指定された表に基本キーがないため、DB2 は CREATE または ALTER TABLE ステートメントを実行できません。このため、基本キーはドロップできない、または、参照制約でその表を親として定義できません。

ユーザーの処置: ステートメントを、基本キーのある表を参照するように修正するか、FOREIGN KEY 文節内の表を参照する前に ALTER TABLE ADD PRIMARY KEY により基本キーを定義してください。

SQLCODE: -00539 **Database:** DB2

QMF Function: SQL Query

DSQ17540

メッセージ: 表 &V1 には、基本キーの基本索引がありません。

説明: 表 &V1 は使用できません。その表には基本キーはありますが、基本索引がありません。

ユーザーの処置: 表の参照に先立って、その表に対する基本キーを定義してください。

SQLCODE: -00540 **Database:** DB2

QMF Function: SQL Query

DSQ17541

メッセージ: 外部キー &V1 は重複した参照制約であるため、無効です。

説明: 指定された FOREIGN KEY 文節では同じ外部キーおよび親表を別の参照制約として定義しています。

ユーザーの処置: 重複した参照制約をステートメントから削除してください。

SQLCODE: -00541 **Database:** DB2

QMF Function: SQL Query

DSQ17542

メッセージ: DSQ12742 を参照してください。

DSQ17544

メッセージ: 検査制約を追加できません。

説明: 制約に違反する行が表に含まれているため、検査制約を追加できません。表の既存の行の少なくとも 1 行が、ALTER TABLE ステートメントに追加されようとしている検査制約に違反しています。

ユーザーの処置: ALTER TABLE ステートメントに指定されている検査制約定義と表のデータを調べて、ALTER TABLE ステートメントが拒否された理由を判別してください。

SQLCODE: -00544 **Database:** DB2

QMF Function: SQL Query

DSQ17545

メッセージ: 行が検査制約 &V1 に合っていないので、演算子は許可されません。

説明: 検査制約違反が、INSERT または UPDATE ステートメントで起きました。結果の行が、表の検査制約定義に合っていない。

ユーザーの処置: データおよび検査制約定義を調べて、INSERT または UPDATE ステートメントが拒否された理由を判別してください。検査制約

に合うように、データを変更してください。検査制約定義は、SYSIBM.SYSCHECKS カタログ表に含まれています。

SQLCODE: -00545 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17546

メッセージ: &V1 という名前の CHECK CONSTRAINT は無効です。

説明: CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントにある &V1 という名前の表検査制約は無効です。次のいずれかの理由で、制約定義にエラーがある可能性があります。

- 副照会が含まれている。
- 列関数を参照している。
- 特殊レジスターを参照している。
- 互換性のない属性を持つ列を参照している。
- 同じ表にない列を参照している。
- フィールド・プロシージャーを持つ列を参照している。

検査制約定義には、追加の制約がある場合もあります。

ユーザーの処置: 制約定義を訂正して、照会を再実行してください。CREATE TABLE ステートメントおよび検査制約の定義の詳細については、「DB2 UDB for z/OS SQL Referencee」を参照してください。

SQLCODE: -00546 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17548

メッセージ: &V1 と一緒に定義されている検査制約が無効です。

説明: CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントは、以下のいずれかの理由により無効です。

- 制約定義は、フィールド・プロシージャーを持つ列を参照しています。

- 制約定義は、数値データ・タイプの階層が他のオペランドのデータ・タイプよりも低いデータ・タイプを含む列を参照しています。階層は次のようになります。小整数 < 大整数 < 10 進数 < 単精度浮動 < 倍精度浮動
- 制約定義は、他の列オペランドと同じ数値タイプではない数値データ・タイプを持つ列を参照しています。
- 制約定義は、列および他のオペランドが文字ストリング・データ・タイプの場合に、他のオペランドよりも長さが短い列を参照しています。

ユーザーの処置: 制約定義を訂正して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00548 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17551

メッセージ: &V3 が存在しないか、または必要な権限がありません。

説明: &03 は存在しないか、読み取り専用の視点か、または (&V1 ID) に &V2 権限がありません。許可障害の原因として考えられるのは、次のものです。

1. 別のユーザーの表や視点から SELECT するための SELECT 権限。
2. 別のユーザーの表や視点に対する INSERT、UPDATE、DELETE、または ALTER 権限。INDEX 権限は、索引を作成するのに必要とされます。
3. 別のユーザーの表や視点に対する権限を与えるための GRANT 権限。(WITH GRANT OPTION によって)
4. 表の作成、データの保管、または、データベース内のスペースの予約に必要な特定の権限。
5. FOREIGN KEY または、DROP FOREIGN KEY の実行、または DROP PRIMARY KEY の操作の ALTER 権限。この場合、&03 は、作成または変更されたりする表の名前で、&01

が ALTER 権限を持たない表の名前ではないことに、注意してください。

ユーザーの処置: 既存のオブジェクトの名前を誤って指定した場合には、正しい名前を使ってください。&01 ID に必要な権限がない場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00551 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17552

メッセージ: 指定されたオブジェクトが存在しないか、または必要な権限がありません。

説明: 指定されたオブジェクトが存在しないか、または読み取り専用の視点か、または次のような必要とされる権限がありません。

1. 他のユーザーの表または視点から選択する SELECT 権限。
2. 他のユーザーの表または視点に対する INSERT、UPDATE、DELETE または ALTER 権限。 INDEX 権限は、索引を作成するのに必要とされます。
3. 他のユーザーの表または視点に対する権限を付与する (WITH GRANT オプションを用いる) GRANT 権限。
4. FOREIGN KEY または、DROP FOREIGN KEY の実行、または DROP PRIMARY KEY の操作の ALTER 権限。
5. 表の作成、データの保管、または、データベース内のスペースの予約に必要な特定の権限。

ユーザーの処置: 既存のオブジェクトの名前を誤って指定した場合には、正しい名前を使ってください。必要な権限がない場合には、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00552 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17553

メッセージ: &V1 は、有効な許可 ID ではありません。

説明: SET CURRENT SQLID に指定された許可 ID は、1 次許可 ID でもなく、2 次許可 ID のいずれでもありません。

ユーザーの処置: ステートメントに指定された許可 ID を訂正するか、または QMF 管理者に連絡し指定された許可 ID をユーザー用に定義するように依頼してください。

SQLCODE: -00553 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17554

メッセージ: 自分自身に対して特権を付与することはできません。

説明: 特権は、所定の権限を持つユーザーが別のユーザーに対してのみ付与できます。ただし、SQLRULES(STD) が有効であるか、または CURRENT RULES に STD が含まれている場合は、自分自身への GRANT が可能です。

ユーザーの処置: 特権の追加付与を受けたい場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00554 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17555

メッセージ: 自分自身が保有している特権を取り消すことはできません。

説明: あるユーザーが持っている特権を取り消すことができるのは、所定の権限を持つ別のユーザーだけです。ただし、SQLRULES(STD) が有効であるか、または CURRENT RULES に STD が含まれている場合は、自分自身への GRANT が可能です。

ユーザーの処置: 自分の持つデータベース特権のいずれかを削減したい場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00555 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17556

メッセージ: この特権を &V1. から取り消すことはできません。

説明: 取り消そうとしている特権を &V1 が持っているか、または、その特権を付与したユーザーの許可識別名がユーザー自身のものではありません。取り消すことのできる特権は、ユーザー自身の許可識別名のもとに付与されている特権だけです。

ユーザーの処置: 別の操作に移ってください。

SQLCODE: -00556 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17557

メッセージ: キーワード &V3.&V1. はこの用法では無効です。

基準線: ==>&V2.

説明: エラーの原因は、次のいずれかが考えられます。

1. スペルの誤りがあるか、キーワードの順序に誤りがある。
2. 指定した特権の混用は許されない。特権はすべて同じタイプのものでなければなりません。
3. REVOKE UPDATE (列リスト) が指定された。列リストが指定できるのは、GRANT UPDATE だけで REVOKE は許されません。

次の行には、ここまでの文脈から見て、&V3 の代わりに使用できそうなキーワードをいくつか示してあります。 &V4.

ユーザーの処置: 照会を訂正し再実行してください。

SQLCODE: -00557 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17558

メッセージ: GRANT または REVOKE での "AT ALL LOCATIONS" 指定は無効です。

説明: GRANT または REVOKE で指定された位置の修飾子は無効です。表に対する特権 (SELECT、INSERT、UPDATEなど) で ALTERとINDEX を除いたものだけが、ほかのサブシステムのユーザー ID に対して付与できます。

ユーザーの処置: GRANT、REVOKE ステートメントの有効なキーワードの詳細は DB2 SQL REFERENCE を参照してください。

SQLCODE: -00558 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17559

メッセージ: この時点では GRANT および REVOKE の実行はできません。

説明: システムの許可部分が一時的に使用不可になっています。 GRANT および REVOKE 照会の実行はできません。

ユーザーの処置: システムの許可部分が実行されている時点で、照会を再実行してください。詳細は QMF 管理者に問い合わせてください。

SQLCODE: -00559 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17571

メッセージ: READ-ONLY の環境においては、リモート更新は許可されません。

説明: リモート・ロケーションでデータの更新、挿入、削除を試みましたが、現行の操作環境ではリモートの読み取り専用になっています。たとえば、サーバー・データベースが、2 フェーズ・コミットをサポートしない場合、CICS 操作環境ではリモート・データの更新はできません。

READ-ONLY 操作環境でリモート・データをアクセスするには、以下のいずれかを使用できます。

- SQL SELECT ステートメント
- QMF DISPLAY コマンド

ユーザーの処置: 引き続き QMF を使用できます。リモート・データを更新する必要がある場合には、サポートしている操作環境に切り換えてください。そうでない場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00571 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17574

メッセージ: デフォルト値が列定義と対立しています。

説明: USER、CURRENT SQLID または定数値が列のデフォルト値として指定されましたが、ターゲット列の長さが短すぎるか、またはそのデータ・タイプが互換性がないかのいずれかです。

ユーザーの処置: ステートメントを変更して、デフォルト値が列定義に合うようにしてください。

SQLCODE: -00574 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17577

メッセージ: 関数/手順の定義は &V1&V2 の変更を指定しませんでした。

説明: 現行環境は、データを変更する SQL ステートメントを許可していません。次のいずれかの状態が発生しました。

- ユーザー定義関数またはストアド・プロシージャ &V2 が呼び出されました。データを変更または実行しようとしたが、関数または手順は、MODIFIES SQL または MODIFIES SQL DATA オプションなしで定義されていました。
- CONTAINS SQL または NO SQL を指定して定義された関数または手順が、READS SQL DATA で定義された別の関数または手順を呼び出そうとしました。

ネストされた関数および手順の環境では、SQL オプションが、指定された中で最も限定的なオプションです。SQL データ・アクセス・オプションはデータの読み取りを許可していません。

SQL ステートメントが失敗しました。次の SQLSTATE が戻されました: 42704。

ユーザーの処置: ALTER ステートメントを使用して関数または手順の定義を変更し、データを読み取るステートメントを許可するか、外部関数または手順から障害のある SQL ステートメントを削除してください。

DSQ17579

メッセージ: 関数/手順の定義は &V1&V2 のデータ読み取りを指定しませんでした。

説明: 現行環境は、データを読み取る SQL ステートメントを許可していません。次のいずれかの状態が発生しました。

- ユーザー定義関数またはストアド・プロシージャ &V2 が呼び出されました。データを読み取ろうとしたが、関数または手順は、READS SQL DATA または MODIFIES SQL DATA オプションなしで定義されていました。
- CONTAINS SQL または NO SQL を指定して定義された関数または手順が、READS SQL DATA で定義された別の関数または手順を呼び出そうとしました。

ネストされた関数および手順の環境では、SQL オプションが、指定された中で最も限定的なオプションです。SQL データ・アクセス・オプションはデータの読み取りを許可していません。

SQL ステートメントが失敗しました。次の SQLSTATE が戻されました: 42704。

ユーザーの処置: ALTER ステートメントを使用して関数または手順の定義を変更し、データを読み取るステートメントを許可するか、外部関数または手順から障害のある SQL ステートメントを削除してください。

DSQ17580

メッセージ: CASE 式の結果式をすべて NULL にすることはできません。

説明: すべての結果式にキーワード NULL を持つ CASE 式がステートメントにあります。

ユーザーの処置: CASE 式を変更して、NULL 以外のキーワードを持つ少なくとも 1 つの結果式を含めて、照会を再度実行してください。

SQLCODE: -00580 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17581

メッセージ: CASE 式の結果式のデータ・タイプが互換性がありません。

説明: 互換性のない結果式を持つ CASE 式がステートメントにあります。結果式のデータ・タイプは、CASE 条件結果データ・タイプがすべて以下のタイプではないために、互換性がない可能性があります。

- 文字
- 図形
- 数値
- 日付
- 時刻
- タイム・スタンプ

データ・タイプを一致させる必要があります。たとえば、1 つのインスタンスで文字データを使用している場合は、すべてのデータ・タイプを文字にする必要があります。

ユーザーの処置: 結果式を訂正して互換性を持たせ、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00581 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17582

メッセージ: SEARCH-WHEN-CLAUSE の検索条件が無効です。

説明: SEARCH-WHEN-CLAUSE の検索条件で、許可されていない比較述部、IN 述部、または EXISTS 述部が指定されています。

ユーザーの処置: 検索条件を訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00582 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17592

メッセージ: WLM 環境 &V1 に関数/手順を作成することは許可されていません。

説明: このメッセージは以下の場合に発行されません。

- &01 トークンの値が 'NO WLM ENVIRONMENT' で、DB2 管理ストアード・プロシージャのアドレス・スペースに対する権限検査に失敗しました。これは CREATE PROCEDURE または ALTER PROCEDURE ステートメントで NO WLM ENVIRONMENT 文節が指定されていたためです。
- DB2 管理ストアード・プロシージャ・アドレス・スペースがありません。

次の SQLSTATE が戻されました: 42704

ユーザーの処置: エラーを訂正するには、以下のいずれかを行ってください。

- &01 トークンの値が 'NO WLM ENVIRONMENT' の場合は、WLM ENVIRONMENT キーワードに別の値を選択するか、指定された WLM ENVIRONMENT にオブジェクトを作成する許可をシステム管理者に要求します。
- DB2 管理ストアード・プロシージャ・アドレス・スペースがない場合は、作成するよう要求し、またこのリソースへのアクセスが可能になるように RACF PERMIT の完了を要求します。

SQLステートメントを再発行してください。

DSQ17601

メッセージ: &V1 は既存の &V2. の名前です。

説明: &V1 という名前のオブジェクトを作成しようとしたが、その名前の &V2 がすでに存在します。

- オブジェクト・タイプが CONSTRAINT で、CREATE か ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 文節または CHECK 文節で &V1 が指定されている場合、表で定義されているすべての参照保全および検査定数は固有である必要があります。
- オブジェクト・タイプが表 / 視点の場合、別名作成ステートメントで指定されている別名は、指定されている表名 / 視点名と同一です。表名 / 視点は、DB2 サブシステム内にはない場合があります。

ユーザーの処置: 照会の実行前に &V2 &V1 を除去するかまたは &V1. に別の名前を指定してください。

SQLCODE: -00601 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17602

メッセージ: CREATE INDEX または PRIMARY KEY ステートメントの列の指定が多すぎます。

説明: CREATE INDEX または PRIMARY KEY ステートメントで指定されている列の数が、許容されている最大数を超過しています。

- DB2 (MVS版) は 64 までです。
- DB2 共通サーバーは 16 までです。

ユーザーの処置: CREATE INDEX または PRIMARY KEY ステートメントを変更して、列の数が列の最大数を超えないようにしてください。

SQLCODE: -00602 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17603

メッセージ: 固有索引列に重複する値が含まれています。

説明: 固有索引の作成を指定した列に、重複する値を持った行がすでにあるため、固有索引を作成することができません。 VARCHAR または VARGRAPHIC のタイプの列であれば 2 つの列の違いは後ろのブランクの数だけで、重複することになります。

ユーザーの処置: 重複値を含む列が参照されることがないように、CREATE ステートメントを変更するか、または表から重複値が含まれている列を削除してください。

SQLCODE: -00603 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17604

メッセージ: 列の定義に問題があります。

説明: 照会が、データ・タイプ限界を超える長さ、精度、または位取りをもつ列を指定しています。ユーザー照会エラーの原因として次のことが考えられます。

- DECIMAL 列の精度または位取りがデータ・タイプ限界を超えた。
- CHAR、FLOAT、GRAPHIC、VARCHAR または VARGRAPHIC 列の長さがデータ・タイプ限界を超えた。

ユーザーの処置: 列定義を変更してデータ・タイプ限界に合うようにし、SQL 照会を再度実行してください。データ・タイプの制限についての詳細な説明は、使用しているデータベースの「DB2 UDB for z/OS SQL Reference」を参照してください。

SQLCODE: -00604 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17607

メッセージ: このカタログ・オブジェクトに対して &V1 は使用できません。

説明: SQL ステートメントで指定されたどのカタログ・オブジェクトに対しても INSERT、UPDATE または DELETE は使用できません。カタログ・オブジェクト SYSINDEXES、SYSKEYS および SYSINDEXPART で、索引の DEFER YES オプションは使用できません。

ユーザーの処置: この操作は行わないようにしてください。

SQLCODE: -00607 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17612

メッセージ: DSQ12812 を参照してください。

DSQ17613

メッセージ: 主キーまたは固有のキーが長すぎるか、列が多すぎます。

説明: PRIMARY KEY 文節に指定された列の長さ属性が 254 バイトより大きいか、または指定された列数が 64 を超えています。次の SQLSTATE が戻されました: 42704。

ユーザーの処置: 表定義を修正し、基本キーに指定された列の合計長を 254 バイト以下にするか、または PRIMARY KEY 文節を変更して 64 列以上指定してはなりません。

SQLCODE: -00613 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17614

メッセージ: 選択された列に索引を付けることができません。

説明: CMS のもとでは、LONG VARCHAR 列または LONG VARGRAPHIC 列に索引を付けることはできません。

TSO のもとでは、許容最大長が 254 文字を超える VARCHAR に索引を付けることはできません。

CMS または TSO のもとでは、列のグループの内部長さの合計が 255 文字を超えている場合には、そのグループに索引を付けることはできません。

ユーザーの処置: 列を 1 つまたは 2 つ以上除外するか、または長い列を短い列で置き換えることによって、索引定義または初期キー定義を修正してください。

SQLCODE: -00614 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17616

メッセージ: &V2 は除去できません。依存している他のオブジェクトがあります。

説明: &V2 は除去できません。&V3 が &V4 という名前でそれを参照しているからです。

ユーザーの処置: &V2 を除去したいのであれば、それに依存しているすべてのオブジェクトを先に除去してください。

SQLCODE: -00616 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17617

メッセージ: 表 &V1. ではタイプ 1 索引を作れません。

説明: 次の表には、タイプ 1 索引を作成できません。

- 大容量表スペース内の表
- LOCKSIZE ROW を持つ表スペース内の表
- 補助表

また、表の ROWID 列には、タイプ 1 索引を作成できません。

ユーザーの処置: タイプ 2 として索引を作成するか、または LOCKSIZE ROW が使用されている場合は、表を含む表スペースの LOCKSIZE を

ROW 以外の値に更新してください。

SQLCODE: -00617 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17618

メッセージ: DSQ15618 を参照してください。

DSQ17621

メッセージ: DBID &V1 は、以前に &V2. に割り当てられた DBID です。

説明: 作成するデータベースに DBID &V1 が割り当てられましたが、この DBID はデータベース &V2. に割り当てられている DBID と一致しています。DB2 カタログと登録簿が整合していません。

ユーザーの処置: システム・プログラマーに通知してください。非整合を訂正しないと、CREATE DATABASE は正常に機能しません。

SQLCODE: -00621 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17622

メッセージ: FOR MIXED DATA を、CREATE または ALTER TABLE ステートメントに指定できません。

説明: FOR MIXED DATA を CREATE または ALTER TABLE ステートメントの列明細に指定する指定をしました。しかしこのサブシステムの MIXED DATA インストール・オプションは NO に設定されています。

ユーザーの処置: FOR 文節を使用可能な BIT または SBSC オプションに変更してください。FOR MIXED DATA オプションが必要な場合は、DB2 情報センターに相談して MIXED DATA オプションを YES にリセットしてください。

SQLCODE: -00622 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17623

メッセージ: 表 &V1 はクラスター索引を 1 つだけ持つことができます。

説明: この CREATE INDEX ステートメントを実行すると、表 &V1. の 2 番目のクラスター索引が作成されます。1 つの表に複数のクラスター索引があってはなりません。

ユーザーの処置: 既存のクラスター索引の同一性と妥当性を判別してください。新たな索引を作るのであれば、クラスター定義のない索引にしてください。

SQLCODE: -00623 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17624

メッセージ: 表 &V1 には、すでに基本キーまたは固有キー制約があります。

説明: 表 &V1 にはすでに基本キーまたは新しいキーと同じ定義を持つ既存の固有制約があるので、この表に対して基本キーまたは固有キー制約を定義できません。

ユーザーの処置: 既存の固有制約の定義を重複させる 2 つ以上の基本キーまたは固有制約を、1 つの表に定義しようとしないでください。

SQLCODE: -00624 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17625

メッセージ: 表 &V1 には、基本キーまたは固有キーを一意にするための索引がありません。

説明: ALTER TABLE を使用して表に基本キーまたは固有キーを追加する場合、指定された索引に一致する固有な索引が、PRIMARY KEY または UNIQUE KEY 文節にすでに定義されていなければなりません。表 &V1 は、指定された基本キーまたは固有キーに対する固有な索引を持っていません。

ユーザーの処置: ALTER TABLE ステートメン

トに指定されたキー・リストが、表にすでに定義されている固有な索引を識別していることを確認してください。

SQLCODE: -00625 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17626

メッセージ: ALTER ステートメントは、ページ・セットが停止していないため、実行できません。

説明: ALTER ステートメントで BUFFERPOOL、USING、PRIQTY または GBPCACHE 文節を指定しましたが、ページ・セットが停止していません。

ユーザーの処置: ページ・セットを停止して、再び実行してください。

SQLCODE: -00626 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17627

メッセージ: 索引または表スペースにユーザー管理データ・セットがあるため、ALTER ステートメントは無効です。

説明: 変更しようとしている索引または表スペースにユーザー管理データ・セットがありますが、ALTER ステートメントに PRIQTY、SECQTY、または ERASE 文節が指定されています。これらの文節は、DB2 管理データ・セットにだけ有効です。ユーザー管理データ・セットの 1 次および 2 次スペース割り振りは、ALTER ステートメントでは変更できません。

ユーザーの処置: 正しい索引または表スペースが指定されているかどうか確認してください。

SQLCODE: -00627 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17628

メッセージ: 文節は相互に排他的です。

説明: 相互に排他的な文節が、以下のように指定されました。

- CREATE TABLESPACE ステートメントに SEGSIZE および NUMPART 文節の両方が含まれています。
- CREATE または ALTER TABLESPACE に、LOCKPART YES および LOCKSIZE TABLESPACE の両方が含まれています。
- 「列定義」に、NOT NULL および DEFAULT NULL 文節の両方、または FIELDPROC および DEFAULT 文節の両方が含まれています。
- SELECT ステートメントに UPDATE 文節および FOR FETCH ONLY 文節の両方が含まれています。
- ALTER TABLE ステートメントに、DROP CONSTRAINT 文節と、DROP FOREIGN KEY 文節、DROP CHECK 文節、DROP PRIMARY KEY 文節、または DROP UNIQUE 文節のいずれかが両方含まれています。
- CREATE TRIGGER ステートメントに、OLD、NEW、OLD_TABLE、または NEW_TABLE に複数の相関名が指定されています。相関は、CREATE TRIGGER ステートメントに1回だけ指定できます。
- CREATE FUNCTION ステートメントに、CAST FROM 文節と SOURCE 文節の両方、または SOURCE 文節と外部関数の定義に使用する文節 (たとえば EXTERNAL、LANGUAGE、NO SQL) の両方が含まれています。
- CREATE または ALTER PROCEDURE ステートメントで NO WLM ENVIRONMENT および PROGRAM TYPE SUB オプションを使用しようとしたか、あるいは NO WLM ENVIRONMENT と、USER または DEFINER の両方を SECURITY に使用しようとした。SECURITY または SECURITY DB2 は、

NO WLM ENVIRONMENT が使用されている場合にのみ使用する必要があります。

- CREATE または ALTER PROCEDURE ステートメントに、LANGUAGE REXX 文節と、PARAMETER STYLE DB2SQL または PARAMETER STYLE JAVA 文節の両方が含まれています。
- ALTER TABLE ステートメントに、ALTER COLUMN 文節と VALIDPROC 文節の両方、または ALTER COLUMN 文節とチェック制約文節以外の文節の両方が含まれています。
- DECLARE GLOBAL TEMPORARY TABLE ステートメントの AS (副選択)文節に、INCLUDING COLUMN DEFAULTS 文節および USING TYPE DEFAULTS 文節の両方が含まれています。
- CREATE DATABASE ステートメントに、AS WORKFILE 文節と AS TEMP 文節の両方が含まれています。
- INSENSITIVE または SENSITIVE が指定された場合は、DECLARE CURSOR で、または PREPARE ステートメントの ATTRIBUTES 文節を使用して、SCROLL も指定する必要があります。
- SCROLL が指定された場合は、DECLARE CURSOR で、または PREPARE ステートメントの ATTRIBUTES 文節を指定して、INSENSITIVE または SENSITIVE STATIC も指定する必要があります。
- 属性ストリングを PREPARE ステートメントの ATTRIBUTES 文節に指定すると、競合するオプションは指定できません。次の SQLSTATE が戻されました: 42704。

ユーザーの処置: 指定したオプションを変更し、ステートメントを再発行してください。

DSQ17629

メッセージ: 外部キー &V1. には SET NULL を指定できません。

説明: キーの列にはヌル値を指定できないため、FOREIGN KEY 文節 &V1 には SET NULL 削除規則は指定できません。

ユーザーの処置: キーの列を変更してヌル値を指定できるようにするか、または削除規則を変更してください。

SQLCODE: -00629 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17630

メッセージ: WHERE NOT NULL は、タイプ 1 索引では無効です。

説明: タイプ 1 索引を WHERE NOT NULL 指定と一緒に作成することはできません。

ユーザーの処置: WHERE NOT NULL 指定を除去するか、または索引をタイプ 2 索引として作成してください。

SQLCODE: -00630 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17631

メッセージ: 外部キー &V1 が長すぎるか、または列が多すぎます。

説明: &V1 の FOREIGN KEY 文節に指定された列の長さ属性の合計が 254 バイトを超えているか、または指定された列の数がデータベースの制限を超えています。

ユーザーの処置: 表の定義を修正し、FOREIGN KEY 文節に指定された列の長さ属性の合計の制限値に一致するようにしてください。

SQLCODE: -00631 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17632

メッセージ: 削除規則の制限があるため、表は &V1 の従属表として定義できません。

説明: 表を、表 &V1. の従属表として定義できません。両方の関数が、既存の関数と矛盾し

す。たとえば、この関係が存在するため、表は自分自身に削除接続されます。

ユーザーの処置: ステートメントから FOREIGN KEY 文節を削除してください。

SQLCODE: -00632 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17633

メッセージ: 削除規則は &V1. でなければなりません。

説明: ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 文節では、以下の理由の内のどちらかで &V1 の削除規則を指定しなければなりません。

1. 外部キーによって表は自分自身の従属表になります。この場合、削除規則は CASCADE でなければなりません。
2. 外部キーによって表は多重経路を介して別の表に削除接続されます。このような関係では、同じ削除規則が必要です。

ユーザーの処置: FOREIGN KEY 文節の削除規則を変更してください。

SQLCODE: -00633 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17634

メッセージ: 削除規則に CASCADE を指定できません。

説明: FOREIGN KEY 文節に指定された CASCADE 削除規則は、以下のどちらかの理由で有効ではありません。

1. 外部キーによって表は循環して自分自身に削除接続されます。
2. 外部キーによって別の表が別の削除規則または SET NULL 削除規則で、複数の経路を介して 1 つの表に削除接続されます。

ユーザーの処置: FOREIGN KEY 文節の削除規則を変更してください。

SQLCODE: -00634 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17635

メッセージ: 削除規則と異なるものまたは SET NULL にはできません。

説明: CREATE TABLE ステートメントの 2 つの FOREIGN KEY 文節に指定されている削除規則が有効ではありません。これらの外部キーでは、別の削除規則または SET NULL 削除規則によって、表が複数の経路を介して 1 つの表に削除接続されます。

ユーザーの処置: 1 つまたは両方の FOREIGN KEY 文節の削除規則を変更してください。表が複数経路を介して 1 つの表に削除接続される場合は、関係では同じ、削除規則 (CASCADE または RESTRICT) を使用しなければなりません。

SQLCODE: -00635 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17636

メッセージ: 区分 &V1 用の区分キーは、昇順または降順の指定になっていません。

説明: この照会では、区分化表 (区分化表スペースの中の表) に対してクラスター索引を作成します。限界キー値指定の中のキー値は、昇順または降順のどちらかで指定する必要があります。

ユーザーの処置: 連続した区分の値が正しく昇順または降順になるように、限界キー値指定を訂正してください。

SQLCODE: -00636 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17637

メッセージ: キーワード &V3.&V1. が二度指定されています。

基準線: ==>&V2.

説明: この照会では、キーワード &3. を 1 回だ

け使用できます。 2 回以上出てきました。

ユーザーの処置: 照会を訂正して、再実行してください。

SQLCODE: -00637 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17638

メッセージ: 列の定義がないため、表 &V1 は作成できません。

説明: CREATE TABLE ステートメントには、列定義が指定されていません。

ユーザーの処置: ステートメントに、少なくとも 1 つの列定義を加えてください。

SQLCODE: -00638 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17639

メッセージ: nul の設定の削除規則がある外部キーの nul 可能列は、区分化キーの列にはできません。

説明: クラスター索引の部分キーは更新できません。したがって、nul 設定の削除規則のある外部キー列は、その列が nul となる可能性がある場合、部分キーの列にはできません。ALTER TABLE 操作でエラーが起こった場合、外部キーは作成されません。CREATE INDEX 操作でエラーが起こった場合、索引は作成できません。

ユーザーの処置: エラーが、CREATE INDEX の場合、索引の区分キーの定義を変更するか、異なる削除規則で参照制約を除去および再定義してください。エラーが ALTER TABLE の場合、参照削除規則を変更するか、区分索引キーの削除と再定義を行ない、外部キーに nul になる可能性のある索引キーがまったくなくなるようにしてください。

SQLCODE: -00639 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17640

メッセージ: LOCKSIZE ROW を指定できません。

説明: この表スペースはタイプ 1 索引を含むので、LOCKSIZE ROW を指定することはできません。LOCKSIZE ROW を表スペースに指定する場合は、表スペースの表のすべての索引がタイプ 2 索引である必要があります。

ユーザーの処置: ALTER INDEX ステートメントを使用してタイプ 1 索引をすべてタイプ 2 索引に変換するか、または他の LOCKSIZE オプションを使用してください。

SQLCODE: -00640 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17642

メッセージ: DSQ15642 を参照してください。

DSQ17644

メッセージ: &V2 の照会の中の &V1 の値が無効です。

説明: &V2 照会で &V1 に指定されている値が有効な値ではありません。

ユーザーの処置: &V2 照会の &V1 に使用できる値は SQL ヘルプを参照してください。

SQLCODE: -00644 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17646

メッセージ: 表スペース &V2 にすでに表が入っています。

説明: CREATE TABLE 照会に指定されている表スペース &V2 は既存の表が入っている区分化表スペースかデフォルトの表です。1 つの区分化またはデフォルトの表スペースには、表を 1 つしか入れられません。

ユーザーの処置: 照会の中で正しい表スペースを

使用していることを確かめてください。1つの区分化表スペースまたはデフォルト表スペースの中に、複数の表を作成しようとししないでください。

SQLCODE: -00646 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17647

メッセージ: バッファ・プール &V1 はアクティブになっていなければなりません。

説明: 表スペースまたは索引スペースに対する CREATE または ALTER 照会の中で指定されているバッファ・プール &V1 が、アクティブになっていません。そのバッファ・プールは Numpages = 0 となっています。

表スペースまたは索引スペースは、現在アクティブであるバッファ・プールに対してのみ割り当て (または再割り当てする) ことができます。

ユーザーの処置: CREATE または ALTER ステートメントに正しいバッファ・プールの指定があることを確かめてください。正しい場合には、そのバッファ・プールをアクティブにして、ステートメントを再実行してください。

SQLCODE: -00647 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17650

メッセージ: なんらかの原因で、ALTER INDEX を実行できません。

説明: 次のリストの理由番号 &V1. が原因で、ALTER INDEX ステートメントを実行できません。

1. 関連表スペースが ROW の LOCKSIZE 指定の場合は、索引をタイプ 1 に変更することはできません。
2. UNIQUE WHERE NOT NULL と一緒に定義されている場合は、索引をタイプ 1 に変更することはできません。

3. 関連表スペースが LARGE 表スペースとして定義されている場合は、索引をタイプ 1 に変更することはできません。
4. ASCII 表では、索引をタイプ 1 に変更することはできません。
5. 区分化索引の PIECESIZE を変更することはできません。
6. 非 LARGE 表の非区分化索引の PIECESIZE 4G を変更することはできません。
7. 索引を COPY YES 属性を持つタイプ 1 に変更することはできません。
8. 索引を補助表上のタイプ 1 に変更することはできません。
9. キーが ROWID 列を組み込んでいる場合、索引をタイプ 1 に変更することはできません。

ユーザーの処置: 上記の理由番号 &V1.. で示されている状況を訂正して、ステートメントを再実行してください。

SQLCODE: -00650 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17652

メッセージ: プロシージャ &V1 が結果を拒否しました。

説明: &V1 は照会の結果の編集または検証を目的としてインストール先で定義されているプロシージャです。照会の結果が、このプロシージャの要件を満たしていませんでした。

ユーザーの処置: インストール先の編集および検証プロシージャについては、QMF 管理者に説明を求めてください。

SQLCODE: -00652 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17653

メッセージ: 表 &V1 に区分化索引がありません。

説明: 区分化表 (区分化表スペースの中の表)

は、その表に対するクラスター索引が作成されていないかぎり、参照することができません。表 &V1 に対するクラスター索引がありません。

ユーザーの処置: ステートメントに正しい表の指定があることを確かめてください。正しい場合、その表に対するクラスター索引を作成し、ステートメントを再実行してください。

SQLCODE: -00653 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17659

メッセージ: 表オブジェクトの最大サイズを超えました。

説明: 表を構成している 1 つまたは複数のオブジェクトが、最大サイズに達しました。表を構成している記憶域オブジェクトを以下に示します。

- データ-基本列データが保管されている場所です。
- 索引 - 表のすべての索引が格納されている場所です。
- 長データ - LONG VARCHAR および LONG VARCHAR 列データが格納されている場所です。
- LOB/LOB - BLOB、CLOB および DBCLOB 列データ、および制御情報が格納されている場所です。

一度記憶域オブジェクトがその最大サイズになると、それ以上拡張することはできません。

ユーザーの処置: オブジェクト内の既存のスペースを新規データを保管するのに使用するには、以下を行うことができます。

- 表を再編成する。
- 表から不必要な行を削除する。
- 表から索引を除去する。
- 行を更新してデータの量を減らす。

SQLCODE: -00659 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17662

メッセージ: &V1 は区分化表スペースではありません。

説明: CREATE INDEX 照会に PART 指定が含まれていますが表スペース &V1 は区分化表スペースではありません。

ユーザーの処置: ステートメントに正しい表の指定があることを確かめてください。正しい場合、表を区分化してから区分化索引の作成をしてください。

SQLCODE: -00662 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17663

メッセージ: &V1. の限界キー値の数に誤りがあります。

説明: 少なくとも 1 つの PART 指定の中の限界キー値の数が、ゼロであるか、または索引キー内の列数を超えています。

ユーザーの処置: 限界キー値の値を変更し、操作を続けてください。

SQLCODE: -00663 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17665

メッセージ: ALTER ステートメントの PART 文節がないか、無効です。

説明: ALTER ステートメントは次のいずれかの理由で無効です。

1. 表スペース、または索引の区分化が行われていないのに、PART 文節が指定されている。
2. 表スペース、または索引の区分化が行われているのに、PART 文節が指定されていない。
3. PART 文節に指定されている整数が、表のスペースの区分、または索引の区分を識別していない。

4. 装置の移行に USING、PRIQTY、SECQTY または ERASE 文節が指定され、区分が指定されていない。

5. グループ・バッファ・プール・キャッシュ 属性を変更するのに GBPCACHE 文節が使用されているのに、区分が指定されていない。

ユーザーの処置: 変更したい表スペースまたは索引が区分化されているかどうかを調べてください。区分化されていれば、変更したい区分を識別する PART 文節を指定してください。区分化されていない場合は、PART 文節を使用しないでください。

SQLCODE: -00665 **Database:** DB2

QMF Function: SQL Query

DSQ17666

メッセージ: ユーティリティ、リソース限定機能、または分散データ機能が実行中です。

説明: システム・ユーティリティが実行中の場合は、照会が実行される前に、実行を完了しなければなりません。リソース限定機能が実行中の場合は、照会が実行される前に、停止されるかまたは別のリソース限定管理表に切り替えられなければなりません。分散データ機能が実行中の場合、通信データベースのオブジェクトが除去される前に停止していなければなりません。

ユーザーの処置: ユーティリティが終了するまで待つか、またはリソース限定機能が停止するか別のリソース限定管理表に切り替えられるまで待ち、照会を再度実行してください。または、分散データ機能が停止するまで待ち、そのオブジェクトを除去してください。

SQLCODE: -00666 **Database:** DB2

QMF Function: SQL Query

DSQ17667

メッセージ: 索引は DROP INDEX ステートメントでは除去できません。

説明: DROP INDEX ステートメントが、次のい

ずれかの索引を除去しようとした。

- 区分化表スペースに常駐する表のクラスター索引。
- GENERATED BY DEFAULT 属性のある ROWID 列に定義されている固有の索引。

これらのいずれも、明示的に除去することはできません。別のオブジェクトを除去することにより、暗黙的に除去することしかできません。

ユーザーの処置: 区分化表スペース内の表のクラスター索引を除去するには、関連する区分化表スペースを除去してください。

GENERATED BY DEFAULT 属性のある ROWID 列に定義されている固有の索引を除去するには、関連する表を除去してください。

SQLCODE: -00667 **Database:** DB2

QMF Function: SQL Query

DSQ17668

メッセージ: この表には編集プロシージャが付随しているため変更はできません。

説明: 編集プロシージャの付随している表には列を追加することはできません。ALTER ステートメントは実行されませんでした。

ユーザーの処置: ALTER ステートメントに正しい表を指定してあることを確かめてください。インストール先で定義した編集プロシージャの付随している表の定義を変更してはなりません。

SQLCODE: -00668 **Database:** DB2

QMF Function: SQL Query

DSQ17669

メッセージ: オブジェクトは明示的にドロップできません。

説明: DROP ステートメントは、理由コード &V1 で示される理由で失敗しました。

- 0001- DROP TABLE ステートメントは区分テーブル・スペースにある表をドロップしようとした。

- 0002- DROP INDEX ステートメントは、表の基本キー、固有キー、または参照制約を施行するために必要な索引をドロップしようとした。

ユーザーの処置: ステートメントが DROP TABLE ステートメントの場合、区分テーブル・スペースの表は、表スペース自体がドロップされる場合のみ、暗黙的にドロップされます。

ステートメントが DROP INDEX ステートメントで、基本キー、固有キー、または参照制約を維持したくない場合、ALTER TABLE ステートメントの DROP CONSTRAINT 文節を使用して制約を除去してから索引をドロップします。

DSQ17670

メッセージ: 行の長さが表スペースのページ・サイズを超えています。

説明: 表の行の長さは、その表が入っている表スペースのページ・サイズを超えることはできません。

ユーザーの処置: CREATE TABLE の場合には次のいずれかを行ってください。

1. 列をいくつか除去する。
2. 1 つまたはいくつかの列の幅を短くする。
3. 32K のバッファーク・プoolsを備えた表スペースに表を割り当てる。

ALTER TABLE の場合には、新しい列の幅を短くしてください。行の幅がすでに最大限に達している場合には、新たな列を追加することはできません。

SQLCODE: -00670 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17671

メッセージ: ALTER TABLESPACE によるページ・サイズの変更はできません。

説明: バッファーク・プoolsの値を変更しようとしたのですが、これを行うと表スペースのページ・サ

イズが 4K から 32K に、または 32K から 4K に変更されます。

ユーザーの処置: 表スペースが、4K のバッファーク・プoolsの 1 つ (BP0、BP1、または BP2) を使用している場合には、ほかの 4K バッファーク・プoolsの 1 つに再割り当てができます。(BP32K に割り当てられている場合には、変更することはできません。)

SQLCODE: -00671 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17672

メッセージ: DROP は表 &V1 では許可されていません。

説明: DROP 操作は、下記のいずれかの理由により、失敗しました。

- 除去されている表に、RESTRICT ON DROP 属性があった。
- 除去されている表スペースまたはデータベースに、RESTRICT ON DROP 属性を持つ指定表が含まれている。

ユーザーの処置: 表を除去する前に、DROP RESTRICT ON DROP を指定している表を更新してください。

SQLCODE: -00672 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17673

メッセージ: 1 次索引を作成できません。

説明: 識別された基本キー列の値と重複する行が表に含まれているので、基本キーを作成できません。更新中の表に、PRIMARY KEY 文節の列の値と重複する行がすでに含まれているため、基本キーの定義が失敗しました。

ユーザーの処置: エラーのある列を表から除去して、基本キーを再度定義してください。

SQLCODE: -00672 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17676

メッセージ: 32K のバッファー・プールは索引には使用できません。

説明: CREATE INDEX 照会の中で、ページ・サイズが 32K のバッファー・プールが指定されています。索引に使用できるのは、4K バッファー・プール BP0、BP1、および BP2 だけです。

ユーザーの処置: 別のバッファー・プールを指定してください。

SQLCODE: -00676 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17677

メッセージ: バッファー・プールを拡張するのに十分な記憶域がありません。

説明: このメッセージの原因として、次のいずれかが考えられます。

1. . 表スペースまたは索引スペースのオープンを行なっているときにバッファー・プールを作成しようとした。
2. . バッファー・プールを、その最大サイズ (MAXPAGES) まで拡張しようとした。
3. . バッファー・プールを、ALTER BUFFERPOOL 照会の中で与えられている新たな最小サイズ (NUMPAGES) まで拡張しようとした。

ユーザーの処置: QMF 管理者 に連絡してください。

SQLCODE: -00677 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17678

メッセージ: 限界キーの値が列 &V3. に適合しません。

説明: 列 &V3 に対して指定した限界キーの値が、その列と同じデータ・タイプのものではありません。

ユーザーの処置: 文字データ・タイプの値の場合には、それを一重引用符で囲んでください。

SQLCODE: -00678 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17680

メッセージ: 表または視点の中の列が多すぎます。

説明: この照会の結果作成される表または視点に対して、列の数が許容最大数を超過してしまいます。

ユーザーの処置: 照会を変更して、作成しようとしている表または視点がデータベースの制限を超えないようにしてください。

SQLCODE: -00680 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17681

メッセージ: 列 &V1 が、インストール先で定義したフィールド・プロシージャに違反しました。 RT: &V2、RS: &V3、MSG: &V4.

説明: 列 &V1 で、フィールド・プロシージャの誤りがありました。 下記の戻りコード (RT) で、問題点を調べてください。

- 4 エンコードまたはデコード作業時に、無効な値があったか、または列の定義が無効です。
- 8 パラメーターの値が無効です。
- 12 フィールド・プロシージャのエラーが関数のいずれかにありました。

詳細は、理由コード (RS) およびメッセージ (MSG) を利用してください。

ユーザーの処置: フィールド・プロシージャに誤りがない場合には、そのフィールド・プロシージャに必要な条件を判別してください。フィールド・プロシージャに誤りがある場合には、そのフィールド・プロシージャを調べてください。

SQLCODE: -00681 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17683

メッセージ: &V1 に非互換文節が含まれていません。

説明: CREATEまたはALTERステートメントのデータ項目指定にエラーがあります。"INTEGER"および"FOR BIT DATA"などの非互換の指定が存在しています。エラーのロケーションは、&V1 で示されます。

- CREATE または ALTER TABLE ステートメントの場合、&V1 はエラーを含む列の名前を示します。エラーは、列 &V1 に対する、FOR BIT DATA、FOR SBCS DATA、FOR MIXED DATA、または FIELDPROC の無効な指定であると考えられます。
- CREATE FUNCTION または CREATE PROCEDURE ステートメントの場合、&V1 は、たとえば "PARAMETER 3" または "RETURNS" または "CAST FROM" のようにステートメント内の問題の場所を示すトークンです。
- CREATE DISTINCT TYPE ステートメントの場合、&V1 は定義されるタイプの名前を指定します。

次の SQLSTATE が戻されました: 42704。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正して、照会を再実行してください。

DSQ17684

メッセージ: &V1 で始まるパラメーター・リストが長すぎます。

説明:

FIELDPROC プログラム名 (パラメーター・リスト)

FIELDPROC では、パラメーター・リストの指定はオプションです。パラメーターの数、および各パラメーターのデータ・タイプは、フィールド・プロシージャで決定されます。パラメーター・リストの長さは、最大 254 バイトです。ただ

し、コンマは長さに数えますが、意味のないブランクと区切りの括弧は、長さには数えません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正して、もう一度、照会を実行してください。

SQLCODE: -00684 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17686

メッセージ: 互に異なるフィールド・プロシージャを使って定義された 2 つの列を、比較することはできません。

説明: フィールド・プロシージャに従う 2 つの列を比較する場合は、2 つの列のフィールド・プロシージャが、同じでなければなりません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正して、もう一度、照会を実行してください。

SQLCODE: -00686 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17687

メッセージ: 列のフィールド・タイプが適合しません。

説明: フィールド・プロシージャをもつ列を別の列と比較する場合には、両方の列が、同じフィールド・プロシージャ、および同じフィールド・タイプでなければなりません。比較は、列にある値がエンコードされた書式で行なわれます。たとえば、エンコードされた値が数字であれば、それらのデータ・タイプは同じでなければなりません。エンコードされた値がストリングであれば、それらのデータ・タイプも適合しなければなりません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正して、もう一度、照会を実行してください。

SQLCODE: -00687 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17689

メッセージ: 従属表に定義された列の数が最大値を超えています。

説明: 従属表に対して許可される列の最大値は 749 です。

このエラーの考えられる原因は次のとおりです。

- 従属表に対する CREATE TABLE ステートメントが 750 個の列を含む。
- ALTER TABLE ステートメントが、749 列を持つ従属表に列を追加しようとしているか、または 750 列を持つ表に、表を従属にする外部キーを追加しようとしています。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正して、従属表に定義されている列数を749以下にしてください。

SQLCODE: -00689 **Database:** DB2

QMF Function: SQL Query

DSQ17690

メッセージ: SQL ステートメントは、DB2 のデータ定義制御サポートにより拒否されました。

説明: DB2 データ定義制御サポート (DDCS) は、理由コード &V1. で SQL ステートメントを拒否しました。説明については、「*DB2 UDB for z/OS Messages and Codes*」を参照してください。

ユーザーの処置: 正しいオブジェクト名が指定されていることを確認してください。情報センターに連絡し、DDL 登録インストール・オプションが適切に設定されていることを確認してください。また、データ定義制御サポート・モードが実行されているか確認してください。その後、アプリケーション登録表とオブジェクト登録表を検査して、入力正しいかを判別してください。正しくない場合は、必要に応じて登録表を更新してください。

SQLCODE: -00690 **Database:** DB2

QMF Function: SQL Query

DSQ17691

メッセージ: 必要な登録表 &V1 が見つかりません。

説明: DB2 データ定義制御サポートは、アプリケーション登録表またはオブジェクト登録表、あるいはその両方を見つけられませんでした。これらの表が正しく定義されるまで照会は行なわれません。

ユーザーの処置: 情報センターに連絡して、登録表が適切に作成され、表名が正しいことを確認してください。

SQLCODE: -00691 **Database:** DB2

QMF Function: SQL Query

DSQ17696

メッセージ: トリガー定義での &V2 の使用法は無効です。

説明: &V1 の CREATE TRIGGER ステートメントに、相関名または REFERENCING 文節内の一時表 ID として使用されている &V2. が含まれていますが、これは無効です。

次のリストにある理由番号 &V3. を参照してください。

1. DELETE トリガーは、以下を REFERENCING 文節で使用できません。
 - NEW 相関名
 - NEW_TABLE ID
2. INSERT トリガーは、以下を REFERENCING 文節で使用できません。
 - OLD 相関名
 - OLD_TABLE ID
3. BEFORE トリガーは、以下を REFERENCING 文節で使用できません。
 - OLD_TABLE ID
 - NEW_TABLE ID

ユーザーの処置: CREATE TRIGGER ステートメントの REFERENCING 文節を訂正してから、

ステートメントを再実行してください。

SQLCODE: -00696 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17697

メッセージ: 無効な REFERENCING 文節がトリガー定義にあります。

説明: CREATE TRIGGER ステートメントに、次の無効な組み合わせのいずれかを含む REFERENCING 文節があります。

1. 次の相関名のいずれか、または両方とともに使用されている、FOR EACH STATEMENT 文節:
 - OLD 相関名
 - NEW 相関名
2. 次の一時表IDのいずれか、または両方とともに使用されている、FOR EACH ROW 文節:
 - OLD_TABLE ID
 - NEW_TABLE ID

ユーザーの処置: 無効な相関名または一時表 ID を REFERENCING 文節から除去するか、またはトリガーの細分性を変更してから、ステートメントを再実行してください。

SQLCODE: -00697 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17713

メッセージ: 照会は &V1 レジスターに対して無効な値を指定しました。

説明: ステートメントは &V1 特殊レジスターに対して無効な値を指定しました。SET CURRENT DEGREE ステートメントの場合、CURRENT DEGREE の値は 'ANY'、'1'、または '1' にしてください。

ユーザーの処置: 正しい値を使用して、&V1 特殊レジスターを設定してください。

SQLCODE: -00713 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17724

メッセージ: オブジェクトの活動化が SQL カスケードの最大レベルを超えました。

説明: トリガー、ユーザー定義関数、またはストアード・プロシージャが、別のトリガー、ユーザー定義関数、またはストアード・プロシージャを呼び出すと、その結果としてさらに呼び出しが発生し、間接 SQL のカスケードが発生します。このチェーン内のいくつかのトリガーは、参照制約削除規則の実施のために活動化される場合があります。このカスケードの深さは 16 までに限定されています。

トリガーがトリガー SQL ステートメントを含む再帰的状態は、同じトリガーが活動化される直接または間接的な原因となり、このエラーの原因になることがよくあります。このエラーを防ぐために、トリガーは終了条件を検査するためのロジックを含む必要があります。

&V1 - 呼び出すオブジェクトのタイプを指定します。オブジェクト・タイプは TRIGGER、FUNCTION、またはPROCEDUREです。

&V2 - カスケードの 17 番目のレベルで活動化されたトリガー、ユーザー定義関数、またはストアード・プロシージャの名前を指定します。

オリジナル・ステートメントは実行できませんでした。カスケード・チェーン内のすべてのトリガー、ユーザー定義関数、およびストアード・プロシージャによって実行される SQL ステートメントはすべてロールバックされます。ネットワーク・メッセージの送信など、間接 SQL によって実行される外部処置がすでに実行された可能性があります。

次の SQLSTATE が戻されました:
&DSQSQLST.

ユーザーの処置: オリジナル SQL 操作で活動化される間接 SQL から始めてください。呼び出されたユーザー定義関数内、または更新操作のサブジェクトで定義されたトリガー内の再帰的パター

ンを検査してください。チェーンが再帰的ではない場合は、含まれるトリガー、ユーザー定義関数、またはストアード・プロシージャーを変更することによって、カスケード・チェーンを単純化する必要があります。

DSQ17729

メッセージ: ストアード・プロシージャーは、ネストされた呼び出しステートメントのターゲットにはなりません。

説明: COMMIT ON RETURN 属性で定義されたストアード・プロシージャーが、ストアード・プロシージャー、ユーザー定義関数、またはトリガーから呼び出されました。COMMIT ON RETURN で定義されたストアード・プロシージャーは、この方法ではネストできません。

SQL ステートメントは実行されません。CALL ステートメントが遠隔サーバーを参照する場合、作業単位は必須ロールバック状態に置かれます。

次の SQLSTATE が戻されました:
&DSQSQLST.

ユーザーの処置: COMMIT ON RETURN 属性で定義されたストアード・プロシージャーの呼び出しを除去してください。

DSQ17730

メッセージ: 親表は読み取り専用共有データベース中になければなりません。

説明: 作成または代替している表は、読み取り専用共有データベース中にあります。CREATE または ALTER ステートメントの外部キーは読み取り専用共有データベースにない親の表を参照しません。読み取り専用共有データベースにある表の親は読み取り専用共有データベースになければなりません。共有データベースにある表の親は共有データベースになければなりません。

ユーザーの処置: FOREIGN KEY 文節が正しい親の表を参照していることを確認してください。

SQLCODE: -00730 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17731

メッセージ: &V1 は SHAREOPTIONS(1,3) と一緒に定義しなければなりません。

説明: ユーザー定義データ・セット &V1 の VSAM SHAREOPTIONS は共有データベースにあるすべての索引と表スペースに対して (1,3) でなければなりません。

ユーザーの処置: VSAM コマンド LISTC を使ってデータ・セット &V1 の SHAREOPTIONS を表示してください。SHAREOPTIONS が (1,3) でない場合は訂正してください。

SQLCODE: -00731 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17732

メッセージ: 表スペースまたは索引スペースが所有サブシステムに定義されていません。

説明: CREATE ステートメントで指定されたデータベースは ROSHARE READ 属性を持つサブシステムに定義されています。所有サブシステムで表スペースまたは索引スペースを定義した後でなければ、データベースにそれを作成することはできません。

ユーザーの処置: 表スペースまたは索引が、共有データベースを所有する所有サブシステムに定義されているか確認してください。

SQLCODE: -00732 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17733

メッセージ: 表スペース、索引または表が所有サブシステムと整合していません。

説明: ROSHARE READ として定義されている ROSHARE READ データベースの表スペース、索引または表の定義は、所有サブシステムの記述と整合していなければなりません。

ユーザーの処置: 表スペース、索引または表の定義が所有サブシステムのそれと整合しているか確認してください。

SQLCODE: -00733 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17734

メッセージ: データベースの ROSHARE 属性は変更できません。

説明: データベースを ROSHARE READ から ROSHARE OWNER または ROSHARE NONE に変更することはできません。

ユーザーの処置: ALTER DATABASE ステートメントに正しいデータベースが指定されていることを確認してください。読み取り専用共有データベースの ROSHARE 属性を変更するには、データベースを削除して、作成し直してください。

SQLCODE: -00734 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17735

メッセージ: データベース &V1 は所有サブシステムの共有データベースではありません。

説明: &V1 で示されるデータベース中のオブジェクトにアクセスしようとしてしました。そのデータベースは、アクセスしているサブシステムで ROSHARE READ として定義されています。そのデータベースは所有サブシステムで ROSHARE OWNER として定義されていません。したがって、オブジェクトにアクセスすることはできません。

ユーザーの処置: 正しいオブジェクトが指定されていることを検査してください。

SQLCODE: -00735 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17736

メッセージ: CREATE ステートメントに無効な OBID &V1 が含まれています。

説明: OBID &V1 が受け入れ可能範囲 (1 から 65535) 以外か、または与えられたデータベースに対してすでに使用中です。

ユーザーの処置: 与えられた OBID が有効であることを確認してください。既存のオブジェクトにエラーがある場合は、正しい OBID 値を使用してオブジェクトの削除と作成を行ってください。

SQLCODE: -00736 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17737

メッセージ: 読み取り専用共有データベースで暗黙の表スペースは使用できません。

説明: CREATE TABLE ステートメントに表を作成するデータベースを指定する IN DATABASE 文節が使用されています。これにより、データベースに表スペースが暗黙に作成されます。読み取り専用共有データベースには表スペースを暗黙作成することはできません。

ユーザーの処置: 所有サブシステムの表スペースと同じ名前を使用して、表に表スペースを作成してください。そして、データベースと表スペースの名前を指定して、CREATE TABLE ステートメントを再実行してください。

SQLCODE: -00737 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17746

メッセージ: SQL ステートメントは、SQL のネスト制限に違反しています。

説明: 表が (INSERT、DELETE、または UPDATE によって) 変更されている場合、より低いレベルのネスト SQL ステートメントを使用してその表にアクセスすることはできません。

表が SELECT ステートメントによってアクセスされている場合は、より低いレベルのネスト SQL ステートメント内で (INSERT、DELETE または UPDATE によって) その表を変更できます。

SELECT、INSERT、DELETE、または UPDATE

SQL ステートメントが失敗しました。次の SQLSTATE が戻されました: &DSQSQLST。

ユーザーの処置: 名前付き外部関数、トリガー、またはストアード・プロシージャから、障害のあるステートメントを除去してください。

DSQ17747

メッセージ: 表の定義が不完全です。

説明: 1 つ、または複数の LOB 列をもつ表をアクセスまたは参照しようとしたが、以下のいずれかの状態になっています。

- LOB 列を保管するための補助表が未作成である。
- 補助表に対する索引が未作成である。
- 表スペースの各区分ごとの補助表がない。

ユーザーの処置:

以下にリストしたステップで、必要なステップを行ってください。

1. CREATE TABLESPACE を使用して LOB 表スペースを作成する。
2. CREATE TABLE を使用して、列を保管するための補助表を作成する。
3. CREATE INDEX を使用して、補助表の索引を作成する。

その後照会を実行してください。

SQLCODE: -00747 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17748

メッセージ: 補助表 &V1. は 1 つだけの索引を持つことができます。

説明: 指定された補助表にはすでに索引が存在しています。補助表は 1 つだけ索引を持つことができますが、CREATE INDEX ステートメントで 2 番目の索引を作成しようとした。

ユーザーの処置: 指定した補助表に対して、2 番目の索引の作成を試みてはなりません。

SQLCODE: -00748 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17751

メッセージ: &V1&V2 (&V3) は、許可されていない SQL &V4 を実行しようとした。

説明: ストアード・プロシージャまたはユーザー定義関数が、許可されていない SQL ステートメントを実行しようとした。

ストアード・プロシージャが、DB2 スレッドに対して作業単位のロールバックを強制する SQL ステートメントを発行しました。スレッドを MUST_ROLLBACK 状態にする SQL ステートメントは、COMMIT または ROLLBACK のどちらかです。

これ以降の SQL ステートメントは、SQL CALL ステートメントを発行した SQL アプリケーションが作業単位をロールバックするまで、すべてリジェクトされます。制御が SQL CALL ステートメントを発行した SQL アプリケーションに戻るとき、SQL アプリケーションは作業単位をロールバックする必要があります。これは、SQL ROLLBACK ステートメントを発行するか、IMS または CICS でこれに相当する操作を実行します。

ユーザーの処置: ストアード・プロシージャまたはユーザー定義関数から、サポートされないステートメントを除去してください。

DSQ17763

メッセージ: 表スペースが無効です。

説明: 表スペースは以下のいずれかの理由により無効です。

- 表スペースは LOB 表スペースなので、作業ファイルのデータベースに常駐させることはできない。
- 表スペースは LOB 表スペースなので、補助表以外の表を含めることができない。

- 表スペースは LOB 表スペースでないので、補助表を含めることができない。

ユーザーの処置: 次のいずれかを行ってください。

- 作業ファイル以外のデータベースにその LOB 表スペースを作成する。
- LOB 以外の表スペースに表を作成する。
- LOB 表スペースに補助表を作成する。

SQLCODE: -00763 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17764

メッセージ: LOB 表スペースと基本表スペースは、同一のデータベースになければなりません。

説明: 補助表を LOB 表スペースに作成しようとしてしまいましたが、その LOB 表スペースは関連する基本表スペースと同一のデータベースにありません。

ユーザーの処置: 関連する基本表スペースと同一のデータベースの LOB 表スペースを指定して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00764 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17766

メッセージ: DB2 補助表は、直接参照することはできません。

説明: 補助表にあるデータは、補助表名を指定してアクセスすることはできません。補助表にあるデータは、基本表での操作によってのみアクセスできます。

ユーザーの処置: 該当する基本表を使用し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00766 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17767

メッセージ: 索引 &V1. に対する列の指定が正しくないか、または欠落しています。

説明: CREATE INDEX ステートメントは、以下のいずれかの理由により失敗しました。

- 補助表以外の表に基づく索引は、その索引が定義される列を指定する必要がある。
- 補助表に基づく索引は、列を指定できない。

ユーザーの処置: CREATE INDEX ステートメントの構文を訂正してください。

- 補助表以外の表に基づいて索引を作成するには、その索引が定義される列を指定する。
- 補助表に基づく索引を作成するには、列名を指定しない。

SQLCODE: -00767 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17768

メッセージ: 指定された列または区分に、すでに補助表が存在しています。

説明: 補助表を作成しようとしてしまいましたが、指定された列または区分に関する補助表がすでに存在しています。基本表が区分表以外の表スペースに属している場合、表の LOB 列ごとに補助表は 1 つだけ存在できます。基本表が区分表スペースに属している場合、どの LOB 列でも、特定の区分の LOB 列のすべての値が独自の補助表に保管されます。基本表スペースの区分ごとに 1 つの補助表が必要です。

ユーザーの処置: 表名、列名、および該当する場合には、区分番号について指定が正しいことをチェックしてください。既存の補助表に対し別の名前が必要な場合には、RENAME TABLE ステートメントを使用して補助表を名前変更することができます。

SQLCODE: -00768 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17770

メッセージ: LOB 列を定義する場合には ROWID 列が必要です。

説明: LOB 列を伴う表 &V1 を作成しようとしたか、または表に LOB 列を追加しようとしたが、表には ROWID 列がありません。LOB 列を持つ表には ROWID 列も必要です。

ユーザーの処置: LOB 列を持つ表を作成する場合、同じ表にタイプが ROWID の列を定義してください。ALTER を使用して LOB 列を表に追加する場合、最初に ALTER を使用して、タイプが ROWID の列を表に追加してください。

SQLCODE: -00770 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17797

メッセージ: トリガー定義に無効なトリガー SQL ステートメントがあります。

説明: &V1 のトリガー定義に、サポートされていないトリガー SQL ステートメントが含まれています。トリガー SQL ステートメントとしてサポートされる SQL ステートメントは、トリガーのタイプによって異なります。

- BEFORE トリガーは、次のトリガー SQL ステートメントを組み込みます。
 - 全選択または VALUES SQL ステートメント。
 - SET 変換変数 SQL ステートメント。
- AFTER トリガーは、次のトリガー SQL ステートメントを組み込みます。
 - INSERT SQL ステートメント。
 - 検索 UPDATE SQL ステートメント。
 - 検索 DELETE SQL ステートメント。
 - 全選択または VALUES SQL ステートメント。

一部の DB2 サーバーは、次の SQL ステートメントを両方のタイプのトリガーでサポートしません。

- SIGNAL SQLSTATE ステートメント。
- CALL SQL ステートメント。

ユーザーの処置: 上記のリストと一致しないトリガー SQL ステートメントがあるかどうかトリガー定義を検査して、あれば除去してください。

CREATE TRIGGER ステートメントおよびサポートされているトリガー SQL ステートメントの詳細については、「*DB2 UDB for z/OS SQL Reference*」を参照してください。

SQLCODE: -00797 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17798

メッセージ: ROWID GENERATED ALWAYS 列に値を挿入しようとした。

説明: 表に挿入する場合に、ROWID GENERATED ALWAYS 列の &V1. に値が指定されました。VALUE リストの対応するエントリーが DEFAULT である場合を除き、GENERATED ALWAYS 列を追加用の列リストに指定することはできません。

ユーザーの処置: 列リストから ROWID 列を除去するか、または VALUE 文節の ROWID ID 列に DEFAULT を指定してください。

SQLCODE: -00798 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17801

メッセージ: ゼロによる除算が試みられました。

説明: 列または演算式の処理の結果が、ゼロによる除算となりました。

ユーザーの処置: ステートメントを訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00800 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17802

メッセージ: SQL コマンドの算術演算で、エラーが発生しました。

説明: SQL コマンドで乗算または除算のような算術演算を行おうとしました。しかし、コンピューターは選択された列で 1 つ以上の値が無効であることを検出しました。たとえば、乗算の結果がコンピューター内部記憶域を超えたか、0 による除算になっています。

ユーザーの処置: プログラム例外を起こすデータを決定するためにコマンドの算術演算および列を検査してください。

SQLCODE: -00802 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17803

メッセージ: 固有索引列の中に重複値がありません。

説明: 新たな値を挿入しようとしている、または新たな値で更新しようとしている列の 1 つに、その値と同じ値がすでに入っています。その列は、固有索引列です。固有索引列は重複値をとることはできません。

ユーザーの処置: 既存の値と重複することのないように、新たな値を変更してください。そして、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00803 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17805

メッセージ: 現行のプランにプログラムが見つかりません。

説明:

QMF は、アプリケーションのプラン &V2 を実行しましたが、プログラムには &V1. が必要です。

リモート・データをアクセス中であった場合に

は、プランの名前が DISTSERV に変更されていた可能性があります。

このプログラムは、プラン &V2. には見つかりませんでした。次は、このエラーのいくつかの原因です。

- QMFが、接続先のロケーションでインストールされていない。
- コレクション ID またはロケーション名が、プラン &V2 がバインドされた際に誤っていた。

ユーザーの処置: 詳細な説明については、「DB2 UDB for z/OS Messages and Codes」を参照し、この問題については、QMF 管理者に報告してください。

SQLCODE: -00805 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17811

メッセージ: 複数の値を生成する副照会があります。

説明: 副照会は、表の 2 つ以上の列をもとにして値を生成するものであってはならず、また、多くの場合、2 つの行をもとにして値を生成するものであってはなりません。複数の値を生成する副照会には、ALL、ANY、EXISTS、または IN を使用してください。

例:
WHERE DEPT = ANY (SELECT DEPTNUMB
 FROM Q.ORG)

HAVING AVG(X) > ALL (SELECT X FROM Y)

WHERE EXISTS (SELECT * FROM X
 WHERE N1 = N2)

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00811 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17815

メッセージ: GROUP BY または HAVING 文節を使用する副照会には、ALL、ANY、EXISTS、または IN が必要です。

説明: GROUP BY または HAVING を用いる副照会では複数の値の生成が予測されます。したがって、先行する ALL、ANY、EXISTS、または IN のいずれかのキーワードが必要です。

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00815 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17817

メッセージ: READ-ONLY の環境においては、リモート更新は許可されません。

説明: リモート・ロケーションでデータの更新、挿入、削除を試みましたが、現行の操作環境ではリモートの読み取り専用になっています。たとえば、サーバー・データベースが、2 フェーズ・コミットをサポートしない場合、CICS 操作環境ではリモート・データの更新はできません。

READ-ONLY 操作環境でリモート・データをアクセスするには、以下のいずれかを使用できます。

- SQL SELECT ステートメント
- QMF DISPLAY コマンド

ユーザーの処置: 引き続き QMF を使用できません。リモート・データを更新する必要がある場合には、サポートしている操作環境に切り換えてください。そうでない場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00817 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17836

メッセージ: DSQ13036 を参照してください。

DSQ17840

メッセージ: ユーザーの照会で使用している列の数が多すぎます。

説明: 1つの照会では、どのような単一の表または一連の表からも、データベースで使用できる最大の列の数を超えて、選択または挿入できません。

ユーザーの処置: 使用する列の数をもっと少なくして、照会を書き直してください。SQL の照会の場合には、“SELECT * FROM A、B、C” に類するステートメントを検査してください。このステートメントは、表 A、B、および C からすべての列を選択することを指定しています。

SQLCODE: -00840 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17872

メッセージ: システムで有効な CCSID が指定されていません。

説明: インストール・パネル DSNTIPF の ASCII CODED CHARACTER SET または EBCDIC CODED CHARACTER SET サブシステム・パラメーターのいずれかで、有効な CCSID が指定されていません。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡して、システムに定義するのに必要な CCSID を尋ねてください。

SQLCODE: -00872 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17873

メッセージ: 異なる CCSID でエンコードされたデータを、同じ SQL ステートメントで参照することはできません。

説明: SQL ステートメントが別のコード化スキームの表で定義される別の列を持つ場合、SQL ステートメント内でコード化スキームに対する表に定義された列を参照できません。

この状態は、ASCII、EBCDIC、または UNICODE コード化スキームで作成された表が、同じコード化スキームでない表を持つステートメントで参照された場合に生じます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正して、もう一度、照会を実行してください。

SQLCODE: -00873 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17874

メッセージ: 表のエンコード・スキームが、表スペースのエンコード・スキームと矛盾しています。

説明: CCSID ASCII が指定された場合、含まれる表スペースは EBCDIC または UNICODE です。CCSID EBCDIC が指定された場合、含まれる表スペースは ASCII または EBCDIC です。表のエンコード・スキームは、表を含んでいる表スペースと同じである必要があります。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正して、もう一度、照会を実行してください。

SQLCODE: -00874 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17875

メッセージ: &V1 を ASCII データ参照エンコード・スキームと一緒に使用することはできません。

説明: ASCII データは、次のいずれかの状態で参照されました。

- LIKE 述部が ASCII 表の混合データを参照している。
- VARGRAPHIC 関数が ASCII 表の列で指定された。VARGRAPHIC 関数は ASCII データではサポートされていません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正して、もう一度、照会を実行してください。

SQLCODE: -00875 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17876

メッセージ: タイプ 1 索引を ASCII として定義された表で作成することはできません。

説明: CREATE TYPE 1 INDEX ステートメントが ASCII 表で指定されました。タイプ 2 索引のみが、ASCII 表でサポートされています。

ユーザーの処置: 作成する索引にタイプ 2 索引を指定するよう SQL ステートメントを訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00876 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17877

メッセージ: CCSID ASCII は、このデータベースまたは表スペースでは許可されていません。

説明: 指定されたデータベースまたは表スペースでは、EBCDIC にする必要があります。

ユーザーの処置: ステートメントから CCSID ASCII または CCSID UNICODE 文節を除去し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00877 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17878

メッセージ: EXPLAIN で使用されている PLAN_TABLE では、ASCII または UNICODE を使用することはできません。

説明: EXPLAIN を使用する場合は、PLAN_TABLE を EBCDIC でエンコードする必要があります。

ユーザーの処置: 既存の PLAN_TABLE を除去して、EBCDIC エンコード・スキームで再作成してください。

SQLCODE: -00878 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17879

メッセージ: CREATE/ALTER ステートメントは定義できません。

説明: システムで適切な CCSID が定義されていないときに、CREATE または ALTER TABLE ステートメントが、ユーザー定義関数またはストアード・プロシージャの列、特殊タイプ、またはパラメーターを、混合データまたはグラフィックとして定義しようとしていました。

- 適切なレベルの OS/390 が導入されていないため、CCSID UNICODE 文節が指定された CREATE は処理できません。UNICODE サポートに必要な OS/390 のレベルの詳細については、プログラム・ディレクトリーを参照してください。
- MIXED DATA 導入オプションが NO に設定されているとき、CREATE DISTINCT TYPE ステートメントは、EBCDIC または ASCII データで、ソース・タイプが CHAR FOR MIXED DATA の特殊タイプ、または GRAPHIC、VARGRAPHIC、DBCLOB を定義できません。
- MIXED DATA 導入オプションが NO に設定されているとき、CREATE FUNCTION または CREATE PROCEDURE ステートメントは、パラメーターを定義できないか、ASCII または EBCDIC データに CHAR FOR MIXED DATA として RETURNS データ・タイプを指定できないか、または GRAPHIC、VARGRAPHIC、または DBCLOB として指定できません。

注: このエラーは、使用中のコード化スキームが EBCDIC または ASCII の場合にのみ起こります。MIXED DATA 導入オプションは、UNICODE データに影響を及ぼしません。このエラーは、キーワード FOR MIXED DATA が障害のあるステートメントに現れないにもかかわらず、列またはパラメーターを文字 FOR MIXED DATA として定義しようとしたときに起こる可能性があります。これは、DECP 内の MIXED の値が YES の

場合に起こります。この場合、文字タイプのデフォルトのサブタイプは FOR MIXED DATA です。

次の SQLSTATE が戻されました: 42704。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡して、導入オプション、あるいは CREATE または ALTER ステートメント内の列要素のデータ・タイプの変更を依頼してください。

SQLCODE: -00879 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17900

メッセージ: QMF の使用を続行するにはロケーションに接続する必要があります。

説明: 前のエラーのためにデータベース・サーバーが失われています。QMF の使用を続行したいときには、QMF 接続喪失プロンプト・パネルを使用して別のロケーションに接続するか、または QMF の終了を選ぶことができます。

ユーザーの処置: 別のロケーションに接続することを選んだ場合、有効なロケーションに接続するためには正しい値を入力してください。そうでないときは、QMF を終了する必要があります。

SQLCODE: -00900 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17904

メッセージ: リソースを使用できなかったため、実行は不成功に終わりました。理由コードは &V1、リソースのタイプは &V2、リソース名は &V3. です。

説明: タイプ '&V2' のリソース '&V3' が '&V1' で示される理由のため使用できず、要求は実行できませんでした。理由コード &V1. の詳細については、「DB2 UDB for z/OS Messages and Codes」を参照してください。

これは一時的な条件です。

この条件の一般的な原因は次のとおりです。

- ローカルのオブジェクトを参照したが、リモート・ロケーションに接続されている。たとえば、リモート・ロケーションに接続されているときは、ローカルの表を CREATE、DROP または SELECT できません。
- 参照したリソースが、別のユーザーに所有されている。
- DB2 分散データ機能 (DDF) が停止されていた。CONNECT コマンドがサポートされており、QMF が現在のロケーションから切断されている場合は、接続喪失プロンプト・パネルが表示されます。

ユーザーの処置:

MVS JES ログ情報にアクセスできる場合は、この使用不可リソース・エラーのログ・レコードをブラウズしてください。

ローカルのオブジェクトを参照するが必要がありますが、現在リモート・ロケーションに接続されている場合は、ローカルのロケーションに接続して、ローカルのオブジェクトを参照できます。

リソースが一時的に使用不可の場合は、照会を再度行ってください。

DDF が停止して、接続喪失指示が表示される場合、ローカルの DB2 にのみ接続可能になります。

エラー状態が続く場合、QMF 管理者に援助を求めてください。

SQLCODE: -00904 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17905

メッセージ: DB2 のリソース限界を超えたので、実行が失敗しました。リソース名 = &V1.、限界 = &V2.

説明: DB2 のリソース限界を超えたので、SQL ステートメントの実行が終了しました。

- リソースの名前は &V1. です。
- CPU 秒の超過した限度は &V2. です。

- サービス装置の超過した限度は &V3. です。
- 限度を引き出すのに使用されたリソースは、DB2 リソース限定表または DB2 システム・パラメーターのどちらかの名前です。制限リソース名は &V4. です。

ユーザーの処置: DB2 のリソース限界を超えないようにするため、SQL ステートメントの単純化、表および索引の再構成、またはリソース限界の変更を検討してください。さらに援助が必要な場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00905 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17907

メッセージ: リモートの位置で実行された更新が、成功したかどうか判断できません。

説明: システム・エラーが、更新の実行されたリモート位置で発生したか、そこの通信に失敗しました。エラーは更新のコミット要求をリモート・ロケーションに送信した後で起きました。DB2 ではコミット操作が成功したかどうか判断できません。コミットが成功した場合、データベースは更新されます。コミットが失敗した場合、更新は取り消されます。

ユーザーの処置: 通信が再確立した後、データ照会をして、コミット操作が成功したかどうか判断してください。

SQLCODE: -00907 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17911

メッセージ: データベースの必要な部分が使用中です。

説明: 別のユーザーが処理を完了するまでは、データベース中の必要なオブジェクトをアクセスすることはできません。

ユーザーの処置: QMF セッションを打ち切り、あとで再度サインオンしてください。

SQLCODE: -00911 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17913

メッセージ: データベースの必要な部分が使用中です。

説明: 別のユーザーが処理を完了するまでは、データベース中の必要なオブジェクトをアクセスすることはできません。

ユーザーの処置: QMF セッションを打ち切り、あとで再度サインオンしてください。

SQLCODE: -00913 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17918

メッセージ: QMF の使用を続行するにはロケーションに接続する必要があります。

説明: 前のエラーのためにデータベース・サーバーが失われています。QMF の使用を続行したいときには、QMF 接続喪失プロンプト・パネルを使用して別のロケーションに接続するか、または QMF の終了を選ぶことができます。

ユーザーの処置: 別のロケーションに接続することを選んだ場合、有効なロケーションに接続するためには正しい値を入力してください。そうでないときは、QMF を終了する必要があります。

SQLCODE: -00918 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17930

メッセージ: ステートメントを処理するのに使用できる記憶域が十分にありません。

説明: 別のメモリー・ページを必要とする要求がデータベース・マネージャーになされましたが、データベース・マネージャーで使用できるメモリーはもうありません。次のような原因が考えられます。

- 実記憶域が不十分である。

- 仮想記憶域が不十分である。
- 実行中のバックグラウンド・プロセスが多すぎる。

ユーザーの処置: 問題を訂正して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00930 **Database:** DB2
QMF Function: SQL Query

DSQ17948

メッセージ: DSQ15948 を参照してください。

DSQ18104

メッセージ: &V3. で、またはその前で SQL エラーが起きました。

説明: 指定されたトークンで、構文エラーが検出されました。エラーの前で、テキスト "&V4" が、20 文字までのステートメントを指示しています。このメッセージは、通常以下の原因により発生します。

1. 無効な文字、または下線で始まる名前。
2. 句読点の欠落または余分な句読点。
3. キーワードを必要としている定数または名前。
4. 数値を必要としている非数値。
5. 照会の最後が欠落している。
6. 照会の最初の語が SQL コマンド名でない。
7. DB2 以外のデータベース・システムでは有効であるが、DB2 では有効でないキーワードを使用している。

以下のシンボルの行は、これまでの文脈から見れば正といえるでしょうが、照会全体から見れば正しく働かない可能性があります。

代替シンボルのリストは単なる提案です。これらの中には、使用されているデータベース・マネージャーのステートメントとして正しくない場合があります。それらのシンボルは、他のデータベース管理システムに送られると正しいステートメントになる場合があります。&V5

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。

DSQ18440

メッセージ: DSQ16440 を参照してください。

DSQ18557

メッセージ: 指定された組み合わせで特権を付与または取り消すことができません。

説明: 次のいずれかが起こりました。

- GRANT または REVOKE ステートメントに別のクラスの特権の組み合わせが含まれています。特権はすべて1つのクラスである必要があります。たとえば、DATABASE、PLAN または TABLE です。
- GRANT ステートメントが、許可されていない視点に特権を付与しようとして、ALTER、INDEX および REFERENCES を視点に付与することはできません。

ユーザーの処置: ステートメントを訂正し、再実行してください。

DSQ18632

メッセージ: FOREIGN KEY &V1 は無効です。

説明: FOREIGN KEY &V1 は無効です。削除規則制限 (理由コード =&V3) のため、表を表 &V2 の従属表として定義することはできません。CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントのオブジェクト表を、以下のいずれかの理由コードで、表 &V2 の従属表として定義できないので、参照制約を定義することができません。

- (01) 関連自己参照および自己参照関連が、SET NULL 削除規則と一緒にすでに存在します。

- (02) 関連は、それ自身に削除接続される表を引き起こす複数の表のサイクルを形成します (サイクル内の他のすべての削除規則は CASCADE です)。
- (03) 関連は、複数の関連および既存の関連の削除規則が SET NULL であることにより、指示された表に削除接続される表を引き起こします。

既存関連の削除規則は、CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 文節で指定された削除規則ではなく、エラーを引き起こします。&V1 は、CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 文節で指定された制約名です。

ユーザーの処置: CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの特定の FOREIGN KEY 文節を除去して、ステートメントを再度実行してください。

DSQ18633

メッセージ: FOREIGN KEY &V1 の削除規則は、&V2. です。

説明: CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 文節で指定された削除規則が無効です。理由コードは &V3 です。指示された削除規則は、以下のいずれかの理由コードで要求されています。

- (01) 参照制約は自己参照であり、既存の自己参照制約には指示された削除規則 (NO ACTION、RESTRICT または CASCADE) が含まれています。
- (02) 参照制約は自己参照で、表は CASCADE の削除規則の関連に従属します。
- (03) 関連は、複数の関連により同じ表に削除接続される表を引き起こし、それらの関連は同じ削除規則 (NO ACTION、RESTRICT または CASCADE) である必要があります。

&V1 は、CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 文節で指定された制約名です。

ユーザーの処置: 削除規則を変更し、ステートメントを再度実行してください。

DSQ19104

メッセージ: DSQ18104 を参照してください。

DSQ19440

メッセージ: DSQ16440 を参照してください。

DSQ19441

メッセージ: DISTINCT または ALL を &V1. とともに使用することは無効です。

説明: キーワード DISTINCT または ALL が、関数 &V1. への参照の括弧内で検出されました。この関数はスカラー関数として認識されました。

ユーザーの処置: スカラー関数を使用されている場合、キーワード DISTINCT または ALL を除去してください。これはスカラー関数には無効です。

列関数を使用されている場合、関数解決に問題があります。特殊レジスター CURRENT FUNCTION PATH の値を検査してください。また関数名のスペル、および照会とシステム・カタログの両方にあるパラメーターの数とタイプも検査してください。

DSQ19557

メッセージ: DSQ18557 を参照してください。

DSQ19632

メッセージ: DSQ18632 を参照してください。

DSQ19633

メッセージ: DSQ18633 を参照してください。

第 5 章 メッセージ DSQ20005・DSQ23723

DSQ20005

メッセージ: システム・エラーが発生しました。コマンドは実行されませんでした。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。

Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「&apdgp」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ20006

メッセージ: 記憶スペースがありません。

説明: 仮想記憶域または QMF 内部バッファーにスペースがないので、コマンドを実行できません。

ユーザーの処置: RESET DATA コマンドを使用してください。これにより、追加の記憶スペースを使用できます。現在 DATA を使用していない場合、セッションでさらに記憶スペースが必要である可能性があります。エラーが繰り返される場合は、QMF 管理者に連絡してください。QBE 照会を実行中の場合は、メッセージを受け取らなくなるまで、照会操作行を減らしてください。

DSQ20010

メッセージ: FP 機能でのシステム問題です。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。

Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できません。

DSQ20011 - DSQ20014

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20015 - DSQ20017

メッセージ: DSQ20010 を参照してください。

DSQ20019, DSQ20020

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20021, DSQ20022

メッセージ: 記憶域の解放が失敗しました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。

Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できません。

DSQ20023

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20024

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ20025

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20037

メッセージ: カーソルが &V1. の位置にありません。

説明: SPECIFY を使用する場合には、カーソルが表示されている列の画面移動可能域にあるか、列情報の行が表示されていなければなりません。

ユーザーの処置: カーソルを指定したい列に移動し、(使用できる場合は) 指定キーを押すか、コマンド行で SPECIFY と入力し、カーソルを適当な列に移動し、ENTER キーを押してください。

DSQ20038 - DSQ20039

メッセージ: &V1 コマンドは現在実行できません。

説明: このパネルでは無効なコマンドを実行しようとした。または、この操作環境 (例: CICS) では有効でないコマンドを実行しようとした。

ユーザーの処置: 他のコマンドを選択してください。

DSQ20040

メッセージ: SPECIFY コマンドに指定された名前は無効です。

説明: SPECIFY コマンドの形式は、「SPECIFY 名前」です。ここで、「名前」には指示照会の機能、または FORM.COLUMNS オブジェクトを指

定します。&V2. は無効です。

指示照会では、有効な REL 指示照会の機能は、TABLES、COLUMNS、ROWS、SORT、DUPLICATES です。有効な ER 指示照会の機能は VIEW です。

FORM.COLUMNS パネルでは、有効なオブジェクトは ALIGNMENT と DEFINITION です。

ユーザーの処置: 表示されている有効な名前を指定するか、または REL 指示照会か FORM.COLUMNS であれば名前を指定しないで、SPECIFY コマンドを再入力してください。

DSQ20041

メッセージ: SPECIFY コマンドに指定できる名前は 1 つだけです。

説明: SPECIFY コマンドの形式は、「SPECIFY 名前」です。ここで、「名前」には指示照会の機能、または FORM.COLUMNS オブジェクトを指定します。

指示照会では、有効な REL 指示照会の機能は、TABLES、COLUMNS、ROWS、SORT、DUPLICATES です。

FORM.COLUMNS パネルでは、有効なオブジェクトは ALIGNMENT と DEFINITION です。

名前を指定しなくてもかまいません。指定しないと、「指定」ダイアログ・パネルが表示されます。

ユーザーの処置: 名前を 1 つ指定するかまたは名前を指定しないで SPECIFY コマンドを再入力してください。

DSQ20042

メッセージ: オプションを &V1. とともに用いることはできません。

説明: コマンド「&V1 (something)」が入力されました。QMF は、&V1. の括弧のあとのオプションを処理することはできません。コマンドは実行されませんでした。

ユーザーの処置: 左括弧およびそれ以降のすべてを取り除いてください。

DSQ20043

メッセージ: ER 指示照会では SPECIFY の後には VIEW と指定しなければなりません。

説明: SPECIFY コマンドの形式は、SPECIFY 名前です。この「名前」は指示照会機能です。有効な ER 指示照会機能は VIEW だけで、必須です。

ユーザーの処置: SPECIFY VIEW コマンドを、再度入力してください。

DSQ20046

メッセージ: &V1. のあとにはなにも付けないでください。

説明: 次のコマンドのあとには名前やオプションの指定はできません。

BOTTOM	ENLARGE	REDUCE	CHECK
DELETE	INSERT	TOP	STATE
CHANGE	PREVIOUS	NEXT	

表編集プログラム、またはグローバル変数リストで FORWARD または BACKWARD コマンドの後に、名前やオプションは使用できません。

PF キーを押して、コマンドを与える場合には、そのさいにコマンド行になにもないことを確認してください。

ユーザーの処置: &V1 のあとにあるものをすべて除去した上で、コマンドを再入力してください。

DSQ20047

メッセージ: DSQ20042 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ20048

メッセージ: DSQ20038 を参照してください。

DSQ20049

メッセージ: &V1 コマンドをリスト表示中に入力することはできません。

説明: このコマンドは、リストの表示中にリスト・パネルの入力域または QMF コマンド・パネルから使用することはできません。

ユーザーの処置: 機能キーを使用して、このコマンドを実行してください。

DSQ20051

メッセージ: OK、コマンドは取り消されました。

DSQ20058, DSQ20059

メッセージ: コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: &V1 コマンドのプロンプト・パネルのメッセージは、エラー・メッセージではありません。&V1 コマンドを完了し実行するため、プロンプト・パネルの指示にしたがうように通知しています。

ユーザーの処置: パネルのフィールド (単数または複数) に入力し、ENTER キーを押してコマンドを実行してください。必須フィールドがすでに指定されている場合は、ENTER キーを押してください。

DSQ20060

メッセージ: OK、&1 コマンドは正常に実行されました。

DSQ20061

メッセージ: OK、&1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ20062

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20063

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ20064

メッセージ: &V2 は LIST コマンドのオブジェクト・タイプには無効です。

説明: 新しいデータベース・オブジェクト・リストを組み立てるためには、LIST コマンドで次のオブジェクト・タイプのうちの 1 つを指定する必要があります。

QUERIES - 照会のリスト
PROCS - プロシージャのリスト
FORMS - 書式のリスト
QMF - 照会、プロシージャ、および書式のリスト
TABLES - 表のリスト
ALL - 照会、プロシージャ、および書式のリスト

ユーザーの処置: 有効なオブジェクト・タイプを指定して、LIST コマンドを入力し直してください。

DSQ20065

メッセージ: LIST に指定された名前が多すぎます。

説明: LIST コマンドの形式は次のとおりです。

LIST "type" (options

ただし、「タイプ」には ALL、FORMS、QUERIES、PROCS、QMF または TABLES を指定することができ、そのあとに、キーワード・オプション NAME または OWNER あるいはその両方が続きます。

ユーザーの処置: LIST コマンドを変更して、入力し直してください。

DSQ20066

メッセージ: LIST コマンドの OWNER の値が脱落しています。

説明: LIST コマンドの OWNER キーワードを指定する場合、このキーワードには値を与えなくてはなりません。値は 8 文字まで使用でき、ブランクで始めてはなりません。

ユーザーの処置: OWNER の値を指定して、LIST コマンドを入力し直してください。

DSQ20067

メッセージ: LIST コマンドの OWNER の値が無効です。

説明: LIST コマンドの OWNER キーワードを指定する場合、このキーワードには値を与えなくてはなりません。値は 8 文字まで使用でき、ブランクで始めてはなりません。

ユーザーの処置: OWNER キーワードの値を訂正し、LIST コマンドを入力し直してください。

DSQ20068

メッセージ: LIST コマンドの NAME の値が脱落しています。

説明: LIST コマンドの NAME キーワードを指定している場合は、値を指定する必要があります。現在ご使用の、&LS. へのデータベース接続は、以下の長さをサポートします。

- QMF オブジェクト名には、最大 &LN. 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト名には最大 <. 文字まで指定できますが、ブランクで開始することはできません。

ユーザーの処置: NAME の値を指定して、LIST コマンドを入力し直してください。

DSQ20069

メッセージ: LIST コマンドの NAME の値が無効です。

説明: LIST コマンドの NAME キーワードを指定している場合は、値を指定する必要があります。現在ご使用の、&LS. へのデータベース接続は、以下の長さをサポートします。

- QMF オブジェクト名には、最大 &LN. 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト名には最大 <. 文字まで指定できますが、ブランクで開始することはできません。

ユーザーの処置: NAME キーワードの値を訂正し、LIST コマンドを入力し直してください。

DSQ20070

メッセージ: &V2 は LIST コマンドでは無効です。

説明: オプション &V2 は LIST コマンドでは使用できません。下記のオプションだけを使用してください。

OWNER
NAME

ユーザーの処置: オプションを変更または除去して、コマンドを入力し直してください。

DSQ20071

メッセージ: LIST コマンドのオプションにオブジェクト・タイプを指定しなければなりません。

説明: LIST にオプションまたはオブジェクト・タイプを指定しないと、現在のデータベース・オブジェクト・リストが表示されます。オプションが指定されている LIST には、新しいオブジェクト・リストを作成するために以下のオブジェクト・タイプのどれかを指定する必要があります。

QUERIES - 照会のリスト
PROCS - プロシーチャーのリスト
FORMS - 書式のリスト

QMF - 照会、プロシーチャー、および書式のリスト
TABLES - 表のリスト
ALL - 照会、プロシーチャー、および書式のリスト

ユーザーの処置: 現在のオブジェクト・リストを表示するために LIST のオプションを削除するか、または新しいリストを作成するためにオブジェクト・タイプを指定して、LIST コマンドを再入力してください。

DSQ20072

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20073

メッセージ: DSQ20058 **DSQ20058** を参照してください。

DSQ20074

メッセージ: このデータベースは 3 部分名をサポートしていません。

説明: 指定された名前にはロケーション修飾子 "&V1" があります。使用中のデータベースはロケーション修飾子をサポートしていません。

ユーザーの処置: ロケーション修飾子 "&V1" を除去してコマンドを再試行してください。QMF 管理者に連絡して、正しいデータベースを使用していることを確認してください。

DSQ20075

メッセージ: 現行リストが存在しません。

説明: 名前付きオブジェクト・タイプを付けて LIST コマンドを最初に使用してください。たとえば、次のようになります。

LIST QUERIES

ユーザーの処置: オブジェクト・タイプとオプションを付けて LIST コマンドを入力するか、または LIST ? と入力して、指示を受けてください。

DSQ20076

メッセージ: LIST コマンドに合致するオブジェクトが見つかりません。

説明: LIST コマンドで指定したタイプまたはオプションは、データベース内のどちらの既存オブジェクトとも一致しませんでした。

ユーザーの処置: リストのタイプまたはオプション、あるいはその両方を変更して、コマンドを入力し直してください。

DSQ20077

メッセージ: DSQ20051 を参照してください。

DSQ20079

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20080

メッセージ: LIST コマンドの LOCATION 値が欠落しています。

説明: LIST コマンドの LOCATION キーワードを指定する場合は、キーワードに値を指定しなければなりません。値は 16 文字までで、空白で始めてはなりません。

ユーザーの処置: LOCATION に値を指定してから LIST コマンドをもう一度出してください。

DSQ20081

メッセージ: LIST コマンドの LOCATION 値が無効です。

説明: LIST コマンドの LOCATION キーワードを指定する場合は、キーワードに値を指定しなければなりません。値は 16 文字までで、空白で始めてはなりません。

ユーザーの処置: LOCATION キーワードの値を訂正してから LIST コマンドをもう一度出してください。

DSQ20082

メッセージ: 機能コードの指定がないか、または誤っています。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ20083, DSQ20084

メッセージ: ダイアログ・パネルを表示しているとき、LIST の後になにも指定しないでください。

説明: ダイアログ・パネルが表示されているときには、LIST コマンドの後には名前もオプションも指定できません。ダイアログの文脈にしたがって LIST はダイアログ・パネルに該当する項目リストを表示します。

ユーザーの処置: LIST の後をすべて削除し、コマンドをふたたび入力してください。

DSQ20085

メッセージ: DSQ20060 を参照してください。

DSQ20086

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ20092

メッセージ: OK、データベース・オブジェクト・リストが表示されました。

DSQ20093

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20094

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ20095

メッセージ: DSQ20061 を参照してください。

DSQ20114 - DSQ20117

メッセージ: &V1 はコマンドではありません。

説明: 指定したコマンド &V1 は、QMF コマンドまたはインストール先システムで定義されたコマンドでなくてはなりません。次のいずれかの場合が考えられます。

1. コマンドのスペルが誤っているか、省略形が短すぎる。
2. CASE オプションが MIXED であるのに小文字で指定した。
3. 'QMF' コマンドに続いてインストール先コマンドを指定した。
4. インストール先コマンドを定義する表が不完全である。
5. コマンドが 『/*』 の場合、開始コメントの前に 1 つ以上の空白行がある。ロジック付きのプロシーチャーの開始コメントは、プロシーチャーの先頭行になければなりません。そうでなければ、プロシーチャーは線形プロシーチャーとして認識され、『/*』 は、コマンドと認識されます。

ユーザーの処置: 正しいコマンドを見つけて使用してください。次のことを行う必要があります。

1. QMF ホーム・パネルからのヘルプを使って QMF コマンドを調べる。
2. 大文字を使うか、または PROFILE の CASE オプションを UPPER または STRING に変更する。
3. 'QMF' のあとでは (インストール先定義でない) QMF コマンドだけを使用する。
4. インストール先コマンドを含む表を完成させるように、QMF 管理者に依頼する。

DSQ20118 - DSQ20121

メッセージ: &V1 はコマンドではありません。

説明: 指定したコマンド &V1 は、QMF コマンドまたはインストール先システムで定義されたコマンドでなくてはなりません。次のいずれかの場合が考えられます。

1. コマンドのスペルが誤っているか、省略形が短すぎる。
2. CASE オプションが MIXED であるのに小文字で指定した。
3. 'QMF' コマンドに続いてインストール先コマンドを指定した。
4. インストール先コマンドを定義する表が不完全である。

ユーザーの処置: 正しいコマンドを見つけて使用してください。次のことを行う必要があります。

1. QMF ホーム・パネルからのヘルプを使って QMF コマンドを調べる。
2. 大文字を使うか、または PROFILE の CASE オプションを UPPER または STRING に変更する。
3. 'QMF' のあとでは (インストール先定義でない) QMF コマンドだけを使用する。
4. インストール先コマンドを含む表を完成させるように、QMF 管理者に依頼する。

DSQ20122

メッセージ: QMF コマンドを QMF のあとに続けなければなりません。

説明: QMF コマンドを QMF のあとに続けなければなりません。たとえば、次のようになります。

```
QMF DISPLAY Q.STAFF
```

QMF コマンドを反復すると無効になります。たとえば、次のコマンドは無効です。

```
QMF DISPLAY Q.STAFF
```

ユーザーの処置: QMF のあとで有効な QMF コマンドを指定してください。

DSQ20124

メッセージ: インストール先で定義したコマンドを QMF に続けることはできません。

説明: QMF のあとに、インストール先で定義したコマンドが続けられました。QMF のあとに続けられるのは、QMF コマンドだけです。たとえば、次のようになります。

```
QMF DISPLAY Q.STAFF
```

ユーザーの処置: このコマンドから QMF を除去するか、QMF のあとに QMF コマンドを指定するかにしてください。

DSQ20125

メッセージ: &V1 のあとにオブジェクト名を続けなくてはなりません。

説明: &V1 は、インストール先で定義した、動詞とオブジェクトの両方を含むコマンドの動詞部分です。オブジェクト名のスペルが誤っているか、またはオブジェクト名が欠けています。

ユーザーの処置: インストール先で定義した表を見て、完全なコマンド名を探してください。そのうえで、その完全な名前をコマンド域に入れてください。リスト・パネルからこのコマンドを入れた場合には、コマンドの形式が正しかったかどうか確認してください。このパネルから QMF コマンドを入れる場合の詳細は、リスト・パネルから呼び出されるヘルプを参照してください。

DSQ20126

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ20127

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ20128, DSQ20129

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20130, DSQ20131

メッセージ: インストール先で定義したコマンドが長過ぎます。

説明: &ALL 変数を含む定義が使われています。この変数は、コマンド行から入力された情報によって置き換えられます。&ALL が単一引用符に囲まれている場合、コマンド行の置き換え情報の中に含まれる引用符は 2 つの引用符になります。その結果、コマンド定義が上限の 510 文字を超過することになります。

ユーザーの処置: 置き換え情報を短くするか、またはコマンド定義を短くする必要があります。QMF 管理者、またはそれと同等の知識を持つ人に援助を求めてください。

DSQ20132

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20133

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ20139

メッセージ: DSQ20049 を参照してください。

DSQ20140

メッセージ: OK、&1 &2 は正常に実行されました。

DSQ20142

メッセージ: SWITCH の後の名前が多すぎます。

説明: SWITCH コマンドの使用可能な形式は、SWITCH COMMENTS です。機能キーで

SWITCH コマンドを出す場合は、キーを押す時にコマンド行に何も入力されていないことを確認してください。

ユーザーの処置: SWITCH コマンドを上記形式に変更して、もう一度実行してください。

DSQ20143

メッセージ: &V2 は &V1. と一緒に使用できません。

説明: &V2 は &V1 コマンドと一緒に使用することは許されません。

ユーザーの処置: &V1 コマンドには、COMMENTS だけが使用できます。

DSQ20144

メッセージ: DSQ20042 を参照してください。

DSQ20145

メッセージ: &V1 の後には、COMMENTS を使用してください。

説明: COMMENTS は &V1 コマンドに続けなければなりません。使用可能な形式は SWITCH COMMENTS です。

ユーザーの処置: &V1 コマンドの後に COMMENTS を使用してください。

DSQ20146

メッセージ: SWITCH コマンドの使い方が正しくありません。

説明: このパネルでは無効なコマンドを出しました。HELP コマンドと関連する SWITCH オプションを使用する場合は、次の形式にしてください。HELP SWITCH

ユーザーの処置: SWITCH オプションを使って HELP コマンドを使用する場合は、コマンドを HELP SWITCH に変更するか、または他のコマンドを選択してください。

DSQ20147

メッセージ: OK、SORT パネルが表示されました。項目を選択して ENTER キーを押してください。

DSQ20148

メッセージ: DSQ20046 を参照してください。

DSQ20149

メッセージ: DSQ20042 を参照してください。

DSQ20150

メッセージ: DSQ20038 を参照してください。

DSQ20151 - DSQ20171

メッセージ: FP 機能のシステム問題です。FPCODE = &V1。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できません。

DSQ20184

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20185

メッセージ: DSQ20005 を参照してください。

DSQ20186

メッセージ: 最後のコマンド &1 からメッセージは生成されませんでした。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ20200 - DSQ20213

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ20215

メッセージ: DM 機能コマンド・バッファが小さすぎます。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 `Q.ERROR_LOG` および `QMF` トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。

`Q.ERROR_LOG` および `QMF` トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。`QMF` は継続して使用できません。

DSQ20216, DSQ20217

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20218

メッセージ: DSQ20215 を参照してください。

DSQ20219

メッセージ: ハードウェアから無効な `PFK` コードが戻されました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。

216 QMF: QMF メッセージおよびコード

システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ20220

メッセージ: DSQ20215 を参照してください。

DSQ20222, DSQ20223

メッセージ: 記憶域の解放が失敗しました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ20224, DSQ20225

メッセージ: `F&V1` はこのパネルでは使用できません。

説明: `F&V1` を押しましたが、現在のパネルではそれに対応する処置がありません。

ユーザーの処置: 現在のパネル上でラベルが付けられている機能キーだけを使用してください。

DSQ20226

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20227

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ20228

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20229

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ20230

メッセージ: 必要な記憶域を割り当てることができませんでした。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ20240

メッセージ: OK、直前のコマンド (前 &1) は検索されました。

DSQ20241

メッセージ: 検索可能なコマンドが入力されていません。

説明: RETRIEVEコマンドは、コマンド行にすでに入力されたテキストを呼び出して、置き換えます。現在のセッション中には、コマンド行になにも入力されていません。コマンド行からコマンドを入力していた場合、新しい *QMF* セッションが呼び出されて、コマンドの検索ができなくなっている可能性があります。

ユーザーの処置: コマンド行を使ってコマンドを実行するまでは、RETRIEVE コマンドを使用しないでください。

DSQ20243 - DSQ20244

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ20247

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20250 - DSQ20253

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ20255

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20270 - DSQ20273

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ20276 - DSQ20279

メッセージ: 画面移動フィールドでは &V1 を用いることはできません。

説明: 画面移動フィールドは、コマンド行に移動量が入力されていない場合に画面移動量を制御します。このフィールドには、次の項目の 1 つを入れることができます。

1. 1 から 9999 の数。
2. PAGE - 1 パネル単位で画面移動したい場合
3. HALF - 半パネル単位で画面移動したい場合
4. MAX - 境界に達するまで画面移動したい場合
5. CSR - カーソルが境界に達するまで画面移動したい場合

例: 移動 ===> HALF

ユーザーの処置: 画面移動フィールドの内容を変更し、処理を続けてください。

DSQ20280

メッセージ: 画面移動値が必要です。

説明: SCROLL ===> に続く有効な入力、以下のとおりです。

1. 1 から 9999 の数。これは移動の行数を制御します。
2. PAGE - 一度に 1 ページずつ画面移動したい場合。
3. HALF - 一度に半ページずつ画面移動したい場合。
4. MAX - 選択した方向の最終位置に達するまで画面移動したい場合。
5. CSR - カーソルの位置が画面の境界に達するまで画面移動したい場合。

ユーザーの処置: 画面移動値を入力した上で、コマンドを再実行してください。

DSQ20281

メッセージ: DSQ20276 を参照してください。

DSQ20282 - DSQ20292

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20303

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ20306

メッセージ: このコマンドの後には、有効なオブジェクト名が必要です。

説明: &V1 &V2 コマンドは、データベース内の既存の &V2 オブジェクトとともに使用されません。したがって、コマンドに &V2 名を指定しなければなりません。

ユーザーの処置: オブジェクト名を組み込み、コマンドを再試行してください。

DSQ20307, DSQ20308

メッセージ: このオブジェクト・タイプには &V3 を続けられません。

説明: オブジェクト &V2 は、データベースではなく、一時記憶域にあります。このオブジェクトには名前が付けられていません。

ユーザーの処置: &V3 を削除し、コマンドを再試行してください。

DSQ20309

メッセージ: &V2 は無効なオブジェクト・タイプです。

説明: DISPLAY コマンドに使用できる形式は次のとおりです。

1. DISPLAY オブジェクト・タイプ

Objecttype can be QUERY, PROC, FORM, PROFILE, CHART, REPORT or the name of a specific form panel.

2. DISPLAY オブジェクト名

Objectname is the name of an object in the database.

3. DISPLAY オブジェクト・タイプ オブジェクト名

Objecttype can be QUERY, PROC, FORM, or TABLE.

Objectname is the name of an object in the database.

ユーザーの処置: "&V2" を有効なオブジェクト・タイプに変更し、コマンドを再試行してください。リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。パネルに QMF コマンドをどのように入力するかを見るためには、リスト・パネルを表示している間に、ヘルプ・キーを押してください。

DSQ20310

メッセージ: DSQ20058 を参照してください。

DSQ20311

メッセージ: 名前 &V2 のタイプのオブジェクトがありません。

説明: タイプ "&V1" のデータベースのオブジェクトに、名前 "&V2" のオブジェクトがありません。オブジェクトは存在しますが、別のタイプのオブジェクトです。

ユーザーの処置: オブジェクト・タイプまたはオブジェクト名を変更するか、またはオブジェクト・タイプをブランクにしてください。コマンド LIST ALL を使用し、アクセスできるすべてのオブジェクトのリストを表示してください。

DSQ20312

メッセージ: DSQ20058 を参照してください。

DSQ20313

メッセージ: &C1 &C2 には有効な名前が必要です。

説明: 表または視点の有効な名前は、修飾できません (LOC.OWNER.NAME または OWNER.NAME)。 QMF オブジェクトの有効な名

前は、修飾できます (OWNER.NAME)。表、視点、または QMF オブジェクトの名前は、非修飾 (NAME) にすることもできます。非修飾名は現在の場所を前提とし、許可 ID が使用されています。現在ご使用の、&LS. へのデータベース接続は、以下の長さをサポートします。

- QMF オブジェクト許可 ID には、最大 &LQ. 文字まで指定できます。
- QMF オブジェクト名には、最大 &LN. 文字まで指定できます。
- データベース・ロケーション名には、最大 16 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト許可 ID には、最大 &LA. 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト名には、最大 <. 文字まで指定できます。

修飾子は二重引用符で囲んでも囲まなくてもかまいません。引用符を付けない名前には、英字、数字、およびそれ以外の文字で「&&ugrr...」で定義されている文字を使用できます。引用符を付けた名前には、二重引用符以外の任意の文字を使用できます。QMF オブジェクト・タイプの名前は、引用符を付けてもオブジェクト名として使用することはできません。

ユーザーの処置: &C3 を有効な名前に置換し、コマンドを再実行してください。コマンドをリスト・パネルから入力する場合は、リスト・パネルのヘルプでコマンド形式が正しいことを確認してください。

DSQ20314

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20315

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ20316

メッセージ: &V1 コマンドは現在使用できません。

説明: 「報告書ミニ・セッション」で報告書を表示しています。ミニ・セッション中では使用できないコマンドが出されました。報告書ミニ・セッション中は、次の処理だけが実行できます。

- ヘルプ画面の表示
- 報告書の画面移動または印刷
- 図表の表示または印刷
- SAVE コマンドによるデータの保管
- SET コマンドによるプロファイル・オプションまたはグローバル変数の設定
- QMF、ISPF、TSO、CMS または CICS コマンドの実行
- ? による以前のコマンド検索
- END コマンドによるミニ・セッションの終了

報告書ミニ・セッション中にアプリケーション (QMF プロシージャまたはユーザーが書いたプログラム、EXEC など) が実行できることは、以下の通りです。

- グローバル変数の獲得
- INTERACT コマンドの実行
- MESSAGE コマンドの実行

ユーザーの処置: 他のコマンドを選択するか、または END を出してください。

DSQ20317

メッセージ: &V2 が見つかりません。

説明: コマンドに「&V2」が指定されていますが、データベースにその名前を持つものはありません。別名を使用している場合は、その別名が参照する表がありません。

ユーザーの処置: スペルの誤りがないかどうかを検査してください。別名を使用している場合は、関連する表があるか調べてください。LIST コマンドを使用すれば、オブジェクトのリストが見られます。「LIST ?」コマンドは、LIST オプションを指示します。

DSQ20320

メッセージ: ICUFORM のあとに値が必要です。

説明: ICUFORMの値が抜けています。この値は、GDDM の ICU 図形書式の名前である BAR、LINE、PIE、SURFACE、HISTOGRAM、SCATTER、POLAR、TOWER または TABLE のいずれかの図形タイプ、または ICU のデフォルトの図形が使われるようにするための ICUCHART でなければなりません。

図形書式は、データをどのように図形化するのかを記述するものであって、ICU で作業していたときにあらかじめ保管されていなければなりません。図形書式名の長さは、8 文字を超えてはなりません。

ICUFORM オプションを指定しないと、デフォルトの名前 DSQCFORM が使われます。

ユーザーの処置: 有効な ICUFORM 値を入れてください。それでも問題が解決しなければ、操作担当者またはシステム・プログラマーに連絡を取ってさらに援助を得てください。

DSQ20321 - DSQ20323

メッセージ: &V2 は有効な ICUFORM 値ではありません。

説明: この ICUFORM 値は無効でした。この値は、GDDM の ICU 図形書式の名前である BAR、LINE、PIE、SURFACE、HISTOGRAM、SCATTER、POLAR、TOWER、または TABLE のいずれかの図形タイプ、または ICU のデフォルトの図形が使われるようにするための ICUCHART でなければなりません。

図形書式は、データをどのように図形化するのかを記述するものであって、ICU で作業していたときにあらかじめ保管されていなければなりません。図形書式名の長さは、8 文字を超えてはなりません。

ICUFORM オプションを指定しないと、デフォルトの名前 DSQCFORM が使われます。

ユーザーの処置: 有効な ICUFORM 値を入れてください。それでも問題が解決しなければ、操作担当者またはシステム・プログラマーに連絡を取ってさらに援助を得てください。

DSQ20326

メッセージ: &V2 は DISPLAY CHART にしか使用できません。

説明: オプション &V2 は DISPLAY CHART コマンド以外では使用できません。

ユーザーの処置: &V2 およびそのあとの値を取り除いて、コマンドを入力し直してください。

DSQ20328 - DSQ20330

メッセージ: DSQ20058 を参照してください。

DSQ20335 - DSQ20336

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20337

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ20338

メッセージ: &V1 コマンドには、処置を行う名前が必要です。

説明: コマンドが不完全です。&V1 は、名前が指定されたものに対して処置を行いません。

ユーザーの処置: コマンドにその処置を行う名前を追加した上で、コマンドを再実行してください。リスト・パネルからこのコマンドを入れた場合には、コマンドの形式が正しかったかどうか確認してください。このパネルから QMF コマンドを入れる場合の詳細は、リスト・パネルから呼び出されるヘルプを参照してください。

DSQ20339

メッセージ: &V1 を &V2 とともに用いることはできません。

説明: 「&V1..名前」という名前は修飾名です。ユーザーID &V1 は、名前 &V2. を修飾しようとしていますが、次の名前を修飾することはできません。

QUERY	DATA
FORM	REPORT
PROC	CHART
TABLE	PROFILE

ユーザーの処置: 正しい名前または修飾された名前に修飾名を変更し、コマンドを再入力してください。リスト・パネルからこのコマンドを入れた場合には、コマンドの形式が正しかったかどうか確認してください。パネルから QMF コマンドを入力する場合の詳細は、リスト・パネルのヘルプを参照してください。

DSQ20340

メッセージ: DSQ20309 を参照してください。

DSQ20341

メッセージ: &V3 はオブジェクト名の後には指定できません。

説明: 次のように入力しました。 DISPLAY &V1 &V2 &V3

DISPLAY コマンドの形式は次のとおりです。

DISPLAY objecttype objectname (options

ユーザーの処置: &V3 がオプションでない場合は、それを除去してコマンドを再試行してください。そうでない場合は、"&V2" と "&V3" の間に左括弧を加え、コマンドを再試行してください。リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。パネルに QMF コマンドをどのように入力するかを見るためには、リスト・パネルを表示している間に、ヘルプ・キーを押してください。

DSQ20342

メッセージ: &V2 は DISPLAY では使用できません。

説明: オプション &V2 は DISPLAY コマンドでは使用できません。DISPLAY CHART のための有効なオプションは ICUFORM オプションだけです。

ユーザーの処置: &V2 およびそのあとの値を取り除いて、コマンドを入力し直してください。

DSQ20343 - DSQ20347

メッセージ: &V1. で使用するための現行の &V2 がありません。

説明: 現行の &V2 オブジェクトがなければ &V1 を実行できません。次のどちらかの理由によって一時記憶域に入っていないと思われます。

1. システム・エラーによって削除された。
2. もともと一時記憶域に入っていなかった。たとえば、QMF にサインオンする時点で、DATA、FORM、REPORT および CHART が空だった場合がこれに該当します。
3. DATA がリセットされたために、REPORT と CHART が消失している。

ユーザーの処置: 現行の &V2 オブジェクトがあると考えられる場合には、システム・エラーが起きた可能性があります。そのオブジェクトを作成したステップを検査して、必要であればそのステップを繰り返してください。

DSQ20348

メッセージ: &V2 が見つかりません。

説明: 名前 "&V2" が &V1 コマンドで、または &V1 コマンドの処理の結果で見つかりましたが、データベース中にその名前の付いたものは見つかりません。

ユーザーの処置: スペルの誤りがないかどうかを検査してください。使用可能な書式、プロシージ

ャー、照会、または表のリストを見たい場合には、次のコマンドの中から該当のものを入力して、

LIST FORMS	LIST PROCs
LIST QUERIES	LIST TABLES

(OWNER=ALL) のオプションを指定してください。

新しいテーブルをデータベースに保管しようとした場合は、ユーザー・プロファイル内の SPACE 値が正しいか確認してください。

DSQ20350

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ20351

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20352

メッセージ: DSQ20343 を参照してください。

DSQ20354

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ20355

メッセージ: &V2..&V3. を使用する権限はありません。

説明: &V1 しようとしているオブジェクトは &V2 によって所有されており、そのオブジェクトの SHARE 値は NO に設定されています。

別のユーザーがオブジェクトを SHARE=YES オプションを指定して保管またはインポートしているか、または適切な権限がない限り、別のユーザーが所有しているオブジェクトには何の処置も実行できません。

ユーザーの処置: コマンドから &V2 を除外してください。ユーザーのユーザー ID は、データベ

ースに &V1 するものすべての名前に、自動的に付けられます。オブジェクトを別のユーザーに対して &V1 したいがその権限がない場合、適切な権限について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ20356

メッセージ: DSQ20309 を参照してください。

DSQ20357

メッセージ: &V3 という名前のパネルはオブジェクト &V2. にありません。

説明: 無効なパネル名を指定しました。有効な修飾パネル名は次のとおりです。

FORM.BREAK1	FORM.CALC
FORM.BREAK2	FORM.COLUMNS
FORM.BREAK3	FORM.DETAIL
FORM.BREAK4	FORM.FINAL
FORM.BREAK5	FORM.MAIN
FORM.BREAK6	FORM.OPTIONS
	FORM.PAGE

ユーザーの処置: &V1 コマンドに有効なパネル名を指定し、コマンドを再試行してください。

DSQ20358

メッセージ: パネル ID 'I' が DXEPCB チェーンに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ20359

メッセージ: 表示された指示照会はエラーを含んでいます。

説明: エラーはデータベースの無効な参照が原因であると考えられます。たとえば、照会の表名は使用不可能である可能性があります。

2 つまたはそれより多い表を命名している指示照

会は、表が使用可能でない場合、異なった表示をします。

ユーザーの処置: 照会が作動するようにデータベースを変更するかまたは、不良な照会を破棄してください。

自分自身の責任で照会を修正することができます。

データベースにない表示された照会で表を削除する場合、表の列参照は自動的に削除されません。

DSQ20360

メッセージ: OK、&1 はすでに表示されています。

DSQ20361

メッセージ: OK、&1 は表示されています。

DSQ20362

メッセージ: OK、これがユーザーの REPORT です。FORM を DISPLAY し、それを CHECK して警告メッセージを調べてください。

DSQ20363-DSQ20366

メッセージ: DSQ20361 を参照してください。

DSQ20367

メッセージ: DSQ20061 を参照してください。

DSQ20368

メッセージ: OK、CHART が表示されました。FORM を DISPLAY し、それを CHECK して警告メッセージを調べてください。

DSQ20369

メッセージ: OK、CHART が表示されました。

DSQ20377 - DSQ20378

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ20388

メッセージ: OK、&1 は実行されました。処理を続行してください。

DSQ20389

メッセージ: &V1 はこのパネルでは使用できません。

説明: 画面移動コマンド (FORWARD、BACKWARD、LEFT、RIGHT、TOP、BOTTOM) は、表示されていたパネルでは使用できません。このパネルに関する情報は、すべて今の画面に示されています。

プロシージャの中で画面移動が指定されている場合には、現行オブジェクト・パネルは、手順内のコマンドをプロシージャに現れるとおりの順序でコマンド行に入力していた場合に表示されるパネルと同じものです。

ユーザーの処置: 今見ていたパネルでは、画面移動コマンド (FORWARD、BACKWARD、LEFT、RIGHT、TOP、BOTTOM) を使用することはできません。別の操作を続けてください。

DSQ20390

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20391

メッセージ: &V1 は SQL 照会では無効です。

説明: 入力したコマンドは、SQL 照会パネルでは無効です。

入力したコマンドが、ENLARGE または REDUCE の場合、これらは、QBE 照会が表示されているときだけ有効です。代わりに INSERT または DELETE を使用してください。

ユーザーの処置: SQL 照会パネルで有効なコマ

ンドに変更してください。

DSQ20392

メッセージ: PROC の画面移動として指定できるのは BACKWARD または FORWARD だけです。

説明: PROC パネル内の情報は、画面に見えている情報の左または右には拡張していません。

PROC パネルの画面移動は次のキーによるのみ、可能です。

PF キー 7 (BACKWARD) または

PF キー 8 (FORWARD)

または TOP および BOTTOM のコマンドを用いて行います。

ユーザーの処置: 左または右への画面移動は、しないでください。別の操作を続けてください。

DSQ20393

メッセージ: この FORM オブジェクト・パネルでは、LEFT または RIGHT の画面移動はできません。

説明: この FORM オブジェクト・パネルの情報は、画面に見えている情報の左または右には拡張していません。

プロシージャの中で LEFT または RIGHT の移動が指定されている場合には、現行オブジェクト・パネルは、プロシージャ内のコマンドを、プロシージャに現れるとおりの順序でコマンド行に入力していた場合に表示されるパネルと同じものです。

ユーザーの処置: 左または右に画面移動をしないでください。別の操作を続けてください。

DSQ20394

メッセージ: DSQ20389 を参照してください。

DSQ20395

メッセージ: 移動する画面がなにもありません。

説明: 一時記憶域が空のときに SCROLL コマンドを出すことはできません。何も書き込まれていないか、システム・エラーにより削除されたため、一時記憶域が空であると考えられます。画面移動できるのは次の 4 つだけです: QUERY、FORM、PROC および REPORT

ユーザーの処置: 一時記憶域が空でない場合には、システム・エラーが起きたことも考えられます。記憶域に書き込んだときのステップを検査して、必要ならそのステップを繰り返してください。

DSQ20396

メッセージ: ここがパネルの境界です。

説明: &V1 による画面の変更は行われませんでした。なぜなら、コマンドを出した時点で、すでにパネルの境界に達していたからです。

ユーザーの処置: 別の操作を続けてください。

DSQ20397

メッセージ: DSQ20388 を参照してください。

DSQ20398

メッセージ: DSQ20046 を参照してください。

DSQ20399 - DSQ20404

メッセージ: &V2 を &V1. とともに使用してはなりません。

説明: 画面移動コマンド &V1 のあとに続くものはすべて、移動の量として使用されます。移動量として指定できるのは、1 から 9,999 までの数値か、または HALF、PAGE、CSR、または MAX です。&V2 は有効な移動量ではありません。

(&V2 は、PF キーを用いてコマンドを入力した場合に、コマンド行に入っていることがあります。)

ユーザーの処置: 画面移動量を変更し、処理を続けてください。

DSQ20405

メッセージ: &V1 に指定されている量が多すぎます。

説明: &V1 コマンドの形式は次のとおりです。

&V1 量

ここで「量」は、HALF、PAGE、CSR、MAX、または 1 から 9999 までの数字です。

&V1 コマンドを PF キーで入力する場合には、キーを押すときに、コマンド行にあるものが必要な項目だけであることを確認してください。

ユーザーの処置: &V1 コマンドに指定した量を訂正し、コマンドを再入力してください。

DSQ20406

メッセージ: DSQ20042 を参照してください。

DSQ20407

メッセージ: このパネル、またはウィンドウは、後方か前方にだけ画面移動できます。

説明: 指示照会パネルの情報は、画面に表示されている情報の左側または右側には拡張できません。指示照会パネルは、コマンド BACKWARD、FORWARD、TOP および BOTTOM で画面移動できます。

ユーザーの処置: 左または右への画面移動は、しないでください。別の操作を続けてください。

DSQ20410 - DSQ20412

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ20413

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20414

メッセージ: DSQDSHIF 用の無効な入力パラメーター。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ20425

メッセージ: DSQ20061 を参照してください。

DSQ20426

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20427

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ20428

メッセージ: DSQ20061 を参照してください。

DSQ20429

メッセージ: DSQ20058 を参照してください。

DSQ20430

メッセージ: OK、&2 はデータベースから消去されました。

DSQ20431

メッセージ: &V3 はオブジェクト名の後には指定できません。

説明: ERASE コマンドの形式は次のとおりです。

ERASE オブジェクト・タイプ
オブジェクト名 (オプション)

ユーザーの処置:

1. &V3 がオプションでない場合は除去して、コマンドを再実行してください。
2. &V3 の前に左括弧を挿入して、コマンドを再実行してください。

リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。パネルに QMF コマンドをどのように入力するかを見るためには、リスト・パネルを表示している間に、ヘルプ・キーを押してください。

DSQ20432

メッセージ: DSQ20339 を参照してください。

DSQ20433

メッセージ: &V2 は無効なオブジェクト・タイプです。

説明: ERASE コマンドは次の形式のいずれかです。

1. ERASE オブジェクト名
2. ERASE QUERY オブジェクト名
3. ERASE FORM オブジェクト名
4. ERASE PROC オブジェクト名
5. ERASE TABLE オブジェクト名

オブジェクト名は、データベース内のオブジェクトの名前です。

ユーザーの処置: 上記の書式の 1 つになるように ERASE コマンドを変更し、再試行してください。リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。パネルに QMF コマンドをどのように入力するかを見るためには、リスト・パネルを表示している間に、ヘルプ・キーを押してください。

DSQ20434

メッセージ: DSQ20338 を参照してください。

DSQ20435

メッセージ: DSQ20433 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ20436

メッセージ: ERASE に &V2 を使用することはできません。

説明: ERASE コマンドに &V2 オプションを使用することはできません。下記のオプションだけを使用してください。

CONFIRM

ユーザーの処置: オプションを変更または除去してから、コマンドを再入力してください。リスト・パネルからこのコマンドを入れた場合には、コマンドの形式が正しかったかどうか確認してください。このパネルから QMF コマンドを入れる場合の詳細は、リスト・パネルから呼び出されるヘルプを参照してください。

DSQ20437

メッセージ: CONFIRM のあとには YES または NO を使用してください。

説明: CONFIRM オプションは、&V1 コマンドが行う変更を中止したい場合に、そのコマンドをその完了前に一時停止させることができるようにするかどうかを指示します。

このオプションが YES の場合、変更を中止する機会がユーザーに与えられ、NO の場合には、その機会は与えられません。

CONFIRM オプションを指定しなかった場合には、プロファイルの値が使用されます。

ユーザーの処置: CONFIRM のあとに YES または NO を指定してください。

DSQ20438

メッセージ: CONFIRM は &V2. ではなく YES か NO を使用してください。

説明: CONFIRM オプションは、&V1 コマンドが行う変更を中止したい場合に、そのコマンドをその完了前に一時停止させることができるようにするかどうかを指示します。

このオプションが YES の場合、変更を中止する機会がユーザーに与えられ、NO の場合には、その機会は与えられません。

CONFIRM オプションを指定しなかった場合には、プロファイルの値が使用されます。

ユーザーの処置: CONFIRM のあとには YES または NO を使用してください。

DSQ20439

メッセージ: DSQ20061 を参照してください。

DSQ20440

メッセージ: DSQ20348 を参照してください。

DSQ20441

メッセージ: DSQ20433 を参照してください。

DSQ20442

メッセージ: DSQ20355 を参照してください。

DSQ20443, DSQ20444

メッセージ: DSQ20058 を参照してください。

DSQ20445

メッセージ: DSQ20433 を参照してください。

DSQ20446

メッセージ: DSQ20306 を参照してください。

DSQ20447

メッセージ: DSQ20311 を参照してください。

DSQ20448

メッセージ: DSQ20313 を参照してください。

DSQ20449

メッセージ: DSQ20058 を参照してください。

DSQ20450

メッセージ: &2 が見つかりません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ20451

メッセージ: DSQ20317 を参照してください。

DSQ20452

メッセージ: DSQ20061 を参照してください。

DSQ20460

メッセージ: カーソルが &V1. の位置にありません。

説明: 文字 A、B、C で示された位置の 1 つにカーソルを置いて、コマンド ENLARGE または REDUCE を入力してください。

A tablename		B		B	
---A-----	+	---A---	+	---A---	
	C		A		A
	A	COMMENTS (or CONDITIONS)			
-----A-----					
C		A			

カーソルの位置で次のようになります。
A--ENLARGE はこの区域を拡大します。
REDUCE はこの区域を縮小します。

B--ENLARGE は表に新しい列を追加し、
REDUCE はこの列を削除します。
C--ENLARGE はこの一の下に新しい行を追加し、
REDUCE はこの行を削除します。

ユーザーの処置: &V1 で処理したい区域にカーソルを移し、コマンドを再入力してください。

DSQ20461

メッセージ: カーソルが &V1. の位置にありません。

説明: 行または変数を削除するためには、スクロール可能域にカーソルを移動させなければなりません。

ユーザーの処置: 削除したい行にカーソルを移動させ、削除 PF キー (使用可能な場合)、またはコマンド行に DELETE と入力した後カーソルを該当の行に移動し ENTER キーを押してください。

DSQ20462

メッセージ: &V1 はこのパネルでは使用できません。

説明: DELETE が使用できるのは、プロシージャ、SQL 照会、QBE 照会、指示照会、または FORM.OPTIONS を除いた書式パネルだけです。

INSERT が使用できるのは、プロシージャ、SQL 照会、指示照会、または FORM.OPTIONS を除いた書式パネルだけです。

ENLARGE および REDUCE は、QBE 照会だけで使用できます。

上記のコマンドの 1 つがプロシージャの中で使用されている場合、現在のオブジェクト・パネルは、プロシージャ内のコマンドをプロシージャに指定されているとおりの順序でコマンド行に入力した場合に表示されるパネルと同じパネルです。

ユーザーの処置: 別の操作を続けてください。

DSQ20463

メッセージ: &V1 には PROC または QUERY が必要です。

説明: &V1 コマンドがその機能を果たすのは、PROC または QUERY が表示されているときだけです。システム・エラーのために、このどちらかがなくなっていると思われます。

ユーザーの処置: 当然現れる画面があるはずなのに現れない場合には、その画面を作成したステップを検査し、必要ならそのステップをもう一度繰り返してください。

DSQ20464

メッセージ: 作業域オブジェクトの無効なオブジェクト・タイプ。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ20465

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20466

メッセージ: DSQ20046 を参照してください。

DSQ20467

メッセージ: DSQ20042 を参照してください。

DSQ20468

メッセージ: DSQ20391 を参照してください。

DSQ20469

メッセージ: DSQ20462 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ20470

メッセージ: カーソルが、DELETE のための位置にありません。

説明: DELETE コマンドは、カーソルが次のどちらかの位置にあるときに出すことができます。

1. 表の中 (この表が削除されます)
2. 条件ボックスまたはコメント・ボックスの中 (このボックスが削除されます)
3. メッセージのテキストの中 (このメッセージが削除されます)

ユーザーの処置: カーソルを適切な位置に置き、DELETE コマンドを再度、実行してください。

DSQ20471 - DSQ20480

メッセージ: DSQ20462 を参照してください。

DSQ20481

メッセージ: DSQ20461 を参照してください。

DSQ20482

メッセージ: カーソルが &V1. の位置にありません。

説明: 行を挿入する場合、カーソルは表示装置のスクロール可能域に表示されていなければなりません。

ユーザーの処置: 挿入か所の直前の行にカーソルを移動し、挿入機能キー (存在する場合) を押すかまたはコマンド行に INSERT を入力し、カーソルを適当な行に移動した後に ENTER キーを押してください。

DSQ20483

メッセージ: カーソルが &V1. の位置にありません。

説明: 照会の一部を変更する場合は、カーソルを列の明細行、行条件、ソート条件、または重複行

情報に位置付けなければなりません。

ユーザーの処置: カーソルを変更したい行に移動して「変更」の機能キー (利用可能な場合) を押すかまたはコマンド行に CHANGE とタイプして、カーソルを適切な行に移動して ENTER キーを押してください。

DSQ20484

メッセージ: OK、&1 は実行されました。処理を続けてください。

DSQ20485

メッセージ: DSQ20482 を参照してください。

DSQ20503

メッセージ: DSQ20460 を参照してください。

DSQ20504, DSQ20505

メッセージ: DSQ20470 を参照してください。

DSQ20507

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20508

メッセージ: DSQ20460 を参照してください。

DSQ20509 - DSQ20548

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ20549, DSQ20550

メッセージ: OK、表が縮小されました。

DSQ20551

メッセージ: OK、条件ボックスが削除されました。

DSQ20552

メッセージ: DSQ20549 を参照してください。

DSQ20553

メッセージ: OK、例示表が削除されました。

DSQ20554

メッセージ: 10 文字以下の列を縮小することはできません。

説明: REDUCE は、10 文字単位で列を縮小します。列が 11 文字よりも短い場合には、その列を縮小することはできません。

ユーザーの処置: 列を完全に削除したい場合には、カーソルを列名の位置に移動させ、PF 5 (縮小) キーを押してください。

DSQ20555

メッセージ: この REDUCE は、最終行を除去します。

説明: 表は縮小されませんでした。なぜなら、この表には、表の最小行数である 1 行だけしか残っていないからです。

ユーザーの処置: 表全体を削除したい場合には次のようにしてください。

1. コマンド行に DELETE コマンドを指定する。
 2. 表の中の任意の場所にカーソルを置く。
 3. ENTER キーを押します。
-

DSQ20556

メッセージ: OK、条件ボックスの幅を狭くしました。

DSQ20557

メッセージ: この REDUCE は、条件ボックス幅を 24 文字未満に狭くします。

説明: 条件ボックスは縮小されませんでした。な

ぜなら、この条件ボックスの幅が、最小幅である 24 文字分しかないからです。

ユーザーの処置: 条件ボックスを現在の幅のままにしてください。余分なブランクが出て、照会を実行する上で障害にはなりません。ボックス全体を削除したい場合には次のようにします。

1. コマンド行に DELETE コマンドを指定する。
 2. CONDITIONS という語の入っている区域にカーソルを置く。
 3. ENTER キーを押します。
-

DSQ20558

メッセージ: OK、条件ボックスから 1 つの行が削除されました。

DSQ20559

メッセージ: この REDUCE は、最終行を除去します。

説明: 条件ボックスは縮小されませんでした。なぜなら、この条件ボックスには、最小行数である 1 行だけしか残っていないからです。

ユーザーの処置: ボックス全体を削除したい場合には次のようにします。

1. コマンド行に DELETE コマンドを指定する。
 2. CONDITIONS という語の入っている区域にカーソルを置く。
 3. ENTER キーを押します。
-

DSQ20560

メッセージ: OK、&1 が既存の照会メッセージに対して実行されました。

DSQ20561

メッセージ: この REDUCE は、最終行を除去します。

説明: コメント・ボックスの唯一の行を除去することはできません。DELETE コマンドを用いれ

ば、ボックス全体を除去できます。

1. コマンド行に **DELETE** と入力します。
2. 削除したいボックスのどこかにカーソルを置きます。
3. **ENTER** キーを押します。

ユーザーの処置: 上記の方法でコメント・ボックスを削除するか、または別の操作によって処理を続けてください。

DSQ20428

メッセージ: OK、コメント・ボックスから 1 つの行が削除されました。

DSQ20563

メッセージ: コメント・ボックスをこれ以上狭くすることはできません。

説明: コメント・ボックスはすでに最小限の幅になっています。 **DELETE** コマンドを用いれば、ボックス全体を除去できます。

1. コマンド行に **DELETE** と入力します。
2. 削除したいボックスのどこかにカーソルを置きます。
3. **ENTER** キーを押します。

ユーザーの処置: 別の操作を続けてください。

DSQ20464

メッセージ: OK、コメント・ボックスの幅を狭くしました。

DSQ20465

メッセージ: OK、注釈ボックスが削除されました。

DSQ20566

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ20567

メッセージ: メッセージの削除には **&V1**、ではなく **DELETE** を使用してください。

説明: **&V1** コマンドを用いて **QBE** メッセージを削除することはできません。この目的には **DELETE** コマンドを使用してください。

ユーザーの処置:

1. コマンド行に **DELETE** と入力します。
2. 削除したい行にカーソルを移してください。
3. **ENTER** キーを押します。

DSQ20580

メッセージ: DSQ20060 を参照してください。

DSQ20581 - DSQ20582

メッセージ: **CANCEL** は、ポップアップ・ウィンドウが表示されている場合だけ有効です。

説明: **CANCEL** コマンドは、**QMF** パネルにポップアップ・ウィンドウが表示されているときにそれを削除します。**CANCEL** は、ポップアップ・ウィンドウ・ダイアログが行われていないときは無効です。

ユーザーの処置: ポップアップ・ウィンドウが表示されていない場合には、**CANCEL** コマンドを出してはなりません。

DSQ20590

メッセージ: DSQ20060 を参照してください。

DSQ20591

メッセージ: OK、**&1** コマンドはまだ完了していません。

DSQ20592 - DSQ20593

メッセージ: DSQ20061 を参照してください。

DSQ20594

メッセージ: OK、データベースに新規行が加えられました。処理を続行してください。

DSQ20595

メッセージ: OK、データベース内で行が変更されました。処理を続行してください。

DSQ20596

メッセージ: OK、データベースから行が削除されました。処理を続行してください。

DSQ20603

メッセージ: DSQ20460 を参照してください。

DSQ20606, DSQ20607

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20609

メッセージ: DSQ20460 を参照してください。

DSQ20610, DSQ20611

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ20612

メッセージ: 値 '&V2.' は &V1. に対して無効です。

説明: グローバル変数 &V1. を、指定した値に設定することはできません。

このグローバル変数を設定して、スクロール・コマンドの FORWARD、BACKWARD、LEFT および RIGHT のデフォルトのスクロール量を変更できます。さらに、スクロール・コマンドの使用できる画面の右下端の移動の後に示される量も変更できます。

&V1. の有効なスクロール移動量の値は、次のとおりです。

1. 1 から 9999 の数。
2. PAGE
3. HALF
4. CSR

スクロール移動量の MAX は、&V1. には使用できません。

ユーザーの処置: 値を有効なスクロール移動量に変更してください。

DSQ20614 - DSQ20626

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ20627

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20628

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ20629

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20630

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ20631

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20632

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ20633

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20634

メッセージ: このフィールドのデータはオーバーフローしています。

説明: DBCS 文字ストリングが入力フィールドの最後に予想されていましたが、このフィールドのデータあふれを起こすようなデータが入力されました。

ユーザーの処置: 入力フィールドの最後に DBCS 文字を入力してください。

DSQ20635

メッセージ: このフィールドのデータはオーバーフローしています。

説明: DBCS 文字ストリングの一部が重ね書きされ、このフィールドのデータのオーバーフローが起きました。

ユーザーの処置: 文字ストリングの終わりからデータを削除して、データがフィールド内に収まるようにしてください。

DSQ20636

メッセージ: DSQ2002 を参照してください。

DSQ20637 - DSQ20640

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ20641

メッセージ: &V1. の値が無効です。

説明: &V1. は、以下の文字ペアのいずれかでなければなりません。1A -デフォルト値 昇順 1D -デフォルト値 降順 2A -所有者 昇順 2D -所有者 降順 3A -名前 昇順 3D -名前 降順 4A -タイプ 昇順 4D -タイプ 降順 5A -修正済み 昇順 5D -

修正済み 降順 6A -最終使用日 昇順 6D -最終使用日 降順 たとえば、3A は名前で昇順にソートすることを意味します。

ユーザーの処置: 変数を文字ペアの 1 つに変更してください。

DSQ20642

メッセージ: &V1. の値が無効です。

説明: 設定しようとしているグローバル変数を、指定した値に設定することができません。この変数は、長さが 1 のストリングにのみ設定できます。

ユーザーの処置: 可変値フィールドのテキストを、有効な値に変更してください。

DSQ20643

メッセージ: &V1. の値が無効です。

説明: 設定しようとしているグローバル変数を、指定した値に設定することができません。この変数は、シフトイン、シフトアウト文字を含む長さが 4 のストリングにのみ設定できます。

ユーザーの処置: 可変値フィールドのテキストを、有効な値に変更してください。

DSQ20644

メッセージ: &V1. の値が無効です。

説明: グローバル変数を、指定した値に設定することができません。この変数は、長さが 1 から 18 バイトのストリングにのみ設定できます。DBCS 環境では、この変数は、SBCS と DBCS 文字の混合ストリングで設定できます。シフトインとシフトアウト文字を含む混合ストリングの合計の長さは、18 バイトを超えてはなりません。

ユーザーの処置: 可変値フィールドのテキストを、有効な値に変更してください。

DSQ20645

メッセージ: DSQ20641 を参照してください。

DSQ20646

メッセージ: DSQ20642 を参照してください。

DSQ20647

メッセージ: DSQ20643 を参照してください。

DSQ20648

メッセージ: DSQ20644 を参照してください。

DSQ20649

メッセージ: DSQ20612 を参照してください。

DSQ20650

メッセージ: OK、例示表は拡大されました。

DSQ20651

メッセージ: OK、条件ボックスは拡大されました。

DSQ20652, DSQ20653

メッセージ: DSQ20650 を参照してください。

DSQ20654

メッセージ: この ENLARGE は、表を 1,022 行以上にするため実行できません。

説明: 表は拡大されませんでした。なぜなら、拡大すると、表の最大行数である 1,022 行を超えてしまうからです。

ユーザーの処置: 行数を少なくして、照会を作成し直してください。

DSQ20655

メッセージ: この ENLARGE は、列の幅を 1,020 文字以上にするため実行されませんでした。

説明: 表は拡大されませんでした。なぜなら、最大列幅である 1,020 文字を超えてしまうからです。

ユーザーの処置: 列幅がもっと狭くなるように、照会を書き直してください。もう 1 つの同名の列を追加することを検討してください。

DSQ20656

メッセージ: ENLARGE で条件ボックスを 1,020 文字より広くできません。

説明: 条件ボックスは拡大されませんでした。なぜなら、最大幅である 1020 文字に、すでに達しているからです。

ユーザーの処置: もっと短い例示エレメントを使用し、条件から不要なブランクを削除してください。AND で連結した条件は、別個の条件として別の行に書くことができます。

DSQ20657

メッセージ: この ENLARGE を行うと、条件ボックスが 1,022 行を超えます。

説明: 条件ボックスは、すでに最大行数である 1022 行に達しているため、拡張されませんでした。1 つの条件リストを収めるのに、複数の条件ボックスを使用することもできます。DRAW COND コマンドを用いれば、第 2 の条件ボックスの作成ができます。

ユーザーの処置: 照会に、さらに多くの条件を含めたい場合には、第 2 の条件ボックスを作成してください。

DSQ20658

メッセージ: この ENLARGE を行うと、コメント・ボックスの幅が 1,020 文字を越します。

説明: コメント・ボックスは、すでに最大幅である 1,020 文字に達しています。さらにスペースが必要な場合には、行の 1 つにカーソルを置いて、ENLARGE コマンドを出すことによって、コメント・ボックスに行を追加ができます。また、DRAW COMM コマンドによって新たなコメント・ボックスを作成することもできます。

ユーザーの処置: 上記どちらかの方法でスペースを増やすか、または別の操作に移ってください。

DSQ20659

メッセージ: この ENLARGE を行うと、コメント・ボックスが 1,022 行を超えます。

説明: コメント・ボックスは、すでに最大行数である 1,022 行に達しています。さらにスペースが必要な場合には、ボックス上部の "コメント" という文字のところにカーソルを置いて、ENLARGE コマンドを出すことによって、コメント・ボックスの幅を広げることができます。また、DRAW COMM コマンドによって、新たなコメント・ボックスを作成することもできます。

ユーザーの処置: 上記どちらかの方法でスペースを増やすか、または別の操作に移ってください。

DSQ20660

メッセージ: OK、&1 は実行されました。コメント・ボックスは拡張されました。

DSQ20661, DSQ20662

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ20663 - DSQ20669

メッセージ: これ以上拡大することはできません。

説明: QMF 記憶域上の制限によって、表、コメント・ボックス、または条件ボックスをこれ以上拡大することができません。

ユーザーの処置: 照会を作成し直してください。コメント・ボックスまたは条件ボックスは 2 つ以上使用しても差し支えありません。

DSQ20670

メッセージ: DSQ20460 を参照してください。

DSQ20671

メッセージ: DSQ20462 を参照してください。

DSQ20672

メッセージ: DSQ20463 を参照してください。

DSQ20673

メッセージ: 作業域オブジェクトの無効なオブジェクト・タイプ。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ20674

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20675

メッセージ: DSQ20046 を参照してください。

DSQ20676

メッセージ: DSQ20042 を参照してください。

DSQ20677

メッセージ: DSQ20391 を参照してください。

DSQ20678

メッセージ: DSQ20462 を参照してください。

DSQ20679

メッセージ: QBE 照会では INSERT は無効です。

説明: INSERT コマンドが使用できるのは、プロシージャー、SQL の場合の照会または FORM.OPTIONS を除く任意の書式パネルだけです。

ユーザーの処置: QBE 照会になにかを付け加えるには、次のどちらかの形式の DRAW コマンドを使用してください。

1. DRAW
2. DRAW 表名
3. DRAW COMM
4. DRAW COND

また、既存の表またはボックスに行を追加するには、ENLARGE を使用してください。

DSQ20680 - DSQ20682

メッセージ: DSQ20462 を参照してください。

DSQ20684

メッセージ: メッセージ &V2 の定義が無効であるか、または欠落しています。

説明: 指定した ISPF メッセージが存在していないか、またはメッセージ構文に誤りがあります。メッセージ構文はまた、エラーを含んでいる可能性がある ISPF ヘルプ・パネルも定義します。

ユーザーの処置: 既存の ISPF メッセージ名をタイプするか、ISPF メッセージ・ライブラリーでの定義を訂正するかしてください。メッセージ構文は、該当の ISPF 資料を参照してください。

DSQ20685

メッセージ: MESSAGE は &V2. ではなく、有効な ISPF メッセージ名を必要とします。

説明: MESSAGE コマンドのあとに続くどのよ

うな指定も、ISPF メッセージ名として使用されます。ISPF メッセージ名は、ISPF メッセージ・ライブラリーのメッセージを識別する 8 文字の名前でなければなりません。

ユーザーの処置: &V2 を有効な ISPF メッセージ名に置き換えて、コマンドを入力し直してください。

DSQ20686

メッセージ: ISPF メッセージ名を 2 つ以上指定することはできません。

説明: MESSAGE は、プロシージャーまたはコマンド・インターフェースからのメッセージを定義するために使用されます。MESSAGE <ISPF メッセージ名 > (オプション) と入力してください。MESSAGE の有効なオプションは次のとおりです。

```
TEXT
HELP
STOPPROC
```

ユーザーの処置: MESSAGE コマンドのための有効なオプションを使用してコマンドを入力し直してください。

DSQ20687

メッセージ: MESSAGE コマンドの TEXT オプションが不完全です。

説明: TEXT のあとに値が必要です。この値には、単一引用符で区切った任意の文字ストリングを指定できます。テキスト中の引用符を表すためには、単一引用符を 2 つ使ってください。

ユーザーの処置: TEXT のあとに正しい値を追加するか、またはこのオプションを省略してください。

DSQ20688

メッセージ: TEXT の値は単一引用符で区切らなければなりません。

説明: MESSAGE コマンドの TEXT キーワードには、単一引用符で区切られた任意の文字ストリングを指定できます。メッセージ・テキストに単一引用符を含めるには、単一引用符を 2 つ使用してください。

ユーザーの処置: テキスト・ストリングを訂正してコマンドを入力し直してください。

DSQ20689

メッセージ: MESSAGE コマンドの HELP オプションが不完全です。

説明: HELP のあとに値が必要です。この値には、ISPF パネル・ライブラリーから選んだ任意の 8 文字のヘルプ・パネル名を指定できます。

ユーザーの処置: HELP のあとに正しい値を追加するか、またはこのオプションを省略してください。

DSQ20690

メッセージ: &V2 は HELP に対しては無効です。

説明: HELP の値は、ISPF パネル・ライブラリー内のヘルプ・パネルを識別するための 8 文字の名前を指定してください。

ユーザーの処置: HELP 値を訂正してコマンドを入力し直してください。

DSQ20691

メッセージ: MESSAGE コマンドの STOPPROC オプションが不完全です。

説明: STOPPROC のあとに YES または NO の値が必要です。

ユーザーの処置: STOPPROC のあとに正しい値を追加するか、またはこのオプションを省略してください。

DSQ20692

メッセージ: &V2 は STOPPROC には無効です。YES または NO を使用してください。

説明: STOPPROC オプションは、メッセージが表示されたあとで手順の実行を停止するかどうかを判別します。STOPPROC=YES を指定した場合、メッセージが表示されたあとで、現在の手順およびより高レベルのプロシーチャーは停止されます。STOPPROC オプションを省略すると、デフォルトの値 "NO" が使われます。

ユーザーの処置: STOPPROC のあとに YES または NO を追加するか、またはこのオプションを省略してください。

DSQ20693

メッセージ: &V2 は MESSAGE コマンドに対しては無効です。

説明: オプション &V2 は MESSAGE コマンドでは使用できません。下記のオプションだけを使用してください。

TEXT
HELP
STOPPROC

ユーザーの処置: オプションを変更または除去して、コマンドを入力し直してください。

DSQ20694

メッセージ: MESSAGE コマンドが不完全です。

説明: MESSAGE は、プロシーチャーからの、またはコマンド・インターフェースを介してのメッセージを定義するために使用されます。MESSAGE < ISPF メッセージ名 > (オプションと入力してください。MESSAGE に対する有効なオプションは次のとおりです。

TEXT
HELP
STOPPROC

ISPF メッセージ名または TEXT オプションのどちらかを必ず指定しなければなりません。

ユーザーの処置: MESSAGE コマンドに少なくとも ISPF メッセージ名または TEXT メッセージを追加して、入力し直してください。

DSQ20695

メッセージ: ヘルプ・パネル &V2 がパネル・ライブラリーにありません。

説明: 指定されたヘルプ・パネルは、現行の ISPF パネル・ライブラリーのメンバーではありません。

ユーザーの処置: MESSAGE コマンドの HELP キーワードまたは出口提供のパネル名を訂正するか、パネル・ライブラリーを訂正するかしてください。

DSQ20697

メッセージ: &V1 コマンドに対して ISPF サービスが使用できませんでした。

説明: &V1 コマンドを使用したとき、&V1 コマンドが要求する ISPF サービスが使用できませんでした。ISPF サービスはアプリケーションが ISPF 下で実行されているときだけ使用できません。ISPF サービスでコマンドを使用できるようにするには、そのコマンドを使用するアプリケーションを開始するために ISPSTART コマンドを使用しなくてはなりません。

ユーザーの処置: ISPF コマンドでアプリケーションを実行してください。

DSQ20698

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20699

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ20700

メッセージ: &V1 はコマンド行でしか使用できません。

説明: &V1 コマンドは、端末から対話式で出さなければなりません。プロシージャーで使用することや、コマンド・インターフェースから入力することはできません。

ユーザーの処置: &V1 は、端末から対話式に使用してください。

DSQ20701

メッセージ: コマンド・インターフェースまたはプロシージャーから &V1 を使用してください。

説明: コマンド・インターフェースまたはプロシージャーから出さなければならない QMF コマンドがいくつかあります。これらのコマンドは、コマンド域から入力されると実行されません。

ユーザーの処置: &V1 コマンドは、コマンド・インターフェースまたはプロシージャーからのみ入力してください。

DSQ20702

メッセージ: DSQ20122 を参照してください。

DSQ20703

メッセージ: コマンド行から入力した MESSAGE コマンドは無効です。

説明: MESSAGE は、プロシージャーからの、またはコマンド・インターフェースを介してのメッセージを定義するために使用されます。

ユーザーの処置: プロシージャーから、またはコマンド・インターフェースを介してアプリケーションから、MESSAGE コマンドを入力してください。

DSQ20704

メッセージ: コマンド &V1 を対話式 QMF セッションで実行していません。

説明: &V1 コマンドを実行するためにはパネルを表示する必要があり、そのためには対話式 QMF セッションが必要です。バッチで出されたコマンド、または INTERACT を使わずに QMF コマンド・インターフェースを介して出されたコマンドによって、ユーザー対話または表示を行なってはけません。

ユーザーの処置: 対話式で、または INTERACT コマンドを使って QMF コマンド・インターフェース経由で、&V1 コマンドを再入力してください。バッチ・プロシージャーでこのコマンドを使用している場合には、パネルの表示を行うすべてのコマンドをプロシージャーから除去してください。

DSQ20705 - DSQ20711

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ20712

メッセージ: &C1 &C2 には有効な名前が必要です。

説明: QBE 照会の場合、有効な名前は修飾 (LOC.OWNER.NAME または OWNER.NAME) または非修飾 (NAME) にすることができます。修飾子は二重引用符で囲んでも囲まなくてもかまいません。ユーザー ID には二重引用符なしで最大 8 文字、ロケーションには二重引用符なしで最大 16 文字、および名前には二重引用符付きで最大 18 文字まで指定できます。修飾子は有効なロケーションかユーザー ID でなければなりません。引用符を付けない名前は、英字、数字、およびそれ以外の文字で「&&ugrr.」で定義されている文字が使用できます。引用符を付けた名前には、二重引用符以外の任意の文字を使用できます。

ロケーションが使用されない場合 QMF オブジェクト・タイプは引用符が付けられていても無効で

す。そして、書式パネル・タイプ (FORM.MAIN、FORM.OPTION、など) はユーザー ID には無効です。8 文字を超えるデータベース許可 ID、または 18 文字を超える表名の使用は、QBE 使用時にはサポートされません。

ユーザーの処置: &C3 を有効な名前に置換し、コマンドを再実行してください。コマンドをリスト・パネルから入力した場合は、リスト・パネルのヘルプを使用して、コマンドの形式が正しいことを確認してください。ご使用のデータベースが長い許可 ID または表名をサポートする場合は、QMF SQL 照会または指示照会を使用してみてください。

DSQ20713

メッセージ: この表は QBE で作成するには大きすぎます。

説明: QMF には QBE の照会文に対して記憶域限界があり、この表はその最大値を超えています。

ユーザーの処置: SQL か指示照会を試みてください。あるいは、少ない行が入っている視点を試みて、QBE 照会のサイズを小さくするように試みてください。

DSQ20714

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ20715

メッセージ: 表 &V2.&V3.&V4..&V5 が見つかりません。

説明: DRAW コマンドを SQL 照会で使用する場合には、データベースに入っている表の名前を指定しなければなりません。データベースに、&V2.&V3.&V4..&V5 という名前の表はありません。

別名を使用している場合は、その別名が参照する表がありません。

ユーザーの処置: スペルの誤りがないかどうかを検査してください。別名を使用している場合は、関連する表があるか調べてください。LIST コマンドを使用すれば、表のリストが見られます。

「LIST ?」コマンドは、LIST オプションを指示します。

DSQ20716 - DSQ20718

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ20719

メッセージ: TYPE オプションを完成してください。

説明: TYPE オプションには値を指定しなければなりません。データを返す照会を組み立てる場合には SELECT を使用してください。表に新しい行を追加する照会を組み立てたい場合には INSERT を使用してください。表の中の既存のデータを変更する照会を組み立てたい場合には、UPDATE を使用してください。TYPE オプションをコマンドからまったく除いてしまうこともできます。この場合には、SELECT を指定したものと見なされます。

ユーザーの処置: TYPE オプションのあとに SELECT、INSERT、または UPDATE を入力し、実行キーを押してください。

DSQ20720

メッセージ: TYPE の後には &V3. でなく SELECT、INSERT、または UPDATE を使用してください。

説明: データを返す照会を組み立てる場合には SELECT を使用してください。表に新しい行を追加する照会を組み立てたい場合には INSERT を使用してください。表の中の既存のデータを変更する照会を組み立てたい場合には、UPDATE を使用してください。

ユーザーの処置: TYPE の後の値を訂正し、再入力してください。

DSQ20721

メッセージ: 表 &V2.&V3.&V4.&V5 が見つかりません。

説明: DRAW コマンドを SQL 照会で使用する場合には、データベースに入っている表の名前を指定しなければなりません。データベースに、&V2.&V3.&V4.&V5 という名前の表はありません。

ユーザーの処置: 既存の表の名前を指定してください。

DSQ20722

メッセージ: DSQ20313 を参照してください。

DSQ20723

メッセージ: DSQ20339 を参照してください。

DSQ20724

メッセージ: 無効な機能コード '&1' がモジュールに渡されました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。

Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ20725 - DSQ20726

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20727

メッセージ: &V1 の有効な値は、&V2 から &V3. までです。

説明: グローバル変数 &V1 は、&V2 と &V3 の範囲の整数値にのみ設定できます。

ユーザーの処置: 指定された範囲内の整数に値を変更してください。

値に、プラス符号、小数点または先行ゼロを含まないようにしてください。

入力パネルに値を入力するときは、引用符付きストリングを使用しないでください。たとえば、'1' ではなく 1 という値を使用してください。

DSQ20728

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20729

メッセージ: 変数名をタイプしてから ENTER キーを押してください。

説明: 新しいグローバル変数を追加するには、有効な変数名を指定しなければなりません。

ユーザーの処置: 適当な入力フィールドに有効な変数名をタイプしてください。

DSQ20730

メッセージ: &V1 は有効な変数名ではありません。

説明: 設定しようとしたグローバル変数の名前は有効ではありません。

ユーザーの処置: 変数名フィールドのテキストを正しい値に変更してください。正しいグローバル変数名は次のものです。

- 文字長は 18 まで指定できます。
- 数字で開始することはできません。
- 次の文字を含めることはできません。

- . , ; : () | + - * / = & ' ` “

- 組み込みブランクを含めることはできません。
- 一般に、『DSQ』 という文字で始めることはできません。

DSQ20731

メッセージ: &V1 はすでに存在します。

説明: 追加しようとしたグローバル変数はすでに存在します。

ユーザーの処置: 変数名フィールドのテキストを、まだ使用されていない名前に変更してください。

DSQ20732 - DSQ20735

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ20736

メッセージ: DSQ20727 を参照してください。

DSQ20737

メッセージ: OK、変数 &1 が加えられました。

DSQ20738 - DSQ20739

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ20740

メッセージ: 変数値をタイプして、ENTER キーを押してください。

説明: 新しいグローバル変数を追加するには、変数値を指定しなければなりません。

ユーザーの処置: 適当な入力フィールドで有効な変数名をタイプし、ENTER キーを押してください。

DSQ20741

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ20742, DSQ20743

メッセージ: DSQ20724 を参照してください。

DSQ20744

メッセージ: DSQ20730 を参照してください。

DSQ20745

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ20746

メッセージ: OK、&1 は実行されました。処理を続けてください。

DSQ20747

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ20748, DSQ20749

メッセージ: DSQ20006 **DSQ20006** を参照してください。

DSQ20750

メッセージ: DSQ20724 を参照してください。

DSQ20751

メッセージ: カーソルが、入力域の位置にありません。

説明: 入力域キーを使用するには、カーソルが表示装置の画面移動可能域になければなりません。

ユーザーの処置: 表示したい変数の名前がある行にカーソルを移動して、入力域キーを押してください。

DSQ20752

メッセージ: &V1 は削除できません。

説明: 削除しようとしたグローバル変数は削除することができません。QMF グローバル変数 (『DSQ』 で始まる名前を持つもの) のすべてが削除できるとはかぎりません。

ユーザーの処置: グローバル変数リストから削除しようとした変数名を調べ、操作を再試行してください。

DSQ20753

メッセージ: DSQ20461 を参照してください。

DSQ20754, DSQ20755

メッセージ: OK、&1 変数パネルが表示されました。

DSQ20756

メッセージ: DSQ20581 を参照してください。

DSQ20757

メッセージ: DSQ20746 を参照してください。

DSQ20758

メッセージ: OK、変数 &1 は削除されました。

DSQ20759

メッセージ: OK、カーソルは位置づけられました。

DSQ20760, DSQ20761

メッセージ: DSQ20724 を参照してください。

DSQ20762 - DSQ20766

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20767

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ20768

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20769

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ20770

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20771

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ20772

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20773

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ20774

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20775

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ20776

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20777

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ20778

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20779

メッセージ: &V2 は QBE 照会の DRAW には指定できません。

説明: QBE 照会の DRAW では、オプションは指定できません。

ユーザーの処置: &V2 およびそのあとの値を取り除いて、コマンドを入力し直してください。

DSQ20780

メッセージ: OK、注釈ボックスが照会に加えられました。

DSQ20781

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20782

メッセージ: DSQ20058 を参照してください。

DSQ20783

メッセージ: OK、例示表が DRAW によって作成されました。

DSQ20784

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20785

メッセージ: DRAW のあとに指定されている名前が多すぎます。

説明: SQL 照会の DRAW コマンドの形式は次のとおりです。

DRAW 名前 (オプション・リスト

ここで、「名前」は、データベースの表または視点の名前です。

名前にブランクが含まれている場合には、その名前全体を二重引用符で囲まなければなりません。
例: DRAW "MY TABLE"

DRAW とともにオプションを指定する場合には、左括弧を忘れないように注意してください。
例: DRAW Q.STAFF (TYPE = SELECT

DRAW コマンドを PF キーで入力する場合には、キーを押すときに、コマンド行にあるものが、必要するものだけであることを確認してください。

ユーザーの処置: DRAW コマンドを上記の形式に訂正し、再入力してください。

DSQ20786, DSQ20787

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20789

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20790

メッセージ: DSQ20783 を参照してください。

DSQ20791

メッセージ: DRAW のあとに指定されている名前が多すぎます。

説明: QBE 照会の DRAW コマンドに許される形式は次のとおりです。

```
DRAW          DRAW TABLE    DRAW COND
DRAW COMM     DRAW 名前
```

「名前」は、データベース内の表または視点の名前、またはまだ作成されていない表または視点の名前です。名前にブランクが含まれている場合には、その名前全体を二重引用符で囲まなければなりません。例: DRAW "MY TABLE"

DRAW コマンドを PF キーで入力する場合には、キーを押すときに、コマンド行にあるものが、必要するものだけであることを確認してください。

ユーザーの処置: DRAW コマンドを上記の形式のどちらかに訂正し、再入力してください。

DSQ20792

メッセージ: DSQ20313 を参照してください。

DSQ20793

メッセージ: &V2 は表または視点ではありません。

説明: "DRAW 名前 1" というコマンドを出すことはできません。なぜなら、名前 1 (つまり &V2) が次のどちらかに該当するからです。

1. DATA、FORM、QUERY、PROC、PROFILE、または REPORT
2. 既存の書式、照会、またはプロシージャーの名前

ユーザーの処置: 既存の例示表を作成するのでない場合には、受け入れ可能な別の名前を見つけて名前 1 に指定してください。既存の表の例示表を作成する場合には、最初に、同名の照会、書式、またはプロシージャーを消去します。消去する前にそのオブジェクトを表示して、別の名前を付けて保管しておくといよいでしょう。こうしておけば、重要なオブジェクトを失わなくてすみませす。

DSQ20794

メッセージ: DRAW とともに &V2 を使用することはできません。

説明: DRAW コマンドとともに &V2 を使用することはできません。使用できるのは次のオプションだけです。

TYPE (SQL 照会にのみ有効)

ユーザーの処置: 有効なオプションを使用してく

ださい。&V2 とその後の値を除去してください。

DSQ20795

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20796, DS120797

メッセージ: DRAW コマンドは SQL および QBE 照会パネルだけで作動します。

説明: DRAW コマンドは、新しいコメント・ボックス、条件ボックス、または例示表を、QBE 照会に追加します。または、SELECT、INSERT、または UPDATE ステートメントを、SQL 照会に追加します。DRAW を使用するさいには、SQL または QBE 照会パネルが表示されていなければなりません。DRAW は指示照会上では作動しません。

プロシージャの中で DRAW を使用する場合には、現オブジェクト・パネルは、プロシージャ内のコマンドをそのプロシージャ内での順序どおりにコマンド行に入力した場合に表示されるものと同じです。

ユーザーの処置: QBE 照会を書きたい場合には、RESET QUERY (LANGUAGE=QBE というコマンドを出せば、空の QBE パネルが得られます。また、SQL 照会を書きたい場合には、RESET QUERY (LANGUAGE=SQL というコマンドを出せば、空の SQL パネルが得られます。

DSQ20798

メッセージ: データベース内の表または視点の名前を指定してください。

説明: DRAW コマンドを SQL 照会で使用する場合には、データベースに入っている表または視点の名前を指定しなければなりません。

ユーザーの処置: 現に存在している表または視点の名前を指定してください。

DSQ20799

メッセージ: OK、条件ボックスが DRAW によって作成されました。

DSQ20800, DSQ20801

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20802

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ20803 - DSQ20814

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ20815

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20825

メッセージ: ISPF エラー・コードは &2 です。ISPF インターフェース・モジュールからの理由コードは &1 です。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ20826

メッセージ: DSQ20388 を参照してください。

DSQ20827

メッセージ: DSQ20697 を参照してください。

DSQ20828

メッセージ: DSQ20825 を参照してください。

DSQ20829

メッセージ: ヘルプ・パネルの表示には、対話式 QMF セッションが必要です。

説明: バッチのプロシージャまたはアプリケーションに HELP コマンドが含まれています。対話式セッションでこのようなことが行なわれると、QMF ヘルプ・パネルが表示されますが、非対話式の QMF の実行中は、表示はできません。バッチによって入力されたコマンド、または対話によらないコマンド・インターフェースを介して入力されたコマンドによって、ユーザー対話または表示を行なってはなりません。

ユーザーの処置: ユーザー対話または表示を行うコマンドを、バッチ・プロシージャまたはアプリケーションから除去してください。

DSQ20830

メッセージ: DRAW コマンドの IDENTIFIER の値が欠落しています。

説明: 指定する場合は、DRAW コマンドの IDENTIFIER キーワードに値がある必要があります。この値は最大長が 18 文字であり、また空白で始めてはなりません。

ユーザーの処置: 値を指定するか、IDENTIFIER キーワードを除去して、DRAW コマンドを再発行してください。

DSQ20831

メッセージ: DRAW コマンドの IDENTIFIER の値 &V1 が無効です。

説明: DRAW コマンドの IDENTIFIER キーワー

ドに指定された値 &V1 が無効です。この値は最大長が 18 文字であり、また空白で始めてはなりません。

ユーザーの処置: IDENTIFIER キーワードの値を訂正して、DRAW コマンドを再発行してください。

DSQ20832

メッセージ: DSQ20061 を参照してください。

DSQ20840

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20841

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ20850, DSQ20851

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ20852

メッセージ: この名前ですでに存在していますが、オブジェクトのタイプが違います。

説明: SAVE FORM AS PDS9 というコマンドを例にとれば、データベース内の既存の項目に PDS9 という名前のものであれば、それを置き換えることができますが、ただしその既存の項目のタイプが FORM の場合にかぎります。同様に、照会は QUERY だけ、プロシージャは PROC だけ、そして表や、視点は DATA だけ置き換えることができます。

ユーザーの処置: 置き換えようとするオブジェクトと保管しようとするオブジェクトのタイプが同じになるようにコマンドを変更するか、保管するオブジェクトに用いる新しい名前を選択するか、または、&V2. を保管の前に消去してください。

DSQ20853

メッセージ: QMF 照会、プロシージャまたは書式名に位置は使用できません。

説明: QMF オブジェクトはローカル・データベースに保管されていなければいけません。照会、プロシージャ、または書式名一部として位置を指定することはできません。QMF 照会、プロシージャまたは書式名は次の形式です。

AUTHID.OBJECTNAME

ユーザーの処置: 名前から位置修飾子 "&V1" を除去してコマンドを再試行してください。

DSQ20854

メッセージ: DSQ20852 を参照してください。

DSQ20855

メッセージ: 現行の DATA オブジェクトは大き過ぎて保管できません。

説明: (現在の報告書の下にある) 現行の DATA オブジェクトは、このオブジェクトが大き過ぎて使用できるスペースに合わないため、保管することができません。現行の QMF セッションではこの状態を変更することができません。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して、障害について説明してください。次の中のいずれかによって障害を解決することができます。

- CMS および TSO では、QMF で使用可能な仮想記憶域の量を増やしてください。
- CICS では、DSQSBSTG プログラム・パラメーターでより大きい値を指定してください。
- 予備ファイルのサイズを増やしてください。

この内容の詳細については、ご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ20856

メッセージ: DSQ20343 を参照してください。

DSQ20857

メッセージ: COMMENT オプションにテキストを付け加えてください。

説明: COMMENT オプションは、単一引用符で囲んだ 1 語または 1 行のテキストを必要とします。たとえば、(COMMENT='コメント・テキスト' コメントの中で単一引用符またはアポストロフィを使用する場合には、それを二重にしてください。以下は有効なコメントの例です。

```
COMMENT='Smith's report.'  
COMMENT='March Tax'  
COMMENT='12/21/83'
```

ユーザーの処置: COMMENT= のあとにコメント・テキストを付加するか、またはコマンドから COMMENT= を除去してください。

DSQ20858

メッセージ: COMMENT の値は単一引用符で囲まなければなりません。

説明: COMMENT オプションを使用する場合には、コメントの前後に単一引用符を付けてください。コメント自体の中に単一引用符またはアポストロフィを含める場合には、それを二重にしてください。以下は有効なコメントの例です。

```
COMMENT='Smith's report.'  
COMMENT='March Tax'  
COMMENT='12/21/83'
```

ユーザーの処置: COMMENT= のあとに有効な値を指定するか、または COMMENT= をコメントから除去してください。

DSQ20859

メッセージ: DSQ20438 を参照してください。

DSQ20860

メッセージ: DSQ20437 を参照してください。

DSQ20861

メッセージ: &V2 は SAVE では使用できません。

説明: オプション &V2 は、SAVE コマンドでは許されません。下記のオプションだけを使用してください。

SHARE (DATA または PROFILE には無効)
COMMENT (PROFILE には無効)
CONFIRM (PROFILE には無効)
ACTION (DATA のみに有効)

ユーザーの処置: 有効なオプションを使用してください。&V2 とその後の値を除去してください。

DSQ20862

メッセージ: DSQ20313 を参照してください。

DSQ20863

メッセージ: AS の次に名前を指定してください。

説明: SAVE コマンドの正しい形式は次のとおりです。

SAVE 名前 1 AS 名前 2

「名前 2」は、データベース内で名前 1 に与えられる新しい名前、または置き換えたいオブジェクトの名前です。

ユーザーの処置: 上記の形式に合うように、SAVE コマンドを訂正してください。

DSQ20864

メッセージ: &V2 は、データベースに存在する名前であってはなりません。

説明: SAVE コマンドの正しい形式は次のとおりです。

SAVE 名前 1 AS 名前 2

「名前 2」は、データベース内で名前 1 に与えられる新しい名前、または置き換えたいオブジェクトの名前です。DATA、FORM、PROC、PROFILE、QUERY、REPORT、TABLE パネル名 (FORM.COLUMNS など)、または FORM によって修飾されたもの (FORM.MYNAME など) は、名前 2 として指定することはできません。

ユーザーの処置: 「名前 2」に別の名前を指定し、コマンドを再実行してください。

DSQ20865

メッセージ: DSQ20339 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ20866 - DSQ20867

メッセージ: AS が SAVE コマンドで必要です。

説明: SAVE コマンドの正しい形式は次のとおりです。

SAVE &V2 AS name2

「名前2」は、データベース内の &V2 の新規名、または置換するオブジェクトの名前です。

ユーザーの処置: 上記の形式に合うように、SAVE コマンドを訂正してください。

DSQ20868

メッセージ: &V2 は SAVE には無効なオブジェクト・タイプです。

説明: SAVE コマンドの使用できる形式は次のとおりです。

SAVE PROFILE
SAVE オブジェクト・タイプ AS オブジェクト名
オブジェクト・タイプは、QUERY、PROC、FORM、
または DATA のいずれかです。オブジェクト名は、
保管されたオブジェクトがデータベースで持っている名前です。

ユーザーの処置: &V2 を有効なオブジェクト・

タイプに変更し、コマンドを再試行してください。リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。パネルに QMF コマンドをどのように入力するかを見るためには、リスト・パネルを表示している間に、ヘルプ・キーを押してください。

DSQ20869

メッセージ: オブジェクト・タイプに無効な値が入力されました。

説明: コマンドで、オブジェクト・タイプに無効な値を入力しました。このパネルから、オブジェクト・タイプを入力しなければなりません。有効な値は、QUERY、FORM、PROC、PROFILE または DATA です。

ユーザーの処置: オブジェクト・タイプをコマンドに追加してください。

DSQ20870

メッセージ: SAVE に指定されている名前が多すぎます。

説明: SAVE コマンドに許される形式は次のとおりです。

1. SAVE PROFILE
2. SAVE 名前1 AS 名前2

「名前 1」はDATA、FORM、QUERY、またはPROC で、「名前 2」はデータベースの中でオブジェクトに与える名前です。

「名前 2」にブランクが含まれている場合には、その名前全体を二重引用符で囲まなければなりません。例: SAVE DATA AS "MY TABLE"

SAVE とともにオプションを指定する場合には、左括弧忘れないように注意してください。例: SAVE 名前 1 AS 名前 2 (CONFIRM = YES

ユーザーの処置: SAVE コマンドを上記の形式のどちらかに訂正し、再入力してください。

DSQ20871 - DSQ20873

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20874

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ20875

メッセージ: DSQ20870 を参照してください。

DSQ20876

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ20877

メッセージ: DSQ20868 を参照してください。

DSQ20878

メッセージ: DSQ20852 を参照してください。

DSQ20879

メッセージ: &V2 と DATA が一致していません。

説明: データベースの表 &V2 と DATA が下記のどれかの理由で相互に適合していません。

1. 列の数が同数でない。
2. 対応する 2 つの列のデータ・タイプが異なっている。
3. 対応する 2 つの列の、一方ではヌル値が許され、他方では許されていない。

表を現在の DATA と置き換えることはできません。

ユーザーの処置: 指定した表の名前を検査してください。DATA を保管したい場合には、別の名前を使用するか、または最初に表を消去して、

SAVE DATA AS &V2. を実行してください。

DSQ20880

メッセージ: DSQ20060 を参照してください。

DSQ20881

メッセージ: &V2 は、ユーザーのユーザー ID ではありません。

説明: この操作はたとえば、あなたのユーザー ID が TOM ではないのに、SAVE QUERY AS TOM.NEWTAB と入力したようなものです。オブジェクトは、あなた自身のユーザー ID を使用しなければ保管できません。

ただし適切な権限がある場合に限り、あなた自身のユーザー ID を使わなくてもオブジェクトを保管できます。

ユーザーの処置: コマンドから &V2 を除外してください。ユーザーのユーザー ID は、データベースに保管するものすべての名前に、自動的に付けられます。オブジェクトを別のユーザーに対して保管したいがその権限がない場合、適切な権限について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ20882

メッセージ: DSQ20316 を参照してください。

DSQ20883

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20884

メッセージ: OK、&1 は、&2 としてデータベースに保管されました。

DSQ20885

メッセージ: OK、&1 は、データベースで &2 に置き換えられました。

DSQ20886

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ20887

メッセージ: DSQ20852 を参照してください。

DSQ20888

メッセージ: DSQ20061 を参照してください。

DSQ20890

メッセージ: DSQ20339 を参照してください。

DSQ20892

メッセージ: DSQ20879 を参照してください。

DSQ20893

メッセージ: ある程度以上の長い列のあるデータを保管することはできません。

説明: DB2 では、データに最大許容長が 255 桁以上の1つまたは複数の VARCHAR 列が含まれていると、SAVE は作動しません。

DB2 サーバ (VSE および VM 版) では、DATA に 1 つ以上の LONG VARCHAR 列が含まれると、SAVE は作動しません。

ユーザーの処置: 許容長を超える列がないようにしてデータを再作成し、それを保管してください。この再作成を行うためには、SELECT リストに必要な列を明示指定した SELECT 照会を実行します。

DSQ20895

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ20896

メッセージ: DSQ20870 を参照してください。

DSQ20897

メッセージ: このオブジェクト・タイプに LANGUAGE オプションは提供されていません。

説明: LANGUAGE オプションは、オブジェクト・タイプが FORM のときにだけ提供されます。オブジェクト・タイプが &V1. のときには言語を変更することはできません。

ユーザーの処置: コマンドから LANGUAGE オプションを取り除くか、またはオブジェクト・タイプを FORM に変更してください。

DSQ20898

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ20899

メッセージ: DSQ20868 を参照してください。

DSQ20900

メッセージ: COMMENT テキストが 78 文字を超えています。

説明: COMMENT= に続くテキストは、78 文字を超えることはできません。コメントにブランク、ピリオド、または右括弧が含まれている場合には、コメント全体を単一引用符で囲ってください。コメントに単一引用符またはアポストロフィが含まれている場合には、引用符またはアポストロフィを二重にしてください。区切り文字を括弧で代替した場合は、コメント中の引用符を二重にする必要はありません。

以下は有効なコメントの例です。

```
COMMENT='Smith''s report.'  
COMMENT=(Smith's report.)  
COMMENT='March Tax'
```

```
COMMENT=(March Tax)  
COMMENT='12/21/98'  
COMMENT=(12/21/98)  
COMMENT='XYZ'
```

ユーザーの処置: コメント・テキストが 78 文字を超えないように書きなおし、コマンドを再入力してください。

DSQ20901

メッセージ: SHARE のあとには YES または NO を使用してください。

説明: SHARE オプションで、書式、照会、またはプロシージャーを、ほかのすべての QMF ユーザーと共用するかを決定します。このオプションの値は、YES (共用) または NO (非共用) のどちらかです。オブジェクトの置き換えのさいに、オプションを省略した場合には、現在の SHARE の値がそのまま使われます。また、新たなオブジェクトの作成のさいに、オプションを省略した場合には、NO を指定したものと見なされます。しかし、コマンドにこのオプションを含めた場合には、必ず YES または NO のどちらかの値を与えなければなりません。

ユーザーの処置: SHARE = のあとに YES または NO を入力するか、またはこのオプションを削除してください。

DSQ20902

メッセージ: SHARE のあとには &V2. ではなく、YES または NO を使用してください。

説明: SHARE オプションは、書式、照会、またはプロシージャーを、他のすべての QMF ユーザーと共用するかどうかを決定します。このオプションの値は、YES (共用)、または NO (非共用) のいずれかでなければなりません、使用された値は、&V2. でした。

ユーザーの処置: SHARE のあとには YES または NO だけを入力してください。

DSQ20903

メッセージ: DSQ20868 を参照してください。

DSQ20904

メッセージ: DSQ20864 を参照してください。

DSQ20905 - DSQ20907

メッセージ: &V2 は SAVE PROFILE では使用できません。

説明: SAVE PROFILE コマンドでは、オプションを使うことができません。

ユーザーの処置: &V2 およびそのあとの値を取り除いて、コマンドを入力し直してください。

DSQ20908

メッセージ: &V2 は SAVE DATA では使用できません。

説明: オプション &V2 は SAVE DATA コマンドでは使用できません。 COMMENT および CONFIRM オプションだけを使ってください。

ユーザーの処置: &V2 およびそのあとの値を取り除いて、コマンドを入力し直してください。

DSQ20909 - DSQ20911

メッセージ: DSQ20058 を参照してください。

DSQ20912

メッセージ: DSQ20900 を参照してください。

DSQ20913

メッセージ: 値が LANGUAGE オプションから欠落しています。

説明: コマンドによって LANGUAGE オプションを受け取りましたが、値が欠けていました。オプションを使用する場合は、値を入れてください。有効な値は以下のとおりです。

ENGLISH

この結果、書式は英語となります。

SESSION

この結果、書式はセッション言語となります。

ユーザーの処置: コマンドを再試行してください。 LANGUAGE オプションに値を入れるか、コマンドから LANGUAGE オプションを除去してください。

DSQ20914

メッセージ: LANGUAGE オプションでは ENGLISH または SESSION を使用してください。

説明: LANGUAGE オプションで認識できない値が使用されています。有効な値は以下のとおりです。

ENGLISH

この結果、書式は英語となります。

SESSION

この結果、書式はセッション言語となります。

ユーザーの処置: LANGUAGE オプションを ENGLISH または SESSION にしてコマンドを再試行してください。

DSQ20915

メッセージ: ACTION オプションは、このオブジェクト・タイプで提供されていません。

説明: ACTION オプションは、オブジェクト・タイプが DATA の場合だけ提供されます。

ユーザーの処置: コマンドから ACTION オプションを取るか、オブジェクト・タイプを DATA に変更してください。

DSQ20916

メッセージ: ACTION オプションには、APPEND または REPLACE を使用してください。

説明: ACTION オプションに認識できない値を使用しました。有効な値は以下のとおりです。

1. APPEND - 既存の表がある場合には、保管されたデータがそこに追加され、表がない場合には新しい表が作成されます。
2. REPLACE - 保管されたデータは既存の表に置き換わります。

ユーザーの処置: ACTION オプションを APPEND または REPLACE に変更し、コマンドを再試行してください。

DSQ20917

メッセージ: 保管データの列カウントが、許可された最大値を超えました。

説明: データの中の列の数が &V2. の最大許容列を超える &V1. の列カウントを含んでいます。データは保管されません。

ユーザーの処置: データを保管したい場合は、データの中の列の数を &V2. で許可された最大値内になるように変更してください。

DSQ20918

メッセージ: パッケージ &2 からの予期されない結果 &1 です。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。ま

た、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できません。

DSQ20919

メッセージ: OK、ストアード・プロシージャが正常に完了しました。

DSQ20920, DSQ20921

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ20922

メッセージ: 照会が長すぎます。

説明: ステートメントが長すぎるか、または複雑すぎて、解釈することができません。副照会および相関照会のネ스팅が複雑すぎて、SQL 処理ができないことも考えられます。

ユーザーの処置: 照会を短くするか、または 2 つ以上の照会として書き直してください。この問題が続く場合、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ20923

メッセージ: 照会が長すぎます。

説明: QBE 照会は、実行の前に SQL に変換されます。この照会の場合は、変換後の SQL 照会が長すぎて内部記憶域に収容しきれず、したがって実行できません。

ユーザーの処置: もっと短い複数の照会に分けて実行してください。

DSQ20924

メッセージ: &V2 は RUN PROC では使用できません。

説明: オプション &V2 は、プロシージャの実行には使用できません。

ユーザーの処置: &V2 およびそのあとの値を取

り除いて、コマンドを入力し直してください。

DSQ20925

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20926

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ20927, DSQ20928

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20929

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ20930

メッセージ: DSQ20338 を参照してください。

DSQ20931

メッセージ: DSQ20924 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ20932

メッセージ: &V3 はオブジェクト名の後には指定できません。

説明: 入力は次のとおりでした。RUN &V1 &V2 &V3

しかし、RUN コマンドの形式は次のとおりです。

```
RUN オブジェクト・タイプ  
      オブジェクト名( オプション
```

ユーザーの処置: &V3 がオプションでない場合は、それを除去してコマンドを再試行してください。オプションの場合は、&V2 と &V3 の間に左括弧を加え、コマンドを再試行してください。リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、

形式が正しいかどうか確認してください。パネルに QMF コマンドをどのように入力するかを見るためには、リスト・パネルを表示している間に、ヘルプ・キーを押してください。

DSQ20933

メッセージ: RUN とともに &V2 を使用することはできません。

説明: RUN コマンドとともに &V2 を使用することはできません。下記のオプションだけを使用してください。

CONFIRM FORM	&VARIABLE ROWLIMIT
-----------------	-----------------------

ユーザーの処置: &V2 を変更するか、その値、およびそれ以降の値を除去してください。リスト・パネルからこのコマンドを入れた場合には、コマンドの形式が正しかったかどうか確認してください。このパネルから QMF コマンドを入れる場合の詳細は、リスト・パネルから呼び出されるヘルプを参照してください。

DSQ20934

メッセージ: DSQ20339 を参照してください。

DSQ20935

メッセージ: &V1 は RUN には無効なオブジェクト・タイプです。

説明: RUN コマンドに許される形式は次のとおりです。

```
RUN オブジェクト・タイプ  
RUN オブジェクト名  
RUN オブジェクト・タイプ オブジェクト名
```

オブジェクト・タイプは、QUERY または PROC のいずれかです。オブジェクト名は、データベース内の照会またはプロシージャの名前です。

ユーザーの処置: &V1 を QUERY か PROC に変更し、コマンドを再試行してください。リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式

が正しいかどうか確認してください。パネルに QMF コマンドをどのように入力するかを見るためには、リスト・パネルを表示している間に、ヘルプ・キーを押してください。

DSQ20936

メッセージ: OK、照会は実行されました。
FORM を DISPLAY し、それを CHECK して警告メッセージを調べてください。

DSQ20937

メッセージ: OK、照会は実行されました。
QUERY および FORM には警告メッセージがあります。

DSQ20938

メッセージ: DSQ20061 を参照してください。

DSQ20939

メッセージ: OK、プロシーチャーは実行されました。

DSQ20940

メッセージ: DSQ20935 を参照してください。

DSQ20941

メッセージ: DSQ20058 を参照してください。

DSQ20942

メッセージ: DSQ20311 を参照してください。

DSQ20943 - DSQ20945

メッセージ: DSQ20343 を参照してください。

DSQ20946

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ20947

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ20948

メッセージ: 作業の論理単位に関するコマンドを入力することはできません。

説明: 作業の論理単位を制御するコマンド (BEGIN、COMMIT、ROLLBACK など) は、ほとんどのユーザーは入力することができません。これらのコマンドの取り扱いは QMF 管理者が行います。

ユーザーの処置: 作業の論理単位を制御するコマンドは指定しないでください。

DSQ20949

メッセージ: DSQ20313 を参照してください。

DSQ20950

メッセージ: DSQ20935 を参照してください。

DSQ20951

メッセージ: DSQ20058 を参照してください。

DSQ20952

メッセージ: DSQ20935 を参照してください。

DSQ20953

メッセージ: 照会が実行されませんでした。エラー・メッセージのヘルプを参照してください。

DSQ20954

メッセージ: OK、これは RUN コマンドからの報告書です。

DSQ20955

メッセージ: OK、照会を実行した結果、データベースが変更されました。

DSQ20956

メッセージ: 照会が実行されませんでした。エラー・メッセージの QUERY パネルを参照してください。

DSQ20957

メッセージ: DSQ20061 を参照してください。

DSQ20958, DSQ20959

メッセージ: OK、データベースの行のいくつかが変更されました: &2。

DSQ20960

メッセージ: DSQ20061 を参照してください。

DSQ20961

メッセージ: DSQ20955 を参照してください。

DSQ20962

メッセージ: FORM のあとには、FORM または書式名を指定してください。

説明: FORM オプションは、次のどちらかの形式で指定します。

1. (FORM=FORM -- FORM 中の現在の書式が使用されます。
2. (FORM=書式名 -- データベース内の、「書式名」で指定された名前の付いた書式が使用されます。

ユーザーの処置: FORM オプションを訂正し、コマンドを再実行してください。

DSQ20963

メッセージ: FORM の後ろに &V3. ではなく FORM か書式名を指定してください。

説明: FORM オプションは、以下のいずれかの形式で指定できます。

1. (FORM=FORM -- FORM 中の現在の書式が使用されます。
2. (FORM=書式名 -- データベース内の、「書式名」で指定された名前の付いた書式が使用されます。

オブジェクト・パネル名 (つまり、FORM.COLUMNS) は、FORM オプションには指定できません。

ユーザーの処置: FORM オプションを訂正し、コマンドを再実行してください。リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。パネルに QMF コマンドをどのように入力するかを見るためには、リスト・パネルを表示している間に、ヘルプ・キーを押してください。

DSQ20964

メッセージ: DSQ20339 を参照してください。

DSQ20965

メッセージ: DSQ20963 を参照してください。

DSQ20966

メッセージ: CONFIRM のあとには YES または NO を使用してください。

説明: CONFIRM オプションは、データベース変更のための照会またはプロシーチャーを処理完了の前に一時停止させて、必要に応じて変更を中止できるようにするかどうかを決めるためのものです。

オプションが YES の場合は、変換を取り消す機

会があります。NO の場合には、その機会は与えられません。

CONFIRM オプションを指定しなかった場合には、プロファイルの値が使用されます。

ユーザーの処置: CONFIRM のあとに YES または NO を追加するか、またはオプションを省いてください。

DSQ20967

メッセージ: CONFIRM の後には &V3. ではなく YES または NO を使用してください。

説明: CONFIRM オプションは、データベースを変更する照会またはコマンドをその完了の前に一時停止させて、必要に応じてその変更の取り消しができるようにするかどうかを指示します。

オプションが YES の場合は、変換を取り消す機会があります。NO の場合には、その機会は与えられません。

CONFIRM オプションを指定しなかった場合には、プロファイルの値が使用されます。

ユーザーの処置: CONFIRM のあとには YES または NO を使用してください。

DSQ20968

メッセージ: DSQ20955 を参照してください。

DSQ20969

メッセージ: OK、照会は実行されました。処理を続けてください。

DSQ20970

メッセージ: &V2 は RUN QUERY では使用できません。

説明: 照会を実行する場合、オプション &V2 は使用できません。

ユーザーの処置: &V2 とその後の値を取り除き、コマンドをもう一度出してください。

DSQ20971

メッセージ: ARG の後に値を指定してください。

説明: ARG オプションには値が必須です: ARG = 値

ユーザーの処置: ARG オプションの後に値を追加して、コマンドをもう一度出してください。

DSQ20972

メッセージ: DSQ20058 を参照してください。

DSQ20973

メッセージ: 照会が空であるか、またはコメントしか入っていません。

説明: 空の照会またはコメントだけを含む照会には、処置を指示する命令が入っていないため、実行することはできません。

照会が指示照会の場合、SQL へ変換することはできません。また、"SHOW SQL" コマンドを使用しても、同等の SQL 文は表示されません。

ユーザーの処置: 別の照会を作成してください。

DSQ20974

メッセージ: OK、これがユーザーの REPORT です。QUERY を DISPLAY して警告メッセージを見ます。

DSQ20975

メッセージ: DSQ20963 を参照してください。

DSQ20976

メッセージ: DSQ20313 を参照してください。

DSQ20977 - DSQ20978

メッセージ: DSQ20058 を参照してください。

DSQ20979

メッセージ: ENTER キーを押してコマンドを実行してください。

説明: 次のように入力して &V1 コマンドのプロンプト・パネルが要求されました。

&V1 &V2 ?

&V1 &V2. にはキーワード・オプションが存在しません。

ユーザーの処置: ENTER キーを押してコマンドを実行してください。

DSQ20980

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ20981

メッセージ: DSQ20853 を参照してください。

DSQ20982

メッセージ: ARG オプションが長すぎます。

説明: プロシージャから RUN コマンドを出す場合、引き数値の最大の長さは 80 文字で、コマンド・プロンプト・パネルでコマンドを入力する場合は、引き数値の最大の長さは 55 文字です。

ユーザーの処置: ARG の値を短くし、RUN コマンドを再度出してください。

DSQ20983

メッセージ: OK、コマンドを入力してください。

DSQ20984

メッセージ: DSQ20924 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ20985

メッセージ: ROWLIMIT には &V3. ではなく 1 から 99,999,999 までの数字を使用してください。

説明: ROWLIMIT オプションは照会から戻される行の最大数です。ROWLIMIT オプションを省略すると、すべての行が戻されます。

ユーザーの処置: ROWLIMIT 値を 1 から 99,999,999 までの数字に変更してください。

DSQ20986

メッセージ: ROWLIMIT には、1 から 99,999,999 までの数字を使用してください。

説明: RUN コマンドの ROWLIMIT オプションの値は必須です。形式は次のようになります。ROWLIMIT = N ここでNは数字の 1 から 99,999,999 で、照会から戻される行の最大数です。ROWLIMIT オプションを省略すると、すべての行が戻されます。

ユーザーの処置: ROWLIMIT に 1 から 99,999,999 までの値を入力するか、またはコマンドから ROWLIMIT を除去してください。

DSQ20987

メッセージ: DSQ20985 を参照してください。

DSQ20988

メッセージ: ROWLIMIT オプションは、現行の照会で有効ではありません。

説明: RUN コマンドと一緒に使用する ROWLIMIT は、SELECT ステートメントを含む照会オブジェクトでのみ使用できます。

ユーザーの処置: ROWLIMIT およびその後にくすすべての値を取り除いてから、コマンドを実行し直してください。

DSQ20989

メッセージ: DB2 特殊レジスター &V1. は、設定することはできません。

説明: QMF は、DB2 特殊レジスター &V1. を代替することをサポートしていません。

ユーザーの処置: 照会から以下の SQL ステートメントを変更または除去してください。

```
SET &V1.
```

DSQ20990

メッセージ: &01. で開始する SQL ステートメントは処理できません。

説明: QMF &02. は、ローカルに接続されたデータベース・サーバーで、この SQL ステートメントの対話型の処理をサポートしません。

ユーザーの処置: 次の SQL ステートメントを変更するか、照会から除去してください: &03.

DSQ20994

メッセージ: OK、これは STORED PROCEDURE コマンドからの REPORT です。

DSQ20995

メッセージ: DSQ20974 を参照してください。

DSQ20996

メッセージ: OK、照会は実行されました。FORM を DISPLAY し、それを CHECK して警告メッセージを調べてください。

DSQ20997

メッセージ: OK、照会は実行されました。QUERY および FORM には警告メッセージがありません。

DSQ20998 - DSQ20999

メッセージ: DSQ20317 を参照してください。

DSQ21000 - DSQ21001

メッセージ: &V1. ではなく YES または NO を入力してください。

説明: &V1 をプロンプト・パネルに入力しましたが、ここでは YES または NO の応答だけしか許されません。

ユーザーの処置: END キーを押してプロンプト・パネルに戻り、入力を訂正してください。

DSQ21002

メッセージ: QMF プロンプト・パネルの表示には対話式 QMF セッションが必要です。

説明: 次のいずれかの原因により、プロンプト・パネルが要求されました。

1. プロファイルの CONFIRM 値が YES に設定されており、&V1 コマンドが、CONFIRM=NO オプションを指定して YES の指定を変更する処置を、まだ取っていない。
2. バッチ・モードで実行中か、INTERACT なしのコマンド・インターフェースでバッチ・プロシージャの &V1 コマンドに CONFIRM=YES を指定してある。
3. データ不完全状態が生じていて、DATA をリセットするかどうかを決めるためにプロンプト・パネルを要求している。

ユーザーの処置: &V1 コマンドの入力時に CONFIRM=NO を指定するか、または非対話式 QMF を実行時は SET PROFILE (CONFIRM=NO を指定してください。データ不完全状況の起きる前にプロシージャの中で RESET DATA コマンドを用いれば、データ不完全指示が出ないようにできます。

DSQ21003

メッセージ: 確認プロンプト・パネルの指示に従ってください。

説明: 確認プロンプト・パネルは、コマンドの完了についてユーザーの意志を確認しようとしています。実行を継続する場合と中止する場合に何が起きるかについて説明しています。

ユーザーの処置: 継続するなら 1 を選択して ENTER を、中止するなら 2 を選択し、取り消しを押してください。

DSQ21004 - DSQ21005

メッセージ: DSQ20918 を参照してください。

DSQ21030

メッセージ: 報告書を終了するための十分なスペースがありません。

説明: 照会を実行するとき、または表や視点を表示する場合、QMF は報告書の最初のページを表示するために必要な行だけをデータベースから検索します。したがって、QMF はできるだけ早く報告書を表示できます。QMF は、報告書を終了するために、行をさらに検索する必要があります。

データベースに関する次のコマンドを実行する前に、QMF は報告書を終了する必要があります。&V1 コマンドが出され、QMF は報告書を終了しようとした。しかし、QMF の報告書の記憶域がいっぱいで、報告書を終了できません。報告書を消去するか、コマンドを取り消すかを決定しなければなりません。

ユーザーの処置: プロンプト・パネルに応答してください。

1. YES を選択した場合、QMF の一時記憶域から報告書を除去すると、報告書が使用できなくなります。報告書を終了する場合は、YES を選択してください。

2. NO を選択した場合、QMF はコマンドを取り消し、報告書をそのまま残します。

QMF 報告書を完了させるコマンドのリストについては、「QMF 解説書」を参照してください。

システム管理者: QMF プログラム・パラメーター DSQSBSTG および DSQSPILL により、報告書に対する記憶容量および記憶域の用途が判別されます。これらのパラメーターについては、使用中のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」に説明されています。

DSQ21031

メッセージ: 報告書が完了していません。

説明: 以下の状態が起きたため、データ・オブジェクト解決完了パネルが表示されました。

1. コミットまたはロールバックを必要とするコマンドを出した。
2. 報告書が完了しておらず、報告書で読み取り中のデータベース・オブジェクトにオープン・カーソルがある。
3. グローバル変数 DSQEC_RESET_RPT が 1 に設定されている。

このパネルを表示したくない場合は、コマンド・プロンプトに次のコマンドを入力し、DSQEC_RESET_RPT を "0" に設定してください。

```
COMMAND ==> SET GLOBAL  
(DSQEC_RESET_RPT = 0
```

ユーザーの処置:

プロンプト・パネルに応答してください。

1. YES を選択すると、QMF は次のコマンドを実行する前に報告書を完了します。現在の報告書を完了するのに、時間がかかったり、一時記憶域を多く必要としたりする場合があります。

2. NO を選択すると、QMF は実行中の報告書をリセットし、継続して次のコマンドを実行します。
3. F12= 取り消しを押すと、QMF はコマンドを取り消します。

DSQ21040

メッセージ: パネル &1 にエラーが表示されています。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できません。

DSQ21042

メッセージ: DSQ20825 を参照してください。

DSQ21043, DSQ21044

メッセージ: &V1. ではなく ISPF コマンドのみ使用可能です。

説明: このパネルでコマンド行または機能キーを使用して入力できるのは、有効な ISPF コマンドだけです。

ユーザーの処置: 有効な ISPF コマンドを入力するかまたはコマンド行を消去し、ENTER キーを押してください。

DSQ21061

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ21062

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ21063

メッセージ: &V1 はポップアップ・ウィンドウを表示中に使用できません。

説明: ポップアップ・ウィンドウ・ダイアログがアクティブである場合は、特定のコマンドしか出せません。入力した &V1 コマンドは使用できません。

ユーザーの処置: ポップアップ・ウィンドウが表示されている場合には、&V1 コマンドは出せません。ウィンドウ・ダイアログを完了するか、またはポップアップ・ウィンドウを削除するために CANCEL コマンドを使用し、&V1 コマンドを再度、出してください。

DSQ21064

メッセージ: &V1 は追加モードでは実行できません。

説明: 表編集プログラムの追加モードでは無効なコマンドを実行しようとしてしました。有効なコマンドは以下のとおりです。

ADD	END	SET
BACKWARD	FORWARD	SHOW
BOTTOM	GET	TOP
CANCEL	HELP	
CLEAR	PREVIOUS	

ユーザーの処置: &V1 コマンドはここでは実行しないで次のどちらかを行なってください。

1. 変更モードまたは検索モードに切り替えて再度コマンドを実行する。
2. END コマンドまたは CANCEL コマンドを使って編集セッションを終了し、再度コマンドを実行する。

DSQ21065

メッセージ: &V1 は変更モードでは実行できません。

説明: 表編集プログラムの変更モードでは無効なコマンドを実行しようとした。有効なコマンドは以下のとおりです。

BACKWARD	END	REFRESH
BOTTOM	FORWARD	SET
CANCEL	GET	SHOW
CHANGE	HELP	TOP
DELETE	NEXT	

ユーザーの処置: &V1 コマンドはここでは実行しないで次のどちらかを行ってください。

1. 追加モードまたは検索モードに切り替えて、再度コマンドを実行する。
2. END コマンドまたは CANCEL コマンドを使って編集セッションを終了し、再度コマンドを実行する。

DSQ21066

メッセージ: DSQ21063 を参照してください。

DSQ21067

メッセージ: &V1 は検索モードでは実行できません。

説明: 表編集プログラムの検索モードでは無効なコマンドを実行しようとした。有効なコマンドは以下のとおりです。

BACKWARD	FORWARD	SET
BOTTOM	GET	SHOW
CANCEL	HELP	TOP
CLEAR	PREVIOUS	
END	SEARCH	

ユーザーの処置: &V1 コマンドはここでは実行しないで次のどちらかを行ってください。

1. 変更モードまたは追加モードに切り替えて、再度コマンドを実行する。

2. END コマンドまたは CANCEL コマンドを使って編集セッションを終了し、再度コマンドを実行する。

DSQ21068

メッセージ: コマンド &V1 の使用法が無効です。

説明: &V1 コマンドは、コマンド行またはコマンド・インターフェースからは使用できません。&V1 コマンドは、パラメーターを指定して呼び出し可能インターフェースから出されるか、または REXX プロシーチャー内だけで有効です。

ユーザーの処置: 入力したコマンドの機能を使用したい場合、QMF の資料で呼び出し可能インターフェースまたは REXX プロシーチャーを説明している情報を参照してください。

DSQ21069

メッセージ: システム検索の失敗 - バリエーションを見つけることができません。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。

Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ21070

メッセージ: DSQ20038 を参照してください。

DSQ21071

メッセージ: DSQ20316 を参照してください。

DSQ21072

メッセージ: DSQ20038 を参照してください。

DSQ21073

メッセージ: &V1 コマンドは現在使用できません。

説明: クライアントまたはワークステーションから QMF にアクセスしている間は、&V1 を使用できません。

ユーザーの処置: 他のコマンドを選択してください。

DSQ21081

メッセージ: パネル &1 にエラーが表示されています。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ21082

メッセージ: DSQ20058 を参照してください。

DSQ21083

メッセージ: コマンド指示の表示には対話式 QMF セッションが必要です。

説明: バッチ・プロシージャまたはアプリケーションに次のコマンドが含まれています。

&V1 ?

このコマンドは、対話式セッションであれば &V1 コマンドのプロンプト・パネルを表示する結果になりますが、非対話式 QMF では、これではできません。

バッチによって入力されたコマンド、または対話によらないコマンド・インターフェースを介して入力されたコマンドによって、ユーザー対話または表示を行なってはなりません。

ユーザーの処置: プロンプト・パネルを呼び出すコマンドを、バッチ・プロシージャやアプリケーションから取り除いてください。

DSQ21100 - DSQ21109

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ21115

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ21120

メッセージ: DSQ20348 を参照してください。

DSQ21121

メッセージ: &V2 は実行できません。

説明: &V2 は、既存の照会またはプロシージャの名前ではありません。RUN コマンドに許される形式は次のとおりです。

1. RUN オブジェクト・タイプ
2. RUN オブジェクト名
3. RUN オブジェクト・タイプ オブジェクト名

オブジェクト・タイプは、QUERY または PROC のいずれかです。オブジェクト名は、データベース内の照会またはプロシージャの名前です。

ユーザーの処置: &V2 を実行可能なものに変更し、コマンドを再試行してください。照会またはプロシージャのリストを調べる場合は、コマンド LIST QUERIES または LIST PROCS を入力してください。リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。パネルに QMF コマンドをどのように入力するかを見るためには、リスト・パネルを表示している間に、ヘルプ・キーを押してください。

DSQ21122

メッセージ: &V2 は書式ではありません。

説明: コマンドで、データベースの書式の名前と

して &V2 を使用しています。この名前のオブジェクトはデータベース内に存在しますが、書式ではありません。

ユーザーの処置:

1. 必要な書式の正しい名前を使用してください。書式のリストを表示する場合は、LIST FORMS を使用してください。
2. FORM オプションを指定しないでコマンドを実行し、作成されるデフォルト書式を変更してください。

DSQ21123

メッセージ: DSQ20355 を参照してください。

DSQ21124

メッセージ: DSQ20724 を参照してください。

DSQ21125

メッセージ: &V1 を変換できません。照会ではありません。

説明: &V1 は既存の照会の名前ではありません。 CONVERT コマンドの形式は次のとおりです。

CONVERT QUERY objectname (options

ユーザーの処置: &V1 を照会の名前に変更し、コマンドを再実行してください。照会のリストを表示する場合は、 LIST QUERIES コマンドを入力してください。リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。パネルに QMF コマンドをどのように入力するかを見るためには、リスト・パネルを表示している間に、ヘルプ・キーを押してください。

DSQ21126

メッセージ: QMF 初期化の過程で &V2 を見つけることができません。

説明: QMF 初期化中に、プロシージャ "&V2" をデータベースで見つけることができませんでした。

ユーザーの処置: QMF 管理者に援助を依頼してください。

DSQ21127

メッセージ: DSQ20983 を参照してください。

DSQ21138

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ21150 - DSQ21153

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ21154 - DSQ21157

メッセージ: QBE 照会の拡張限界。入力の受け入れ失敗。入力の一部が失われました。

説明: 入力を受け入れるには、QBE 照会の一部の拡張が必要でした。しかし、QBE 照会はすでに最大サイズに達していたために、拡張することができませんでした。入力の一部は失われました。

ユーザーの処置: QBE 照会のスケルトン、条件ボックス、およびコメント・ボックスに照会を組み立てるために必要な行数より多くの行が含まれている場合は、 REDUCE コマンドを用いて不要な行を除去した上で、再入力を試みてください。QBE 照会の条件ボックスおよびコメント・ボックスが、照会の組み立てに必要な幅より広い場合、またはスケルトン内のいくつかの列が照会の組み立てに必要な幅より広い場合には、 REDUCE コマンドを用いて幅を縮小してください。QBE 照会のスケルトンに不要な列が含まれている場合には、 REDUCE コマンドを用いて不要な列を除去してください。

DSQ21170

メッセージ: 集約視点がリポジトリに見つかりません。

説明: 実行する ER 指示照会の視点として集約を指定しましたが、リポジトリ管理プログラムはその集約名を見つけないことがあります。この値に置換変数が使われている可能性があります。その場合、置換値で表される名前がスペルが間違えているか、長過ぎます。

ユーザーの処置: 集約名を訂正してください。

DSQ21171

メッセージ: エンティティ視点がりポジトリに見つかりません。

説明: 実行すべき ER 指示照会の視点としてエンティティが指定されましたが、リポジトリ管理プログラムは指定されたエンティティ名を見つけないことがあります。この値に置換変数が使われている可能性があります。その場合、置換値で表される名前がスペルが間違えているか、長過ぎます。

ユーザーの処置: エンティティ名を訂正してください。

DSQ21172

メッセージ: 関連の使用を許可されていません。

説明: 照会を実行するときに指定された関連はデータベースに存在しますが、その使用を許可されていません。この値に置換変数が使われている可能性があります。

ユーザーの処置: 指定した関連を変更するか、またはその照会を実行する権限を得てください。

DSQ21173

メッセージ: テンプレートの選択式が無効です。

説明: 照会中のあるテンプレートの選択式が無効です。照会を構成するテンプレートの一覧中で、

関連するテンプレートの索引は &V1. です。選択式を構成する選択句の一覧で、関連する句の索引は &V2. です。この値に置換変数が使われている可能性があります。

ユーザーの処置: 選択句を訂正し、照会を再実行してください。

DSQ21174

メッセージ: 指定した属性の数が 999 を超えています。

説明: 照会で指定できる属性の最大数は 999 です。現在の照会はこの限界を超えています。

ユーザーの処置: 指定する属性の数を減らしてください。

DSQ21175

メッセージ: テンプレートの選択式が長過ぎます。

説明: 照会中の、あるテンプレートの選択式が長過ぎます。式の長さは最大で 3,300 文字です。照会を構成するテンプレートの一覧中で、関連するテンプレートの索引は &V1. です。選択式を構成する選択句の一覧で、関連する句の索引は &V2. です。この値に置換変数が使われている可能性があります。

ユーザーの処置: 選択式を変更して、照会を再実行してください。

DSQ21176

メッセージ: 照会で使われた式が無効です。

説明: 実行された照会の特定のテンプレートで使われた式は無効です。無効な値は、左側に指名された属性か、右側に指名されたテンプレートまたはフィールドにあります。この値に置換変数が使われている可能性があります。

ユーザーの処置: 式を変更して、照会を再実行してください。

DSQ21177

メッセージ: DSQ20918 を参照してください。

DSQ21178

メッセージ: DSQ20061 を参照してください。

DSQ21190 - DSQ21191

メッセージ: DSQ20058 を参照してください。

DSQ21192

メッセージ: DSQ20316 を参照してください。

DSQ21193

メッセージ: DSQ20306 を参照してください。

DSQ21194

メッセージ: DSQ20307 を参照してください。

DSQ21195, DSQ21196

メッセージ: &V1 は PRINT に無効なオブジェクト・タイプです。

説明: PRINT コマンドに使用できる形式は次のとおりです。

1. PRINT オブジェクト・タイプ
オブジェクト・タイプは、QUERY、PROC、FORM、PROFILE、CHART、また REPORT のいずれかです。
2. PRINT オブジェクト名
オブジェクト名は、データベース内のオブジェクトの名前です。
3. PRINT オブジェクト・タイプ オブジェクト名
オブジェクト・タイプは、QUERY、PROC、FORM、TABLE のいずれかです。
オブジェクト名は、データベース内のオブジェクトの名前です。

ユーザーの処置: 有効なオブジェクト・タイプを指定して、コマンドを再試行してください。リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式

が正しいかどうか確認してください。パネルに QMF コマンドをどのように入力するかを見るためには、リスト・パネルを表示している間に、ヘルプ・キーを押してください。

DSQ21197, DSQ21198

メッセージ: DSQ20058 を参照してください。

DSQ21199

メッセージ: &V1 オプションは、PRINT REPORT でのみ使用できます。

説明: オプション &V1 は、PRINT REPORT コマンドでのみ使用できます。

ユーザーの処置: コマンドを PRINT REPORT に変更するかまたは &V1 オプションとその値を削除し、コマンドを再試行してください。

DSQ21200

メッセージ: DSQ20338 を参照してください。

DSQ21201

メッセージ: &V3 はオブジェクト名の後には指定できません。

説明: 次のように入力しました。PRINT &V1 &V2 &V3

しかし、PRINT コマンドの形式は次のとおりです。

PRINT オブジェクト・タイプ
オブジェクト名 (オプション)

ユーザーの処置: &V3 がオプションでない場合は、それを除去してコマンドを再試行してください。そうでない場合は、"&V2" と "&V3" の間に左括弧を加え、コマンドを再試行してください。リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。パネルに QMF コマンドをどのように入力するかを見るためには、リスト・パネルを表示している間に、ヘルプ・キーを押してください。

DSQ21202

メッセージ: DSQ20313 を参照してください。

DSQ21203

メッセージ: DSQ20963 を参照してください。

DSQ21204

メッセージ: DSQ20962 を参照してください。

DSQ21205

メッセージ: DSQ20339 を参照してください。

DSQ21207

メッセージ: DSQ20061 を参照してください。

DSQ21208 - DSQ21209

メッセージ: DSQ20963 を参照してください。

DSQ21210

メッセージ: DSQ20348 を参照してください。

DSQ21211

メッセージ: DSQ20311 を参照してください。

DSQ21212

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ21213

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ21214

メッセージ: DSQ20313 を参照してください。

DSQ21215

メッセージ: DSQ20317 を参照してください。

DSQ21216

メッセージ: DSQ20074 を参照してください。

DSQ21217

メッセージ: DSQ20853 を参照してください。

DSQ21218

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ21219

メッセージ: CC のあとには YES または NO を指定してください。

説明: NO を使用した場合、紙送り制御は表示されません。YES を使用した場合、紙送り制御は列 1 にあります。何も入力されない場合、デフォルトはグローバル変数 DSQEC_CC の値になります。

ユーザーの処置: CC に YES か NO を入力するか、またはコマンドから CC を除去してください。

DSQ21220

メッセージ: CC は &C2. ではなく YES か NO を使用してください。

説明: NO を使用した場合、紙送り制御は表示されません。YES を使用した場合、紙送り制御は列 1 にあります。何も入力されない場合、デフォルトはグローバル変数 DSQEC_CC の値になります。

ユーザーの処置: CC の値を YES か NO に変更するか、またはコマンドから CC を除去してください。

DSQ21225

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ21226

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ21229

メッセージ: DSQ20339 を参照してください。

DSQ21233

メッセージ: WIDTH は &V2 ではなく 22 から 999 を指定してください。

説明: WIDTH は、1 印刷行に印刷できる文字数を示します。指定した幅より長い行は、右側の部分が切り捨てられます。指定する幅の値は、印刷する用紙の幅にそれが収まることを保証していません。要求したすべてのものが印刷されるようにしたい場合には、用紙より狭い幅を指定してください。

WIDTH オプションを省略した場合には、プロファイルの中の WIDTH の値が使用されます。

ユーザーの処置: WIDTH の値に 22 から 999 までの範囲内の数値を指定するか、コマンドまたはプロンプト・パネルから WIDTH の値を除去してください。

DSQ21234

メッセージ: WIDTH には 22 から 999 までの数値を使用してください。

説明: PRINT コマンドの WIDTH オプションには値が必要です。形式は WIDTH = N で、N は 22 から 999 までの範囲内の数値です。WIDTH オプションを省略した場合には、プロファイルの中の WIDTH の値が使用されます。

ユーザーの処置: WIDTH の値として 22 から 999 までの値を入力するか、またはコマンドから WIDTH を除去してください。

DSQ21235

メッセージ: DSQ21233 を参照してください。

DSQ21236

メッセージ: LENGTH として 1 ~ 999 の数値または CONT を指定してください。

説明: &V2 は、LENGTH の値として無効です。PRINT コマンドの LENGTH オプションに指定する値は、1 から 999 までの数値か、または CONT でなければなりません。CONT を指定すると、ページの切れ目のない連続印刷が行なわれず、LENGTH オプションを省略した場合には、プロファイルの中の LENGTH の値が使用されます。

ユーザーの処置: LENGTH の値を、1 から 999 までの数値か CONT に変更するか、またはコマンドから LENGTH を除去してください。

DSQ21237

メッセージ: LENGTH として 1 ~ 999 の数値または CONT を指定してください。

説明: PRINT コマンドの LENGTH オプションには値が必要です。形式は LENGTH = N であり、N は 1 から 999 までの数値または CONT です。CONT を指定すると、ページの切れ目のない連続印刷が行なわれず、LENGTH オプションを省略した場合には、プロファイルの中の LENGTH の値が使用されます。

ユーザーの処置: LENGTH の値として 1 から 999 までの値か CONT を入力するか、またはコマンドから LENGTH を除去してください。

DSQ21238

メッセージ: DSQ21236 を参照してください。

DSQ21239

メッセージ: DATETIME のあとには YES または NO を指定してください。

説明: NO を指定すれば、日付と時刻は印刷されません。YES を指定するか、またはこのオプションを省略した場合には、各ページの末尾に日付と時刻が印刷されます。

ユーザーの処置: DATETIME に YES または NO を入力するか、またはコマンドから DATETIME を除去してください。

DSQ21240

メッセージ: DATETIME のあとに &V2 ではなく、YES または NO を指定してください。

説明: NO を指定すれば、日付と時刻は印刷されません。YES を指定するか、またはこのオプションを省略した場合には、各ページの末尾に日付と時刻が印刷されます。

ユーザーの処置: DATETIME の値を YES か NO に変更するか、またはコマンドから DATETIME を除去してください。

DSQ21241

メッセージ: PAGENO のあとには YES または NO を指定してください。

説明: YES を指定するか、またはこのオプションを省略した場合には、各ページの末尾にページ番号が印刷されます。NO を指定すれば、ページ番号は印刷されません。

ユーザーの処置: PAGENO に YES か NO を入力するか、またはコマンドから PAGENO を除去してください。

DSQ21242

メッセージ: PAGENO のあとに &V2 ではなく、YES または NO を指定してください。

説明: YES を指定するか、またはこのオプション

を省略した場合には、各ページの末尾にページ番号が印刷されます。NO を指定すれば、ページ番号は印刷されません。

ユーザーの処置: PAGENO オプションを YES か NO に変更するか、または、コマンドから PAGENO を除去してください。

DSQ21243

メッセージ: PRINT とともに &V2 を使用することはできません。

説明: PRINT コマンドとともに &V2 を使用することはできません。下記のオプションだけを使用してください。

PRINTER	
DATETIME	(PRINT CHART には無効)
LENGTH	(PRINT CHART には無効)
WIDTH	(PRINT CHART には無効)
PAGENO	(PRINT CHART には無効)
ICUFORM	(PRINT CHART のみに有効)
UNITS	(PRINT CHART のみに有効)
VOFFSET	(PRINT CHART のみに有効)
HOFFSET	(PRINT CHART のみに有効)
CWIDTH	(PRINT CHART のみに有効)
CLENGTH	(PRINT CHART のみに有効)

ユーザーの処置: &V2 およびそのあとの値を取り除いて、コマンドを入力し直してください。

DSQ21245 - DSQ21248

メッセージ: &V2 は PRINT CHART では使用できません。

説明: オプション &V2 は PRINT CHART コマンドでは使用できません。PRINT CHART には以下のオプションだけを使用してください。

PRINTER	UNITS
VOFFSET	HOFFSET
CWIDTH	CLENGTH
ICUFORM	

ユーザーの処置: &V2 およびそのあとの値を取り除いて、コマンドを入力し直してください。

DSQ21249 - DSQ21258

メッセージ: &V2 は PRINT CHART でのみ使用できます。

説明: オプション &V2 は PRINT CHART コマンドでのみ使用できます。以下のオプションだけを使用してください。

DATEIME	PRINTER
LENGTH	WIDTH
PAGENO	

ユーザーの処置: &V2 およびそのあとの値を取り除いて、コマンドを入力し直してください。

DSQ21260

メッセージ: CLENGTH には 1 から 100 までの百分率を使います。

説明: &V2 は有効な CLENGTH 値ではありません。CLENGTH は、図形域の縦幅です。UNITS=PERCENT が使用されているので、この縦幅は、図形が印刷されるページの合計縦幅の百分率で示します。

指定した値、およびその値と VOFFSET (図形の上側余白) 値の合計は、ともに、100 (パーセント) を超えてはなりません。

ユーザーの処置: CLENGTH の数値として 0 よりも大きく、しかも VOFFSET 値との合計が 100 (パーセント) を超えない値を指定してください。

DSQ21261

メッセージ: CLENGTH として &V2. ではなく、0 より大きな値を使用してください。

説明: CLENGTH は、UNITS で指定した単位による図形域の縦幅です。

指定した値、およびその値と VOFFSET (図形の上側余白) 値の合計は、ともに、図形が印刷される用紙の縦幅を超えてはなりません。

ユーザーの処置: CLENGTH の数値として、0 よりも大きくてしかも VOFFSET 値との合計が印

刷縦幅を超えないような値を指定してください。

DSQ21262

メッセージ: PRINTER オプションが不完全です。

説明: PRINTER の後には値が必要です。この値は次のとおりでなければなりません。

1. 英字、数字、および特定の特殊文字から成る名前。この名前は数字で始めることはできず、また 8 文字を超える長さにはできません。
2. ブランク (コマンド行では、単一引用符 ' ' で囲んでください。)

PRINTER 名は、所定のプリンターに出力を送るために、GDDM 印刷サポートによって使用されます。この値がブランクの場合には、出力は QMF 標準出力装置に送られます。プロンプト・パネルを使ってこのオプションをブランクにすることはできません。

ユーザーの処置: PRINTER のあとに有効なプリンター名を追加してください。それでも問題が解決しなければ、操作担当者またはシステム・プログラマーに連絡を取ってさらに援助を得てください。

DSQ21263 - DSQ21269

メッセージ: PRINTER の後の &V2 が無効です。

説明: PRINTER 名が無効です。この名前は、英字、数字、および特定の特殊大文字で構成できます。長さは 8 文字を超えてはなりません。

PRINTER 値はブランクのままにしておけます。

PRINTER 名は、所定のプリンターに出力を送るために、GDDM 印刷サポートによって使用されます。この値がブランクの場合には、出力は QMF 標準出力装置に送られます。

(プロンプト・パネルではなく) コマンド行でブランク値を入力する場合、ブランクを単一引用符で

囲んでください()。プロンプト・パネルを使ってこのオプションをブランクにすることはできません。

ユーザーの処置: PRINTER 名の値を訂正してください。詳細は、操作担当員、またはシステム・プログラマーに相談してください。

DSQ21271

メッセージ: DSQ21195 を参照してください。

DSQ21272

メッセージ: DSQ20320 を参照してください。

DSQ21273 - DSQ21275

メッセージ: DSQ20321 を参照してください。

DSQ21276

メッセージ: UNITS の値には PERCENT、CENTIMETERS、または INCHES が必要です。

説明: UNITS に値を指定しなくてはなりません。このオプションでは、PRINT CHART コマンドのオプションとして指定する値、すなわち、CWIDTH (図形の横幅)、CLENGTH (図形の縦幅)、VOFFSET (図形の上側余白)、およびHOFFSET (図形の左側余白) の度量単位を識別します。有効な値は次のとおりです。

PERCENT - 単位は対応するページの増幅および縦幅のパーセンテージです。
CENTIMETERS - 単位はセンチメートルで指定されます。
INCHES - 単位はインチで指定されます。

注: UNITS=PERCENT を指定する場合、図形がどのような次元で用紙に印刷されるのかわかる必要はありません。

ユーザーの処置: PERCENT、CENTIMETERS、または INCHES を使って UNITS を完成させてください。

DSQ21277

メッセージ: UNITS のあとの値 &V2 が無効です。

説明: UNITS オプションでは、PRINT CHART コマンドのオプションとして指定する値、すなわち CWIDTH (図形の横幅)、CLENGTH (図形の縦幅)、VOFFSET (図形の上側余白)、およびHOFFSET (図形の左側余白) の度量単位を識別します。有効な値は次のとおりです。

PERCENT - 単位は対応するページの増幅および縦幅のパーセンテージです。
CENTIMETERS - 単位はセンチメートルで指定されます。
INCHES - 単位はインチで指定されます。

注: UNITS=PERCENT を指定する場合、図形がどのような次元で用紙に印刷されるのかわかる必要はありません。

ユーザーの処置: PERCENT、CENTIMETERS、または INCHES を使って UNITS を完成させてください。

DSQ21278

メッセージ: VOFFSET は &V2 ではなく 0 から 100 の百分率です。

説明: VOFFSET は、出力域の上端から図形域までの余白です。UNITS=PERCENT が使われていますので、この余白は、図形が印刷されるページの合計縦幅の百分率で示します。

指定した値、およびその値と CLENGTH (図形の縦幅) 値の合計は、ともに、100 (パーセント) を超えてはなりません。

ユーザーの処置: VOFFSET の数値として、0 以上でしかも CLENGTH 値との合計が 100 (パーセント) を超えない値を指定してください。

DSQ21279

メッセージ: VOFFSET; に &V2. ではなく、>= 0 を指定してください。

説明: VOFFSET は、UNITS で指定した単位による、出力域の上端から図形域までの余白です。

指定した値、およびその値と CLENGTH (図形の縦幅) 値の合計は、ともに、図形が印刷される用紙の縦幅を超えてはなりません。

ユーザーの処置: VOFFSET の数値として、0 よりも大きくてしかも CLENGTH 値との合計が印刷縦幅を超えないような値を指定してください。

DSQ21280

メッセージ: VOFFSET の百分率は 0 から 100 まででなければなりません。

説明: VOFFSET は、出力域の上端から図形域までの余白です。UNITS=PERCENT が使われていますので、この余白は、図形が印刷されるページの合計縦幅の百分率で示します。

指定した値、およびその値と CLENGTH (図形の縦幅) 値の合計は、ともに、100 (パーセント) を超えてはなりません。

ユーザーの処置: VOFFSET の数値として、0 以上でしかも CLENGTH 値との合計が 100 (パーセント) を超えない値を指定してください。

DSQ21281

メッセージ: VOFFSET は 0 以上の数値でなければなりません。

説明: VOFFSET は、UNITS で指定した単位による、出力域の上端から図形域までの余白です。

指定した値、およびその値と CLENGTH (図形の縦幅) 値の合計は、ともに、図形が印刷される用紙の縦幅を超えてはなりません。

ユーザーの処置: VOFFSET の数値として、0 よりも大きくてしかも CLENGTH 値との合計が印刷縦幅を超えないような値を指定してください。

DSQ21282

メッセージ: DSQ21278 を参照してください。

DSQ21283

メッセージ: DSQ21279 を参照してください。

DSQ21284

メッセージ: HOFFSET は &V2 ではなく 0 から 100 の百分率です。

説明: HOFFSET は、出力域の左端から図形域までの余白です。UNITS=PERCENT が使われていますので、この余白は、図形が印刷されるページの合計の横幅の百分率で示します。

指定した値、およびその値と CWIDTH (図形の横幅) 値の合計は、ともに、100 (パーセント) を超えてはなりません。

ユーザーの処置: HOFFSET の数値として、0 以上でしかも CWIDTH 値との合計が 100 (パーセント) を超えない値を指定してください。

DSQ21285

メッセージ: HOFFSET; に &V2. ではなく、>= 0 を指定してください。

説明: HOFFSET は、UNITS で指定した単位による、出力域の左端から図形域までの余白です。

指定した値、およびその値と CWIDTH (図形の横幅) 値の合計は、ともに、図形が印刷される用紙の横幅を超えてはなりません。

ユーザーの処置: HOFFSET の数値として、0 よりも大きくてしかも CWIDTH 値との合計が印刷縦幅を超えないような値を指定してください。

DSQ21286

メッセージ: HOFFSET の百分率は 0 から 100 まででなければなりません。

説明: HOFFSET は、出力域の左端から図形域までの余白です。UNITS=PERCENT が使われていますので、この余白は、図形が印刷されるページの合計の横幅の百分率で示します。

指定した値、およびその値と CWIDTH (図形の横幅) 値の合計は、ともに、100 (パーセント) を超えてはなりません。

ユーザーの処置: HOFFSET の数値として、0 以上でしかも CWIDTH 値との合計が 100 (パーセント) を超えない値を指定してください。

DSQ21287

メッセージ: HOFFSET は 0 以上の数値でなければなりません。

説明: HOFFSET は、UNITS で指定した単位による、出力域の左端から図形域までの余白です。

指定した値、およびその値と CWIDTH (図形の横幅) 値の合計は、ともに、図形が印刷される用紙の横幅を超えてはなりません。

ユーザーの処置: HOFFSET の数値として、0 よりも大きくてしかも CWIDTH 値との合計が印刷縦幅を超えないような値を指定してください。

DSQ21288

メッセージ: DSQ21284 を参照してください。

DSQ21289

メッセージ: DSQ21285 を参照してください。

DSQ21290

メッセージ: CWIDTH には 0 から 100 までの百分率を使います。

説明: &V2 は有効な CWIDTH の値ではありません。CWIDTH は、図形域の横幅です。

UNITS=PERCENT が使用されているので、この横幅は、図形が印刷されるページの合計横幅の百分率で示します。

指定した値、およびその値と HOFFSET (図形の左側余白) 値の合計は、ともに、100 (パーセント) を超えてはなりません。

ユーザーの処置: CWIDTH の数値として、0 よ

りも大きく、しかも HOFFSET 値との合計が 100 (パーセント) を超えない値を指定してください。

DSQ21291

メッセージ: CWIDTH は &V2. ではなく 0 より大きな数です。

説明: CWIDTH は、UNITS で指定した単位による図形域の横幅です。

指定した値、およびその値と HOFFSET (図形の左側余白) 値の合計は、ともに、図形が印刷される用紙の横幅を超えてはなりません。

ユーザーの処置: CWIDTH の数値として、0 よりも大きくてしかも HOFFSET 値との合計が印刷横幅を超えないような値を指定してください。

DSQ21292

メッセージ: CWIDTH の百分率は 0 から 100 まででなければなりません。

説明: CWIDTH は、図形域の横幅です。UNITS=PERCENT が使用されているので、この横幅は、図形が印刷されるページの合計横幅の百分率で示します。

指定した値、およびその値と HOFFSET (図形の左側余白) 値の合計は、ともに、100 (パーセント) を超えてはなりません。

ユーザーの処置: CWIDTH の数値として、0 よりも大きく、しかも HOFFSET 値との合計が 100 (パーセント) を超えない値を指定してください。

DSQ21293

メッセージ: CWIDTH は 0 以上の数値でなければなりません。

説明: CWIDTH は、UNITS で指定した単位による図形域の横幅です。

指定した値、およびその値と HOFFSET (図形の左側余白) 値の合計は、ともに、図形が印刷される用紙の横幅を超えてはなりません。

ユーザーの処置: CWIDTH の数値として、0 よりも大きくてしかも HOFFSET 値との合計が印刷横幅を超えないような値を指定してください。

DSQ21294

メッセージ: DSQ21290 を参照してください。

DSQ21295

メッセージ: DSQ21291 を参照してください。

DSQ21296

メッセージ: DSQ21260 を参照してください。

DSQ21297

メッセージ: DSQ21261 を参照してください。

DSQ21298

メッセージ: CLENGTH の百分率は 0 から 100 まででなければなりません。

説明: CLENGTH は、図形域の縦幅です。UNITS=PERCENT が使用されているので、この縦幅は、図形が印刷されるページの合計縦幅の百分率で示します。

指定した値、およびその値と VOFFSET (図形の上側余白) 値の合計は、ともに、100 (パーセント) を超えてはなりません。

ユーザーの処置: CLENGTH の数値として 0 よりも大きく、しかも VOFFSET 値との合計が 100 (パーセント) を超えない値を指定してください。

DSQ21299

メッセージ: CLENGTH は 0 以上の数値でなければなりません。

説明: CLENGTH は、UNITS で指定した単位による図形域の縦幅です。

指定した値、およびその値と VOFFSET (図形の

上側余白) 値の合計は、ともに、図形が印刷される用紙の縦幅を超えてはなりません。

ユーザーの処置: CLENGTH の数値として、0 よりも大きくてしかも VOFFSET 値との合計が印刷縦幅を超えないような値を指定してください。

DSQ21300

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ21305, DSQ21306

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ21326

メッセージ: DSQ20046 を参照してください。

DSQ21327

メッセージ: DSQ20042 を参照してください。

DSQ21328

メッセージ: CHECK が使用できるのは書式が表示される場合だけです。

説明: CHECK を指定すると、書式に対するエラー検査および警告のための検査が行なわれます。CHECK は、書式パネルのうちの 1 つから入力しなければなりません。

CHECK がプロシージャの中で使用されている場合には、現オブジェクト・パネルはプロシージャ内のコマンドをプロシージャに現れるとおりの順序でコマンド域に入力していた場合に表示されるパネルと同じものです。

ユーザーの処置: 書式に対してエラー検査および警告のための検査を行ないたい場合には、書式を表示し、CHECK コマンドを再入力してください。

DSQ21329

メッセージ: DSQ20746 を参照してください。

DSQ21350

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ21351

メッセージ: CURRENT DEGREE に与えられた値が無効です。

説明: エラーは以下のいずれかが原因で起こったと思われます。

1. CURRENT DEGREE に与えられた値がブランクである。
2. CURRENT DEGREE に与えられた文字の長さが 3 文字よりも長い。

ユーザーの処置: CURRENT DEGREE の値を訂正してから続けてください。

DSQ21353

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ21354

メッセージ: 照会が長すぎます。

説明: SQL 照会が、置き換え後の変数の値を含めて、データベース管理機能が扱える大きさを超えています。これは、照会の中のコメント部分と不要な大部分のブランクをそのオブジェクトから外した上でのことです。

ユーザーの処置: 照会文テキスト内部の不要なブランク行を取り除き、可能であれば照会をもっと短く書き直すか 2 つの短い照会に書き換えてください。

DSQ21355

メッセージ: SQLID に指定した値が正しくありません。

説明: エラーは以下のいずれかが原因で起こったと思われます。

1. SQLID への指定値がブランクです。

2. SQLID への指定値が 8 文字を超えています。

ユーザーの処置: SQLID の値を訂正して、継続します。

DSQ21357

メッセージ: 参照されている置換変数の数が 100 を超えています。

説明: '&変数' の形式をした異なった名前が照会またはプロシージャの中で 100 個を超えている場合、その照会またはプロシージャは実行されず、また照会に変換もされません。

ユーザーの処置: 参照されている置換変数の数を 100 個以下に減らし、再試行してください。

DSQ21358

メッセージ: DSQ21354 を参照してください。

DSQ21360

メッセージ: &V2 で始まる変数の長さが、18 文字を超えています。

説明: 変数名は 18 文字以下でなければなりません。

ユーザーの処置: より短い変数名を選択してください。

DSQ21390

メッセージ: OK、カーソルは位置づけられました。

DSQ21400

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ21402 - DSQ21405

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ21416

メッセージ: &V2 は無効です。

説明: 引用符の内側の値はすべてブランクです。

ユーザーの処置: コマンドを修正して、再び試みてください。

DSQ21419

メッセージ: ロケーション名がありません。

説明: CONNECT コマンドの形式は次のとおりです。CONNECT ユーザー ID TO ロケーション (PASSWORD =パスワード)

“ロケーション” は接続したいロケーションの名前です。

ユーザーの処置: “TO” を除去するか、またはロケーション名を追加し、コマンドを再度出してください。

DSQ21420

メッセージ: サーバー名とパスワードが入力されましたが、ユーザー ID がありません。

説明: パスワードを入力した場合には、ユーザー ID も入力しなければなりません。このユーザー ID は接続を行う権限を持つユーザーを識別します。そのパスワードは指定しているユーザー ID の権限を使ってデータベースを接続させます。

ユーザーの処置: ユーザー ID とパスワードの両方を入れてコマンドを再度出してください。

DSQ21421

メッセージ: CONNECT コマンドは、ユーザー ID またはパスワードを使用できません。

説明: データベースに接続するときに、ユーザー ID とパスワードを否認するような環境で QMF が実行中です。CONNECT コマンドの有効な形式は以下のとおりです。CONNECT TO ロケーション “TO” はロケーション名の前に必須です。ロ

ケーション名は接続したいロケーションの名前です。

ユーザーの処置: CONNECT コマンドを変更し、再度コマンドを出してください。

DSQ21422

メッセージ: ロケーション名が長すぎます。

説明: ロケーション名の許される最大長は、二重引用符で名前を囲むか、囲まないかで決まります。

1. 二重引用符なしではロケーション名は &V1 になります。
2. 二重引用符がある場合、ロケーション名に引用符を加えると &V2 になり、これによってロケーション名は &V3 になります。

ユーザーの処置: ロケーション名を短くし、コマンドを再び出してください。

DSQ21423

メッセージ: CONNECT に対して名前が多すぎます。

説明: CONNECT コマンドの有効な形式は次のとおりです。CONNECT ユーザー ID (PASSWORD =パスワード)

ユーザー ID は、DB2 サーバー (VSE および VM 版) のユーザー ID です。この権限により、接続が行われます。パスワードは DB2 サーバー (VSE および VM 版) のパスワードで、指定されたユーザー ID の権限を使用してデータベースに接続します。

この “名前” にはブランクを入れることはできません。

必須 PASSWORD キーワード・オプションを使用する前に、CONNECT USER1 (PASSWORD = PW のように左括弧を忘れないでください。

ユーザーの処置: CONNECT コマンドを上記の形式に変更して、再びコマンドを出してください。

DSQ21424

メッセージ: "CONNECT TO" コマンドにはロケーション名が必須です。

説明: データベースに接続するとき、ロケーション名が必須であるような環境で QMF は実行中です。CONNECT コマンドの有効な形式は以下のとおりです。CONNECT TO ロケーション "TO" はロケーション名の前に必須です。ロケーション名は接続したいロケーションの名前です。

ユーザーの処置: CONNECT コマンドにロケーション名を指定して、再度コマンドを出してください。

CONNECT コマンド・プロンプト・パネルで LIST PF キーを押すと、ロケーション名のリストを見ることができます。

DSQ21425

メッセージ: &V1 の後の &V2 が無効です。

説明: CONNECT コマンドの有効な形式は次のとおりです。CONNECT ユーザー ID TO ロケーション (PASSWORD = パスワード ロケーション名を指定する場合、ユーザー ID とロケーション名の間には "TO" を使わなければなりません。

ユーザーの処置: CONNECT コマンドを変更し、再度コマンドを出してください。

DSQ21426

メッセージ: DSQ20388 を参照してください。

DSQ21427

メッセージ: "TO" のあとに項目が多すぎます。

説明: この環境での CONNECT コマンドの形式は次のとおりです。

CONNECT TO ロケーション

"ロケーション" は接続したいロケーションの名前です。

ユーザーの処置: CONNECT コマンドを変更し、再度コマンドを出してください。

DSQ21428

メッセージ: 左括弧に先行する項目が多すぎます。

説明: CONNECT コマンドの形式は以下のものです。

CONNECT ユーザーID TO ロケーション (PASSWORD = パスワード

「ユーザー ID」は、DB2 サーバー (VSE および VM 版) のユーザー ID です。この権限により、接続が行われます。「ロケーション」は接続したいロケーションの名前です。左括弧("("を使用して、後続のキーワード・オプションを見てください。パスワードは DB2 サーバー (VSE および VM 版) のパスワードで、指定されたユーザー ID の権限を使用してデータベースに接続します。

ユーザーの処置: CONNECT コマンドを変更し、再度コマンドを出してください。

DSQ21429

メッセージ: &C1 には有効な名前が必要です。&C2 は有効な名前ではありません。

説明: &C1 に続く名前は以下のように指定します。

- 有効な DB2 許可 ID の規則に準拠する必要があります。
- 単一引用符で囲むことはできません。
- 最大 &LA. 文字まで指定できます。

ユーザーの処置: &C2 の代りに有効な名前を指定しコマンドを再度出してください。

DSQ21430

メッセージ: CONNECT コマンドは使用できません。

説明: 新しいユーザー ID またはロケーションに接続することを許さない環境で QMF を実行中です。

ユーザーの処置: CONNECT コマンドについてオンライン・ヘルプを見るか、システムについて「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ21431

メッセージ: DSQ20338 を参照してください。

DSQ21432

メッセージ: DSQ21429 を参照してください。

DSQ21433

メッセージ: CONNECT は PASSWORD キーワード・オプションが必要です。

説明: CONNECT コマンドの形式は以下のものです。

CONNECT ユーザー ID TO ロケーション (PASSWORD = パスワード

PASSWORD オプションは、DB2 サーバー (VSE および VM 版) に対してのみ有効です。このオプションはユーザー ID を指定した場合、使用しなければなりません。パスワードの値により、指定したユーザー ID の権限を使用してデータベースに接続できます。

ユーザーの処置: PASSWORD オプションを追加し、CONNECT コマンドを再度出してください。

DSQ21434

メッセージ: PASSWORD の値が引用符がなく、8 文字を超えています。

説明: PASSWORD オプションの値として、次の値を使用しています。

&V2

PASSWORD 値は、引用符を用いない場合は最大 8 文字まで、値を単一または二重の引用符で囲んだ場合は最大 10 文字まで指定できます。

ユーザーの処置: PASSWORD 値を訂正してください。

DSQ21435

メッセージ: パスワードで、オプション &V2 を完全な形にしてください。

説明: オプション &V2 は、値がなければ不完全です。PASSWORD の値は、単一または二重の引用符で囲むことができます。また、有効な DB2 サーバー (VSE および VM 版) パスワードの規則に合致していなければなりません。

ユーザーの処置: PASSWORD オプションを完全なものにして、CONNECT コマンドを再入力してください。

DSQ21436

メッセージ: PASSWORD の後に有効な DB2 サーバー (VSE および VM 版) パスワードを使用します。

説明: &V2 は有効な DB2 サーバー (VSE および VM 版) パスワードではありません。値は引用符に囲まない場合は最大 8 文字まで、単一または二重の引用符で囲めば最大 10 文字まで指定できます。有効な DB2 サーバー (VSE および VM 版) パスワードの規則に従ってください。

ユーザーの処置: 有効な DB2 サーバー (VSE および VM 版) パスワード値を指定し、コマンドを再実行してください。

DSQ21437

メッセージ: &V2 は CONNECT には指定できません。

説明: CONNECT の唯一の有効なオプションは PASSWORD で、CONNECT コマンドの形式は以下のものです。

CONNECT ユーザー ID TO ロケーション (PASSWORD = パスワード

ユーザーの処置: CONNECT コマンドを変更し、再度コマンドを出してください。

DSQ21438

メッセージ: DSQ20061 を参照してください。

DSQ21439

メッセージ: DSQDCONN に内部エラーが検出されました。DXECVS データが無効です。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。

Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ21440

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ21441

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ21442

メッセージ: CONNECT コマンドには、ロケーションおよびユーザー ID とパスワード、あるいはその両方が必要です。

説明: CONNECT コマンドの形式は次のとおりです。CONNECT ユーザーID TO ロケーション (PASSWORD = パスワード「ユーザーID」は接続を行う権限を持つ DB2 サーバー (VSE および

VM 版) のユーザー ID です。「ロケーション」は接続したいロケーションの名前です。「パスワード」は指定されたユーザー ID の権限を使ってデータベースへの接続を可能にする DB2 サーバー (VSE および VM 版) のパスワードです。

ユーザーの処置: CONNECT コマンドを変更し、再度コマンドを出してください。

DSQ21443

メッセージ: DSQ21424 を参照してください。

DSQ21444

メッセージ: &V1 の後の &V2 が無効です。

説明: CONNECT コマンドの有効な形式は次のとおりです。CONNECT TO ロケーション ロケーション名を指定する場合には、CONNECT とロケーション名の間には "TO" を使用する必要があります。

ユーザーの処置: CONNECT コマンドを変更し、再度コマンドを出してください。

DSQ21445

メッセージ: DSQ21421 を参照してください。

DSQ21446

メッセージ: DSQ21424 を参照してください。

DSQ21447

メッセージ: CONNECT コマンドは "TO" またはロケーション名を使用できません。

説明: データベースに接続するとき、ロケーション名を否認するような環境で QMF が実行中です。CONNECT コマンドの有効な形式は次のとおりです。CONNECT userid (PASSWORD = password。userid は DB2 サーバー (VSE および VM 版) のユーザー ID で、このユーザー ID の権限で接続を行います。password は DB2 サーバー (VSE および VM 版) のパスワードで、指定

されたユーザー ID の権限を使用してデータベースに接続させます。

ユーザーの処置: CONNECT コマンドを変更し、再度コマンドを出してください。

DSQ21448, DSQ21449

メッセージ: DSQ20388 を参照してください。

DSQ21450

メッセージ: DSQ20343 を参照してください。

DSQ21451

メッセージ: DSQ20061 を参照してください。

DSQ21452, DSQ21453

メッセージ: DSQ20006 を参照してください。

DSQ21454

メッセージ: DSQ20388 を参照してください。

DSQ21455 - DSQ21456

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ21457

メッセージ: SET に対し PROFILE または GLOBAL だけを使用してください。

説明: SET コマンドの正しい形式は次のとおりです。

プロファイルの設定:

SET PROFILE (オプション・リスト)
SET (オプション・リスト)

少なくとも以下のオプションが 1 つ必要です。

CASE	CONFIRM	DECIMAL
LANGUAGE	LENGTH	MODEL
PRINTER	SPACE	TRACE
WIDTH		

グローバル変数の設定:
SET GLOBAL (変数リスト)

変数リストには 1 以上 10 未満の変数を指定しなければなりません。

ユーザーの処置: SET コマンドを訂正し再度、入力してください。

DSQ21458

メッセージ: DSQ20339 を参照してください。

DSQ21459, DSQ21460

メッセージ: DSQ21457 を参照してください。

DSQ21461

メッセージ: SET の後に指定された名前が多すぎます。

説明: SET コマンドに許されている形式は次のとおりです。

プロファイルの設定:

SET PROFILE (オプション・リスト)
SET (オプション・リスト)

グローバル変数の設定:
SET GLOBAL (変数リスト)

コマンドには、SET とオプション・リストの先頭との間に複数の語が指定されています。始めの左括弧を忘れていないですか。

ユーザーの処置: SET コマンドを変更し再度、入力してください。

DSQ21462

メッセージ: CASE の後には &V3. ではなく、UPPER、STRING、または MIXED を使用してください。

説明: CASE に指定できる値およびその意味は次のとおりです。

UPPER - すべてのキーボード入力は大文字に変換されます。

STRING - キーボード入力は、コメント、引用符で囲まれた文字、および書式内の次のフィールドを除き、大文字で変換されます。
-- 列見出し
-- ページ、詳細、切れ目、および最終テキスト

MIXED - キーボード入力は変更されません。コマンド・キーワードおよび SQL の予約語は大文字で入力しなければなりません。

ユーザーの処置: CASE の値を UPPER、STRING、または MIXED のいずれかに変更し ENTER キーを押してください。

DSQ21463

メッセージ: CASE に UPPER、STRING、または MIXED を指定してください。

説明: CASE に値を指定してください。指定できる値およびその意味は次の通りです。

UPPER - すべてのキーボード入力は大文字に変換されます。

STRING - キーボード入力は、コメント、引用符で囲まれた文字、および書式内の次のフィールドを除き、大文字で変換されます。
-- 列ヘッダー
-- ページ、詳細、切れ目、および最終テキスト

MIXED - キーボード入力は変更されません。コマンド・キーワードおよび SQL の予約語は大文字で入力しなければなりません。

ユーザーの処置: CASE の後に UPPER、STRING、または MIXED を入力し、ENTER キーを押してください。

DSQ21464

メッセージ: DSQ21462 を参照してください。

DSQ21465

メッセージ: DECIMAL の後には &V3 ではなく、PERIOD、COMMA、または FRENCH を使用してください。

説明: DECIMAL の値は、編集コード D、I、J、

K、または L の列の書式化にどの規則を適用するかを指示します。指定できる値は、PERIOD、COMMA、または FRENCH のいずれかです。

DECIMAL の値: コードが K の数値 123456789/100 は次のように表示されます。

PERIOD 1,234,567.89 (米国での標準)
COMMA 1.234.567,89 (欧州での標準)
FRENCH 1 234 567,89 (フランスでの標準)

ユーザーの処置: DECIMAL オプションを PERIOD、COMMA、または FRENCH に変更し、ENTER キーを押してください。

DSQ21466

メッセージ: DECIMAL に PERIOD、COMMA、または FRENCH を指定してください。

説明: DECIMAL の値は、編集コード D、I、J、K、または L の列の書式化に、どの規則を適用するかを指示します。指定できる値は、PERIOD、COMMA、または FRENCH です。

DECIMAL の値: コードが K の数値 123456789/100 は次のように表示されます。

PERIOD 1,234,567.89 (米国での標準)
COMMA 1.234.567,89 (欧州での標準)
FRENCH 1 234 567,89 (フランスでの標準)

ユーザーの処置: DECIMAL に PERIOD、COMMA、または FRENCH を入力して、ENTER キーを押してください。

DSQ21467

メッセージ: DSQ21465 を参照してください。

DSQ21468

メッセージ: CONFIRM の後には &V3. ではなく YES または NO を使用してください。

説明: CONFIRM の値は、変更を中止したい場合、次の処理をその完了前に一時停止させることができるようにするかどうかを指示します。

1. データベースを変更することになる照会。

2. データベースを変更することになるコマンド。
3. ファイル / データ・セットの置き換えを行なわせることになるコマンド。

値が YES の場合、各変更を中止する機会がユーザーに与えられ、NO の場合には、その機会是与えられません。

ユーザーの処置: CONFIRM の値を YES または NO に変更し ENTER キーを押してください。

DSQ21469

メッセージ: CONFIRM に YES または NO を指定してください。

説明: CONFIRM の値は、変更を中止したい場合、次の処理をその完了前に一時停止させることができるようにするかどうかを指示します。

1. データベースを変更することになる照会。
2. データベースを変更することになるコマンド。
3. ファイル / データ・セットの置き換えを行なわせることになるコマンド。

値が YES の場合、各変更を中止する機会がユーザーに与えられ、NO の場合には、その機会是与えられません。

ユーザーの処置: CONFIRM のあとに YES または NO を入力し ENTER キーを押してください。

DSQ21470

メッセージ: DSQ21468 を参照してください。

DSQ21471

メッセージ: WIDTH は &V3 ではなく、22 から 999 までを使用してください。

説明: WIDTH は、1 印刷行に印刷できる文字数を示します。指定した幅より長い行は、右側の部分が切り捨てられます。指定する幅の値は、印刷

する用紙の幅にそれが収まることを保証していません。要求したすべてのものが印刷されるようにしたい場合には、用紙より狭い幅を指定してください。

ユーザーの処置: WIDTH の値を 22 から 999 までの範囲内の値に変更してください。

DSQ21472

メッセージ: WIDTH には 22 から 999 までの数値を使用してください。

説明: WIDTH は、1 印刷行に印刷できる文字数を示します。指定した幅より長い行は、右側の部分が切り捨てられます。指定する幅の値は、印刷する用紙の幅にそれが収まることを保証していません。要求したすべてのものが印刷されるようにしたい場合には、用紙より狭い幅を指定してください。

ユーザーの処置: WIDTH に 22 から 999 までの範囲内の数値を指定してください。

DSQ21473

メッセージ: DSQ21471 を参照してください。

DSQ21474

メッセージ: LENGTH は &V3 ではなく、1 ~ 999 の数値、または CONT を指定してください。

説明: LENGTH オプションに指定する値は、1 から 999 までの範囲の数値、または CONT でなければなりません。CONT を指定すると、ページの切れ目のない連続印刷が行なわれます。

ユーザーの処置: LENGTH の値を、1 から 999 までの数値、または CONT に変更してください。

DSQ21475

メッセージ: LENGTH として 1 ~ 999 の数値または CONT を指定してください。

説明: LENGTH オプションに指定する値は、1 から 999 までの範囲の数値、または CONT でなければなりません。CONT を指定すると、ページの切れ目のない連続印刷が行なわれます。

ユーザーの処置: LENGTH に、1 から 999 までの値、または CONT を指定してください。

DSQ21476

メッセージ: LENGTH は &V3 ではなく、1 ~ 999 の数値、または CONT を指定してください。

説明: LENGTH オプションに指定する値は、1 から 999 までの範囲の数値、または CONT でなければなりません。CONT を指定すると、ページの切れ目のない連続印刷が行なわれます。

ユーザーの処置: LENGTH の値を、1 から 999 までの数値、または CONT に変更してください。

DSQ21477

メッセージ: SPACE オプションを完成させてください。

説明: SPACE のあとに値が必要です。この値は次のいずれかです。

1. ' ' (コマンド行から)
2. スペース名
3. ID スペース名

スペース名 既存のデータベース・スペースの 18 文字以下の名前であればなりません。

ID 8 文字以下の許可 ID でなければなりません。

プロンプト・パネルを使ってこのオプションをブランクにすることはできません。

ユーザーの処置: SPACE のあとに正しい値を追加するか、または SPACE を削除してください。

DSQ21478

メッセージ: TRACE オプションが不完全です。

説明: TRACE に指定できる値は、NONE、ALL、または機能 ID (A、C、D、E、F、G、I、L、P、R、または U が指定できます) とトレース・レベル (0、1、または 2) を対にして指定した文字列です。たとえば、C2D2E0F1I2 は有効な一連の機能 ID です。

ユーザーの処置: TRACE の値を入力してください。

DSQ21479

メッセージ: TRACE の ID &V3 とともにレベルを指定する必要があります。

説明: 使用した TRACE の値の中で、機能 ID &V3 のあとにレベルが指定されていませんでした。有効なレベルは次のとおりです。

- 0 - トレースを行わない
- 1 - トレース機能のモジュール入り口点と入出力パラメーター
- 2 - (1) に内部データを追加してトレースする

TRACE に指定できる値は、NONE、ALL、または機能 ID (A、C、D、E、F、G、I、L、P、R、または U が指定できます) とトレース・レベル (0、1、または 2) を対にして指定した文字列です。たとえば、C2D2E0F1I2 は有効な一連の機能 ID です。

ユーザーの処置: &V3 とともに有効なトレース・レベルを使用してください。

DSQ21480

メッセージ: TRACE 値 &V3 の中に無効なレベルがあります。

説明: &V3 のトレース・レベルに無効なレベルがあります。有効なレベルは次のとおりです。

- 0 - トレースを行わない
- 1 - トレース機能のモジュール入り口点と入出力パラメーター
- 2 - (1) に内部データを追加してトレースする

- 3 - (1) に特殊モジュール用の内部データを追加したもの
- 4 - トレース入り口点、入出力パラメーター、特殊モジュール用の他の内部データ

TRACE の値として指定できるのは、NONE または ALL、または、トレース・レベル (0、1、2、3、4) を随所に配置した一連の機能 ID (A、C、D、E、F、G、I、L、P、R、または U) です。たとえば、C2D2E0F1I2 は有効な一連の機能 ID です。

ユーザーの処置: 有効なトレース・レベル使用してください。

DSQ21481

メッセージ: TRACE 値 &V3 は無効です。

説明: 次の値が TRACE の後で有効です。

1. ALL (全構成要素をトレースする場合)
2. NONE (なにもトレースしない場合)
3. トレース・レベル (0、1、2、3 または 4) に代わる一連の機能 ID (A、C、D、E、F、G、I、L、P、R または U) たとえば、C2D2E0F1I2 は有効な一連の機能 ID です。

TRACE 値にブランクを含むことはできません。

ユーザーの処置: TRACE の後ろには、有効な値を使用してください。

DSQ21482

メッセージ: TRACE 値 &V3 に無効な機能 ID があります。

説明: TRACE の値として指定できるのは、ALL または NONE、または、トレース・レベルを随所に配置した ID です。

有効な ID は A、C、D、E、F、G、I、L、P、R、または U です。トレース・レベルは 0、1、または 2 です。たとえば、一連の C2D2E0F1I2 は有効です。

&V3 の ID の 1 つが正しくありません。

ユーザーの処置: 有効な機能 ID を使用してください。

DSQ21483

メッセージ: DSQ21481 を参照してください。

DSQ21484

メッセージ: LANGUAGE の後に &V3 ではなく、QBE、SQL、または PROMPTED を指定してください。

説明: &V3 は LANGUAGE オプションとして無効です。次のいずれかを使用してください。

1. SQL デフォルトの照会言語を SQL に設定する
2. QBE デフォルトの照会言語を QBE に設定する
3. PROMPTED デフォルトの照会言語を指示照会に設定する

ユーザーの処置: LANGUAGE の値を SQL、QBE、または PROMPTED に変更し、操作を続けてください。

DSQ21485

メッセージ: LANGUAGE の後には QBE、SQL、または PROMPTED を使用してください。

説明: LANGUAGE オプションは値が指定されていないため不完全です。次のいずれかを使用してください。

1. SQL デフォルトの照会言語を SQL に設定する
2. QBE デフォルトの照会言語を QBE に設定する
3. PROMPTED デフォルトの照会言語を指示照会に設定する

ユーザーの処置: LANGUAGE の後には QBE、SQL、または PROMPTED を使用してください。

DSQ21486

メッセージ: DSQ21484 を参照してください。

DSQ21487

メッセージ: SET PROFILE とともに &V2 を使用することはできません。

説明: SET PROFILE コマンドとともに &V2 を使用できません。下記のオプションだけを使用してください。

CASE	LENGTH	SPACE
CONFIRM	MODEL	TRACE
DECIMAL	PRINTER	WIDTH
LANGUAGE		

ユーザーの処置: &V2 を変更するか、その値、およびそれ以降の値を除去してください。

DSQ21488

メッセージ: SET PROFILE には、少なくとも 1 つのオプションが必要です。

説明: SET PROFILE は PROFILE 中の値を変更するために使用します。SET PROFILE (option=value option=value を入力します。SET PROFILE の有効なオプションは、以下のとおりです。

CASE	LANGUAGE	SPACE
CONFIRM	LENGTH	TRACE
DECIMAL	MODEL	WIDTH
	PRINTER	

ユーザーの処置: SET PROFILE コマンドにオプションを少なくとも 1 つ追加し、その上で、このコマンドを再実行してください。

DSQ21489, DSQ21490

メッセージ: 変数 &V1. は設定できません。

説明: QMF は英字 DSQ を自分専用に予約しています。一般的に DSQ で始まるグローバル変数は設定できません。例外はいくつかあります。それらの DSQ 変数は「DB2 QMF 解説書」にリ

ストされています。指定できない名前を選択しています。

ユーザーの処置: DSQ 変数名を指定できる名前に変更するか、または DSQ の文字以外で始まる変数を使用してください。

DSQ21491

メッセージ: SPACE の値が 50 を超えています。

説明: SPACE の値として次のものが使用されています。

&V2

この値は、許容最大長の 50 を超えています。

ユーザーの処置: SPACE の値を変更してください。

DSQ21492

メッセージ: &V1 は無効なグローバル変数名です。

説明: グローバル変数の名前は、英字または各国語文字で始まり、その後英字、数字または「DB2 QMF 解説書」で定義されたその他の文字が続きます。名前の最大長は 17 文字です。

SET GLOBAL コマンドでは RUN や CONVERT コマンドとはちがひ、変数名の前にアンパーサンドを付けしないでください。また数字で始めることもできません。

ユーザーの処置: &V1 を有効な名前に替えてコマンドを再実行してください。

DSQ21493

メッセージ: TRACE の値の長さが 18 を超えています。

説明: TRACE オプションとして以下の値が使用されています。

&V2

この値は、許容最大長の 18 文字を超えています。

ユーザーの処置: TRACE の値を変更してください。

DSQ21494

メッセージ: DSQ21481 を参照してください。

DSQ21495

メッセージ: SPACE オプションを完成させてください。

説明: SPACE の後に値が必要です。次の値を指定できます。

1. ' '
2. 名前 1.名前 2
3. 'DATABASE 名前 1'

名前 1 既存のデータベースの名前 (8 文字以下) でなければなりません。

名前 2 既存の表スペースの名前 (8 文字以下) でなければなりません。

ユーザーの処置: 有効な値を SPACE 後に追加するか、または SPACE を削除してください。

DSQ21496

メッセージ: PRINTER オプションが不完全です。

説明: PRINTER の後には値が必要です。この値は次のとおりでなければなりません。

1. 英字、数字、および特定の特殊文字から成る名前。この名前は数字で始めることはできず、また 8 文字を超える長さにはできません。
2. ブランク (コマンド行では、単一引用符 ' ' で囲んでください。)

PRINTER 名は、所定のプリンターに出力を送るために、GDDM 印刷サポートによって使用されます。この値がブランクの場合には、出力は

QMF 標準出力装置に送られます。プロンプト・パネルを使ってこのオプションをブランクにすることはできません。

ユーザーの処置: PRINTER のあとに有効なプリンター名を追加してください。それでも問題が解決しなければ、操作担当者またはシステム・プログラマーに連絡を取ってさらに援助を得てください。

DSQ21497 - DSQ21503

メッセージ: PRINTER の後の &V2 が無効です。

説明: PRINTER 名が無効です。この名前は、英字、数字、および特定の特殊大文字で構成できます。長さは 8 文字を超えてはなりません。PRINTER 値はブランクのままにしておけます。

PRINTER 名は、所定のプリンターに出力を送るために、GDDM 印刷サポートによって使用されます。この値がブランクの場合には、出力は QMF 標準出力装置に送られます。

(プロンプト・パネルではなく) コマンド行でブランク値を入力する場合、ブランクを単一引用符で囲んでください(' ')。プロンプト・パネルを使ってこのオプションをブランクにすることはできません。

ユーザーの処置: PRINTER 名の値を訂正してください。詳細は、操作担当員、またはシステム・プログラマーに相談してください。

DSQ21504 - DSQ21505

メッセージ: コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: &V1 コマンドのプロンプト・パネルのメッセージは、エラー・メッセージではありません。&V1 コマンドを完了し実行するため、プロンプト・パネルの指示にしたがうように通知しています。

ユーザーの処置: パネルのフィールド (単数また

は複数)に入力し、ENTER キーを押してコマンドを実行してください。必須フィールドがすでに指定されている場合は、ENTER キーを押してください。

DSQ21506

メッセージ: SET に対し PROFILE または GLOBAL だけを使用してください。

説明: SET コマンドの正しい形式は次のとおりです。

プロファイルの設定:

SET PROFILE (オプション・リスト)
SET (オプション・リスト)

少なくとも以下のオプションの 1 つが必要です。

CASE	CONFIRM	DECIMAL
LANGUAGE	LENGTH	MODEL
PRINTER	SPACE	TRACE
WIDTH		

グローバル変数の設定:

SET GLOBAL (変数リスト)

変数リストには 1 以上 10 未満の変数を指定しなければなりません。

ユーザーの処置: SET コマンドを訂正し再度、入力してください。

DSQ21507 - DSQ21509

メッセージ: DSQ21504 を参照してください。

DSQ21510

メッセージ: 設定するグローバル変数をリストしてください。

説明: SET GLOBAL コマンドを入力しましたが、変数を入力していません。このコマンドの形式は次のとおりです。

SET GLOBAL (G1=V1, G2=V2, ...)

ここで、GN はグローバル変数の名前で、VN はその値です。最大 10 個の変数を指定できます。

ユーザーの処置: 最低 1 つの変数および値を指定してコマンドを再試行してください。

DSQ21511

メッセージ: 使用されているグローバル変数の数が 10 個を超えています。

説明: &V1 GLOBAL コマンドを出しましたが、変数の数が 10 個を超えています。最大 10 個を指定できます。

ユーザーの処置: 変数の数を 10 個以下に減らし、再試行してください。

DSQ21512

メッセージ: &V1 の値が 2000 文字を超えています。

説明: &V1 の値が 2000 文字の制限を超えています。

ユーザーの処置: 2000 文字以下の値を使用し (引用符を含まない)、コマンドを再試行してください。

DSQ21513

メッセージ: DSQ21492 を参照してください。

DSQ21514

メッセージ: &V1 に値を指定してください。

説明: SET GLOBAL コマンドの形式は次のとおりです。

SET GLOBAL (G1=V1, G2=V2, ...)

ここで、GN はグローバル変数の名前で、VN はその値です。変数 &V1 を指定しましたが、その値を指定していません。

ユーザーの処置: &V1 に対して値を指定し、コマンドを再試行してください。

DSQ21515

メッセージ: 値に変数名を指定してください。

説明: SET GLOBAL の形式は次のとおりです。

SET GLOBAL (G1=V1, G2=V2, ...

ここで、Gi はグローバル変数の名前で、Vi はその値です。プロンプト・パネルに値を指定しましたが、対応する変数名を指定していません。

ユーザーの処置: グローバル変数名を指定し、コマンドを再試行してください。

DSQ21516

メッセージ: DSQ21514 を参照してください。

DSQ21517

メッセージ: DSQ21512 を参照してください。

DSQ21518

メッセージ: DSQ21492 を参照してください。

DSQ21519

メッセージ: DSQ21510 を参照してください。

DSQ21520

メッセージ: MODEL の後には &V2 ではなく、REL を使用してください。

説明: 値 &V2 は MODEL オプションとして無効です。リレーショナル・データの照会には、REL を使用してください。

ユーザーの処置: モデルの値を REL に変更して続けてください。プロファイルで設定されているモデルの値を使用するなら MODEL オプションを省略してください。

DSQ21521

メッセージ: REL で &V2 オプションを完全にしてください。

説明: オプション &V2 は、値がなければ不完全です。リレーショナル・データの照会には、&V2=REL を使用してください。

ユーザーの処置: そのコマンドを完全にして続行してください。

DSQ21522

メッセージ: DSQ21520 を参照してください。

DSQ21524

メッセージ: &V1 の有効な値は、&V2 から &V3. までです。

説明: グローバル変数 &V1 は、&V2 と &V3 の範囲の整数値にのみ設定できます。

ユーザーの処置: 指定された範囲内の整数に値を変更してください。

値に、プラス符号、小数点または先行ゼロを含まないようにしてください。

入力パネルに値を入力するときは、引用符付きストリングを使用しないでください。たとえば、'1' ではなく 1 という値を使用してください。

DSQ21525

メッセージ: INTERACT コマンドでは INTERACT というコマンドは指定できません。

説明: コマンド・インターフェースを介して入力された INTERACT コマンドでは、あるコマンドを実行できるユーザー対話および表示を限定できません。INTERACT コマンドによって対話自体を実行させることはできません。

ユーザーの処置: INTERACT を使う場合には、INTERACT をコマンドとして指定しないでください。

DSQ21529

メッセージ: オブジェクト・パネルの表示には、対話式 QMF セッションが必要です。

説明: アプリケーションが、INTERACT を指定して、新しい対話セッションを開始しようとしたのですが、INTERACT の後にコマンドが続いていません。その場合は、通常、現在の QMF オブジェクト・パネルが表示されます。セッションが対話式でなかったため、表示できませんでした。

QMF がバッチ・モードで実行されていたか、または INTERACT コマンドを出したアプリケーションが、セッションが対話式でない時に起動されたかのどちらかです。

ユーザーの処置: QMF がバッチ・モードで実行されていたか、または、非対話式 QMF からアプリケーションが実行されていた場合には、オブジェクトの表示を要求する目的で INTERACT コマンドを使わないでください。

DSQ21541

メッセージ: この CICS 変数名は設定できません。

説明: 入力されたグローバル名 &V1 は、CICS 環境以外では無効です。現在の環境でのこの変数の設定値には、意味がありません。

ユーザーの処置: 他のグローバル変数を設定しようとしていた場合は、正しいグローバル変数名を指定して、再試行してください。

DSQ21542

メッセージ: 指定された CICS グローバル変数のキュー名が長過ぎます。

説明: 次のいずれかの理由で、入力されたキュー名 &V1 は無効です。

- 対応するキューのタイプが 'TS' の場合、キュー名が 8 文字より長い。

- 対応するキューのタイプが 'TD' の場合、キュー名が 4 文字より長い。

キューのタイプが 'TD' の場合、キュー名は 4 文字よりも長くすることはできません。キュー名およびキュー・タイプの両方を変更するときは、その両方にグローバル変数を設定する場合は、キュー名を指定する前にキューのタイプを指定してください。

ユーザーの処置: 指定したキュー名より短いキュー名を指定するか、キュー名を指定する前にキューのタイプを 'TS' に変更してください。キュー名は 8 文字より長くすることができない点に、注意してください。

DSQ21543

メッセージ: SPACE オプションを完成させてください。

説明: SPACE のあとに値が必要です。この値は次のいずれかです。

1. ' ' (コマンド行から)
2. スペース名

既存の表スペースの名前は 18 文字またはそれ以下でなければなりません。SYS で始まる名前は使用できません。

プロンプト・パネルを使ってこのオプションをブランクにすることはできません。

ユーザーの処置: SPACE のあとに正しい値を追加するか、または SPACE を削除してください。

DSQ21544

メッセージ: &V1. の値が無効です。

説明: 設定しようとしているグローバル変数を、指定した値に設定することができません。この変数は、長さが 1 のストリングにのみ設定できます。

ユーザーの処置: 可変値フィールドのテキストを、有効な値に変更してください。

DSQ21545

メッセージ: &V1. の値が無効です。

説明: 設定しようとしているグローバル変数を、指定した値に設定することができません。この変数は、シフトイン、シフトアウト文字を含む長さが 4 のストリングにのみ設定できます。

ユーザーの処置: 可変値フィールドのテキストを、有効な値に変更してください。

DSQ21546

メッセージ: &V1. の値が無効です。

説明: グローバル変数を、指定した値に設定することができません。この変数は、長さが 1 から 18 バイトのストリングにのみ設定できます。DBCS 環境では、この変数は、SBCS と DBCS 文字の混合ストリングで設定できます。シフトインとシフトアウト文字を含む混合ストリングの合計の長さは、18 バイトを超えてはなりません。

ユーザーの処置: 可変値フィールドのテキストを、有効な値に変更してください。

DSQ21547

メッセージ: &V1. の値が無効です。

説明: &V1. は、以下の文字ペアのいずれかでなければなりません。1A -デフォルト値 昇順 1D -デフォルト値 降順 2A -所有者 昇順 2D -所有者 降順 3A -名前 昇順 3D -名前 降順 4A -タイプ 昇順 4D -タイプ 降順 5A -修正済み 昇順 5D -修正済み 降順 6A -最終使用日 昇順 6D -最終使用日 降順 たとえば、3A は名前で昇順にソートすることを意味します。

ユーザーの処置: 変数を文字ペアの 1 つに変更してください。

DSQ21548

メッセージ: 値 '&V2.' は &V1. に対して無効です。

説明: グローバル変数 &V1. を、指定した値に設定することはできません。

このグローバル変数を設定して、スクロール・コマンドの FORWARD、BACKWARD、LEFT および RIGHT のデフォルトのスクロール量を変更できます。さらに、スクロール・コマンドの使用できる画面の右下端の移動の後に示される量も変更できます。

&V1. の有効なスクロール移動量の値は、次のとおりです。

1. 1 から 9,999 の数。
2. PAGE
3. HALF
4. CSR

スクロール移動量の MAX は、&V1. には使用できません。

ユーザーの処置: 値を有効なスクロール移動量に変更してください。

DSQ21552 - DSQ21559

メッセージ: SPACE は無効な値、&V3 を含んでいます。

説明: SPACE オプションの値は次のとおりです。

1. ブランク
2. スペース名

スペース名 適正な表スペース名が必要であり、SYS で始まる名前は使用できません。

(プロンプト・パネルではなく) コマンド行でブランク値を入力する場合、ブランクを単一引用符で囲んでください(' ')。プロンプト・パネルを使ってこのオプションをブランクにすることはできません。

ユーザーの処置: SPACE オプションの値を修正して、再度コマンドを提供してください。

DSQ21560

メッセージ: SPACE は無効な値、&V3 を含んでいます。

説明: SPACE オプションの値は次のとおりです。

1. ブランク
2. スペース名
3. ID.スペース名

スペース名 DBSPACE の適正な名前でない限り
なりません。
ID 許可 ID でなければなりません。

(プロンプト・パネルではなく) コマンド行で
ブランク値を入力する場合、ブランクを単一引用符で
囲んでください(' ')。プロンプト・パネルを使っ
てこのオプションをブランクにすることはできま
せん。

ユーザーの処置: SPACE オプションの値を修正
して、再度コマンドを提供してください。

DSQ21561

メッセージ: SPACE は無効な値、&V3 を含んで
います。

説明: SPACE オプションの値は次のとおりで
す。

1. ブランク
2. 名前 1.名前 2
3. 名前 2
4. DATABASE 名前 1

名前 1 適正なデータベース名でなければなりま
せん。
名前 2 適正な表スペース名でなければなりませ
ん。

コマンド行 (プロンプト・パネルではなく) に、
ブランクまたは DATABASE 名前 1 を入力する
さいには、値を単一引用符で囲んでください。例:
' ' または 'DATABASE 名前 1'

ユーザーの処置: SPACE オプションの値を修正

して、再度コマンドを提供してください。

DSQ21562

メッセージ: DSQ21560 を参照してください。

DSQ21563

メッセージ: DSQ21561 を参照してください。

DSQ21564

メッセージ: DSQ21560 を参照してください。

DSQ21565

メッセージ: DSQ21561 を参照してください。

DSQ21566

メッセージ: DSQ21560 を参照してください。

DSQ21567

メッセージ: DSQ21561 を参照してください。

DSQ21568

メッセージ: DSQ21560 を参照してください。

DSQ21569

メッセージ: DSQ21561 を参照してください。

DSQ21570

メッセージ: DSQ21560 を参照してください。

DSQ21571

メッセージ: DSQ21561 を参照してください。

DSQ21572

メッセージ: DSQ21560 を参照してください。

DSQ21573

メッセージ: DSQ21561 を参照してください。

DSQ21574

メッセージ: DSQ21560 を参照してください。

DSQ21575

メッセージ: DSQ21561 を参照してください。

DSQ21576

メッセージ: DSQ21560 を参照してください。

DSQ21582, DSQ21583

メッセージ: 記憶スペースがありません。

説明: 仮想記憶域または QMF 内部バッファにスペースがないので、コマンドを実行できません。

ユーザーの処置: RESET DATA コマンドを使用してください。これにより、追加の記憶スペースを使用できます。現在 DATA を使用していない場合、セッションでさらに記憶スペースが必要である可能性があります。エラーが繰り返される場合は、QMF 管理者に連絡してください。QBE 照会を実行中の場合は、メッセージを受け取らなくなるまで、照会操作行を減らしてください。

DSQ21588 - DSQ21590

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ21591

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ21592

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ21601

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ21602

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ21605

メッセージ: 表示された指示照会はエラーを含んでいます。

説明: エラーはデータベースの無効な参照が原因であると考えられます。たとえば、照会の表名は使用不可能である可能性があります。

2 つまたはそれより多い表を命名している指示照会は、表が使用可能でない場合、異なった表示をします。

ユーザーの処置: 照会が作動するようにデータベースを変更するかまたは、不良な照会を破棄してください。

自分自身の責任で照会を修正することができます。

データベースにない表示された照会で表を削除する場合、表の列参照は自動的に削除されません。

DSQ21606

メッセージ: データ・セット名は完全修飾しなければなりません。

説明: 指定されたデータ・セット名は完全修飾されていません。CICS は、単一引用符で囲まれた MVS 完全修飾データ・セット名を要求していません。

ユーザーの処置: 単一引用符で囲まれた MVS 完全修飾データ・セット名を指定してください。例は、'SMITH.MONDAY.TOTALS' です。

DSQ21607

メッセージ: このデータ・セットを使用する権限がありません。

説明: データ・セット &V1 の使用は、アクセス権限が不十分なので、リソース・アクセス制御機能 (RACF) によって拒否されました。

ユーザーの処置: そのデータ・セットの所有者にデータ・セットのアクセスを許可してもらるか、または異なるデータ・セット名を使用してください。

DSQ21608

メッセージ: &V1 は空です。

説明: &V2 &V3 コマンドで指定されたデータ・セット &V1. は空です。

ユーザーの処置: コマンドで使用しているデータ・セット名を、&V3 があるデータ・セット名に変更して、コマンドを再試行してください。

DSQ21609

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ21610 - DSQ21611

メッセージ: DSQ21504 を参照してください。

DSQ21612

メッセージ: メンバー名で MEMBER を完成させてください。

説明: MEMBER のあとに、QMF オブジェクトをインポートするのに使用するメンバー名を指定してください。

ユーザーの処置: メンバー名を入力して、コマンドを入力し直してください。

DSQ21613

メッセージ: レコード長は少なくとも &V2. でなければなりません。

説明: インポートに関連するファイルのレコード長が、&V1. です。必要とされる有効なデータを含むにはこの長さでは不足です。インポートしようとしている形式のオブジェクトのレコード長は最低 &V2. が必要です。

ユーザーの処置: 別のファイルを指定するようコマンドを修正するか、別のタイプのオブジェクトをインポートしてください。

DSQ21614

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ21615 - DSQ21617

メッセージ: レコード長が &V2. を超えないようにしてください。

説明: インポートに関連するファイルのレコード長が、&V1. です。必要な有効データを含めるには、この長さでは長すぎます。インポートしようとしているオブジェクトのタイプは、レコード長が &V2. を超えてはなりません。

ユーザーの処置: 別のファイルを指定するようコマンドを修正するか、別のタイプのオブジェクトをインポートしてください。

DSQ21618 - DSQ21621

メッセージ: DSQ21613 を参照してください。

DSQ21622 - DSQ21623

メッセージ: &V1 のレコード長は &V2. でなければなりません。

説明: インポートまたはエクスポートにかかわるファイルのレコード長が &V1. です。この長さは、インポートまたはエクスポートしようとしているオブジェクトのタイプのレコード長、すなわ

ち &V2. と適合していません。

ユーザーの処置: コマンドを訂正して、インポート先またはエクスポート先として、別のファイルまたは別のオブジェクト・タイプを指定してください。

DSQ21624

メッセージ: このキュー名からインポートすることはできません。

説明: キュー &V1. を見つけることができません。理由を以下に示します。

- 要求したキューが存在しない。
- キュー名のスペルが誤っている。

ユーザーの処置: キュー名を訂正してから、コマンドを再実行してください。

DSQ21625

メッセージ: インポートしようとしているデータは書式ではありません。

説明: 書式を含んでいないインポート元から、書式をインポートしようとしてしました。

ユーザーの処置: FROM の後の名前を、書式オブジェクトが含まれているインポート元の名前に変更してください。

DSQ21626

メッセージ: &V1 は存在しません。

説明: IMPORT コマンドの形式は、次のとおりです。

1. IMPORT オブジェクト・タイプ FROM インポート元名
2. IMPORT オブジェクト・タイプ オブジェクト名 FROM インポート元名

「インポート元名」は CMS ファイルの名前です。しかし、メッセージで示されたファイルは見つかりません。次の原因が考えられます。

1. ファイル名のスペルに誤りがある。

2. そのファイルが存在しない。

ユーザーの処置: スペルに誤りがあればそれを訂正してください。あるいは、要求したファイルが、指定したディスクにあるか確かめてください。

DSQ21627

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ21628

メッセージ: 表 &V1. は、ソース・データ &V2. と一致しない。

説明: この表を、ソース・データで置き換えることはできません。データベース内の表 &V1. とキューからのソース・データ &V2. は一致しておらず、それは以下のいずれかの理由によります。

1. 列の数が同数でない。
2. 対応する列のデータ・タイプが異なっている。
3. 対応する列の一方がヌル値を許容し、他方が許容しない。

ユーザーの処置: 上記に示された条件を検査してから問題を訂正するか、または表を消去してからコマンドを再実行してください。

DSQ21629

メッセージ: インポートするファイルには書式が含まれていません。

説明: CMS ファイルから書式をインポートしようとしてしましたが、指定された CMS ファイルに書式が含まれていません。

ユーザーの処置: FROM の後の CMS ファイル名を、書式オブジェクトが含まれている CMS ファイルの名前に変更してください。

DSQ21630

メッセージ: &V1 をインポートすることはできません。

説明: IMPORT コマンドの形式は次のとおりです。

1. IMPORT objecttype FROM sourcename
2. IMPORT objecttype objectname FROM sourcename

インポートできるのは QUERY、FORM、PROC、TABLE または DATA だけです。

ユーザーの処置: インポートするオブジェクトのタイプを変更し、コマンドを再入力してください。

DSQ21631

メッセージ: インポートするものを指定してください。

説明: IMPORT コマンドの形式は次のとおりです。

1. IMPORT objecttype FROM sourcename
2. IMPORT objecttype objectname FROM sourcename

「objecttype」が指定されていません。一時記憶域にインポートする場合は、オブジェクト・タイプは QUERY、FORM、PROC、または DATA のどれかです。データベースにインポートする場合は、オブジェクト・タイプは QUERY、FORM、PROC、または TABLE のどれかです。

ユーザーの処置: IMPORT コマンドに正しいオブジェクト・タイプを追加しコマンドを再度、入力してください。

DSQ21632

メッセージ: 入力レコード長が長すぎます。

説明: インポートされるファイルのレコード長は「QMF アプリケーション開発の手引き」に記述

されている仕様と一致しなければなりません。しかし、この入力ファイルのレコードは、極端に大きすぎます。

ユーザーの処置: 「QMF アプリケーション開発の手引き」に記述されている仕様と一致するために、コードがもっと短くなるように、データ・ファイルを編成し直してください。

DSQ21633

メッセージ: IMPORT コマンドが不完全です。

説明: IMPORT コマンドの形式は次のとおりです。

1. IMPORT オブジェクト・タイプ FROM インポート元名
2. IMPORT オブジェクト・タイプ オブジェクト名 FROM インポート元名

「IMPORT オブジェクト・タイプ」または「IMPORT オブジェクト・タイプ オブジェクト名」の後に、FROM インポート元名の指定がありません。

ユーザーの処置: 「FROM インポート元名」を指定し、コマンドを再実行してください。リスト・パネルからこのコマンドを入れた場合には、コマンドの形式が正しかったかどうか確認してください。このパネルから QMF コマンドを入れる場合の詳細は、リスト・パネルから呼び出されるヘルプを参照してください。

DSQ21634

メッセージ: IMPORT &V1 の後に FROM が続かなければなりません。

説明: IMPORT &V1 コマンドの形式は次のとおりです。

IMPORT &V1 FROM インポート元

ここで、「インポート元」はインポートするデータが入っているファイルの名前です。

コマンドには、&V1 の後に「FROM」という語がありません。

ユーザーの処置: 「&V1」と「インポート元」の間に「FROM」という語を入れ、コマンドを再度実行してください。

DSQ21635

メッセージ: インポートするファイルを指示してください。

説明: IMPORT コマンドの形式は次のとおりです。

1. IMPORT オブジェクト・タイプ FROM インポート元名
2. IMPORT オブジェクト・タイプ オブジェクト名 FROM インポート元名

ここで、「インポート元」は、インポートされるファイルの名前です。

コマンドに「インポート元」が指定されていません。

ユーザーの処置: IMPORT コマンドを変更し、再度実行してください。

DSQ21636

メッセージ: ファイル名 &V1 が 8 字を超えます。

説明: EXPORT コマンドまたは IMPORT コマンドで使用するファイル名は、長さが 8 文字を超えてはなりません。

ユーザーの処置: 1 文字から 8 文字までの長さのファイル名を使用してください。

DSQ21637

メッセージ: ファイル・タイプ &V1 の長さが 8 文字を超えています。

説明: EXPORT コマンドまたは IMPORT コマンドで使用するファイル・タイプは、長さが 8 文字を超えてはなりません。

ユーザーの処置: 1 文字から 8 文字までの長さのファイル・タイプを使用してください。

DSQ21638

メッセージ: ファイル・モード &V1 が 3 文字を超えています。

説明: EXPORT コマンドまたは IMPORT コマンドで使用するファイル・モードには、英字を 1 字と、それに続く任意指定の数字を 1 字の、計 2 字までしか指定することはできません。

ユーザーの処置: コマンドの中のファイル・モードを訂正し、コマンドを再入力してください。

DSQ21639

メッセージ: &V1 は存在しません。

説明: IMPORT コマンドの形式は、次のとおりです。

1. IMPORT オブジェクト・タイプ FROM インポート元名
2. IMPORT オブジェクト・タイプ オブジェクト名 FROM インポート元名

ここで、「インポート元」は既存の TSO データ・セットの名前ですが、メッセージで示された名前のデータ・セットは見つかりません。次の原因が考えられます。

1. データ・セット名のスペルが違っている。
2. データ・セット自体が存在しない。

ユーザーの処置: スペルに誤りがあればそれを訂正してください。スペルが正しい場合は、要求したデータ・セットが存在しているかどうか検査してください。

DSQ21640

メッセージ: ファイル名またはタイプの中に無効な文字が見つかりました。

説明: ファイル名またはファイル・タイプの中の 1 文字または複数の文字が無効です。

有効な文字は、A ~ Z の英字、0 ~ 9 の数字、および以下の特殊文字です。

#, \$, @, +, -, :, _

ユーザーの処置: 無効な文字を訂正し、コマンドを再入力してください。

DSQ21641

メッセージ: ファイル・モードが無効です。

説明: CMS ファイルは、ファイル名、ファイル・タイプ、およびファイル・モードを持っています。ファイル・モードは、英字 1 字と、それに続く 1 桁の数字 (0 ~ 6) で指定します。

ファイル・モードを省略すると、A が使用されます。

ユーザーの処置: ファイル・モードの指定を訂正するか、または省略してください。

DSQ21642

メッセージ: ディスクが、この CMS ファイルに対して使用可能になっていません。

説明: &V1 が、ファイル名、ファイル・タイプ、ファイル・モードの形で読み取られました。ファイル・モードは、どのディスクを使用するかを CMS に指示します。しかし、指定されているファイル・モードには、割り当てられたディスクがありません。

ユーザーの処置: ファイル・モードにディスクが割り当てられていることを確認してください。必要に応じて、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ21643

メッセージ: 不明の FSSTATE エラー - エラー・コード - &1。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ21644

メッセージ: IMPORT &V1 の名前が多すぎます。

説明: IMPORT コマンドの形式は次のとおりです。

1. IMPORT オブジェクト・タイプ FROM
XXXXX
2. IMPORT オブジェクト・タイプ オブジェクト
名 FROM XXXXX

ここで、「XXXXX」はインポートするものが含まれているデータ・セットの名前で、1 つまたは複数のオプションを指定することもできます。

「XXXXX」内の名前が多すぎます。オプションを指定した場合は、オプションとファイル ID を区別している括弧を省略した可能性があります。たとえば、次のようなコマンドを実行しようとしてしました。

```
IMPORT QUERY  
FROM 'JONES.QUERY.A' (CONFIRM=YES
```

しかし、CONFIRM の前の括弧を省略しました。

ユーザーの処置: IMPORT コマンドを変更し、再度実行してください。

DSQ21645

メッセージ: 名前 &V1 は、キュー・タイプ &V2 を使っている場合、無効です。

説明: キュー名 "&V1" がコマンドで見つかりましたが、CICS キュー・タイプ &V2 を使っている場合は有効ではありません。次の 1 つが、問題の原因である可能性があります。

- 対応するキューのタイプが 'TS' の場合、キュー名が 8 文字を超えている。
- 対応するキューのタイプが 'TD' の場合、キュー名が 4 文字を超えている。
- キュー名の最初の文字として予約されている文字を使用した。最初の文字として、X'FA' から

X'FF' を使用してはなりません。これらの文字は CICS での使用が予約された文字です。

ユーザーの処置: 正しい文字を入力し、再度コマンドを実行してください。

DSQ21646, DSQ21647

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ21648

メッセージ: OK、&1 が &2 からインポートされました。

DSQ21649

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ21650

メッセージ: &V1 のレコード形式は &V2. でなければなりません。

説明: インポートまたはエクスポートに関連するファイルのレコード形式が &V1. です。この形式は、インポートまたはエクスポートしようとしているオブジェクトのタイプのレコード形式、すなわち &V2. と適合していません。

ユーザーの処置: コマンドを訂正して、インポート先またはエクスポート先として、別のファイルまたは別のオブジェクト・タイプを指定してください。

DSQ21651

メッセージ: &V1. は、存在しません。

説明: IMPORT コマンドの形式は、次のとおりです。

1. IMPORT objecttype FROM sourcename
2. IMPORT objecttype objectname FROM sourcename

ここで、ソース名は CICS キューの名前です。そのキューが見つかりません。次の原因が考えられます。

1. キュー名のスペルが誤っている。
2. キュー名が存在しない。

ユーザーの処置: スペルが誤っていた場合はそれを変更し、またはキュー名が存在するものに変更してから、コマンドを再実行してください。

DSQ21652, DSQ21653

メッセージ: DSQ20061 を参照してください。

DSQ21654

メッセージ: インポートされる CICS 照会に書式が含まれません。

説明: 書式を含まない CICS 照会から書式をインポートしようとしてしました。

ユーザーの処置: FORM の後に続く名前を、書式オブジェクトを含む CICS 照会の名前に変更してください。

DSQ21655

メッセージ: DSQ21628 を参照してください。

DSQ21658

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ21659

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ21660

メッセージ: DSQ21630 を参照してください。

DSQ21661

メッセージ: IMPORT &V1 の名前が多すぎます。

説明: IMPORT コマンドの形式は次のとおりです。

1. IMPORT オブジェクト・タイプ FROM
XXXXX
2. IMPORT オブジェクト・タイプ オブジェクト
名 FROM XXXXX

ここで、「XXXXX」はインポートしたいものが入っているキューの名前を識別します。また、ここに QUEUETYPE オプションも指定しなければなりません。「XXXXX」内の名前が多すぎます。キューの識別からオプションを区切る括弧を付け忘れた可能性があります。たとえば、次のようなコマンドを実行しようとしてしました。

```
IMPORT QUERY  
FROM MYQUERY (QUEUETYPE=TS CONFIRM=YES
```

しかし、QUEUETYPE の前の括弧を付け忘れまし
た。

ユーザーの処置: IMPORT コマンドを変更し、
再度実行してください。

DSQ21662

メッセージ: 一部のデータで、80 文字め以降が
切り捨てられたかもしれません。

説明: インポートされたファイルに、長さが 79
文字を超えるレコードがありました。どのレコ
ードでも、79 桁めを超える分のデータはインポ
ートされません。

ユーザーの処置: QMF 外部での操作によって、
含まれているすべてのレコードが 79 文字以下に
なるように、インポートしたいレコードを再編成
してください。その上で、もう一度ファイルをイン
ポートしてください。

DSQ21663 - DSQ21665

メッセージ: &V1. は長過ぎます。

説明: 名前 &V1. は長過ぎます。

1. 単一引用符内の名前がとれる形式は次のと
おりです。

```
'part1.part2.part3. ...'
```

各部分には最大 8 文字まで指定できます。た
だし、名前全体は、ピリオドも含めて 44 文
字以下でなければなりません。

2. 引用符のない名前の形式は次のとおりです。

```
part1.part2
```

各部分には最大 8 文字まで指定できます。

ユーザーの処置: 名前を変更して、コマンドを再
実行してください。

DSQ21666

メッセージ: IMPORT &V2 には &V1 を使用で
きません。

説明: IMPORT &V2 にはオプション &V1 を指
定できません。IMPORT コマンドに指定できる
オプションは次のとおりです。

CONFIRM, COMMENT, LANGUAGE, ACTION,
and SHARE

これらのオプションは、オブジェクトをデータベ
ースにインポートする場合だけ有効です。

LANGUAGE オプションは、FORM オブジェクト
だけに有効です。ACTION オプションは、
TABLE オブジェクトだけに有効です。TABLE
オブジェクトには SHARE オプションは無効で
す。

ユーザーの処置: オプションを変更し、コマンド
を再試行してください。

DSQ21667

メッセージ: DSQ20061 を参照してください。

DSQ21668

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ21669

メッセージ: DSQ21220 を参照してください。

DSQ21671

メッセージ: IMPORT &V2 には &V1 を使用できません。

説明: IMPORT &V2 にはオプション &V1 を指定できません。

IMPORT コマンドに指定できるオプションは次のとおりです。

MEMBER, CONFIRM, COMMENT, LANGUAGE, ACTION, and SHARE

MEMBER オプションを除いて、他のオプションはデータベース中にオブジェクトをインポートする場合だけに有効です。LANGUAGE オプションは、FORM オブジェクトだけに有効です。

ACTION オプションは、TABLE オブジェクトだけに有効です。SHARE オプションは TABLE オブジェクトには無効です。

ユーザーの処置: オプションを変更し、コマンドを再入力してください。

DSQ21672, DSQ21673

メッセージ: DSQ21622 を参照してください。

DSQ21674

メッセージ: IMPORT &V1 の名前が多すぎます。

説明: IMPORT コマンドの形式は次のとおりです。

1. IMPORT オブジェクト・タイプ FROM
XXXXX
2. IMPORT オブジェクト・タイプ オブジェクト名 FROM XXXXXX

ここで、「XXXXX」はインポートする内容が含まれているファイルの名前を指定し、さらに 1 つまたは複数のオプションを指定することもできます。「XXXXX」内の名前が多すぎます。オプションを指定した場合は、オプションとファイル

ID を区別している括弧を省略した可能性があります。たとえば、次のようなコマンドを実行しようとした。

```
IMPORT DATA  
FROM JONES DATA B (CONFIRM=YES)
```

しかし、CONFIRM の前の括弧を省略しました。

ユーザーの処置: IMPORT コマンドを変更し、再度実行してください。

DSQ21675

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ21676

メッセージ: プリンター名とキュー名の両方を指定することはできません。

説明:

PRINT コマンドの実行中に、プリンター名と CICS キュー名の両方が指定されました。プリンター名はコマンド行またはコマンド・プロンプトから入力されたか、QMF プロファイルに含まれている可能性があります。印刷中の場合、これらの値の両方を指定することはできません。オプションは、次のとおりです。

- GDDM の印刷を使用するには、プリンター名を入力します。書式、図表または指示照会を印刷している場合は、プリンター名を指定する必要があります。QMF プロファイルにデフォルトのプリンター名を設定することができますが、PRINT コマンドに有効なキュー名とタイプを指定した場合、プロファイルのプリンターは使用されません。
- GDDM を使用せずに QMF 印刷を使用するには、CICS キュー名とキュー・タイプを入力し、指定したキューに出力します。PRINT コマンドにこれらのオプションを指定した場合、プロファイルのプリンターは使用されません。
- 3 つのオプションをすべてブランクのままにします。この場合、デフォルトの CICS キュー名およびキュー・タイプが使用されます。

ユーザーの処置: PRINT コマンドを GDDM の印刷で使用するか、CICS キューで使用するかを決めてください。次にプリンター名、または CICS キュー名とキュー・タイプを指定して、コマンドを出し直してください。3 つのオプションをすべて省略すると、デフォルトの CICS キュー名とキュー・タイプが使用されます。

有効なプリンター名のリストについては、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ21677

メッセージ: プリンター名とキュー・タイプの両方を指定することはできません。

説明:

PRINT コマンドの実行中に、プリンター名と CICS キュー・タイプの両方が指定されました。プリンター名はコマンド行またはコマンド・プロンプトから入力されたか、QMF プロファイルに含まれている可能性があります。印刷中の場合、これらの値の両方を指定することはできません。オプションは、次のとおりです。

- GDDM の印刷を使用するには、プリンター名を入力します。書式、図表または指示照会を印刷している場合は、プリンター名を指定する必要があります。QMF プロファイルにデフォルトのプリンター名を設定することができますが、PRINT コマンドに有効なキュー名とタイプを指定した場合、プロファイルのプリンターは使用されません。
- GDDM を使用せずに QMF 印刷を使用するには、CICS キュー名とキュー・タイプを入力し、指定したキューに出力します。PRINT コマンドにこれらのオプションを指定した場合、プロファイルのプリンターは使用されません。
- 3 つのオプションをすべてブランクのままにします。この場合、デフォルトの CICS キュー名およびキュー・タイプが使用されます。

ユーザーの処置: PRINT コマンドを GDDM の印刷で使用するか、CICS キューで使用するかを決めてください。次にプリンター名、または

CICS キュー名とキュー・タイプを指定して、コマンドを出し直してください。3 つのオプションをすべて省略すると、デフォルトの CICS キュー名とキュー・タイプが使用されます。

有効なプリンター名のリストについては、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ21678

メッセージ: プリンター名と SUSPEND キーワードの両方を指定することはできません。

説明: PRINT コマンドの実行中に、プリンター名と CICS SUSPEND キーワードの両方が指定されました。プリンター名はコマンド行またはコマンド・プロンプトから入力されたか、QMF プロファイルに含まれている可能性があります。印刷中の場合、これらの値の両方を指定することはできません。オプションは、次のとおりです。

- GDDM の印刷を使用するには、プリンター名を入力します。書式、図表または指示照会を印刷している場合は、プリンター名を指定する必要があります。QMF プロファイルにデフォルトのプリンター名を設定することができますが、PRINT コマンドに有効なキュー名とタイプを指定した場合、プロファイルのプリンターは使用されません。
- GDDM を使用せずに QMF 印刷を使用するには、CICS キュー名とキュー・タイプを入力し、指定したキューに出力します。PRINT コマンドにこれらのオプションを指定した場合、プロファイルのプリンターは使用されません。SUSPEND オプションの値として YES または NO を選択します。
- 3 つのオプションをすべてブランクのままにします。この場合、デフォルトの CICS キュー名およびキュー・タイプが使用されます。SUSPEND オプションのデフォルト値は NO です。

ユーザーの処置: PRINT コマンドを GDDM の印刷で使用するか、CICS キューで使用するかを決めてください。次にプリンター名、または

CICS キュー名とキュー・タイプおよび SUSPEND オプションのどちらかを指定して、コマンドを出し直してください。3つのオプションをすべて省略するとデフォルトの CICS キュー名、キュー・タイプおよび SUSPEND オプションが使用されます。

有効なプリンター名のリストについては、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ21679, DSQ21680

メッセージ: SUSPEND キーワードには、YES または NO を使用してください。

説明: PRINT、EXPORT または IMPORT コマンドの実行中に、SUSPEND キーワードに有効な値が指定されませんでした。SUSPEND の有効な値は、次のとおりです。

- YES - PRINT、EXPORT または IMPORT コマンドが完了する前に、CICS キューが使用可能になるまで待つ。
- NO - CICS キューが使用中の場合、メッセージが出て PRINT、EXPORT または IMPORT コマンドが終了する。
- SUSPEND オプションを省略する。NO のデフォルト値が使用される。

ユーザーの処置: SUSPEND キーワードに有効な値を選択し、PRINT、EXPORT または IMPORT コマンドを出し直してください。

DSQ21681, DSQ21682

メッセージ: キュー・タイプ &V2 に対して、キュー名 &V1 が長過ぎます。

説明: タイプ &V2 の CICS キュー名には &V3 の長さの制限があります。&V4 文字のキュー名が指定されました。

ユーザーの処置: &V3 文字を超えない長さのキュー名を指定してください。

DSQ21683, DSQ21684

メッセージ: キュー・タイプのキーワードには、TS または TD を使用してください。

説明: CICS キュー・タイプのキーワードに有効な値が指定されていません。有効な値は以下のとおりです。

- TS 一時記憶域に対する値
- TD 一時データに対する値

ユーザーの処置: CICS キュー・タイプに有効な値を指定して、コマンドを再実行してください。CICS キュー名を指定した場合、キュー・タイプも指定する必要があります。デフォルト値を使用する場合、両方のキーワードをブランクにしてください。

DSQ21685, DSQ21686

メッセージ: キュー名およびキュー・タイプを両方とも指定する必要があります。

説明: このコマンドに CICS キュー名、または CICS キュー・タイプのどちらかが指定する場合には、両方の値を指定してください。

両方の値を省略すると、デフォルト値が使用されます。

ユーザーの処置: キュー名およびキュー・タイプを指定するか、または両方を省略して、デフォルト値を使用してください。

DSQ21687, DSQ21688

メッセージ: キュー名の後に値が必要です。

説明: CICS キュー名のキーワードが指定されましたが、キーワードに対する値が与えられていません。このキーワードを省略するとデフォルト値が使用されます。

ユーザーの処置: キュー名に値を指定するか、またはデフォルト値を使用するならキーワードを省略してください。

DSQ21689

メッセージ: キュー名は、このタイプのオブジェクトには使用できません。

説明: CICS キュー名のキーワードが、タイプ書式、図表または指示照会で指定されました。この種のオブジェクトでは、CICS キュー名は指定できません。有効なプリンター名を指定してください。

ユーザーの処置: CICS キュー名を省略し、有効なプリンター名を指定して、コマンドを繰り返してください。

DSQ21690

メッセージ: キュー・タイプは、このタイプのオブジェクトには使用できません。

説明: CICS キュー・タイプのキーワードが、タイプ書式、図表または指示照会で指定されました。この種のオブジェクトでは、CICS キュー名は指定できません。有効なプリンター名を指定してください。

ユーザーの処置: CICS キュー・タイプを省略し、有効なプリンター名を指定して、コマンドを再試行してください。有効なプリンター名のリストについては、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ21691

メッセージ: SUSPEND は、このタイプのオブジェクトには使用できません。

説明: CICS SUSPEND のキーワードが、タイプ書式、図表または指示照会で指定されました。この種のオブジェクトでは、CICS キュー名は指定できません。有効なプリンター名を指定してください。

ユーザーの処置: SUSPEND キーワードを省略し、有効なプリンター名を指定して、コマンドを繰り返してください。

有効なプリンター名のリストについては、QMF

管理者に連絡してください。

DSQ21692

メッセージ: PRINT とともに &V2 を使用することはできません。

説明: PRINT コマンドとともに &V2 を使用することはできません。下記のオプションだけを使用してください。

PRINTER	
DATETIME	(PRINT CHART には無効)
LENGTH	(PRINT CHART には無効)
WIDTH	(PRINT CHART には無効)
PAGENO	(PRINT CHART には無効)
ICUFORM	(PRINT CHART のみに有効)
UNITS	(PRINT CHART のみに有効)
VOFFSET	(PRINT CHART のみに有効)
HOFFSET	(PRINT CHART のみに有効)
CWIDTH	(PRINT CHART のみに有効)
CLENGTH	(PRINT CHART のみに有効)
QUEUENAME	(PRINT CHART、FORM または指示 QUERY に無効)
QUEUETYPE	(PRINT CHART、FORM または指示 QUERY に無効)
SUSPEND	(PRINT CHART、FORM または指示 QUERY に無効)

ユーザーの処置: &V2 およびそのあとの値を取り除いて、コマンドを入力し直してください。

DSQ21693

メッセージ: DSQ21676 を参照してください。

DSQ21694

メッセージ: DSQ21677 を参照してください。

DSQ21695

メッセージ: DSQ21678 を参照してください。

DSQ21696

メッセージ: PRINTER に値を使用している場合は LENGTH にこの値を使用できません。

説明: LENGTH に '&V2' を、PRINTER に

&V3 を指定しています。しかし、PRINTER に GDDM プリンター通称の名前も指定されている場合、'&V2' を指定することはできません。

PROFILE パネルに PRINTER 名がある場合は、PRINT コマンドプロンプト・パネルでプリンター名フィールドに ” または ’ ’ を入力することにより、ブランクにできます。

LENGTH 値は、PRINT コマンド、PROFILE パネル、または PRINT コマンドプロンプト・パネルのどちらかの、オプションとして指定することができます。

ユーザーの処置: LENGTH に数値を入力するか、PRINTER 名がブランクであることを確認してください。

DSQ21698

メッセージ: DSQ21219 を参照してください。

DSQ21699

メッセージ: CC は &C2. ではなく YES か NO を使用してください。

説明: NO を使用した場合、紙送り制御は表示されません。YES を使用した場合、紙送り制御は列 1 にあります。何も入力されない場合、デフォルトはグローバル変数 DSQEC_CC の値になります。

ユーザーの処置: CC の値を YES か NO に変更するか、またはコマンドから CC を除去してください。

DSQ21700

メッセージ: カーソルが &V1. の位置にありません。

説明: 行または変数を削除するためには、スクロール可能域にカーソルを移動させなければなりません。

ユーザーの処置: 削除したい行にカーソルを移動させ、削除 PF キー (使用可能な場合)、またはコ

マンド行に DELETE と入力した後カーソルを該当の行に移動し ENTER キーを押してください。

DSQ201701

メッセージ: DSQ20388 を参照してください。

DSQ21702

メッセージ: &V1 に対する行がありません。

説明: 表示画面の本体の中の、削除可能な行にカーソルが置かれていなくてはなりません。

ユーザーの処置: 別のコマンドを使って作業を続行してください。

DSQ21710 - DSQ21720

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ21730

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ21731

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ21733

メッセージ: DSQ0005 を参照してください。

DSQ21749

メッセージ: DSQ21492 を参照してください。

DSQ21750 - DSQ21752

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ21753

メッセージ: OK、これは空の PROMPTED QUERY パネルです。

DSQ21754, DSQ21755

メッセージ: DSQ20061 を参照してください。

DSQ21756

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ21757

メッセージ: DATA が入っていないため、&V2 はリセットできません。

説明: FORM をリセットする場合、DATA が必要です。DATA が空の場合 &V2 はリセットできません。

ユーザーの処置: 別のコマンドを使って作業を続行してください。

DSQ21758

メッセージ: &V1. で使用するための現行の &V2 がありません。

説明: 現行の &V2 オブジェクトがなければ &V1 を実行できません。次のどちらかの理由によって一時記憶域に入っていないと思われる。

1. システム・エラーによって削除された。
2. もともと一時記憶域に入っていなかった。たとえば、QMF にサインオンする時点で、DATA、FORM、REPORT および CHART が空だった場合がこれに該当します。
3. DATA がリセットされたために、REPORT と CHART が消失している。

ユーザーの処置: 現行の &V2 オブジェクトがあると考えられる場合には、システム・エラーが起きた可能性があります。そのオブジェクトを作成したステップを検査して、必要であればそのステップを繰り返してください。

DSQ21759

メッセージ: &V2 はリセットできません。

説明: リセットできるオブジェクトは、DATA、FORM、PROFILE、PROC、QUERY、GLOBAL、および FORM.X です。ここで、X は COLUMNS、PAGE、DETAIL、CALC、FINAL、OPTIONS、CONDITIONS、または BREAKN です。(ここで N は 1 から 6 の整数です)。

RESET は、これらのどちらかをデフォルト値か、無設定の状態に復元します。

ユーザーの処置: &V2 の代わりに、上記にリストした名前のどれか 1 つを指定してください。データベースからオブジェクトを削除する場合は、ERASE コマンドを使用してください。

DSQ21760

メッセージ: DSQ21758 を参照してください。

DSQ21761 - DSQ21763

メッセージ: DSQ21504 を参照してください。

DSQ21764

メッセージ: &V2 を &V1 の次に続けることはできません。

説明: 次のように入力しました。

```
RESET &V1 &V2
```

これは、以下の有効なコマンド形式のどれにも一致しません。

```
RESET GLOBAL ALL  
RESET GLOBAL (変数名のリスト)  
RESET objecttype (オプション)
```

ユーザーの処置: 上記の形式の内のどちらかを使用してください。変数名またはオプションを使用する場合は、必ず左括弧を前に付けてください。コマンドを再試行してください。

DSQ21765

メッセージ: DSQ21504 を参照してください。

DSQ21766

メッセージ: DSQ21764 を参照してください。

DSQ21767

メッセージ: DSQ21492 を参照してください。

DSQ21768

メッセージ: DSQ21511 を参照してください。

DSQ21769

メッセージ: ALL と変数リストの両方は指定できません。

説明: 次のように入力しました。

```
RESET GLOBAL ALL (変数名のリスト
```

しかし、RESET GLOBAL コマンドの形式は次のとおりです。

```
RESET GLOBAL ALL  
RESET GLOBAL (変数名のリスト
```

ユーザーの処置: これらの形式のどれかを指定し、コマンドを再試行してください。

DSQ21770

メッセージ: ALL も変数リストも指定していません。

説明: 次のように入力しました。

```
RESET GLOBAL
```

しかし、RESET GLOBAL コマンドの形式は次のとおりです。

```
RESET GLOBAL ALL  
RESET GLOBAL (変数名のリスト
```

ユーザーの処置: これらの形式のどれかを指定し、コマンドを再試行してください。

DSQ21771

メッセージ: DSQ21492 を参照してください。

DSQ21772

メッセージ: &V2 は RESET QUERY 以外では使用できません。

説明: LANGUAGE オプションは RESET だけに有効であり、RESET QUERY にだけ適用されません。以下のコマンドが有効です。

```
RESET QUERY (LANGUAGE=SQL  
-- SQL の照会パネルを得る  
RESET QUERY (LANGUAGE=QBE  
-- QBE の照会パネルを得る  
RESET QUERY (LANGUAGE=PROMPTED  
-- 指示照会用の照会パネルを得る
```

ユーザーの処置: 上記の 3 つのどれかのコマンドを使用するか、コマンドからオプションを除去してください。

DSQ21773

メッセージ: &V3 という名前のパネルはオブジェクト &V2. にありません。

説明: 無効なパネル名を指定しました。有効な修飾パネル名は次のとおりです。

FORM.BREAK1	FORM.CALC
FORM.BREAK2	FORM.COLUMNS
FORM.BREAK3	FORM.DETAIL
FORM.BREAK4	FORM.FINAL
FORM.BREAK5	FORM.MAIN
FORM.BREAK6	FORM.OPTIONS
	FORM.PAGE

ユーザーの処置: &V1 コマンドに有効なパネル名を指定し、コマンドを再試行してください。

DSQ21774

メッセージ: パネル &V2 はリセットができません。

説明: 無効なパネル名を指定しました。RESET コマンドに有効なパネルは次の通りです。

FORM.BREAK1 FORM.CALC
FORM.BREAK2 FORM.COLUMNNS
FORM.BREAK3 FORM.DETAIL
FORM.BREAK4 FORM.FINAL
FORM.BREAK5 FORM.OPTIONS
FORM.BREAK6 FORM.PAGE
FORM.CONDITIONS

ユーザーの処置: RESET コマンドに有効なパネルを指定し、コマンドを再実行してください。

DSQ21775, DSQ21776

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ21777

メッセージ: &V1 コマンドには、処置を行う名前が必要です。

説明: コマンドが不完全です。&V1 は、名前が指定されたものに対して処置を行いません。

ユーザーの処置: コマンドにその処置を行う名前を追加した上で、コマンドを再実行してください。リスト・パネルからこのコマンドを入れた場合には、コマンドの形式が正しかったかどうか確認してください。このパネルから QMF コマンドを入れる場合の詳細は、リスト・パネルから呼び出されるヘルプを参照してください。

DSQ21778

メッセージ: DSQ21759 を参照してください。

DSQ21779

メッセージ: RESET に指定されている名前が多すぎます。

説明: RESET の有効なコマンド形式は次のとおりです。

1. RESET オブジェクト・タイプ (オプション)
2. RESET GLOBAL ALL
3. RESET GLOBAL (変数名のリスト)

ユーザーの処置: RESET コマンドを訂正し再度、入力してください。

DSQ21780

メッセージ: DSQ21759 を参照してください。

DSQ21781

メッセージ: &V1 を &V2 とともに用いることはできません。

説明: 「&V1..名前」という名前は修飾名です。ユーザーID &V1 は、名前 &V2. を修飾しようとしていますが、次の名前を修飾することはできません。

QUERY	DATA
FORM	REPORT
PROC	CHART
TABLE	PROFILE

ユーザーの処置: 正しい名前または修飾された名前に修飾名を変更し、コマンドを再入力してください。リスト・パネルからこのコマンドを入れた場合には、コマンドの形式が正しかったかどうか確認してください。パネルから QMF コマンドを入力する場合の詳細は、リスト・パネルのヘルプを参照してください。

DSQ21782

メッセージ: RESET とともに &V2 を使用することはできません。

説明: RESET の有効なオプションは LANGUAGE、VARS、および USING です。次のコマンドが有効です。

```
RESET QUERY (LANGUAGE=SQL
-- SQL の照会パネルを得る
RESET QUERY (LANGUAGE=QBE
-- QBE の照会パネルを得る
RESET QUERY (LANGUAGE=PROMPTED
-- 指示照会パネルを得る
```

```
RESET FORM.DETAIL (VAR = n
ここで、1 <= n <= 99
RESET FORM.DETAIL (VAR = n USING = m
ここで、1 <= m,n <= 99 かつ n ≠ m
RESET FORM.DETAIL (VAR = ALL
```

ユーザーの処置: 上記 6 つのコマンドのどちら

かを使用するか、または、コマンドからそのオプションを除去してください。

DSQ21783

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ21784, DSQ21785

メッセージ: LANGUAGE の後に &V2 ではなく QBE、SQL、または PROMPTED を使用してください。

説明: LANGUAGE オプションの値として &V2 は無効です。次のいずれかを使用してください。

1. SQL 照会の空パネルを入手するには、SQL。
2. QBE 照会の空パネルを入手するには、QBE。
3. 指示照会セッションを開始するには、PROMPTED。

ユーザーの処置: LANGUAGE の値を SQL、QBE、または PROMPTED に変更し、操作を続けてください。または、LANGUAGE オプションを省略し、プロファイル中の LANGUAGE の値が使用されるようにしてください。

DSQ21786

メッセージ: オプション &V2 に QBE、SQL、または PROMPTED を指定してください。

説明: オプション &V2 は、値がなければ不完全です。次のいずれかを使用してください。

1. &V2=SQL SQL 照会の空パネルの入手。
2. &V2=QBE QBE 照会の空パネルの入手。
3. &V2=PROMPTED 指示照会セッションの開始。

ユーザーの処置: 上記の値でコマンドを完成させるか、&V2 を除去してプロファイルの中の言語の値が使用されるようにしてください。

DSQ21787

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ21788

メッセージ: グローバル変数 &V1 がありません。

説明: グローバル変数 &V1 をリセットしようとしています。しかし、この変数は存在しないのでリセットできません。

ユーザーの処置: &V1 を変更するかまたは削除し、コマンドを再試行してください。

DSQ21789

メッセージ: OK、これは空の SQL QUERY パネルです。

DSQ21790

メッセージ: OK、これは空の QBE QUERY パネルです。

DSQ21791

メッセージ: OK、これは空の PROC パネルです。

DSQ21792

メッセージ: OK、これは DATA のデフォルトの書式です。

DSQ21793

メッセージ: OK、これがユーザーの PROFILE です。

DSQ21794

メッセージ: OK、RESET が DATA を削除しました。

DSQ21795

メッセージ: OK、これは DATA のデフォルトの '&2' パネルです。

DSQ21796

メッセージ: OK、RESET が 1 つまたは複数のグローバル変数を削除しました。

DSQ21797

メッセージ: DSQ21504 を参照してください。

DSQ21798

メッセージ: &V2 は RESET QUERY 以外では使用できません。

説明: &V2 オプションは RESET QUERY コマンドでのみ有効です。

ユーザーの処置: &V2 は RESET QUERY だけで使用してください。

DSQ21799

メッセージ: DSQ21520 を参照してください。

DSQ21800

メッセージ: DSQ21521 を参照してください。

DSQ21801

メッセージ: DSQ21520 を参照してください。

DSQ21803

メッセージ: FORM.DETAIL パネルから FORM.DETAIL バリエーションをリセットしてください。

説明: 現在、作業域で定義される FORM.DETAIL パネルでは、2 つ以上のバリエーションが定義されています。一度に 1 つのバリエーションしかリセットできません。リセットしたいバリエーションを表示した FORM.DETAIL パネルから RESET FORM.DETAIL コマンドを入力してください。

ユーザーの処置: 以前に表示された最後の

FORM.DETAIL パネルを表示するのに SHOW FORM.DETAIL を入力してください。それからリセットしたいバリエーション・パネルを操作して、コマンド行に RESET FORM.DETAIL を入力してください。

DSQ21804

メッセージ: 変数 &V1 に対して RESET GLOBAL は実行できません。

説明: DSQ 文字は QMF に予約されています。DSQ で始まる名前を持つグローバル変数はリセットできません。

ユーザーの処置: この変数が、選択された DSQ 変数のうちの 1 つで、設定するのに有効なグローバル変数であれば、変数を変えるための SET GLOBAL コマンドを使用して変数をリセットできます。

DSQ21805

メッセージ: パネル ID '&I' が DXEPCB チェーンに見つかりませんでした。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ21806

メッセージ: バリエーション番号として &V1 を指定しないでください。

説明: コマンドに指定したバリエーション番号 &V1 は無効です。1 から 99 までのバリエーシ

ョン番号か、1 からすでに定義してあるバリエーション番号までが指定できます。

ユーザーの処置: すでになんらかのテキスト情報を入力している &V2 バリエーション・パネルをリセット、または表示したい場合は、このフィールドにそのパネルのバリエーション番号を入力してください。このフィールドには 1 から 99 の数字だけを入力し、数字はすでに定義してあるバリエーション番号より大きくしないでください。

DSQ21807

メッセージ: USING フィールドに &V1 を指定してはなりません。

説明: USING フィールドで指定するバリエーション番号 &V1 は、次の条件をすべて満たさなければなりません。

1. 1 と 99 の間であること。
2. そのバリエーションが定義されていること。
3. VAR パラメーターで指定した数字と同番号にしないこと。
4. VARIATION = ALL を指定しないこと。
5. 新しいバリエーションのリセットに使用した場合には、すべての値をデフォルト値にしないこと。

ユーザーの処置:

1. すでに、あるテキスト情報を入力している &V2 バリエーション・パネルをリセットしたい場合は、このフィールドにそのパネルのバリエーション番号を入力してください。
2. 別のバリエーション値の情報をもとにして &V2 バリエーション・パネルをリセットしたい場合には、VARIATION フィールドと USING フィールドに違うバリエーション番号を入力してください。
3. すべての &V2 バリエーション・パネルをリセットしたい場合には、USING フィールドを指定しないで VARIATION = ALL を入力してください。

DSQ21808

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ21810

メッセージ: &V1 はポップアップ・ウィンドウを表示中に使用できません。

説明: ポップアップ・ウィンドウ・ダイアログがアクティブである場合は、特定のコマンドしか出せません。入力した &V1 コマンドは使用できません。

ユーザーの処置: ポップアップ・ウィンドウが表示されている場合には、&V1 コマンドは出せません。ウィンドウ・ダイアログを完了するか、またはポップアップ・ウィンドウを削除するために CANCEL コマンドを使用し、&V1 コマンドを再度、出してください。

DSQ21827

メッセージ: &V1 コマンドからの戻りコードは &V2 です。

説明: この戻りコードは、コマンドの実行が正常に行なわれなかったことを示している可能性があります。その内容は実行しようとした処理によって異なります。

インストール先定義のコマンドを出した場合には、コマンドによって行なおうとした処理は正常に行なわれていません。

ユーザーの処置: CMS コマンドを出した場合には、戻りコードの意味を調べ、それに従ってコマンドを訂正してください。誤りがなければ、EXEC からこのコマンドを実行してみてください。正常に実行された場合には、戻りコード 0 が返されます。

インストール先定義のコマンドを出した場合には、サポート担当員またはコマンドを定義した人に相談してください。

DSQ21828

メッセージ: &V1 のあとになにかを入力してください。

説明: 「&V1」の次に、&V1 コマンドまたは実行したい保管ずみの &V1 ルーチンの名前を続けて入力してください。

ユーザーの処置: &V1 の後になにかを入力し、コマンドを再実行してください。

DSQ21830

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ21831

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ21832

メッセージ: DSQ21828 を参照してください。

DSQ21833

メッセージ: &V1 コマンドに対して ISPF サービスが使用できませんでした。

説明: &V1 コマンドを使用したとき、&V1 コマンドが要求する ISPF サービスが使用できませんでした。ISPF サービスはアプリケーションが ISPF 下で実行されているときだけ使用できません。ISPF サービスでコマンドを使用できるようにするには、そのコマンドを使用するアプリケーションを開始するために ISPSTART コマンドを使用しなくてはなりません。

ユーザーの処置: ISPF コマンドでアプリケーションを実行してください。

DSQ21834

メッセージ: &V1 コマンドは完了しませんでした。(RC = &V2)。

説明: コマンドは完了しませんでした。カッコ内

の戻りコード (&V2) は、&V1 より返されました。

ユーザーの処置: CMS コマンドを出した場合には、戻りコードの意味を調べ、それに従ってコマンドを訂正してください。インストール先システムで定義されたコマンドを出した場合は、サポート担当者か、コマンドを定義した担当者に連絡してください。

DSQ21835

メッセージ: &V1 コマンドからの戻りコードは &V2 です。

説明: この戻りコードは、コマンドの実行が正常に行なわれなかったことを示している可能性があります。その内容は実行しようとした処理によって異なります。インストール先定義のコマンドを出した場合には、コマンドによって行なおうとした処理は正常に行なわれていません。

ユーザーの処置: TSO コマンドを入力した場合には、戻りコードの意味を調べ、それに応じたコマンドを訂正してください。誤りがなければ、正常な実行に対して戻りコード 0 を戻す CLIST からこのコマンドの実行を試みてください。インストール先定義のコマンドを出した場合には、サポート担当員またはコマンドを定義した人に相談してください。

DSQ21836

メッセージ: &V1 コマンドは完了しませんでした。(RC = &V2)。

説明: コマンドは完了しませんでした。カッコ内の戻りコード (&V2) は、&V1 より返されました。

ユーザーの処置: TSO コマンドを入力した場合には、戻りコードの意味を調べ、それに応じたコマンドを訂正してください。インストール先システムで定義されたコマンドを出した場合は、サポート担当者か、コマンドを定義した担当者に連絡してください。

DSQ21840

メッセージ: CICS コマンドとしては、パラメーターが多すぎます。

説明: CICS コマンドの形式は下記のとおりです:

```
CICS transid ( FROM = 'cicsdata'  
                TERMID = termid
```

すなわち、

transid 実行するトランザクションのシンボリック ID。

cicsdata

データ、トランザクションに渡されるパラメーター・リスト (オプション)

termid トランザクションに関連づける端末のシンボリック ID。 (オプション)

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。「CICS ?」を入力すれば、プロンプト・パネルが表示されます。

DSQ21841

メッセージ: &V1 は CICS のコマンド・オプションではありません。

説明: CICS コマンドに認識されないオプションが入力されました。正しい形式は下記のとおりです:

```
CICS transid ( FROM = 'cicsdata'  
                TERMID = termid
```

すなわち、

transid 実行するトランザクションのシンボリック ID。

cicsdata

データ、トランザクションに渡されるパラメーター・リスト (オプション)

termid トランザクションに関連づける端末のシンボリック ID。 (オプション)

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。

い。「CICS ?」を入力すれば、プロンプト・パネルが表示されます。

DSQ21842

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ21843

メッセージ: 必要なトランザクション識別名が欠落しています。

説明: CICS コマンドの形式は下記のとおりです:

```
CICS transid ( FROM = 'cicsdata'  
                TERMID = termid
```

すなわち、

transid 実行するトランザクションのシンボリック ID。

cicsdata

データ、トランザクションに渡されるパラメーター・リスト (オプション)

termid トランザクションに関連づける端末のシンボリック ID。 (オプション)

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。「CICS ?」を入力すれば、プロンプト・パネルが表示されます。

DSQ21844

メッセージ: DSQ21504 を参照してください。

DSQ21845

メッセージ: CICS の &V1 オプションには値が必要です。

説明: &V1 キーワードに値が入力されていません。コマンドの形式は下記のとおりです:

```
CICS transid ( FROM = 'cicsdata'  
                TERMID = termid
```

すなわち、

transid 実行するトランザクションのシンボリック ID。

cicsdata

データ、トランザクションに渡されるパラメーター・リスト (オプション)

termid トランザクションに関連づける端末のシンボリック ID。(オプション)

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。「CICS ?」を入力すれば、プロンプト・パネルが表示されます。

DSQ21846

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ21849

メッセージ: DSQ21845 を参照してください。

DSQ21850

メッセージ: &V1 は CICS コマンドには有効ではありません。

説明: CICS コマンドに認識されないオプションが入力されました。正しい形式は下記のとおりです:

```
CICS transid ( FROM = 'cicsdata'  
                TERMID = termid
```

すなわち、

transid 実行するトランザクションのシンボリック ID。(最大長 = 4)

cicsdata

データ、トランザクションに渡されるパラメーター・リスト (オプション、最大長 = 55)

termid トランザクションに関連づける端末のシンボリック ID。(オプション、最大長 = 4)

ユーザーの処置: コマンドを再入力してくださ

い。「CICS ?」を入力すれば、プロンプト・パネルが表示されます。

DSQ21851

メッセージ: FROM オプションの値が長すぎます。

説明: FROM に続くテキストは、78 文字を超えることはできません。値に空白、ピリオド、または右括弧が含まれている場合には、コメント全体を単一引用符で囲んでください。コメントに単一引用符またはアポストロフィが含まれている場合には、引用符またはアポストロフィを二重にしてください。区切り文字を括弧で代替した場合は、コメント中の引用符を二重にする必要はありません。

有効な構文の例を示します。

```
FROM = &DSQAP_CICS_PQNAME  
FROM = (&DSQAP_CICS_PQNAME)  
FROM = 'Smith's report.'  
FROM = (Smith's report.)  
FROM = 'March Tax'  
FROM = (March Tax)  
FROM = '12/21/98'  
FROM = (12/21/98)  
FROM = 12/21/98
```

ユーザーの処置: FROM オプションの値を 78 文字か、それ以下に短縮して再度コマンドを実行してください。

DSQ21852

メッセージ: FROM オプションの値を単一引用符で囲んでください。

説明: FROM オプションを使う場合、値を単一引用符の中に入れてください。値の中に単一引用符、またはアポストロフィがある場合、2 回続けて記述してください。有効な値の例は次のとおりです。

```
FROM = 'Smith''s report.'  
FROM = 'March Tax'  
FROM = '12/21/83'
```

ユーザーの処置: 有効な値を FROM = の後ろに追加するか、コマンドから FROM = を除去してください。

DSQ21853

メッセージ: CICS トランザクションは開始されません。戻りコードは &V2 です。

説明: CICS トランザクションは開始されませんでした。CICS の資料を参照してください。戻りコード (&V2) は、CICS START コマンドから返された「EIBRESP」です。

ユーザーの処置: CICS コマンドを訂正してください。CICS の資料を参照して CICS の戻りコードの意味を判別してください。

DSQ21868

メッセージ: 初期 PROC が、ロケーションの違いのために再実行されませんでした。

説明: 開始ロケーションと現行ロケーションが異なるため、QMF は初期プロシージャを再実行しませんでした。

- 開始ロケーション: &V2
- 現行ロケーション: &V3

ユーザーの処置: アプリケーションが、QMF を開始する際に初期プロシージャを使用する場合には、開始ロケーションと終了ロケーションは同一であるか確認しなければなりません。

DSQ21872 - DSQ21873

メッセージ: &V1. のあとにはなにも付けられないでください。

説明: 次のコマンドのあとには名前やオプションの指定はできません。

```
BOTTOM    ENLARGE    REDUCE    CHECK  
DELETE    INSERT    TOP        STATE  
CHANGE    PREVIOUS  NEXT
```

表編集プログラム、またはグローバル変数リストで FORWARD または BACKWARD コマンドの後に、名前やオプションは使用できません。

PF キーを押して、コマンドを与える場合には、そのさいにコマンド行になにもないことを確認してください。

ユーザーの処置: &V1 のあとにあるものをすべて除去した上で、コマンドを再入力してください。

DSQ21874

メッセージ: &V1 はコマンド・インターフェースから出してください。

説明: &V1 コマンドは、QMF コマンド・インターフェースから出さなくてはなりません。端末または QMF プロシージャから出すことはできません。

ユーザーの処置: QMF コマンド・インターフェースからコマンドを出してください。

DSQ21875 - DSQ21876

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ21877

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ21880, DSQ21881

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ21882

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ21900

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ21901 - DSQ21951

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ21952

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ21953

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ21954

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ21955

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ21956

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ21957

メッセージ: 参照されている置換変数の数が 100 を超えています。

説明: '&変数' の形式をした異なった名前が照会またはプロシージャの中で 100 個を超えている場合、その照会またはプロシージャは実行されず、また照会に変換もされません。

ユーザーの処置: 参照されている置換変数の数を 100 個以下に減らし、再実行してください。

DSQ21958

メッセージ: プロシージャが空か、コメントしか含まれていません。

説明: 空のプロシージャや、コメントしか含ま

れないプロシージャは、命令を含まないため、実行することはできません。

ユーザーの処置: 有効なコマンドをプロシージャに追加してください。

DSQ21959

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ21960

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ21961

メッセージ: &V2 で始まる変数の長さが、18 文字を超えています。

説明: 変数名は 18 文字以下でなければなりません。

ユーザーの処置: より短い変数名を選択してください。

DSQ21963

メッセージ: 行 &V2 のコマンドが長すぎます。

説明: 行 &V2 のコマンド・テキスト・ストリングが QMF の上限を超えています。プロシージャ・オブジェクトでの QMF コマンドの最大長は &V3 バイトです。この上限を超えるコマンドを入れると、プロシージャの実行は停止します。

ユーザーの処置: プロシージャを書き直してコマンドを短くし、実行し直してください。

DSQ21967

メッセージ: 行 &V2 の継続行には被継続行が必要です。

説明: 行 &V2 の継続行は、このプロシージャで検出された最初のコマンド行です。継続行の前には、必ず被継続行がなくてはなりません。

ユーザーの処置: 継続シンボル &V3 を除去する

か、または、コマンド・ステートメントを開始させる被継続行を継続行の前に入れてください。

DSQ21969

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ21970

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ21971

メッセージ: プロシージャ内の引用符付きコマンドは、行をまたがることはできません。

説明: プロシージャ内のコマンドが単一引用符で囲まれている場合は、1 行で終らなければなりません。たとえば、次のようになります。

```
'DISPLAY  
+ Q.STAFF'
```

は無効なコマンドです。

ユーザーの処置: 次のどちらかの方法で、コマンドを訂正してください。

1. 引用符を削除する (引用符は任意指定)
2. コマンドが 1 行になるように変更する(つまり、'DISPLAY Q.STAFF')

DSQ21972

メッセージ: コマンド内の単一引用符の数が合いません。

説明: 引用符が付いている QMF コマンドでは、単一引用符の数が偶数でなければなりません。引用符を別の引用符で囲まれたストリング内で使用する場合、2 つの連続する引用符で示さなければなりません。たとえば、次の例は正しい例です。

```
SAVE QUERY AS TESTORG  
  (COMMENT='IT''S A TEST'  
'SAVE QUERY AS TESTORG  
  (COMMENT='''IT''''S A TEST''')
```

上記の引用符付きストリングでは、ストリングを区切っている最も外側の引用符を除き、すべての引用符は二重引用符です。

ユーザーの処置: コマンドに含まれる単一引用符の数が偶数になり、引用符付きストリング内の単一引用符すべてが 2 つの連続した引用符として指定されるように、コマンドを訂正してください。

DSQ21973

メッセージ: &V1 はコマンドではありません。

説明: 指定したコマンド &V1 は、QMF コマンドまたはインストール先システムで定義されたコマンドでなくてはなりません。次のいずれかの場合が考えられます。

1. コマンドのスペルが誤っているか、省略形が短すぎる。
2. CASE オプションが MIXED であるのに小文字で指定した。
3. 'QMF' コマンドに続いてインストール先コマンドを指定した。
4. インストール先コマンドを定義する表が不完全である。
5. コマンドが 『/*』 の場合、開始コメントの前に 1 つ以上のブランク行がある。ロジック付きのプロシージャの開始コメントは、プロシージャの先頭行になければなりません。そうでなければ、プロシージャは線形プロシージャとして認識され、『/*』 は、コマンドと認識されます。

ユーザーの処置: 正しいコマンドを見つけて使用してください。次のことを行う必要があります。

1. QMF ホーム・パネルからのヘルプを使って QMF コマンドを調べる。
2. 大文字を使うか、または PROFILE の CASE オプションを UPPER または STRING に変更する。
3. 'QMF' のあとでは (インストール先定義でない) QMF コマンドだけを使用する。

4. インストール先コマンドを含む表を完成させるように、QMF 管理者に依頼する。

DSQ22000, DSQ22001

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ22002

メッセージ: DSQ21520 を参照してください。

DSQ22003

メッセージ: DSQ21521 を参照してください。

DSQ22025

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22026

メッセージ: CASE の後には &V3. ではなく、UPPER、STRING、または MIXED を使用してください。

説明: CASE に指定できる値およびその意味は次のとおりです。

UPPER - すべてのキーボード入力は大文字に変換されます。

STRING - キーボード入力は、コメント、引用符で囲まれた文字、および書式内の次のフィールドを除き、大文字で変換されます。
-- 列見出し
-- ページ、詳細、切れ目、および最終テキスト

MIXED - キーボード入力は変更されません。コマンド・キーワードおよび SQL の予約語は大文字で入力しなければなりません。

ユーザーの処置: CASE の値を UPPER、STRING、または MIXED のいずれかに変更し ENTER キーを押してください。

DSQ22027

メッセージ: DECIMAL の後には &V3 ではなく、PERIOD、COMMA、または FRENCH を使用してください。

説明: DECIMAL の値は、編集コード D、I、J、K、または L の列の書式化にどの規則を適用するかを指示します。指定できる値は、PERIOD、COMMA、または FRENCH のいずれかです。

DECIMAL の値: コードが K の数値 123456789/100 は次のように表示されます。

PERIOD	1,234,567.89 (米国での基準)
COMMA	1.234.567,89 (欧州での基準)
FRENCH	1 234 567,89 (フランスでの基準)

ユーザーの処置: DECIMAL オプションを PERIOD、COMMA、または FRENCH に変更し、ENTER キーを押してください。

DSQ22028

メッセージ: CONFIRM の後には &V3. ではなく YES または NO を使用してください。

説明: CONFIRM の値は、変更を中止したい場合、次の処理をその完了前に一時停止させることができるようにするかどうかを指示します。

1. データベースを変更することになる照会。
2. データベースを変更することになるコマンド。
3. ファイル / データ・セットの置き換えを行なわせることになるコマンド。

値が YES の場合、各変更を中止する機会がユーザーに与えられ、NO の場合には、その機会是与えられません。

ユーザーの処置: CONFIRM の値を YES または NO に変更し ENTER キーを押してください。

DSQ22029

メッセージ: DSQ21482 を参照してください。

DSQ22030

メッセージ: DSQ21480 を参照してください。

DSQ22031

メッセージ: CASE に UPPER、STRING、または MIXED を指定してください。

説明: CASE に値を指定してください。指定できる値およびその意味は次の通りです。

UPPER - すべてのキーボード入力は大文字に変換されます。

STRING - キーワード入力は、コメント、引用符で囲まれた文字、および書式内の次のフィールドを除き、大文字に変換されます。
-- 列見出し
-- ページ、詳細、切れ目、および最終テキスト

MIXED - キーボード入力は変更されません。コマンド・キーワードおよび SQL の予約語は大文字で入力しなければなりません。

ユーザーの処置: CASE の後に UPPER、STRING、または MIXED を入力し、ENTER キーを押してください。

DSQ22032

メッセージ: DECIMAL に PERIOD、COMMA、または FRENCH を指定してください。

説明: DECIMAL の値は、編集コード D、I、J、K、または L の列の書式化に、どの規則を適用するかを指示します。指定できる値は、PERIOD、COMMA、または FRENCH です。

DECIMAL の値: コードが K の数値 123456789/100 は次のように表示されます。

PERIOD	1,234,567.89 (米国での基準)
COMMA	1.234.567,89 (欧州での基準)
FRENCH	1 234 567,89 (フランスでの基準)

ユーザーの処置: DECIMAL に PERIOD、COMMA、または FRENCH を入力して、ENTER キーを押してください。

DSQ22033

メッセージ: CONFIRM に YES または NO を指定してください。

説明: CONFIRM の値は、変更を中止したい場合、次の処理をその完了前に一時停止させることができるようにするかどうかを指示します。

1. データベースを変更することになる照会。
2. データベースを変更することになるコマンド。
3. ファイル / データ・セットの置き換えを行なわせることになるコマンド。

値が YES の場合、各変更を中止する機会がユーザーに与えられ、NO の場合には、その機会是与えられません。

ユーザーの処置: CONFIRM のあとに YES または NO を入力し ENTER キーを押してください。

DSQ22034

メッセージ: DSQ21478 を参照してください。

DSQ22035

メッセージ: DSQ21479 を参照してください。

DSQ22036, DSQ22037

メッセージ: WIDTH は &V3 ではなく、22 から 999 までを使用してください。

説明: WIDTH は、1 印刷行に印刷できる文字数を示します。指定した幅より長い行は、右側の部分が切り捨てられます。指定する幅の値は、印刷する用紙の幅にそれが収まることを保証していません。要求したすべてのものが印刷されるようにしたい場合には、用紙より狭い幅を指定してください。

ユーザーの処置: WIDTH の値を 22 から 999 までの範囲内の値に変更してください。

DSQ22038, DSQ22039

メッセージ: DSQ21476 を参照してください。

DSQ22040

メッセージ: WIDTH には 22 から 999 までの数値を使用してください。

説明: WIDTH は、1 印刷行に印刷できる文字数を示します。指定した幅より長い行は、右側の部分が切り捨てられます。指定する幅の値は、印刷する用紙の幅にそれが収まることを保証していません。要求したすべてのものが印刷されるようにしたい場合には、用紙より狭い幅を指定してください。

ユーザーの処置: WIDTH に 22 から 999 までの範囲内の数値を指定してください。

DSQ22041

メッセージ: DSQ21475 を参照してください。

DSQ22042

メッセージ: DSQ22036 を参照してください。

DSQ22043

メッセージ: DSQ21476 を参照してください。

DSQ22044

メッセージ: DSQ22036 を参照してください。

DSQ22045

メッセージ: DSQ21476 を参照してください。

DSQ22046

メッセージ: DSQ21484 を参照してください。

DSQ22047

メッセージ: DSQ21485 を参照してください。

DSQ22048 - DSQ22051

メッセージ: DSQ21481 を参照してください。

DSQ22067

メッセージ: QBE 照会は使えません。

説明: 照会に QBE データが含まれていないため、QBE 照会を使おうとしても (インポート、実行、印刷、表示など) 使用不可能です。

ユーザーの処置: 照会がデータベースに保管されている場合、QMF はそれを使わないので削除する必要があります。照会をインポートしようとしている場合、ファイル (またはデータ・セット) に QBE 照会が含まれているかどうかを確認してください。

DSQ22068, DSQ22069

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ22070

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22072 - DSQ22083

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ22085

メッセージ: DSQ21607 を参照してください。

DSQ22086, DSQ22087

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ22088

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ22089

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22090, DSQ22091

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ22092

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22093

メッセージ: &V2..&V3. を使用する権限はありません。

説明: &V1 しようとしているオブジェクトは &V2 によって所有されており、そのオブジェクトの SHARE 値は NO に設定されています。

別のユーザーがオブジェクトを SHARE=YES オプションを指定して保管またはインポートしているか、または適切な権限がない限り、別のユーザーが所有しているオブジェクトには何の処置も実行できません。

ユーザーの処置: コマンドから &V2 を除外してください。ユーザーのユーザー ID は、データベースに &V1 するものすべての名前に、自動的に付けられます。オブジェクトを別のユーザーに対して &V1 したいがその権限がない場合、適切な権限について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ22094

メッセージ: &C1 &C2 には有効な名前が必要です。

説明: 有効な名前は修飾されていても (userid.name) されていなくても (name) かまいません。修飾子または名前 (あるいはこの両方) は二重引用符で囲んでも囲まなくても ("userid".name、userid."name"、"userid.name"、または userid.name) かまいません。現在ご使用の、

&LS. へのデータベース接続は、以下の長さをサポートします。

- QMF オブジェクト許可 ID には、最大 &LQ. 文字まで指定できます。
- QMF オブジェクト名には、最大 &LN. 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト許可 ID には、最大 &LA. 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト名には、最大 <. 文字まで指定できます。

修飾子には任意の有効なユーザー ID を指定できます。しかし、書式パネルのタイプ (FORM.MAIN、FORM.OPTIONS、など) は無効です。

引用符を付けない名前には、「&&ugrr.」で定義されている、英字、数字およびその他の文字を使用できます。引用符を付けた名前には、二重引用符以外の任意の文字を使用できます。QMF オブジェクト・タイプは引用符が付けられていても無効です。EXPORT TABLE の場合は、「TO」は引用符が付いている場合だけ有効です。IMPORT TABLE の場合は、「FROM」は引用符が付いている場合だけ有効です。

ユーザーの処置: 有効な名前を指定し、コマンドを再入力してください。コマンドをリスト・パネルから入力する場合は、リスト・パネルのヘルプでコマンド形式が正しいか確認してください。

DSQ22095

メッセージ: DSQ21504 を参照してください。

DSQ22096

メッセージ: &V2 オブジェクトはデータベースからエクスポートできません。

説明: EXPORT &V2 &V3 の指定は、タイプ &V2 名前 &V3 のオブジェクトをデータベースからエクスポートすることを意味します。しかし、&V2 がデータベースで有効なオブジェク

ト・タイプではありません。データベースからのエクスポートには次のタイプが有効です。

QUERY、PROC、FORM、および TABLE

ユーザーの処置: &V2 を有効なオブジェクト・タイプに変えてから、コマンドを再入力してください。

DSQ22097

メッセージ: &C3 は、現在の文脈では無効です。

説明: &C1 &C2 の後に有効な名前を指定するか、または「TO 目標」を指定してください。現在ご使用の、&LS. へのデータベース接続は、以下の長さをサポートします。

- データベース・ロケーション名には、最大 16 文字まで指定できます。
- QMF オブジェクト許可 ID には、最大 &LQ. 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト許可 ID には、最大 &LA. 文字まで指定できます。
- QMF オブジェクト名には、最大 &LN. 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト名には、最大 <. 文字まで指定できます。

修飾名は以下のように指定できます。

- 英字、数字、下線 @、#、および \$ を使用できます。
- 英字、@、#、または \$ で始まります。
- 上記いずれかの規則に従わない場合は、二重引用符で囲みます。

ユーザーの処置: 有効な名前でも &C3 を置き換えるか、または「TO 目標」を指定し、コマンドを再実行してください。リスト・パネルからこのコマンドを入れた場合には、コマンドの形式が正しかったかどうか確認してください。QMF コマンドの入力方法について詳しくは、リスト・パネルのヘルプを参照してください。

DSQ22100

メッセージ: DSQ21504 を参照してください。

DSQ22101

メッセージ: このオブジェクト名が見つかりません。

説明: 考えられる原因は次のとおりです。オブジェクト名 "&V2" のスペルが誤っているか、データベースにないか、または、指定されたオブジェクト・タイプ "&V1" が存在していません。

ユーザーの処置: "&V2" をデータベース内に存在する正しいオブジェクト・タイプの名前に変更してください。データベースで使用できるオブジェクトを調べる場合は LIST コマンドを使用してください。リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。パネルに QMF コマンドをどのように入力するかを見るためには、リスト・パネルを表示している間に、ヘルプ・キーを押してください。

DSQ22102

メッセージ: DSQ20313 を参照してください。

DSQ22103

メッセージ: DSQ21504 を参照してください。

DSQ22104

メッセージ: キーワード QUEUEATYPE=TS または QUEUEATYPE=TD を使用しなければなりません。

説明:

以下の QUEUEATYPE キーワードのいずれかを使用してください。

- QUEUEATYPE=TS 一時記憶域の場合
- QUEUEATYPE=TD 一時データの場合

ユーザーの処置: 有効な CICS キュー・タイプ

を入力して、コマンドを再実行してください。

DSQ22106

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ22107

メッセージ: このオブジェクトは &V3 ではありません。

説明: EXPORT コマンドでデータベース内の &V3 の名前として &V2 を使用しています。この名前のオブジェクトはデータベース内に存在しますが、それは &V3 ではありません。

ユーザーの処置: 指定されたオブジェクトが、要求されているオブジェクトのタイプになるようにオブジェクト・タイプまたはオブジェクト名を変更し、コマンドを再入力してください。エクスポートできるすべてのオブジェクト (およびそのタイプ) のリストを表示する場合は、LIST コマンドを使用してください。

DSQ22108

メッセージ: DSQ21781 を参照してください。

DSQ22109

メッセージ: EXPORT &V2. に指定されている名前が多すぎます。

説明: EXPORT &V2 コマンドの形式は次のとおりです。

1. EXPORT objecttype TO XXXXX または
2. EXPORT objecttype objectname TO xxxxx

XXXXX はエクスポート先のファイル名 ID で必要なら 1 つ以上のオプションも指定できます。

「XXXXX」内の名前が多すぎます。オプションを指定した場合は、オプションとファイル ID を区別している括弧を省略した可能性があります。たとえば、次のようなコマンドを実行しようとしてきました。

```
EXPORT QUERY  
TO 'JONES.QUERY.A' (CONFIRM=YES
```

しかし、CONFIRM の前の括弧を省略しました。

ユーザーの処置: EXPORT コマンドを訂正し、再入力してください。

DSQ22111

メッセージ: 各変数名に値を入力してください。

説明: &V2 と、プロシージャまたは照会に使用されている他の変数名に値を指定してください。

ユーザーの処置: &V2 のプロンプト・パネルと、使用されている他の変数名に値を入力してください。入力した後、ENTER キーを押してコマンドを完了してください。次の例のように、置換変数を使用することもできます。

```
RUN QUERY (&NAME = 'JASON SMITH',  
           &YEARS=5  
RUN PROC (&DNO = DEPARTMENT  
CONVERT QUERY (&ID = 10
```

DSQ22113

メッセージ: &V3. は &V2 の値として無効です。

説明: &V2 の値はメッセージ内で切り捨てられた可能性があります。無効な値の例は次のとおりです。

無効な値:

```
32A54 - 無効な整数値  
'JAMES - 終了アポストロフィが欠落  
"Q"DEPT" - 無効な組み込み引用符
```

ユーザーの処置: 値を正しい形式で入力してください。

DSQ22114

メッセージ: データ・セット名に無効な文字があります。

説明: データ・セット名に 1 つ以上の無効な文字があります。

名前の各部分は 1 から 8 文字で、英字は A から Z、数字 0 から 9、英字特殊文字、ドル (\$)、ポンド (#) および単価記号 (@)、ハイフン (-) で構成されます。最初の文字は英字か英字特殊文字でなければいけません。RACF で保護されているデータ・セット名にハイフンを使用してはなりません。ISO/ANSI/FIPS 第 3 版タイプのデータ・セット名には英字特殊文字を使用してはなりません。

複数の名前はピリオドで連結できます。

ユーザーの処置: 無効な文字を訂正し、コマンドを再入力してください。

DSQ22115

メッセージ: 区分データ・セットのメンバー名が欠落しています。

説明: EDIT コマンドを使用する場合、区分データ・セットを編集転送データ・セットとして使用できません。

EXPORT コマンドを使用する場合、区分データ・セットを使うときの EXPORT コマンドは、次の形式になります。

1. EXPORT 名前 TO 'dataset'
(MEMBER=member)
2. EXPORT 名前 TO 'dataset (member)'

入力したコマンドには、「member」が欠落しています。

ユーザーの処置: EXPORT コマンドにメンバー名を追加して、入力し直してください。

DSQ22116

メッセージ: このデータ・セットへのエクスポートはできません。

説明: データ・セット &V1 を割り振れませんでした。次の原因が考えられます。

1. データ・セットを割り振るための十分なスペースがない。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ22117

メッセージ: このファイルへのエクスポートはできません。

説明: ファイル &V1 を保管できませんでした。次の原因が考えられます。

1. 十分なディスク・スペースがない。
2. 指定したディスクが書き込みモードになっていない。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ22118

メッセージ: 相対世代番号はサポートされていません。

説明: 世代データ・セットを指定する場合、「A.B.C(-1)」のような相対世代番号はサポートされていません。「A.B.C.G0001V00」のような絶対世代およびバージョン番号を使用しなければなりません。

ユーザーの処置: 絶対世代およびバージョン番号を使ってデータ・セットを再指定してください。

DSQ22119

メッセージ: メンバー名は順次データ・セットに対して使用できません。

説明: EDIT コマンドを使用している場合、順次データ・セットは編集転送データ・セットとして使用しなければなりません。メンバー名を指定してはなりません。EXPORT コマンドを使用している場合、順次データ・セットを使用するときの形式は次のとおりです。

EXPORT name TO 'dataset'

このコマンドではメンバー名は使用できません。

ユーザーの処置: EXPORT または EDIT コマンドからメンバー名を除去し、再試行してください。

DSQ22120

メッセージ: メンバー名に無効な文字がありました。

説明: ファイルのメンバー名に 1 つ以上の無効な文字があります。

有効な文字は英字の A から Z、数字の 0 から 9、および英字特殊文字のドル (\$)、ポンド (#)、単位記号 (@)です。最初の文字は英字か英字特殊文字でなければいけません。

ユーザーの処置: 無効な文字を訂正し、コマンドを再入力してください。

DSQ22121

メッセージ: ファイル &V1 は使用できません。

説明: そのファイルは、次の理由の 1 つで利用できません。

1. 共用データ・セットの排他使用要求が成功しなかった。
2. そのデータ・セットは別のジョブに割り振られており、その使用属性がこの要求に矛盾する。
3. 新しいデータ・セットの要求が、それがすでに存在するために失敗した。

ユーザーの処置: 後で再試行してください。

DSQ22122

メッセージ: レコード形式は固定長または可変長でなければなりません。

説明: EXPORT、IMPORT、または PRINT で使用するファイルは、レコード形式が固定長または可変長でなければなりません。RECFM の関する正しい属性については、「DB2 QMF 解説書」

でコマンドの使用法を調べてください。

ユーザーの処置: QMF の外部の操作によって、使用するファイルのレコード形式を変更してください。

DSQ22123

メッセージ: DSQ22067 を参照してください。

DSQ22124

メッセージ: DSQ21645 を参照してください。

DSQ22125

メッセージ: このキュー名にエクスポートすることはできません。

説明: 記憶域が不十分なので、ファイル &V1 を通常通り保管することができません。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ22127, DSQ22128

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ22129

メッセージ: &V2 は、DATAFORMAT の値には無効です。

説明: EXPORT DATA/TABLE の場合は、データ形式の有効な値は、QMF および IXF です。EXPORT REPORT の場合は、データ形式の有効な値は、QMF および HTML です。データ形式オプションを指定しないと、デフォルトの値である QMF が採用されます。

ユーザーの処置: 有効なデータ形式の値を入力してから、コマンドをやり直してください。それでもまだ問題が残る場合は、QMF 管理者に相談してください。

DSQ22130

メッセージ: &V2 は現在のコマンドでは使用できません。

説明: DATAFORMAT は EXPORT DATA、EXPORT REPORT または EXPORT TABLE で使用してください。

OUTPUTMODE は EXPORT DATA または EXPORT TABLE で使用してください。

ユーザーの処置: &V2 およびそのあとの値を取り除いて、コマンドを入力し直してください。

DSQ22131

メッセージ: &V2 は EXPORT DATA か TABLE だけで使用できます。

説明: オプション &V2 は、EXPORT DATA または EXPORT TABLE だけで使用できます。現在のコマンドでは、CONFIRM、LANGUAGE、MEMBER、ICUFORM の各オプションだけを使用してください。ICUFORM を使えるのは、図表をエクスポートする場合だけで、LANGUAGE を使えるのは、書式をエクスポートする場合だけであることに注意してください。

ユーザーの処置: &V2 およびそのあとの値を取り除いて、コマンドを入力し直してください。

DSQ22132

メッセージ: DSQ22130 を参照してください。

DSQ22133

メッセージ: データ形式が QMF の場合は、出力モード・オプションは無効です。

説明: OUTPUTMODE オプションは、EXPORT DATA コマンドの DATAFORMAT オプションが IXF の場合にだけ有効です。

ユーザーの処置: OUTPUTMODE およびその後に続くすべての値を取り除いてから、コマンドをやり直してください。

DSQ22134

メッセージ: DATAFORMAT の後に QMF または IXF を指定してください。

説明: データ形式の値が指定されていません。有効な値は、QMF または IXF のどちらかです。データ形式オプションを指定しないと、デフォルトの値である QMF が採用されます。

ユーザーの処置: 有効なデータ形式の値を入力してから、コマンドをやり直してください。それでもまだ問題が残る場合は、QMF 管理者に相談してください。

DSQ22135

メッセージ: DSQ22129 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ22136

メッセージ: OUTPUTMODE の後に BINARY または CHARACTER を指定してください。

説明: 出力モードの値が指定されていません。有効な値は、BINARY または CHARACTER です。出力モード・オプションを指定しないと、デフォルトの値である BINARY が採用されます。

ユーザーの処置: 有効な出力モードの値を入力してから、コマンドをやり直してください。それでもまだ問題が残る場合は、QMF 管理者に相談してください。

DSQ22137

メッセージ: &V2 は、OUTPUTMODE の値には無効です。

説明: 出力モードの有効な値は、BINARY または CHARACTER です。出力モード・オプションを指定しないと、デフォルトの値である BINARY が採用されます。

ユーザーの処置: 有効な出力モードの値を入力し

てから、コマンドをやり直してください。それでもまだ問題が残る場合は、QMF 管理者に相談してください。

DSQ22138

メッセージ: データ・セットのレコードの長さが無効です。

説明: EXPORT DATA コマンドを IXF 形式で実行させる場合には、指定されたデータ・セットのレコードの長さが、&V1 以上、&V2 以下でなければなりません。

ユーザーの処置: 正しい長さのレコードを持つデータ・セットを作成して、EXPORT DATA コマンドをやり直してください。それでもまだ問題が残る場合は、QMF 管理者に相談してください。

DSQ22139

メッセージ: データ・セットのレコード形式は可変長でなければなりません。

説明: EXPORT DATA コマンドを IXF 形式で実行させる場合には、指定されたデータ・セットのレコードの長さが、可変長でなければなりません。

ユーザーの処置: 正しい長さのレコードをもつデータ・セットを作成して、EXPORT DATA コマンドを再実行してください。それでもまだ問題が残る場合は、QMF 管理者に相談してください。

DSQ22140

メッセージ: &V2. は EXPORT CHART では使用できません。

説明: オプション &V2. は EXPORT CHART コマンドでは使用できません。オプション MEMBER と ICUFORM だけが有効です。EXPORT CHART の MEMBER オプションは、エクスポートされた図形 (GDF ファイル) が ICU によって保管される、GDDM ライブラリーまたはファイル内のメンバーを識別します。

ユーザーの処置: &V2. とそれに関連する値を取り除いて、MEMBER オプションを指定してから、コマンドを再実行してください。

DSQ22141

メッセージ: &V2 は EXPORT CHART では使用できません。

説明: オプション &V2 は EXPORT CHART コマンドでは使用できません。ICUFORM オプションのみ使用してください。

ユーザーの処置: &V2 およびそのあとの値を取り除いて、コマンドを入力し直してください。

DSQ22142

メッセージ: メンバー名で MEMBER を完成させてください。

説明: MEMBER の後には、QMF オブジェクトをエクスポートしているメンバーを識別する名前を指定しなければなりません。

ユーザーの処置: メンバー名を入力して、コマンドを入力し直してください。

DSQ22147 - DSQ22148

メッセージ: DSQ21504 を参照してください。

DSQ22149

メッセージ: エクスポートしたいオブジェクトを指示してください。

説明: EXPORT コマンドの形式は次のとおりです。

1. EXPORT objecttype TO dataset
2. EXPORT objecttype objectname TO dataset
3. EXPORT CHART (MEMBER=member

「objecttype」が指定されていません。作業域のオブジェクトをエクスポートする場合は、objecttype は QUERY、FORM、PROC、DATA、REPORT または CHART のいずれかです。デー

データベース・オブジェクトをエクスポートする場合は、objecttype は QUERY、FORM、PROC または TABLE のいずれかです。

ユーザーの処置: EXPORT コマンドに正しいオブジェクト・タイプを追加し、コマンドを再入力してください。

DSQ22150

メッセージ: &V2 をエクスポートすることはできません。

説明: EXPORT コマンドの形式は次のとおりです。

1. EXPORT objecttype TO targetname
2. EXPORT objecttype objectname TO targetname

QUERY、FORM、PROC、TABLE、DATA、REPORT、または CHART をエクスポートできません。

ユーザーの処置: エクスポートするもののオブジェクトのタイプを訂正し、コマンドを再実行してください。

DSQ22151

メッセージ: エクスポートしたいオブジェクトを指示してください。

説明: EXPORT コマンドの形式は次のとおりです。

1. EXPORT objecttype TO filename
2. EXPORT objecttype objectname TO filename

「objecttype」が指定されていません。作業域オブジェクトをエクスポートする場合は、objecttype は QUERY、FORM、PROC、DATA、REPORT、または CHART のいずれかです。データベース・オブジェクトをエクスポートする場合は、objecttype は QUERY、FORM、PROC または TABLE のいずれかです。

ユーザーの処置: EXPORT コマンドに正しいオブジェクト・タイプを追加し、コマンドを再度、入力してください。

DSQ22152

メッセージ: DSQ21663 を参照してください。

DSQ22153

メッセージ: EXPORT コマンドが不完全です。

説明: EXPORT コマンドの形式は次のとおりです。

1. EXPORT objecttype TO targetname
2. EXPORT objecttype objectname TO targetname

「EXPORT objecttype」または「EXPORT objecttype objectname」の後に、「TO targetname」を指定していません。

ユーザーの処置: 「TO targetname」を指定し、コマンドを再試行してください。リスト・パネルからこのコマンドを入れた場合には、コマンドの形式が正しかったかどうか確認してください。このパネルから QMF コマンドを入れる場合の詳細は、リスト・パネルから呼び出されるヘルプを参照してください。

DSQ22154

メッセージ: &V2 の後に TO を指定してください。

説明: EXPORT コマンドの形式は次のとおりです。

1. EXPORT objecttype TO targetname
2. EXPORT objecttype objectname TO targetname

「EXPORT objecttype」または「EXPORT objecttype objectname」の後に、「TO targetname」を指定していません。

ユーザーの処置: 「TO targetname」を指定し、コマンドを再試行してください。リスト・パネルからこのコマンドを入れた場合には、コマンドの形式が正しかったかどうか確認してください。このパネルから QMF コマンドを入れる場合の詳細は、リスト・パネルから呼び出されるヘルプを参照してください。

DSQ22155

メッセージ: &V2 のエクスポート先を指示してください。

説明: EXPORT コマンドの形式は次のとおりです。

1. EXPORT objecttype TO XXXXX または
2. EXPORT objecttype objectname TO xxxxx

ただし "XXXXX" は、エクスポートの宛先を識別し、また、1 つまたは複数のオプションを指定することができます。コマンドでファイル名が指定されていませんでした。

ユーザーの処置: EXPORT コマンドを訂正し、再入力してください。

DSQ22156

メッセージ: DSQ21636 を参照してください。

DSQ22157

メッセージ: DSQ21637 を参照してください。

DSQ22158

メッセージ: DSQ21638 を参照してください。

DSQ22160

メッセージ: DSQ21640 を参照してください。

DSQ22161

メッセージ: DSQ21641 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ22162

メッセージ: DSQ21642 を参照してください。

DSQ22163

メッセージ: 不明の FSSTATE エラー - エラー・コード - &1。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ22164

メッセージ: DSQ22109 を参照してください。

DSQ22165

メッセージ: DSQ21663 を参照してください。

DSQ22166, DSQ22167

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22169

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ22170

メッセージ: DSQ21758 を参照してください。

DSQ22171

メッセージ: DSQ21622 を参照してください。

DSQ22172, DSQ22173

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ22176

メッセージ: DSQ21663 を参照してください。

DSQ22177

メッセージ: DSQ21758 を参照してください。

DSQ22178

メッセージ: &V3 を EXPORT &V2. で使用することはできません。

説明: オプション &V3 を EXPORT &V2. で使用することはできません。許可されているオプションは、次のとおりです。

- CONFIRM CHART には無効
- ICUFORM CHART のみに有効
- DATAFORMAT DATA、TABLE、または REPORT のみに有効
- OUTPUTMODE DATA または TABLE のみに有効
- LANGUAGE FORM のみに有効

ユーザーの処置: &V3 およびその後続くすべての値を取り除いてから、コマンドを再入力してください。

DSQ22180

メッセージ: DSQ22150 を参照してください。

DSQ22182

メッセージ: CONFIRM のあとには YES または NO を使用してください。

説明: CONFIRM オプションは、&V1 コマンドが行う変更を中止したい場合に、そのコマンドをその完了前に一時停止させることができるようにするかどうかを指示します。

このオプションが YES の場合、変更を中止する機会がユーザーに与えられ、NO の場合には、その機会是与えられません。

CONFIRM オプションを指定しなかった場合には、プロファイルの値が使用されます。

ユーザーの処置: CONFIRM のあとに YES または NO を指定してください。

DSQ22183

メッセージ: CONFIRM は &V2. ではなく YES か NO を使用してください。

説明: CONFIRM オプションは、&V1 コマンドが行う変更を中止したい場合に、そのコマンドをその完了前に一時停止させることができるようにするかどうかを指示します。

このオプションが YES の場合、変更を中止する機会がユーザーに与えられ、NO の場合には、その機会是与えられません。

CONFIRM オプションを指定しなかった場合には、プロファイルの値が使用されます。

ユーザーの処置: CONFIRM のあとには YES または NO を使用してください。

DSQ22184

メッセージ: DSQ21622 を参照してください。

DSQ22185, DSQ22186

メッセージ: DSQ21650 を参照してください。

DSQ22187

メッセージ: &V3 を EXPORT &V2. で使用することはできません。

説明: オプション &V3 を EXPORT &V2. で使用することはできません。許可されているオプションは、次のとおりです。

CONFIRM	CHART には無効
MEMBER	
ICUFORM	CHART のみに有効
DATAFORMAT	DATA、TABLE、または REPORT に有効
OUTPUTMODE	DATA または TABLE に有効
LANGUAGE	FORM のみに有効

ユーザーの処置: &V3 およびその後続くすべての値を取り除いてから、コマンドを再入力してください。

DSQ22188

メッセージ: EXPORT &V2. に指定されている名前が多すぎます。

説明: EXPORT コマンドの形式は次のとおりです。

1. EXPORT objecttype TO XXXXX または
 2. EXPORT objecttype objectname TO xxxxx
- XXXXX はエクスポート先のファイル名 ID で必要なら 1 つ以上のオプションも指定できます。「XXXXX」内の名前が多すぎます。オプションを指定した場合は、オプションとファイル ID を区別している括弧を省略した可能性があります。たとえば、次のようなコマンドを実行しようとしてしました。

```
EXPORT DATA TO JONES DATA B (CONFIRM=YES
```

しかし、CONFIRM の前の括弧を省略しました。

ユーザーの処置: EXPORT コマンドを訂正し、再入力してください。

DSQ22189

メッセージ: ICUFORM のあとに値が必要です。

説明: ICUFORMの値が抜けています。この値は、GDDM の ICU 図形書式の名前である BAR、LINE、PIE、SURFACE、HISTOGRAM、SCATTER、POLAR、TOWER または TABLE のいずれかの図形タイプ、または ICU のデフォルトの図形が使われるようにするための ICUCHART でなければなりません。

図形書式は、データをどのように図形化するかを記述するものであって、ICU で作業していたときにあらかじめ保管されていなければなりません。図形書式名の長さは、8 文字を超えてはなりません。

ICUFORM オプションを指定しないと、デフォルトの名前 DSQCFORM が使われます。

ユーザーの処置: 有効な ICUFORM 値を入れてください。それでも問題が解決しなければ、操作

担当者またはシステム・プログラマーに連絡を取ってさらに援助を得てください。

DSQ22190 - DSQ22192

メッセージ: &V2 は有効な ICUFORM 値ではありません。

説明: この ICUFORM 値は無効でした。この値は、GDDM の ICU 図形書式の名前である BAR、LINE、PIE、SURFACE、HISTOGRAM、SCATTER、POLAR、TOWER、または TABLE のいずれかの図形タイプ、または ICU のデフォルトの図形が使われるようにするための ICUCHART でなければなりません。

図形書式は、データをどのように図形化するかを記述するものであって、ICU で作業していたときにあらかじめ保管されていなければなりません。図形書式名の長さは、8 文字を超えてはなりません。

ICUFORM オプションを指定しないと、デフォルトの名前 DSQCFORM が使われます。

ユーザーの処置: 有効な ICUFORM 値を入れてください。それでも問題が解決しなければ、操作担当者またはシステム・プログラマーに連絡を取ってさらに援助を得てください。

DSQ22193

メッセージ: OK、&1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ22194

メッセージ: &V2 は EXPORT CHART でしか使用できません。

説明: オプション &V2 は EXPORT CHART コマンド以外では使用できません。現在のコマンドには CONFIRM または MEMBER、あるいはその両方のオプションだけを使用してください。

ユーザーの処置: &V2 およびそのあとの値を取り除いて、コマンドを入力し直してください。

DSQ22195

メッセージ: &V2 は EXPORT CHART でしか使用できません。

説明: オプション &V2 は EXPORT CHART コマンド以外では使用できません。現在のコマンドには、CONFIRM オプションだけを使用してください。

ユーザーの処置: &V2 およびそのあとの値を取り除いて、コマンドを入力し直してください。

DSQ22196

メッセージ: EXPORT CHART には MEMBER オプションが必要です。

説明: CHART をエクスポートする場合は、MEMBER に名前が必要です。EXPORT CHART の MEMBER オプションは、ICU がエクスポートされた CHART (GDFファイル) を GDDM ライブラリーまたはファイルに保管するときのメンバーとして識別します。

ユーザーの処置: MEMBER に名前を入力して、コマンドを入力し直してください。

DSQ22197, DSQ22198

メッセージ: EXPORT CHART に指定した名前が多すぎます。

説明: EXPORT CHART コマンドの形式は次のとおりです。

```
EXPORT CHART (xxxxx
```

ただし、'XXXXX' には、MEMBER (必須オプション) および ICUFORM の 2 つのオプションのうちの 1 つまたは両方を指定します。

「XXXXX」内の名前が多すぎます。エクスポートメンバー名とオプションを区別するための括弧が必要かもしれません。たとえば、次のようなコマンドを実行しようとしてしました。

```
EXPORT CHART (MEMBER=CHART4 ICUFORM=PIE
```

括弧を入れ忘れた可能性があります。

ユーザーの処置: EXPORT コマンドを訂正し、再入力してください。

DSQ22199

メッセージ: EXPORT CHART に指定した名前が多すぎます。

説明: EXPORT CHART コマンドの形式は次のとおりです。

```
EXPORT CHART TO xxxxx
```

ただし、「XXXXX」には、エクスポート先ファイルのファイル名を指定します。また、ICUFORM オプションを指定することもできます。エクスポート・ファイルのファイル・タイプとファイル・モードは、GDDM 対話式図形ユーティリティー (ICU) の現在のデフォルト値で決定されますので、ここでは指定しません。

「XXXXX」内の名前が多すぎます。エクスポート・ファイル名とオプションを区別するための括弧が必要かもしれません。たとえば、次のようなコマンドを実行しようとしてしました。

```
EXPORT CHART TO CHART4 (ICUFORM=PIE
```

括弧を入れ忘れた可能性があります。

ユーザーの処置: EXPORT コマンドを訂正し、再入力してください。

DSQ22200

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22201

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ22202

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22203

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ22204

メッセージ: 列 &V1 は長すぎてエクスポートできません。

説明: CMS のもとでは、LONG VARCHAR 列を持った表をエクスポートすることはできません。

TSO のもとでは、許容最大長が 254 を超える VARCHAR 列を持った表をエクスポートすることはできません。

ユーザーの処置: 列 &V1 を、エクスポートしたいオブジェクトから除去した上で、コマンドを再入力してください。

DSQ22205

メッセージ: DATA 行が長すぎます。

説明: DATA の 1 行の長さが 7168 文字を超える場合には、EXPORT DATA を実行することはできません。

ユーザーの処置: データをもっと小さく分割して選択するための照会を作成し実行してください。分割した各部分にそれを識別するための列を組み込んでおき、QMF 外部で、各部分を連結してください。

DSQ22206

メッセージ: DSQ21622 を参照してください。

DSQ22207

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22208

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ22209

メッセージ: このオブジェクト・タイプに LANGUAGE オプションは提供されていません。

説明: LANGUAGE オプションは、オブジェクト・タイプが FORM のときにだけ提供されます。オブジェクト・タイプが &V1. のときには言語を変更することはできません。

ユーザーの処置: コマンドから LANGUAGE オプションを取り除くか、またはオブジェクト・タイプを FORM に変更してください。

DSQ22210

メッセージ: 値が LANGUAGE オプションから欠落しています。

説明: コマンドによって LANGUAGE オプションを受け取りましたが、値が欠けていました。オプションを使用する場合は、値を入れてください。有効な値は以下のとおりです。

ENGLISH

この結果、書式は英語となります。

SESSION

この結果、書式はセッション言語となります。

ユーザーの処置: コマンドを再試行してください。LANGUAGE オプションに値を入れるか、コマンドから LANGUAGE オプションを除去してください。

DSQ22211

メッセージ: LANGUAGE オプションでは ENGLISH または SESSION を使用してください。

説明: LANGUAGE オプションで認識できない値が使用されています。有効な値は以下のとおりです。

ENGLISH

この結果、書式は英語となります。

SESSION

この結果、書式はセッション言語となります。

ユーザーの処置: LANGUAGE オプションを ENGLISH または SESSION にしてコマンドを再実行してください。

DSQ22212

メッセージ: DSQ21606 を参照してください。

DSQ22213 - DSQ22215

メッセージ: メンバー名 &V1. が長すぎます。

説明: メンバー名は 8 文字を超えることはできません。指定した名前は &V2 の文字の長さです。

ユーザーの処置: メンバー名を変更し、コマンドを再実行してください。

DSQ22216

メッセージ: DATAFORMAT の後には、'QMF' または 'HTML' を使用してください。

説明: データ形式の値が指定されていません。有効な値は、'QMF' または 'HTML' です。データ形式オプションを指定しないと、デフォルトの値である QMF が採用されます。

ユーザーの処置: 有効なデータ形式の値を入力してから、コマンドをやり直してください。それでもまだ問題が残る場合は、QMF 管理者に相談してください。

DSQ22220

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22221

メッセージ: &V1 に無効な属性があります。

説明: EXPORT REPORT に使用されるデータ・セットは、最低の論理レコード長が &V2. の可変

長レコード形式でなくてはなりません。

ユーザーの処置: 十分な論理レコード長を持つ可変長レコード形式のデータ・セットに対して、報告書をエクスポートしてください。または、まだ存在していないデータ・セットの名前を指定して、QMF に自動的に割り振らせてください。

DSQ22222

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ22230

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22231

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ22250

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22251

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ22326 - DSQ22406

メッセージ: DSQ20010 を参照してください。

DSQ22424

メッセージ: DSQ21833 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ22426 - DSQ22438

メッセージ: DSQ20010 を参照してください。

DSQ22439

メッセージ: &C1 は編集に無効なオブジェクト・タイプです。

説明: 編集コマンドは以下のいずれかの形式でなければなりません。

```
EDIT QUERY
EDIT PROC
EDIT TABLE tablename
EDIT tablename
```

有効な表名の形式は、

LOCATION.OWNER.NAME、OWNER.NAME、または NAMEのいずれかです。修飾子は二重引用符で囲んでも囲まなくてもかまいません。名前のセクションは二重引用符で "OWNER".NAME のように囲むことができます。ロケーションには最大 16 文字まで指定できます。現在ご使用の、&LS. へのデータベース接続は、以下の長さをサポートします。

- QMF 許可 ID には、最大 &LQ. 文字まで指定できます。
- QMF オブジェクト名には、最大 &LN. 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト許可 ID には、最大 &LA. 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト名には、最大 <. 文字まで指定できます。

引用符を付けない名前は、英字、数字、およびそれ以外の文字で「&&ugrr.」で定義されている文字が使用できます。引用符を付けた名前には、二重引用符以外の任意の文字を使用できます。

ユーザーの処置: QUERY、PROC、TABLE、または表名を指定しコマンドを再入力してください。データベースに保管されている照会、またはプロシージャを編集したい場合 DISPLAY コマンドを使用して、データベースからオブジェクトを検索してください。EDIT コマンドを再入力してください。

DSQ22440

メッセージ: DSQ21781 を参照してください。

DSQ22441

メッセージ: &V2 は表または視点ではありません。

説明: &V2 は &V3 ではないので、編集できません。編集できるのはデータベースの表または更新可能な視点だけです。

ユーザーの処置: 既存の表を編集したい場合、まず似たような名前の照会、書式、プロシージャを削除してください。消去する前にそのオブジェクトを表示して、別の名前を付けて保管しておくといでしょう。こうしておけば、重要なオブジェクトを失わなくてすみます。

DSQ22442

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22443

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ22444

メッセージ: このオブジェクトを編集できません。

説明: &V2 が見つからなかったか、または表ではありません。

ユーザーの処置: 名前を変更しデータベースに存在する表の名前にしてください。LIST コマンドで、データベース中のどの表が使用可能なのかを参照できます。このコマンドをリスト・パネルから入力する場合は、表名のとりに EDIT コマンドを入力したか確認してください。

パネルに QMF コマンドをどのように入力するかを見るためには、リスト・パネルを表示している間に、ヘルプ・キーを押してください。

DSQ22445

メッセージ: QBE または指示照会を編集することはできません。

説明: SQL 照会または QMF プロシージャは編集できます。

ユーザーの処置: SQL 照会を表示し、コマンドをふたたび入力してください。 CONVERT コマンドを使用し、QBE または指示照会に関する変換済み SQL を取り出すことができます。取り出した後、SQL 照会を編集できます。

DSQ22446

メッセージ: &V2 はオブジェクト・タイプ &V1 には無効です。

説明: 有効なオブジェクト名を指定しませんでした。照会かプロシージャを編集しようとする場合は、一時記憶域の照会かプロシージャを編集するため、オブジェクト名はブランクにしなればなりません。

有効なオブジェクト名はロケーション.所有者.名前、所有者.名前または NAME のどれかの形式です。名前のセクションは二重引用符で "OWNER".NAME のように囲むことができます。ロケーションには最大 16 文字まで指定できます。現在ご使用の、YLS. へのデータベース接続は、以下の長さをサポートします。

- QMF オブジェクト許可 ID には、最大 &LQ. 文字まで指定できます。
- QMF オブジェクト名には、最大 &LN. 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト許可 ID には、最大 &LA. 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト名には、最大 <. 文字まで指定できます。

LIST パネルでオブジェクト名の隣に EDIT を入力すると LIST にオブジェクトのタイプと名前が自動的に追加されます。表を編集していない、またはオブジェクト・タイプだけを追加する EDIT /T を使用していないければ LIST パネルで EDIT を使用しないでください。

ユーザーの処置: 有効なオブジェクト名を指定するか、またはブランクのままにしてください。

DSQ22447

メッセージ: 編集プログラム "&V1" は戻りコード "&V2" で失敗しました。

説明: 指定した編集プログラム "&V1" は、ゼロ以外の戻りコード "&V2" を戻しました。この戻りコードは、エラーの原因を判別するために役立つかもしれませんが。

ユーザーの処置: エラーの原因を解決して、コマンドを入力し直してください。

DSQ22448

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ22449

メッセージ: 警告: &V1 が &V2 レコードのあとで切り捨てられました。

説明: 編集した &V1 が、QMF が現在使用できる記憶域に入れるには大きすぎました。&V1 は &V2 レコードのあとで切り捨てられました。切り捨てられなかった &V1 は、消去するか、別の EDIT PROC または EDIT QUERY コマンドを出すまで &V3 と名前指定されたファイル内に残ります。

ユーザーの処置: CMS コマンドまたは TSO コマンドを使用して、切り捨てられた &V1 を含むファイルの名前を変えることで、&V1 は失われません。ついで、RESET DATA コマンドを出して、QMF に対してより多くの記憶域を使用可能にして、かつまた IMPORT &V1 コマンドを出して QMF 内にオブジェクトを入れてください。データを使用していない場合には、セッションにはさらに多くの記憶域が必要かもしれません。

DSQ22450

メッセージ: EDIT に指定した名前が多すぎます。

説明: EDIT コマンドは以下のいずれかの形式にする必要があります。

1. EDIT QUERY (options)
2. EDIT PROC (options)
3. EDIT TABLE tablename (options)
4. EDIT tablename (options)

有効な表名の形式は、

LOCATION.OWNER.NAME、OWNER.NAME、または NAMEのいずれかです。名前の各セクションは、"OWNER".NAME のように二重引用符で囲むことができます。ロケーションには 16 文字まで指定できます。現在ご使用の、&LS. へのデータベース接続は、以下の長さをサポートします。

- QMF オブジェクト許可 ID には、最大 &LQ. 文字まで指定できます。
- QMF オブジェクト名には、最大 &LN. 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト許可 ID には、最大 &LA. 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト名には、最大 <. 文字まで指定できます。

オプションの前の左括弧を省略してしまったか、表名のピリオド区切り記号を付け忘れた可能性があります。

ユーザーの処置: 評名が正しい形式 ("." がなにも省略されていない) か、オプションの前に左括弧があるかを確かめてください。

DSQ22451

メッセージ: MODE オプションを完成してください。

説明: MODE オプションが欠落しています。まったく指定しない場合、省略値は CHANGE です。MODE オプションを入力する場合は、ADD または CHANGE のどちらかを入力してください。

ユーザーの処置:

1. 表または視点の行を変更したい場合は、MODE オプションを指定しないか、MODE = CHANGE を入力してください。

2. 表または視点に行を追加したい場合は、MODE = ADD を入力してください。

リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。パネルに QMF コマンドをどのように入力するかを見るためには、リスト・パネルを表示している間に、ヘルプ・キーを押してください。

DSQ22452

メッセージ: 編集ファイルが使用できません。

説明: QMF と編集プログラムとのあいだでデータを転送するために、QMF によって CMS ファイルが使われます。この編集ファイルが使用できません。編集ファイルは、CMS FILEDEF コマンドを使うことによって使用可能となります。このコマンドの使い方がわからない場合には、サポート担当者に相談してください。QMF で CMS ファイルを使用できるようにするためには、QMF コマンド行に次の CMS コマンドを入力してください。

```
CMS FILEDEF DSQEDIT DISK QMFEDIT FILE A1
```

ユーザーの処置: 編集ファイルを使用できるようにして、EDIT コマンドを実行し直してください。

DSQ22453

メッセージ: "&V1" は 8 文字以下でなければなりません。

説明: 編集プログラム名 "&V1" は 8 文字以下でなければなりません。編集プログラム名前には、インストール先で使用可能な編集プログラム名を指定できます。この編集プログラム名前がわからない場合には、サポート担当者に連絡してください。EDITOR オプションを入力しない場合、ISPF の PDF 編集プログラムが使われず。

ユーザーの処置: 編集プログラム名を入力するか、または EDITOR キーワードを除去して、コマンドを入力し直してください。

DSQ22454

メッセージ: 編集データ・セットが使用できません。

説明: QMF と編集プログラムとのあいだでデータを転送するために、QMF によって TSO データ・セットが使われます。この編集データ・セットが使用できません。編集データ・セットは、TSO ALLOCATE コマンドを使うことによって使用可能となります。このコマンドの使い方がわからない場合には、サポート担当者に相談してください。QMF で TSO データ・セットを使用できるようにするためには、QMF コマンド行に次の TSO コマンドを入力してください。

```
TSO ALLOCATE DDNAME(DSQEDIT)
UNIT(SYSVIO) NEW
TSO ALLOCATE DDNAME(DSQEDIT)
UNIT(SYSDA) NEW
```

ユーザーの処置: 編集データ・セットを使用できるようにして、EDIT コマンドを実行し直してください。

DSQ22457

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22458

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ22460

メッセージ: DSQ21777 を参照してください。

DSQ22461 - DSQ22462

メッセージ: DSQ22439 を参照してください。

DSQ22463

メッセージ: CICS で照会やプロシーチャーを編集することはできません。

説明: CICS 環境で実行中の場合には、EDIT コ

マンドを使って照会やプロシーチャーを編集することはできません。

ユーザーの処置: DISPLAY コマンドを使って照会やプロシーチャーを表示し、QMF 画面でそれを変更できます。または、照会やプロシーチャーをエクスポートして、編集プログラムでそれを編集し、QMF へインポートしてください。

DSQ22464

メッセージ: 表編集プログラムはバッチ・モードでは実行されません。

説明: QMF をバッチ・モードで起動しました。画面を表示し入力を得ようとしているので、今表編集プログラムは実行できません。バッチ・モードでは画面は表示されず、また変更することもできません。

ユーザーの処置:

表編集プログラムはバッチ・モードでは実行できません。

DSQ22468

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22469

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ22471

メッセージ: &V1 は編集セッション中に変更されていません。

説明: 編集するように指定した照会またはプロシーチャーは、編集セッション中に変更されませんでした。現在の照会またはプロシーチャーは変更されていません。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

DSQ22473

メッセージ: 編集プログラム名を指定して EDITOR オプションを完成させてください。

説明: 編集プログラム名が抜けています。これは、インストール先でサポートされる編集プログラムの名前であればなりません。EDITOR オプションを省略すると、ISPF/PDF がデフォルトの編集プログラムになります。ISPF 編集プログラムは、編集プログラム名 "PDF" を使用して指定できます。たとえば、次の例は正しい例です。

EDITOR = PDF

ユーザーの処置: 有効な編集プログラム名を入れてください。それでも問題が解決しなければ、操作担当者またはシステム・プログラマーに相談してください。

DSQ22474 - DSQ22477

メッセージ: DSQ21504 を参照してください。

DSQ22478 - DSQ22480

メッセージ: &V1 は EDIT &V2 では使用できません。

説明:

1. 表を編集している場合、使用できるオプションは MODE、SAVE または CONFIRM だけです。
2. QUERY または PROC を編集している場合、使用できるオプションは EDITOR だけです。

ユーザーの処置: &V1 を変更するか、この値およびそれに続く値を取り除いてください。

DSQ22481

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22482

メッセージ: &V1 は MODE に有効ではありません。

説明: &V1 は MODE キーワードに有効な値ではありません。まったく指定しない場合、省略値は CHANGE です。MODE オプションを入力する場合は、ADD または CHANGE のどちらかを入力してください。

ユーザーの処置:

1. 表または視点の行を変更したい場合は、MODE オプションを指定しないか、(MODE = CHANGE を入力してください)。
2. 表または視点に行を追加したい場合は、(MODE = ADD を入力してください)。

リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。パネルに QMF コマンドをどのように入力するかを見るためには、リスト・パネルを表示している間に、ヘルプ・キーを押してください。

DSQ22483

メッセージ: 表名を指定してください。

説明: 表名が欠落しています。データベース中の表または視点を編集したい場合は、その名前を指定しなければなりません。たとえば、次の例は正しい例です。

EDIT TABLE Q.STAFF

ユーザーの処置: コマンドを訂正して再試行してください。リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。パネルに QMF コマンドをどのように入力するかを見るためには、リスト・パネルを表示している間に、ヘルプ・キーを押してください。

DSQ22484

メッセージ: DSQ22446 を参照してください。

DSQ22485 - DSQ22521

メッセージ: DSQ20010 を参照してください。

DSQ22527

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22528

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ22529

メッセージ: EXTRACT コマンドに指定した名前が多すぎます。

説明: EXTRACT コマンドの形式は次のとおりです。

```
EXTRACT name (option-list)
```

ただし、名前は保管されている DXT 抽出要求の名前です。

DXT 抽出名にはブランクを含めることはできず、また 8 文字以下でなくてはなりません。

EXTRACT にオプションを指定する場合、必ず次のように左括弧を使ってください。

```
EXTRACT MYEXT (PASSWORD=X)
```

ユーザーの処置: 上記の形式に EXTRACT コマンドを変更して、コマンドを入力し直してください。

DSQ22531

メッセージ: DXT セットアップ EXEC または CLIST &V1 が戻りコード &V2 で終了しました。

説明: &V1 EXEC または CLIST がゼロ以外の戻りコード &V2 で終了したため、EXTRACT コマンドが実行されませんでした。この戻りコードは、問題の性質を判別するための目安になるかもしれません。

ユーザーの処置: 問題を解決してコマンドを入力し直してください。問題の解決方法がわからない

場合には、QMF 管理者に連絡をとって援助を求めてください。

DSQ22532

メッセージ: DXT 環境が存在しません。EXTRACT は実行されません。

説明: DXT を使用したり、DXT に対して抽出要求を送ったりする前に、DXT 環境が存在していません。

DXT 環境は、対話式 ISPF セッションを開始したときに、または、DXT セットアップの DSQABX2L という名前の EXEC または DSQABX1L という名前の CLIST を使うことによって、確立されます。

ユーザーの処置: DXT 環境の存在を確認してから、コマンドを入力し直してください。DXT 環境がよくわからない場合には、QMF 管理者に連絡をとって援助を求めてください。

DSQ22533

メッセージ: 抽出名 &V1 が DXT ライブラリーに存在しません。

説明: 指定の抽出名 &V1 は DXT ライブラリーには存在しません。DXT エンド・ユーザー・ダイアログのリスト機能を使用すれば、DXT 抽出名のリストを得ることができます。DXT ダイアログ・メニューを表示するには、名前の指定がない EXTRACT コマンドを入力してください。

ユーザーの処置: 抽出名を変更して、コマンドを入力し直してください。DXT プロダクトがよくわからない場合には、QMF 管理者に連絡を取って援助を求めてください。

DSQ22534

メッセージ: 抽出 &V1 が DXT 内で完了していません。

説明: 要求された抽出 &V1 には、DXT によって処理するために必要な情報が含まれていませ

ん。この抽出要求で欠けているものは、宛先情報、アクセス情報、表の情報、またはその他の必要な情報が考えられます。

ユーザーの処置: DXT 内で抽出要求を訂正し、コマンドを入力し直してください。抽出要求を完成させる方法がわからない場合には、QMF 管理者に連絡を取って援助を求めてください。

DSQ22535

メッセージ: 無効なパラメーターが DXT に渡されました; PARM=&1

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ22536

メッセージ: 抽出名 &V1 が長すぎます。

説明: DXT 抽出要求名が長すぎます。DXT バージョン 2 リリース 2 またはそれ以降のものを使用している場合、抽出要求名の長さは 18 文字以内でなければなりません。DXT バージョン 2 リリース 1 またはそれ以前のものを使用している場合、抽出要求名の長さは 8 文字以内でなければなりません。

ユーザーの処置: 抽出名を変更してコマンドを入力し直してください。DXT プロダクトがよくわからない場合には、QMF 管理者に連絡を取って援助を求めてください。

DSQ22537

メッセージ: DXT から予期しない戻りコードが出されました; RC=&1。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ22538

メッセージ: &V1 は EXTRACT コマンドで使用できません。

説明: EXTRACT コマンドの形式は次のとおりです。

EXTRACT name (PASSWORD=password)

ただし、「name」は DXT 抽出要求の名前です。「password」は、DXT 抽出名を指定する場合にはオプションです。このパスワードは、リレーショナル・データベースに対する抽出要求を出す場合には、指定する必要があります。抽出名は、既存の DXT 抽出の名前でなければなりません。

ユーザーの処置: EXTRACT コマンドを訂正して、入力し直してください。DXT プロダクトがよくわからない場合には、QMF 管理者に連絡を取って援助を求めてください。

DSQ22539

メッセージ: DSQ21833 を参照してください。

DSQ22540

メッセージ: パスワード値が 8 文字以下になっていません。

説明: DXT 抽出のパスワード値の長さは、8 文字を超えてはなりません。リレーショナル・データベースのために抽出要求の名前を指定するさいには、パスワードが必要です。

ユーザーの処置: 抽出パスワードの値を変更して、コマンドを入力し直してください。DXT プロダクトがよくわからない場合には、QMF 管理者に連絡を取って援助を求めてください。

DSQ22541

メッセージ: パスワードの値が欠落しています。

説明: 抽出要求の名前を指定する場合、その抽出がリレーショナル・データベースに関するものであれば、パスワードが必要です。

VM 環境では、このパスワードは、抽出要求に関連する生成 EXEC の SQL CONNECT コマンドで使われます。

MVS 環境では、このパスワードは、抽出要求に関連する生成 JCL JOB の JOB カードで使われます。

ユーザーの処置: 抽出パスワードの値を追加して、コマンドを入力し直してください。DXT プロダクトがよくわからない場合には、QMF 管理者に連絡を取って援助を求めてください。

DSQ22542

メッセージ: パスワード値が指定されましたが抽出名が欠落しています。

説明: 抽出パスワードを指定する場合には、抽出名も指定しなくてはなりません。抽出名を指定しない場合には、パスワードを除去してください。

ユーザーの処置: パスワードを除去するか抽出名を追加するかして、コマンドを入力し直してください。DXT プロダクトがよくわからない場合には、QMF 管理者に連絡を取って援助を求めてください。

DSQ22543

メッセージ: コマンド &V1 を対話式 QMF セッションで実行していません。

説明: &V1 コマンドを実行するためにはパネルを表示する必要があり、そのためには対話式 QMF セッションが必要です。バッチで出されたコマンド、または INTERACT を使わずに QMF コマンド・インターフェースを介して出されたコマンドによって、ユーザー対話または表示を行なってはけません。

ユーザーの処置: 対話式で、または INTERACT コマンドを使って QMF コマンド・インターフェース経由で、&V1 コマンドを再入力してください。バッチ・プロシージャーでこのコマンドを使用している場合には、パネルの表示を行うすべて

のコマンドをプロシージャーから除去してください。

DSQ22544

メッセージ: DSQ22536 を参照してください。

DSQ22545

メッセージ: DXT から予期しない戻りコードが出されました; RC=&1。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ22551 - DSQ22554

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ22555 - DSQ22557

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22558

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ22560

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22561

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ22562

メッセージ: リポジトリ管理プログラムは利用できません。

説明: &V1 コマンドを実行するにはリポジトリ管理プログラムが利用可能でなければなりません。リポジトリ管理プログラムがシステムにインストールされていないか、または現在、アクテ

イブではありません。 &V1 コマンドは実行されません。

ユーザーの処置: リポジトリ管理プログラムが存在することを確認し、再度コマンドを出してください。リポジトリ管理プログラムがよくわからない場合、 QMF 管理者に連絡してください。

DSQ22571 - DSQ22573

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22574, DSQ22575

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ22578

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ22601

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ22602, DSQ22603

メッセージ: 表は作成されません。QUERY にはコメントか空でなければなりません。

説明: DRAW コマンドは、事前に形式設定された SQL ステートメントを SQL 照会に追加します。QUERY パネルは、空にするか、またはコメントを含めることができます。なにかこれ以外のものが照会に含まれていた場合には、DRAW は実行されません。

ユーザーの処置: RESET QUERY (LANGUAGE=SQL というコマンドを入力して空の SQL パネルを得るか、または、コメント・シンボル "--" を用いることによって、QUERY の現行内容をコメントにして加えてください。

DSQ22605

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22606

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ22642 - DSQ22643

メッセージ: DSQ22602 を参照してください。

DSQ22644

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ22645

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22646

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ22681

メッセージ: ページ行数が &V4 から 999 までの GDDM プリンターを使用してください。

説明: GDDM プリンター &V2 は、ページ行数が少なすぎて &V1. を印刷することができません。このプリンターは、ページ行数 &V3. として定義されています。GDDM プリンターの名前は、PRINT コマンド、PROFILE パネル、または PRINT コマンドのプロンプト・パネルのいずれかで、オプションとして指定できます。

ユーザーの処置: &V4 から 999 までのページ行数をもつ GDDM プリンターの名前を入力してください。

DSQ22701

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22702

メッセージ: 表は作成されません。照会は SELECT に関係なくコメントを含むか、空の必要があります。

説明: SQL 照会に対して DRAW コマンドを使用するさいに、TYPE オプションを指定しないか、または TYPE を SELECT とする場合には、その SQL 照会は、コメント以外のものをなにも含まないものであるか、または、コメント以外の部分の最初の語が SELECT でなければなりません。

ユーザーの処置: 照会を修正して、コメント以外のものをなにも含まないものにするか、またはコメント以外の部分が SELECT で始まるようにしてください。そして、DRAW コマンドを再入力してください。

DSQ22703, DSQ22704

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ22725

メッセージ: プロファイル・パネルが正確に更新されなかった可能性があります。

説明: プロファイルが再ロードされた後で、QMF は SPACE オプションの説明を更新して、データベースの現行タイプである DB2 サーバー (VSE および VM 版) または DB2 のどちらかを反映させます。テキストは、作業用記憶域が十分でなかったために更新されなかった可能性があります。説明テキストは、現行データベースに反映されていない可能性があります。しかし、プロファイル・オプションのすべての値は正確です。

ユーザーの処置: RESET DATA コマンドを使用してください。これにより、追加の記憶スペースを使用できます。現在 DATA を使用していない場合、セッションでさらに記憶スペースが必要である可能性があります。このエラーが繰り返される場合には、QMF 管理者に相談してください。

DSQ22730

メッセージ: このオブジェクトの印刷には、&V3 - 999 の LENGTH を指定してください。

説明: LENGTH に指定する値は &V3 から 999 までの数値でなければなりません。この値は、PRINT コマンド、PROFILE パネル、または PRINT コマンドのプロンプト・パネルで、オプションとして指定できます。

ユーザーの処置: &V2 オブジェクトに対する LENGTH として、&V3 から 999 までの値を入力してください。

DSQ22731 - DSQ22742

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ22743

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22744

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ22745 - DSQ22760

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ22761

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ22762

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22763

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ22769

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22770

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ22771

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22772 - DSQ22774

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ22775

メッセージ: &V1 コマンドに指定されたオブジェクトは処理できません。

説明: ファイルまたはデータ・セット &V2 で、QMF 形式に必要なデータの一部が含まれていないか、データが変更されているか、または新しい行が &V2 に挿入されたかの状況が生じています。(QMF の外部で QMF 第 1 版の書式または QBE 照会を編集してはなりません。)

ユーザーの処置: オブジェクトを再度エクスポートし、&V1 コマンドを再度入力してください。

DSQ22776

メッセージ: &V1 コマンドに指定されたオブジェクトは処理できません。

説明: &V2 によって所有されているデータベース・オブジェクト &V3 が、QMF 形式に必要なデータの一部を含んでいないか、データが変更されているか、または新しい行が Q.OBJECT_DATA に挿入されているかのいずれかの状況が生じています。(Q.OBJECT_DATA 表に保管されているオブジェクトに対して、行の変更、削除、または挿入してはなりません。)

ユーザーの処置: オブジェクトを再度保管して、&V1 コマンドを再入力してください。

DSQ22777

メッセージ: DSQ22775 を参照してください。

DSQ22778

メッセージ: DSQ22776 を参照してください。

DSQ22779

メッセージ: ディレクトリー・レベル &1 がヘッダー・レコード・レベル &2 と一致していません。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。

Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ22800

メッセージ: DSQ20825 を参照してください。

DSQ22821

メッセージ: OK、&2 は &3 で印刷されました。

DSQ22823

メッセージ: **DSQ22067** を参照してください。

DSQ22830, DSQ22831

メッセージ: DSQ21758 を参照してください。

DSQ22834

メッセージ: DSQ22093 を参照してください。

DSQ22838

メッセージ: LENGTH には &V2 ではなく、&V3 ~ 999 の数字を指定してください。

説明: 書式または指示照会のオブジェクトを印刷する場合、LENGTH に指定する値は &V3 から 999 までの範囲の任意の数値でなければなりません。この値は、PRINT コマンド、PROFILE パネル、または PRINT コマンドのプロンプト・パネルで、オプションとして指定できます。

ユーザーの処置: LENGTH に、&V3 から 999 までの範囲の値を入力してください。

DSQ22839

メッセージ: プリンターのニックネームを準備してください。

説明: "&V2" のようなオブジェクトを印刷する場合には、PRINTER に値を指定する必要があります。この値は、PRINT コマンド、PROFILE パネル、または PRINT コマンドのプロンプト・パネルで、オプションとして指定できます。これは ADMDEFS ファイルの GDDM ニックネームの 1 つでなければなりません。有効なニックネームについては QMF 管理者に連絡するか、新たにセットアップしてください。

ユーザーの処置: 印刷コマンドのプロンプト・パネルを表示するには、このヘルプ・パネルを終了し、ENTER キーを押します。PRINTER に有効な GDDM プリンターの通称を入力してください。

DSQ22840

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ22841, DSQ22482

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ22843

メッセージ: PRINTER には GDDM 図形プリンターの通称が必要です。

説明: 図形を印刷する場合、PRINTER に通称を指定する必要があります。この値は、PRINT コマンド、PROFILE パネル、または PRINT コマンドのプロンプト・パネルで、オプションとして指定できます。

ユーザーの処置: PRINTER に対して、GDDM 図形プリンターの有効な通称を指定してください。

DSQ22844

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ22846 - DSQ22848

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22850

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ22855

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22856

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ22858

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ22860

メッセージ: DSQ21758 を参照してください。

DSQ22861

メッセージ: DSQ22093 を参照してください。

DSQ22870

メッセージ: DSQ21696 を参照してください。

DSQ22871

メッセージ: プリンターのレコード長が短すぎます。

説明: 使用しているプリンターのレコード長が短すぎて、QMF での最も短い行が収まりません。

ユーザーの処置: QMF の外部でのなんらかの操作によって、プリンターのレコード長を少なくとも 22 に変更し、そして、そのレコード長を超えない行の幅を使用してください。

DSQ22872

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22873

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ22874

メッセージ: 指定した LENGTH、&V1 は 1 ページに印刷するには短すぎます。

説明: このオブジェクトを印刷するのに必要なページ長は少なくとも &V2 です。これによって QMF がそのページのヘッダーと後書きを印刷することができます。PROFILE 画面か、PRINT コマンド・プロンプト画面で PRINT コマンドのオプションとして、&V1 の長さを指定しました。

ユーザーの処置: 少なくとも &V2 の LENGTH 値に増やしてください。

DSQ22890

メッセージ: 警告メッセージが生成されました。

説明: QMF での作業中に検出された条件に関して、QMF が警告メッセージを生成しました。これらのメッセージは、QMF トレース・データに入ります。そのメッセージは、PF キーの定義、インストール先定義コマンドの定義、QMF コマンド・インターフェースの初期化、または QMF 管理プログラム・ルーチンの初期化、またはリポジトリ管理プログラムが使用可能でないことに関連するものです。リポジトリ管理プログラムが使用可能でない場合、モデルはこのセッションに対して ER から REL に変更されました。

ユーザーの処置: QMF トレース・データの警告メッセージを見てください。これを行う方法がわからない場合、またはメッセージで指定された QMF 事項を熟知していない場合には、QMF 管理者に相談してください。

DSQ22891

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22892

メッセージ: DSQIFSQL から予期しない戻りがありました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ22893 - DSQ22895

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22896

メッセージ: コマンドを定義する表の行 &V1 に VERB がありません。

説明: VERB 列に項目が記入されていない場合には、同じ行の SYNONYM_DEFINITION 列で定義されたコマンドを使用することができません。

ユーザーの処置: インストール先コマンドを定義する表に動詞名を入れるか、またはこの行を削除してください。

DSQ22897, DSQ22898

メッセージ: コマンドを定義する表の行 &V1 の VERB が無効です。

説明: インストール先コマンドを定義する表の VERB 列に入れる項目は、次のいずれかで始まらなければなりません。

1. A から Z までの英字
2. #
3. \$
4. @
5. _ (下線)

名前の残りの部分は、上記のいずれか、または 0 から 9 までの数字でなければなりません。列内の名前の後には、ブランクのみを指定できます。

ユーザーの処置: 上の規則に従って名前を訂正してください。

DSQ22899

メッセージ: コマンドを定義する表の行 &V1 に無効な OBJECT があります。

説明: インストール先コマンドを定義する表の OBJECT 列に入れる項目は、データベースの表名の形式と同じでなければなりません。すなわち、

次の内のどれかの形式でなければなりません。

1. OWNER_NAME.TABLE_NAME
2. TABLE_NAME
3. "TABLE_NAME"
4. "OWNER_NAME".TABLE_NAME
5. OWNER_NAME."TABLE_NAME"
6. "OWNER_NAME"."TABLE_NAME"

ピリオド (.) の前後にブランクを置くことができます。それ以外のデータが列の中に入っているではありません。

ユーザーの処置: 上の指針に従って名前を訂正するか、またはその行の項目を表から削除してください。

DSQ22900

メッセージ: コマンドを定義する表の行 &V1 に SYNONYM_DEFINITION がありません。

説明: SYNONYM_DEFINITION がなければ、記入項目は無意味です。

ユーザーの処置: SYNONYM_DEFINITION を入れるか、またはインストール先コマンドを定義する表からその行を除去してください。

DSQ22901, DSQ22902

メッセージ: コマンドを定義している表の行 &V1 には無効な SYNONYM_DEFINITION 項目があります。

説明: SYNONYM_DEFINITION 列に表示される最初の項目は RUN または &V2 コマンドにしてください。

ユーザーの処置: 列の最初の項目として RUN または &V2 コマンドを入力するかまたはインストール先コマンドを定義する表から項目を除去してください。MVS を使用している場合、コマンド同義語表をチェックし、CICS で実行している場合に TSO コマンドがないか、またその逆がないかどうか確認してください。

DSQ22903

メッセージ: コマンドを定義する表の VERB 列は文字データでなければなりません。

説明: インストール先コマンドを定義する表の VERB 列の定義が正しくありません。この表で定義したコマンドの同義語は使用できません。

ユーザーの処置: VERB 列を文字データとして定義し、インストール先コマンドを定義する表を作成し直してください。

DSQ22904

メッセージ: コマンドを定義する表の VERB 列の長さは 18 でなければなりません。

説明: インストール先コマンドを定義する表の VERB 列の長さが 18 文字になっていません。この表で定義したコマンドは使用できません。

ユーザーの処置: VERB 列の長さを 18 文字として定義し、表を作成し直してください。

DSQ22905

メッセージ: コマンドを定義する表の VERB 列に NULL を許容してはなりません。

説明: インストール先コマンドを定義する表が、VERB 列に NULL を入れることが許されるように定義されています。この表の定義では、VERB 列に NULL が許されないようにしなければなりません。この表で定義したコマンドは使用できません。

ユーザーの処置: VERB 列に NULL を含めることができないように定義して、表を作成し直してください。

DSQ22906

メッセージ: コマンドを定義する表の OBJECT 列が正しく定義されていません。

説明: インストール先コマンドへ定義する表の OBJECT 列は、可変長の文字データとして定義し

なければなりません。この表で定義したコマンドは使用できません。

ユーザーの処置: OBJECT 列を可変長文字データとして定義し、表を作成し直してください。

DSQ22907

メッセージ: コマンドを定義する表の OBJECT 列の長さは 31 でなければなりません。

説明: インストール先コマンドを定義する表の OBJECT 列の長さが 31 文字になっていません。この表で定義したコマンドは使用できません。

ユーザーの処置: OBJECT 列の長さを 31 文字として定義し、表を作成し直してください。

DSQ22908

メッセージ: コマンドを定義する表の OBJECT 列に NULL を許容しなければなりません。

説明: インストール先コマンドを定義する表の OBJECT 列が、NULL を許容するように定義されていません。この表で定義したコマンドは使用できません。

ユーザーの処置: OBJECT 列に NULL を含めることができるように定義して、表を作成し直してください。

DSQ22909

メッセージ: コマンドを定義する表の SYNONYM_DEFINITION 列が正しくありません。

説明: インストール先コマンドを定義する表の SYNONYM_DEFINITION 列は、可変長の文字のデータとして定義されていなければなりません。この表で定義したコマンドは使用できません。

ユーザーの処置: SYNONYM_DEFINITION 列を可変長文字データとして定義して、表を作成し直してください。

DSQ22910

メッセージ: コマンドを定義する表の SYNONYM_DEFINITION 列の長さが無効です。

説明: インストール先コマンドを定義する表の SYNONYM_DEFINITION 列の長さは、254 でなければなりません。この表で定義したコマンドは使用できません。

ユーザーの処置: SYNONYM_DEFINITION 列の長さを 254 文字として定義し、表を作成し直してください。

DSQ22911

メッセージ: コマンドを定義する表の SYNONYM_DEFINITION 列では、NULL は許されません。

説明: インストール先コマンドを定義する表が、SYNONYM_DEFINITION 列で NULL が許容されるように定義されています。この表の定義では、この列に NULL が許されないようにしなければなりません。この表で定義したコマンドは使用できません。

ユーザーの処置: SYNONYM_DEFINITION 列に NULL を含むことができないように定義して、表を作成し直してください。

DSQ22912 - DSQ22914

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22915, DSQ22916

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ22917

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22918, DSQ22919 - DSQ22919

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ22920

メッセージ: Q.PROFILE 表の SYNONYMS 列に無効な項目が入っています。

説明: Q.PROFILE 表の SYNONYMS 列に無効な表名が入っているため、インストール先で定義したコマンドは使用できません。表名は、次のいずれかの形式で指定しなければなりません。

1. OWNER_NAME.TABLE_NAME
2. TABLE_NAME
3. "TABLE_NAME"
4. "OWNER_NAME".TABLE_NAME
5. OWNER_NAME."TABLE_NAME"
6. "OWNER_NAME"."TABLE_NAME"

ピリオド (.) の前後にブランクを置くことができます。それ以外のデータが列の中に入っているではありません。

ユーザーの処置: 上のガイドにしたがって名前を訂正してください。

DSQ22921

メッセージ: Q.PROFILE 表の SYNONYMS 列に無効な項目が入っています。

説明: Q.PROFILE 表の SYNONYMS 列の中の所有者名または表名が長すぎるため、インストール先で定義したコマンドは使用できません。現在ご使用の、&LS. へのデータベース接続は、以下をサポートします。

- QMF オブジェクト許可 ID には、最大 &LQ. 文字まで指定できます。
- QMF オブジェクト名には、最大 &LN 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト許可 ID には、最大 &LA 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト名には、最大 <. 文字まで指定できます。

この項目は、次のいずれの形式で指定できます。

1. OWNER_NAME.TABLE_NAME
2. TABLE_NAME
3. "TABLE_NAME"
4. "OWNER_NAME".TABLE_NAME
5. OWNER_NAME."TABLE_NAME"
6. "OWNER_NAME"."TABLE_NAME"

ユーザーの処置: 上のガイドにしたがって名前を訂正してください。

DSQ22922

メッセージ: コマンドを定義する表の行 &C1 のオブジェクト名が長すぎます。

説明: 行のオブジェクト名が、許可された最大長を超えています。オブジェクト名は以下のいずれかの形式にすることができます。

1. OWNER_NAME.TABLE_NAME
2. TABLE_NAME
3. "TABLE_NAME"
4. "OWNER_NAME".TABLE_NAME
5. OWNER_NAME."TABLE_NAME"
6. "OWNER_NAME"."TABLE_NAME"

現在ご使用の、&LS. へのデータベース接続は、以下の長さをサポートします。

- データベース・オブジェクト許可 ID には、最大 &LA. 文字まで指定できます。
- データベース表名には、最大 <. 文字まで指定できます。

ユーザーの処置: オブジェクト名の長さを調整するか、またはインストール先コマンドを定義する表からその行を除去してください。

DSQ22923

メッセージ: コマンドを定義する表の使用許可が与えられていません。

説明: Q.PROFILES の SYNONYMS 列で、インストール先コマンドを定義する表の名前が指定さ

れています。ここで指定されている表を使用するための許可が与えられていません。この表で定義されたコマンドは使用できません。

ユーザーの処置: Q.PROFILES 表の SYNONYMS 列で指定されている表を使用するための許可を得るか、または SYNONYMS 列からその表の名前を除去してください。

DSQ22924

メッセージ: コマンドを定義するために指定されている表が存在しません。

説明: Q.PROFILES で指定された表が存在しません。おそらく、表の指定が誤っています。

ユーザーの処置: Q.PROFILES 表の SYNONYMS 列の中で、インストール先コマンドを定義する表の名前を訂正してください。

DSQ22925

メッセージ: コマンドを定義する表の中で、必要な列が欠けています。

説明: Q.PROFILES で指定した表には、VERB、OBJECT、および SYNONYM_DEFINITION の各列がなければなりません。これらの列のうちの 1 つまたは複数欠けているか、または誤った名前指定されています。この表で定義したコマンドは使用できません。

ユーザーの処置: Q.PROFILES 表の SYNONYMS 列で指定したインストール先コマンドを定義する表を調べて、上にあげた列が含まれるようにしてください。

DSQ22926

メッセージ: OK、&I コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ22927

メッセージ: コマンドを定義する表の行 &V1 が重複しています。

説明: 行 &V1 の VERB 列および OBJECT 列の値が、インストール先コマンドを定義する表の別の行に入っています。この行は無視されます。

ユーザーの処置: 重複項目を含む行の一方を除去するか、または列の値を変更して重複しないようにしてください。

DSQ22928 - DSQ22930

メッセージ: コマンドを定義する表の行 &V1 の SYNONYM_DEFINITION 項目が無効です。

説明: SYNONYM_DEFINITION 列には、&ALL 以外の置換変数を含めることはできません。また、&ALL は定義の中で 2 回以上指定することができません。&&&VAR のように & を 2 つ含んでいる置換変数は、定義の中で使用できません。

ユーザーの処置: &ALL はコマンド定義で 1 回だけしか使わないようにしてください。それ以外の置換変数名があれば、定義から除去してください。

DSQ22931, DSQ22932

メッセージ: 警告メッセージが生成されました。

説明: CONNECT コマンドの実行中に検出された条件に関して、QMF が警告メッセージを生成しました。これらのメッセージは、QMF トレース・データに入ります。このメッセージは、PF キーの定義、インストール先定義コマンドの定義、またはリソース表の処理、またはリポジトリ管理プログラムが使用可能でないことに関連するものです。リポジトリ管理プログラムが使用可能でない場合、モデルはこのセッションに対して ER から REL に変更されました。

ユーザーの処置: QMF トレース・データの警告メッセージを見てください。これを行う方法がわ

からない場合、またはメッセージで指定された QMF 事項を熟知していない場合には、QMF 管理者に相談してください。

DSQ22933

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ22934

メッセージ: DSQIFSQL から予期しない戻りがありました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ22935

メッセージ: DSQ22890 を参照してください。

DSQ22936, DSQ22937

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22938

メッセージ: Q.PROFILES 表の PFKEYS 列に無効な値が入っています。

説明: Q.PROFILES 表の PFKEYS 列に無効な表の名前が入っているため、機能キー・カスタマイズは使用できません。表名は、次のいずれかの形式で指定しなければなりません。

1. OWNER_NAME.TABLE_NAME

2. TABLE_NAME
3. "TABLE_NAME"
4. "OWNER_NAME".TABLE_NAME
5. OWNER_NAME."TABLE_NAME"
6. "OWNER_NAME"."TABLE_NAME"

ピリオド (.) の前後には空白を置くことができます。それ以外のデータを列の中に入れることはできません。

ユーザーの処置: 上のガイドにしたがって名前を訂正してください。

DSQ22939

メッセージ: Q.PROFILES 表の PFKEYS 列に無効な値が入っています。

説明: Q.PROFILES 表の PFKEYS 列の中の OWNER_NAME または TABLE_NAME が長すぎるため、コマンドの同義語を使用することができません。現在ご使用の、&LS. へのデータベース接続は、以下をサポートします。

- QMF オブジェクト許可 ID には、最大 &LQ. 文字まで指定できます。
- QMF オブジェクト名には、最大 &LN 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト許可 ID には、最大 &LA 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト名には、最大 <. 文字まで指定できます。

この項目は、次のいずれの形式で指定できます。

1. OWNER_NAME.TABLE_NAME
2. TABLE_NAME
3. "TABLE_NAME"
4. "OWNER_NAME".TABLE_NAME
5. OWNER_NAME."TABLE_NAME"
6. "OWNER_NAME"."TABLE_NAME"

ユーザーの処置: 上のガイドにしたがって名前を訂正してください。

DSQ22940

メッセージ: PF キー・カスタマイズ表を使うための許可が与えられていません。

説明: Q.PROFILES 表の PFKEYS 列で、PF キー・カスタマイズ表の名前が指定されています。ここで指定されている表を使用するための許可が与えられていません。この表を使って PF キーのカスタマイズを行うことはできません。

ユーザーの処置: Q.PROFILES 表の PFKEYS 列で指定された表を指定するための許可を得るか、または PFKEYS 列からこの表の名前を除去してください。

DSQ22941

メッセージ: この PF キー・カスタマイズ表は存在しません。

説明: Q.PROFILES 表で指定された PF キー・カスタマイズ表は存在しません。おそらく、表の指定が誤っています。PF キーのカスタマイズを行うことはできません。

ユーザーの処置: Q.PROFILES 表の PFKEYS 列に、既存の PF キー・カスタマイズ表の名前を指定してください。

DSQ22942

メッセージ: PF キー・カスタマイズ表に必要な列が欠けています。

説明: Q.PROFILES 表で指定する PF キー・カスタマイズ表には、PANEL、ENTRY_TYPE、NUMBER、および PF_SETTING の各列がなければなりません。これらの列のうちの 1 つまたは複数欠けているか、または誤った名前指定されています。PF キーのカスタマイズを行うことはできません。

ユーザーの処置: Q.PROFILES 表の PFKEYS 列で指定された PF キー・カスタマイズ表を調べて、上記のすべての列が含まれるようにしてください。

DSQ22943

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22945

メッセージ: PF キー・カスタマイズ表の PANEL 列は文字データでなければなりません。

説明: PF キー・カスタマイズ表の PANEL 列が誤って定義されています。この表を使って PF キーのカスタマイズを行うことはできません。

ユーザーの処置: PANEL 列を文字データとして定義し、PF キー・カスタマイズ表を作成し直してください。

DSQ22946

メッセージ: PF キー・カスタマイズ表の PANEL 列の長さは 18 でなければなりません。

説明: PF キー・カスタマイズ表の PANEL 列の長さが 18 になっていません。この表を使って PF キーのカスタマイズを行うことはできません。

ユーザーの処置: PANEL 列の長さを 18 文字として定義し、PF キー・カスタマイズ表を作成し直してください。

DSQ22947

メッセージ: PF キー・カスタマイズ表の PANEL 列に NULL を許容してはなりません。

説明: PF キー・カスタマイズ表の定義で、PANEL 列が NULL にできるようになっていません。PANEL 列では NULL が許容されないように定義しなければなりません。この表を使って PF キーのカスタマイズを行うことはできません。

ユーザーの処置: PANEL 列を NULL にすることができないように定義して、PF キー・カスタマイズ表を作成し直してください。

DSQ22948

メッセージ: PF キー・カスタマイズ表の ENTRY_TYPE 列は文字データでなければなりません。

説明: PF キー・カスタマイズ表の ENTRY_TYPE 列が誤って定義されています。この表を使って PF キーのカスタマイズを行うことはできません。

ユーザーの処置: ENTRY_TYPE 列を文字データとして定義し、PF キー・カスタマイズ表を作成し直してください。

DSQ22949

メッセージ: PF キー・カスタマイズ表の ENTRY_TYPE 列の長さは 1 でなければなりません。

説明: PF キー・カスタマイズ表の ENTRY_TYPE 列の長さが 1 になっていません。この表の PF キー・カスタマイズは使用できません。

ユーザーの処置: ENTRY_TYPE 列の長さを 1 文字として定義し、PF キー・カスタマイズ表を作成し直してください。

DSQ22950

メッセージ: PF キー・カスタマイズ表の ENTRY_TYPE 列で NULL を許容してはなりません。

説明: PF キー・カスタマイズ表の定義で、ENTRY_TYPE 列が NULL にできるようになっています。ENTRY_TYPE 列では NULL が許容されないように定義しなければなりません。この表を使って PF キーのカスタマイズを行うことはできません。

ユーザーの処置: ENTRY_TYPE 列を NULL にすることができないように定義して、PF キー・カスタマイズ表を作成し直してください。

DSQ22951

メッセージ: PF キー・カスタマイズ表の NUMBER 列は SMALLINT でなければなりません。

説明: PF キー・カスタマイズ表の NUMBER 列が誤って定義されています。この表を使って PF キーのカスタマイズを行うことはできません。

ユーザーの処置: NUMBER 列を SMALLINT のデータとして定義し、PF キー・カスタマイズ表を作成し直してください。

DSQ22952

メッセージ: PF キー・カスタマイズ表の NUMBER 列で NULL を許容してはなりません。

説明: PF キー・カスタマイズ表の定義で、NUMBER 列が NULL にできるようになっていません。NUMBER 列では NULL が許されないように定義しなければなりません。この表を使って PF キーのカスタマイズを行うことはできません。

ユーザーの処置: NUMBER 列を NULL にすることができないように定義して、PF キー・カスタマイズ表を作成し直してください。

DSQ22953

メッセージ: PF キー・カスタマイズ表の PF_SETTING 列の定義が誤っています。

説明: PF キー・カスタマイズ表の PF_SETTING 列は、可変長の文字データとして定義しなければなりません。この表を使って PF キーのカスタマイズを行うことはできません。

ユーザーの処置: PF_SETTING 列を可変長の文字データとして定義し、PF キー・カスタマイズ表を作成し直してください。

DSQ22954

メッセージ: PF キー・カスタマイズ表の PF_SETTING 列の長さが無効です。

説明: PF キー・カスタマイズ表の PF_SETTING 列の長さは、254 でなければなりません。この表を使って PF キーのカスタマイズを行うことはできません。

ユーザーの処置: PF_SETTING 列の長さを 254 文字として定義し、PF キー・カスタマイズ表を作成し直してください。

DSQ22955

メッセージ: PF キー・カスタマイズ表の PF_SETTING 列では NULL を許容してください。

説明: PF キー・カスタマイズ表の PF_SETTING 列が、NULL を許容するように定義されていません。この表を使って PF キーのカスタマイズを行うことはできません。

ユーザーの処置: PF_SETTING 列を NULL にできるように定義して、PF キー・カスタマイズ表を作成し直してください。

DSQ22956

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22957

メッセージ: PF キー・カスタマイズ表に無効な PANEL の値があります。

説明: PF キー・カスタマイズ表の PANEL 列の中に、カスタマイズ可能な QMF パネルの名前以外の値が入っています。表の行データは次のとおりです。

PANEL	&V1
ENTRY_TYPE	&V2
NUMBER	&V3
PF_SETTING	&V4

有効な修飾パネル名は次のとおりです。

PROC
PROFILE
REPORT
GLOBALS
HOME
SQL QUERY
PROMPTED QUERY
FORM.CALC
FORM.COLUMNS
FORM.CONDITIONS
FORM.DETAIL
FORM.FINAL
FORM.MAIN
FORM.OPTIONS
FORM.PAGE
FORM.BREAK1
FORM.BREAK2
FORM.BREAK3
FORM.BREAK4
FORM.BREAK5
FORM.BREAK6

ユーザーの処置: PF キー・カスタマイズ表の PANEL 列には、有効なパネルの名前だけを入れてください。

DSQ22958

メッセージ: PF キー・カスタマイズ表に無効な NUMBER 列の記入項目があります。

説明: PF キー・カスタマイズ表の NUMBER 列には、カスタマイズすべき PF キーを識別する 1 から 24 までの値を入れなければなりません。表の行データは次のとおりです。

PANEL &V1

ENTRY_TYPE
&V2

NUMBER
&V3

PF_SETTING
&V4

ユーザーの処置: カスタマイズしたい PF キーを識別する 1 から 24 までの整数値を入力してください。

DSQ22959

メッセージ: PF キー・カスタマイズ表に無効な NUMBER 列の記入項目があります。

説明: PF キー・カスタマイズ表の NUMBER 列には、値 1 または 2 を入れなければなりません。この値によって、PF キーの割り当てを指定するオブジェクト・パネルの 1 行目または 2 行目が識別されます。表の行データは次のとおりです。

PANEL &V1

ENTRY_TYPE
&V2

NUMBER
&V3

PF_SETTING
&V4

ユーザーの処置: カスタマイズしたい PF キーの番号を識別するために、整数値 1 または 2 を入れてください。

DSQ22960

メッセージ: PF キー・カスタマイズ表に無効な ENTRY_TYPE があります。

説明: PF キー・カスタマイズ表の ENTRY_TYPE 列の値は、'K' または 'L' でなければなりません。'K' は PF_SETTING 入力が PF キーであることを意味します。'L' は PF_SETTING 入力が (全画面のオブジェクト・パネルの) PF キーの記述ラベルであるか、または (ウィンドウ・パネルの) 単一キー・ラベルであることを意味します。表の行データは次のとおりです。

PANEL &V1

ENTRY_TYPE
&V2

NUMBER
&V3

PF_SETTING

&V4

ユーザーの処置: この行の PF_SETTING の値に対応する、ENTRY_TYPE 値 ('K' か 'L') を使用してください。

DSQ22961

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22962

メッセージ: PF キー・カスタマイズ表の行が重複しています。

説明: この行の PANEL、ENTRY_TYPE、および NUMBER 列の値は、PF キー・カスタマイズ表の別の行に入っています。この行は無視されません。表の行データは次のとおりです。

PANEL &V1

ENTRY_TYPE

&V2

NUMBER

&V3

PF_SETTING

&V4

ユーザーの処置: 重複項目を含む行の一方を除去するか、または列の値を変更して重複しないようにしてください。

DSQ22963, DSQ22964

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22965

メッセージ: DSQ22962 を参照してください。

DSQ22966, DSQ22967

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22968, DSQ22969

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ22970, DSQ22971

メッセージ: DSQ22957 を参照してください。

DSQ22972

メッセージ: PF キー・カスタマイズ表に無効な PF_SETTING 入力があります。

説明: PF キー・カスタマイズ表の PF_SETTING 列への入力が長すぎます。PANEL 列にウィンドウ・パネルの名前があり、ENTRY_TYPE の値が 'L' の場合には、PF_SETTING への入力の最大長は 30 です。表の行データは次のとおりです。

PANEL &V1

ENTRY_TYPE

&V2

NUMBER

&V3

PF_SETTING

&V4

ユーザーの処置: もっと短い PF_SETTING 入力を使用してください。

DSQ22980

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22981

メッセージ: エクスポートするデータの行が長すぎます。

説明: データを IXF 形式でエクスポートしようとしています。また、形式化されたデータに必要なレコードの長さは &V1 です。これは、IXF のエクスポート・レコードの長さの限度である &V2 を超えています。

ユーザーの処置: データの行が長くなりすぎない

ように、データの列数を減らしてください。それから、データをエクスポートしてください。

DSQ22982

メッセージ: DSQ21622 を参照してください。

DSQ22983

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22984, DSQ22985

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ22986 - DSQ22988

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ22989 - DSQ22991

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ22992

メッセージ: SAVE オプションを完了させてください。

説明: SAVE キーワードが見つかりましたが、値が入っていませんでした。SAVE キーワードを入力する場合、値は END または IMMEDIATE でなければなりません。どちらの値も省略した場合は、デフォルトの値は SAVE=END となります。

ユーザーの処置:

1. 表編集プログラム・セッションが終了するまで、追加、変更、削除を保留したい場合 SAVE=END を入力するか、SAVE オプションを省略できます。
2. 表編集プログラム・セッションの実行時に、追加、変更、削除を永続させた場合は SAVE=IMMEDIATE と指定する必要があります。

リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。パネルに QMF コマンドをどのように入力するかを見るためには、リスト・パネルを表示している間に、ヘルプ・キーを押してください。

DSQ22993

メッセージ: &V1 は SAVE には有効ではありません。

説明: &V1 は SAVE キーワードには有効ではありません。SAVE キーワードを使用する場合、値は END または IMMEDIATE でなければなりません。どちらの値も省略した場合は、デフォルトの値は SAVE=END となります。

ユーザーの処置:

1. 表編集プログラム・セッションが終了するまで、追加、変更、削除を保留したい場合 SAVE=END を入力するか、SAVE オプションを省略できます。
2. 表編集プログラム・セッションの実行時に、追加、変更、削除を永続させた場合は SAVE=IMMEDIATE と指定する必要があります。

リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。パネルに QMF コマンドをどのように入力するかを見るためには、リスト・パネルを表示している間に、ヘルプ・キーを押してください。

DSQ22994

メッセージ: CONFIRM オプションを完了させてください。

説明: CONFIRM キーワードが見つかりましたが、値が入っていませんでした。CONFIRM キーワードを入力する場合、値は YES または NO でなければなりません。CONFIRM オプションの使用をやめる場合は、プロファイルからデフォルトの値が使用されます。

ユーザーの処置:

1. 確認パネルを表示する必要がない場合、
CONFIRM=NO と入力してください。
2. セッションでデフォルトの確認パネルが必要な場合には、 CONFIRM=YES と入力してください。

リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。パネルに QMF コマンドをどのように入力するかを見るためには、リスト・パネルを表示している間に、ヘルプ・キーを押してください。

DSQ22995

メッセージ: &V1 は CONFIRM には有効ではありません。

説明: &V1 は CONFIRM キーワードには有効な値ではありません。CONFIRM キーワードを入力する場合、値は YES または NO でなければなりません。CONFIRM オプションの使用をやめる場合は、プロファイルからデフォルトの値が使用されます。

ユーザーの処置:

1. 確認パネルを表示する必要がない場合、
CONFIRM=NO と入力してください。
2. セッションでデフォルトの確認パネルが必要な場合には、 CONFIRM=YES と入力してください。

リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。パネルに QMF コマンドをどのように入力するかを見るためには、リスト・パネルを表示している間に、ヘルプ・キーを押してください。

DSQ22996

メッセージ: EDIT コマンドのオプションが、データベース・マネージャーでは無効です。

説明: MODE=CHANGE、および SAVE=IMMEDIATE が指定されましたが、現在のデータベース・マネージャーはこの組み合わせをサポートしていません。

ユーザーの処置: 代わりに SAVE=END を指定してください。変更や削除は、実行されたときにデータベース中に永続するのではなく、表編集プログラム・セッションが終了するまで保持されます。リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。パネルに QMF コマンドをどのように入力するかを見るためには、リスト・パネルを表示している間に、ヘルプ・キーを押してください。

DSQ22997, DSQ22998

メッセージ: DSQ22478 を参照してください。

DSQ23000, DSQ23001

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ23002

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ23003

メッセージ: DSQ21758 を参照してください。

DSQ23004 - DSQ23006

メッセージ: これは CONVERT のオブジェクト・タイプに無効です。代わりに QUERY を使用してください。

説明: &V1 は QUERY でなければなりません。CONVERT コマンドの形式は次のとおりです。

CONVERT QUERY objectname (options

オブジェクト名はデータベース内の照会の名前です。

ユーザーの処置: &V1 を QUERY に変更し、コマンドを再試行してください。照会のリストを表示する場合は、 LIST QUERIES コマンドを入力してください。リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。パネルに QMF コマンドをどのように入

力するかを見るためには、リスト・パネルを表示している間に、ヘルプ・キーを押してください。

DSQ23007

メッセージ: DSQ21777 を参照してください。

DSQ23008

メッセージ: DSQ21504 を参照してください。

DSQ23009

メッセージ: DSQ20313 を参照してください。

DSQ23010

メッセージ: DSQ21504 を参照してください。

DSQ23011

メッセージ: &V3 はオブジェクト名の後には指定できません。

説明: CONVERT &V1 &V2 &V3 が入力されました。しかし、CONVERT コマンドの形式は次のとおりです。

```
CONVERT objectname ( options
CONVERT QUERY objectname ( options
```

&V3 は余分なパラメーターか、またはその前に左括弧が必要です。

ユーザーの処置: &V3 がオプションでない場合は除去して、コマンドを再実行してください。オプションの場合は、この前に左括弧を挿入して、コマンドを再試行してください。リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。パネルに QMF コマンドをどのように入力するかを見るためには、リスト・パネルを表示している間に、ヘルプ・キーを押してください。

DSQ23012

メッセージ: TARGET の後には QUERY または VARS を使用してください。

説明: TARGET オプションは、変換された照会が現在の照会として表示されるか、または変数の更新に使用されます。TARGET = QUERY の場合には、現在の照会が変換された照会で置き換えられます。TARGET = VARS の場合には、QMF のグローバル変数プールは、変換された照会で更新されます。ISPF が使用できる場合には、変換された照会は、ISPF ダイアログ管理プログラム変数プール内に書き出されます。TARGET オプションを省略した場合には、照会の値は、デフォルトの値が使われます。

ユーザーの処置: TARGET の後に QUERY または VARS を追加するか、またはオプションを省略してください。

DSQ23013, DSQ23014

メッセージ: TARGET には &V3. ではなく QUERY または VARS を使用してください。

説明: TARGET オプションは、変換された照会が現在の照会として表示されるか、または変数の更新に使用されます。TARGET = QUERY の場合には、現在の照会が変換された照会で置き換えられます。TARGET = VARS の場合には、QMF のグローバル変数プールは、変換された照会で更新されます。ISPF が使用できる場合には、変換された照会は、ISPF ダイアログ管理プログラム変数プール内に書き出されます。&V3 は無効な値で、TARGET の後には QUERY または VARS だけを指定できます。TARGET オプションを省略した場合には、照会の値は、デフォルトの値が使われます。

ユーザーの処置: TARGET の後には QUERY または VARS を使用してください。

DSQ23015

メッセージ: CONVERT コマンドでは &V2 は使用できません。

説明: オプション &V2 は CONVERT コマンドでは使用できません。 TARGET、CONFIRM、SUBSTITUTE または &VARIABLE オプションだけを使用できます。

ユーザーの処置: &V2 を変更するか、その値、およびそれ以降の値を除去してください。 リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。 パネルに QMF コマンドをどのように入力するかを見るためには、リスト・パネルを表示している間に、ヘルプ・キーを押してください。

DSQ23017

メッセージ: DSQ21781 を参照してください。

DSQ23018

メッセージ: DSQ20313 を参照してください。

DSQ23019

メッセージ: DSQ21504 を参照してください。

DSQ23020

メッセージ: DSQ20313 を参照してください。

DSQ23021, DSQ23022

メッセージ: CONVERT は SQL、QBE、または REL 指示照会にだけ作用します。

説明: CONVERT コマンドは SQL、QBE、または REL の指示照会を SQL 言語に変換し、SQL 照会パネルに結果を表示します。 REL モデルでの照会だけが SQL 言語に変換できますが、ER 指示照会を変換しようとしています。

ユーザーの処置: REL 照会だけが変換できません。モデル情報のある照会のリストをみるには、

LIST QUERIES コマンドを入力してください。

DSQ23023

メッセージ: このデータベースは 3 部分名をサポートしていません。

説明: 指定された名前にはロケーション修飾子 "&V1" があります。使用中のデータベースはロケーション修飾子をサポートしていません。

ユーザーの処置: ロケーション修飾子 "&V1" を除去してコマンドを再試行してください。 QMF 管理者に連絡して、正しいデータベースを使用していることを確認してください。

DSQ23024

メッセージ: QMF 照会、プロシージャまたは書式名に位置は使用できません。

説明: QMF オブジェクトはローカル・データベースに保管されていなければいけません。 照会、プロシージャ、または書式名一部として位置を指定することはできません。 QMF 照会、プロシージャまたは書式名は次の形式です。

AUTHID.OBJECTNAME

ユーザーの処置: 名前から位置修飾子 "&V1" を除去してコマンドを再試行してください。

DSQ23030

メッセージ: 照会が空であるか、またはコメントしか入っていません。

説明: 空の照会、またはコメントだけで構成される照会は、変換できません。

ユーザーの処置: 照会が空ではない場合、再試行してください。 CONVERT コマンドに指定した名前が間違っている場合があります。

DSQ23031

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ23032

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ23033

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ23035

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ23036

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ23047

メッセージ: CONFIRM のあとには YES または NO を使用してください。

説明: CONFIRM オプションは、CONVERT コマンド実行時に照会を変換して SQL 照会パネルへ表示する前に、一度停止するかどうかを指定します。変換された照会は保管またはエクスポートされないかぎり、元の形式では再表示できません。オプションが YES の場合は、変換を取り消す機会があります。NO の場合には、その機会は与えられません。CONFIRM オプションを指定しなかった場合には、プロファイルの値が使用されます。

ユーザーの処置: CONFIRM のあとに YES または NO を追加するか、またはオプションを省いてください。

DSQ23048

メッセージ: CONFIRM の後には &V3. ではなく YES または NO を使用してください。

説明: CONFIRM オプションは、CONVERT コマンド実行時に照会を変換して SQL 照会パネルへ表示する前に、一度停止するかどうかを指定します。変換された照会は保管またはエクスポートされないかぎり、元の形式では再表示できません。

ん。オプションが YES の場合は、変換を取り消す機会があります。NO の場合には、その機会は与えられません。CONFIRM オプションを指定しなかった場合には、プロファイルの値が使用されます。

ユーザーの処置: CONFIRM のあとには YES または NO を使用してください。

DSQ23052

メッセージ: SUBSTITUTE オプションから値が欠落しています。

説明: SUBSTITUTE オプションが選択されましたが、値が与えられていませんでした。オプションを使用する場合、値を入れてください。有効な値は以下のとおりです。

YES 照会を変換する時に、変数を値で置換します。

NO 照会を変換する時に、変数を置換しません。

ユーザーの処置: コマンドを再試行してください。SUBSTITUTE オプションに値を指定するか、またはコマンドから SUBSTITUTE オプションを除去してください。

DSQ23053

メッセージ: SUBSTITUTE オプションを NO にすることはできません。

説明: 矛盾する命令を入力しました。変数名と値を与えた場合、SUBSTITUTE オプションを NO にすることはできません。

ユーザーの処置: コマンドを再試行してください。変数名と値を削除するか、または SUBSTITUTE オプションを YES に変更してください。

DSQ23054

メッセージ: SUBSTITUTE オプションには YES または NO を使用してください。

説明: SUBSTITUTE オプションに認識できない値が使用されました。有効な値は以下のとおりです。

YES 照会を変換する時に、変数を値で置換します。

NO 照会を変換する時に、変数を置換しません。

ユーザーの処置: SUBSTITUTE オプションを YES または NO に変更し、コマンドを再試行してください。

DSQ23055, DSQ23056

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ23057

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ23058, DSQ23059

メッセージ: IMPORT &V2. には &V1. を使用できません。

説明: オプション &V1. を IMPORT &V2. で使用することはできません。IMPORT コマンドに指定できるオプションは次のとおりです。

- QUEUETYPE 必須指定
- CONFIRM オプション
- SUSPEND オプション
- COMMENT オプション
- SHARE オプション、PROC、QUERY、FORM に対してのみ有効
- LANGUAGE オプション、FORM に対してのみ有効
- ACTION オプション、TABLE に対してのみ有効

ユーザーの処置: オプションを変更し、コマンドを再試行してください。

DSQ23060

メッセージ: DSQ22209 を参照してください。

DSQ23061

メッセージ: DSQ22094 を参照してください。

DSQ23062

メッセージ: DSQ21504 を参照してください。

DSQ23063

メッセージ: &V1 オブジェクトをデータベースにインポートできません。

説明: IMPORT &V1 &V2 は、タイプが &V1 のオブジェクトをデータベースにインポートすることを示しています。しかし、&V1 は有効なオブジェクト・タイプではありません。データベースにインポートする場合、以下のタイプが有効です。

QUERY、PROC、FORM、および TABLE

ユーザーの処置: &V1 を有効なオブジェクト・タイプに変更し、コマンドを再試行してください。

DSQ23064

メッセージ: &C3 は、現在の文脈では無効です。

説明: &C1 &C2 の後に有効な名前を指定するか、または「FROM インポート元」を指定してください。名前の形式は次のいずれかです。

```
objectname  
userid.objectname  
location.userid.objectname
```

現在ご使用の、&LS. へのデータベース接続は、以下の長さをサポートします。

- QMF 許可 ID には、最大 &LQ. 文字まで指定できます。

- QMF オブジェクト名には、最大 &LN. 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト許可 ID には、最大 &LA. 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト名には、最大 <. 文字まで指定できます。

使用できる文字と引用符の使用について詳しくは、「&ugrr.」の「命名規則」を参照してください。

ユーザーの処置: &C3 に有効な名前を指定するか、「FROM インポート元」を指定してからコマンドを再試行します。リスト・パネルからこのコマンドを入れた場合には、コマンドの形式が正しかったかどうか確認してください。QMF コマンドの入力方法について詳しくは、リスト・パネルのヘルプを参照してください。

DSQ23065

メッセージ: 現在の文脈では FROM の用法が不明です。

説明: 次のように入力しました。

```
&V1 &V2  
FROM ...
```

最初の FROM がオブジェクト名でその後にキーワード FROM が続くのか、または最初の FROM がキーワードでその後に FROM というソース名が続くのか判別できません。

ユーザーの処置: 最初の FROM がオブジェクト名である場合は、二重引用符で囲み ("FROM") コマンドを再試行してください。最初の FROM がキーワードの場合は、FROM 以外のソース名を指定し、コマンドを再試行してください。

DSQ23066

メッセージ: DSQ21504 を参照してください。

DSQ23067

メッセージ: DSQ20313 を参照してください。

DSQ23068

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ23069

メッセージ: DSQ22210 を参照してください。

DSQ23070

メッセージ: DSQ21781 を参照してください。

DSQ23071

メッセージ: DSQ22182 を参照してください。

DSQ23072

メッセージ: DSQ22183 を参照してください。

DSQ23073

メッセージ: DSQ22211 を参照してください。

DSQ23074

メッセージ: &V2..&V3. をインポートする許可が与えられていません。

説明: &V1. をしようとしているオブジェクトは &V2. によって所有されています。

適切な権限がない限り、他のユーザーが所有しているオブジェクトをインポートすることはできません。

ユーザーの処置: コマンドから &V2 を除いてください。あなたのユーザー ID は、データベースにインポートするものすべての名前に、自動的に付けられます。オブジェクトを別のユーザーに対してインポートしたいがその権限がない場合、適切な権限について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ23075

メッセージ: SHARE のあとには YES または NO を使用してください。

説明: SHARE オプションで、書式、照会、またはプロシージャを、ほかのすべての QMF ユーザーと共用するかを決定します。このオプションの値は、YES (共用) または NO (非共用) のどちらかです。オブジェクトの置き換えのさいに、オプションを省略した場合には、現在の SHARE の値がそのまま使われます。また、新たなオブジェクトの作成のさいに、オプションを省略した場合には、NO を指定したものと見なされます。しかし、コマンドにこのオプションを含めた場合には、必ず YES または NO のどちらかの値を与えなければなりません。

ユーザーの処置: SHARE = のあとに YES または NO を入力するか、またはこのオプションを削除してください。

DSQ23076

メッセージ: SHARE のあとには &V2. ではなく、YES または NO を使用してください。

説明: SHARE オプションは、書式、照会、またはプロシージャを、他のすべての QMF ユーザーと共用するかどうかを決定します。このオプションの値は、YES (共用)、または NO (非共用) のいずれかでなければなりません、使用された値は、&V2. でした。

ユーザーの処置: SHARE のあとには YES または NO だけを入力してください。

DSQ23077

メッセージ: COMMENT オプションにテキストを付け加えてください。

説明: COMMENT オプションは、単一引用符で囲んだ 1 語または 1 行のテキストを必要とします。たとえば、(COMMENT='コメント・テキスト' コメントの中で単一引用符またはアポストロフ

イを使用する場合には、それを二重にしてください。以下は有効なコメントの例です。

```
COMMENT='Smith''s report.'  
COMMENT='March Tax'  
COMMENT='12/21/83'
```

ユーザーの処置: COMMENT= のあとにコメント・テキストを付加するか、またはコマンドから COMMENT= を除去してください。

DSQ23078, DSQ23079

メッセージ: DSQ20900 を参照してください。

DSQ23080

メッセージ: COMMENT の値は単一引用符で囲まなければなりません。

説明: COMMENT オプションを使用する場合には、コメントの前後に単一引用符を付けてください。コメント自体の中に単一引用符またはアポストロフィを含める場合には、それを二重にしてください。以下は有効なコメントの例です。

```
COMMENT='Smith''s report.'  
COMMENT='March Tax'  
COMMENT='12/21/83'
```

ユーザーの処置: COMMENT= のあとに有効な値を指定するか、または COMMENT= をコメントから除去してください。

DSQ23081

メッセージ: DSQ21633 を参照してください。

DSQ23082 - DSQ23084

メッセージ: 一時記憶域にインポートする場合、&V1 は使用できません。

説明: &V1 オプションは、オブジェクトをデータベースにインポートする場合にのみ有効です。オブジェクトを一時記憶域にインポートすることを指定したので、このオプションは無効です。

ユーザーの処置: オプションを削除し、コマンドを再試行してください。

DSQ23085

メッセージ: DSQ21666 を参照してください。

DSQ23086

メッセージ: DSQ21671 を参照してください。

DSQ23087

メッセージ: インポート元のデータ・セットを指定してください。

説明: IMPORT コマンドの形式は次のとおりです。

1. IMPORT オブジェクト・タイプ FROM インポート元名
2. IMPORT オブジェクト・タイプ オブジェクト名 FROM インポート元名

ここで、「インポート元名」はインポート元データ・セットの名前です。コマンドに「インポート元」が指定されていません。

ユーザーの処置: IMPORT コマンドを変更し、再度実行してください。

DSQ23088

メッセージ: &V1. の後に FROM が続かなければなりません。

説明: &V1. の後に FROM が続かなければなりません。IMPORT コマンドの形式は次のとおりです。

```
IMPORT objecttype FROM sourcename
IMPORT objecttype objectname
FROM sourcename
```

「IMPORT objecttype」または「IMPORT objecttype objectname」の後に、FROM インポート元名の指定がありません。

ユーザーの処置: FROM インポート元 を指定し

てからコマンドを再試行します。リスト・パネルからこのコマンドを入れた場合には、コマンドの形式が正しかったかどうか確認してください。このパネルから QMF コマンドを入れる場合の詳細は、リスト・パネルから呼び出されるヘルプを参照してください。

DSQ23089

メッセージ: ACTION オプションは、このオブジェクト・タイプで提供されていません。

説明: ACTION オプションは、オブジェクト・タイプが TABLE の場合だけ提供されます。

ユーザーの処置: コマンドから ACTION オプションを取るか、オブジェクト・タイプを TABLE に変更してください。

DSQ23091

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ23092

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ23093, DSQ23094

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ23095

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ23096

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ23097, DSQ23098

メッセージ: 表とインポート元ファイルが一致しません。

説明: データベース内の表 &V1 とインポート元ファイル &V2 が、以下のいずれかの理由で一致しません。

1. 列の数が同数でない。
2. 対応する列のデータ・タイプが異なっている。
3. 対応する 2 つの列の、一方ではヌル値が許され、他方では許されていない。

表をインポート元ファイルで置き換えることはできません。

ユーザーの処置: データベース内の表およびインポート元ファイルの名前を調べ、間違っている場合は変更してください。または最初に表を消去して、次にコマンドを再実行してください。

DSQ23099

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ23100

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ23103

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ23105

メッセージ: DSQ22104 を参照してください。

DSQ23106, DSQ23107

メッセージ: この表とインポート元データ・セットが一致しません。

説明: データベース内の表 &V1 とインポート元データ・セット &V2 が、以下のいずれかの理由で一致しません。

1. 列の数が同数でない。
2. 対応する列のデータ・タイプが異なっている。
3. 対応する 2 つの列の、一方ではヌル値が許され、他方では許されていない。

この表をインポート元データ・セットで置き換えることはできません。

ユーザーの処置: データベース内の表の名前およびインポート元データ・セットの名前を調べ、正しくない場合は名前を変更してください。または最初に表を消去して、次にコマンドを再実行してください。

DSQ23108, DSQ23109

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ23110

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ23111

メッセージ: インポート元のキューを指定してください。

説明: コマンドで sourcename を指定していませんでした。IMPORT コマンドの形式は、以下のとおりです。

- IMPORT objecttype FROM sourcename
- IMPORT objecttype objectname FROM sourcename

ここで、sourcename はインポート元のキューの名前です。

ユーザーの処置: ソース名を指定して、コマンドを再実行してください。

DSQ23112

メッセージ: DSQ23082 を参照してください。

DSQ23113

メッセージ: ACTION オプションには、APPEND または REPLACE を使用してください。

説明: ACTION オプションに認識できない値を使用しました。有効な値は以下のとおりです。

1. APPEND - 既存の表がある場合には、インポートされたデータがそこに追加され、表がない場合には新しい表が作成されます。
2. REPLACE - インポートされた表は既存の表に置き換わります。

ユーザーの処置: ACTION オプションを APPEND または REPLACE に変更し、コマンドを再試行してください。

DSQ23114

メッセージ: DSQ21806 を参照してください。

DSQ23115

メッセージ: &V1 コマンドは現在使用できません。

説明: 「報告書ミニ・セッション」で報告書を表示しています。ミニ・セッション中では使用できないコマンドが出されました。報告書ミニ・セッション中は、次の処理だけが実行できます。

- ヘルプ画面の表示
- 報告書の画面移動または印刷
- 図表の表示または印刷
- SAVE コマンドによるデータの保管
- SET コマンドによるプロファイル・オプションまたはグローバル変数の設定
- QMF、ISPF、TSO、CMS または CICS コマンドの実行
- ? による以前のコマンド検索
- END コマンドによるミニ・セッションの終了

報告書ミニ・セッション中にアプリケーション (QMF プロシージャまたはユーザーが書いたプログラム、EXEC など) が実行できることは、以下の通りです。

- グローバル変数の獲得
- INTERACT コマンドの実行
- MESSAGE コマンドの実行

ユーザーの処置: 他のコマンドを選択するか、ま

たは END を出してください。

DSQ23116

メッセージ: SHOW コマンドに指定したパネル名が多すぎます。

説明: SHOW コマンドの形式は次のとおりです。

SHOW panel-name

ここで、「パネル名」は以下のいずれかです。

Home	Form.Options
Query	Form.Final
Form	Form.Detail
PROFile	Form.CAlc
PROC	Form.Break1
Report	Form.Break2
Globals	Form.Break3
CHART	Form.Break4
Form.Main	Form.Break5
Form.COLumns	Form.Break6
Form.CONditions	
Form.Page	

ユーザーの処置: パネル名を選択し、コマンドを再試行してください。

DSQ23117

メッセージ: SHOW コマンドには &V2 は使用できません。

説明: SHOW コマンドにはオプションを指定できません。

ユーザーの処置: &V2 および後続の値を削除し、コマンドを再試行してください。

DSQ23118

メッセージ: DSQ21582 を参照してください。

DSQ23119

メッセージ: &V2. を表示できません。

説明: SHOW コマンドは、以下の名前のパネルに対してだけ実行できます。

Home	Form.Options
Query	Form.Final
Form	Form.Detail
PROFile	Form.CAlc
PROC	Form.Break1
Report	Form.Break2
Globals	Form.Break3
CHART	Form.Break4
Form.Main	Form.Break5
Form.COLumns	Form.Break6
Form.CONditions	
Form.Page	

In REL prompted query:
SQL when on command line.
In REL prompted query:
FIELD from popup window.
In Table Editor:
FIELD, CHANGE, SEARCH.

ユーザーの処置: &V2 をこれらの名前 of いずれかに置き換え、コマンドを再試行してください。

DSQ23120

メッセージ: DSQ21773 を参照してください。

DSQ23121

メッセージ: DSQ21781 を参照してください。

DSQ23122 - DSQ23125

メッセージ: DSQ23119 を参照してください。

DSQ23126 - DSQ23131

メッセージ: DSQ21758 を参照してください。

DSQ23132

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ23140, DSQ23141

メッセージ: DSQ21504 を参照してください。

DSQ23142 - DSQ23144

メッセージ: DSQ23119 を参照してください。

DSQ23145

メッセージ: パネル ID '&1' が DXEPCB チェーンに見つかりませんでした。

DSQ23146

メッセージ: DSQ22114 を参照してください。

DSQ23147

メッセージ: 区分データ・セットのメンバー名が欠落しています。

説明: 区分データ・セットを使うときの IMPORT コマンドの形式は次のとおりです。

1. IMPORT name FROM 'dataset'
(MEMBER=member)
2. IMPORT name FROM 'dataset(member)'

入力したコマンドには、「member」が欠落しています。

ユーザーの処置: IMPORT コマンドにメンバー名を追加して、入力し直してください。

DSQ23148

メッセージ: データ・セット &V1. からのインポートはできません。

説明: データ・セット &V1 が見つかりません。次の原因が考えられます。

1. 要求されたデータ・セットが存在しない。
2. 要求されたデータ・セットのスペルに誤りがある。

ユーザーの処置: スペルに誤りがあればそれを訂正してください。スペルが正しい場合は、要求したデータ・セットが存在しているかどうか検査してください。

DSQ23149

メッセージ: &V1. ファイルからインポートできません。

説明: ファイル &V1 を見つけれられません。次の原因が考えられます。

1. 要求したファイルが存在しない。
2. ファイル名のスペルに誤りがある。
3. 指定したディスクがアクセスされていない。

ユーザーの処置: スペルに誤りがあればそれを訂正してください。あるいは、要求したファイルが、指定したディスクにあるか確かめてください。

DSQ23150

メッセージ: DSQ22118 を参照してください。

DSQ23151

メッセージ: メンバー名は順次データ・セットに対して使用できません。

説明: 順次データ・セットを使用する場合の IMPORT コマンドの形式は次のとおりです。

```
IMPORT name FROM 'dataset name'
```

このコマンドではメンバー名は使用できません。

ユーザーの処置: IMPORT コマンドからメンバー名を除去し、再試行してください。

DSQ23152

メッセージ: DSQ22120 を参照してください。

DSQ23153

メッセージ: DSQ22121 を参照してください。

DSQ23154

メッセージ: DSQ22122 を参照してください。

DSQ23155, DSQ23156

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ23157

メッセージ: プロシージャの実行中に記憶域エラーが発生しました。

説明: プロシージャで記憶域の獲得、または解放中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: QMF 管理者 に連絡してください。

DSQ23158

メッセージ: プロシージャの処理に REXX は使用できません。

説明: ロジックを持つプロシージャには REXX が必要です。使用システムでは REXX が使えません。線形プロシージャは実行できません。

ユーザーの処置: プロシージャについてオンライン・ヘルプを見るには、取り消しキーを押し、ヘルプ・キーをもう一度押してメニューに従ってください。または、QMF 管理者に連絡して調べてもらってください。

DSQ23159

メッセージ: プロシージャからの戻りコードは &V1. です。

説明: &V1 の戻りコードが、プロシージャの RETURN または EXIT ステートメントで指定されました。戻りコードは、なにを要求したかによりますが、プロシージャが正しく実行されていないことを意味します。

ユーザーの処置: インストール時定義のプロシージャを実行した場合には、QMF 管理者かプロシージャ作成者に連絡してください。

DSQ23162

メッセージ: DSQ21961 を参照してください。

DSQ23163

メッセージ: DSQ21957 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ23164

メッセージ: プロシージャー中のコマンドが、長すぎます。

説明:

プロシージャー中の QMF コマンドの最大の長さは、&V3 バイトです。

ユーザーの処置: コマンドを短くするためにプロシージャーを書き直し、再実行してください。

DSQ23167

メッセージ: DSQ22213 を参照してください。

DSQ23168

メッセージ: DSQ22104 を参照してください。

DSQ23169 - DSQ23170

メッセージ: SUSPEND キーワードには、YES または NO を使用してください。

説明: PRINT、EXPORT または IMPORT コマンドの実行中に、SUSPEND キーワードに有効な値が指定されませんでした。SUSPEND の有効な値は、次のとおりです。

- YES - PRINT、EXPORT または IMPORT コマンドが完了する前に、CICS キューが使用可能になるまで待つ。
- NO - CICS キューが使用中の場合、メッセージが出て PRINT、EXPORT または IMPORT コマンドが終了する。

- SUSPEND オプションを省略する。NO のデフォルト値が使用される。

ユーザーの処置: SUSPEND キーワードに有効な値を選択し、PRINT、EXPORT または IMPORT コマンドを出し直してください。

DSQ23171

メッセージ: キーワード QUEUEATYPE=TS または QUEUEATYPE=TD を使用しなければなりません。

説明: 以下の QUEUEATYPE キーワードのいずれかを使用してください。

- QUEUEATYPE=TS 一時記憶域の場合
- QUEUEATYPE=TD 一時データの場合

ユーザーの処置: 有効な CICS キュー・タイプを入力して、コマンドを再実行してください。

DSQ23172, DSQ23173

メッセージ: DSQ23169 を参照してください。

DSQ23174

メッセージ: &V3 を EXPORT &V2. で使用することはできません。

説明: オプション &V3 を EXPORT &V2. で使用することはできません。許可されているオプションは、次のとおりです。

- CONFIRM CHART には無効
- ICUFORM CHART のみに有効
- DATAFORMAT DATA、TABLE、または REPORT のみに有効
- OUTPUTMODE DATA または TABLE のみに有効
- LANGUAGE FORM のみに有効

ユーザーの処置: &V3 およびその後続くすべての値を取り除いてから、コマンドを再入力してください。

DSQ23175

メッセージ: QUEUETYPE キーワードの後に TS または TD を使用してください。

説明:

CICS キュー・タイプのキーワードに有効な値が指定されていません。有効な値は以下のとおりです。

- (QUEUETYPE=TS 一時記憶域の場合)
- (QUEUETYPE=TD 一時データの場合)

ユーザーの処置: CICS キュー・タイプに有効な値を指定して、コマンドを再実行してください。現行のコマンドでは、CICS キュー名とキュー・タイプの両方を指定しなければなりません。

DSQ23177

メッセージ: &V2. は、EXPORT DATA または or EXPORT TABLE でのみ使用できます。

説明: オプション &V2. が許されるのは、EXPORT DATA または EXPORT TABLE コマンドの場合だけです。現行のコマンドでは、QUEUETYPE、SUSPEND、CONFIRM、LANGUAGE、MEMBER または ICUFORM オプション、あるいはそれらの複数の組み合わせを使用してください。ICUFORM および MEMBER は、図表をエクスポートする場合のみ有効です。図表をエクスポートする場合、QUEUETYPE、SUSPEND および CONFIRM は有効ではありません。LANGUAGE が有効なのは、書式をエクスポートするときだけです。

ユーザーの処置: &V2. とそれに関連する値をすべて取り除いてから、コマンドを再実行してください。

DSQ23178

メッセージ: &V3. を、EXPORT &V2. で使用することはできません。

説明: オプション &V3 を EXPORT &V2. で使

用することはできません。有効なオプションは次のとおりです。

- QUEUETYPE CHART には無効
- CONFIRM CHART には無効
- SUSPEND CHART には無効
- MEMBER CHART のみに有効
- ICUFORM CHART のみに有効
- DATAFORMAT DATA、TABLE、または REPORT のみに有効
- OUTPUTMODE DATA または TABLE のみに有効
- LANGUAGE FORM のみに有効

ユーザーの処置: &V3. および関連する値を取り除いてから、コマンドを実行し直してください。

DSQ23179

メッセージ: EXPORT &V2. に指定されている名前が多すぎます。

説明: EXPORT コマンドの形式は、以下のとおりです。

1. EXPORT objecttype TO XXXXX または
2. EXPORT objecttype objectname TO xxxxx

ここで、“XXXXX” はエクスポートを受け取るキューの名前を識別し、さらに 1 つまたは複数のオプションを指定することもできます。QMF は、“XXXXX” に多過ぎる名前を識別しました。オプションを指定した場合は、キューの識別からオプションを区切る括弧を付け忘れた可能性があります。たとえば、次のようなコマンドを実行しようとした。

```
EXPORT DATA TO MYQUEUE (QUEUETYPE=TS
```

しかし、QUEUETYPE の前の括弧を付け忘れました。

ユーザーの処置: エラーを修正して、EXPORT コマンドを再実行してください。

DSQ23180

メッセージ: EXPORT にオブジェクト・タイプを指定してください。

説明: EXPORT コマンドの形式は、以下のとおりです。

- EXPORT objecttype TO queuename
(QUEUETYPE=TS または TD)
- EXPORT objecttype objectname TO queuename
(QUEUETYPE=TS または TD)
- EXPORT CHART (MEMBER=member)

作業域オブジェクトをエクスポートする場合、objecttype には QUERY、FORM、PROC、DATA REPORT または CHART を指定することができます。データベース・オブジェクトをエクスポートする場合、objecttype には QUERY、FORM、PROC または TABLE を使用することができます。

ユーザーの処置: 正しいオブジェクト・タイプを指定して、コマンドを再実行してください。

DSQ23181

メッセージ: 非グローバル変数の数が 10 を超えています。

説明: グローバルな値を持たない '&VARIABLE' の形式の変数名が 10 を超えて照会またはプロシージャの中にある場合、その照会またはプロシージャは実行されず、照会も変更されません。

ユーザーの処置: 非グローバル変数の数を 10 以下に減らし、再試行してください。

DSQ23182 - DSQ23187

メッセージ: 記憶スペースがありません。

説明: 仮想記憶域または QMF 内部バッファにスペースがないので、コマンドを実行できません。

ユーザーの処置: RESET DATA コマンドを使用してください。これにより、追加の記憶スペース

を使用できます。現在 DATA を使用していない場合、セッションでさらに記憶スペースが必要である可能性があります。エラーが繰り返される場合は、QMF 管理者に連絡してください。QBE 照会を実行中の場合は、メッセージを受け取らなくなるまで、照会操作行を減らしてください。

DSQ23188

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ23189

メッセージ: DSQ23182 を参照してください。

DSQ23190

メッセージ: &V3. は &V2 の値として無効です。

説明: &V2 の値はメッセージ内で切り捨てられた可能性があります。無効な値の例は次のとおりです。

無効な値:

```
32A54 - 無効な整数値
'JAMES - 終了アポストロフィが欠落
"Q"DEPT" - 無効な組み込み引用符
```

ユーザーの処置: 値を正しい形式で入力してください。

DSQ23191

メッセージ: &V2 の値の長さが、55 文字を超えています。

説明: 次の形式の RUN オプションが使用されています。

```
&&V2 = 値
```

この「値」が、55 文字の限度を超えています。(このオプションに別のオプションを続けて指定していた場合には、両者をコンマまたはブランクで区切ってください。)

ユーザーの処置: 別の値を指定し、照会を再実行してください。

DSQ23192, DSQ23193

メッセージ: 各変数名に値を入力してください。

説明: &V2 と、プロシージャまたは照会に使用されているその他の変数名に値を指定してください。

ユーザーの処置: &V2 のプロンプト・パネルと、使用されているその他の変数名に値を入力してください。入力した後、ENTER キーを押してコマンドを完了してください。次の例のように、置換変数を使用することもできます。

```
RUN QUERY (&NAME = 'JASON SMITH',
           &YEARS=5
           )
RUN PROC (&DNO = DEPARTMENT
         CONVERT QUERY (&ID = 10
```

DSQ23194

メッセージ: グローバル変数値の変換エラー。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。

Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ23195

メッセージ: グローバル変数値が長すぎます。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手

続きに従ってエラーを報告してください。

Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ23196 - DSQ23201

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ23211

メッセージ: REXX 名には関連する QMF 名が必要です。

説明: すべての REXX 変数名には、QMF 変数名がなければなりません。実行するコマンドには、同じ数の名前が必要です。

ユーザーの処置: コマンドを訂正し、再実行してください。GET GLOBAL コマンドの線形構文は、次のとおりです。

```
GET GLOBAL ( REXXname = QMFname,
            REXXname=QMFname
```

等号とコンマはオプションですが、1 つ、またはそれ以上のブランクで区切ってください。

DSQ23212

メッセージ: '&V1' は &V2 変数名には無効です。

説明: 少なくとも名前の中の文字の 1 つが無効です。変数名は、文字か各国語文字で始め、その後文字、数字、または適切な変数名として、「*Compiler and Library for REXX on zSeries User's Guide and Reference*」または「*DB2 QMF 解説書*」で定義されているような他の文字を後に続けなければなりません。エラーとなった変数名がメッセージに表示されます。長すぎる場合には、完全な REXX 名が表示されない場合があります。

ユーザーの処置: エラーとなった名前を訂正し、コマンドを再実行してください。

DSQ23213

メッセージ: &C2 名 &C1 の文字数が多すぎます。

説明: QMF GLOBAL 変数名に使用できる文字の最大数は 18 です。REXX 名の文字の最大数は 250 です。REXX 名が長すぎる場合には、メッセージには最大 55 文字表示されるだけです。

ユーザーの処置: 長さが短くなるように名前を訂正してください。区切り文字がない場合は追加してください。GET GLOBAL コマンドの線形構文は、次のとおりです。

```
GET GLOBAL ( REXXname = QMFname,  
            REXXname=QMFname
```

等号およびコンマは任意指定です。これらは、1 つ以上のブランクで区切ることができます。

DSQ23214

メッセージ: QMF 変数 &V1 がありません。

説明: 要求された QMF 変数が SET GLOBAL コマンドで作成されていないか、変数が QMF DSQ 変数の場合には、システムにそれが設定されていません。

ユーザーの処置: QMF 変数名を検査し、変数のスペルと、その大文字・小文字の使用が、合っているか、変数を設定したときと同一のものであるか調べてください。SHOW GLOBAL コマンドを使用して、既存のグローバル変数を調べることができます。コマンドの構文を調査し、それが QMF 名であって REXX 名でないことを調べてください。GET GLOBAL コマンドの線形構文は、次のとおりです。

```
GET GLOBAL ( REXXname = QMFname,  
            REXXname=QMFname
```

等号とコンマはオプションですが、1 つ、またはそれ以上のブランクで区切ってください。

DSQ23215

メッセージ: GET GLOBAL コマンドの構文が無効です。

説明: GET GLOBAL コマンドの線形構文は、次のとおりです。

- 'GET GLOBAL (REXXname = QMFname,
 REXXname=QMFname'
- 'GET GLOBAL (REXXname = QMFname,
 REXXname=QMFname)'

REXX 名 /QMF 名の組み合わせは、いくつでも使用できます。コンマ、等号、右小括弧、およびブランクの数はオプションです。GET GLOBAL コマンドは大文字でなければなりません。

GET GLOBAL コマンドの拡張構文は、次のとおりです。

```
Command Length, Command, Number of  
Variables, Variable Name Lengths,  
Variable Names, Value Lengths, Values,  
Value Type
```

ユーザーの処置: REXX を使用している場合には、線形構文を使い、そうでない場合には、拡張構文を使用してください。適当な構文を使用してコマンドを訂正し、再実行してください。

DSQ23220

メッセージ: &V1. のあとにはなにも付けないでください。

説明: 次のコマンドのあとには名前やオプションの指定はできません。

BOTTOM	ENLARGE	REDUCE	CHECK
DELETE	INSERT	TOP	STATE
CHANGE	PREVIOUS	NEXT	

表編集プログラム、またはグローバル変数リストで FORWARD または BACKWARD コマンドの後に、名前やオプションは使用できません。

PF キーを押して、コマンドを与える場合には、そのさいにコマンド行になにもないことを確認してください。

ユーザーの処置: &V1 のあとにあるものをすべて除去した上で、コマンドを再入力してください。

DSQ23221

メッセージ: オプションを &V1. とともに用いることはできません。

説明: コマンド「&V1 (something)」が入力されました。QMF は、&V1. の括弧のあとのオプションを処理することはできません。コマンドは実行されませんでした。

ユーザーの処置: 左括弧およびそれ以降のすべてを取り除いてください。

DSQ23223 - DSQ23240

メッセージ: &V1 コマンドは現在実行できません。

説明: このパネルでは無効なコマンドを実行しようとした。または、この操作環境 (例 : CICS) では有効でないコマンドを実行しようとした。

ユーザーの処置: 他のコマンドを選択してください。

DSQ23241

メッセージ: DSQ23220 を参照してください。

DSQ23242

メッセージ: DSQ23221 を参照してください。

DSQ23260

メッセージ: &V1 コマンドか構文が無効です。

説明: SET または GET GLOBAL 機能に要求されたグローバル変数の数が 0 以下でした。要求されたグローバル変数の数とグローバル変数名の数は一致しなければなりません。コマンドのパネルを誤ったか、キーワードを多く指定しすぎま

した。構文は以下を注意してください。(コマンドの長さ、コマンド、変数の数、変数名の長さ、変数名、値の長さ、値、値のタイプ)

ユーザーの処置: 指定した変数の数が、入力した変数の数と一致すること、指定したキーワードのスペル、およびコマンドが正しいことを確認してください。

DSQ23261

メッセージ: 変数名は 18 文字以内の長さでなければなりません。

説明: グローバル変数名の最大の長さは 18 文字で、最小の長さは 1 文字です。名前が 18 文字より長い場合は、18 文字だけが下に表示されません。

&V1. に重大なエラーがあります。入力番号は &V2. です。

これまでの重大なエラーの数は &V3. です。これまでの警告エラーの数は &V4. です。

ユーザーの処置: グローバル変数の名前を 18 文字以下に変更してください。QMF トレース・データのメッセージを全部見るにはトレースをオンにしてください。次のコマンドのどちらかを使用します。SET PROFILE (TRACE=L1 または SET PROFILE (TRACE=L2

DSQ23262

メッセージ: &V1 の長さが計算された長さと同じしません。

説明: 変数名 &V1 にブランク、またはグローバル変数名に使用できない文字があります。

&V1. に重大なエラーがあります。入力番号は &V2. です。

これまでの重大なエラーの数は &V3. です。これまでの警告エラーの数は &V4. です。

ユーザーの処置: 名前の中に正しくない文字またはブランクがないかどうか見てください。QMF の資料を参照して命名規則を検査してください。

QMF トレース・データのメッセージを全部見るにはトレースをオンにしてください。次のコマンドのどちらかを使用します。 SET PROFILE (TRACE=L1 または SET PROFILE (TRACE=L2

DSQ23263

メッセージ: &V1 の整数の長さは 4 でなければなりません。

説明: 整数値の長さはすべて 4 でなければなりません。

&V1. に重大なエラーがあります。入力番号は &V2. です。

これまでの重大なエラーの数は &V3. です。
これまでの警告エラーの数は &V4. です。

ユーザーの処置: 値が整数の場合、整数値の長さを 4 に変更してください。値が文字の場合、変数タイプを「CHAR」に変更してください。QMF トレース・データのメッセージを全部見るにはトレースをオンにしてください。次のコマンドのどちらかを使用します。 SET PROFILE (TRACE=L1 または SET PROFILE (TRACE=L2

DSQ23264

メッセージ: 変数 &V1. は設定できません。

説明: QMF は英字 DSQ を自分専用に予約しています。一般的に DSQ で始まるグローバル変数は設定できません。例外はいくつかあります。それらの DSQ 変数は「DB2 QMF 解説書」にリストされています。指定できない名前を選択しています。

&V1. に重大なエラーがあります。入力番号は &V2. です。

これまでの重大なエラーの数は &V3. です。
これまでの警告エラーの数は &V4. です。

ユーザーの処置: DSQ 変数名を指定できる名前に変更するか、または DSQ の文字以外で始まる変数を使用してください。QMF トレース・データのメッセージを全部見るにはトレースをオンにしてください。次のコマンドのどちらかを使用し

ます。 SET PROFILE (TRACE=L1 または SET PROFILE (TRACE=L2

DSQ23265

メッセージ: &V1 は存在しません。

説明: GET GLOBAL コマンドで使われたグローバル変数名は現在ありません。

&V1. に重大なエラーがあります。入力番号は &V2. です。

これまでの重大なエラーの数は &V3. です。
これまでの警告エラーの数は &V4. です。

ユーザーの処置: GET または SET GLOBAL コマンドのどちらかで使用した名前のスペルや置き換えエラーを検査してください。QMF トレース・データのメッセージを全部見るにはトレースをオンにしてください。次のコマンドのどちらかを使用します。 SET PROFILE (TRACE=L1 または SET PROFILE (TRACE=L2

DSQ23266

メッセージ: 警告: &V1 の長さがゼロです。

説明: グローバル変数 &V1 の長さがゼロです。

&V1. に重大なエラーがあります。入力番号は &V2. です。

これまでの重大なエラーの数は &V3. です。
これまでの警告エラーの数は &V4. です。

ユーザーの処置: グローバル変数 &V1. を使う前に値を入力してください。SET GLOBAL コマンドを使って新しい値を入力してください。QMF トレース・データのメッセージを全部見るにはトレースをオンにしてください。次のコマンドのどちらかを使用します。 SET PROFILE (TRACE=L1 または SET PROFILE (TRACE=L2

DSQ23267

メッセージ: &V1 は整数に変換できません。

説明: 保管した (または保管された) 値は整数に変換できない文字値です。

&V1. に重大なエラーがあります。入力番号は &V2. です。

これまでの重大なエラーの数は &V3. です。
これまでの警告エラーの数は &V4. です。

ユーザーの処置: 変数の値にタイプを合わせてください。コマンドが GET で、整数の値を予想していた場合は、使った変数名または前の SET で元の値が置き換えられていないかを確認してください。QMF トレース・データのメッセージを全部見るにはトレースをオンにしてください。次のコマンドのどちらかを使用します。SET PROFILE (TRACE=L1 または SET PROFILE (TRACE=L2

DSQ23268

メッセージ: 警告: &V1 の値が置き換えられました。

説明: グローバル変数の値を SET コマンドで使った同じ名前でも置き換えました。

&V1. に警告エラーがあります。入力番号は &V2. です。

これまでの重大なエラーの数は &V3. です。
これまでの警告エラーの数は &V4. です。

ユーザーの処置: 値を置き換えたい場合は処置は必要ありません。そうでない場合は設定したグローバル変数 (または設定するグローバル変数) の名前を見てください。QMF トレース・データのメッセージを全部見るにはトレースをオンにしてください。次のコマンドのどちらかを使用します。SET PROFILE (TRACE=L1 または SET PROFILE (TRACE=L2

DSQ23269

メッセージ: 警告: &V1 の値は、切り捨てられました。

説明: グローバル変数 &V1 の値が指定された長さより長いので、&V1 の値は不完全になります。

&V1. に警告エラーがあります。入力番号は &V2. です。

これまでの重大なエラーの数は &V3. です。
これまでの警告エラーの数は &V4. です。

ユーザーの処置: この結果が予想されていた場合は処置は必要ありません。そうでない場合は、変数の完全な内容を確認するために、値に対して、より大きな長さを指定してください。QMF トレース・データのメッセージを全部見るにはトレースをオンにしてください。次のコマンドのどちらかを使用します。SET PROFILE (TRACE=L1 または SET PROFILE (TRACE=L2

DSQ23271

メッセージ: DSQ23182 を参照してください。

DSQ23272

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ23274

メッセージ: &V1 の値が無効です。

説明: グローバル変数 &V1 を、入力した値に設定することができません。無効な値は '&V5.' で始まります。

&V1. に重大なエラーがあります。入力番号は &V2. です。

これまでの重大なエラーの数は &V3. です。
これまでの警告エラーの数は &V4. です。

ユーザーの処置: グローバル変数 &V1. に入力した値を確認してください。「DB2 QMF 解説書」を調べて、このグローバル変数の有効な値を判別してください。QMF トレース・データのメッセージを全部見るにはトレースをオンにしてください。次のコマンドのどちらかを使用します。SET PROFILE (TRACE=L1 または SET PROFILE (TRACE=L2

DSQ23275

メッセージ: &V1 の有効な値は、&V2 から &V3. までです。

説明: このキーワードに有効な値は、&V2 から &V3 までです。 &V1. に関する重大なエラーがあります。それは入力番号 &V4. です。

これまでの重大なエラーの数は &V5. です。
これまでの警告エラーの数は &V6. です。

ユーザーの処置: 入力エラーが発生した場合は、指定された範囲内の値を入力してください。または、「DB2 QMF 解説書」を調べて、必要な結果を得るために指定する値を判別してください。QMF トレース・データのメッセージを全部見るにはトレースをオンにしてください。次のコマンドのどちらかを使用します。 SET PROFILE (TRACE=L1 または SET PROFILE (TRACE=L2

DSQ23276

メッセージ: "&V1." は有効な変数名ではありません。

説明: 変数名 "&V1." の中のグローバル変数名には許されていない文字である可能性があります。または、すべてがブランクである可能性があります。

"&V1." に重大なエラーがあります。入力番号は &V2. です。

これまでの重大なエラーの数は &V3. です。
これまでの警告エラーの数は &V4. です。

ユーザーの処置: 名前の中の文字が誤った文字であるか検討してください。 QMF の資料を参照して命名規則を検査してください。QMF トレース・データのメッセージを全部見るにはトレースをオンにしてください。次のコマンドのどちらかを使用します。 SET PROFILE (TRACE=L1 または SET PROFILE (TRACE=L2

DSQ23281

メッセージ: 新しいバリエーションの入力には &V3 ではなく &V2 を使用します。

説明: 新規の &V3 のパネル・バリエーションの表示が要求されました。要求したバリエーション番号 &V1 は、使用中の現行のバリエーション番号 &V2. より大きい値です。通常、新しいバリエーションは順次に追加できます。しかし、バリエーション番号 &V2. に関する情報がまだ入力されていません。パネル・バリエーションを使って、新しい &V3 の情報を入力できます。

ユーザーの処置: 新しい &V3 パネルの情報を入力したい場合、表示されたバリエーション番号 &V2. のパネルで、それを行えます。すでに、テキスト情報を入力してある別のパネル・バリエーションを表示したい場合、 &V3 パネル最上部のパネル・フィールドにそのパネルのバリエーション番号を入力してください。

DSQ23282

メッセージ: 新しい &V3 バリエーション &V2 を使用してください。

説明: 新規の &V3 のパネル・バリエーションの表示が要求されました。要求したバリエーション番号 &V1 は、現行で次のバリエーション番号 &V2 より大きい値です。バリエーションは順番にしか追加できないので、まずバリエーション &V2 を使用し、新しい &V3 の情報を入力しなければなりません。

ユーザーの処置: 新しい &V3 パネルの情報を入力したい場合、表示されたバリエーション番号 &V2. のパネル上でそれを行えます。すでに、テキスト情報を入力してある別のパネル・バリエーションを表示したい場合、 &V3 パネル最上部のパネル・フィールドにそのパネルのバリエーション番号を入力してください。

DSQ23286 - DSQ23287

メッセージ: バリエーション番号のフィールドには &V1 は使用できません。

説明: バリエーション番号は、別の &V2 パネル・バリエーションを表示するために使用します。このフィールドでは、1 から 99 までの番号しか使用できません。

ユーザーの処置: すでにテキスト情報を入力してある別の &V2 パネル・バリエーションを表示したい場合、このフィールドにそのパネルのバリエーション番号を入力してください。新しい &V2 パネルの情報を入力したい場合、&V3 (&V2 に対する現行のバリエーションの番号) より大きい番号をこのフィールドに入力してください。このフィールドには、1 から 99 までの番号しか入力できません。

DSQ23295

メッセージ: パネル ID '&1' が DXEPCB チェーンに見つかりませんでした。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ23301

メッセージ: DSQ23220 を参照してください。

DSQ23302

メッセージ: DSQ23221 を参照してください。

DSQ23304

メッセージ: DSQ23223 を参照してください。

DSQ23305

メッセージ: &V1 コマンドをリスト表示中に入力することはできません。

説明: このコマンドは、リストの表示中にリスト・パネルの入力域または QMF コマンド・パネルから使用することはできません。

ユーザーの処置: 機能キーを使用して、このコマンドを実行してください。

DSQ23306

メッセージ: 機能を実行するためにはセクションを表示する必要があります。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ23307

メッセージ: オブジェクト・ライン ID が見つかりません。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データ

のエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ23308

メッセージ: 機能を実行するためにはセクションを表示する必要があります。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。

Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ23309

メッセージ: オブジェクト・ライン ID が見つかりません。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。

Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ23310

メッセージ: DSQ23308 を参照してください。

DSQ23311

メッセージ: 照会機能の値が提供されていません。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。

Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ23312

メッセージ: オブジェクトの調整に、無効な行番号が使われました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。

Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ23313

メッセージ: オブジェクト・ライン ID が見つかりません。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。

Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ23314

メッセージ: ライン ID またはライン番号のいずれかが必要です。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めると、ご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ23315, DSQ23316

メッセージ: DSQ23182 を参照してください。

DSQ23317

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ23318 - DSQ23321

メッセージ: DSQ23182 を参照してください。

DSQ23322

メッセージ: QMF 照会、プロシージャまたは書式名に位置は使用できません。

説明: QMF オブジェクトはローカル・データベースに保管されていなければいけません。照会、プロシージャ、または書式名一部として位置を指定することはできません。QMF 照会、プロシージャまたは書式名は次の形式です。

AUTHID.OBJECTNAME

ユーザーの処置: 名前から位置修飾子 "&V1" を除去してコマンドを再試行してください。

DSQ23323, DSQ23324

メッセージ: このオブジェクト名はデータベースにありますが &V2. ではありません。

説明: IMPORT コマンドで &V2 オブジェクトを &V1. という名前のデータベースにインポートしようとした。この名前のオブジェクトはデータベース内にすでに存在しますが、&V2. ではありません。

ユーザーの処置: 一致するようにオブジェクト・タイプまたはオブジェクト名を変更し、コマンドを再試行してください。

DSQ23325

メッセージ: &V2 は EXPORT CHART でしか使用できません。

説明: オプション &V2 は EXPORT CHART コマンド以外では使用できません。現行のコマンドでは、CONFIRM および SUSPEND オプションだけを使用してください。

ユーザーの処置: &V2 およびそのあとの値を取り除いて、コマンドを入力し直してください。

DSQ23326

メッセージ: &V2. は EXPORT CHART では使用できません。

説明: オプション &V2. は EXPORT CHART コマンドでは使用できません。オプション MEMBER と ICUFORM だけが有効です。EXPORT CHART の MEMBER オプションは、エクスポートされた図形 (GDF ファイル) が ICU によって保管される、GDDM ライブラリーまたはファイル内のメンバーを識別します。

ユーザーの処置: &V2. とそれに関連する値を取り除いて、MEMBER オプションを指定してか

ら、コマンドを再実行してください。

DSQ23327

メッセージ: DSQ23182 を参照してください。

DSQ23328, DSQ23329

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ23330 - DSQ23331

メッセージ: DSQ23182 を参照してください。

DSQ23332, DSQ23333

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ23334

メッセージ: DSQ23182 を参照してください。

DSQ23335

メッセージ: DSQ20918 を参照してください。

DSQ23336

メッセージ: DSQ23326 を参照してください。

DSQ23337

メッセージ: NEXT の後に名前が多過ぎます。

説明: NEXT コマンドの形式は、次のとおりです。

1. NEXT
2. NEXT COLUMN
3. NEXT DEFINITION

NEXT は、FORM.DETAIL パネルで使用されます。
NEXT COLUMN は、パネルで使用

されます。
NEXT COLUMN および NEXT DEFINITION は、
FORM.DEFINITION パネルで使用されます。

PF キーによって NEXT コマンドを出した場合には、キーを押したときに、コマンド行になにもないことを確かめてください。

ユーザーの処置: NEXT コマンドを表示されている形式の 1 つに変更し、もう一度コマンドを出してください。

DSQ23338

メッセージ: &V1. の後に、COLUMN または DEFINITION を使用してください。

説明: &V1 コマンドの後に COLUMN または DEFINITION が続けなければなりません。
FORM.ALIGNMENT パネルには、COLUMN だけが使用できます。

ユーザーの処置: &V1 コマンドの後には、COLUMN または DEFINITION を使用してください。
FORM.ALIGNMENT パネルには、コマンドの後に COLUMN を使用してください。

DSQ23339

メッセージ: DSQ23220 を参照してください。

DSQ23340

メッセージ: DSQ23223 を参照してください。

DSQ23341

メッセージ: &V2 は &V1. と一緒に使用できません。

説明: &V2 は &V1 コマンドと一緒に使用することは許されません。&V1 コマンドと、COLUMN、または DEFINITION だけを使用してください。

ユーザーの処置: &V1 コマンドには COLUMN

または DEFINITION だけを使用するか、または &V2 とその後の値を取り除き、コマンドを再試行してください。

DSQ23342

メッセージ: DSQ23221 を参照してください。

DSQ23344

メッセージ: システム検索の失敗 - バリエーションを見つけることができません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ23346

メッセージ: 最初、または最後のバリエーション番号に到達しました。

説明: 前の、または次の &V2 バリエーション・パネルの表示を要求中に、最初の、または最後のバリエーション・パネルに到達しました。

ユーザーの処置: 最後の &V2 バリエーション・パネルを表示しているときは、NEXT コマンドを出すことはできません。最初の &V2 バリエーション・パネルを表示しているときは、PREVIOUS コマンドを出すことはできません。

DSQ23347

メッセージ: DSQ23223 を参照してください。

DSQ23350

メッセージ: グローバル変数サービスからの予期しない RC=&1。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手

続きに従ってエラーを報告してください。

Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ23351

メッセージ: DSQSLTT は予期しない RC=&1 を戻しました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。

Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ23356

メッセージ: DSQ23223 を参照してください。

DSQ23357

メッセージ: PREVIOUS の後に名前が多過ぎます。

説明: PREVIOUS コマンドの形式は、次のとおりです。

1. PREVIOUS
2. PREVIOUS COLUMN
3. PREVIOUS DEFINITION

PREVIOUS は、FORM.DETAIL パネルで使用されます。
PREVIOUS COLUMN は、FORM.ALIGNMENT パネルで使用されます。
PREVIOUS COLUMN および PREVIOUS DEFINITION は、FROM.DEFINITION パネルで使用されます。

PF キーで PREVIOUS コマンドを出した場合には、キーを押したときに、コマンド行に何もなかったことを確かめてください。

ユーザーの処置: PREVIOUS コマンドを表示されている形式の 1 つに変更し、もう一度コマンドを出してください。

DSQ23358

メッセージ: DSQ23338 を参照してください。

DSQ23359

メッセージ: DSQ23220 を参照してください。

DSQ23360

メッセージ: DSQ23223 を参照してください。

DSQ23361

メッセージ: DSQ23341 を参照してください。

DSQ23362

メッセージ: DSQ23221 を参照してください。

DSQ23364

メッセージ: システム検索の失敗 - バリエーションを見つけることができません。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。

Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールお

よび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ23366

メッセージ: DSQ23346 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ23367

メッセージ: DSQ20724 を参照してください。

DSQ23369

メッセージ: DSQ23182 を参照してください。

DSQ23370

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ23374 - DSQ23376

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ23381

メッセージ: DSQ23220 を参照してください。

DSQ23382

メッセージ: DSQ23221 を参照してください。

DSQ23384

メッセージ: DSQ23223 を参照してください。

DSQ23385

メッセージ: DSQ23305 を参照してください。

DSQ23401

メッセージ: DSQ23220 を参照してください。

DSQ23402

メッセージ: DSQ23221 を参照してください。

DSQ23404

メッセージ: DSQ23223 を参照してください。

DSQ23421

メッセージ: &V1. のヘルプ・パネルが表示できません。

説明: &V1. のヘルプ・パネルがありません。

1. いくつかのメッセージにはヘルプ・パネルがありません。たとえば、"OK,..." メッセージにはヘルプ・パネルがありません。
2. メッセージ番号が無効な場合があります。メッセージ番号が無効である理由は、次のとおりです。
 - メッセージ番号が長すぎるか、または短すぎます。
 - メッセージ番号に無効な文字が含まれています。
 - QMF では使用されていないメッセージ番号です。

ユーザーの処置: HELPコマンドに、有効なメッセージ番号を指定してください。有効なメッセージ番号は、"DSQ" で始まり 5 桁の数字からなります。例としては、"HELP DSQ20114" が有効なコマンドです。正しくメッセージ番号を入力したのであれば、このメッセージ番号に対するヘルプ・パネルは存在しないことになります。

DSQ23423 - DSQ23426

メッセージ: DSQ23421 を参照してください。

DSQ23427

メッセージ: データベース・マネージャーは仮想記憶域を使い果たしました。

説明: データベース・マネージャーにはユーザーの &V1 コマンドを実行するには十分な仮想記憶域がありません。

ユーザーの処置: あとで、QMF のアクティビティが少なくなった時点で、この照会を再度実行してください。同じ状態が続く場合には、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ23428

メッセージ: DSQ23182 を参照してください。

DSQ23429 - DSQ23430

メッセージ: DSQ20151 を参照してください。

DSQ23434

メッセージ: DSQ20724 を参照してください。

DSQ23435, DSQ23436

メッセージ: DSQ23182 を参照してください。

DSQ23437, DSQ23438

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ23439

メッセージ: (&1) IXF レコード・タイプが予期されていますが、(&2) が見つかりました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレー

ティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ23440

メッセージ: IXF データ・レコードに到達する前に、予期しないデータの終わりになりました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。

Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ23441

メッセージ: DSQ23350 を参照してください。

DSQ23442

メッセージ: グローバル変数値の変換エラー。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。

Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ23443

メッセージ: グローバル変数値が長すぎます。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。

Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ23451

メッセージ: DSQ20724 を参照してください。

DSQ23452

メッセージ: DSQ23182 を参照してください。

DSQ23457

メッセージ: DSQ20724 を参照してください。

DSQ23462

メッセージ: DSQ23182 を参照してください。

DSQ23463

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ23464

メッセージ: LIST または DESCRIBE サービスからの要求に対する、無効なオブジェクト・タイプ &1。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペ

レーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ23470

メッセージ: DSQ20724 を参照してください。

DSQ23471, DSQ23472

メッセージ: カーソルが DESCRIBE が有効な場所がありません。

説明: カーソルを記述したいオブジェクトがある行に置いてください。

ユーザーの処置: 記述したいオブジェクトがある行にカーソルを移動して、DESCRIBE をもう一度要求してください。

DSQ23473

メッセージ: パネル処理エラー : パネル=&1、コード=&2。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ23474

メッセージ: このパネルでは ENTER キーはアクティブではありません。

説明: このパネルは通知パネルです。項目の選択や値の入力を行う必要はありません。

ユーザーの処置: パネルの内容を見終わったら、取り消しキーを押してください。

DSQ23475 - DSQ23477

メッセージ: DSQ23223 を参照してください。

DSQ23478

メッセージ: DSQ23182 を参照してください。

DSQ23479, DSQ23480

メッセージ: LIST または DESCRIBE サービスからの要求に対する、無効なオブジェクト・タイプ &1。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ23481

メッセージ: リストから 1 つまたは複数の項目を選択してください。

説明: リストから必要な項目を選択しませんでした。リストから複数の項目を選択できます。

ユーザーの処置: 各項目の前のスペースに文字を入力し、1 つまたはそれ以上の項目を選択した後 ENTER キーを押してください。

DSQ23482

メッセージ: リストから &V1 項目より多くの選択はできません。

説明: 許可された項目より多い項目が選択されました。

ユーザーの処置: &V1 項目またはそれ以下の項目を選択して、ENTER キーを押してください。

DSQ23483

メッセージ: &V1 は有効な選択番号ではありません。

説明: 入力した値は数値でないか、リストで選択できる番号ではありません。

ユーザーの処置: リスト内の有効な選択の前には、番号が前に付いています。この番号を選択し、リストの上部の入力域に入力して、ENTER キーを押してください。

DSQ23484

メッセージ: &V1 は、選択できません。

説明: 入力した値は、リスト内で現在選択できる番号ではありません。

ユーザーの処置: リスト内の有効な選択の前には、番号が前に付いています。この番号を選択し、リストの上部の入力域に入力して、ENTER キーを押してください。

DSQ23485

メッセージ: リストから項目を選択してください。

説明: リストから必要な項目を選択しませんでした。

ユーザーの処置: リストの選択可能な項目には番号が付けられています。リストの最上位のスペースにこれらの番号のいずれかを入力して項目を選択してください。ENTER キーを押してください。

DSQ23486

メッセージ: DSQ23182 を参照してください。

DSQ23487

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ23488

メッセージ: DSQ23182 を参照してください。

DSQ23489

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ23490

メッセージ: DSQ23223 を参照してください。

DSQ23491

メッセージ: DSQ23305 を参照してください。

DSQ23494

メッセージ: DSQ23483 を参照してください。

DSQ23495

メッセージ: DSQ20724 を参照してください。

DSQ23496

メッセージ: DSQ23182 を参照してください。

DSQ23497

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ23498

メッセージ: オブジェクト・リストに無効なコマンド・ストリングが見つかりました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ23499

メッセージ: DSQ23182 を参照してください。

DSQ23500

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ23501

メッセージ: DSQ0005 を参照してください。

DSQ23502

メッセージ: コマンドをリストから指定どおりに実行できませんでした。

説明: 入力されたコマンドは正常に実行できませんでした。一般には、このコマンドはリスト・パネルでは使えません。このコマンドで検出された具体的な問題は次のとおりです。

&V1

失敗の原因として、次のことが考えられます。

1. データベース・オブジェクトのタイプと名前がこのコマンドに属していない。
2. コマンドの動詞またはオブジェクトの指定が正しくない。

ユーザーの処置: コマンドで / を使用して、データベース・オブジェクト・タイプと名前を挿入したい個所を示してください (またはオブジェクト・タイプには /T を、オブジェクト名には /N を使用してください)。CHART、DATA、FORM、QUERY、PROC、または REPORT の各一時記憶域内のオブジェクトを指定してこのコマンドを使う場合には、該当の QMF オブジェクト・パネルに戻り、そのパネルでコマンドを入力してください。

DSQ23503

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ23504

メッセージ: DSQ23182 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ23505, DSQ23506

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ23507

メッセージ: コマンドを実行できません。ロケーションが変更されています。

説明: QMF が、オブジェクト・リストが作成されたロケーションとは異なるデータベースのロケーションに接続されています。ユーザーのリストで名前指定したオブジェクトは偶然にもユーザーの新しいロケーションの名前指定したオブジェクトを参照しているかもしれないため、QMF は、リストを再表示するか、またはリストが作成されたロケーションに再び接続するまでコマンドの実行を許しません。

ユーザーの処置: 再表示キーを押して、現行ロケーションでリストを再表示するか、または QMF コマンド行で適切な LIST コマンドを入力することで新しいリストを定義してください。

DSQ23513

メッセージ: DSQ20724 を参照してください。

DSQ23514

メッセージ: DSQ23182 を参照してください。

DSQ23515 - DSQ23516

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ23517, DSQ23518

メッセージ: DSQ23182 を参照してください。

DSQ23519

メッセージ: LIST コマンドに合致するオブジェクトが見つかりません。

説明: LIST コマンドで指定したタイプまたはオ

プションは、データベース内のどちらの既存オブジェクトとも一致しませんでした。

ユーザーの処置: リストのタイプまたはオプション、あるいはその両方を変更して、コマンドを入力し直してください。

DSQ23520

メッセージ: DSQ23182 を参照してください。

DSQ23521

メッセージ: すべてのリスト・オブジェクトが削除済みです。再表示は実施されません。

説明: 現在のデータベース・オブジェクト・リストの表示を試みましたが、すべてのオブジェクトが削除されていました。

ユーザーの処置: 新しいデータベース・オブジェクト・リストを作成したい場合には、新しい基準を指定して LIST コマンドを入れ直してください。

DSQ23522

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ23523

メッセージ: DSQ23182 を参照してください。

DSQ23524

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ23525 - DSQ23527

メッセージ: DSQ23182 を参照してください。

DSQ23536

メッセージ: DSQ20724 を参照してください。

DSQ23537

メッセージ: DSQ20724 を参照してください。

DSQ23538, DSQ23539

メッセージ: DSQ23182 を参照してください。

DSQ23540 - DSQ23542

メッセージ: DSQ20724 を参照してください。

DSQ23543 - DSQ23544

メッセージ: レコードの削除で RP 障害が起きました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。

Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ23545

メッセージ: DSQ23182 を参照してください。

DSQ23546

メッセージ: 無効なキーがいくつかモジュールに渡されました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。

Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データ

のエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ23547

メッセージ: 無効なタイプ・コードがモジュールに渡されました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。

Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ23548, DSQ23549

メッセージ: 無効なキー・データ・ポインターがモジュールに渡されました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。

Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ23550

メッセージ: 無効なキー番号がモジュールに渡されました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。

Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ23551

メッセージ: 無効なキー・データ長がモジュールに渡されました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。

Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ23552

メッセージ: DSQ23547 を参照してください。

DSQ23553

メッセージ: 検索における RP 障害です。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しまし

た。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。

Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ23560

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ23561

メッセージ: DSQ23182 を参照してください。

DSQ23582

メッセージ: DSQ23182 を参照してください。

DSQ23583

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ23584

メッセージ: 照会が空であるか、またはコメントしか入っていません。

説明: 空の照会、またはコメントだけで構成される照会は、変換できません。

ユーザーの処置: 照会が空ではない場合、再試行してください。CONVERT コマンドに指定した名前が間違っている場合があります。

DSQ23590

メッセージ: DSQ20724 を参照してください。

DSQ23591

メッセージ: &V2 が見つかりません。

説明: 名前 "&V2" が &V1 コマンドで、または &V1 コマンドの処理の結果で見つかりましたが、データベース中にその名前の付いたものは見つかりません。

ユーザーの処置: スペルの誤りがないかどうかを検査してください。使用可能な書式、プロシージャ、照会、または表のリストを見たい場合には、次のコマンドの中から該当のものを入力して、

LIST FORMS	LIST PROCS
LIST QUERIES	LIST TABLES

(OWNER=ALL) のオプションを指定してください。

新しいテーブルをデータベースに保管しようとした場合は、ユーザー・プロファイル内の SPACE 値が正しいか確認してください。

DSQ23592

メッセージ: これを行う権限がありません。

説明: 行う内容によって次の権限が必要です。

1. 追加モードでは表または視点の編集に SELECT および INSERT の権限が必須です。
2. 検索モードでは表または視点の編集の SELECT 権限が必須です。
3. 更新モードでは表または視点に SELECT 権限が必須です。
 - 表の少なくとも 1 つの列に対する UPDATE 権限 (行の変更のため)
 - DELETE 権限 (行の削除のため)
4. 読み取り専用の視点では行の追加、変更または削除はできません。しかし、行の探索、または表示ができます。

ユーザーの処置: 必要な権限を得るには QMF 管理者に相談してください。

DSQ23595

メッセージ: DSQ20724 を参照してください。

DSQ23596

メッセージ: DSQ23519 を参照してください。

DSQ23601 - DSQ23608

メッセージ: 無効なパラメーターがモジュール &1 に渡されました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。

Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ23609

メッセージ: DSQ23182 を参照してください。

DSQ23610

メッセージ: モジュール &1 に予期せぬ結果が戻されました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。

Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。ま

た、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できません。

DSQ23611

メッセージ: DSQ23182 を参照してください。

DSQ23612, DSQ23613

メッセージ: DSQ23610 を参照してください。

DSQ23614

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ23615

メッセージ: DSQ23610 を参照してください。

DSQ23621 - DSQ23627

メッセージ: DSQ23601 を参照してください。

DSQ23628 - DSQ23629

メッセージ: ロケーションのリストは利用できません。

説明: ロケーション・リストは表示されません。現行ロケーションに有効なりモート・データベース定義が存在しないか、または QMF が以前のエラーによって有効な定義の読み取りを妨げられているからです。

ユーザーの処置: 現行ロケーションに有効なりモート・データベース定義が存在しない場合、リモート QMF セッションを開設するために CONNECT コマンドは使用できません。以前のエラーによってリモート・データベース定義の読み取りが妨げられている場合、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ23630, DSQ23631

メッセージ: モジュール &1 に予期せぬ結果が戻されました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ23632

メッセージ: DSQ23182 を参照してください。

DSQ23634, DSQ23635

メッセージ: モジュール &1 に予期せぬ結果が戻されました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ23636

メッセージ: CMS 通信ディレクトリーで無効な名前が見つかりました。

説明: CMS 通信ディレクトリーには、19 文字以上ロケーション名かまたはロケーション名が指定されていません。無効なエントリーは表示リストに入れられません。

ユーザーの処置: 表示ロケーションの 1 つを選択するか、ロケーション・リストを取り消すことで QMF の使用を続行できます。さらに、システムの DBNAME エントリーとユーザーの通信ディレクトリーを検査してください。

DSQ23637

メッセージ: DSQ23628 を参照してください。

DSQ23641 - DSQ23647

メッセージ: 無効なパラメーターがモジュール &1 に渡されました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ23648

メッセージ: ENTER キーを押す前に値をタイプしてください。

説明: このパネルには入力が必要です。ENTER キーを押す前に、テキスト項目に割り振られているスペースに値をタイプしなければなりません。

ユーザーの処置: 値をタイプし、ENTER キーを押してください。

DSQ23650

メッセージ: DSQ23483 を参照してください。

DSQ23651

メッセージ: DSQ23484 を参照してください。

DSQ23652, DSQ23653

メッセージ: モジュール &1 に予期せぬ結果が戻されました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ23654

メッセージ: モジュール &1 の内部エラーを検出しました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。

Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ23661

メッセージ: DSQ23182 を参照してください。

DSQ23662

メッセージ: DSQ20021 を参照してください。

DSQ23700

メッセージ: ストアード・プロシージャー &C1..&C2 が見つかりません。

説明: ユーザーが入力したストアード・プロシージャーが見つかりませんでした。考えられる理由は以下のとおりです。

- &C1, &C2. が正しく指定されていないか、またはデータベースにありません。
- 修飾参照が行われたが、修飾子のスペルが正しくない。
- ユーザーの現行パスに要求された関数が属するスキーマが含まれていないが、非修飾参照が使用された。

ユーザーの処置: 問題を修正し、再試行してください。修正には、SQLステートメントの変更、新規ルーチンの追加、またはユーザーの現行パスの変更が含まれます。

DSQ23701

メッセージ: CALL ステートメントで指定されたパラメーターの数が正しくありません。

説明: CALL ステートメントで入力されたパラメーターの数が、ストアード・プロシージャーで期待された数と一致しません。 &C1 パラメーターが入力されましたが、ストアード・プロシージャーは &C2 パラメーターを期待していました。パラメーターの数が一致しない場合、ストアード・プロシージャーは実行されません。

ユーザーの処置: 正しい数のパラメーターを入力して、CALLステートメントを再実行してください。

DSQ23702

メッセージ: 記憶域の獲得に失敗しました。

DSQ23703

メッセージ: 記憶域の解放に失敗しました。

DSQ23704

メッセージ: 呼び出されたルーチンでのエラーです。

DSQ23705

メッセージ: DSQEC_SP_RS_NUM に無効な値が指定されました。

説明: DSQECD_SP_RS_NUMの値に、ストアード・プロシージャーから戻された、対応する結果セットがありません。 &C1 が入力されましたが、ストアード・プロシージャーは &C2 結果セットのみを戻しました。

ユーザーの処置: DSQEC_SP_RS_NUMの値を変更し、ストアード・プロシージャーを再度実行してください。

DSQ23715

メッセージ: ストアード・プロシージャー名がCALLステートメントにありません。

説明: ストアード・プロシージャーに対してDB2 CALLステートメントを実行するには、ストアード・プロシージャー名が必要です。

DB2 CALL ステートメントの形式については、「*DB2 UDB for z/OS Application Programming and SQL Guide*」を参照してください。

ユーザーの処置: ストアード・プロシージャー名を入力して、再試行してください。

DSQ23716

メッセージ: 入力されたストアード・プロシージャ名に無効な特殊文字 '&C1.' が含まれていません。

説明: 修飾または非修飾ストアード・プロシージャ名に特殊文字は使用できません。特殊文字 '&C1.' が見つかりました。

DB2 CALL ステートメントの形式については、「*DB2 UDB for z/OS Application Programming and SQL Guide*」を参照してください。

ユーザーの処置: 問題を修正し、再試行してください。

DSQ23717

メッセージ: 指定された非修飾ストアード・プロシージャ名の長さが <. 文字を超えています。

説明: 現在ご使用の、&LS. へのデータベース接続は、最大 <. 文字までのストアード・プロシージャ名をサポートします。

DB2 CALL ステートメントの形式については、適切な「*DB2 Universal Database アプリケーション・プログラミングおよび SQL ガイド*」を参照してください。

ユーザーの処置: 問題を修正し、再試行してください。

DSQ23718

メッセージ: 2つの部分が修飾されたストアード・プロシージャ名が最大長を超えています。

説明: 示された 2 つの部分が修飾されたストアード・プロシージャ名が最大の文字長を超えています。現在ご使用の &LS. へのデータベース接続は、最大 <. 文字までのスキーマまたはプロシージャ名をサポートします。

現在ご使用の &LS. へのデータベース接続は、最

大 < 文字までのストアード・プロシージャ名をサポートします。

DB2 CALLステートメントの形式については、適切な「*DB2 Universal Database アプリケーション・プログラミングおよび SQL ガイド*」を参照してください。

ユーザーの処置: 問題を修正し、再試行してください。

DSQ23719

メッセージ: 異なるデータベースを指定する 3 部分修飾ストアード・プロシージャ名は、QMF からは無効です。

説明: 現行データベースのロケーションではなく、異なるデータベース・ロケーションを指定する、3部分修飾ストアード・プロシージャ名は、QMFからは無効です。CALLステートメント処理はすべて、現行データベース・ロケーションから行われます。

QMF QMFは、DB2 CALLステートメント構文をサポートします。この構文は、現行データベース・ロケーションを使用する非修飾プロシージャ名、または現行データベース・ロケーションを指定する 3 部分修飾プロシージャ名を使用します。

DB2 CALL ステートメントの形式については、「*DB2 Universal Database アプリケーション・プログラミングおよび SQL ガイド*」を参照してください。

ユーザーの処置: 問題を修正し、再試行してください。

DSQ23720

メッセージ: 入力された CALL ステートメントは、パラメーター・リストに必要な '&C1' が欠落しています。

説明: 入力された CALL ステートメントは、ストアード・プロシージャのパラメーター・リス

トに必要な '&C1' が欠落しています。パラメーター・リストは、'(' で開始し、')' で終了する必要があります。

DB2 CALL ステートメントの形式については、「*DB2 Universal Database アプリケーション・プログラミングおよび SQL ガイド*」を参照してください。

ユーザーの処置: 問題を修正し、再試行してください。

DSQ23721

メッセージ: CALLステートメント構文が無効です。パラメーター・リストの後にデータを指定することはできません。

説明: CALLステートメントに、パラメーター・リストの外まで情報が含まれています。これはDB2 CALL ステートメントでは無効です。

DB2 CALL ステートメントの形式については、「*DB2 Universal Database アプリケーション・プログラミングおよび SQL ガイド*」を参照してください。

ユーザーの処置: 問題を修正し、再試行してください。

DSQ23722

メッセージ: ストアード・プロシージャ・パラメーターの数が、許可された最大数を超過しています。

説明: ストアード・プロシージャの DB2 CALL ステートメントに、32を超えるパラメーターが含まれています。許可されるパラメーターの最大数は32です。

QMF パラメーターの制限について詳しくは、「*DB2 QMF 解説書*」を参照してください。

ユーザーの処置: 問題を修正し、再試行してください。

DSQ23723

メッセージ: パラメーターの数 &C1. が、許可された最大文字長を超えています。

説明: 指定されたパラメーターの数 &C1. が、パラメーターに許可された最大文字長を超えています。DB2 CALLステートメント・パラメーターに許可された最大文字数は256です。

DB2 CALL ステートメントの形式については、「*DB2 Universal Database アプリケーション・プログラミングおよび SQL ガイド*」を参照してください。

ユーザーの処置: 問題を修正し、再試行してください。

DSQ23725

メッセージ: ストアード・プロシージャ名に終了引用符がありません。

説明: 終了引用符がないため、ストアード・プロシージャ名が無効です。

ユーザーの処置: 問題を修正し、再試行してください。

DSQ23726

メッセージ: NULL引用符付きストリングを指定したストアード・プロシージャ名は無効です。

説明: NULL引用符付きストリングがストアード・プロシージャ名で許可されていないため、ストアード・プロシージャ名は無効です。

ユーザーの処置: 問題を修正し、再試行してください。

DSQ23727

メッセージ: パラメーター・データ・タイプが予想されたデータ・タイプと異なります。

説明: 番号 '&C1' パラメーターは、データ・タイプ '&C2'です。このパラメーターに期待され

るデータ・タイプは '&C3' です。パラメーターのデータ・タイプはストアード・プロシージャーが期待するものと一致する必要があります。一致しない場合、DB2 CALL ステートメントは失敗します。

DB2 CALL ステートメントの形式については、「*DB2 Universal Database アプリケーション・プログラミングおよび SQL ガイド*」を参照してください。

ユーザーの処置: 問題を修正し、再試行してください。

DSQ23728

メッセージ: パラメーター長が許可された最大値を超えています。

説明: ストアード・プロシージャーのパラメーター数 '&C1' は無効な長さです。このストアード・プロシージャーは、データ・タイプ '&C2' と定義されています。CALL ステートメントのパラメーター値が、このパラメーターで許可された最大値または最大長を超えています。パラメーター長は、許可された最大長以下でなければなりません。最大長を超えた場合は、CALL ステートメントが失敗します。

DB2 CALL ステートメントの形式については、「*DB2 Universal Database アプリケーション・プログラミングおよび SQL ガイド*」を参照してください。

ユーザーの処置: 問題を修正し、再試行してください。

DSQ23729

メッセージ: ストアード・プロシージャーOUTパラメーターが正しく初期化されていません。

説明: OUTタイプ・パラメーターとして定義されたストアード・プロシージャー・パラメーターには、特別な初期化要件があります。数値データ・タイプの OUT パラメーターは、0 に初期化される必要があります。データ・タイプが CHAR の

OUT パラメーターは、ブランクまたは空白に初期化される必要があります。パラメーター番号 '&C1' が正しく初期化されていません。この OUT パラメーターは、 '&C2' データ・タイプとして定義されています。パラメーターを正しく初期化する必要があります。そうでない場合は CALL ステートメントが失敗します。

DB2 CALL ステートメントの形式については、「*DB2 Universal Database アプリケーション・プログラミングおよび SQL ガイド*」を参照してください。

ユーザーの処置: 問題を修正し、再試行してください。

DSQ23730

メッセージ: NULLパラメーターはこのストアード・プロシージャーでは無効です。

説明: パラメーター番号 '&C1' は空白に初期化されています。このストアード・プロシージャーでは、INタイプ・パラメーターに空白を使用できません。

DB2 CALL ステートメントの形式については、「*DB2 Universal Database アプリケーション・プログラミングおよび SQL ガイド*」を参照してください。

ユーザーの処置: 問題を修正し、再試行してください。

DSQ23737

メッセージ: パラメーター変換エラー。

説明: ストアード・プロシージャー・パラメーター番号 '&C1' を表示用のCHARデータ・タイプ表記からパラメーター '&C2' の実データ・タイプ表記に変換中に、エラーが起きました。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡してください。

第 6 章 メッセージ DSQ30005・DSQ36999

DSQ30005

メッセージ: サーバーでサポートされない関数が原因で実行に失敗しました。

説明: 関数はサーバーでサポートされません: ロケーション &C1、製品 ID &C2、理由コード &C3。要求された関数をサポートしないサーバーに経路指定されていたため、現行 SQL ステートメントが失敗しました。このエラーによって、これ以上のSQLステートメントを正常に実行できなくなります。

次の SQLSTATE が戻されました:
&DSQSQLST.

ユーザーの処置: SQLステートメントに関する支援をデータベース管理者に依頼してください。

DSQ30025

メッセージ: サーバーでサポートされない関数が原因で接続が終了しました。

説明: サーバーでサポートされない関数が原因で接続が終了しました: ロケーション &C1、製品 ID &C2、理由コード &C3。要求された関数をサポートしないサーバーに経路指定されていたため、現行 SQL ステートメントが失敗しました。このエラーによって、これ以上のSQLステートメントを正常に実行できなくなります。

次の SQLSTATE が戻されました:
&DSQSQLST.

ユーザーの処置: SQLステートメントに関する支援をデータベース管理者に依頼してください。

DSQ30101

メッセージ: 指示照会がデータベースにとって複雑すぎます。

説明: 指示照会を作成、または実行するために必要な内部 QMF 照会が失敗しました。下記の場合にこのような状況が発生します。

1. 内部照会が長すぎるか、または複雑すぎる。
2. 使用されたすべての表の列の総数が、データベースの限界を超えている。

指示照会を使用した照会は、完了または実行できません。

ユーザーの処置: 照会を短くするか、または 2 つ以上の照会として書き直してください。

SQLCODE: -00101 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30102

メッセージ: データが最大長を超えています。引用符を検査してください。

説明: 文字定数は引用符で囲まなければなりません。引用符で囲むことを省略すると、データは最大長 &LE を超えてしまいます。

ユーザーの処置: データを訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00102 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30103

メッセージ: &V1 は数字で始まっていますが、有効な数値ではありません。

説明: &V1 は数字で始まっています。しかし、有効な整数、10 進数、または浮動小数点数ではありません。指定する内容が、

1. 浮動小数点数の場合、「E」の次に正または負の符号を付け、その次に指数を指定してください。
2. 文字定数の場合、単一引用符で囲んでください。
3. 名前の場合、数字で始まってはなりません。別の名前を指定してください。

ユーザーの処置: &V1 を訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00103 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30104

メッセージ: &V1 またはその近くにあるものが無効です。

説明: 次のような原因が考えられます。

1. 1 つまたは複数の無効な文字がある。
2. 正常な照会のあとに余計な入力が続いている。
3. 名前が下線で始まっている。
4. 長さゼロの (二重引用符で囲まれた) 名前。
5. 数値が必要であるのに、数値以外のものがある。
6. 最後の語のあとに、なにか抜けたものがある。
7. UPDATE の使用中で、SET のあとに副照会がある。

ユーザーの処置: 照会の内容を調べ、必要な訂正を加えた上で再実行してください。

SQLCODE: -00104 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30105

メッセージ: &V1 または &V2. が間違っていて使われています。

説明: 次のことが考えられます。

1. + または * などの演算子がありません (たとえば、SALARY COMM 間の +)。
2. 2 つの演算子を連続して指定しています。 (たとえば、SALARY +* COMM)
3. 予約語を間違って使っています。
4. 左右の括弧の数が対応していません。
5. 演算子が識別できません。
6. 他のデータベース・システムに有効なキーワードを使用しましたが、DB2 には無効です。

ユーザーの処置: 訂正して操作を続けてください。

SQLCODE: -00105 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30106

メッセージ: 式に指定された単一引用符の対応が取れていません。

説明: 式に単一引用符を挿入しましたが、対応する終わりの引用符がありません。

ユーザーの処置: 対応する引用符を正しい場所に挿入してください。

SQLCODE: -00106 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30107

メッセージ: 名前 &V1 が長すぎます。使用できる最大長は &V2 です。

説明: 照会に最大長を超える名前が含まれています。この名前の長さを決める場合は、EBCDIC 文字は 1 バイトで、DBCS 文字は 2 バイトです。表名または視点名の修飾子は 8 バイトの長さを超えることができません。式の中の二重引用符の不整合が原因である場合もあります。

ユーザーの処置: 名前を短くするか、欠落している引用符を補ってください。

SQLCODE: -00107 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30108

メッセージ: 名前 &V1 が長すぎます。使用できる最大長は &V2 です。

説明: 照会に最大長を超える名前が含まれています。この名前の長さを決める場合は、EBCDIC 文字は 1 バイトで、DBCS 文字は 2 バイトです。表名または視点名の修飾子は 8 バイトの長さを超えることができません。式の中の二重引用符の不整合が原因である場合もあります。

ユーザーの処置: 名前を短くするか、欠落している引用符を補ってください。

SQLCODE: -00108 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30110

メッセージ: &V1 は関数名ではありません。

説明: 関数には、AVG、MAX、MIN、SUM、COUNT、DATE、TIME、TIMESTAMP、YEAR、MONTH、DAY、HOUR、MINUTE、SECOND、MICROSECOND、CHAR、および DAYS があります。&V1 が有効な関数である場合は、使用されている句読点が正しいことを確認してください。次に例を示します。

```
MIN(PRICE), MAX(PRICE)  
DATE('1996-10-01') -10102433.
```

ユーザーの処置: 「*QMF 解説書*」を参照して、正しく有効な関数を使用しているか確かめてください。

SQLCODE: -00110 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30111

メッセージ: 合計機能には、列名を指定しなければなりません。

説明: 列名を持たない式を含む合計機能を指定しました。合計機能は、列名を参照しなければなりません。例：

```
正: AVG(COMM + SALARY)  
誤: AVG(1200 + 3498)
```

ユーザーの処置: 合計機能の式を訂正してください。

SQLCODE: -00111 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30112

メッセージ: 合計機能に無効な式が含まれていません。

説明: 合計機能は AVG、COUNT、MAX、MIN、および SUM です。合計機能に使用されている式の中に合計機能を使用することはできません。

```
正: AVG(UNITS * PRICE)  
誤: AVG(UNITS * MAX(PRICE))
```

ユーザーの処置: 合計機能に正しい式が指定されるように照会を変更してください。

SQLCODE: -00112 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30115

メッセージ: &V1 の使用法に誤りがあります。

説明: '>' または '= 'などの単純比較演算子の後には、項目のリストを続けることはできません。ANY および ALL 比較演算子の後には、式や項目のリストではなく、副選択を続ける必要があります。例:

```
正:  
WHERE SALARY > ALL (SELECT COMM  
FROM Q.STAFF)
```

```
誤:  
WHERE SALARY > ALL (10000)
```

ユーザーの処置: &V1 の使用法を変更し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00115 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30116

メッセージ: データベースのラベルが長すぎます。

説明: 列または表のラベルの長さが、上限である 30 バイトを超えています。EBCDIC の 1 文字は 1 バイト、DBCS の 1 文字は 2 バイトとして数えます。

ユーザーの処置: ラベルを短くして照会を実行し直してください。

SQLCODE: -00116 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30117

メッセージ: 値の数と列の数が一致しません。

説明: たとえば INSERT INTO Q.STAFF などのステートメントでは、NOT NULL と定義された各列に値を指定しなければなりません。

表名のあとに列のリストを指定しない場合には、VALUES のあとに、表内の各列に関する値を指定します。

表名のあとに列のリストを指定する場合には、VALUES のあとにそのリストの中の各列に関する値を指定します。

例:
INSERT INTO Q.STAFF (ID, NAME, DEPT)
VALUES (400, 'HARRISON', 20)

ユーザーの処置: INSERT INTO によって処理したい個々の列に値を指定して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00117 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30118

メッセージ: 副照会の中で使用される表を変更することはできません。

説明: ここでいう変更には、INSERT、UPDATE、および DELETE があります

誤:
INSERT INTO Q.STAFF
SELECT * FROM Q.STAFF WHERE YEARS > 7

上記の例では、受け取るデータの出所である表を変更しようとしています。

ユーザーの処置: 副照会に使用されている表が変更されることのないような形に照会を訂正するか、またはその表を変更するための別個の照会を作成してください。

SQLCODE: -00118 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30119

メッセージ: グループ化に矛盾があります。

説明: 次のいずれかの状況が起きています。

1. SELECT に列名と列関数があるが、GROUP BY がない。

正:
SELECT DEPT, AVG(SALARY) FROM Q.STAFF
GROUP BY DEPT

2. SELECT のあとにリストされた列が、GROUP BY のあとにない。

正:
SELECT DEPT, JOB, AVG(SALARY)
FROM Q.STAFF
GROUP BY DEPT, JOB
(誤: GROUP BY DEPT)

(SELECT のあとに * を用いた場合には、GROUP BY のあとにすべての列名をリストしなければなりません。)

3. HAVING キーワードのあとに、グループには適用されない条件がある。

正: `HAVING MIN(YEARS) > 6`
(誤: `HAVING YEARS > 6`)

4. 式でのグループ値と単一値が混用されている。

正:
`SELECT DEPT, AVG(SALARY) FROM Q.STAFF
GROUP BY DEPT`

5. `GROUP BY` のあとに、リストした列は定数、式、または関数から引き出した視点列である。
6. `HAVING` は `GROUP BY` を付けずに指定する。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00119 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30120

メッセージ: 組み込み関数またはグループ化列の使用法に誤りがあります。

説明: 副照会の一部として使う場合を除き、`WHERE` または `SET` のあとに組み込み関数 (`AVG`、`COUNT`、`MAX`、`MIN` または `SUM`) を用いることはできません。

正:
`WHERE YEARS > (SELECT AVG(YEARS)
FROM Q.STAFF)`

誤:
`WHERE YEARS > AVG(YEARS)`

照会が視点を参照している場合には、その視点の定義の中で `GROUP BY` のあとに指定されている列名を照会の条件の中で使用することはできません。たとえば、`VIEW` の定義中で `GROUP BY` のあとに `DEPT` が使用されていれば、次の例は誤りです。

誤:
`SELECT DEPT, SUMSALARY FROM VIEW
WHERE DEPT = 20`

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してくだ

さい。照会で視点をを用いる場合は、視点のもととなっている表から選択するように照会を書いてください。

SQLCODE: -00120 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30121

メッセージ: 同一の照会で同じ列を二度変更することはできません。

説明: 「変更」には `INSERT` および `UPDATE` が含まれます。無効な指定の例を次に示します。`YEARS` は一度しか変更することはできません。

誤:
`INSERT INTO Q.STAFF (ID, YEARS, JOB,
YEARS)
VALUES (400, 7, 'clerk', 8)`

ユーザーの処置: 一度の変更だけですむように SQL ステートメントを訂正し、再度実行してください。

SQLCODE: -00121 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30124

メッセージ: `ORDER BY` のあとに指定できるのは最大 16 列までです。

説明: `ORDER BY` リストに、名前または整数によって参照された列が、17 以上含まれていません。指定できる列の最大数は 16 です。

ユーザーの処置: `ORDER BY` 文節中で参照される列の数を 16 以下に減らし、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00124 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30125

メッセージ: 列 &V1. は `ORDER BY` に指定できません。

説明: SELECT のあとのリストに &V1 という列はありません。(列番号は、SELECT のあとのリストの中の列の位置を示します。たとえば、リストされている列が 8 つもないのに、列 8 を指定することはできません。)

ユーザーの処置: 照会を訂正して、再実行してください。

SQLCODE: -00125 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: PQ

DSQ30127

メッセージ: 照会では、DISTINCT を重複して指定できません。

説明: 照会で、DISTINCT を複数回使用していました。選択した行の単一コピーを保存すると、DISTINCT が暗黙のうちに指定されます。保存した後に関数でも DISTINCT を指定した可能性があります。

ユーザーの処置: 照会では、DISTINCT を複数回使用しないでください。

SQLCODE: -00127 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: PQ

DSQ30128

メッセージ: NULL は、IS または IS NOT とともに使用してください。

説明: WHERE 文節内の IN に続くリストの中の項目として NULL を用いることはできません。次に例を示します。

誤: WHERE AMT IN (20,50,NULL)

正: WHERE AMT IN (20,50) OR AMT IS NULL

ユーザーの処置: NULL の構文を訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00128 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: PQ

DSQ30129

メッセージ: 照会で使用している表または列の数が多すぎます。

説明: 照会で以下の項目の 1 つが、リストされた制限を超えています。

表名	15
選択された列	255

ユーザーの処置: 所定の限度内になるように照会を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00129 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: PQ

DSQ30130

メッセージ: SELECT を 2 回使用する場合には、括弧が必要です。

説明: 照会の中で、副照会と呼ばれる別の照会によって計算される 1 つまたは 1 組の値が参照されています。照会全体の中の副照会部分は括弧で囲まなければなりません。

ユーザーの処置: (SELECT.....) のように、副照会の前後に括弧を付けた上で、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00130 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: PQ

DSQ30132

メッセージ: LIKE の使用法に誤りがあります。

説明: LIKE を用いて書いた条件が無効です。LIKE を用いて書いた条件が無効です。LIKE のあとには文字定数を入力してください。% と _ の 2 つのシンボルを使用できます。

NAME LIKE 'J0%' と書いてください。
NAME は列名です。

ユーザーの処置: LIKE を用いる条件を訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00132 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30133

メッセージ: HAVING または WHERE 文節のあとの式の使用法に誤りがあります。

説明: その列が HAVING か WHERE 文節の相関参照列の場合、組み込み関数の引き数としてではなく列名を使用しなければなりません。次に例を示します。

```
SELECT DEPT,SUM(YEARS) FROM Q.STAFF VARX  
GROUP BY DEPT HAVING SUM(YEARS) >  
ANY (SELECT AVG(YEARS) FROM Q.STAFF  
GROUP BY DEPT HAVING MAX(YEARS) >  
MIN(1*VARX.YEARS))
```

は正しくありません。-- (1*VARX.YEARS) を組み込み関数 MIN の引き数にはできません。これは相関参照変数 VARX.YEARS を含む式だからです。

ユーザーの処置: 照会を訂正した上で、再実行してください。

SQLCODE: -00133 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30134

メッセージ: LONG VARCHAR 列が誤って使われています。

説明: データ・タイプ LONG VARCHAR または LONG VARGRAPHIC の列の用法にはいくつかの制限があります。重複行が各行の単一コピーの保持を示している場合、列セクションでは選択できません。リレーショナル・データベース・マネージャーの一部リリースでは、演算子「Starting With (次の指定で始まる)」、「Ending With (次の指定で終る)」、「Containing (次の指定を含む)」とともに行条件で使うことができません。

ユーザーの処置: データ・タイプ LONG VARCHAR または LONG VARGRAPHIC の列の

用法を変えるか、単一コピーの行の保持を照会から除去します。

SQLCODE: -00134 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30135

メッセージ: LONG VARCHAR 列が誤って使われています。

説明: LONG VARCHAR または LONG VARGRAPHIC のデータ・タイプの列を使用する場合に、以下の制限が適用されます。

- その列を、探索条件の中で、算術演算または組み込み関数を含んで使用することはできません。
- NULL の値だけが列に挿入できるか、または列だけが NULL に更新できます。
- SQL 照会では、このような列を以下のものとともに使用することはできません。
 - GROUP BY、ORDER BY、UNION、または索引
 - 副照会で、SELECT DISTINCT、UPDATE の SET 文節、または SUBSTR か LENGTH 以外の関数
 - LIKE 以外の述部の単独で
- QBE の場合には、AO.、DO.、または G. とともに使用することはできません。
- 長ストリング列からなっている基本表から派生する視点では使用できません。

ユーザーの処置: LONG VARCHAR または LONG VARGRAPHIC のデータ・タイプの列に対して前に示された条件と比較するか、列を取り除いてから、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00135 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30137

メッセージ: &V1 の結果の長さが、&V2. を超えています。

説明: &V1 の操作の結果が長すぎます。 &V2. を超えることはできません。

ユーザーの処置: 結果を短くするために照会を変更し、照会をふたたび実行してください。

SQLCODE: -00137 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30150

メッセージ: この視点の中のデータを変更することはできません。

説明: INSERT、UPDATE、または DELETE を次のような視点で使用できません。

1. 複数の表をもととしているもの。
2. 式または組み込み関数によって定義された列を含む視点。 例: UNITS*PRICE, AVG(SALARY)
3. DISTINCT または GROUP BY を使用する SELECT ステートメントによって定義されたもの。
4. 参照表にすべての非 NULL 可能列を含まないもの。

ユーザーの処置: 視点の作成に使われた各表を変更するために、それぞれ異なる照会を書いてください。

SQLCODE: -00150 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30151

メッセージ: この視点の中のデータを変更することはできません。

説明: INSERT、UPDATE、または DELETE を次のような視点で使用できません。

1. 複数の表をもととしているもの。

2. 式または組み込み関数によって定義された列を含む視点。 例: UNITS*PRICE, AVG(SALARY)
3. DISTINCT または GROUP BY を使用する SELECT ステートメントによって定義されたもの。
4. 参照表にすべての非 NULL 可能列を含まないもの。

ユーザーの処置: 視点の作成に使われた各表を変更するために、それぞれ異なる照会を書いてください。

SQLCODE: -00151 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30152

メッセージ: 組み込み関数によって定義された列を条件に使用しています。

説明: 照会の中で使用されている表の 1 つが視点です。 WHERE のあとで、ある条件がこの視点からの列を使用していますが、その列は、組み込み関数 (AVG、COUNT、MAX、MIN、SUM) のどれかによって定義されたものです。このような列は条件の中では使用できません。

ユーザーの処置: その視点の定義を調べて、WHERE のあとでどのような列を使用することができないかを確認してください。照会を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00152 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30153

メッセージ: 式または関数によって定義された視点の列には名前が必要です。

説明: CREATE VIEW ステートメントに、式 (UNITS * PRICE など)、組み込み関数 (AVG(YEARS)、など)、または定数 ('JUNE 1' など) に基づいて定義される列が含まれています。このような列には名前を与えなければなりません。

ん。したがって、各列の名前を示す名前リストが必要です。

ユーザーの処置: CREATE VIEW 照会の中で、関数または式に基づいて定義されるすべての列に、新しい名前を与えてください。

SQLCODE: -00153 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: PQ

DSQ30154

メッセージ: 視点の定義または使用法が無効です。

説明: この操作は、次の規則のいずれかに違反しています。

- UNIONで視点を定義することはできません。
- 視点が、複数の表からのデータ、DISTINCT または GROUP BY によって選択されたデータを使用している場合は、挿入、更新、削除はできません。
- 式 (SALARY/12 など) または組み込み関数 (AVG(SALARY) など) で定義された列を、挿入または更新することはできません (ただし削除は可能)。
- 視点の 2 つの列が表の同じ列に基づいている場合、またはその視点が、NOT NULL として定義されている表の列を使用していない場合には、挿入はできません。

ユーザーの処置: コマンドを視点の規則に照らして有効にして、再度入力してください。

SQLCODE: -00154 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: PQ

DSQ30155

メッセージ: FROM のあとに、GROUP BY または HAVING で定義された視点が指定されています。

説明: 照会の中の FROM のあとに指定されている表の 1 つが、GROUP BY または HAVING

を使用する照会によって定義されている視点です。このような視点を、FROM のあとで他の表とともに指定することはできません。

ユーザーの処置: FROM のあとで、ほかの表と一緒にその視点を指定することのないように、照会を書きなおしてください。その後照会を実行してください。

SQLCODE: -00155 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: PQ

DSQ30156

メッセージ: 視点の定義または使用法が無効です。

説明: DISTINCT か GROUP-BY を使用して視点が作成されました。視点を使用するには以下のルールに従わなければなりません。

- 複数の DISTINCT の列で視点が作成されている場合は、選択リストにすべての列を含まなければならない、AVG などの列関数を視点の列には使用できません。

たとえば視点が以下のように定義されていたとします。

```
CREATE VIEW V1 (COLA,COLB)
AS SELECT DISTINCT (COL1,COL2)
FROM TABLEA
```

V1 からは COLA、COLB の両方を選択しなければなりません。AVG(COLA) またはその他の列関数は使用できません。

- GROUP-BY を指定して視点が作成されている場合は、視点の列には列関数を使用できません。
- 1 つ以上の DISTINCT 列を指定して、視点が作成されている場合は列関数には計算式を使用できず、作成した視点を結合できません。
- 1 つの DISTINCT 列を指定して視点が作成されている場合は、視点から選択処理をするさいには、選択リストには 1 つの列関数しか使えません。

ユーザーの処置: 照会を変更して、実行し直してください。

SQLCODE: -00156 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30158

メッセージ: CREATE VIEW と SELECT の両リストには、同数の列が必要です。

説明: CREATE VIEW リストの各列名に対応する列名が SELECT リストにも入っていなければなりません。SELECT リストの中の名前リストをアスタリスク (*) で置き換えた場合には、元の表と同じ列名が視点に入ります。

ユーザーの処置: CREATE VIEW リストに合わせて SELECT リストの列名を変更し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00158 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30163

メッセージ: コロン (;) の使用は無効です。

説明: 照会で、"WHERE NAME = :NAME" のように、前にコロンのついた名前が使用されています。(この用法は、プリプロセッサ・プログラムに実行依頼される照会では意味がありますが、QMFでの照会では無効です。)

ユーザーの処置: 照会を訂正してください。表、列、または視点の名前を使うかその他の文字定数は、一重引用符で囲んでください。

SQLCODE: -00163 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30164

メッセージ: DBCS 定数が無効です。

説明: 照会の中に、"DBCS 定数" すなわち

G'、N'、または X' で始まる漢字リテラルが含まれています。

文字定数を使いたい場合には、定数全体を単一引用符で囲んでください。

DBCS 定数を使いたい場合には、次の形式で使うようにしてください。

G'<aabbcc>' または N'<aabbcc>'

< および > は、シフトアウト (SO) およびシフトイン (SI) を表しています。SO と SI のあいだの文字数は偶数でなければなりません。

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00164 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30165

メッセージ: 二重引用符で囲まれたデータの先頭にブランクは指定できません。

説明: 式の中に、二重引用符の次にブランクで始まるデータが続いています。これは許可されません。引用符で囲まなければならない有効な名前は、先頭にブランクを指定できません。

ユーザーの処置: 二重引用符で囲まれた名前が正しくなるように、式を訂正してください。

SQLCODE: -00165 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30166

メッセージ: DBCS 定数が無効です。

説明: 照会の中に、"DBCS 定数" すなわち G'、N'、または X' で始まる漢字リテラルが含まれています。

文字定数を使いたい場合には、定数全体を単一引用符で囲んでください。

DBCS 定数を使いたい場合には、次の形式で使うようにしてください。

G'<aabbcc>' または N'<aabbcc>'

< および > は、シフトアウト (SO) およびシフトイン (SI) を表しています。SO と SI のあいだの文字数は偶数でなければなりません。

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00166 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30167

メッセージ: 16 進数リテラルが無効です。

説明: 照会は、定数が X' で始まる、「16 進数リテラル」を含んでいます。

文字定数を使いたい場合には、定数全体を単一引用符で囲んでください。

16 進数リテラルの使用を意図しているのであれば、偶数個の文字で表した有効な 16 進数コードを使用してください。

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00167 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30169

メッセージ: DBCS 定数が無効です。

説明: 照会の中に、“DBCS 定数” すなわち G'、N'、または X' で始まる漢字リテラルが含まれています。

文字定数を使いたい場合には、定数全体を単一引用符で囲んでください。

DBCS 定数を使いたい場合には、次の形式で使うようにしてください。

G'<aabbcc>' または N'<aabbcc>'

< および > は、シフトアウト (SO) およびシフトイン (SI) を表しています。SO と SI のあいだの文字数は偶数でなければなりません。

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00169 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30170

メッセージ: DBCS 定数が無効です。

説明: 照会の中に、“DBCS 定数” すなわち G'、N'、または X' で始まる漢字リテラルが含まれています。

文字定数を使いたい場合には、定数全体を単一引用符で囲んでください。

DBCS 定数を使いたい場合には、次の形式で使うようにしてください。

G'<aabbcc>' または N'<aabbcc>'

< および > は、シフトアウト (SO) およびシフトイン (SI) を表しています。SO と SI のあいだの文字数は偶数でなければなりません。

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00170 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30171

メッセージ: スカラー関数 '&V2' の引き数 '&V1' は無効です。

説明: スカラー関数 '&V2' に指定されたデータ・タイプ、データの長さ、またはデータの値が間違っています。詳しくは、SQL 照会の資料を参照してください。

ユーザーの処置: 関数 '&V2' のデータ・タイプ、データの長さ、またはデータの値を変更して再度、照会し直してください。

SQLCODE: -00171 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30172

メッセージ: スカラー関数 '&V1' に指定した引き数の数が無効です。

説明: SQL ステートメントにあるスカラー関数 &V1 の引き数が多すぎるか少なすぎます。提供されている関数は、以下のとおりです。

DATE, TIME, TIMESTAMP, YEAR, MONTH, DAY, HOUR, MINUTE, SECOND, MICROSECOND, CHAR, DAYS, AVG, MAX, MIN, COUNT.

ユーザーの処置: スカラー関数 '&V1' の使用方法を確かめてください。スカラー関数を変更して再度、照会を実行してください。

SQLCODE: -00172 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30180

メッセージ: 日付時刻の値の構文が無効です。

説明: 有効な日付を表すstringは、次のいずれかの形式です。

'mm/dd/yyyy' 'dd.mm.yyyy' 'yyyy-mm-dd'
または LOCAL 形式

有効な時刻を表すstringは、次のいずれかの形式です。

'mm/dd/yyyy' 'dd.mm.yyyy' 'yyyy-mm-dd'
または LOCAL 形式

有効なタイム・スタンプを表現するstringは、次の形式です。

'yyyy-mm-dd-hh.mm.ss.nnnnnn'

ユーザーの処置: 日時値の構文を変更して、再度その照会を実行してください。

SQLCODE: -00180 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30181

メッセージ: 日時の値が無効です。

説明: 日時値を表すstringの値が、範囲外にあります。日時値の正しい範囲は次のとおりです。

年 - 1 から 9999
月 - 1 から 12
日 - 1 から 31
時 - 0 から 24
分 - 0 から 59
秒 - 0 から 59

ユーザーの処置: 日時の値を訂正して、再度照会し直してください。

SQLCODE: -00181 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30182

メッセージ: 日付時刻の値を使っている算術式が無効です。

説明: 指定された算術式で、日付時刻か、単一の期間の使用方法が、間違っています。正しい使用例を以下に示します。

```
SELECT STARTD + 10102433. FROM Q.PROJECT  
SELECT STARTD + 1 YEAR FROM Q.PROJECT
```

ユーザーの処置: 式を訂正して、再度その照会を実行してください。

SQLCODE: -00182 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30183

メッセージ: 日付、またはタイム・スタンプに関する算術演算で、無効な結果が出ました。

説明: 日付、またはタイム・スタンプの値を求める算術演算で、有効範囲外の値が求められました。

た。有効な日付は、0001-01-01 から 9999-12-31 までです。

ユーザーの処置: 日時の値を訂正して、再度照会し直してください。

SQLCODE: -00183 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30184

メッセージ: "?" の使用法が無効です。

説明: 文字 "?" がデータベース中のいずれかの名前の一部である場合は、二重引用符で囲まなければなりません。照会に指定する名前で "?" のこれ以外の使用法は無効です。文字 "?" は文字定数としても使用できますが、その場合は単一引用符で囲まなければなりません。

ユーザーの処置: 照会を訂正し、その照会を再度実行してください。

SQLCODE: -00184 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30185

メッセージ: 日付または時刻の値をフォーマット設定できません。

説明: 次のいずれかの状況が起きています。

1. LOCAL オプションを使って日付または時刻の値を書式化しようとしたが、使用可能なインストール先定義の日付または時刻ルーチンが存在しない。
2. 日付または時刻の値をストリングで表現して指定したが、ストリングがデータベースの認識できる形式ではない。または、そのストリングを処理できるインストール先定義の日付または時刻ルーチンが存在しない。

ユーザーの処置: 日付または時刻の値のストリング表現を認識可能な形式に変更するか、QMF 管理者に連絡してデータベースでインストール先定

義の日付・時刻ルーチンを利用可能にしてもらってください。

SQLCODE: -00185 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30187

メッセージ: 単純期間が、日付 / 時刻算術式にありません。

説明: MONTH などの単純期間は、正しい日付 / 時刻の算術文脈で使用しなければなりません。たとえば、次のステートメントの WHERE 文節は次のようになります。

```
SELECT PROJNO FROM Q.PROJECT could be:
WHERE STARTD - 1 MONTH > '1987-05-05'
WHERE STARTD > DATE('1987-05-05') +
1 MONTH
```

次のように式の中で、単純期間だけを使用しないでください。

```
WHERE STARTD > 1 MONTH
```

また、単純期間を日付として識別できない式で使用しないでください。

```
SELECT PROJNO FROM Q.PROJECT could be:
WHERE STARTD - 1 MONTH > '1987-05-05'
WHERE STARTD > DATE('1987-05-05') +
1 MONTH
```

ユーザーの処置: 単純期間を正しい日付 / 時刻算術式で使用し、照会を再度、実行してください。

SQLCODE: -00187 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30191

メッセージ: 混合データが、不適切な DBCS データの値で構成されています。

説明: 混合データで X'OE' (シフトアウト) または X'OF' (シフトイン) が抜けているか、またはそこに DBCS 文字の 1 バイト分が含まれていません。

理由コードが &V1 の、このエラーの詳細説明は、「DB2 サーバー (VSE 版) メッセージおよびコード」または「DB2 サーバー (VM 版) メッセージおよびコード」を参照してください。

ユーザーの処置: 参照したデータの値が正しいことを確認してください。正しくない場合は、必要な変更を行ってから照会を再実行してください。

SQLCODE: -00191 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30192

メッセージ: スカラー関数 &V1 の最初の引き数はサブタイプを MIXED にできません。

説明: スカラー関数 &V1 の最初の引き数として混合サブタイプの式を使用することはできません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正し、再試行してください。

SQLCODE: -00192 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30201

メッセージ: &V1 はこの照会では有効な表名ではありません。

説明: 表名 ID &V1 が、この式で誤って使われています。式のなかの表名は列名の修飾子としてしか使えません。たとえば、次のようになります。

Q.STAFF.SALARY

ユーザーの処置: 表名が正しく使われるように式を訂正するか、式から表名を除去してください。

SQLCODE: -00201 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30202

メッセージ: 照会で指定されている表のいずれにも、列 &V1 がありません。

説明: &V1 は、照会で指定されているどの表または視点の列でもありません。これが文字定数のつもりで入力したものであれば前後に一重引用符を付けてください。

ユーザーの処置: 列の名前を変えるか、または、列 &V1 の入っている表を照会に追加した上で、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00202 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30203

メッセージ: 列 &V1 が複数の表にあります。

説明: FROM 文節の複数の表または視点にその名前の列がある場合、またはネストされた表の式の複数の列がその名前である場合、非修飾列名は未確定です。列名またはネストされた表の式の相関名が固有である場合のみ、修飾列名は未確定です。

ユーザーの処置: この問題が、ネストされた表の式の非固有列名により起こる場合は、ネストされた表の式を変更して、列が固有になるようにしてください。問題が非修飾名の使用によって起こる場合は、表、視点または相関名で修飾してください。

SQLCODE: -00203 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30204

メッセージ: &V1.&V2 は、システム・カタログにありません。

説明: ステートメントに指定されているオブジェクトが、システム・カタログの中に見当たりません。名前のスペルが違っているか、または誤った修飾子 (&V1) を指定したと考えられます。

ユーザーの処置: 名前を訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00204 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30205

メッセージ: &V1 は、選択された表に定義された列ではありません。

説明: &V1 が列として指定されていますが、選択した表のいずれにもありません。スペルを間違えた可能性があります。&V1 を文字定数として使用する場合は、単一引用符で囲んでください。

ユーザーの処置: DISPLAY Q.COLUMN_LIST コマンドを使用して、使用許可を受けている表のすべての列に関する情報を表として表示できます。列名のスペルを確認した後、列名を訂正するかまたは列 &V1 が入っている表を照会に追加してください。

SQLCODE: -00205 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30206

メッセージ: DSQ30202 を参照してください。

DSQ30207

メッセージ: ORDER BY のあとには、列名ではなく列番号を使用してください。

説明: UNION とともに ORDER BY を使用するさいには、ORDER BY のあとには列名を使用しないで、SELECT のあとのリスト上での列の位置を示す番号を使用してください。

例:
SELECT NAME, ID FROM Q.STAFF
UNION
SELECT NAME, TEMPID FROM Q.APPLICANT
ORDER BY 1

ユーザーの処置: 列名を列番号に変更して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00207 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30208

メッセージ: SELECT リストに &V1 がなければなりません。

説明: ORDER BY のあとに &V1 が続いています。&V1 が SELECT リストに含まれていないか、または、ORDER BY のあとのそのスペルに誤りがあります。

ユーザーの処置: &V1 を SELECT リストに付け加えてください。そして、それが ORDER BY のあとの列名に一致することを確認してください。

SQLCODE: -00208 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30209

メッセージ: ORDER BY のあとに列 &V1 が指定されていますが、この列は、SELECT のあとに 2 回出てきています。

説明: SELECT リストに複数の表の列名 &V1 が含まれています。この同じ名前の列のどちらを、ORDER BY したいのでしょうか。

ユーザーの処置: ORDER BY のあとに、正しい列を番号で指定するか、または、列名に修飾子を付けてください。

SQLCODE: -00209 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30211

メッセージ: 表名 &V1 が不明です。

説明: 表名 &V1 が照会に複数個あります。表名が固有でないので、代替 ID を使う必要があります。次に例を示します。

A.SALARY

ユーザーの処置: 代替 ID を使って、式の列名を修飾してください。

SQLCODE: -00211 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30312

メッセージ: コロン (:) の使用は無効です。

説明: 照会で、"WHERE NAME = :NAME" のように、前にコロンのついた名前が使用されています。(この用法は、プリプロセッサ・プログラムに実行依頼される照会では意味がありますが、QMFでの照会では無効です。)

ユーザーの処置: 照会を訂正してください。表、列、または視点の名前を使うかその他の文字定数は、一重引用符で囲んでください。

SQLCODE: -00312 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30313

メッセージ: "?" の使用法が無効です。

説明: 文字 "?" がデータベース中のいずれかの名前の一部である場合は、二重引用符で囲まなければなりません。照会に指定する名前では "?" のこれ以外の使用法は無効です。文字 "?" は文字定数としても使用できますが、その場合は単一引用符で囲まなければなりません。

ユーザーの処置: 照会を訂正し、その照会を再度実行してください。

SQLCODE: -00313 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30330

メッセージ: 1 つまたは複数の文字が現行サーバーによって使用可能なコードに変換されませんでした。

説明: SQL ステートメントはアプリケーション

ン・サーバーに適合するコードに変換されるべき文字ストリングを参照しましたが、データ表示の誤った組み合わせが原因で参照できません。文字ストリングが対応する列のデータ・タイプと互換性がありません。したがって、指定された文字ストリングを使用できません。

ユーザーの処置: 文字列および参照した値が正しいかどうか検査してください。誤りがあれば、必要な変更を行い、再度照会を試みてください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00330 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30332

メッセージ: 互換性のない CCSID によって文字ストリングは変換されませんでした。

説明: SQL ステートメントは現行文字セットと違ったコード化文字セットの中にあるコード化文字セット ID(CCSID) &V1 を持つ文字ストリングを参照しました。現行サーバーでこの文字ストリングを使用するには、ソース CCSID &V1 からターゲット CCSID &V2 に変換されなければなりません。しかし、この CCSID の対の変換ルールは SYSSTRINGS システム表に定義されています。したがって、データベース・システムは文字ストリングをアプリケーション・サーバーに適合するコードに変換できません。

理由コードが &V3. の、このエラーの詳細説明は、「DB2 サーバー (VSE 版) メッセージおよびコード」または「DB2 for VM Messages and Codes」を参照してください。この変換エラーが起こりうる原因は、次のとおりです。

- SQL ステートメントは MIXED サブタイプのように定義されましたが、MIXED CCSID はアプリケーションの要求側によって指定されていない。

- 図形または混合データは、SQL ステートメントで使用され、現行サーバーで DBCS オプションまたは要求側が NO とセットされている。

ユーザーの処置: 参照した文字列と値が正しいかどうか検査してください。誤りがあれば必要な変更を行い、照会を再実行してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00332 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30351

メッセージ: 位置 &V1. のデータ・タイプが無効です。

説明: アプリケーション・リクエスターによりサポートされない SQL データ・タイプがあります。&V1 は、無効なデータ・タイプを持つ SQLDA の最初のエレメントです。このエラーの一般的な原因として、アプリケーション・リクエスターがアプリケーション・サーバーにあるラージ・オブジェクト・データを記述しようとしたことが考えられます。このエラーの原因となる SQLTYPE には、LOB、BLOB、CLOB および DBLOB などがあります。

ユーザーの処置: 無効なデータ・タイプを除去し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00351 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30401

メッセージ: 異なるタイプのデータの混合および比較はできません。

説明: 式の中で数字と非数字データが混合したか、数字データと非数字を比較しようとしたか、または文字と図形文字を比較しようとしたかのどちらかです。

SALARY を数字列で NAME を非数字列と想定すると、以下の例は無効です。

SALARY - NAME - は無効な式
NAME/2 - は無効な式
If NAME Is Equal
To SALARY - は無効な条件

ユーザーの処置: 異なるタイプのデータが混合ないように、式を変更してください。

SQLCODE: -00401 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30402

メッセージ: 数字データが必要です。

説明: 数字演算子または関数に数字データ以外のデータを使用しました。2 つの例を示します。

NAME
AVG(NAME)

ここで、NAME は数字として定義されていない列名です。

ユーザーの処置: 演算式または関数では数字データだけが使用されるように、照会を変更してください。

SQLCODE: -00402 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30404

メッセージ: 長すぎて該当の列に収まらない文字列があります。

説明: 挿入しようとしている値の 1 つが、それを入れる列の桁数を超えています。

ユーザーの処置: その列に収まるように値を変更して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00404 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30405

メッセージ: 数値が、列に使用できる値の範囲外にあります。

説明: 照会に指定されている値が、関連する列に使用可能な値の範囲内にありません。値は、式の結果としての値の場合もあります。

適切な SQL の値の範囲は次のとおりです。

FLOAT -7.2E75 から -5.4E-79, 0,
5.4E-79 から 7.2E75
INTEGER -2147483648 から 2147483647
SMALLINT ... -32768 から 32767
DECIMAL 範囲は列の精度と位取りによって
決まります。たとえば、精度 = 5、
位取り = 2 で定義された 10 進数の
列に指定される場合、
その値は、-999.99 から 999.99
です。

ユーザーの処置: 許容範囲内の値を指定してください。入力先の列を間違えていないかどうか確かめてください。

SQLCODE: -00405 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30406

メッセージ: 数値が、列に使用できる値の範囲外にあります。

説明: 照会に指定されている値が、関連する列に使用可能な値の範囲内にありません。値は、式の結果としての値の場合もあります。

適切な SQL の値の範囲は次のとおりです。

FLOAT -7.2E75 から -5.4E-79, 0,
5.4E-79 から 7.2E75
INTEGER -2147483648 から 2147483647
SMALLINT ... -32768 から 32767
DECIMAL 範囲は列の精度と位取りによって
決まります。たとえば、精度 = 5、
位取り = 2 で定義された 10 進数の
列に指定される場合、
その値は、-999.99 から 999.99
です。

ユーザーの処置: 許容範囲内の値を指定してください。入力先の列を間違えていないかどうか確かめてください。

SQLCODE: -00406 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30407

メッセージ: NOT NULL の列をヌル値で更新することはできません。

説明: 更新しようとしている列には NULL の許されないものがありますが、その列をヌル値で更新しようとしています。そのヌル値は副照会から生じた可能性があります。

ユーザーの処置: 無効なヌル値を照会から取り除いて、それを再実行してください。

SQLCODE: -00407 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30408

メッセージ: 副照会から、適合性のないタイプのデータが返されました。

説明: 更新または挿入のために使用された副照会からの値が、対応する列に適合しません。副照会からの値とそれに対応する列は、いずれも同じデータ・タイプを備えていなければなりません。たとえば、数値列を更新するためには、副照会の中で数値だけを選択しなければなりません。

ユーザーの処置: 副照会を訂正して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00408 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30409

メッセージ: DISTINCT は COUNT 合計機能の式で使用しなければなりません。

説明: 指示照会では、合計機能 COUNT に指定できるのは DISTINCT と列名だけです。使用例を示します。

COUNT(DISTINCT 列名)

上の例は、列内の異なった値の数を表示します。

ユーザーの処置: COUNT の使用法を変更してください。

SQLCODE: -00409 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30410

メッセージ: &V1 は、有効な数値ではありません。

説明: 照会が、&V1 を数値フィールドに割り当てようとしたますが、31 桁以上の浮動小数点数であるか、または数値以外の文字を含む値でした。

ユーザーの処置: &V1 を訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00410 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30411

メッセージ: USER、CURRENT DATE/TIME、または CURRENT SQLID の用法が間違っています。

説明: USER は指示照会では無効です。CURRENT DATE/TIME または CURRENT SQLID が使用されていますが、データ・タイプが無効です。

1. CURRENT DATE の暗黙のデータ・タイプは DATE です。
2. CURRENT TIME の暗黙データ・タイプは TIME です。
3. CURRENT TIMESTAMP の暗黙データ・タイプは TIMESTAMP です。
4. CURRENT TIMEZONE の暗黙データ・タイプは DECIMAL(6,0) です。
5. CURRENT SQLID の暗黙のデータ・タイプは CHAR(8) です。
6. CURRENT SQLID は、リモート・データのアクセス時には使用できません。

ユーザーの処置: 照会を上記の規則に合うように変更してください。

SQLCODE: -00411 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30412

メッセージ: 副照会の SELECT のあとには列を 1 つしか使用できません。

説明: 副照会で SELECT を使用する場合、それによって選択できる列名は 1 つだけです (ただし INSERT のあとの場合は別です)。

誤: (SELECT PARTNO, PRICE.....)

ユーザーの処置: 副照会の SELECT リストを訂正して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00412 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30413

メッセージ: データ・タイプの変換中に算術オーバーフローが生じました。

説明: 算術オーバーフローが生じたために、算術演算または挿入演算の結果は無効です。たとえば、INTEGER のデータ・タイプを持つ値を SMALLINT のデータ・タイプの列に挿入しようとした可能性があります。INTEGER の値が十分に小さいものであれば変換を正常に行うことができます。しかし、32767 を超える値は、算術オーバーフローを招く結果となります。

ユーザーの処置: 演算を訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00413 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30414

メッセージ: LIKE は文字またはグラフィック・データを指定しますが、この列は数字または日時のデータです。

説明: たとえば、LIKE '1%'または LIKE '%12.40.25' のような形式で指定されています。ここで、LIKE は部分値のある列の値と比較しています。その列は数字または日時のデータ・タイプですが、LIKE では文字またはグラフィック・データを指定する必要があります。

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。数字データの場合、"n >= 1000 and n < 2000" のような数字比較を使用してください。

SQLCODE: -00414 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30415

メッセージ: SELECT リストの列属性が統一されていません。

説明: UNION か UNION ALL で複数の照会を結合しました。その場合、各照会の SELECT リストには、同数の列がなければなりません。各 SELECT リストの対応する列はすべて、後続の SELECT のデータ定義と比較可能でなければなりません。対応する列にフィールド・プロシージャがあれば、両者は同じフィールド・プロシージャおよび CCSID 値をもたなければなりません。

ユーザーの処置: 照会を比較が可能な列の SELECT リストで書き直して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00415 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30416

メッセージ: 幅の広い列を UNION で使用することはできません。

説明: UNION を使用する照会の中の SELECT のあとのリストに、データ・タイプが LONG VARCHAR である列 (すなわち、幅が 255 以上の列) を含むことはできません。使用できるデータ・タイプは、INTEGER、SMALLINT、DECIMAL、FLOAT、CHAR のいずれかです。幅が 255 未満であれば VARCHAR の列も使用できます。

ユーザーの処置: UNION で使用するすべての照会の SELECT リストから、幅が 254 文字を超える列をすべて除去してください。

SQLCODE: -00416 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30417

メッセージ: "?" の使用法が無効です。

説明: 文字 "?" がデータベース中のいずれかの名前の一部である場合は、二重引用符で囲まなければなりません。照会に指定する名前 "?" のこれ以外の使用法は無効です。文字 "?" は文字定数としても使用できますが、その場合は単一引用符で囲まなければなりません。

ユーザーの処置: 照会を訂正し、その照会を再度実行してください。

SQLCODE: -00417 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30418

メッセージ: "?" の使用法が無効です。

説明: 文字 "?" がデータベース中のいずれかの名前の一部である場合は、二重引用符で囲まなければなりません。照会に指定する名前 "?" のこれ以外の使用法は無効です。文字 "?" は文字定数としても使用できますが、その場合は単一引用符で囲まなければなりません。

ユーザーの処置: 照会を訂正し、その照会を再度実行してください。

SQLCODE: -00418 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30419

メッセージ: 使用されている値を用いた 10 進除算はできません。

説明: 分子の精度または分母の位取りが、10 進除算を行うには大きすぎます。

ユーザーの処置: 10 進除算に使用する値の精度または位取りを変更してから、照会を再実行してください。INTEGER、または SMALL INTEGER の値が、この計算のために 10 進数に変換された可能性があることに注意してください。

SQLCODE: -00419 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30421

メッセージ: 偶数個の 16 進文字が必要です。

説明: 照会は、定数が X' で始まる、「16 進数リテラル」を含んでいます。この定数は GRAPHIC データ・タイプの列に結びついており、したがって偶数個の 16 進文字を表していなければなりません。定数の長さ（一重引用符の間の長さ）が 4 で割り切れることを確かめてください。

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00421 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30422

メッセージ: 各 SELECT リストの列数が一致していません。

説明: UNION によって複数の照会を連結する場合には、その場合、各照会の SELECT リストには、同数の列がなければなりません。

ユーザーの処置: 照会を訂正して、再実行してください。

SQLCODE: -00422 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30423

メッセージ: IN のあとの 16 進数リテラルは無効です。

説明: 照会は、定数が X' で始まる、「16 進数リテラル」を含んでいます。IN の前に 16 進数リテラルがある場合には、IN のあとのリスト上の最初の項目は、16 進数リテラルであってはなりません。

誤:
X'C9C4' IN (X'F1F0', X'F2F0')

正:
X'C9C4' IN (10, X'F2F0')

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00423 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30516

メッセージ: GROUP BY または HAVING 文節を使用する副照会には、ALL、ANY、EXISTS、または IN が必要です。

説明: GROUP BY または HAVING を用いる副照会では複数の値の生成が予測されます。したがって、先行する ALL、ANY、EXISTS、または IN のいずれかのキーワードが必要です。

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00516 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30550

メッセージ: 所有者を "SYSTEM" とする &V1 の作成はできません。

説明: たとえば、次のようなステートメントの入った照会を実行することはできません。

```
CREATE TABLE SYSTEM.&V1 .....
```

ユーザーの処置: この操作は行わないようにしてください。

SQLCODE: -00550 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30551

メッセージ: 指定されたオブジェクトが存在しないか、または必要な権限がありません。

説明: 指定されたオブジェクトが存在しないか、または読み取り専用の視点か、または次に挙げる必要とされる権限がありません。

1. 他のユーザーの表または視点から選択する SELECT 権限。
2. 他のユーザーの表または視点に対する INSERT、UPDATE、DELETE または ALTER 権限。 INDEX 権限は、索引を作成するのに必要とされます。
3. 他のユーザーの表または視点に対する権限を付与する (WITH GRANT オプションを用いる) GRANT 権限。
4. FOREIGN KEY または、DROP FOREIGN KEY の実行、または DROP PRIMARY KEY の操作の ALTER 権限。
5. 表の作成、データの保管、または、データベース内のスペースの予約に必要な特定の権限。

ユーザーの処置: 既存のオブジェクトの名前を誤って指定した場合には、正しい名前を使ってください。必要な権限がない場合には、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00551 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30552

メッセージ: 指定されたオブジェクトが存在しないか、または必要な権限がありません。

説明: 指定されたオブジェクトが存在しないか、または読み取り専用の視点か、または次のような必要とされる権限がありません。

1. 他のユーザーの表または視点から選択する SELECT 権限。
2. 他のユーザーの表または視点に対する INSERT、UPDATE、DELETE または ALTER 権限。 INDEX 権限は、索引を作成するのに必要とされます。
3. 他のユーザーの表または視点に対する権限を付与する (WITH GRANT オプションを用いる) GRANT 権限。
4. FOREIGN KEY または、DROP FOREIGN KEY の実行、または DROP PRIMARY KEY の操作の ALTER 権限。
5. 表の作成、データの保管、または、データベース内のスペースの予約に必要な特定の権限。

ユーザーの処置: 既存のオブジェクトの名前を誤って指定した場合には、正しい名前を使ってください。必要な権限がない場合には、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00552 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30554

メッセージ: 自分自身に対して特権を付与することはできません。

説明: "GRANT CONNECT TO ALL USERS" コマンドで明示的に CONNECT 権限を付与されていても、自分自身に対して特権を付与したり、またはパスワードを設定したりすることは、データ

ベース・マネージャーにより許可されていません。パスワードを変更できるのは、DBA が CONNECT 権限を明示的に付与し、パスワードを初期化するよう設定した場合のみです。

ユーザーの処置: ステートメントを訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00554 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30555

メッセージ: 自分自身が保有している特権を取り消すことはできません。

説明: あるユーザーが持っている特権を取り消すことができるのは、所定の権限を持つ別のユーザーだけです。ただし、SQLRULES(STD) が有効であるか、または CURRENT RULES に STD が含まれている場合は、自分自身への GRANT が可能です。

ユーザーの処置: 自分の持つデータベース特権のいずれかを削減したい場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00555 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30556

メッセージ: この特権を &V1. から取り消すことはできません。

説明: 取り消そうとしている特権を &V1 が持っていないか、または、その特権を付与したユーザーの許可識別名がユーザー自身のものではありません。取り消すことのできる特権は、ユーザー自身の許可識別名のもとに付与されている特権だけです。

ユーザーの処置: 別の操作に移ってください。

SQLCODE: -00556 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30557

メッセージ: この組み合わせの特権を付与または取り消すことはできません。

説明: 同一ステートメントの中で、両立しない 2 つの権限を同時に付与または取り消そうとしています。

ユーザーの処置: GRANT または REVOKE ステートメントを、それぞれ独立したいくつかのステートメントに分けてから、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00557 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30558

メッセージ: DBA から「特殊」特権を取り消すことはできません。

説明: ユーザーは、DBA 権限を持つユーザーから、RESOURCE などの「特殊」特権を取り消すことはできません。

ユーザーの処置: この操作は行わないようにしてください。

SQLCODE: -00558 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30561

メッセージ: CONNECT 権限がなければデータベースを使用できません。

説明: データベースを使用するためには CONNECT 権限が必要です。このセッションですでにデータベースを使用している場合は、実行中に他のユーザーによって CONNECT 権限が取り消された可能性があります。

ユーザーの処置: QMF 管理者に問題を報告してください。

SQLCODE: -00561 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30564

メッセージ: ステートメントが無効なユーザー ID を参照しています。

説明: SQL のユーザー ID は、英字で始まっていて、8 文字以内の英字または数字で構成されていなければなりません。途中でブランクを入れたり、特殊文字を用いたりすることはできません。

PUBLIC と SYSTEM のユーザー ID は、特定の限定された文脈でしか使用できません。

特に、PUBLIC または SYSTEM から、特殊な特権 (CONNECT、DBA、および RESOURCE) を付与したり取り消したりすることはできません。

ユーザーの処置: 指定されているユーザー ID を変更できなければ、この操作を実行しないでください。

SQLCODE: -00564 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30601

メッセージ: 作成しようとしているオブジェクトの名前がすでに存在しています。

説明: 作成または獲得しようとしているオブジェクトの名前が、既存の項目の名前と同じです。

ユーザーの処置: 名前を、データベースに存在しない名前に変更して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00601 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30602

メッセージ: 表または視点の中の列が多すぎます。

説明: この照会の結果作成される表または視点に対して、列の数が許容最大数を超過してしまいます。

ユーザーの処置: 作成しようとしている表または

視点の列の数が 256 未満になるように、照会を訂正してください。

SQLCODE: -00602 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30603

メッセージ: &V1 の列に重複値があります。

説明: 重複値がある &V1 列を作成できません。指定した列の 1 つがそうなっています。

VARCHAR または VARGRAPHIC のタイプの列であれば 2 つの列の違いは後ろのブランクの数だけで、重複することになります。

ユーザーの処置: 重複値を含む列が参照されることがないように、CREATE ステートメントを変更するか、または表から重複値が含まれている列を削除してください。

SQLCODE: -00603 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30604

メッセージ: 許容最大幅を超えている定数を使用しました。

説明: 定数を使用しましたが、その幅が次のいずれかを超えています。エラーの原因は次のとおりです。

- DECIMAL 定数の幅が 15 を超えているか、または小数点桁数がその幅を超えています。
- CHAR、FLOAT、GRAPHIC、VARCHAR、または VARGRAPHIC 定数の長さがデータ・タイプの限界を超えています。

ユーザーの処置: 定数指定を変更し、データ・タイプの限界を調整して、照会をもう一度実行してください。データ・タイプの制限についての詳細な説明は、使用しているデータベースの「*DB2 UDB for z/OS SQL Reference*」を参照してください。

SQLCODE: -00604 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30606

メッセージ: 指定の表または列が存在しないか、他のユーザーが所有しています。

説明: COMMENT ON ステートメントまたは、LABEL ステートメントで指定されている表または列が、存在していないか、または他のユーザーにより所有されています。これらのステートメントは、自分が作成した表だけに使用することができます。ただし、DBA 権限があれば、他のユーザーの表に対して COMMENT ON または、LABEL ON を指定できます。

ユーザーの処置: 別の操作を続けてください。

SQLCODE: -00606 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30607

メッセージ: この DBSPACE にはこれ以上表を追加できません。

説明: DBSPACE 当たりの表の最大数は 255 です。

ユーザーの処置: 別の DBSPACE に表を作成するか、指定した DBSPACE の表を除去して、スペースを解放してください。

SQLCODE: -00607 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30608

メッセージ: DBSPACE が見つかりません。

説明: DBSPACE とともに IN を使用した場合には次のいずれかが原因です。

1. 該当する DBSPACE が存在しない。
2. DBSPACE を使用する権限がない。
3. DBSPACE がいっぱいである。

IN を使用しなかった場合には、次のいずれかが原因です。

1. デフォルトの DBSPACE がない。
2. デフォルトの DBSPACE がいっぱいである。

ユーザーの処置: 使用することのできる DBSPACE の名前を入力して、SQL 照会を再実行してください。

SQLCODE: -00608 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30609

メッセージ: システム DBSPACE を変更することはできません。

説明: どのようなユーザーも、システム DBSPACE を変更することはできません。この記憶域の中にある情報は、システムの操作にとって重要なものばかりであり、したがってユーザーが変更することはできません。

ユーザーの処置: この操作は行わないようにしてください。

SQLCODE: -00609 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30610

メッセージ: 指定した DBSPACE に表を作成することはできません。

説明: 他のユーザーまたはシステムが所有する DBSPACE に表を作成するには、そのために必要な権限を持っていないければなりません。

ユーザーの処置: 別の DBSPACE を用いて表を作成してください。他のユーザーまたはシステムが所有する DBSPACE の使用権が必要ならば、該当の手続きに従ってください。

SQLCODE: -00610 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30611

メッセージ: ALTER TABLE とともに NOT NULL を使用することはできません。

説明: ALTER TABLE ステートメントは、表に新しい列を 1 つ追加します。既存のすべての行は、その新しい列にヌル値の入った形で拡張されます。したがって、NOT NULL オプションは使用できません。

ユーザーの処置: ALTER TABLE ステートメントから NOT NULL オプションを除去して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00611 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30612

メッセージ: 列名 &V1 が 2 回使われています。

説明: 1 つの表に、同じ名前の列を 2 つ設けることはできません。CREATE TABLE、CREATE VIEW、または CREATE INDEX の中で、列名 &V1 が 2 回以上使用されています。または、ALTER TABLE の中で使われている列名 &V1 が、すでに表の中にあります。

ユーザーの処置: 別の列名を選んで、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00612 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30614

メッセージ: 選択された列に索引を付けることができません。

説明: CMS のもとでは、LONG VARCHAR 列または LONG VARGRAPHIC 列に索引を付けることはできません。

TSO のもとでは、許容最大長が 254 文字を超え

る VARCHAR に索引を付けることはできません。

CMS または TSO のもとでは、列のグループの内部長さの合計が 255 文字を超えている場合には、そのグループに索引を付けることはできません。

ユーザーの処置: 列を 1 つまたは 2 つ以上除外するか、または長い列を短い列で置き換えることによって、索引定義または初期キー定義を修正してください。

SQLCODE: -00614 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30617

メッセージ: CREATE INDEX または PRIMARY KEY ステートメントの列の指定が多すぎます。

説明: CREATE INDEX または PRIMARY KEY ステートメントで指定されている列の数が、許容されている最大数を超えています。

- DB2 (MVS版) は 64 までです。
- DB2 共通サーバーは 16 までです。

ユーザーの処置: CREATE INDEX または PRIMARY KEY ステートメントを変更して、列の数が列の最大数を超えないようにしてください。

SQLCODE: -00617 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30620

メッセージ: 私用の回復可能 DBSPACE が使用できません。

説明: CREATE TABLE コマンドで DBSPACE 名が指定されていないため、&V1. が所有する私用 DBSPACE を見つけるために探索が行われました。

DBSPACE が見つからなかったか、いっぱいであ

ったか、あるいは回復不能記憶域プールに入っていたかのいずれかです。

ユーザーの処置: 私用 DBSPACE を獲得するか、既存のスペース内に余裕をもたせるか、または必要な DBSPACE を明示的に指定するかしてください。

SQLCODE: -00620 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30640

メッセージ: グラフィックと混合データ・タイプは現行サーバーによってサポートされていません。

説明: SQL ステートメントはその文節またはスカラー関数 &V1 を参照しましたが、現行サーバーがそれをサポートしていませんでした。

これは、次のいずれかによります。

- ALTER または CREATE TABLE ステートメントは FOR MIXED DATA 文節を指定し、現行サーバーのデフォルトの混合 CCSID はゼロであった。
- ALTER または CREATE TABLE ステートメントは GRAPHIC データ・タイプを指定し、現行サーバーのデフォルトの図形 CCSID はゼロであった。
- SQL ステートメントは VARGRAPHIC スカラー関数を指定し、現行サーバーのデフォルトの図形 CCSID はゼロであった。

ユーザーの処置: 混合、グラフィックおよび VARGRAPHIC データ・タイプをサポートしているサーバーで SQL ステートメントを出してください。これらのデータ・タイプが現行サーバーに使用されている場合、そのシステムのデフォルト CCSID をリセットするよう、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00640 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30657

メッセージ: UPDATE STATISTICS は視点について使用することはできません。

説明: UPDATE STATISTICS ステートメントを視点について使用することはできません。このステートメントは 1 つの表についてだけ使用することができます。

ユーザーの処置: その視点を構成する表が操作の対象となるように照会を書きなおしてから、それを再実行してください。例:

```
UPDATE STATISTICS FOR TABLE PRICES
```

SQLCODE: -00657 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30687

メッセージ: フィールド・プロシージャで定義された列との比較が無効です。

説明: フィールド・プロシージャで定義された列と比較された値が、同じフィールド・タイプではありません。比較は列の値のエンコードされた書式で実行されます。たとえば、列のエンコードされた値が INTEGER の場合は、比較される値のデータ・タイプは同じでなければなりません。ストリングの場合は、そのデータ・タイプは互換性がなければなりません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正して、もう一度、照会を実行してください。

SQLCODE: -00687 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30701

メッセージ: DBSPACE のデータのために割り振られているスペースがいっぱいです。

説明: DBSPACE にデータのための十分なスペースがないので、この照会は実行されません。

ユーザーの処置: 表を作成しようとしている場合

には、別の DBSPACE を指定してください。その他の場合には、QMF 管理者の指示にしたがってデータ・スペースを大きくして、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00701 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30702

メッセージ: DBSPACE で索引用に割り当てられているスペースがいっぱいです。

説明: DBSPACE に索引のためのスペースが追加されるまでは、照会は実行されません。

ユーザーの処置: 表を作成しようとしている場合には、別の DBSPACE を指定してください。その他の場合には、QMF 管理者の指示にしたがって索引スペースを大きくして、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00702 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30703

メッセージ: DBSPACE のヘッダー情報用のスペースがいっぱいです。

説明: NHEADER パラメーターによって、ヘッダー情報用として DBSPACE の中で割り振られているスペースが、いっぱいになりました。追加の DBSPACE スペースを確保しないかぎり、この照会の処理はできません。

ユーザーの処置: 表を作成しようとしている場合には、別の DBSPACE を指定してください。その他の場合には、QMF 管理者の指示にしたがってヘッダー・スペースを大きくして、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00703 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30704

メッセージ: 要求されたサイズとタイプの使用可能な DBSPACE がありません。

説明: ACQUIRE DBSPACE ステートメントは実行されませんでした。次のいずれかの状況が起きています。

- 要求したページ数が使用可能ページ数より多かった。
- すべての共用、または私用 DBSPACE がすでに獲得されていた。
- 指定した記憶域プールがない。

ユーザーの処置: 記憶域プールを指定した場合、その記憶域プールがあるかどうかを QMF 管理者に連絡して、確認してください。記憶域プールがある場合は、PAGES オプションの中のページ数を減らすか、または別のタイプの DBSPACE を要求してください。それでも状況が改善されない場合には、QMF 管理者に連絡して、DBSPACE の追加を要求し、それが追加されたら、ACQUIRE DBSPACE ステートメントを再入力してください。

SQLCODE: -00704 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30705

メッセージ: &V1 に指定された値が無効です。

説明: ACQUIRE または ALTER DBSPACE ステートメントの場合、対応するパラメーターが指定されていない場合は次の値が使用されます。

NHEADER	- 8	PAGES	- 128
PCTFREE	- 15	LOCK	- PAGE
PCTINDEX	- 33		

CREATE INDEX の場合または 1 次キーを表に追加する場合、PCTFREE が指定されていない場合はデフォルト値 10 が使用されます。

&V1 の最大および最小値はアプリケーションに依存します。特定情報については QMF 管理者に連絡してください。

ユーザーの処置: &V1 の値を変更して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00705 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: PQ

DSQ30708

メッセージ: 公用 DBSPACE の除去、ロック、または変更はできません。

説明: 公用 DBSPACE の除去、ロック、または変更ができるのは、所定の権限を持つユーザーだけです。

ユーザーの処置: 必要な権限を持っているユーザーに連絡し、除去または変更の処置を要求してください。

SQLCODE: -00708 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: PQ

DSQ30709

メッセージ: この DBSPACE にはシステム・カタログ表が入っています。

説明: どのユーザーも、システム・カタログ表の入った DBSPACE を除去することはできません。

ユーザーの処置: この DBSPACE を除去しようとしないでください。

SQLCODE: -00709 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: PQ

DSQ30710

メッセージ: この照会に必要な私用 DBSPACE は使用中です。

説明: 1 つの私用 DBSPACE を、同時に複数のユーザーがアクセスすることはできません。照会

の中で要求されている表は、現在使用中の私用 DBSPACE に入っています。

ユーザーの処置: 私用 DBSPACE が使用可能になってから、照会を実行しなおしてください。

SQLCODE: -00710 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: PQ

DSQ30712

メッセージ: INTERNAL DBSPACE に照会を実行するだけの余地がありません。

説明: QMF が十分な数または十分な大きさの INTERNAL DBSPACE を獲得することができませんでした。照会を簡素化するか、またはそれを 2 つ以上の照会に分割してください。

ユーザーの処置: QMF のためにもっと多くの INTERNAL DBSPACE を確保するよう、QMF 管理者に要求してください。

SQLCODE: -00712 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: PQ

DSQ30801

メッセージ: SQL ステートメントの算術演算が、エラーに終わりました。

説明: 視点を使用しようとしたますが、視点定義の副選択文節中にある算術演算がエラーに終わりました。例外タイプは &V1、演算タイプは &V2、データ・タイプは &V3 です。

ユーザーの処置: 視点の所有者に連絡して、算術演算と視点の副選択文節列を調べてもらい、どのデータが問題を引き起こしたか判別してください。

SQLCODE: -00801 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: PQ

DSQ30802

メッセージ: SQL コマンドの算術演算で、エラーが発生しました。

説明: SQL コマンドで乗算または除算のような算術演算を行おうとしました。しかし、コンピューターは選択された列で 1 つ以上の値が無効であることを検出しました。たとえば、乗算の結果がコンピューター内部記憶域を超えたか、0 による除算になっています。

ユーザーの処置: プログラム例外を起こすデータを決定するためにコマンドの算術演算および列を検査してください。

SQLCODE: -00802 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30803

メッセージ: 固有索引列の中に重複値がありません。

説明: 新たな値を挿入しようとしている、または新たな値で更新しようとしている列の 1 つに、その値と同じ値がすでに入っています。その列は、固有索引列です。固有索引列は重複値をとることはできません。

ユーザーの処置: 既存の値と重複することのないように、新たな値を変更してください。そして、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00803 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30805

メッセージ: パッケージ &V1 が、カタログ表に見つかりません。

説明:

DB2 サーバー (VSE および VM 版) が、QMF プログラムを実行しようとした際に、カタログ表 SYSTEM.SYSACCESS 中でパッケージを見つける

ことができませんでした。これは次の原因で起こります。

- QMF プログラムが、正しくプリプロセスされていなかった。
- QMF が、接続先のロケーションでインストールされていなかった。

ユーザーの処置: このエラーの詳細説明は、「DB2 サーバー (VSE 版) メッセージおよびコード」または「DB2 サーバー (VM 版) メッセージおよびコード」を参照してください。また、この問題を QMF 管理者に報告してください。

SQLCODE: -00805 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30808

メッセージ: システム・カタログを変更する権限がありません。

説明: 権限を付与されていなければ、システム・カタログを変更することはできません。照会または DISPLAY コマンドを用いてシステム・カタログの読み取りおよびデータの検索を行うことはできます。

ユーザーの処置: 権限が必要であれば、QMF 管理者の手続きに従ってください。

SQLCODE: -00808 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30809

メッセージ: 行が長すぎます。

説明: この挿入または更新操作を行うと、許容長より長い行が作成されます。LONG VARCHAR 列または LONG VARGRAPHIC 列がないかぎり、最大長は 4,070 桁です。

ユーザーの処置: もっと短い行が作成されるように照会を変更し、それを再実行してください。

SQLCODE: -00809 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30810

メッセージ: 複数の値を生成する副照会がありません。

説明: 副照会は、表の 2 つ以上の列をもとにして値を生成するものであってはならず、また、多くの場合、2 つの行をもとにして値を生成するものであってはなりません。複数の値を生成する副照会には、ALL、ANY、EXISTS、または IN を使用してください。

例 :

```
WHERE DEPT = ANY (SELECT DEPTNUMB  
FROM Q.ORG)
```

```
HAVING AVG(X) > ALL (SELECT X FROM Y)
```

```
WHERE EXISTS (SELECT * FROM X  
WHERE N1 = N2)
```

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00810 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30813

メッセージ: 視点のロックはできません。

説明: LOCK は、表または DBSPACE のロックの場合にかぎり使用できます。視点は表として保管されるものではなく、したがってこれをロックすることはできません。

ユーザーの処置: 視点を形成する 1 つまたは複数の表をロックすることはできません。

SQLCODE: -00813 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30814

メッセージ: システム・カタログ表やシステム DBSPACE はロックできません。

説明: LOCK ステートメントで、システム・カタログ、または、システム・カタログ表の入った DBSPACE をロックしようとしています。権限に関係なく、どのようなユーザーもこれらの項目をロックすることはできません。

ユーザーの処置: システム・カタログの排他的アクセスが必要なのであれば、QMF 管理者に連絡して、データベースの排他使用を要求してください。アクティブな他のユーザーが存在しない場合には、LOCK は不要です。

SQLCODE: -00814 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30815

メッセージ: アカウンティング・ユーザー出口ルーチンによって接続が拒否されました。

説明: DB2 サーバー (VSE および VM 版) への接続要求は、インストール先システムのアカウンティング・ユーザー出口ルーチンによって拒否されました。

ユーザーの処置: QMF 管理者に相談してください。

SQLCODE: -00815 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30823

メッセージ: システム・カタログに対しこの操作は実行できません。

説明: 要求でシステム・カタログを指定しました。ユーザーはシステム・カタログから削除したり、1 次または外部キーをシステム・カタログに追加したり、システム・カタログを外部キーの親として参照することはできません。

ユーザーの処置: データベースからオブジェクト "NAME1" を除去する場合、ERASE NAME1 コマンドを入力してください。

SQLCODE: -00823 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30911

メッセージ: データベースの必要な部分が使用中です。

説明: 別のユーザーが処理を完了するまでは、データベース中の必要なオブジェクトをアクセスすることはできません。

ユーザーの処置: QMF セッションを打ち切り、あとで再度サインオンしてください。

SQLCODE: -00911 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30912

メッセージ: データベースの必要な部分が使用中です。

説明: 別のユーザーが処理を完了するまでは、データベース中の必要なオブジェクトをアクセスすることはできません。

ユーザーの処置: QMF セッションを打ち切り、あとで再度サインオンしてください。

SQLCODE: -00912 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30914

メッセージ: 取り消し要求が出されました。

説明: CANCEL は、ユーザーあるいはシステムによって出された可能性があります。システムによって出された CANCEL はロック要求ブロックの限界に達したためです。

ユーザーの処置: 必要ならば変更を再実行してください。CANCEL 要求を出していないのに

SQLCODE -914 を受け取り続ける場合は、システム・プログラマーに連絡して、アプリケーション・サーバーが開始するときの NLRBU または NLRBS パラメーターを大きくするようにしてください。

SQLCODE: -00914 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30915

メッセージ: システム作業負荷が原因で照会は処理されませんでした。

説明: データベース・システムの作業負荷のために、いまは照会を処理することができません。

ユーザーの処置: 他の処理を続行し、あとでもう一度照会の実行を試みてください。現在のシステム作業負荷の詳細を知りたい場合には、QMF 管理者にお問い合わせください。

SQLCODE: -00915 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30916

メッセージ: オペレーターの処置が原因で照会は処理されませんでした。

説明: システム・オペレーターが照会の処理を中断しました。照会にはエラーはありません。

ユーザーの処置: その後照会を実行してください。

SQLCODE: -00916 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30930

メッセージ: データベース・マネージャーは記憶域を使い果たしました。

説明: データベース・マネージャーには、ユーザーの照会を実行する十分な仮想記憶域がありません。

ユーザーの処置: あとで、QMF のアクティビティが少なくなった時点で、この照会を再度実行してください。同じ状態が続く場合には、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00930 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: PQ

DSQ30933

メッセージ: &V1 への通信経路が使用できません。

説明: 以下のいずれかの理由で、データベース &V1 をアクセスできません。

- データベースが停止されています。
- DB2 サーバー (VSE および VM 版) 仮想計算機に許された最大接続数 (MAXCONN) を超えています。
- DB2 サーバー (VSE および VM 版) システム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: データベース名 &V1. が正しいか確認してください。正しくない場合は、データベース名を訂正して、要求を再試行してください。

DB2 サーバー (VSE および VM 版) 仮想計算機に許される接続数の制限は DB2 サーバー (VSE および VM 版) 仮想計算機ディレクトリーの MAXCONN の値で設定されます。この制限を超えた場合、後でシステムのアクティビティが少ないとき要求を実行してみてください。この条件が頻繁に起きる場合は、MAXCONN の値を増やすよう QMF 管理者に連絡してください。

"CONNECT TO <ロケーション>" コマンドがサポートされていれば、QMF は現在のロケーションに再接続します。この場合 QMF の使用を継続できます。QMF が再接続できない場合は、接続喪失プロンプト・パネルで別のロケーションに接続するよう指示されます。

SQLCODE: -00933 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: PQ

DSQ30939

メッセージ: DSQ30930 を参照してください。

DSQ30940

メッセージ: データベース &V1 が作動可能でないか、または見つかりません。

説明: 下記のいずれかの理由により、このデータベースにはアクセスできません。

- データベースが開始されていない。
- データベース名 &V1 が DB2 サーバー (VSE および VM 版) アプリケーションの要求側に認識されていない。
- システム・エラーが発生しました。たとえば、AVS ゲートウェイとサーバーの LU 間に SNA セッションが開設されていないか、または中間通信サーバー (TSAF や AVS など) がアクティブではありません。
- アプリケーション・プログラムまたはアプリケーション・サーバーが異常終了した後に、VM システムにより COMDIR がアンロードされた。

ユーザーの処置: データベース名 &V1. が正しいか確認してください。正しくない場合は、データベース名を訂正して、要求を再試行してください。

"CONNECT TO <ロケーション>" コマンドがサポートされていれば、QMF は現在のロケーションに再接続します。この場合 QMF の使用を継続できます。QMF が再接続できない場合は、接続喪失プロンプト・パネルで別のロケーションに接続するよう指示されます。

SQLCODE: -00940 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: PQ

DSQ30942

メッセージ: DSQ30930 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ30943

メッセージ: QMF 仮想計算機 &V2 はデータベース &V1. にアクセスできません。

説明: QMF 仮想計算機が正しく定義されていません。QMF 仮想計算機の A ディスクにあるファイル ARISRMBT MODULE に、QMF がアクセスしようとしているデータベース・プログラムが記述されていません。

ユーザーの処置: このメッセージが出たことを QMF 管理者に知らせ、その指示を待ってください。QMF 仮想計算機が正しく定義されるまでは、なにもすることはできません。

SQLCODE: -00943 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ30948

メッセージ: DB2 サーバー (VSE および VM 版) への接続は、オペレーターの処置のため切断されました。

説明: DB2 サーバー (VSE および VM 版) 仮想計算機のオペレーターが FORCE コマンドを入力したため、現行の作業論理単位の ROLLBACK を引き起こし、DB2 サーバー (VSE および VM 版) システムへの接続を切断しています。ユーザー ID、パスワード、データベース名はすべてデフォルト値にリセットされます。

ユーザーの処置: 継続できます。発行した明示的 CONNECT はすべて、失われました。元々の接続を再確立するには、同じユーザー ID を使用して、再度、明示的 CONNECT 要求を発行する必要があります。

SQLCODE: -00948 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: PQ

DSQ31101

メッセージ: 検索要求に含まれる列または値が多過ぎます。

説明: 次の理由で検索要求を完了できませんでした。

1. 編集している表または視点に含まれる列が多すぎる。
2. または、検索する値の指定が多すぎる。

ユーザーの処置: 更新が必要な列だけを含む視点を作成するか、または検索基準としてより少ない値を指定してください。

SQLCODE: -00101 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31102

メッセージ: 長すぎて該当の列に収まらない文字値があります。

説明: 挿入しようとしている値の 1 つが、それを入れる列の桁数を超えています。

ユーザーの処置: その列に収まるように値を変更して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00102 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31103

メッセージ: &V1 は数字で始まっていますが、有効な数値ではありません。

説明: &V1 は数字で始まっています。しかし、有効な整数、10 進数、または浮動小数点数ではありません。指定する内容が、

1. 浮動小数点数の場合、「E」の次に正または負の符号を付け、その次に指数を指定してください。

2. 文字定数の場合、単一引用符で囲んでください。
3. 名前の場合、数字で始まってはなりません。別の名前を指定してください。

ユーザーの処置: &V1 を訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00103 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31104 - DSQ31128

メッセージ: 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: コンピューターは内部的な SQL エラーを検出しました。パネルの下部にエラー・コードが表示されます。

ユーザーの処置: インストール先の手続きにしたがってエラーを報告し、コマンドが正しく実行されているか検査してください。QMF は継続して使用できます。

DSQ31129

メッセージ: 照会で使用している表または列の数が多すぎます。

説明: 照会で以下の項目の 1 つが、リストされた制限を超えています。

表名	15
選択された列	255

ユーザーの処置: 所定の限度内になるように照会を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00129 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31130 - DSQ31140

メッセージ: DSQ31104 を参照してください。

DSQ31141

メッセージ: 挿入または更新の値が視点定義の条件を満たしていません。

説明: &V1 コマンドは、“WITH CHECK OPTION” 文節を使用している視点の挿入または更新を試みました。この視点の中に行の挿入または更新しようとする試みは、結果が視点定義に一致していることを確認するためにチェックされません。挿入または更新を試みた値は定義の条件を満たしていません。

ユーザーの処置: 視点定義を調べて、変更が拒否された理由を判別してください。次に、処理を試みようとした &V1 コマンドの値を変更してください。

SQLCODE: -00141 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31142 - DSQ31148

メッセージ: DSQ31104 を参照してください。

DSQ31149

メッセージ: 指定されたオブジェクトを変更することができません。

説明: 指定されたオブジェクトは、複数の表に基づく視点です。この場合、視点の INSERT、DELETE、UPDATE はできません。

ユーザーの処置: 指定した表または視点の名前が正しいかどうかを確認してください。

SQLCODE: -00149 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31150

メッセージ: この視点の中のデータを変更することはできません。

説明: INSERT、UPDATE、または DELETE を次のような視点に使用できません。

1. 複数の表をもととしているもの。
2. 式または組み込み関数によって定義された列を含む視点。例: UNITS*PRICE, AVG(SALARY)
3. DISTINCT または GROUP BY を使用する SELECT ステートメントによって定義されたもの。
4. 参照表にすべての非 NULL 可能列を含まないもの。

ユーザーの処置: 視点の作成に使われた各表を変更するために、それぞれ異なる照会を書いてください。

SQLCODE: -00150 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31151

メッセージ: この視点の中のデータを変更することはできません。

説明: INSERT、UPDATE、または DELETE を次のような視点に使用できません。

1. 複数の表をもととしているもの。
2. 式または組み込み関数によって定義された列を含む視点。例: UNITS*PRICE, AVG(SALARY)
3. DISTINCT または GROUP BY を使用する SELECT ステートメントによって定義されたもの。
4. 参照表にすべての非 NULL 可能列を含まないもの。

ユーザーの処置: 視点の作成に使われた各表を変更するために、それぞれ異なる照会を書いてください。

SQLCODE: -00151 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31152 - DSQ31156

メッセージ: 視点の定義または使用法が無効です。

説明: この操作は、次の規則のいずれかに違反しています。

- UNIONで視点を定義することはできません。
- 視点が、複数の表からのデータ、DISTINCT または GROUP BY によって選択されたデータを使用している場合は、挿入、更新、削除はできません。
- 式 (SALARY/12 など) または組み込み関数 (AVG(SALARY) など) で定義された列を、挿入または更新することはできません (ただし削除は可能)。
- 視点の 2 つの列が表の同じ列に基づいている場合、またはその視点が、NOT NULL として定義されている表の列を使用していない場合には、挿入はできません。

ユーザーの処置: コマンドを視点の規則に照らし、再度入力してください。

SQLCODE: -00152 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31157 - DSQ31163

メッセージ: DSQ31104 を参照してください。

DSQ31164

メッセージ: DBCS 定数が無効です。

説明: 照会の中に、"DBCS 定数" すなわち G'、N'、または X' で始まる漢字リテラルが含まれています。

文字定数を使いたい場合には、定数全体を単一引用符で囲んでください。

DBCS 定数を使いたい場合には、次の形式で使うようにしてください。

G'<aabcc>' または N'<aabcc>'

< および > は、シフトアウト (SO) およびシフトイン (SI) を表しています。SO と SI のあいだの文字数は偶数でなければなりません。

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00164 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: Table Edit

DSQ31165

メッセージ: DSQ31104 を参照してください。

DSQ31166

メッセージ: DBCS 定数が無効です。

説明: 照会の中に、“DBCS 定数” すなわち G'、N'、または X' で始まる漢字リテラルが含まれています。

文字定数を使いたい場合には、定数全体を単一引用符で囲んでください。

DBCS 定数を使いたい場合には、次の形式で使うようにしてください。

G'<aabbcc>' または N'<aabbcc>'

< および > は、シフトアウト (SO) およびシフトイン (SI) を表しています。SO と SI のあいだの文字数は偶数でなければなりません。

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00166 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: Table Edit

DSQ31167, DSQ31168

メッセージ: DSQ31104 を参照してください。

DSQ31169, DSQ31170

メッセージ: DBCS 定数が無効です。

説明: 照会の中に、“DBCS 定数” すなわち

G'、N'、または X' で始まる漢字リテラルが含まれています。

文字定数を使いたい場合には、定数全体を単一引用符で囲んでください。

DBCS 定数を使いたい場合には、次の形式で使うようにしてください。

G'<aabbcc>' または N'<aabbcc>'

< および > は、シフトアウト (SO) およびシフトイン (SI) を表しています。SO と SI のあいだの文字数は偶数でなければなりません。

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00169 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: Table Edit

DSQ31171 - DSQ31179

メッセージ: DSQ31104 を参照してください。

DSQ31180

メッセージ: 日付時刻の値の構文が無効です。

説明: 有効な日付を表すストリングは、次のいずれかの形式です。

'mm/dd/yyyy' 'dd.mm.yyyy' 'yyyy-mm-dd'
または LOCAL 形式

有効な時刻を表すストリングは、次のいずれかの形式です。

'mm/dd/yyyy' 'dd.mm.yyyy' 'yyyy-mm-dd'
または LOCAL 形式

有効なタイム・スタンプを表現するストリングは、次の形式です。

'yyyy-mm-dd-hh.mm.ss.nnnnnn'

ユーザーの処置: 日時値の構文を変更して、再度その照会を実行してください。

SQLCODE: -00180 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: Table Edit

DSQ31181

メッセージ: 日時の値が無効です。

説明: 日時値を表すストリングの値が、範囲外にあります。日時値の正しい範囲は次のとおりです。

年 - 1 から 9999
月 - 1 から 12
日 - 1 から 31
時 - 0 から 24
分 - 0 から 59
秒 - 0 から 59

ユーザーの処置: 日時の値を訂正して、再度照会し直してください。

SQLCODE: -00181 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: Table Edit

DSQ31182 - DSQ31190

メッセージ: DSQ31104 を参照してください。

DSQ31191

メッセージ: 混合データが、不適切な DBCS データの値で構成されています。

説明: 混合データで X'OE' (シフトアウト) または X'OF' (シフトイン) が抜けているか、またはそこに DBCS 文字の 1 バイト分が含まれていません。

理由コードが &V1 の、このエラーの詳細説明は、「DB2 サーバー (VSE 版) メッセージおよびコード」または「DB2 サーバー (VM 版) メッセージおよびコード」を参照してください。

ユーザーの処置: 参照したデータの値が正しいことを確認してください。正しくない場合は、必要な変更を行ってから照会を再実行してください。

SQLCODE: -00191 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: Table Edit

DSQ31192 - DSQ31329

メッセージ: DSQ31104 を参照してください。

DSQ31330

メッセージ: 1 つまたは複数の文字が現行サーバーによって使用可能なコードに変換されませんでした。

説明: SQL ステートメントはアプリケーション・サーバーに適合するコードに変換されるべき文字ストリングを参照しましたが、データ表示の誤った組み合わせが原因で参照できません。文字ストリングが対応する列のデータ・タイプと互換性がありません。したがって、指定された文字ストリングを使用できません。

ユーザーの処置: 文字列および参照した値が正しいかどうか検査してください。誤りがあれば、必要な変更を行い、再度照会を試みてください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00330 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: Table Edit

DSQ31331

メッセージ: DSQ31104 を参照してください。

DSQ31332

メッセージ: 互換性のない CCSID によって文字ストリングは変換されませんでした。

説明: SQL ステートメントは現行文字セットと違ったコード化文字セットの中にあるコード化文字セット ID(CCSID) &V1 を持つ文字ストリングを参照しました。現行サーバーでこの文字ストリングを使用するには、ソース CCSID &V1 からターゲット CCSID &V2 に変換されなければなりません。しかし、この CCSID の対の変換ルールは SYSSTRINGS システム表に定義されていません。したがって、データベース・システムは文字ストリングをアプリケーション・サーバーに適合するコードに変換できません。

理由コードが &V3 の、このエラーの詳細説明は、「DB2 サーバー (VSE 版) メッセージおよびコード」または「DB2 サーバー (VM 版) メッセージおよびコード」を参照してください。この変換エラーが起こりうる原因は、次のとおりです。

- SQL ステートメントは MIXED サブタイプのように定義されましたが、MIXED CCSID はアプリケーションの要求側によって指定されていない。
- 図形または混合データは、SQL ステートメントで使用され、現行サーバーで DBCS オプションまたは要求側が NO とセットされている。

ユーザーの処置: 参照した文字列と値が正しいかどうか検査してください。誤りがあれば必要な変更を行い、照会を再実行してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00332 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: Table Edit

DSQ31333 - DSQ31350

メッセージ: DSQ31104 を参照してください。

DSQ31351

メッセージ: 位置 &V1. のデータ・タイプが無効です。

説明: アプリケーション・リクエスターによりサポートされない SQL データ・タイプがあります。&V1 は、無効なデータ・タイプを持つ SQLDA の最初のエレメントです。このエラーの一般的な原因として、アプリケーション・リクエスターがアプリケーション・サーバーにあるラージ・オブジェクト・データを記述しようとしたことが考えられます。このエラーの原因となる SQLTYPE には、LOB、BLOB、CLOB および DBLOB があります。

ユーザーの処置: 無効なデータ・タイプを除去し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00351 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: Table Edit

DSQ31352 - DSQ31403

メッセージ: DSQ31104 を参照してください。

DSQ31404

メッセージ: 長すぎて該当の列に収まらない文字値があります。

説明: 挿入しようとしている値の 1 つが、それを入れる列の桁数を超えています。

ユーザーの処置: その列に収まるように値を変更して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00404 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: Table Edit

DSQ31405

メッセージ: 数値が、列に使用できる値の範囲外にあります。

説明: 照会に指定されている値が、関連する列に使用可能な値の範囲内にありません。値は、式の結果としての値の場合もあります。

適切な SQL の値の範囲は次のとおりです。

FLOAT -7.2E75 から -5.4E-79, 0,
5.4E-79 から 7.2E75
INTEGER -2147483648 から 2147483647
SMALLINT ... -32768 から 32767
DECIMAL 範囲は列の精度と位取りによって決まります。たとえば、精度 = 5、位取り = 2 で定義された 10 進数の列に指定される場合、その値は、-999.99 から 999.99 です。

ユーザーの処置: 許容範囲内の値を指定してください。入力先の列を間違えていないのかも確かめてください。

SQLCODE: -00405 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: Table Edit

DSQ31406

メッセージ: 数値が、列に使用できる値の範囲外にあります。

説明: 照会に指定されている値が、関連する列に使用可能な値の範囲内にありません。値は、式の結果としての値の場合もあります。

適切な SQL の値の範囲は次のとおりです。

```
FLOAT ..... -7.2E75 から -5.4E-79, 0,
              5.4E-79 から 7.2E75
INTEGER .... -2147483648 から 2147483647
SMALLINT ... -32768 から 32767
DECIMAL .... 範囲は列の精度と位取りによって
              決まります。たとえば、精度 = 5、
              位取り = 2 で定義された 10 進数の
              列に指定される場合、
              その値は、-999.99 から 999.99
              です。
```

ユーザーの処置: 許容範囲内の値を指定してください。入力先の列を間違えていないかどうか確かめてください。

SQLCODE: -00406 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31407

メッセージ: NOT NULL の列をヌル値で更新することはできません。

説明: 更新しようとしている列には NULL の許されないものがありますが、その列をヌル値で更新しようとしています。そのヌル値は副照会から生じた可能性があります。

ユーザーの処置: 無効なヌル値を照会から取り除いて、それを再実行してください。

SQLCODE: -00407 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31408

メッセージ: 副照会から、適合性のないタイプのデータが返されました。

説明: 更新または挿入のために使用された副照会

からの値が、対応する列に適合しません。副照会からの値とそれに対応する列は、いずれも同じデータ・タイプを備えていなければなりません。たとえば、数値列を更新するためには、副照会の中で数値だけを選択しなければなりません。

ユーザーの処置: 副照会を訂正して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00408 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31409

メッセージ: DSQ31104 を参照してください。

DSQ31410

メッセージ: &V1 は、有効な数値ではありません。

説明: 照会が、&V1 を数値フィールドに割り当てようとしたが、31 桁以上の浮動小数点数であるか、または数値以外の文字を含む値でした。

ユーザーの処置: &V1 を訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00410 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31411, DSQ31412

メッセージ: DSQ31104 を参照してください。

DSQ31413

メッセージ: データ・タイプの変換中に算術オーバーフローが生じました。

説明: 算術オーバーフローが生じたために、算術演算または挿入演算の結果は無効です。たとえば、INTEGER のデータ・タイプを持つ値を SMALLINT のデータ・タイプの列に挿入しようとした可能性があります。INTEGER の値が十分に小さいものであれば変換を正常に行うことがで

きます。しかし、32767 を超える値は、算術オーバーフローを招く結果となります。

ユーザーの処置: 演算を訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00413 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31414

メッセージ: LIKE は文字またはグラフィック・データを指定しますが、この列は数字または日時のデータです。

説明: たとえば、LIKE '1%'または LIKE '%12.40.25' のような形式で指定されていました。ここで、LIKE は部分値をある列の値と比較しています。その列は数字または日時のデータ・タイプですが、LIKE では文字またはグラフィック・データを指定する必要があります。

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。数字データの場合、"n >= 1000 and n < 2000" のような数字比較を使用してください。

SQLCODE: -00414 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31415 - DSQ31510

メッセージ: DSQ31104 を参照してください。

DSQ31511

メッセージ: この視点の中のデータを変更することはできません。

説明: INSERT、UPDATE、または DELETE を次のような視点に使用できません。

1. 複数の表をもととしているもの。
2. 式または組み込み関数によって定義された列を含む視点。例: UNITS*PRICE, AVG(SALARY)

3. DISTINCT または GROUP BY を使用する SELECT ステートメントによって定義されたもの。

4. 参照表にすべての非 NULL 可能列を含まないもの。

ユーザーの処置: 視点の作成に使われた各表を変更するために、それぞれ異なる照会を書いてください。

SQLCODE: -00511 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31512 - DSQ31529

メッセージ: DSQ31104 を参照してください。

DSQ31530

メッセージ: 外部キーの値が無効です。

説明: 更新または挿入照会で、外部キーの値を指定しました。しかし、その値は、親表の基本キーの値のいずれにも等しくありません。

データベースに外部キーの参照制約がある場合は、名前は次のようになります。 &V1.&V2.

ユーザーの処置: 基本キーの値のどれかに一致する外部キーの値を使用してください。

SQLCODE: -00530 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31531

メッセージ: DSQ31104 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ31532

メッセージ: 従属行のため、行の更新または削除はできません。

説明: 親行を更新または削除しようとしたが、親行が従属行をもっているか、または

RESTRICT 規則を使用して制限された従属行にカスケードしているため失敗しました。

データベースに外部キーの参照制約がある場合は、名前は次のようになります。 &V1.&V2.

ユーザーの処置: 行の選択が、正しかったことを確かめてください。正しかった場合には、RESTRICT が指定された従属行を更新または削除してください。その次に、親の行を更新または削除してください。

SQLCODE: -00532 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31533 - DSQ31549

メッセージ: DSQ31104 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ31550

メッセージ: 所有者を "SYSTEM" とする &V1 の作成はできません。

説明: たとえば、次のようなステートメントの入った照会を実行することはできません。

```
CREATE TABLE SYSTEM.&V1 .....
```

ユーザーの処置: この操作は行わないようにしてください。

SQLCODE: -00550 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31551

メッセージ: これを行う権限がありません。

説明: 行う内容によって次の権限が必要です。

1. 追加モードでは表または視点の編集に SELECT および INSERT の権限が必須です。
2. 検索モードでは表または視点の編集の SELECT 権限が必須です。

3. 更新モードでは表または視点に SELECT 権限が必須です。

- 表の少なくとも 1 つの列に対する UPDATE 権限 (行の変更のため)
- DELETE 権限 (行の削除のため)

4. 読み取り専用の視点では行の追加、変更または削除はできません。しかし、行の探索、または表示ができます。

ユーザーの処置: 必要な権限を得るには QMF 管理者に相談してください。

SQLCODE: -00551 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31552

メッセージ: 指定されたオブジェクトが存在しないか、または必要な権限がありません。

説明: 指定されたオブジェクトが存在しないか、または読み取り専用の視点か、または次のような必要とされる権限がありません。

1. 他のユーザーの表または視点から選択する SELECT 権限。
2. 他のユーザーの表または視点に対する INSERT、UPDATE、DELETE または ALTER 権限。 INDEX 権限は、索引を作成するのに必要とされます。
3. 他のユーザーの表または視点に対する権限を付与する (WITH GRANT オプションを用いる) GRANT 権限。
4. FOREIGN KEY または、DROP FOREIGN KEY の実行、または DROP PRIMARY KEY の操作の ALTER 権限。
5. 表の作成、データの保管、または、データベース内のスペースの予約に必要な特定の権限。

ユーザーの処置: 既存のオブジェクトの名前を誤って指定した場合には、正しい名前を使ってください。必要な権限がない場合には、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00552 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31553

メッセージ: DSQ31104 を参照してください。

DSQ31554

メッセージ: DSQ30554 を参照してください。

DSQ31555

メッセージ: 自分自身が保有している特権を取り消すことはできません。

説明: あるユーザーが持っている特権を取り消すことができるのは、所定の権限を持つ別のユーザーだけです。ただし、SQLRULES(STD) が有効であるか、または CURRENT RULES に STD が含まれている場合は、自分自身への GRANT が可能です。

ユーザーの処置: 自分の持つデータベース特権のいずれかを削減したい場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00555 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31556

メッセージ: この特権を &V1. から取り消すことはできません。

説明: 取り消そうとしている特権を &V1 が持っていないか、または、その特権を付与したユーザーの許可識別名がユーザー自身のものではありません。取り消すことのできる特権は、ユーザー自身の許可識別名のもとに付与されている特権だけです。

ユーザーの処置: 別の操作に移ってください。

SQLCODE: -00556 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31557

メッセージ: この組み合わせの特権を付与または取り消すことはできません。

説明: 同一ステートメントの中で、両立しない 2 つの権限を同時に付与または取り消そうとしています。

ユーザーの処置: GRANT または REVOKE ステートメントを、それぞれ独立したいくつかのステートメントに分けてから、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00557 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31558

メッセージ: DBA から「特殊」特権を取り消すことはできません。

説明: ユーザーは、DBA 権限を持つユーザーから、RESOURCE などの「特殊」特権を取り消すことはできません。

ユーザーの処置: この操作は行わないようにしてください。

SQLCODE: -00558 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31559, DSQ31560

メッセージ: DSQ31104 を参照してください。

DSQ31561

メッセージ: CONNECT 権限がなければデータベースを使用できません。

説明: データベースを使用するためには CONNECT 権限が必要です。このセッションですでにデータベースを使用している場合は、実行中に他のユーザーによって CONNECT 権限が取り消された可能性があります。

ユーザーの処置: QMF 管理者に問題を報告してください。

SQLCODE: -00561 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31562, DSQ31563

メッセージ: DSQ31104 を参照してください。

DSQ31564

メッセージ: ステートメントが無効なユーザー ID を参照しています。

説明: SQL のユーザー ID は、英字で始まっていて、8 文字以内の英字または数字で構成されていなければなりません。途中でブランクを入れたり、特殊文字を用いたりすることはできません。

PUBLIC と SYSTEM のユーザー ID は、特定の限定された文脈でしか使用できません。

特に、PUBLIC または SYSTEM から、特殊な特権 (CONNECT、DBA、および RESOURCE) を付与したり取り消したりすることはできません。

ユーザーの処置: 指定されているユーザー ID を変更できなければ、この操作を実行しないでください。

SQLCODE: -00564 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31565 - DSQ31600

メッセージ: DSQ31104 を参照してください。

DSQ31601

メッセージ: 作成しようとしているオブジェクトの名前がすでに存在しています。

説明: 作成または獲得しようとしているオブジェクトの名前が、既存の項目の名前と同じです。

ユーザーの処置: 名前を、データベースに存在し

ない名前に変更して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00601 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31602

メッセージ: DSQ30602 を参照してください。

DSQ31603

メッセージ: DSQ31104 を参照してください。

DSQ31604

メッセージ: 許容最大幅を超えている定数を使用しました。

説明: 定数を使用しましたが、その幅が次のいずれかを超えています。エラーの原因は次のとおりです。

- DECIMAL 定数の幅が 15 を超えているか、または小数点桁数がその幅を超えています。
- CHAR、FLOAT、GRAPHIC、VARCHAR、または VARGRAPHIC 定数の長さがデータ・タイプの限界を超えています。

ユーザーの処置: 定数指定を変更し、データ・タイプの限界を調整して、照会をもう一度実行してください。データ・タイプの制限についての詳細な説明は、使用しているデータベース管理システム用の SQL 解説書を参照してください。

SQLCODE: -00604 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31605

メッセージ: DSQ31104 を参照してください。

DSQ31606

メッセージ: 指定の表または列が存在しないか、他のユーザーが所有しています。

説明: COMMENT ON ステートメントまたは、LABEL ステートメントで指定されている表または列が、存在していないか、または他のユーザーにより所有されています。これらのステートメントは、自分が作成した表だけに使用することができます。ただし、DBA 権限があれば、他のユーザーの表に対して COMMENT ON または、LABEL ON を指定できます。

ユーザーの処置: 別の操作を続けてください。

SQLCODE: -00606 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31607

メッセージ: この DBSPACE にはこれ以上表を追加できません。

説明: DBSPACE 当たりの表の最大数は 255 です。

ユーザーの処置: 別の DBSPACE に表を作成するか、指定した DBSPACE の表を除去して、スペースを解放してください。

SQLCODE: -00607 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31608

メッセージ: DBSPACE が見つかりません。

説明: DBSPACE とともに IN を使用した場合には次のいずれかが原因です。

1. 該当する DBSPACE が存在しない。
2. DBSPACE を使用する権限がない。
3. DBSPACE がいっぱいである。

IN を使用しなかった場合には、次のいずれかが原因です。

1. デフォルトの DBSPACE がない。
2. デフォルトの DBSPACE がいっぱいである。

ユーザーの処置: 使用することのできる

DBSPACE の名前を入力して、SQL 照会を再実行してください。

SQLCODE: -00608 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31609

メッセージ: システム DBSPACE を変更することはできません。

説明: どのようなユーザーも、システム DBSPACE を変更することはできません。この記憶域の中にある情報は、システムの操作にとって重要なものばかりであり、したがってユーザーが変更することはできません。

ユーザーの処置: この操作は行わないようにしてください。

SQLCODE: -00609 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31610

メッセージ: 指定した DBSPACE に表を作成することはできません。

説明: 他のユーザーまたはシステムが所有する DBSPACE に表を作成するには、そのために必要な権限を持っていないければなりません。

ユーザーの処置: 別の DBSPACE を用いて表を作成してください。他のユーザーまたはシステムが所有する DBSPACE の使用権が必要ならば、該当の手続きに従ってください。

SQLCODE: -00610 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31611 - DSQ31639

メッセージ: DSQ31104 を参照してください。

DSQ31640

メッセージ: グラフィックと混合データ・タイプは現行サーバーによってサポートされていません。

説明: SQL ステートメントはその文節またはスカラー関数 &V1 を参照しましたが、現行サーバーがそれをサポートしていませんでした。

これは、次のいずれかによります。

- ALTER または CREATE TABLE ステートメントは FOR MIXED DATA 文節を指定し、現行サーバーのデフォルトの混合 CCSID はゼロであった。
- ALTER または CREATE TABLE ステートメントは GRAPHIC データ・タイプを指定し、現行サーバーのデフォルトの図形 CCSID はゼロであった。
- SQL ステートメントは VARGRAPHIC スカラー関数を指定し、現行サーバーのデフォルトの図形 CCSID はゼロであった。

ユーザーの処置: 混合、グラフィックおよび VARGRAPHIC データ・タイプをサポートしているサーバーで SQL ステートメントを出してください。これらのデータ・タイプが現行サーバーに使用されている場合、そのシステムのデフォルト CCSID をリセットするよう、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00640 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: Table Edit

DSQ31641 - DSQ31648

メッセージ: DSQ31104 を参照してください。

DSQ31649 - DSQ31700

メッセージ: 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: コンピューターは内部的な SQL エラーを

検出しました。パネルの下部にエラー・コードが表示されます。

ユーザーの処置: インストール先の手続きにしたがってエラーを報告し、コマンドが正しく実行されているか検査してください。QMF は継続して使用できます。

DSQ31701

メッセージ: DBSPACE のデータのために割り振られているスペースがいっぱいです。

説明: DBSPACE にデータのための十分なスペースがないので、この照会は実行されません。

ユーザーの処置: 表を作成しようとしている場合には、別の DBSPACE を指定してください。その他の場合には、QMF 管理者の指示にしたがってデータ・スペースを大きくして、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00701 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: Table Edit

DSQ31702 - DSQ31708

メッセージ: DSQ31649 を参照してください。

DSQ31709

メッセージ: この DBSPACE にはシステム・カタログ表が入っています。

説明: どのユーザーも、システム・カタログ表の入った DBSPACE を除去することはできません。

ユーザーの処置: この DBSPACE を除去しようとしないでください。

SQLCODE: -00709 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: Table Edit

DSQ31710

メッセージ: この照会に必要な私用 DBSPACE は使用中です。

説明: 1 つの私用 DBSPACE を、同時に複数のユーザーがアクセスすることはできません。照会の中で要求されている表は、現在使用中の私用 DBSPACE に入っています。

ユーザーの処置: 私用 DBSPACE が使用可能になってから、照会を実行しなおしてください。

SQLCODE: -00710 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31711

メッセージ: DSQ31649 を参照してください。

DSQ31712

メッセージ: INTERNAL DBSPACE に照会を実行するだけの余地がありません。

説明: QMF が十分な数または十分な大きさの INTERNAL DBSPACE を獲得することができませんでした。照会を簡素化するか、またはそれを 2 つ以上の照会に分割してください。

ユーザーの処置: QMF のためにもっと多くの INTERNAL DBSPACE を確保するよう、QMF 管理者に要求してください。

SQLCODE: -00712 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31713 - DSQ31800

メッセージ: DSQ31649 を参照してください。

DSQ31801

メッセージ: SQL ステートメントの算術演算が、エラーに終わりました。

説明: 視点を使用しようとしたが、視点定義

の副選択文節中にある算術演算がエラーに終わりました。例外タイプは &V1、演算タイプは &V2、データ・タイプは &V3 です。

ユーザーの処置: 視点の所有者に連絡して、算術演算と視点の副選択文節列を調べてもらい、どのデータが問題を引き起こしたか判別してください。

SQLCODE: -00801 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31802

メッセージ: DSQ31649 を参照してください。

DSQ31803

メッセージ: 固有索引列の中に重複値がありません。

説明: 新たな値を挿入しようとしている、または新たな値で更新しようとしている列の 1 つに、その値と同じ値がすでに入っています。その列は、固有索引列です。固有索引列は重複値をとることはできません。

ユーザーの処置: 既存の値と重複することのないように、新たな値を変更してください。そして、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00803 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31804

メッセージ: DSQ31649 を参照してください。

DSQ31805

メッセージ: パッケージ &V1 が、カタログ表に見つかりません。

説明: DB2 サーバー (VSE および VM 版) が、QMF プログラムを実行しようとした際に、カタログ表 SYSTEM.SYSACCESS 中でパッケージを

見つけることができませんでした。これは次の原因で起こります。

- QMF プログラムが、正しくプリプロセスされていなかった。
- QMF が、接続先のロケーションでインストールされていないかった。

ユーザーの処置: このエラーの詳細説明は、「DB2 サーバー (VSE 版) メッセージおよびコード」または「DB2 サーバー (VM 版) メッセージおよびコード」を参照してください。また、この問題を QMF 管理者に報告してください。

SQLCODE: -00805 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31806, DSQ31807

メッセージ: DSQ31649 を参照してください。

DSQ31808

メッセージ: システム・カタログを変更する権限がありません。

説明: 権限を付与されていないければ、システム・カタログを変更することはできません。照会または DISPLAY コマンドを用いてシステム・カタログの読み取りおよびデータの検索を行うことはできます。

ユーザーの処置: 権限が必要であれば、QMF 管理者の手続きに従ってください。

SQLCODE: -00808 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31809

メッセージ: 行が長すぎます。

説明: この挿入または更新操作を行うと、許容長より長い行が作成されます。LONG VARCHAR 列または LONG VARGRAPHIC 列がないかぎり、最大長は 4070 桁です。

ユーザーの処置: もっと短い行が作成されるよう

に照会を変更し、それを再実行してください。

SQLCODE: -00809 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31810 - DSQ31812

メッセージ: DSQ31649 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ31813

メッセージ: 視点のロックはできません。

説明: LOCK は、表または DBSPACE のロックの場合にかぎり使用できます。視点は表として保管されるものではなく、したがってこれをロックすることはできません。

ユーザーの処置: 視点を形成する 1 つまたは複数の表をロックすることはできます。

SQLCODE: -00813 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31814

メッセージ: システム・カタログ表やシステム DBSPACE はロックできません。

説明: LOCK ステートメントで、システム・カタログ、または、システム・カタログ表の入った DBSPACE をロックしようとしています。権限に関係なく、どのようなユーザーもこれらの項目をロックすることはできません。

ユーザーの処置: システム・カタログの排他的アクセスが必要なのであれば、QMF 管理者に連絡して、データベースの排他使用を要求してください。アクティブな他のユーザーが存在しない場合には、LOCK は不要です。

SQLCODE: -00814 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31815

メッセージ: アカウンティング・ユーザー出口ルーチンによって接続が拒否されました。

説明: DB2 サーバー (VSE および VM 版) への接続要求は、インストール先システムのアカウンティング・ユーザー出口ルーチンによって拒否されました。

ユーザーの処置: QMF 管理者に相談してください。

SQLCODE: -00815 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31816 - DSQ31822

メッセージ: DSQ31649 を参照してください。

DSQ31823

メッセージ: システム・カタログに対しこの操作は実行できません。

説明: 要求でシステム・カタログを指定しました。ユーザーはシステム・カタログから削除したり、1 次または外部キーをシステム・カタログに追加したり、システム・カタログを外部キーの親として参照することはできません。

ユーザーの処置: データベースからオブジェクト "NAME1" を除去する場合、ERASE NAME1 コマンドを入力してください。

SQLCODE: -00823 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31824 - DSQ31910

メッセージ: DSQ31649 を参照してください。

DSQ31911 - DSQ31912

メッセージ: データベースに行った変更は失われました。

説明: 過度のロック、またはロックの競合によって、データベース・マネージャーはデータベースの更新を取り消しました。編集していた表の追加、更新または削除は失効されました。

ユーザーの処置: 表編集セッションを終了し、最後の変更を再度行ってください。

SQLCODE: -00911 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31913

メッセージ: DSQ31649 を参照してください。

DSQ31914

メッセージ: データベースに行った変更は失われました。

説明: 取り消し要求が出されました。CANCEL は、ユーザーあるいはシステムによって出された可能性があります。システムによって出された CANCEL はロック要求ブロックの限界に達したためです。

ユーザーの処置: 必要であれば変更を再実行してください。CANCEL 要求を出していないのに SQLCODE -914 を受け取り続ける場合は、システム・プログラマーに連絡して、アプリケーション・サーバーが開始するときの NLRBU または NLRBS パラメーターを大きくするようにしてください。

SQLCODE: -00914 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31915

メッセージ: DSQ31911 を参照してください。

DSQ31916

メッセージ: オペレーターの処置が原因で照会は処理されませんでした。

説明: システム・オペレーターが照会の処理を中

断しました。照会にはエラーはありません。

ユーザーの処置: その後照会を実行してください。

SQLCODE: -00916 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: Table Edit

DSQ31917 - DSQ31929

メッセージ: DSQ31649 を参照してください。

DSQ31930

メッセージ: DSQ30930 を参照してください。

DSQ31931, DSQ31932

メッセージ: DSQ31649 を参照してください。

DSQ31933

メッセージ: &V1 への通信経路が使用できません。

説明: 以下のいずれかの理由で、データベース &V1 をアクセスできません。

- データベースが停止されています。
- DB2 サーバー (VSE および VM 版) 仮想計算機に許された最大接続数 (MAXCONN) を超えています。
- DB2 サーバー (VSE および VM 版) システム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: データベース名 &V1. が正しいか確認してください。正しくない場合は、データベース名を訂正して、要求を再試行してください。

DB2 サーバー (VSE および VM 版) 仮想計算機に許される接続数の制限は DB2 サーバー (VSE および VM 版) 仮想計算機ディレクトリーの MAXCONN の値で設定されます。この制限を超えた場合、後でシステムのアクティビティーが少なくなるときの要求を実行してみてください。この条件が頻繁に起きる場合は、MAXCONN の値を増

やすよう QMF 管理者に連絡してください。

"CONNECT TO <ロケーション>" コマンドがサポートされていれば、QMF は現在のロケーションに再接続します。この場合 QMF の使用を継続できます。QMF が再接続できない場合は、接続喪失プロンプト・パネルで別のロケーションに接続するよう指示されます。

SQLCODE: -00933 **Database:** DB2 Server for VSE & VM

QMF Function: Table Edit

DSQ31934 - DSQ31938

メッセージ: DSQ31649 を参照してください。

DSQ31939

メッセージ: DSQ30930 を参照してください。

DSQ31940

メッセージ: データベース &V1 が作動可能でないか、または見つかりません。

説明: 下記のいずれかの理由により、このデータベースにはアクセスできません。

- データベースが開始されていない。
- データベース名 &V1 が DB2 サーバー (VSE および VM 版) アプリケーションの要求側に認識されていない。
- システム・エラーが発生しました。たとえば、AVS ゲートウェイとサーバーの LU 間に SNA セッションが開設されていないか、または中間通信サーバー (TSAF や AVS など) がアクティブではありません。
- アプリケーション・プログラムまたはアプリケーション・サーバーが異常終了した後に、VM システムにより COMDIR がアンロードされた。

ユーザーの処置: データベース名 &V1. が正しいか確認してください。正しくない場合は、データベース名を訂正して、要求を再試行してください。

"CONNECT TO <ロケーション>" コマンドがサポートされていれば、QMF は現在のロケーションに再接続します。この場合 QMF の使用を継続できます。QMF が再接続できない場合は、接続喪失プロンプト・パネルで別のロケーションに接続するよう指示されます。

SQLCODE: -00940 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31941

メッセージ: DSQ31649 を参照してください。

DSQ31942

メッセージ: DSQ30930 を参照してください。

DSQ31943

メッセージ: QMF 仮想計算機 &V2 はデータベース &V1. にアクセスできません。

説明: QMF 仮想計算機が正しく定義されていません。QMF 仮想計算機の A ディスクにあるファイル ARISRMBT MODULE に、QMF がアクセスしようとしているデータベース・プログラムが記述されていません。

ユーザーの処置: このメッセージが出たことを QMF 管理者に知らせ、その指示を待ってください。QMF 仮想計算機が正しく定義されるまでは、なにもすることはできません。

SQLCODE: -00943 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31944 - DSQ31946

メッセージ: DSQ31649 を参照してください。

DSQ31948

メッセージ: DB2 サーバー (VSE および VM 版) への接続は、オペレーターの処置のため切断されました。

説明: DB2 サーバー (VSE および VM 版) 仮想計算機のオペレーターが FORCE コマンドを入力したため、現行の作業論理単位の ROLLBACK を引き起こし、DB2 サーバー (VSE および VM 版) システムへの接続を切断しています。ユーザー ID、パスワード、データベース名はすべてデフォルト値にリセットされます。

ユーザーの処置: 継続できます。発行した明示的 CONNECT はすべて、失われました。元々の接続を再確立するには、同じユーザー ID を使用して、再度、明示的 CONNECT 要求を発行する必要があります。

SQLCODE: -00948 **Database:** DB2 Server for VSE & VM
QMF Function: Table Edit

DSQ31949 - DSQ31999

メッセージ: DSQ31649 を参照してください。

DSQ32001

メッセージ: SQL エラーが検出されました。

説明: このエラーの詳細な説明は、DB2/400 メッセージおよびコードを参照してください。

SQLCA は &V1. です。

DSQ32002

メッセージ: 関数の引き数が長すぎます。

説明: MIN または MAX 関数、あるいは COUNT 関数の引き数が長すぎます。MIN 列または MAX 列関数、あるいはスカラー関数の引き数は 256 バイトを超えることができません。引き数がグラフィックの場合、128 DBCS 文字を超えることはできません。DISTINCT の指定がある場合、COUNT 関数の引き数は 2000 バイトを超えることはできません。引き数がグラフィックの場合、DBCS の 1000 文字を超えることはできません。

ユーザーの処置: 長さが最大値を超えないように

関数の引き数を変更してください。要求を再試行してください。

DSQ32003

メッセージ: ORDER BY または GROUP BY 列が長すぎます。

説明: ORDER BY リストのエレメントの最大数は 10,000 です。ORDER BY エレメントの全体の合計の長さは 10,000 バイトを超えることはできません。GROUP BY リストの列の最大数は 120 です。GROUP BY 列の全体の合計の長さは 2,000 バイトを超えることはできません。

ORDER BY リスト、または GROUP BY リストにヌル値使用可能な列を含む場合、その各列ごとに 1 バイトの追加が必要になります。ORDER BY リスト、または GROUP BY リストが可変長文字の列を含む場合、さらに 2 バイトを全体の長さに組み込みます。

ユーザーの処置: ORDER BY または GROUP BY の値が制限を超えないようにステートメントを変更してください。そのためには、該当の文節から 1 つまたは複数の列名を除去する必要があります。要求を再試行してください。

DSQ32004

メッセージ: 制約 &V1 に対する制約タイプが無効です。除去しようと

説明: ALTER TABLE ステートメントを使用して、&V2. の制約 &V1. を除去しようとしてしました。UNIQUE、PRIMARY、または FOREIGN KEY として制約が指定されましたが、検出された制約と一致しません。

ユーザーの処置: 除去しようとしている制約の名前とタイプを検証してください。要求を再試行してください。

DSQ32005

メッセージ: FOREIGN KEY 文節では、&V2. の &V1. は無効です。

説明: CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントにおける FOREIGN KEY 参照制約の定義の REFERENCES 文節で &V2. の視点または表 &V1. が指定されました。視点および表は FOREIGN KEY 文節では指定することはできません。

ユーザーの処置: FOREIGN KEY 文節に、親キーを含む基礎表を指定してください。要求を再試行してください。

DSQ32006

メッセージ: ORDER BY 式が無効です。

説明: ORDER BY 文節の位置 &V1. の式が、理由コード &V3. により無効です。

- SELECT ステートメントが UNION を含む。
- SELECT 文節に DISTINCT が指定され、その式が選択リストの式と正確に一致していない。
- 選択リストで列関数を使用しているか、あるいは GROUP BY 文節があるが、式が列関数でないか、または選択リストの式と正確に一致していない。
- ORDER BY 文節の列関数をグループ化する必要がある。

ユーザーの処置: 理由 &V3. に対してリストされた変更を行って、要求を再試行してください。

- ORDER BY 文節から式を除去してください。
- SELECT 文節から DISTINCT を除去するか、あるいは数値列 ID または列名を使用して選択リスト項目を参照するように ORDER BY 式を変更してください。
- ORDER BY 文節の式を列関数に変更するか、数値列 ID または列名を使用するように変更してください。
- GROUP BY 文節を追加するか、ORDER BY 文節から列関数を除去してください。

DSQ32007, DSQ32008

メッセージ: DSQ32001 を参照してください。

DSQ32009

メッセージ: SELECT リストの列属性が統一されていません。

説明: UNION か UNION ALL で複数の照会を結合しました。その場合、各照会の SELECT リストには、同数の列がなければなりません。各 SELECT リストの対応する列はすべて、後続の SELECT のデータ定義と比較可能でなければなりません。対応する列にフィールド・プロシージャがあれば、両者は同じフィールド・プロシージャおよび CCSID 値をもたなければなりません。

ユーザーの処置: 照会を比較が可能な列の SELECT リストで書き直して、照会を再実行してください。

DSQ32010 - DSQ32014

メッセージ: DSQ32001 を参照してください。

DSQ32015

メッセージ: &V2. の参照制約 &V1. により、更新が防止されました。

説明: &V2. の制約 &V1. により、更新される表は、&V4. の従属表 &V3.との関連で親表として識別され、更新規則 RESTRICT または NO ACTION を用いて更新されるものとして識別されます。従属表に一致する値をもつ行が存在する場合、親キーの更新は防止されます。

ユーザーの処置: 更新を行うには、制約を除去するか、またはこの行に従属する従属表の行を削除してください。

DSQ32016

メッセージ: 制約 &V1. の FOREIGN キーが親キーと一致しません。

説明: &V2. の制約 &V1. の FOREIGN キーが、&V4. の表 &V3. の親キーと一致しません。FOREIGN キーは親キーと同じ数の列をもつ必要

があり、しかも FOREIGN のデータ・タイプと属性は、親キーの対応する列のデータ・タイプおよび属性と同一である必要があります。

ユーザーの処置: FOREIGN キーの記述が指定された親キーの記述と一致するようにステートメントを訂正してください。

DSQ32017

メッセージ: 表 &V1.&V2 には、基本キーがありません。

説明: FOREIGN KEY 文節で親表として表 &V1.&V2 を指定しましたが、この表は基本キーがないため、親表は定義できません。

ユーザーの処置: ALTER TABLE を使用し表に基本キーを定義してください。

DSQ32018

メッセージ: コマンドの実行に必要な権限がありません。

説明: &V2. のオブジェクト &V1. に対して操作を試みました。必要な権限がない場合、この操作は実行することができません。

ユーザーの処置: セキュリティー担当者またはオブジェクト所有者から必要な権限を入手してください。操作を再試行してください。

DSQ32019

メッセージ: &V2. の表または視点 &V1. に対する特権が無効です。

説明: 指定された特権は、次のいずれかの理由で無効です。

- INDEX 特権は表と物理ファイルに対して有効であるが、視点に対しては無効である。視点には索引を作成できない。
- &V2. の表または視点 &V1. に資格がないため、指定された特権は無効である。たとえば、DELETE、INSERT、および UPDATE 特権は読み取り専用の視点に対して無効である。

ユーザーの処置: 正当な資格をもつ表または視点を指定するか、または SQL ステートメントから無効な特権を除去してください。

DSQ32020

メッセージ: &V2. タイプ &V3. の &V1. はすでに存在しています。

説明: &V2. の &V1. を作成しようとしたか、あるいは表、視点または索引を &V1. にリネームしようとしたのですが、&V1. はすでに存在しています。同じライブラリーにある表、視点、索引、SQL パッケージ、および制約はすべて固有の名前をもつ必要があります。ライブラリー名が *N である場合、このエラーは CREATE COLLECTION ステートメントであり、これが CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントで、しかもタイプが *N の場合は、&V1. は制約です。

ユーザーの処置: &V1. を存在しない名前に変更するか、該当の既存のオブジェクトを削除、移動、またはリネームしてください。要求を再試行してください。

DSQ32021

メッセージ: &V2. のシステム・テーブル &V1. に対する操作は許されません。

説明: &V2. の表または視点 &V1. は、カタログまたはシステム・テーブルです。カタログおよびシステム・テーブルは、ユーザーによる変更またはロックを行うことはできません。

ユーザーの処置: システム・テーブルではない表を参照するように SQL ステートメントを変更してください。要求を再試行してください。

DSQ32022

メッセージ: &V2. のタイプ &V3. の &V1. を RESTRICT で除去することはできません。

説明: &V2. の &V1. を RESTRICT オプションを使用して除去しようとした。&V1. は、視

点、制約、または索引が従属しているため、除去できません。

ユーザーの処置: &V1. および従属している視点、制約、または索引を除去するには、ALTER TABLE ステートメントに CASCADE を指定してください。要求を再試行してください。

DSQ32023

メッセージ: &V2. の表 &V1. はすでに基本キーを持っています。

説明: &V2. の表 &V1. に基本キーまたは固有キーを追加しようとした。基本キーがすでにこの表に対して定義済みであるか、または追加しようとしているキーと一致しないアクセス・パスがあります。表は基本キーを 1 つだけ持つことができます。制約を追加できません。

ユーザーの処置: 表に現在定義されている基本キーを除去するか、または UNIQUE 制約を追加してください。表のアクセス・パスが一致しない場合、制約の列の数とアクセス・パスの列の数的一致しているかどうかを確認してください。要求を再試行してください。

DSQ32024

メッセージ: SET NULL は参照制約 &V1. に対して使用できません。

説明: REFERENCES 文節で、参照制約 &V1. に対して SET NULL が指定されました。外部キーの列にヌル値可能な列がありません。

ユーザーの処置: 外部キーの列の少なくとも 1 つの列がヌル値を許可するように表を作成するか、または ON DELETE 文節で別のデフォルト・アクションを指定してください。要求を再試行してください。

DSQ32025

メッセージ: &V2. の参照制約 &V1. に対する外部キーは長すぎます。

説明: &V2. の制約 &V1. に対する FOREIGN キーは作成できませんでした。 FOREIGN KEY 文節に 120 を超える列を指定したか、またはキーに指定された列の長さの合計が最大値の 2000 バイトを超えました。リストにヌル値使用可能な列が含まれる場合、その各列ごとに長さとして 1 バイトの追加が必要になります。リストに変長列が含まれる場合、さらに 2 バイトを全体の長さに組み込みます。

ユーザーの処置: FOREIGN KEY 文節からいくつかの列を除去してください。要求を再試行してください。

DSQ32026

メッセージ: 見積もりの照会処理時間 &V1. は制限 &V2. を超えています。

説明: 見積もりの照会処理時間は、制限を超えています。制限値は &V2. 秒です。SQL 照会を開始しようとしたが、稼働に必要な経過時間として見積もられた時間は、照会の時間制限属性により許可された時間を超えています。見積経過時間は &V1. 秒でした。

ユーザーの処置: 照会に対して以下の変更を行うことにより、見積経過時間を削減して照会時間制限内に収めることができます。

- 照会を変更して、より限定したレコード選択の指定を行うことにより、戻されるレコードの数を減らすようにする。
- 照会のレコード選択を変更し、既存のアクセス・パスを使用してレコードをより早く処理できるようにする。
- SQL CREATE INDEX ステートメントを使用して、照会のレコード選択に合ったキーを用いてアクセス・パスを作成する。
- 順序付け指定を変更して、一時的なアクセス・パスを構築する必要も、ソートを実行することもないようにする。
- フィールド指定のグループ化を変更して、左端のキー・フィールドが既存のアクセス・パスと一致するようにする。

- OPTIMIZE FOR NN ROWS 文節を指定する。ここで NN は照会が終了するまでに検索する実際のレコード数を表す。この文節により照会最適化プログラムは、照会が最後まで実行されない可能性を想定し、その結果として時間見積もりが削減されます。
- 照会の出力タイプを変更して、結果をディスプレイに表示する。
- ジョブ・ログに含まれる照会デバッグ・メッセージにより、パフォーマンス情報や推奨事項を調べる。これらのメッセージはジョブ・ログ中でこのエラー・メッセージに先行し、追加情報や推奨事項を示しています。

DSQ32027, DSQ32028

メッセージ: DSQ32001 を参照してください。

DSQ32029

メッセージ: コマンドが現行のプランに見つからないプログラムを呼び出しました。

説明: リモート要求が &V2. の SQL パッケージ &V1. の &V3. に対して出されました。該当の SQL パッケージは検出されませんでした。

ユーザーの処置: 呼び出しプロシーチャーを検査してください。PLANID のスペルを間違えて指定したものと思われる。

DSQ32030

メッセージ: リソースの限界を超えました。

説明: リソース限界タイプ &V1. を超えました。以下に限界タイプをリストします。

- タイプ 1 : ユーザー・プロフィール記憶域、またはマシン記憶域の限界を超えた。
- タイプ 2 : マシン・ロック限界を超えた。
- タイプ 3 : 照会リソース限界を超えた。
- タイプ 4 : ジャーナル・エラーが発生した。
- タイプ 5 : コミット・ロック限界を超えた。

- ・タイプ 6：表の最大サイズに達した。

ユーザーの処置：以下のいずれかを行ってください。

- ・エラー・タイプ 1 の場合、セキュリティー担当者に連絡して、ユーザー・プロファイル記憶域の限界を増やすか、またはいくつかのオブジェクトを削除して記憶域を解放して、要求を再試行する。
- ・エラー・タイプ 2 の場合、マシン・ロック保留の数が減ってから操作を試みる。
- ・エラー・タイプ 3、4、または 5 の場合、セキュリティー担当者に連絡してリソース限界を増やしてください。
- ・エラー・タイプ 6 の場合、この表からいくつかの行を他の表に移動する必要がある。

DSQ32031

メッセージ：&V2. タイプ &V3 の行またはオブジェクト &V1. は使用中です。

説明：要求された &V2. タイプ &V3. のオブジェクト &V1. は、他のアプリケーション・プロセスで使用するか、またはそのオブジェクトの行は、他のアプリケーション・プロセスで使用しています。

ユーザーの処置：後で再試行してください。

DSQ32032

メッセージ：このデータベースは 3 部分名をサポートしていません。

説明：指定された名前にはロケーション修飾子 "&V1" があります。使用中のデータベースはロケーション修飾子をサポートしていません。

ユーザーの処置：ロケーション修飾子 "&V1" を除去してコマンドを再試行してください。QMF 管理者に連絡して、正しいデータベースを使用していることを確認してください。

DSQ32033

メッセージ：オブジェクト &V2 のスキーマ &V1 が無効です。

説明：オブジェクト &V1 はスキーマ &V2 で修飾できません。一時表は SESSION または QTEMP で修飾しなければなりません。一時表の索引および視点は、スキーマ SESSION または QTEMP で作成する必要があります。次の SQLSTATE が戻されました: 42704。

ユーザーの処置：スキーマ名としてセッションを指定してください。要求を再試行してください。

DSQ32034

メッセージ：IDENTITY 列の値が無効です。

説明：IDENTITY 列のすべての値がすでに割り当てられていたため、INSERT または UPDATE ステートメントを実行できません。次の SQLSTATE が戻されました: 42704。

ユーザーの処置：より広範囲の値を IDENTITY 列に許可するように、または IDENTITY 値の循環を許可するように列を変更してください。

DSQ32035

メッセージ：DEFAULT は列 &V1 には指定できません。

説明：次のいずれかのイベントが発生します。

- ・ DEFAULT 文節が、CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの IDENTITY 列または ROWID 列に指定された。
- ・ GENERATED BY DEFAULT として定義された IDENTITY 列または ROWID 列に DEFAULT を割り当てる SQL トリガーで、SET ステートメントが指定されている。次の SQLSTATE が戻されました: 42704。

ユーザーの処置：列の定義から DEFAULT 文節を除去するか、DEFAULT の値を割り当てないよう

にSETステートメントを変更してください。要求を再試行してください。

DSQ32036

メッセージ: &V2 での関数 &V1 の使用は無効です。

説明: 次のいずれかのイベントが発生します。

- 表関数がFROM文節以外の文節に指定された。
- 関数がFROM文節に指定されたが、その関数が表関数ではない。
- 表関数がソース関数としてCREATE FUNCTIONステートメントに指定された。

次の SQLSTATE が戻されました: 42704。

ユーザーの処置: 文節から関数を除去するか、別の関数が見つかるように、関数名の引き数またはパスを変更してください。要求を再試行してください。

DSQ32037

メッセージ: ROWID 列 &V1 の値が無効です。

説明: ROWID 列 &V1 に指定された値が無効なため、INSERT または UPDATE ステートメントを実行できません。次の SQLSTATE が戻されました: 42704。

ユーザーの処置: 列 &V1 を列リストから除去するか、有効な ROWID の値または DEFAULT を列 &V1 に指定してください。

DSQ32038

メッセージ: ステートメントは &V1 TEMPORARY TABLE に対して無効です。

説明: &V1 TEMPORARY TABLE は ALTER TABLE、COMMENT ON、CREATE TRIGGER、GRANT、LAVEL ON、LOCK TABLE、RENAME、REVOKE ステートメントでは指定できません。&V1 TEMPORARY TABLE には制約を指定できません。次の SQLSTATE

が戻されました: 42704。

ユーザーの処置: ステートメントに有効な表を指定するか、制約を除去してください。要求を再試行してください。

DSQ32039

メッセージ: ROWID列のある表はQTEMPでは許可されていません。

説明: ROWID列のある表をQTEMP内に作成することはできません。次の SQLSTATE が戻されました: 42704。

ユーザーの処置: ROWID列を除去するか、QTEMP以外のスキーマに表を作成します。要求を再試行してください。

DSQ32040

メッセージ: 行の長さが3.5ギガバイトを超えます。

説明: INSERTまたはUPDATEステートメントへの入力に使用する値の長さのために、行の長さが最大長の3.5ギガバイトを超えます。次の SQLSTATE が戻されました: 42704。

ユーザーの処置: すべてのフィールド長の合計が3.5ギガバイトより小さくなるように、ステートメントを変更してください。

DSQ32041

メッセージ: 属性がIDENTITY列には無効です。

説明: この問題には以下の原因が考えられます。

- IDENTITY 列のデータ・タイプが INTEGER、BIGINT、SMALLINT、または DECIMAL ではないか、位取りがゼロの NUMERIC ではない。
- START WITH、INCREMENT BY、MINVALUE、またはMAXVALUEに指定された値が、IDENTITY列に指定されたデータ・タイプの範囲外にある。

- MINVALUEに指定された値がMAXVALUEに指定された値より大きい。
- CACHEに指定された値が無効。CACHEの最小値は2です。

次の SQLSTATE が戻されました: 42704。

ユーザーの処置: IDENTITY列に有効な属性を指定してください。要求を再試行してください。

DSQ33104

メッセージ: &V1. の使用法に誤りがあります。

説明: 次のことが考えられます。

1. + または * などの演算子がありません (たとえば、SALARY COMM 間の +)。
2. 2 つの演算子を連続して指定しています。 (たとえば、SALARY +* COMM)
3. 予約語を間違って使っています。
4. 左右の括弧の数が対応していません。
5. 演算子が識別できません。
6. DB2 以外のデータベース・システムでは有効であるが、DB2 では有効でないキーワードを使用している。

ユーザーの処置: 訂正して操作を続けてください。

DSQ33440

メッセージ: 互換性のある引き数を持つ名前 &V2 ごとの &V1 が見つかりませんでした。

説明: これは、DB2が参照をインプリメントする関数またはストアド・プロシージャを検出できないときに、ルーチン(ストアド・プロシージャまたは関数) &V2 の参照で発生します。これが発生するには、いくつかの理由があります。

- &V2 が正しく指定されていないか、またはデータベースにありません。
- 修飾参照が行われたが、修飾子のスペルが正しくない。

- ユーザーの現行パスに要求された関数が属するスキーマが含まれていないが、非修飾参照が使用された。
- 組み込まれた引き数の数が正しくありません。
- 引き数の1つ以上のデータ・タイプが関数に対して誤っている。
- ルーチン起動側がルーチンの実行を許可されていない。

次の SQLSTATE が戻されました: 42704。

ユーザーの処置: ステートメントを訂正し、再実行してください。

DSQ33557

メッセージ: 指定された組み合わせで特権を付与または取り消すことができません。

説明: 次のいずれかが起こりました。

- GRANT または REVOKE ステートメントに別のクラスの特権の組み合わせが含まれています。特権はすべて1つのクラスである必要があります。たとえば、DATABASE、PLAN または TABLE です。
- GRANT ステートメントが、許可されていない視点に特権を付与しようとしてしました。ALTER、INDEX および REFERENCES を視点に付与することはできません。

ユーザーの処置: ステートメントを訂正し、再実行してください。

DSQ33632

メッセージ: FOREIGN KEY &V1 は無効です。

説明: FOREIGN KEY &V1 は無効です。削除規則制限 (理由コード =&V3) のため、表を表 &V2 の従属表として定義することはできません。CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントのオブジェクト表を、以下のいずれかの理由コードで、表 &V2 の従属表として定義できないので、参照制約を定義することができません。

- (01) 関連自己参照および自己参照関連が、SET NULL 削除規則と一緒にすでに存在します。
- (02) 関連は、それ自身に削除接続される表を引き起こす複数の表のサイクルを形成します (サイクル内の他のすべての削除規則は CASCADE です)。
- (03) 関連は、複数の関連および既存の関連の削除規則が SET NULL であることにより、指示された表に削除接続される表を引き起こします。

既存関連の削除規則は、CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 文節で指定された削除規則ではなく、エラーを引き起こします。 &V1 は、CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 文節で指定された制約名です。

ユーザーの処置: CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの特定の FOREIGN KEY 文節を除去して、ステートメントを再度実行してください。

DSQ33633

メッセージ: FOREIGN KEY &V1 の削除規則は、&V2. です。

説明: CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 文節で指定された削除規則が無効です。理由コードは &V3 です。指示された削除規則は、以下のいずれかの理由コードで要求されています。

- (01) 参照制約は自己参照であり、既存の自己参照制約には指示された削除規則 (NO ACTION、RESTRICT または CASCADE) が含まれています。
- (02) 参照制約は自己参照で、表は CASCADE の削除規則の関連に従属します。
- (03) 関連は、複数の関連により同じ表に削除接続される表を引き起こし、それらの関連は同じ

削除規則 (NO ACTION、RESTRICT または CASCADE) である必要があります。

&V1 は、CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 文節で指定された制約名です。

ユーザーの処置: 削除規則を変更し、ステートメントを再度実行してください。

DSQ34104

メッセージ: DSQ33104 を参照してください。

DSQ34440

メッセージ: DSQ33440 を参照してください。

DSQ34557

メッセージ: DSQ33557 を参照してください。

DSQ34632

メッセージ: DSQ33632 を参照してください。

DSQ34633

メッセージ: DSQ33633 を参照してください。

DSQ35007

メッセージ: 照会の中の文字 "&V1" は無効です。

説明: 文字 "&V1" になんらかの誤りがあるために、照会の処理ができません。たとえば、使用位置に誤りがあるか、使用されている文脈では無効です。

ユーザーの処置: "&V1" を除去するか、またはそれを有効な文字に変更してください。

SQLCODE: -00007 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35010

メッセージ: 値の終わりには引用符が必要です。

説明: 文字定数は単一引用符で囲まなければなりません(たとえば 'SANDERS')、データベースのオブジェクトの名前(表や列など)は二重引用符で囲むことができます(たとえば "MYTABLE")。最後の引用符がないと定数や名前がどこで終わっているか判断できません。引用符を別の引用符で囲まれたストリング内で使用する場合、2つの連続する引用符で示さなければなりません。次に例を示します。

正: ... WHERE NAME = 'O'CONNOR'
誤: ... WHERE NAME = 'O'CONNOR'

ユーザーの処置: その値が文字定数または二重引用符で囲まれた名前の場合、その中に最終引用符または二重に引用符を追加してください。または、最初の引用符の除去をしてください。

SQLCODE: -00010 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35060

メッセージ: &V2. の値 &V1. は、無効です。

説明: 照会が、&V2. の正しくない &V1 指定のあるデータ・タイプを指定しています。&V1 は、データ・タイプが制限を超えてはならないことを指定しています。

ユーザー照会エラーの原因として次のことが考えられます。

- DECIMAL データ・タイプに対して指定された位取りまたは精度が、データ・タイプの限界を超えた。
- CHARACTER、FLOAT または GRAPHIC データ・タイプに対して指定された長さが、データ・タイプの限界を超えた。

ユーザーの処置: データ・タイプの限界内になるように、&V1 の指定を変更し、もう一度照会を実行してください。データ・タイプの制限についての詳細な説明は、使用しているデータベース

管理システム用の SQL 解説書を参照してください。

SQLCODE: -00060 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35084

メッセージ: このデータベース・マネージャーではそのステートメントは無効です。

説明: 実行しようとしているステートメントは、他のデータベース・マネージャーでは有効であったとしても、DB2 では無効です。DB2 で使用できない SQL ステートメントおよびオプションの詳細いリストは、「DB2 UDB for z/OS Reference Summary」に示されています。

ユーザーの処置: このデータベース・マネージャーを使用しているときは、DB2 のステートメントだけを使用してください。

SQLCODE: -00084 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35101

メッセージ: 照会が長すぎます。

説明: ステートメントが長すぎるか、または複雑すぎて、解釈することができません。副照会および相照会のネスティングが複雑すぎて、SQL 処理ができないことも考えられます。

ユーザーの処置: 照会を短くするか、または 2 つ以上の照会として書き直してください。この問題が続く場合、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00101 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35102

メッセージ: '&V3.' で始まる定数 &V1. は長過ぎます。

基準線: ==>&V2.

説明: 数は許可された最大値よりも大きくなって

います。文字定数は引用符で囲まなければなりません。引用符で囲むことを省略すると、データは最大長を超えてしまいます。通常、文字ストリングの長さは 254 文字または 2 バイト文字を使用している場合は、124 図形文字となります。CURRENT SQLID 値は 8 文字で CURRENT DEGREE 値は 3 文字になります。

ユーザーの処置: 定数を修正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00102 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35103

メッセージ: &V1 は無効な数値です。

説明: &V1 は数字で始まっています。しかし、有効な整数、10 進数、または浮動小数点数ではありません。指定する内容が、

1. 浮動小数点数なら、正または負の符号の次に "E" を付け、その次に指数を指定してください。
2. 文字定数の場合、単一引用符で囲みます。
3. 名前の場合、数字で始めてはなりません。別の名前を指定してください。

ユーザーの処置: &V1 を訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00103 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35104

メッセージ: &V1 または &V2. が間違っていて使われています。

説明: 次のことが考えられます。

1. + または * などの演算子がありません (たとえば、SALARY COMM 間の +)。
2. 2 つの演算子を連続して指定しています。 (たとえば、SALARY +* COMM)
3. 予約語を間違っていて使っています。
4. 左右の括弧の数が対応していません。

5. 演算子が識別できません。

6. 他のデータベース・システムに有効なキーワードを使用しましたが、DB2 には無効です。

ユーザーの処置: 訂正して操作を続けてください。

SQLCODE: -00104 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35105

メッセージ: ステートメントに無効なストリングが指定されています。

説明: ステートメントに無効なストリングが指定されています。有効なストリングは、文字ストリングと漢字ストリングのみです。

ユーザーの処置: 正しい形式のストリングを指定してください。グラフィック・データの場合は、ストリング内で区切り文字が対になっていること、文字G、バイト数が偶数であることを確認してください。

SQLCODE: -00105 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35107

メッセージ: '&V1' で始まる名前が &V2 文字を超えています。

説明: この名前がロケーションを指定する場合は、16 文字を超えないようにしてください。現在ご使用の、&LS. へのデータベース接続は、以下の長さをサポートします。

- QMF オブジェクト名には、最大 &LN. 文字まで指定できます。
- 記憶域グループ、バッファ・プール、データベース、表スペース、表、索引、ビュー、別名、および同義語のデータベース名には、最大 <. 文字まで指定できます。
- データベース列名には、最大 &LC. 文字まで指定できます。

- データベース列 ID 名には、最大 &LA. 文字まで指定できます。
- データベース・チェック制約には、最大 &LC. 文字まで指定できます。

ユーザーの処置: 短い名前を使用して、QMF の使用を続けてください。

SQLCODE: -00107 **Database:** DB2

QMF Function: PQ

DSQ35109

メッセージ: この文脈の中では &V1 は無効です。

説明: ある種の SQL キーワードは、ある種の文脈の中では使用できません。たとえば、ORDER BY、INTO、および FOR UPDATE を CREATE VIEW とともに使用することはできません。また、どの SELECT ステートメントの中にも INTO があってはなりません。

ユーザーの処置: 照会を訂正して、再実行してください。

SQLCODE: -00109 **Database:** DB2

QMF Function: PQ

DSQ35110

メッセージ: &V3.&V1. で始まる値に、正しくない 16 進データが見つかりました。

基準線: ==>&V2.

説明: 1 つの 16 進文字は 2 つの英字または数字で表されます。したがって、16 進数値は、0 から 9 までの数字および英字 A、B、C、D、E、または F の偶数個の組み合わせにより表されていなければなりません。誤りのある 16 進数値は、奇数個の数字または英字により表されているか、または無効な英字か、そのほかの文字が含まれています。

ユーザーの処置: 無効な値を訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00110 **Database:** DB2

QMF Function: PQ

460 QMF: QMF メッセージおよびコード

DSQ35111

メッセージ: 合計機能には、列名を指定しなければなりません。

説明: 列名を持たない式を含む合計機能を指定しました。合計機能は、列名を参照しなければなりません。例 :

正: AVG(COMM + SALARY)

誤: AVG(1200 + 3498)

ユーザーの処置: 合計機能の式を訂正してください。

SQLCODE: -00111 **Database:** DB2

QMF Function: PQ

DSQ35112

メッセージ: 合計機能に無効な式が含まれていません。

説明: 合計機能は AVG、COUNT、MAX、MIN、および SUM です。合計機能に使用されている式の中に合計機能を使用することはできません。

正: AVG(UNITS * PRICE)

誤: AVG(UNITS * MAX(PRICE))

ユーザーの処置: 合計機能に正しい式が指定されるように照会を変更してください。

SQLCODE: -00112 **Database:** DB2

QMF Function: PQ

DSQ35113

メッセージ: 名前 &V3.&V1. に無効な文字が含まれています。

基準線: ==>&V2.

説明: データベース、記憶域グループ、表スペース、およびバッファ・プールの名前に使用できる文字は、英字の大文字、国別文字 (*、&、または @)、または数字だけです。最初の文字は、英字または国別文字でなければなりません。

ユーザーの処置: 名前 &V3 の無効文字を訂正してください。照会を再実行してください。

SQLCODE: -00113 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35115

メッセージ: &V3.&V1. の使用法に誤りがあります。

基準線: ==>&V2.

説明: '>' または '=' などの単純比較演算子の後には、項目のリストを続けることはできません。ANY および ALL 比較演算子の後には、式や項目のリストではなく、副選択を続ける必要があります。例:

正: WHERE SALARY > ALL (SELECT COMM
FROM Q.STAFF)

誤: WHERE SALARY > ALL (10000)

ユーザーの処置: &V3. の使用法を変更して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00115 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35117

メッセージ: 値の数と列の数が一致しません。

説明: たとえば INSERT INTO Q.STAFF などのステートメントでは、NOT NULL と定義された各列に値を指定しなければなりません。

表名のあとに列のリストを指定しない場合には、VALUES のあとに、表内の各列に関する値を指定します。

表名のあとに列のリストを指定する場合には、VALUES のあとにそのリストの中の各列に関する値を指定します。

例:
INSERT INTO Q.STAFF (ID, NAME, DEPT)
VALUES (400, 'HARRISON', 20)

ユーザーの処置: INSERT INTO によって処理したい個々の列に値を指定して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00117 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35118

メッセージ: 副照会の中で使用される表を変更することはできません。

説明: ここでいう変更には、INSERT、UPDATE、および DELETE があります

誤:
INSERT INTO Q.STAFF
SELECT * FROM Q.STAFF WHERE YEARS > 7

上記の例では、受け取るデータの出所である表を変更しようとしています。

ユーザーの処置: 副照会に使用されている表が変更されることのないような形に照会を訂正するか、またはその表を変更するための別個の照会を作成してください。

SQLCODE: -00118 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35119

メッセージ: グループ化に矛盾があります。

説明: 次のいずれかの状況が起きています。

1. SELECT に列名と列関数があるが、GROUP BY がない。

正:
SELECT DEPT, AVG(SALARY) FROM Q.STAFF
GROUP BY DEPT

2. SELECT のあとにリストされた列が、GROUP BY のあとにない。

正:
SELECT DEPT, JOB, AVG(SALARY)
FROM Q.STAFF
GROUP BY DEPT, JOB
(誤: GROUP BY DEPT)

(SELECT のあとに * を用いた場合には、GROUP BY のあとにすべての列名をリストしなければなりません。)

3. HAVING キーワードのあとに、グループには適用されない条件がある。

正: HAVING MIN(YEARS) > 6
(誤: HAVING YEARS > 6)

4. 式でのグループ値と単一値が混用されている。

正:
SELECT DEPT, AVG(SALARY) FROM Q.STAFF
GROUP BY DEPT

5. GROUP BY のあとに、リストした列は定数、式、または関数から引き出した視点列である。

6. HAVING は GROUP BY を付けずに指定する。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00119 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35120

メッセージ: 組み込み関数またはグループ化列の使用法に誤りがあります。

説明: 副照会の一部として使う場合を除き、WHERE または SET のあとに組み込み関数 (AVG、COUNT、MAX、MIN または SUM) を用いることはできません。

正:
WHERE YEARS > (SELECT AVG(YEARS)
FROM Q.STAFF)

誤:
WHERE YEARS > AVG(YEARS)

照会が視点を参照している場合には、その視点の定義の中で GROUP BY のあとに指定されている列名を照会の条件の中で使用することはできません。たとえば、VIEW の定義中で GROUP BY のあとに DEPT が使用されていれば、次の例は誤りです。

誤:
SELECT DEPT, SUMSALARY FROM VIEW
WHERE DEPT = 20

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。照会で視点をを用いる場合は、視点のもととなっている表から選択するように照会を書いてください。

SQLCODE: -00120 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35121

メッセージ: 同一の照会で同じ列を二度変更することはできません。

説明: 「変更」には INSERT および UPDATE が含まれます。無効な指定の例を次に示します。YEARS は一度しか変更することはできません。

誤:
INSERT INTO Q.STAFF (ID, YEARS, JOB,
YEARS)
VALUES (400, 7, 'clerk', 8)

ユーザーの処置: 一度の変更だけで済むように SQL ステートメントを訂正し、再度実行してください。

SQLCODE: -00121 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35122

メッセージ: グループ化に矛盾があります。

説明: 次のいずれかの状況が起きています。

1. SELECT に列名と列関数があるが、GROUP BY がない。

正:
SELECT DEPT, AVG(SALARY) FROM Q.STAFF
GROUP BY DEPT

2. SELECT のあとにリストされた列が、GROUP BY のあとにない。

正:
SELECT DEPT, JOB, AVG(SALARY)
FROM Q.STAFF
GROUP BY DEPT, JOB
(誤: GROUP BY DEPT)

(SELECT のあとに * を用いた場合には、GROUP BY のあとにすべての列名をリストしなければなりません。)

3. HAVING キーワードのあとに、グループには適用されない条件がある。

正: HAVING MIN(YEARS) > 6
誤: HAVING YEARS > 6

4. 式でのグループ値と単一値が混用されている。

正:
SELECT DEPT, AVG(SALARY) FROM Q.STAFF
GROUP BY DEPT

5. GROUP BY のあとに、リストした列は定数、式、または関数から引き出した視点列である。
6. HAVING は GROUP BY を付けずに指定する。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00122 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35123

メッセージ: &V1 の位置のパラメーターは、定数またはキーワードである必要があります。

説明: 関数 &V2 の &V1 の位置のパラメーターは、定数であるよう要求された場合に定数でないか、またはキーワードであるよう要求された場合にキーワードではありません。

ユーザーの処置: 関数呼び出しを訂正して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00123 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35125

メッセージ: SELECT リストの番号が列を識別していません。

説明: エラーの認められた列番号は、0 であるか、または SELECT のあとにリストされている

列の数より大きい可能性があります。

正しくない例:

ORDER BY 5 これは、SELECT リストの 5 番目の項目に基づく順序付けを示します。SELECT リスト上に 4 項目しかなければ、これは無効です。
ORDER BY 0 これは常に無効です。

ユーザーの処置: SELECT リストに適合するように ORDER BY のあとの列番号を変更し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00125 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35127

メッセージ: 照会では、DISTINCT を重複して指定できません。

説明: 照会で、DISTINCT を複数回使用していました。選択した行の単一コピーを保存すると、DISTINCT が暗黙のうちに指定されます。保存した後に関数でも DISTINCT を指定した可能性があります。

ユーザーの処置: 照会では、DISTINCT を複数回使用しないでください。

SQLCODE: -00127 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35128

メッセージ: NULL は、IS または IS NOT とともに使用してください。

説明: WHERE 文節内の IN に続くリストの中の項目として NULL を用いることはできません。次に例を示します。

誤: WHERE AMT IN (20,50,NULL)
正: WHERE AMT IN (20,50) OR AMT IS NULL

ユーザーの処置: NULL の構文を訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00128 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35129

メッセージ: 照会で 15 を超える表参照が用いられています。

説明: 1 つの照会で、15 を超える表参照を行うことはできません。

ユーザーの処置: 照会を 2 つ以上の照会に分割し、それぞれの表参照が 15 以下になるようにしてください。

SQLCODE: -00129 **Database:** DB2

QMF Function: PQ

DSQ35131

メッセージ: LIKE 使用のステートメントに不適合なデータ・タイプがあります。

説明: LIKE または NOT LIKE の左側の列名が文字タイプである場合は、右側の式も文字タイプでなければなりません。列名が図形タイプのものであれば、右側の式も同様に、図形タイプでなければなりません。

LIKE または NOT LIKE の右側の式に拡張文字があると、拡張文字は左側の列名のタイプと互換性がなければなりません。

ユーザーの処置: すべてのオペランドのデータ・タイプを調べて、もう一度、照会し直してください。

SQLCODE: -00131 **Database:** DB2

QMF Function: PQ

DSQ35132

メッセージ: LIKE の使用法に誤りがあります。

説明: LIKE を用いて書いた条件が無効です。LIKE を用いて書いた条件が無効です。LIKE のあとには文字定数を入力してください。% と _ の 2 つのシンボルを使用できます。

NAME LIKE 'J0%' と書いてください。
NAME は列名です。

ユーザーの処置: LIKE を用いる条件を訂正し、照会を再実行してください。

464 QMF: QMF メッセージおよびコード

SQLCODE: -00132 **Database:** DB2

QMF Function: PQ

DSQ35133

メッセージ: HAVING または WHERE 文節のあとの式の使用法に誤りがあります。

説明: その列が HAVING か WHERE 文節の相関参照列の場合、組み込み関数の引き数として式ではなく列名を使用しなければなりません。たとえば、

```
SELECT DEPT,SUM(YEARS) FROM Q.STAFF VARX
GROUP BY DEPT HAVING SUM(YEARS) >
ANY (SELECT AVG(YEARS) FROM Q.STAFF
      GROUP BY DEPT HAVING MAX(YEARS) >
      MIN(1*VARX.YEARS))
```

は正しくありません。-- (1*VARX.YEARS) を組み込み関数 MIN の引き数にはできません。これは相関参照変数 VARX.YEARS を含む式だからです。

ユーザーの処置: 照会を訂正した上で、再実行してください。

SQLCODE: -00133 **Database:** DB2

QMF Function: PQ

DSQ35134

メッセージ: 幅広の文字列が間違っていて使われています。

説明: 文字データ・タイプで 254 文字を超える幅の列を使う場合には、いくつかの制限があります。重複行が各行の単一コピーの保持を示している場合、列セクションでは選択できません。リレーショナル・データベース・マネージャーの一部リリースでは、演算子「Starting With (次の指定で始まる)」、「Ending With (次の指定で終る)」、「Containing (次の指定を含む)」とともに行条件で使うことができません。

ユーザーの処置: 幅広の文字列の用法を変えるか単一コピー行の保持を照会から削除してください。

SQLCODE: -00134 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35136

メッセージ: ソート・キーの長さが 4000 バイトを超えることはできません。

説明: ソート・キーは、DISTINCT のあとか、ORDER BY または GROUP BY 文節の中で指定されている列のリストによって形成されます。

DISTINCT と ORDER BY または GROUP BY の両方があれば、ソート・キーはその両方の列リストによって構成されます。

ユーザーの処置: ソート・キーの内部長が 4,000 バイトを超えないように、ステートメントを変更してください。そのためには、ORDER BY 文節か GROUP BY 文節から、または DISTINCT 修飾子のあとのリストから、1 つまたはいくつかの列名を削除しなければなりません。

SQLCODE: -00136 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35137

メッセージ: 連結の結果が長すぎます。

説明: 連結 (縦棒 2 本 '||') の結果、長さが 32,765 文字、または 16,383 文字以上になりました。

ユーザーの処置: スtring が短くなるように照会を変更して、もう一度、やり直してください。

SQLCODE: -00137 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35138

メッセージ: 関数 SUBSTR の 2 番目か 3 番目の引き数が、範囲外にあります。

説明:

SUBSTR(ARG1, ARG2, ARG3)

ARG1: 1 桁の文字または図形文字列でなければなりません。

ARG2: $1 \leq \text{ARG2} \leq L$ の整数でなければなりません。
ARG3: $0 \leq \text{ARG3} \leq L - N + 1$ の整数でなければなりません。
ここで L は ARG1 の長さです。
N は ARG2 の長さです。

ユーザーの処置: SUBSTR の 2 番目と 3 番目の引き数を変えて、照会しなおしてください。

SQLCODE: -00138 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35150

メッセージ: この視点の中のデータを変更することはできません。

説明: INSERT、UPDATE、または DELETE を次のような視点に使用できません。

1. 複数の表をもととしているもの。
2. 式または組み込み関数によって定義された列を含む視点。例: UNITS*PRICE, AVG(SALARY)
3. DISTINCT または GROUP BY を使用する SELECT ステートメントによって定義されたもの。
4. 参照表にすべての非 NULL 可能列を含まないもの。

ユーザーの処置: 視点の作成に使われた各表を変更するために、それぞれ異なる照会を書いてください。

SQLCODE: -00150 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35151

メッセージ: 列 &V1 は変更できません。

説明: INSERT、UPDATE、または DELETE (SQL の場合) の使用、または I、U、または D (QBE の場合) の使用で、下記の中の列を変更できません。

1. 複数の表に基づく視点

- 式または組み込み関数によって定義される列を含む視点 例：UNITS*PRICE または AVG(SALARY)
- DISTINCT または GROUP BY を使用する SELECT ステートメントによって定義された視点
- 表スペースの区分化キー
- 列が更新されることのないカタログ表

ユーザーの処置： 視点の作成に使われた各表を変更するために、それぞれ異なる照会を書いてください。

SQLCODE: -00151 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35153

メッセージ： 式または関数によって定義された視点の列には名前が必要です。

説明： CREATE VIEW ステートメントに、式 (UNITS * PRICE など)、組み込み関数 (AVG(YEARS)、など)、または定数 ('JUNE 1' など) に基づいて定義される列が含まれています。このような列には名前を与えなければなりません。したがって、各列の名前を示す名前リストが必要です。

ユーザーの処置： CREATE VIEW 照会の中で、関数または式に基づいて定義されるすべての列に、新しい名前を与えてください。

SQLCODE: -00153 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35154

メッセージ： UNION を使用するか、またはリモート・オブジェクトを使用する視点を作成することはできません。

説明： 作成しようとしている視点の定義の中で、キーワード UNION を使用しているか、またはリモート・オブジェクトが含まれています。これは、視点の定義では使用できません。

ユーザーの処置： 視点の定義を別の形に変えてください。

SQLCODE: -00154 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35155

メッセージ： FROM のあとに、GROUP BY または HAVING で定義された視点が指定されています。

説明： 照会の中の FROM のあとに指定されている表の 1 つが、GROUP BY または HAVING を使用する照会によって定義されている視点です。このような視点を、FROM のあとで他の表とともに指定することはできません。

ユーザーの処置： FROM のあとで、ほかの表と一緒にその視点を指定することのないように、照会を書きなおしてください。その後照会を実行してください。

SQLCODE: -00155 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35156

メッセージ： 照会に、表が指定されていません。

説明： ALTER TABLE、DROP TABLE、LOCK TABLE、または CREATE INDEX を使用することができるのは表に対してだけです。視点またはリモート・オブジェクトの名前はこのステートメントの後で使えません。

ユーザーの処置： 照会で正しい表名が使われていることを確認してください。上記にリストしたステートメントのあとでは、視点またはリモート・オブジェクトの名前は使用しないでください。

SQLCODE: -00156 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35158

メッセージ： CREATE VIEW と SELECT の両リストには、同数の列が必要です。

説明： CREATE VIEW リストの各列名に対応す

る列名が SELECT リストにも入っていない必要ありません。SELECT リストの中の名前リストをアスタリスク (*) で置き換えた場合には、元の表と同じ列名が視点に入ります。

ユーザーの処置: CREATE VIEW リストに合わせて SELECT リストの列名を変更し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00158 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35159

メッセージ: 使用されている名前は視点または別名でなく表です。

説明:

DROP VIEW は、視点の除去にのみ使用されます。DROP ALIAS は、別名の除去にのみ使用されます。COMMENT ON ALIAS は、別名のコメントにのみ使用されます。

DROP VIEW、DROP ALIAS または COMMENT ON ALIAS を使って表を除去、またはコメントを付けることはできません。

ユーザーの処置: 表を除去、またはコメントを付けたい場合、DROP TABLE か COMMENT ON TABLE ステートメントを使ってください。

SQLCODE: -00159 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35160

メッセージ: この視点には WITH CHECK は使用できません。

説明: 次のような場合には WITH CHECK オプションは使用できません。

1. 視点は「読み取り専用」と定義されました。(たとえば、視点の定義に DISTINCT GROUP BY または JOIN が含まれている場合)。
2. 視点が副照会を含む場合。

ユーザーの処置: 別の操作を続けてください。

SQLCODE: -00160 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35161

メッセージ: 挿入または更新の値が視点定義の条件を満たしていません。

説明: データを変更しようとしている視点の定義の中で、WITH CHECK オプションが使用されています。このような視点の行の挿入または更新を行おうとすると、その結果が視点の定義に適合するかどうかの検査が必ず行われます。照会の中に、その定義の中の条件を満たさない値があります。

ユーザーの処置: 視点の定義を調べて、変更が拒否された理由を判断し、照会中の該当する値を変更してください。

SQLCODE: -00161 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35164

メッセージ: 他のユーザーの名前で視点を作成することはできません。

説明: この照会は、修飾子付きの名前 (USERID.TABLENAME という形式の名前) で視点を作成しようとしていますが、その名前の修飾子があなたの DB2 許可 ID ではありません。自分以外の許可 ID を用いて視点を作成することができるのは、“SYSADM” 権限を持つユーザーだけです。

ユーザーの処置: 照会を訂正して再実行するか、または他の人のための視点を作成する許可を得てください。

SQLCODE: -00164 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35170

メッセージ: スカラー関数 '&V1' に指定した引き数の数が無効です。

説明: SQL ステートメントにあるスカラー関数

&V1 の引き数が多すぎるか少なすぎます。サボートされるスカラー関数は次のとおりです。

DECIMAL、DIGITS、FLOAT、HEX、INTEGER、
VARGRAPHIC、DATE、TIME、TIMESTAMP、DAYS、
YEAR、MONTH、DAY、HOUR、MINUTE、SECOND、
MICROSECOND、LENGTH、SUBSTR、および VALUE

ユーザーの処置: スカラー関数 '&V1' の使用方法を確かめてください。スカラー関数を変更して再度、照会を実行してください。

SQLCODE: -00170 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35171

メッセージ: スカラー関数 '&V2' の引き数 '&V1' は無効です。

説明: スカラー関数 '&V2' に指定されたデータ・タイプ、データの長さ、またはデータの値が間違っています。詳しくは、SQL 照会の資料を参照してください。

ユーザーの処置: 関数 '&V2' のデータ・タイプ、データの長さ、またはデータの値を変更して再度、照会し直してください。

SQLCODE: -00171 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35180

メッセージ: 日時の値 &V1 が無効です。

説明: 有効な日付を表すストリングは、次のいずれかの形式です。

'mm/dd/yyyy' 'dd.mm.yyyy' 'yyyy-mm-dd'
または LOCAL 形式

有効な時刻を表すストリングは、次のいずれかの形式です。

'mm/dd/yyyy' 'dd.mm.yyyy' 'yyyy-mm-dd'
または LOCAL 形式

有効なタイム・スタンプを表現するストリングは、次の形式です。

'yyyy-mm-dd-hh.mm.ss.nnnnnn'

ユーザーの処置: 日時値の構文を変更して、再度その照会を実行してください。

SQLCODE: -00180 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35181

メッセージ: 日時の値が無効です。

説明: 日時値を表すストリングの値が、範囲外にあります。日時値の正しい範囲は次のとおりです。

年	-	1	から	9999
月	-	1	から	12
日	-	1	から	31
時	-	0	から	24
分	-	0	から	59
秒	-	0	から	59

ユーザーの処置: 日時の値を訂正して、再度照会し直してください。

SQLCODE: -00181 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35182

メッセージ: 日付時刻の値を使っている算術式が無効です。

説明: 指定された算術式で、日付時刻か、単一の期間の使用方法が、間違っています。正しい使用例を以下に示します。

```
SELECT STARTD + 10102433. FROM Q.PROJECT  
SELECT STARTD + 1 YEAR FROM Q.PROJECT
```

ユーザーの処置: 式を訂正して、再度その照会を実行してください。

SQLCODE: -00182 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35183

メッセージ: 日付、またはタイム・スタンプに関する算術演算で、無効な結果が出力されました。

説明: 日付、またはタイム・スタンプの値を求める算術演算で、有効範囲外の値が求められました。

た。有効な日付は、0001-01-01 から 9999-12-31 までです。

ユーザーの処置: 日時の値を訂正して、再度照会し直してください。

SQLCODE: -00183 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35184

メッセージ: "?" の使用法が無効です。

説明: 文字 "?" がデータベース中のいずれかの名前の一部である場合は、二重引用符で囲まなければならない。照会に指定する名前 "?" のこれ以外の使用法は無効です。文字 "?" は文字定数としても使用できますが、その場合は単一引用符で囲まなければならない。

ユーザーの処置: 照会を訂正し、その照会を再度実行してください。

SQLCODE: -00184 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35185

メッセージ: 日付または時刻の値をフォーマット設定できません。

説明: 次のいずれかの状況が起きています。

1. LOCAL オプションを使って日付または時刻の値を書式化しようとしたが、使用可能なインストール先定義の日付または時刻ルーチンが存在しない。
2. 日付または時刻の値をstringで表現して指定したが、stringがデータベースの認識できる形式ではない。または、そのstringを処理できるインストール先定義の日付または時刻ルーチンが存在しない。

ユーザーの処置: 日付または時刻の値のstring表現を認識可能な形式に変更するか、QMF 管理者に連絡してデータベースでインストール先定義の日付・時刻ルーチンを利用可能にしてください。

SQLCODE: -00185 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35197

メッセージ: 修飾列名を ORDER BY に使用しないでください。

説明: ORDER BY を UNION または UNION ALL と一緒に使用するとき、修飾列名を ORDER BY の後に続けて使用しないでください。代わりに、非修飾名か、または SELECT の後のリストの列の位置を示す数値を使用してください。

例 1:
SELECT NAME, ID FROM Q.STAFF
UNION
SELECT NAME, TEMPID FROM Q.APPLICANT
ORDER BY 1

例 2:
SELECT NAME, ID FROM Q.STAFF
UNION
SELECT NAME, TEMPID FROM Q.APPLICANT
ORDER BY NAME

ユーザーの処置: 修飾列名を使用しないようにステートメントを変更して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00197 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35198

メッセージ: 照会が空であるか、またはコメントしか入っていません。

説明: 空の照会またはコメントだけを含まれる照会には、処置を指示する命令が入っていないため、実行することはできません。

ユーザーの処置: 別の照会を書いてください。

SQLCODE: -00198 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35199

メッセージ: &V1. またはその前で SQL エラーが起きました。

説明: このメッセージは、通常以下の原因によります。

1. 副照会で DISTINCT という語を複数使用。
2. 句読点の欠落または余分な句読点。
3. 必須キーワードの省略または不適切な使用。
4. SELECT 後の括弧なしの副照会。

ユーザーの処置: 照会を訂正して、再実行してください。

SQLCODE: -00199 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35203

メッセージ: 列 &V1 が複数の表にあります。

説明: FROM 文節の複数の表または視点にその名前の列がある場合、またはネストされた表の式の複数の列がその名前である場合、非修飾列名は未確定です。列名またはネストされた表の式の関連名が固有である場合のみ、修飾列名は未確定です。

ユーザーの処置: この問題が、ネストされた表の式の非固有列名により起こる場合は、ネストされた表の式を変更して、列が固有になるようにしてください。問題が非修飾名の使用によって起こる場合は、表、視点または関連名で修飾してください。

SQLCODE: -00203 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35204

メッセージ: &V1 が見つかりません。

説明: 照会の中で &V1. が参照されています。データベースにこの名前を持つものがありません。

ユーザーの処置: スペルの誤りがないかどうかを検査してください。

SQLCODE: -00204 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35205

メッセージ: &V1 は、選択された表に定義された列ではありません。

説明: &V1 が列として指定されていますが、選択した表のいずれにもありません。スペルを間違えた可能性があります。&V1 を文字定数として使用する場合は、単一引用符で囲んでください。

ユーザーの処置: DISPLAY Q.COLUMN_LIST コマンドを使用して、使用許可を受けている表のすべての列に関する情報を表として表示できます。列名のスペルを確認した後、列名を訂正するかまたは列 &V1 が入っている表を照会に追加してください。

SQLCODE: -00205 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35206

メッセージ: 照会で指定されている表のいずれにも、列 &V1 がありません。

説明: &V1 は、照会で指定されているどの表または視点の列でもありません。これが文字定数のつもりで入力したものであれば前後に一重引用符を付けてください。

ユーザーの処置: 列の名前を変えるか、または、列 &V1 の入っている表を照会に追加した上で、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00206 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35207

メッセージ: ORDER BY のあとには、列名ではなく列番号を使用してください。

説明: UNION とともに ORDER BY を使用するさいには、ORDER BY のあとには列名を使用し

ないで、SELECT のあとのリスト上での列の位置を示す番号を使用してください。

例:

```
SELECT NAME, ID FROM Q.STAFF
UNION
SELECT NAME, TEMPID FROM Q.APPLICANT
ORDER BY 1
```

ユーザーの処置: 列名を列番号に変更して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00207 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35208

メッセージ: SELECT リストに &V1 がなければなりません。

説明: ORDER BY のあとに &V1 が続いています。 &V1 が SELECT リストに含まれていないか、または、ORDER BY のあとのそのスペルに誤りがあります。

ユーザーの処置: &V1 を SELECT リストに付け加えてください。そして、それが ORDER BY のあとの列名に一致することを確認してください。

SQLCODE: -00208 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35250

メッセージ: 位置の修飾子は使用できません。

説明: 指定された名前には、位置の修飾子があります。3つの部分からなるオブジェクト名は、ローカルの位置名が定義されるまでは使用できません。

ユーザーの処置: 位置の修飾子を除去し、照会を再実行してください。QMF 管理者に連絡して、正しいデータベースを使用していることを確認するか、ローカルの位置名を定義してもらってください。

SQLCODE: -00250 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35251

メッセージ: &V1 は、無効な位置名です。

説明: &V1 には、英字の特殊文字 (#, @, \$) が含まれています。これらの文字は、位置名に使用できません。

ユーザーの処置: 位置名を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00251 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35270

メッセージ: 関数はサポートされていません。
(理由コード =&V1)

説明: 以下のいずれかの理由コードで示されたように制約に違反しているため、ステートメントを処理することができません。

- (1) 基本キーおよび各索引には、表の区分化列がすべて含まれている必要があります。
- (2) 区分化キー列値の更新はサポートされていません。
- (3) 参照保全是サポートされていません。

ユーザーの処置: 理由コードに対応する処置を次に示します。

- (1) CREATE TABLE、ALTER TABLE または CREATE UNIQUE INDEX ステートメントを訂正してください。
- (2) 多重ノード表の区分キー列を更新しないようにしてください。行を削除して、新規の値の行を区分化列に挿入し、更新をシミュレートすることができます。
- (3) CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 文節を除去してください。

SQLCODE: -00270 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35312

メッセージ: コロン (:) の使用は無効です。

説明: 照会で、"WHERE NAME = :NAME" のように、前にコロンのついた名前が使用されています。(この用法は、プリプロセッサ・プログラムに実行依頼される照会では意味がありますが、QMFでの照会では無効です。)

ユーザーの処置: 照会を訂正してください。表、列、または視点の名前を使うかその他の文字定数は、一重引用符で囲んでください。

SQLCODE: -00312 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35313

メッセージ: "?" の使用が無効です。

説明: 文字 "?" がデータベース中のいずれかの名前の一部である場合は、二重引用符で囲まなければなりません。照会に指定する名前では "?" のこれ以外の使用法は無効です。文字 "?" は文字定数としても使用できますが、その場合は単一引用符で囲まなければなりません。

ユーザーの処置: 照会を訂正し、その照会を再度実行してください。

SQLCODE: -00313 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35332

メッセージ: 文字ストリングが CCSID の未定義によって変換されませんでした。

説明: SQL ステートメントは、現行文字セットと違ったコード化文字セットの中にあるコード化文字セット (CCSID) &01 を持つ文字ストリングを参照しました。現行サーバーでこの文字ストリングを使用するには、ソース CCSID &01 からターゲット CCSID &02 に変換しなければなりません。&03 は、DB2 から戻された理由コードを示しています。

DB2 から戻された理由コードは、'DSN' で開始

し、変換が要求された文脈を示します。'DSN' 以外で始まる値は、他の DB2 プラットフォームから戻されたもので、そのプラットフォームの資料で説明されています。

ユーザーの処置: 文字列および参照した値が正しいかどうか検査してください。誤りがあれば、必要な変更を行い、再度照会を試みてください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00332 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35338

メッセージ: ON 文節の使用が無効です。

説明: ON 文節が以下のいずれかの理由で、誤って使用されています。

- 述部の式の 1 つは、関連した結合演算子のオペランドの 1 つの列のみを参照し、述部の別の式は、別のオペランド表の列のみを参照する必要があります。
- 結合演算子が FULL OUTER JOIN または FULL JOIN の場合にのみ、VALUE または COALESCE 関数を ON 文節で使用できます。
- '=' 以外の演算子は、FULL OUTER JOIN または FULL JOIN では許可されていません。

ユーザーの処置: ON 文節の構文を訂正して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00338 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35351

メッセージ: 位置 &V1. のデータ・タイプが無効です。

説明: アプリケーション・リクエストによりサポートされない SQL データ・タイプがあります。&V1 は、無効なデータ・タイプを持つ SQLDA の最初の要素です。このエラーの一般的な原因として、アプリケーション・リクエストがアプリケーション・サーバーにあるラジ・オブジェクト・データを記述しようとしたこ

とが考えられます。このエラーの原因となる SQLTYPE には、LOB、BLOB、CLOB および DBLOB があります。

ユーザーの処置: 無効なデータ・タイプを除去し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00351 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35401

メッセージ: 異なるタイプのデータの混合および比較はできません。

説明: 式の中で数字と非数字データが混合したか、数字データと非数字を比較しようとしたか、または文字と図形文字を比較しようとしたかのどちらかです。

SALARY を数字列で NAME を非数字列と想定すると、以下の例は無効です。

SALARY - NAME - は無効な式
NAME/2 - は無効な式
If NAME Is Equal
To SALARY - は無効な条件

ユーザーの処置: 異なるタイプのデータが混合しないように、式を変更してください。

SQLCODE: -00401 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35402

メッセージ: 数字データが必要です。

説明: 数字演算子または関数に数字データ以外のデータを使用しました。2つの例を示します。

NAME
AVG(NAME)

ここで、NAME は数字として定義されていない列名です。

ユーザーの処置: 演算式または関数では数字データだけが使用されるように、照会を変更してください。

SQLCODE: -00402 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35404

メッセージ: 与えられた値が列 &V1. には長すぎます。

説明: 列 &V1 に入れようとしている文字数が、その列の最大行数を超えています。

ユーザーの処置: その列に収まるように値を変更して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00404 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35405

メッセージ: 数値 &V1 はユーザーの列の許容範囲外にあります。

説明: &V1 は、該当の列に許される範囲外の値です。

適切な SQL の値の範囲は次のとおりです。

FLOAT -7.2E75 から -5.4E-79, 0,
 5.4E-79 から 7.2E75
INTEGER -2147483648 から 2147483647
SMALLINT ... -32768 から 32767
DECIMAL 範囲は列の精度と位取りによって決まります。たとえば、精度 = 5、位取り = 2 によって定義された 10 進数の列に指定される場合、その値は、-999.99 から 999.99 です。

ユーザーの処置: &V1 を変更し、処理を続けてください。

SQLCODE: -00405 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35406

メッセージ: 数値が、列に使用できる値の範囲外にあります。

説明: 照会に指定されている値が、関連する列に使用可能な値の範囲内にありません。値は、式の結果としての値の場合もあります。

適切な SQL の値の範囲は次のとおりです。

FLOAT -7.2E75 から -5.4E-79, 0,
5.4E-79 から 7.2E75
INTEGER -2147483648 から 2147483647
SMALLINT ... -32768 から 32767
DECIMAL 範囲は列の精度と位取りによって
決まります。たとえば、精度 = 5、
位取り = 2 によって定義された
10 進数の列に指定される場合、
その値は、-999.99 から 999.99
です。

ユーザーの処置: 許容範囲内の値を指定してください。値を正しい列に入力しているか、確認してください。

SQLCODE: -00406 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35407

メッセージ: 列 &V1 に NULL 値を含めることはできません。

説明: 列 &V1 に対する更新値または挿入値が NULL でしたが、列 &V1 は表定義の中で NOT NULL と指定されています。行を挿入しようとしている場合には、ある列に値の指定を忘れると、NULL の挿入を望んでいるものと見なされません。

ユーザーの処置: 列 &V1 のための値を入力してください。

SQLCODE: -00407 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35408

メッセージ: 新たな値のデータ・タイプが、列 &V1 に適合しません。

説明: 列 &V1 に入れる新たな値のデータ・タイプがその列のデータ・タイプに一致していません。すなわち、両方とも数値、文字ストリング、漢字ストリング、日付、時刻またはタイム・スタンプでなければなりません。

ユーザーの処置: 列 &V1 に別の値を入力してください。照会を再度、実行してください。

SQLCODE: -00408 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35409

メッセージ: DISTINCT は COUNT 合計機能の式で使用しなければなりません。

説明: 指示照会では、合計機能 COUNT に指定できるのは DISTINCT と列名だけです。使用例を示します。

COUNT(DISTINCT 列名)

上の例は、列内の異なった値の数を表示します。

ユーザーの処置: COUNT の使用法を変更してください。

SQLCODE: -00409 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35410

メッセージ: '&V1' が 30 文字を超えています。

説明: 浮動小数点定数の長さは 30 文字を超えることはできません。

ユーザーの処置: &V1 を丸めて、30 文字以下で表されるようにしてください。

SQLCODE: -00410 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35411

メッセージ: USER、CURRENT DATE/TIME、または CURRENT SQLID の用法が間違っています。

説明: USER は指示照会では無効です。CURRENT DATE/TIME または CURRENT SQLID が使用されていますが、データ・タイプが無効です。

1. CURRENT DATE の暗黙のデータ・タイプは DATE です。

2. CURRENT TIME の暗黙データ・タイプは TIME です。
3. CURRENT TIMESTAMP の暗黙データ・タイプは TIMESTAMP です。
4. CURRENT TIMEZONE の暗黙データ・タイプは DECIMAL(6,0) です。
5. CURRENT SQLID の暗黙のデータ・タイプは CHAR(8) です。
6. CURRENT SQLID は、リモート・データのアクセス時には使用できません。

ユーザーの処置: 照会を上記の規則に合うように変更してください。

SQLCODE: -00411 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35412

メッセージ: 副照会の SELECT のあとには列を 1 つしか使用できません。

説明: 副照会で SELECT を使用する場合、それによって選択できる列名は 1 つだけです (ただし INSERT のあとの場合は別です)。

誤: (SELECT PARTNO, PRICE.....)

ユーザーの処置: 副照会の SELECT リストを訂正して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00412 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35413

メッセージ: データ・タイプの変換中に算術オーバーフローが生じました。

説明: 算術オーバーフローが生じたために、算術演算または挿入演算の結果は無効です。たとえば、INTEGER のデータ・タイプを持つ値を SMALLINT のデータ・タイプの列に挿入しようとした可能性があります。INTEGER の値が十分に小さいものであれば変換を正常に行うことができます。しかし、32,767 を超える値は、算術オーバーフローを招く結果となります。

ユーザーの処置: 演算を訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00413 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35414

メッセージ: LIKE は文字またはグラフィック・データを指定しますが、この列は数字または日時のデータです。

説明: たとえば、LIKE '1%' または LIKE '%12.40.25' のような形式で指定されていました。ここで、LIKE は部分値をある列の値と比較しています。その列は数字または日時のデータ・タイプですが、LIKE では文字またはグラフィック・データを指定する必要があります。

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。数字データの場合、"n >= 1000 and n < 2000" のような数字比較を使用してください。

SQLCODE: -00414 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35415

メッセージ: SELECT リストの列属性が統一されていません。

説明: UNION か UNION ALL で複数の照会を結合しました。その場合、各照会の SELECT リストには、同数の列がなければなりません。各 SELECT リストの対応する列はすべて、後続の SELECT のデータ定義と比較可能でなければなりません。対応する列にフィールド・プロシージャがあれば、両者は同じフィールド・プロシージャおよび CCSID 値をもたなければなりません。

ユーザーの処置: 照会を比較が可能な列の SELECT リストで書き直して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00415 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35416

メッセージ: 幅の広い列を UNION で使用することはできません。

説明: UNION を使用する照会の中の SELECT のあとのリストに、データ・タイプが LONG VARCHAR である列 (すなわち、幅が 255 以上の列) を含めることはできません。使用できるデータ・タイプは、INTEGER、SMALLINT、DECIMAL、FLOAT、CHAR のいずれかです。幅が 255 未満であれば VARCHAR の列も使用できます。

ユーザーの処置: UNION で使用するすべての照会の SELECT リストから、幅が 254 文字を超える列をすべて除去してください。

SQLCODE: -00416 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35417

メッセージ: "?" の使用法が無効です。

説明: 文字 "?" がデータベース中のいずれかの名前の一部である場合は、二重引用符で囲まなければなりません。照会に指定する名前では "?" のこれ以外の使用法は無効です。文字 "?" は文字定数としても使用できますが、その場合は単一引用符で囲まなければなりません。

ユーザーの処置: 照会を訂正し、その照会を再度実行してください。

SQLCODE: -00417 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35418

メッセージ: "?" の使用法が無効です。

説明: 文字 "?" がデータベース中のいずれかの名前の一部である場合は、二重引用符で囲まなければなりません。照会に指定する名前では "?" のこれ以外の使用法は無効です。文字 "?" は文字定数としても使用できますが、その場合は単一引用符で囲まなければなりません。

ユーザーの処置: 照会を訂正し、その照会を再度実行してください。

SQLCODE: -00418 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35419

メッセージ: 使用されている値を用いた 10 進除算はできません。

説明: 分子の精度または分母の位取りが、10 進除算を行うには大きすぎます。

ユーザーの処置: 10 進除算に使用する値の精度または位取りを変更してから、照会を再実行してください。INTEGER、または SMALL INTEGER の値が、この計算のために 10 進数に変換された可能性があることに注意してください。

SQLCODE: -00419 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35420

メッセージ: 無効な文字ストリング引き数が、&V1 関数で使用されました。

説明: 文字ストリング引き数が、関数の規則に合っていない。たとえば、DECIMAL 関数に渡される文字ストリングが、SQL 整数または 10 進数定数の形式の規則に合っていない。

ユーザーの処置: 引き数の値を変更して、関数の要件に合うようにしてください。

SQLCODE: -00420 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35421

メッセージ: 各 SELECT リストの列数が一致していません。

説明: UNION によって複数の照会を連結する場合には、その場合、各照会の SELECT リストには、同数の列がなければなりません。

ユーザーの処置: 照会を訂正して、再実行してください。

SQLCODE: -00421 Database: DB2
QMF Function: PQ

DSQ35430

メッセージ: &V1 &V2 は異常終了しました。

説明: &V1 &V2 (SPECIFIC NAME &V3) は、異常終了しました。次の SQLSTATE が戻されました: 42704。

ユーザーの処置: ストアード・プロシージャまたは関数を修正する必要があります。ルーチンの作成者またはデータベース管理者に連絡してください。修正されるまでそのルーチンは使用しないでください。

DSQ35440

メッセージ: DSQ33440 を参照してください。

DSQ35441

メッセージ: DISTINCT または ALL を &V1. とともに使用することは無効です。

説明: キーワード DISTINCT または ALL が、関数 &V1. への参照の括弧内で検出されました。この関数はスカラー関数として認識されました。

ユーザーの処置: スカラー関数が使用されている場合、キーワード DISTINCT または ALL を除去してください。これはスカラー関数には無効です。

列関数が使用されている場合、関数解決に問題があります。特殊レジスタ CURRENT FUNCTION PATH の値を検査してください。また関数名のスペル、および照会とシステム・カタログの両方にあるパラメーターの数とタイプも検査してください。

SQLCODE: -00441 Database: DB2
QMF Function: PQ

DSQ35442

メッセージ: ルーチン &01 の参照エラーです。

説明: ルーチン &01 への参照で引き数の指定が多すぎます。使用できる最大数は 90 です。

ユーザーの処置: ステートメントを訂正して使用されている引き数の数が正しいことを確認し、照会を再度実行してください。

SQLCODE: -00442 Database: DB2
QMF Function: PQ

DSQ35443

メッセージ: 外部関数 &V1 がエラーを戻しました。

説明: 外部関数 &V1 (SPECIFIC NAME &V2) は、次の診断テキストを持つエラー SQLSTATE 42704 を戻しました。

&V3. SPECIFIC NAME の最初の 3 文字が 'DSQ' の場合、失敗した外部関数は QMF 関数です。失敗の原因を判別するには、「DB2 UDB for z/OS Messages and Codes」を参照してください。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。

DSQ35471

メッセージ: 理由 &V2 により、関数またはプロシージャ &V1 の呼び出しに失敗しました。

説明: ルーチンが呼び出されましたが、呼び出しは許可されていませんでした。戻された DB2 理由コードは &V2 です。失敗の原因を判別するには、「DB2 UDB for z/OS Message and Codes」を参照してください。ステートメントは実行できません。エラーを説明する DSN9xx メッセージが、MVS システム・コンソールに表示される場合があります。次の SQLSTATE が戻されました: 42704。

ユーザーの処置: DB2理由コードで説明された状態を訂正して、関数またはストアード・プロシ

ジャーを再実行してください。

SQLCODE: -00513 **Database:** DB2
QMF Function: QBE

DSQ35495

メッセージ: この照会を行うと、DB2 のコストの見積もりの制限を超えます。

説明: DB2 は、この照会でのコストの見積もりが、照会の実行を防ぐリソース限定機能 (DB2 管理プログラム) に指定された制限を超えると判別しました。

照会ステートメントのコスト見積もりの詳細は、次のとおりです。

- コスト見積もりは &V2 サービス単位 * である。
 - 指定された制限は &V4 サービス単位 * である。
 - DB2 のコスト・カテゴリは '&V3.' である。
 - 約 &V1 プロセッサ・ミリ秒ほどかかる。
- * サービス単位はプロセッサ使用量の測定度で、異なるプロセッサ・タイプ間でも一貫しています。

ユーザーの処置: コスト・カテゴリ値が 'B' の場合、DB2 管理者に援助を依頼してください。DB2 カタログ統計またはリソース限定表 (RLST) の更新が必要になることがあります。

SQL ステートメントの費やすプロセッサ時間があまりにも多い場合は、より効果的に実行できるようにステートメントを書き直して、照会を再実行してください。

次の事項について検査してください。

- 照会で選択された列で、使用されていないものはないか。
- 不必要な ORDER BY または GROUP BY 文節がないか。
- WHERE 文節が正しく記述されているか。
- 照会に副照会が含まれているか。

478 QMF: QMF メッセージおよびコード

- 照会に列関数が含まれているか。

照会によっては、照会から GROUP BY 文節を除去し、代わりに QMF FORM の GROUP 取扱コードを使用すると、簡略化できる場合があります。

また照会によっては、外部結合や CASE 式などの拡張 SQL 構文を使用すると、パフォーマンスが向上する場合があります。

拡張分析の場合、EXPLAIN SQL ステートメントを使用して、照会の構造および実行パフォーマンスについての情報を収集できます。

照会および EXPLAIN ステートメントの情報については、SQL 解説書を参照してください。

照会の調整、および効率的な述部および副照会の記述の詳細については、「DB2 UDB for z/OS Administration Guide」を参照してください。

SQLCODE: -00495 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35512

メッセージ: リモートのオブジェクトを参照する照会が無効です。

説明: 以下に示した無効条件の 1 つがありません。

1. 照会が複数のロケーションを参照している。
2. 照会が別名を不正に使用している。
3. 照会がリモートのオブジェクトを参照していますが、この参照が無効です。たとえば、現在のロケーション以外のロケーションにある表を CREATE または DROP できません。

ユーザーの処置: リモート・オブジェクトの使用法については、「DB2 UDB for z/OS Application Programming and SQL Guide」を参照してください。

SQLCODE: -00512 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35513

メッセージ: 別名 &V1 は他のローカルかリモートの別名として定義できません。

説明: &V1 によって示されたオブジェクトは、示された位置に存在しますが、その位置で別名として定義されています。

ユーザーの処置: すべてのオブジェクト参照が表された位置にある表、または視点になることを確認するために照会を変更してください。

SQLCODE: -00513 **Database:** DB2

QMF Function: PQ

DSQ35540

メッセージ: 表 &V1 には、基本キーの基本索引がありません。

説明: 表 &V1 は使用できません。その表には基本キーはありますが、基本索引がありません。

ユーザーの処置: 表の参照に先立って、その表に対する基本キーを定義してください。

SQLCODE: -00540 **Database:** DB2

QMF Function: PQ

DSQ35551

メッセージ: &O3 が存在しないか、または必要な権限がありません。

説明: &O3 は存在しないか、読み取り専用の視点か、または (&V1 ID) に &V2 権限がありません。許可障害の原因として考えられるのは、次のものです。

1. 別のユーザーの表や視点から SELECT するための SELECT 権限。
2. 別のユーザーの表や視点に対する INSERT、UPDATE、DELETE、または ALTER 権限。INDEX 権限は、索引を作成するのに必要とされます。
3. 別のユーザーの表や視点に対する権限を与えるための GRANT 権限。(WITH GRANT OPTION によって)

4. 表の作成、データの保管、または、データベース内のスペースの予約に必要な特定の権限。
5. FOREIGN KEY または、DROP FOREIGN KEY の実行、または DROP PRIMARY KEY の操作の ALTER 権限。この場合、&O3 は、作成または変更されたりする表の名前で、&O1 が ALTER 権限を持たない表の名前ではないことに、注意してください。

ユーザーの処置: 既存のオブジェクトの名前を誤って指定した場合には、正しい名前を使ってください。&O1 ID に必要な権限がない場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00551 **Database:** DB2

QMF Function: PQ

DSQ35552

メッセージ: 指定されたオブジェクトが存在しないか、または必要な権限がありません。

説明: 指定されたオブジェクトが存在しないか、または読み取り専用の視点か、または次のような必要とされる権限がありません。

1. 他のユーザーの表または視点から選択する SELECT 権限。
2. 他のユーザーの表または視点に対する INSERT、UPDATE、DELETE または ALTER 権限。INDEX 権限は、索引を作成するのに必要とされます。
3. 他のユーザーの表または視点に対する権限を付与する (WITH GRANT オプションを用いる) GRANT 権限。
4. FOREIGN KEY または、DROP FOREIGN KEY の実行、または DROP PRIMARY KEY の操作の ALTER 権限。
5. 表の作成、データの保管、または、データベース内のスペースの予約に必要な特定の権限。

ユーザーの処置: 既存のオブジェクトの名前を誤って指定した場合には、正しい名前を使ってくだ

さい。必要な権限がない場合には、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00552 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35554

メッセージ: 自分自身に対して特権を付与することはできません。

説明: 特権は、所定の権限を持つユーザーが別のユーザーに対してのみ付与できます。ただし、SQLRULES(STD) が有効であるか、または CURRENT RULES に STD が含まれている場合は、自分自身への GRANT が可能です。

ユーザーの処置: 特権の追加付与を受けたい場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00554 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35555

メッセージ: 自分自身が保有している特権を取り消すことはできません。

説明: あるユーザーが持っている特権を取り消すことができるのは、所定の権限を持つ別のユーザーだけです。ただし、SQLRULES(STD) が有効であるか、または CURRENT RULES に STD が含まれている場合は、自分自身への GRANT が可能です。

ユーザーの処置: 自分の持つデータベース特権のいずれかを削減したい場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00555 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35556

メッセージ: この特権を &V1. から取り消すことはできません。

説明: 取り消そうとしている特権を &V1 が持っていないか、または、その特権を付与したユーザーの許可識別名がユーザー自身のものではありません。

取り消すことのできる特権は、ユーザー自身の許可識別名のもとに付与されている特権だけです。

ユーザーの処置: 別の操作に移ってください。

SQLCODE: -00556 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35559

メッセージ: この時点では GRANT および REVOKE の実行はできません。

説明: システムの許可部分が一時的に使用不可になっています。GRANT および REVOKE 照会の実行はできません。

ユーザーの処置: システムの許可部分が実行されている時点で、照会を再実行してください。詳細は QMF 管理者に問い合わせてください。

SQLCODE: -00559 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35601

メッセージ: &V1 は既存の &V2. の名前です。

説明: &V1 という名前のオブジェクトを作成しようとしたが、その名前の &V2 がすでに存在します。

- オブジェクト・タイプが CONSTRAINT で、CREATE か ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 文節または CHECK 文節で &V1 が指定されている場合、表で定義されているすべての参照保全および検査定数は固有である必要があります。
- オブジェクト・タイプが表 / 視点の場合、別名作成ステートメントで指定されている別名は、指定されている表名 / 視点名と同一です。表名 / 視点は、DB2 サブシステム内にはない場合があります。

ユーザーの処置: 照会の実行前に &V2 &V1 を除去するかまたは &V1. に別の名前を指定してください。

SQLCODE: -00601 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35602

メッセージ: CREATE INDEX または PRIMARY KEY ステートメントの列の指定が多すぎます。

説明: CREATE INDEX または PRIMARY KEY ステートメントで指定されている列の数が、許容されている最大数を超過しています。

- DB2 (MVS版) は 64 までです。
- DB2 共通サーバーは 16 までです。

ユーザーの処置: CREATE INDEX または PRIMARY KEY ステートメントを変更して、列の数が列の最大数を超えないようにしてください。

SQLCODE: -00602 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35603

メッセージ: 固有索引列に重複する値が含まれています。

説明: 固有索引の作成を指定した列に、重複する値を持った行がすでにあるため、固有索引を作成することができません。 VARCHAR または VARGRAPHIC のタイプの列であれば 2 つの列の違いは後ろのブランクの数だけで、重複することになります。

ユーザーの処置: 重複値を含む列が参照されることがないように、CREATE ステートメントを変更するか、または表から重複値が含まれている列を削除してください。

SQLCODE: -00603 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35604

メッセージ: 許容最大幅を超えている定数を使用しました。

説明: 定数を使用しましたが、その幅が次のいず

れかを超過しています。考えられる 2 つのエラーの原因は、DECIMAL 定数の精度またはスケールが、データ・タイプの限界を超えた、あるいは、CHAR、FLOAT、GRAPHIC、VARCHAR、または VARGRAPHIC 定数の長さがデータ・タイプの限界を超えたかです。

ユーザーの処置: 定数指定を変更し、データ・タイプの限界を調整して、照会をもう一度実行してください。データ・タイプの制限についての詳細な説明は、使用しているデータベースの「DB2 UDB for z/OS Application Programming and SQL Guide」を参照してください。

SQLCODE: -00604 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35607

メッセージ: このカタログ・オブジェクトに対して &V1 は使用できません。

説明: SQL ステートメントで指定されたどのカタログ・オブジェクトに対しても INSERT、UPDATE または DELETE は使用できません。カタログ・オブジェクト SYSINDEXES、SYSKEYS および SYSINDEXPART で、索引の DEFER YES オプションは使用できません。

ユーザーの処置: この操作は行わないようにしてください。

SQLCODE: -00607 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35612

メッセージ: DSQ30612 を参照してください。

DSQ35614

メッセージ: 選択された列に索引を付けることができません。

説明: CMS のもとでは、LONG VARCHAR 列または LONG VARGRAPHIC 列に索引を付けることはできません。

TSO のもとでは、許容最大長が 254 文字を超え

る VARCHAR に索引を付けることはできません。

CMS または TSO のもとでは、列のグループの内部長さの合計が 255 文字を超えている場合には、そのグループに索引を付けることはできません。

ユーザーの処置: 列を 1 つまたは 2 つ以上除外するか、または長い列を短い列で置き換えることによって、索引定義または初期キー定義を修正してください。

SQLCODE: -00614 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35616

メッセージ: &V2 は除去できません。依存している他のオブジェクトがあります。

説明: &V2 は除去できません。 &V3 が &V4 という名前です。それを参照しているからです。

ユーザーの処置: &V2 を除去したいのであれば、それに依存しているすべてのオブジェクトを先に除去してください。

SQLCODE: -00616 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35618

メッセージ: システム・データベースに対しては &V1 はできません。

説明: システム・データベースは、&V1 も含めて特定の操作の対象とすることはできません。

ユーザーの処置: この操作は行わないようにしてください。

SQLCODE: -00618 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35623

メッセージ: 表 &V1 はクラスター索引を 1 つだけ持つことができます。

説明: この CREATE INDEX ステートメントを

実行すると、表 &V1. の 2 番目のクラスター索引が作成されます。1 つの表に複数のクラスター索引があってはなりません。

ユーザーの処置: 既存のクラスター索引の同一性と妥当性を判別してください。新たな索引を作るのであれば、クラスター定義のない索引にしてください。

SQLCODE: -00623 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35636

メッセージ: 区分 &V1 用の区分キーは、昇順または降順の指定になっていません。

説明: この照会は、区分化表 (区分化表スペースの中の表) に対してクラスター索引を作成します。限界キー値指定の中のキー値は、昇順または降順のどちらかで指定する必要があります。

ユーザーの処置: 連続した区分の値が正しく昇順または降順になるように、限界キー値指定を訂正してください。

SQLCODE: -00636 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35644

メッセージ: &V2 の照会の中の &V1 の値が無効です。

説明: &V2 照会で &V1 に指定されている値が有効な値ではありません。

ユーザーの処置: &V2 照会の &V1 に使用できる値は SQL ヘルプを参照してください。

SQLCODE: -00644 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35646

メッセージ: 表スペース &V2 にすでに表が入っています。

説明: CREATE TABLE 照会指定されている表スペース &V2 は既存の表が入っている区分化表

スペースかデフォルトの表です。1つの区分化またはデフォルトの表スペースには、表を1つしか入れられません。

ユーザーの処置: 照会の中で正しい表スペースを使用していることを確かめてください。1つの区分化表スペースまたはデフォルト表スペースの中に、複数の表を作成しようとししないでください。

SQLCODE: -00646 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35647

メッセージ: バッファースペース &V1 はアクティブになっていなければなりません。

説明: 表スペースまたは索引スペースに対する CREATE または ALTER 照会の中で指定されているバッファースペース &V1 が、アクティブになっていません。そのバッファースペースは NUNPAGES = 0 となっています。

表スペースまたは索引スペースは、現在アクティブであるバッファースペースに対してのみ割り当て (または再割り当てする) ことができます。

ユーザーの処置: CREATE または ALTER ステートメントに正しいバッファースペースの指定があることを確かめてください。正しい場合には、そのバッファースペースをアクティブにして、ステートメントを再実行してください。

SQLCODE: -00647 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35652

メッセージ: プロシージャ &V1 が結果を拒否しました。

説明: &V1 は照会の結果の編集または検証を目的としてインストール先で定義されているプロシージャです。照会の結果が、このプロシージャの要件を満たしていませんでした。

ユーザーの処置: インストール先の編集および検

証プロシージャについては、QMF 管理者に説明を求めてください。

SQLCODE: -00652 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35653

メッセージ: 表 &V1 に区分化索引がありません。

説明: 区分化表 (区分化表スペースの中の表) は、その表に対するクラスター索引が作成されていないかぎり、参照することができません。表 &V1 に対するクラスター索引がありません。

ユーザーの処置: ステートメントに正しい表の指定があることを確かめてください。正しい場合、その表に対するクラスター索引を作成し、ステートメントを再実行してください。

SQLCODE: -00653 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35659

メッセージ: 表オブジェクトの最大サイズを超えました。

説明: 表を構成している1つまたは複数のオブジェクトが、最大サイズに達しました。表を構成している記憶域オブジェクトを以下に示します。

- データ-基本列データが保管されている場所です。
- 索引 - 表のすべての索引が格納されている場所です。
- 長データ - LONG VARCHAR および LONG VARCHARIC 列データが格納されている場所です。
- LOB/LOB - BLOB、CLOB および DBCLOB 列データ、および制御情報が格納されている場所です。

一度記憶域オブジェクトがその最大サイズになると、それ以上拡張することはできません。

ユーザーの処置: オブジェクト内の既存のスペー

スを新規データを保管するのに使用するには、以下を行うことができます。

- 表を再編成する。
- 表から不必要な行を削除する。
- 表から索引を除去する。
- 行を更新してデータの量を減らす。

SQLCODE: -00659 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35662

メッセージ: &V1 は区分化表スペースではありません。

説明: CREATE INDEX 照会に PART 指定が含まれていますが表スペース &V1 は区分化表スペースではありません。

ユーザーの処置: ステートメントに正しい表の指定があることを確かめてください。正しい場合、表を区分化してから区分化索引の作成をしてください。

SQLCODE: -00662 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35663

メッセージ: &V1. の限界キー値の数に誤りがあります。

説明: 少なくとも 1 つの PART 指定の中の限界キー値の数が、ゼロであるか、または索引キー内の列数を超えています。

ユーザーの処置: 限界キー値の値を変更し、操作を続けてください。

SQLCODE: -00663 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35664

メッセージ: 索引 &V1 の限界キー・フィールドが長すぎます。

説明: 区分化索引のためのキーの合計長は、内部的に 40 バイトを超えることはできません。

ユーザーの処置: 索引のキー・フィールドの中で使用する列の合計数を減らしてください。

SQLCODE: -00664 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35665

メッセージ: ALTER ステートメントの PART 文節がないか、無効です。

説明: ALTER ステートメントは次のいずれかの理由で無効です。

1. 表スペース、または索引の区分化が行われていないのに、PART 文節が指定されている。
2. 表スペース、または索引の区分化が行われているのに、PART 文節が指定されていない。
3. PART 文節に指定されている整数が、表のスペースの区分、または索引の区分を識別していない。
4. 装置の移行に USING、PRIQTY、SECQTY または ERASE 文節が指定され、区分が指定されていない。
5. グループ・バッファ・プール・キャッシュ属性を変更するのに GBPCACHE 文節が使用されているのに、区分が指定されていない。

ユーザーの処置: 変更したい表スペースまたは索引が区分化されているかどうかを調べてください。区分化されていれば、変更したい区分を識別する PART 文節を指定してください。区分化されていない場合は、PART 文節を使用しないでください。

SQLCODE: -00665 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35666

メッセージ: ユーティリティ、リソース限定機能、または分散データ機能が実行中です。

説明: システム・ユーティリティが実行中の場合は、照会が実行される前に、実行を完了しなければなりません。リソース限定機能が実行中の場合は、照会が実行される前に、停止されるかまた

は別のリソース限定管理表に切り替えられなければなりません。分散データ機能が実行中の場合、通信データベースのオブジェクトが除去される前に停止していなければなりません。

ユーザーの処置: ユーティリティが終了するまで待つか、またはリソース限定機能が停止するか別のリソース限定管理表に切り替えられるまで待ち、照会を再度実行してください。または、分散データ機能が停止するまで待ち、そのオブジェクトを除去してください。

SQLCODE: -00666 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35667

メッセージ: 索引は DROP INDEX ステートメントでは除去できません。

説明: DROP INDEX ステートメントが、次のいずれかの索引を除去しようとして失敗しました。

- 区分化表スペースに常駐する表のクラスター索引。
- GENERATED BY DEFAULT 属性のある ROWID 列に定義されている固有の索引。

これらのいずれも、明示的に除去することはできません。別のオブジェクトを除去することにより、暗黙的に除去することしかできません。

ユーザーの処置: 区分化表スペース内の表のクラスター索引を除去するには、関連する区分化表スペースを除去してください。

GENERATED BY DEFAULT 属性のある ROWID 列に定義されている固有の索引を除去するには、関連する表を除去してください。

SQLCODE: -00667 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35668

メッセージ: この表には編集プロシージャが付随しているため変更はできません。

説明: 編集プロシージャの付随している表には

列を追加することはできません。ALTER ステートメントは実行されませんでした。

ユーザーの処置: ALTER ステートメントに正しい表を指定してあることを確かめてください。インストール先で定義した編集プロシージャの付随している表の定義を変更してはなりません。

SQLCODE: -00668 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35669

メッセージ: オブジェクトは明示的にドロップできません。

説明: DROP ステートメントは、理由コード &V1 で示される理由で失敗しました。

- 0001- DROP TABLE ステートメントは区分テーブル・スペースにある表をドロップしようとした。
- 0002- DROP INDEX ステートメントは、表の基本キー、固有キー、または参照制約を施行するために必要な索引をドロップしようとした。

ユーザーの処置: ステートメントが DROP TABLE ステートメントの場合、区分テーブル・スペースの表は、表スペース自体がドロップされる場合のみ、暗黙的にドロップされます。

ステートメントが DROP INDEX ステートメントで、基本キー、固有キー、または参照制約を維持したくない場合、ALTER TABLE ステートメントの DROP CONSTRAINT 文節を使用して制約を除去してから索引をドロップします。

DSQ35670

メッセージ: 行の長さが表スペースのページ・サイズを超えています。

説明: 表の行の長さは、その表が入っている表スペースのページ・サイズを超えることはできません。

ユーザーの処置: CREATE TABLE の場合には次のいずれかを行ってください。

1. 列をいくつか除去する。
2. 1 つまたはいくつかの列の幅を短くする。
3. 32K のバッファースペースを備えた表スペースに表を割り当てる。

ALTER TABLE の場合には、新しい列の幅を短くしてください。行の幅がすでに最大限に達している場合には、新たな列を追加することはできません。

SQLCODE: -00670 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35671

メッセージ: ALTER TABLESPACE によるページ・サイズの変更はできません。

説明: バッファースペースの値を変更しようとしたが、これを行うと表スペースのページ・サイズが 4K から 32K に、または 32K から 4K に変更されます。

ユーザーの処置: 表スペースが、4K のバッファースペースの 1 つ (BP0、BP1、または BP2) を使用している場合には、ほかの 4K バッファースペースの 1 つに再割り当てができます。(BP32K に割り当てられている場合には、変更することはできません。)

SQLCODE: -00671 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35676

メッセージ: 32K のバッファースペースは索引には使用できません。

説明: CREATE INDEX 照会の中で、ページ・サイズが 32K のバッファースペースが指定されています。索引に使用できるのは、4K バッファースペース BP0、BP1、および BP2 だけです。

ユーザーの処置: 別のバッファースペースを指定してください。

SQLCODE: -00676 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35677

メッセージ: バッファースペースを拡張するのに十分な記憶域がありません。

説明: このメッセージの原因として、次のいずれかが考えられます。

1. . 表スペースまたは索引スペースのオープンを行なっているときにバッファースペースを作成しようとした。
2. . バッファースペースを、その最大サイズ (MAXPAGES) まで拡張しようとした。
3. . バッファースペースを、ALTER BUFFERPOOL 照会の中で与えられている新たな最小サイズ (Numpages) まで拡張しようとした。

ユーザーの処置: QMF 管理者 に連絡してください。

SQLCODE: -00677 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35678

メッセージ: 限界キーの値が列 &V3. に適合しません。

説明: 列 &V3 に対して指定した限界キーの値が、その列と同じデータ・タイプのものではありません。

ユーザーの処置: 文字データ・タイプの値の場合には、それを一重引用符で囲んでください。

SQLCODE: -00678 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35680

メッセージ: DSQ30602 を参照してください。

DSQ35681

メッセージ: 列 &V1 が、インストール先で定義したフィールド・プロシージャに違反しました。 RT: &V2、RS: &V3、MSG: &V4。

説明: 列 &V1 で、フィールド・プロシーチャーの誤りがありました。下記の戻りコード (RT) で、問題点を調べてください。

- 4 エンコードまたはデコード作業時に、無効な値があったか、または列の定義が無効です。
- 8 パラメーターの値が無効です。
- 12 フィールド・プロシーチャーのエラーが関数のいずれかにありました。

詳細は、理由コード (RS) およびメッセージ (MSG) を利用してください。

ユーザーの処置: フィールド・プロシーチャーに誤りがない場合には、そのフィールド・プロシーチャーに必要な条件を判別してください。フィールド・プロシーチャーに誤りがある場合には、そのフィールド・プロシーチャーを調べてください。

SQLCODE: -00681 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35683

メッセージ: &V1 に非互換文節が含まれていません。

説明: CREATEまたはALTERステートメントのデータ項目指定にエラーがあります。"INTEGER"および"FOR BIT DATA"などの非互換の指定が存在しています。エラーのロケーションは、&V1 で示されます。

- CREATE または ALTER TABLE ステートメントの場合、&V1 はエラーを含む列の名前を示します。エラーは、列 &V1 に対する、FOR BIT DATA、FOR SBCS DATA、FOR MIXED DATA、または FIELDPROC の無効な指定であると考えられます。
- CREATE FUNCTION または CREATE PROCEDURE ステートメントの場合、&V1 は、たとえば "PARAMETER 3" または "RETURNS" または "CAST FROM" のようにステートメント内の問題の場所を示すトークンです。

- CREATE DISTINCT TYPE ステートメントの場合、&V1 は定義されるタイプの名前を指定します。

次の SQLSTATE が戻されました: 42704。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正して、照会を再実行してください。

DSQ35684

メッセージ: &V1 で始まるパラメーター・リストが長すぎます。

説明:

FIELDPROC プログラム名 (パラメーター・リスト)

FIELDPROC では、パラメーター・リストの指定はオプションです。パラメーターの数、および各パラメーターのデータ・タイプは、フィールド・プロシーチャーで決定されます。パラメーター・リストの長さは、最大 254 バイトです。ただし、コンマは長さに数えますが、意味のないブランクと区切りの括弧は、長さには数えません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正して、もう一度、照会を実行してください。

SQLCODE: -00684 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35686

メッセージ: 互に異なるフィールド・プロシーチャーを使って定義された 2 つの列を、比較することはできません。

説明: フィールド・プロシーチャーに従う 2 つの列を比較する場合は、2 つの列のフィールド・プロシーチャーが、同じでなければなりません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正して、もう一度、照会を実行してください。

SQLCODE: -00686 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35687

メッセージ: 列のフィールド・タイプが適合しません。

説明: フィールド・プロシージャをもつ列を別の列と比較する場合には、両方の列が、同じフィールド・プロシージャ、および同じフィールド・タイプでなければなりません。比較は、列にある値がエンコードされた書式で行なわれます。たとえば、エンコードされた値が数字であれば、それらのデータ・タイプは同じでなければなりません。エンコードされた値がストリングであれば、それらのデータ・タイプも適合しなければなりません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正して、もう一度、照会を実行してください。

SQLCODE: -00687 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35735

メッセージ: データベース &V1 は所有サブシステムの共有データベースではありません。

説明: &V1 で示されるデータベース中のオブジェクトにアクセスしようとしてしました。そのデータベースは、アクセスしているサブシステムで ROSHARE READ として定義されています。そのデータベースは所有サブシステムで ROSHARE OWNER として定義されていません。したがって、オブジェクトにアクセスすることはできません。

ユーザーの処置: 正しいオブジェクトが指定されていることを検査してください。

SQLCODE: -00735 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35747

メッセージ: 表の定義が不完全です。

説明: 1 つ、または複数の LOB 列をもつ表をアクセスまたは参照しようとしてしましたが、以下のい

ずれかの状態になっています。

- LOB 列を保管するための補助表が未作成である。
- 補助表に対する索引が未作成である。
- 表スペースの各区分ごとの補助表がない。

ユーザーの処置:

以下にリストしたステップで、必要なステップを行ってください。

1. CREATE TABLESPACE を使用して LOB 表スペースを作成する。
2. CREATE TABLE を使用して、列を保管するための補助表を作成する。
3. CREATE INDEX を使用して、補助表の索引を作成する。

その後照会を実行してください。

SQLCODE: -00747 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35766

メッセージ: DB2 補助表は、直接参照することはできません。

説明: 補助表にあるデータは、補助表名を指定してアクセスすることはできません。補助表にあるデータは、基本表での操作によってのみアクセスできます。

ユーザーの処置: 該当する基本表を使用し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00766 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35801

メッセージ: ゼロによる除算が試みられました。

説明: 列または演算式の処理の結果が、ゼロによる除算となりました。

ユーザーの処置: ステートメントを訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00801 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35802

メッセージ: SQL コマンドの算術演算で、エラーが発生しました。

説明: SQL コマンドで乗算または除算のような算術演算を行おうとしました。しかし、コンピューターは選択された列で 1 つ以上の値が無効であることを検出しました。たとえば、乗算の結果がコンピューター内部記憶域を超えたか、0 による除算になっています。

ユーザーの処置: プログラム例外を起こすデータを決定するためにコマンドの算術演算および列を検査してください。

SQLCODE: -00802 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35803

メッセージ: 固有索引列の中に重複値があります。

説明: 新たな値を挿入しようとしている、または新たな値で更新しようとしている列の 1 つに、その値と同じ値がすでに入っています。その列は、固有索引列です。固有索引列は重複値をとることはできません。

ユーザーの処置: 既存の値と重複することのないように、新たな値を変更してください。そして、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00803 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35805

メッセージ: 現行のプランにプログラムが見つかりません。

説明:

QMF は、アプリケーションのプラン &V2 を実

行しましたが、プログラムには &V1. が必要です。

リモート・データをアクセス中であった場合には、プランの名前が **DISTSERV** に変更されていた可能性があります。

このプログラムは、プラン &V2. には見つかりませんでした。次は、このエラーのいくつかの原因です。

- QMFが、接続先のロケーションでインストールされていない。
- コレクション ID またはロケーション名が、プラン &V2 がバインドされた際に誤っていた。

ユーザーの処置: 詳細な説明については、「*DB2 UDB for z/OS Messages and Codes*」を参照し、この問題については、QMF 管理者に報告してください。

SQLCODE: -00805 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35811

メッセージ: 複数の値を生成する副照会がありません。

説明: 副照会は、表の 2 つ以上の列をもとにして値を生成するものであってはならず、また、多くの場合、2 つの行をもとにして値を生成するものであってはなりません。複数の値を生成する副照会には、**ALL**、**ANY**、**EXISTS**、または **IN** を使用してください。

例：
WHERE DEPT = ANY (SELECT DEPTNUMB
FROM Q.ORG)

HAVING AVG(X) > ALL (SELECT X FROM Y)

WHERE EXISTS (SELECT * FROM X
WHERE N1 = N2)

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00811 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35815

メッセージ: GROUP BY または HAVING 文節を使用する副照会には、ALL、ANY、EXISTS、または IN が必要です。

説明: GROUP BY または HAVING を用いる副照会では複数の値の生成が予測されます。したがって、先行する ALL、ANY、EXISTS、または IN のいずれかのキーワードが必要です。

ユーザーの処置: 照会を訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00815 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35840

メッセージ: 指示照会がデータベースにとって複雑すぎます。

説明: 指示照会を作成、または実行するために必要な内部 QMF 照会が失敗しました。この状況は、内部照会が長すぎるまたは複雑すぎる、または、使用されたすべての表の列の総数が、データベースの限界を超えている場合に発生します。指示照会を使用した照会は、完了または実行できません。

ユーザーの処置: 照会を短くするか、または 2 つ以上の照会として書き直してください。

SQLCODE: -00840 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35900

メッセージ: QMF の使用を続行するにはロケーションに接続する必要があります。

説明: 前のエラーのためにデータベース・サーバーが失われています。QMF の使用を続行したいときには、QMF 接続喪失プロンプト・パネルを使用して別のロケーションに接続するか、または QMF の終了を選ぶことができます。

ユーザーの処置: 別のロケーションに接続することを選んだ場合、有効なロケーションに接続する

ためには正しい値を入力してください。そうでないときは、QMF を終了する必要があります。

SQLCODE: -00900 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35904

メッセージ: リソースを使用できなかったため、実行は不成功に終わりました。理由コードは &V1、リソースのタイプは &V2、リソース名は &V3 です。

説明: タイプ '&V2' のリソース '&V3' が '&V1' で示される理由のため使用できず、要求は実行できませんでした。理由コード &V1 の詳細については「*DB2 UDB for z/OS Messages and Codes*」を参照してください。

これは一時的な条件です。

この条件の一般的な原因は次のとおりです。

- ローカルのオブジェクトを参照したが、リモート・ロケーションに接続されている。たとえば、リモート・ロケーションに接続されているときは、ローカルの表を CREATE、DROP または SELECT できません。
- 参照したリソースが、別のユーザーに所有されている。
- DB2 分散データ機能 (DDF) が停止されていた。CONNECT コマンドがサポートされており、QMF が現在のロケーションから切断されている場合は、接続喪失プロンプト・パネルが表示されます。

ユーザーの処置:

MVS JES ログ情報にアクセスできる場合は、この使用不可リソース・エラーのログ・レコードをブラウズしてください。

ローカルのオブジェクトを参照する必要がありますが、現在リモート・ロケーションに接続されている場合は、ローカルのロケーションに接続して、ローカルのオブジェクトを参照できます。

リソースが一時的に使用不可の場合は、照会を再度行ってください。

DDF が停止して、接続喪失指示が表示される場合、ローカルの DB2 にのみ接続可能になります。

エラー状態が続く場合、QMF 管理者に援助を求めてください。

SQLCODE: -00904 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35905

メッセージ: DB2 のリソース限界を超えたので、実行が失敗しました。リソース名 = &V1.、限界 = &V2.

説明: DB2 のリソース限界を超えたので、SQL ステートメントの実行が終了しました。

- リソースの名前は &V1. です。
- CPU 秒の超過した限度は &V2. です。
- サービス装置の超過した限度は &V3. です。
- 限度を引き出すのに使用されたリソースは、DB2 リソース限定表または DB2 システム・パラメーターのどちらかの名前です。制限リソース名は &V4. です。

ユーザーの処置: DB2 のリソース限界を超えないようにするため、SQL ステートメントの単純化、表および索引の再構成、またはリソース限界の変更を検討してください。さらに援助が必要な場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00905 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35911

メッセージ: データベースの必要な部分が使用中です。

説明: 別のユーザーが処理を完了するまでは、データベース中の必要なオブジェクトをアクセスすることはできません。

ユーザーの処置: QMF セッションを打ち切り、

あとで再度サインオンしてください。

SQLCODE: -00911 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35913

メッセージ: データベースの必要な部分が使用中です。

説明: 別のユーザーが処理を完了するまでは、データベース中の必要なオブジェクトをアクセスすることはできません。

ユーザーの処置: QMF セッションを打ち切り、あとで再度サインオンしてください。

SQLCODE: -00913 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35918

メッセージ: QMF の使用を続行するにはロケーションに接続する必要があります。

説明: 前のエラーのためにデータベース・サーバーが失われています。QMF の使用を続行したいときには、QMF 接続喪失プロンプト・パネルを使用して別のロケーションに接続するか、または QMF の終了を選ぶことができます。

ユーザーの処置: 別のロケーションに接続することを選んだ場合、有効なロケーションに接続するためには正しい値を入力してください。そうでないときは、QMF を終了する必要があります。

SQLCODE: -00918 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35930

メッセージ: ステートメントを処理するのに使用できる記憶域が十分にありません。

説明: 別のメモリー・ページを必要とする要求がデータベース・マネージャーになされましたが、データベース・マネージャーで使用できるメモリーはもうありません。次のような原因が考えられます。

- 実記憶域が不十分である。
- 仮想記憶域が不十分である。
- 実行中のバックグラウンド・プロセスが多すぎる。

ユーザーの処置: 問題を訂正して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00930 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35948

メッセージ: DDF がアクティブでない場合には、リモート・データへはアクセスできません。

説明: ユーザーの照会がリモート・データベースのデータにアクセスしようとしたが、分散データ機能が開始されていません。ユーザーの照会はロール・バックされます。

ユーザーの処置:

QMF の使用を継続することができます。問題が解決しない場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00948 **Database:** DB2
QMF Function: PQ

DSQ35949 - DSQ35954

メッセージ: DSQ31649 を参照してください。

DSQ36007

メッセージ: 照会の中の文字 "&V1" は無効です。

説明: 文字 "&V1" になんらかの誤りがあるために、照会の処理ができません。たとえば、使用位置に誤りがあるか、使用されている文脈では無効です。

ユーザーの処置: "&V1" を除去するか、またはそれを有効な文字に変更してください。

SQLCODE: -00007 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36008 - DSQ36083

メッセージ: DSQ31649 を参照してください。

DSQ36084

メッセージ: このデータベース・マネージャーではそのステートメントは無効です。

説明: 実行しようとしているステートメントは、他のデータベース・マネージャーでは有効であったとしても、DB2 では無効です。DB2 で使用できない SQL ステートメントおよびオプションの詳細なリストは、「DB2 UDB for z/OS Reference Summary」に示されています。

ユーザーの処置: このデータベース・マネージャーを使用しているときは、DB2 のステートメントだけを使用してください。

SQLCODE: -00084 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36085 - DSQ36100

メッセージ: DSQ31649 を参照してください。

DSQ36101

メッセージ: 検索要求に含まれる列または値が多過ぎます。

説明: 次の理由で検索要求を完了できませんでした。

1. 編集している表または視点に含まれる列が多すぎる。
2. または、検索する値の指定が多すぎる。

ユーザーの処置: 更新が必要な列だけを含む視点を作成するか、または検索基準としてより少ない値を指定してください。

SQLCODE: -00101 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36102

メッセージ: '&V3.' で始まる定数 &V1. は長過ぎます。

基準線: ==>&V2.

説明: 数は許可された最大値よりも大きくなっています。文字定数は引用符で囲まなければなりません。引用符で囲むことを省略すると、データは最大長を超えてしまいます。通常、文字ストリングの長さは 254 文字または 2 バイト文字を使用している場合は、124 図形文字となります。

CURRENT SQLID 値は 8 文字で CURRENT DEGREE 値は 3 文字になります。

ユーザーの処置: 定数を修正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00102 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36103

メッセージ: &V3.&V1. は無効な数字です。

基準線: ==>&V2.

説明: &V3. は数字で始まっています。しかし、有効な整数、10 進数、または浮動小数点数ではありません。指定する内容が、

1. 浮動小数点数なら、正または負の符号の次に "E" を付け、その次に指数を指定してください。
2. 文字定数の場合、単一引用符で囲みます。
3. 名前の場合、数字で始めてはなりません。別の名前を指定してください。

ユーザーの処置: &V3. を変更し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00103 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36104

メッセージ: &V1 または &V2. が間違っていて使われています。

説明: 次のことが考えられます。

1. + または * などの演算子がありません (たとえば、SALARY COMM 間の +)。
2. 2 つの演算子を連続して指定しています。 (たとえば、SALARY +* COMM)
3. 予約語を間違って使っています。
4. 左右の括弧の数が対応していません。
5. 演算子が識別できません。
6. 他のデータベース・システムに有効なキーワードを使用しましたが、DB2 には無効です。

ユーザーの処置: 訂正して操作を続けてください。

SQLCODE: -00104 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36105

メッセージ: ステートメントに無効なストリングが指定されています。

説明: ステートメントに無効なストリングが指定されています。有効なストリングは、文字ストリングと漢字ストリングのみです。

ユーザーの処置: 正しい形式のストリングを指定してください。グラフィック・データの場合は、ストリング内で区切り文字が対になっていること、文字G、バイト数が偶数であることを確認してください。

SQLCODE: -00105 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36106

メッセージ: DSQ31649 を参照してください。

DSQ36107

メッセージ: DSQ17107 を参照してください。

DSQ36108 - DSQ36112

メッセージ: DSQ31649 を参照してください。

DSQ36113

メッセージ: 名前 &V3.&V1. に無効な文字が含まれています。

基準線: ==>&V2.

説明: データベース、記憶域グループ、表スペース、およびバッファ・プールの名前に使用できる文字は、英字の大文字、国別文字 (*、&、または @)、または数字だけです。最初の文字は、英字または国別文字でなければなりません。

ユーザーの処置: 名前 &V3 の無効文字を訂正してください。照会を再実行してください。

SQLCODE: -00113 **Database:** DB2

QMF Function: Table Edit

DSQ36114 - DSQ36116

メッセージ: DSQ31649 を参照してください。

DSQ36117

メッセージ: 値の数と列の数が一致しません。

説明: たとえば INSERT INTO Q.STAFF などのステートメントでは、NOT NULL と定義された各列に値を指定しなければなりません。

表名のあとに列のリストを指定しない場合には、VALUES のあとに、表内の各列に関する値を指定します。

表名のあとに列のリストを指定する場合には、VALUES のあとにそのリストの中の各列に関する値を指定します。

例:
INSERT INTO Q.STAFF (ID, NAME, DEPT)
VALUES (400, 'HARRISON', 20)

ユーザーの処置: INSERT INTO によって処理したい個々の列に値を指定して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00117 **Database:** DB2

QMF Function: Table Edit

DSQ36118 - DSQ36149

メッセージ: DSQ31649 を参照してください。

DSQ36150

メッセージ: この視点の中のデータを変更することはできません。

説明: INSERT、UPDATE、または DELETE を次のような視点に使用できません。

1. 複数の表をもととしているもの。
2. 式または組み込み関数によって定義された列を含む視点。例: UNITS*PRICE, AVG(SALARY)
3. DISTINCT または GROUP BY を使用する SELECT ステートメントによって定義されたもの。
4. 参照表にすべての非 NULL 可能列を含まないもの。

ユーザーの処置: 視点の作成に使われた各表を変更するために、それぞれ異なる照会を書いてください。

SQLCODE: -00150 **Database:** DB2

QMF Function: Table Edit

DSQ36151

メッセージ: 列 &V1 は変更できません。

説明: INSERT、UPDATE、または DELETE (SQL の場合) の使用、または I、U、または D (QBE の場合) の使用で、下記の中の列を変更できません。

1. 複数の表に基づく視点
2. 式または組み込み関数によって定義される列を含む視点 例: UNITS*PRICE または AVG(SALARY)
3. DISTINCT または GROUP BY を使用する SELECT ステートメントによって定義された視点
4. 表スペースの区分化キー

5. 列が更新されることのないカタログ表

ユーザーの処置: 視点の作成に使われた各表を変更するために、それぞれ異なる照会を書いてください。

SQLCODE: -00151 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36152 - DSQ36160

メッセージ: DSQ31649 を参照してください。

DSQ36161

メッセージ: 挿入または更新の値が視点定義の条件を満たしていません。

説明: データを変更しようとしている視点の定義の中で、WITH CHECK オプションが使用されています。このような視点の行の挿入または更新を行おうとすると、その結果が視点の定義に適合するかどうかのチェックが必ず行われます。照会の中に、その定義の中の条件を満たさない値があります。

ユーザーの処置: 視点の定義を調べて、変更が拒否された理由を判断し、照会中の該当する値を変更してください。

SQLCODE: -00161 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36162, DSQ36163

メッセージ: DSQ31649 を参照してください。

DSQ36164

メッセージ: 他のユーザーの名前で視点を作成することはできません。

説明: この照会は、修飾子付きの名前 (USERID.TABLENAME という形式の名前) で視点を作成しようとしています。その名前の修飾子があなたの DB2 許可 ID ではありません。自分以外の許可 ID を用いて視点を作成することが

できるのは、“SYSADM” 権限を持つユーザーだけです。

ユーザーの処置: 照会を訂正して再実行するか、または他の人のための視点を作成する許可を得てください。

SQLCODE: -00164 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36165 - DSQ36179

メッセージ: DSQ31649 を参照してください。

DSQ36180

メッセージ: 日時の値 &V1 が無効です。

説明: 有効な日付を表すストリングは、次のいずれかの形式です。

'mm/dd/yyyy' 'dd.mm.yyyy' 'yyyy-mm-dd'
または LOCAL 形式

有効な時刻を表すストリングは、次のいずれかの形式です。

'mm/dd/yyyy' 'dd.mm.yyyy' 'yyyy-mm-dd'
または LOCAL 形式

有効なタイム・スタンプを表現するストリングは、次の形式です。

'yyyy-mm-dd-hh.mm.ss.nnnnnn'

ユーザーの処置: 日時値の構文を変更して、再度その照会を実行してください。

SQLCODE: -00180 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36181

メッセージ: 日時の値が無効です。

説明: 日時値を表すストリングの値が、範囲外にあります。日時値の正しい範囲は次のとおりです。

年 - 1 から 9999
月 - 1 から 12
日 - 1 から 31
時 - 0 から 24
分 - 0 から 59
秒 - 0 から 59

ユーザーの処置: 日時の値を訂正して、再度照会し直してください。

SQLCODE: -00181 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36182 - DSQ36197

メッセージ: DSQ31649 を参照してください。

DSQ36198

メッセージ: 照会が空であるか、またはコメントしか入っていません。

説明: 空の照会またはコメントだけを含む照会には、処置を指示する命令が入っていないため、実行することはできません。

ユーザーの処置: 別の照会を書いてください。

SQLCODE: -00198 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36199

メッセージ: &V3. またはその前で SQL エラーが起きました。 &V1.

基準線: ==>&V2.

説明: このメッセージは、通常以下の原因によります。

1. 副照会で DISTINCT という語を複数使用。
2. 余分なキーワード、句読点またはそれらの欠落
3. SELECT 後の括弧なしの副照会

以下の行は、これまでの文脈から見れば正しいかもしれませんが、照会全体から見れば正しく働かない可能性があります。

代替シンボルのリストは単なる提案です。これらの中には、使用されているデータベース・マネージャーステートメントとして正しくない場合があります。それらのシンボルは、他のデータベース管理システムに送られると正しいステートメントになる場合があります。&V4.

ユーザーの処置: 照会を訂正して、再実行してください。

SQLCODE: -00199 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36200 - DSQ36202

メッセージ: DSQ31649 を参照してください。

DSQ36203

メッセージ: 列 &V1 が複数の表にあります。

説明: FROM 文節の複数の表または視点にその名前の列がある場合、またはネストされた表の式の複数の列がその名前である場合、非修飾列名は未確定です。列名またはネストされた表の式の相関名が固有である場合のみ、修飾列名は未確定です。

ユーザーの処置: この問題が、ネストされた表の式の非固有列名により起こる場合は、ネストされた表の式を変更して、列が固有になるようにしてください。問題が非修飾名の使用によって起こる場合は、表、視点または相関名で修飾してください。

SQLCODE: -00203 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36204

メッセージ: &V1 が見つかりません。

説明: 照会の中で &V1. が参照されています。データベースにこの名前を持つものはありません。

ユーザーの処置: スペルの誤りがないかどうかを調査してください。

SQLCODE: -00204 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36205

メッセージ: &V1 は、選択された表に定義された列ではありません。

説明: &V1 が列として指定されていますが、選択した表のいずれにもありません。スペルを間違えた可能性があります。&V1 を文字定数として使用する場合は、単一引用符で囲んでください。

ユーザーの処置: DISPLAY Q.COLUMN_LIST コマンドを使用して、使用許可を受けている表のすべての列に関する情報を表として表示できます。列名のスペルを確認した後、列名を訂正するかまたは列 &V1 が入っている表を照会に追加してください。

SQLCODE: -00205 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36206

メッセージ: 照会で指定されている表のいずれにも、列 &V1 がありません。

説明: &V1 は、照会で指定されているどの表または視点の列でもありません。これが文字定数のつもりで入力したものであれば前後に一重引用符を付けてください。

ユーザーの処置: 列の名前を変えるか、または、列 &V1 の入っている表を照会に追加した上で、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00206 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36207 - DSQ36249

メッセージ: DSQ31649 を参照してください。

DSQ36250

メッセージ: 位置の修飾子は使用できません。

説明: 指定された名前には、位置の修飾子があり

ます。3つの部分からなるオブジェクト名は、ローカルの位置名が定義されるまでは使用できません。

ユーザーの処置: 位置の修飾子を除去し、照会を再試行してください。QMF 管理者に連絡して、正しいデータベースを使用していることを確認するか、ローカルの位置名を定義してもらってください。

SQLCODE: -00250 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36251

メッセージ: &V2 は無効な位置名です。

説明: 次のいずれかの状況が起きています。

1. 名前 &V2. の位置がない。
2. &V2 に英字の特殊文字 (#, @, \$) があります。これらの文字は、位置名に使用できません。

ユーザーの処置: 位置名を訂正し、再試行してください。

SQLCODE: -00251 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36270

メッセージ: 関数はサポートされていません。(理由コード =&V1)

説明: 以下のいずれかの理由コードで示されたように制約に違反しているため、ステートメントを処理することができません。

- (1) 基本キーおよび各索引には、表の区分化列がすべて含まれている必要があります。
- (2) 区分化キー列値の更新はサポートされていません。
- (3) 参照保全是サポートされていません。

ユーザーの処置: 理由コードに対応する処置を次に示します。

- (1) CREATE TABLE、ALTER TABLE または CREATE UNIQUE INDEX ステートメントを訂正してください。
- (2) 多重ノード表の区分キー列を更新しないようにしてください。行を削除して、新規の値の行を区分化列に挿入し、更新をシミュレートすることができます。
- (3) CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 文節を除去してください。

SQLCODE: -00270 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36332

メッセージ: DSQ35332 を参照してください。

DSQ36333 - DSQ36350

メッセージ: DSQ31649 を参照してください。

DSQ36351

メッセージ: 位置 &V1. のデータ・タイプが無効です。

説明: アプリケーション・リクエスターによりサポートされない SQL データ・タイプがあります。 &V1 は、無効なデータ・タイプを持つ SQLDA の最初のエレメントです。このエラーの一般的な原因として、アプリケーション・リクエスターがアプリケーション・サーバーにあるラジ・オブジェクト・データを記述しようとしたことが考えられます。このエラーの原因となる SQLTYPE には、LOB、BLOB、CLOB および DBLOB などがあります。

ユーザーの処置: 無効なデータ・タイプを除去し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00351 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36352 - DSQ36398

メッセージ: DSQ31649 を参照してください。

498 QMF: QMF メッセージおよびコード

DSQ36399

メッセージ: ROWID 列に無効な値があります。

説明: ROWID 列に無効な値を挿入しようとした。

ユーザーの処置: 前もって DB2 で生成された ROWID の値だけを ROWID 列に挿入する値として使用することができます。代替手段として、ROWID 列の値としてキーワード DEFAULT を指定した行を挿入するか、または挿入用の列リストから ROWID 列を除去してください。

この状況に使用できる解決策として、OVERRIDING 文節も使用できます。OVERRIDING USER VALUE 文節についての詳細は、「DB2 SQL 解説書」の INSERT を参照してください。

DSQ36400 - DSQ36403

メッセージ: DSQ31649 を参照してください。

DSQ36404

メッセージ: 与えられた値が列 &V1. には長すぎます。

説明: 列 &V1 に入れようとしている文字数が、その列の最大行数を超えています。

ユーザーの処置: その列に収まるように値を変更して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00404 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36405

メッセージ: 数値 &V3.&V1. はユーザー列の許容範囲内にありません。

基準線: ==>&V2.

説明: &V3. は、関連する列で使用できる範囲外の値です。値は、式の結果としての値の場合もあります。

適切な SQL の値の範囲は次のとおりです。

FLOAT -7.2E75 から -5.4E-79, 0,
5.4E-79 から 7.2E75
INTEGER .. -2147483648 から 2147483647
SMALLINT . -32768 から 32767
DECIMAL .. 範囲は、列の精度と位取りによって
決まります。たとえば、精度 = 5、
位取り = 2 で定義された 10 進数の
列に値が指定される場合、その値は
-999.99 から 999.99 までの範囲
です。

ユーザーの処置: 数値を変更し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00405 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36406

メッセージ: 数値が、列に使用できる値の範囲外にあります。

説明: 照会に指定されている値が、関連する列に使用可能な値の範囲内にありません。値は、式の結果としての値の場合もあります。

適切な SQL の値の範囲は次のとおりです。

FLOAT -7.2E75 から -5.4E-79, 0,
5.4E-79 から 7.2E75
INTEGER -2147483648 から 2147483647
SMALLINT ... -32768 から 32767
DECIMAL 範囲は列の精度と位取りによって
決まります。たとえば、精度 = 5、
位取り = 2 で定義された 10 進数の
10 進数の列に指定される場合、
その値は、 -999.99 から 999.99
です。

ユーザーの処置: 許容範囲内の値を指定してください。値を正しい列に入力しているか、確認してください。

SQLCODE: -00406 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36407

メッセージ: 列 &V1 に NULL 値を含めることはできません。

説明: 列 &V1 に対する更新値または挿入値が

NULL でしたが、列 &V1 は表定義の中で NOT NULL と指定されています。行を挿入しようとしている場合には、ある列に値の指定を忘れると、NULL の挿入を望んでいるものと見なされます。

ユーザーの処置: 列 &V1. のための値を入力してください。

SQLCODE: -00407 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36408

メッセージ: 新たな値のデータ・タイプが、列 &V1. に適合しません。

説明: 列 &V1 に入れる新たな値のデータ・タイプがその列のデータ・タイプに一致していません。すなわち、両方とも数値、文字ストリング、漢字ストリング、日付、時刻またはタイム・スタンプでなければなりません。

ユーザーの処置: 列 &V1 に別の値を入力してください。照会を再度、実行してください。

SQLCODE: -00408 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36409

メッセージ: DSQ31649 を参照してください。

DSQ36410

メッセージ: '&V1' が 30 文字を超えています。

説明: 浮動小数点定数の長さは 30 文字を超えることはできません。

ユーザーの処置: &V1 を丸めて、30 文字以下で表されるようにしてください。

SQLCODE: -00410 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36411 - DSQ36412

メッセージ: DSQ31649 を参照してください。

DSQ36413

メッセージ: データ・タイプの変換中に算術オーバーフローが生じました。

説明: 算術オーバーフローが生じたために、算術演算または挿入演算の結果は無効です。たとえば、INTEGER のデータ・タイプを持つ値を SMALLINT のデータ・タイプの列に挿入しようとした可能性があります。INTEGER の値が十分に小さいものであれば変換を正常に行うことができます。しかし、32767 を超える値は、算術オーバーフローを招く結果となります。

ユーザーの処置: 演算を訂正し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00413 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36430

メッセージ: DSQ35430 を参照してください。

DSQ36440

メッセージ: DSQ33440 を参照してください。

DSQ36443

メッセージ: DSQ35443 を参照してください。

DSQ36471

メッセージ: DSQ35471 を参照してください。

DSQ36495

メッセージ: この照会を行うと、DB2 のコストの見積もりの制限を超えます。

説明: DB2 は、この照会でのコストの見積もりが、照会の実行を防ぐリソース限定機能 (DB2 管理プログラム) に指定された制限を超えると判別しました。

照会ステートメントのコスト見積もりの詳細は、次のとおりです。

- コスト見積もりは &V2 サービス単位 * である。
- 指定された制限は &V4 サービス単位 * である。
- DB2 のコスト・カテゴリは '&V3.' である。
- 約 &V1 プロセッサ・ミリ秒ほどかかる。
- * サービス単位はプロセッサ使用量の測定で、異なるプロセッサ・タイプ間でも一貫しています。

ユーザーの処置: コスト・カテゴリ値が 'B' の場合、DB2 管理者に援助を依頼してください。DB2 カタログ統計またはリソース限定表 (RLST) の更新が必要になることがあります。

SQL ステートメントの費やすプロセッサ時間があまりにも多い場合は、より効果的に実行できるようにステートメントを書き直して、照会を再実行してください。

次の事項について検査してください。

- 照会で選択された列で、使用されていないものはないか。
- 不必要な ORDER BY または GROUP BY 文節がないか。
- WHERE 文節が正しく記述されているか。
- 照会に副照会が含まれているか。
- 照会に列関数が含まれているか。

照会によっては、照会から GROUP BY 文節を除去し、代わりに QMF FORM の GROUP 取扱コードを使用すると、簡略化できる場合があります。

また照会によっては、外部結合や CASE 式などの拡張 SQL 構文を使用すると、パフォーマンスが向上する場合があります。

拡張分析の場合、EXPLAIN SQL ステートメントを使用して、照会の構造および実行パフォーマンスについての情報を収集できます。

照会および EXPLAIN ステートメントの詳細については、「DB2 UDB for z/OS SQL Reference」を参照してください。

照会の調整、および効率的な述部および副照会の記述の詳細については、「DB2 UDB for z/OS Administration Guide」を参照してください。

SQLCODE: -00495 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36496 - DSQ36510

メッセージ: DSQ31649 を参照してください。

DSQ36511

メッセージ: この視点の中のデータを変更することはできません。

説明: INSERT、UPDATE、または DELETE を次のような視点に使用できません。

1. 複数の表をもととしているもの。
2. 式または組み込み関数によって定義された列を含む視点。例: UNITS*PRICE, AVG(SALARY)
3. DISTINCT または GROUP BY を使用する SELECT ステートメントによって定義されたもの。
4. 参照表にすべての非 NULL 可能列を含まないもの。

ユーザーの処置: 視点の作成に使われた各表を変更するために、それぞれ異なる照会を書いてください。

SQLCODE: -00511 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36512

メッセージ: リモートのオブジェクトを参照する照会が無効です。

説明: 以下に示した無効条件の 1 つがありません。

1. 照会が複数のロケーションを参照している。

2. 照会が別名を不正に使用している。
3. 照会がリモートのオブジェクトを参照していますが、この参照が無効です。たとえば、現在のロケーション以外のロケーションにある表を CREATE または DROP できません。

ユーザーの処置: リモート・オブジェクトの使用法については、「DB2 UDB for z/OS SQL Reference」を参照してください。

SQLCODE: -00512 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36513

メッセージ: 別名 &V1 は他のローカルカリモートの別名として定義できません。

説明: &V1 によって示されたオブジェクトは、示された位置に存在しますが、その位置で別名として定義されています。

ユーザーの処置: すべてのオブジェクト参照が表された位置にある表、または視点になることを確認するために照会を変更してください。

SQLCODE: -00513 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36514 - DSQ36529

メッセージ: DSQ31649 を参照してください。

DSQ36530

メッセージ: 外部キーの値が無効です。

説明: 更新または挿入照会で、外部キーの値を指定しました。しかし、その値は、親表の基本キーの値のいずれにも等しくありません。

データベースに外部キーの参照制約がある場合は、名前は次のようになります。 &V1.&V2.

ユーザーの処置: 基本キーの値のどれかに一致する外部キーの値を使用してください。

SQLCODE: -00530 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36531

メッセージ: 親行の基本キー &V1 は更新できません。

説明: 更新要求で更新される表の基本キーの値を指定していますが、その基本キーによって指定されている行には関連する従属行があります。親行の基本キーの値は、親行に従属行がある場合は更新できません。

ユーザーの処置: 更新する行として正しい行を指定したか確認してください。親行の基本キーの値を更新する前に、親行に従属行があってはなりません。

SQLCODE: -00531 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36532

メッセージ: RESTRICT 削除規則のため、行は削除できません。

説明: 削除操作で親行を削除しようとした。しかし、その親行は削除できません。それは、RESTRICT の削除規則がこの削除操作によって影響を受ける表と関連しているからです。その親行に RESTRICT の削除規則との関係で従属表が存在するか、または削除が RESTRICT の削除規則との関係で従属表になっている行にカスケードするからです。

ユーザーの処置: 削除する正しい行を選択しているか確認してください。選択している場合は、RESTRICT の削除規則によって従属行を削除した後、親行を削除してください。

SQLCODE: -00532 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36533, DSQ36534

メッセージ: 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: コンピューターは内部的な SQL エラーを

検出しました。パネルの下部にエラー・コードが表示されます。

ユーザーの処置: インストール先の手続きにしたがってエラーを報告し、コマンドが正しく実行されているか検査してください。QMF は継続して使用できます。

DSQ36535

メッセージ: その表の基本キーは更新できません。

説明: 編集しようとしている表は基本キーを含んでいます。基本キーの一部である列は表編集プログラムを使って更新または削除できません。

ユーザーの処置: 更新の必要がある列だけを含む視点を作成、または使用してください。基本キーの一部である列は含めてはなりません。基本キーの更新をしたい場合、基本キーが依存する行を持たないなら SQL または QBE を使ってそれを行うことができます。

SQLCODE: -00535 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36536 - DSQ36539

メッセージ: DSQ36533 を参照してください。

DSQ36540

メッセージ: 表 &V1 には、基本キーの基本索引がありません。

説明: 表 &V1 は使用できません。その表には基本キーはありますが、基本索引がありません。

ユーザーの処置: 表の参照に先立って、その表に対する基本キーを定義してください。

SQLCODE: -00540 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36541 - DSQ36550

メッセージ: DSQ36533 を参照してください。

DSQ36551

メッセージ: これを行う権限がありません。

説明: 行う内容によって次の権限が必要です。

1. 追加モードでは表または視点の編集に SELECT および INSERT の権限が必須です。
2. 検索モードでは表または視点の編集の SELECT 権限が必須です。
3. 更新モードでは表または視点に SELECT 権限が必須です。
 - 表の少なくとも 1 つの列に対する UPDATE 権限 (行の変更のため)
 - DELETE 権限 (行の削除のため)
4. 読み取り専用の視点では行の追加、変更または削除はできません。しかし、行の探索、または表示ができます。

ユーザーの処置: 必要な権限を得るには QMF 管理者に相談してください。

SQLCODE: -00551 **Database:** DB2

QMF Function: Table Edit

DSQ36552

メッセージ: 指定されたオブジェクトが存在しないか、または必要な権限がありません。

説明: 指定されたオブジェクトが存在しないか、または読み取り専用の視点か、または次のような必要とされる権限がありません。

1. 他のユーザーの表または視点から選択する SELECT 権限。
2. 他のユーザーの表または視点に対する INSERT、UPDATE、DELETE または ALTER 権限。 INDEX 権限は、索引を作成するのに必要とされます。
3. 他のユーザーの表または視点に対する権限を付与する (WITH GRANT オプションを用いる) GRANT 権限。

4. FOREIGN KEY または、DROP FOREIGN KEY の実行、または DROP PRIMARY KEY の操作の ALTER 権限。

5. 表の作成、データの保管、または、データベース内のスペースの予約に必要な特定の権限。

ユーザーの処置: 既存のオブジェクトの名前を誤って指定した場合には、正しい名前を使ってください。必要な権限がない場合には、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00552 **Database:** DB2

QMF Function: Table Edit

DSQ36553

メッセージ: DSQ36533 を参照してください。

DSQ36554

メッセージ: 自分自身に対して特権を付与することはできません。

説明: 特権は、所定の権限を持つユーザーが別のユーザーに対してのみ付与できます。ただし、SQLRULES(STD) が有効であるか、または CURRENT RULES に STD が含まれている場合は、自分自身への GRANT が可能です。

ユーザーの処置: 特権の追加付与を受けたい場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00554 **Database:** DB2

QMF Function: Table Edit

DSQ36555

メッセージ: 自分自身が保有している特権を取り消すことはできません。

説明: あるユーザーが持っている特権を取り消すことができるのは、所定の権限を持つ別のユーザーだけです。ただし、SQLRULES(STD) が有効であるか、または CURRENT RULES に STD が含まれている場合は、自分自身への GRANT が可能です。

ユーザーの処置: 自分の持つデータベース特権のいずれかを削減したい場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00555 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36556

メッセージ: この特権を &V1. から取り消すことはできません。

説明: 取り消そうとしている特権を &V1 が持っていないか、または、その特権を付与したユーザーの許可識別名がユーザー自身のものではありません。取り消すことのできる特権は、ユーザー自身の許可識別名のもとに付与されている特権だけです。

ユーザーの処置: 別の操作に移ってください。

SQLCODE: -00556 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36557, DSQ36558

メッセージ: DSQ36533 を参照してください。

DSQ36559

メッセージ: この時点では GRANT および REVOKE の実行はできません。

説明: システムの許可部分が一時的に使用不可になっています。GRANT および REVOKE 照会の実行はできません。

ユーザーの処置: システムの許可部分が実行されている時点で、照会を再実行してください。詳細は QMF 管理者に問い合わせてください。

SQLCODE: -00559 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36560 - DSQ36570

メッセージ: DSQ36533 を参照してください。

DSQ36571

メッセージ: READ-ONLY の環境においては、リモート更新は許可されません。

説明: リモート・ロケーションでデータの更新、挿入、削除を試みましたが、現行の操作環境ではリモートの読み取り専用になっています。たとえば、サーバー・データベースが、2 フェーズ・コミットをサポートしない場合、CICS 操作環境ではリモート・データの更新はできません。

READ-ONLY 操作環境でリモート・データをアクセスするには、以下のいずれかを使用できます。

- SQL SELECT ステートメント
- QMF DISPLAY コマンド

ユーザーの処置: 引き続き QMF を使用できます。リモート・データを更新する必要がある場合には、サポートしている操作環境に切り換えてください。そうでない場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00571 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36572 - DSQ36600

メッセージ: DSQ36533 を参照してください。

DSQ36601

メッセージ: &V1 は既存の &V2. の名前です。

説明: &V1 という名前のオブジェクトを作成しようとしたが、その名前の &V2 がすでに存在します。

- オブジェクト・タイプが CONSTRAINT で、CREATE か ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 文節または CHECK 文節で &V1 が指定されている場合、表で定義されているすべての参照保全および検査定数は固有である必要があります。
- オブジェクト・タイプが表 / 視点の場合、別名作成ステートメントで指定されている別名は、

指定されている表名 / 視点名と同一です。表名 / 視点は、DB2 サブシステム内にはない場合があります。

ユーザーの処置: 照会の実行前に &V2 &V1 を除去するかまたは &V1. に別の名前を指定してください。

SQLCODE: -00601 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36602, DSQ36603

メッセージ: DSQ36533 を参照してください。

DSQ36604

メッセージ: 許容最大幅を超えている定数を使用しました。

説明: 定数を使用しましたが、その幅が次のいずれかを超えています。エラーの原因は次のとおりです。

- DECIMAL 定数の幅が 15 を超えているか、または小数点桁数がその幅を超えています。
- CHAR、FLOAT、GRAPHIC、VARCHAR、または VARGRAPHIC 定数の長さがデータ・タイプの限界を超えています。

ユーザーの処置: 定数指定を変更し、データ・タイプの限界を調整して、照会をもう一度実行してください。データ・タイプの制限についての詳細な説明は、使用しているデータベース管理システム用の SQL 解説書を参照してください。

SQLCODE: -00604 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36605, DSQ36606

メッセージ: DSQ36533 を参照してください。

DSQ36607

メッセージ: このカタログ・オブジェクトに対して &V1 は使用できません。

説明: SQL ステートメントで指定されたどのカ

タログ・オブジェクトに対しても INSERT、UPDATE または DELETE は使用できません。カタログ・オブジェクト SYSINDEXES、SYSKEYS および SYSINDEXPART で、索引の DEFER YES オプションは使用できません。

ユーザーの処置: この操作は行わないようにしてください。

SQLCODE: -00607 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36608 - DSQ36615

メッセージ: DSQ36533 を参照してください。

DSQ36616

メッセージ: &V2 は除去できません。依存している他のオブジェクトがあります。

説明: &V2 は除去できません。&V3 が &V4 という名前でそれを参照しているからです。

ユーザーの処置: &V2 を除去したいのであれば、それに依存しているすべてのオブジェクトを先に除去してください。

SQLCODE: -00616 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36617

メッセージ: DSQ36533 を参照してください。

DSQ36618

メッセージ: DSQ35618 を参照してください。

DSQ36619 - DSQ36643

メッセージ: DSQ36533 を参照してください。

DSQ36644

メッセージ: &V2 の照会の中の &V1 の値が無効です。

説明: &V2 照会で &V1 に指定されている値が

有効な値ではありません。

ユーザーの処置: &V2 照会の &V1 に使用できる値は SQL ヘルプを参照してください。

SQLCODE: -00644 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36645

メッセージ: DSQ36533 を参照してください。

DSQ36646

メッセージ: 表スペース &V2 にすでに表が入っています。

説明: CREATE TABLE 照会に指定されている表スペース &V2 は既存の表が入っている区分化表スペースかデフォルトの表です。1 つの区分化またはデフォルトの表スペースには、表を 1 つしか入れられません。

ユーザーの処置: 照会の中で正しい表スペースを使用していることを確かめてください。1 つの区分化表スペースまたはデフォルト表スペースの中に、複数の表を作成しようとししないでください。

SQLCODE: -00646 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36647

メッセージ: バッファースペース &V1 はアクティブになっていなければなりません。

説明: 表スペースまたは索引スペースに対する CREATE または ALTER 照会の中で指定されているバッファースペース &V1 が、アクティブになっていません。そのバッファースペースは NUNPAGES = 0 となっています。

表スペースまたは索引スペースは、現在アクティブであるバッファースペースに対してのみ割り当て (または再割り当てする) ことができます。

ユーザーの処置: CREATE または ALTER ステートメントに正しいバッファースペースの指定が

あることを確かめてください。正しい場合には、そのバッファースペースをアクティブにして、ステートメントを再実行してください。

SQLCODE: -00647 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36648 - DSQ36651

メッセージ: DSQ36533 を参照してください。

DSQ36652

メッセージ: プロシージャ &V1 が結果を拒否しました。

説明: &V1 は照会の結果の編集または検証を目的としてインストール先で定義されているプロシージャです。照会の結果が、このプロシージャの要件を満たしていませんでした。

ユーザーの処置: インストール先の編集および検証プロシージャについては、QMF 管理者に説明を求めてください。

SQLCODE: -00652 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36653

メッセージ: 表 &V1 に区分化索引がありません。

説明: 区分化表 (区分化表スペースの中の表) は、その表に対するクラスター索引が作成されていないかぎり、参照することができません。表 &V1 に対するクラスター索引がありません。

ユーザーの処置: ステートメントに正しい表の指定があることを確かめてください。正しい場合、その表に対するクラスター索引を作成し、ステートメントを再実行してください。

SQLCODE: -00653 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36654 - DSQ36658

メッセージ: DSQ36533 を参照してください。

DSQ36659

メッセージ: 表オブジェクトの最大サイズを超えました。

説明: 表を構成している 1 つまたは複数のオブジェクトが、最大サイズに達しました。表を構成している記憶域オブジェクトを以下に示します。

- データ-基本列データが保管されている場所です。
- 索引 - 表のすべての索引が格納されている場所です。
- 長データ - LONG VARCHAR および LONG VARCHARLIC 列データが格納されている場所です。
- LOB/LOB - BLOB、CLOB および DBCLOB 列データ、および制御情報が格納されている場所です。

一度記憶域オブジェクトがその最大サイズになると、それ以上拡張することはできません。

ユーザーの処置: オブジェクト内の既存のスペースを新規データを保管するのに使用するには、以下を行うことができます。

- 表を再編成する。
- 表から不必要な行を削除する。
- 表から索引を除去する。
- 行を更新してデータの量を減らす。

SQLCODE: -00659 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36660, DSQ36661

メッセージ: DSQ36533 を参照してください。

DSQ36662

メッセージ: &V1 は区分化表スペースではありません。

説明: CREATE INDEX 照会に PART 指定が含まれていますが表スペース &V1 は区分化表スペースではありません。

ユーザーの処置: ステートメントに正しい表の指定があることを確かめてください。正しい場合、表を区分化してから区分化索引の作成をしてください。

SQLCODE: -00662 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36663

メッセージ: &V1. の限界キー値の数に誤りがあります。

説明: 少なくとも 1 つの PART 指定の中の限界キー値の数が、ゼロであるか、または索引キー内の列数を超過しています。

ユーザーの処置: 限界キー値の値を変更し、操作を続けてください。

SQLCODE: -00663 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36664

メッセージ: 索引 &V1 の限界キー・フィールドが長すぎます。

説明: 区分化索引のためのキーの合計長は、内部的に 40 バイトを超えることはできません。

ユーザーの処置: 索引のキー・フィールドの中で使用する列の合計数を減らしてください。

SQLCODE: -00664 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36665

メッセージ: DSQ36533 を参照してください。

DSQ36666

メッセージ: ユーティリティ、リソース限定機能、または分散データ機能が実行中です。

説明: システム・ユーティリティが実行中の場合は、照会が実行される前に、実行を完了しなければなりません。リソース限定機能が実行中の場合は、照会が実行される前に、停止されるかまた

は別のリソース限定管理表に切り替えられなければなりません。分散データ機能が実行中の場合、通信データベースのオブジェクトが除去される前に停止していなければなりません。

ユーザーの処置: ユーティリティーが終了するまで待つか、またはリソース限定機能が停止するか別のリソース限定管理表に切り替えられるまで待ち、照会を再度実行してください。または、分散データ機能が停止するまで待ち、そのオブジェクトを除去してください。

SQLCODE: -00666 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36667

メッセージ: 索引は DROP INDEX ステートメントでは除去できません。

説明: DROP INDEX ステートメントが、次のいずれかの索引を除去しようとしてしました。

- 区分化表スペースに常駐する表のクラスター索引。
- GENERATED BY DEFAULT 属性のある ROWID 列に定義されている固有の索引。

これらのいずれも、明示的に除去することはできません。別のオブジェクトを除去することにより、暗黙的に除去することしかできません。

ユーザーの処置: 区分化表スペース内の表のクラスター索引を除去するには、関連する区分化表スペースを除去してください。

GENERATED BY DEFAULT 属性のある ROWID 列に定義されている固有の索引を除去するには、関連する表を除去してください。

SQLCODE: -00667 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36668

メッセージ: この表には編集プロシージャが付随しているため変更はできません。

説明: 編集プロシージャの付随している表には

列を追加することはできません。ALTER ステートメントは実行されませんでした。

ユーザーの処置: ALTER ステートメントに正しい表を指定してあることを確かめてください。インストール先で定義した編集プロシージャの付随している表の定義を変更してはなりません。

SQLCODE: -00668 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36669

メッセージ: DSQ35669 を参照してください。

DSQ36670

メッセージ: 行の長さが表スペースのページ・サイズを超えています。

説明: 表の行の長さは、その表が入っている表スペースのページ・サイズを超えることはできません。

ユーザーの処置: CREATE TABLE の場合には次のいずれかを行ってください。

1. 列をいくつか除去する。
2. 1 つまたはいくつかの列の幅を短くする。
3. 32K のバッファー・プールを備えた表スペースに表を割り当てる。

ALTER TABLE の場合には、新しい列の幅を短くしてください。行の幅がすでに最大限に達している場合には、新たな列を追加することはできません。

SQLCODE: -00670 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36671

メッセージ: ALTER TABLESPACE によるページ・サイズの変更はできません。

説明: バッファー・プールの値を変更しようとしてましたが、これを行うと表スペースのページ・サイズが 4K から 32K に、または 32K から 4K に変更されます。

ユーザーの処置: 表スペースが、4K のバッファーク・プールの 1 つ (BP0、BP1、または BP2) を使用している場合には、ほかの 4K バッファーク・プールの 1 つに再割り当てができます。(BP32K に割り当てられている場合には、変更することはできません。)

SQLCODE: -00671 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36672 - DSQ36675

メッセージ: DSQ36533 を参照してください。

DSQ36676

メッセージ: 32K のバッファーク・プールは索引には使用できません。

説明: CREATE INDEX 照会の中で、ページ・サイズが 32K のバッファーク・プールが指定されています。索引に使用できるのは、4K バッファーク・プール BP0、BP1、および BP2 だけです。

ユーザーの処置: 別のバッファーク・プールを指定してください。

SQLCODE: -00676 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36677

メッセージ: バッファーク・プールを拡張するのに十分な記憶域がありません。

説明: このメッセージの原因として、次のいずれかが考えられます。

1. . 表スペースまたは索引スペースのオープンを行なっているときにバッファーク・プールを作成しようとした。
2. . バッファーク・プールを、その最大サイズ (MAXPAGES) まで拡張しようとした。
3. . バッファーク・プールを、ALTER BUFFERPOOL 照会の中で与えられている新たな最小サイズ (Numpages) まで拡張しようとした。

ユーザーの処置: QMF 管理者 に連絡してください。

SQLCODE: -00677 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36678

メッセージ: 限界キーの値が列 &V3. に適合しません。

説明: 列 &V3 に対して指定した限界キーの値が、その列と同じデータ・タイプのもではありません。

ユーザーの処置: 文字データ・タイプの値の場合には、それを一重引用符で囲んでください。

SQLCODE: -00678 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36679

メッセージ: DSQ36533 を参照してください。

DSQ36680

メッセージ: DSQ30602 を参照してください。

DSQ36681

メッセージ: 列 &V1 が、インストール先で定義したフィールド・プロシージャに違反しました。RT: &V2、RS: &V3、MSG: &V4。

説明: 列 &V1 で、フィールド・プロシージャの誤りがありました。下記の戻りコード (RT) で、問題点を調べてください。

- 4 エンコードまたはデコード作業時に、無効な値があったか、または列の定義が無効です。
- 8 パラメーターの値が無効です。
- 12 フィールド・プロシージャのエラーが関数のいずれかにありました。

詳細は、理由コード (RS) およびメッセージ (MSG) を利用してください。

ユーザーの処置: フィールド・プロシージャに誤りがなければ、そのフィールド・プロシ

ジャーに必要な条件を判別してください。フィールド・プロシージャーに誤りがある場合には、そのフィールド・プロシージャーを調べてください。

SQLCODE: -00681 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36682

メッセージ: DSQ36533 を参照してください。

DSQ36683

メッセージ: DSQ35663 を参照してください。

DSQ36684

メッセージ: &V1 で始まるパラメーター・リストが長すぎます。

説明:

FIELDPROC プログラム名 (パラメーター・リスト)

FIELDPROC では、パラメーター・リストの指定はオプションです。パラメーターの数、および各パラメーターのデータ・タイプは、フィールド・プロシージャーで決定されます。パラメーター・リストの長さは、最大 254 バイトです。ただし、コンマは長さに数えますが、意味のないブラケットと区切りの括弧は、長さには数えません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正して、もう一度、照会を実行してください。

SQLCODE: -00684 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36685 - DSQ36734

メッセージ: DSQ36533 を参照してください。

DSQ36735

メッセージ: データベース &V1 は所有サブシステムの共有データベースではありません。

説明: &V1 で示されるデータベース中のオブジ

ェクトにアクセスしようとした。そのデータベースは、アクセスしているサブシステムで ROSHARE READ として定義されています。そのデータベースは所有サブシステムで ROSHARE OWNER として定義されていません。したがって、オブジェクトにアクセスすることはできません。

ユーザーの処置: 正しいオブジェクトが指定されていることを検査してください。

SQLCODE: -00735 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36736 - DSQ36746

メッセージ: DSQ36533 を参照してください。

DSQ36747

メッセージ: 表の定義が不完全です。

説明: 1 つ、または複数の LOB 列をもつ表をアクセスまたは参照しようとしたが、以下のいずれかの状態になっています。

- LOB 列を保管するための補助表が未作成である。
- 補助表に対する索引が未作成である。
- 表スペースの各区区分ごとの補助表がない。

ユーザーの処置:

以下にリストしたステップで、必要なステップを行ってください。

1. CREATE TABLESPACE を使用して LOB 表スペースを作成する。
2. CREATE TABLE を使用して、列を保管するための補助表を作成する。
3. CREATE INDEX を使用して、補助表の索引を作成する。

その後照会を実行してください。

SQLCODE: -00747 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36748 - DSQ36765

メッセージ: DSQ36533 を参照してください。

DSQ36766

メッセージ: DB2 補助表は、直接参照することはできません。

説明: 補助表にあるデータは、補助表名を指定してアクセスすることはできません。補助表にあるデータは、基本表での操作によってのみアクセスできます。

ユーザーの処置: 該当する基本表を使用し、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00766 Database: DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36798

メッセージ: ROWID GENERATED ALWAYS 列に値を挿入しようとしてしました。

説明: 表に挿入する場合に、ROWID GENERATED ALWAYS 列の &V1. に値が指定されました。VALUE リストの対応するエントリが DEFAULT である場合を除き、GENERATED ALWAYS 列を追加用の列リストに指定することはできません。

ユーザーの処置: 列リストから ROWID 列を除去するか、または VALUE 文節の ROWID ID 列に DEFAULT を指定してください。

SQLCODE: -00798 Database: DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36799, DSQ36800

メッセージ: DSQ36533 を参照してください。

DSQ36801

メッセージ: ゼロによる除算が試みられました。

説明: 列または演算式の処理の結果が、ゼロによる除算となりました。

ユーザーの処置: ステートメントを訂正し、再実行してください。

SQLCODE: -00801 Database: DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36802

メッセージ: SQL コマンドの算術演算で、エラーが発生しました。

説明: SQL コマンドで乗算または除算のような算術演算を行おうとしました。しかし、コンピューターは選択された列で 1 つ以上の値が無効であることを検出しました。たとえば、乗算の結果がコンピューター内部記憶域を超えたか、0 による除算になっています。

ユーザーの処置: プログラム例外を起こすデータを決定するためにコマンドの算術演算および列を検査してください。

SQLCODE: -00802 Database: DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36803

メッセージ: 固有索引列の中に重複値があります。

説明: 新たな値を挿入しようとしている、または新たな値で更新しようとしている列の 1 つに、その値と同じ値がすでに入っています。その列は、固有索引列です。固有索引列は重複値をとることはできません。

ユーザーの処置: 既存の値と重複することのないように、新たな値を変更してください。そして、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00803 Database: DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36804

メッセージ: DSQ36533 を参照してください。

DSQ36805

メッセージ: 現行のプランにプログラムが見つかりません。

説明:

QMF は、アプリケーションのプラン &V2 を実行しましたが、プログラムには &V1. が必要です。

リモート・データをアクセス中であった場合には、プランの名前が DISTSERV に変更されていた可能性があります。

このプログラムは、プラン &V2. には見つかりませんでした。次は、このエラーのいくつかの原因です。

- QMFが、接続先のロケーションでインストールされていない。
- コレクション ID またはロケーション名が、プラン &V2 がバインドされた際に誤っていた。

ユーザーの処置: 詳細な説明については、「DB2 UDB for z/OS Messages and Codes」を参照し、この問題については、QMF 管理者に報告してください。

SQLCODE: -00805 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36806 - DSQ36816

メッセージ: DSQ36533 を参照してください。

DSQ36817

メッセージ: READ-ONLY の環境においては、リモート更新は許可されません。

説明: リモート・ロケーションでデータの更新、挿入、削除を試みましたが、現行の操作環境ではリモートの読み取り専用になっています。たとえば、サーバー・データベースが、2 フェーズ・コミットをサポートしない場合、CICS 操作環境ではリモート・データの更新はできません。

READ-ONLY 操作環境でリモート・データをアク

セスするには、以下のいずれかを使用できます。

- SQL SELECT ステートメント
- QMF DISPLAY コマンド

ユーザーの処置: 引き続き QMF を使用できます。リモート・データを更新する必要がある場合には、サポートしている操作環境に切り換えてください。そうでない場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00817 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36818 - DSQ36839

メッセージ: DSQ36533 を参照してください。

DSQ36840

メッセージ: ユーザーの照会で使用している列の数が多すぎます。

説明: 1つの照会では、どのような単一の表または一連の表からも、データベースで使用できる最大の列の数を超えて、選択または挿入できません。

ユーザーの処置: 使用する列の数をもっと少なくして、照会を書き直してください。SQL の照会の場合には、“SELECT * FROM A, B, C” に類するステートメントを検査してください。このステートメントは、表 A、B、および C からすべての列を選択することを指定しています。

SQLCODE: -00840 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36841 - DSQ36899

メッセージ: DSQ36533 を参照してください。

DSQ36900

メッセージ: QMF の使用を続行するにはロケーションに接続する必要があります。

説明: 前のエラーのためにデータベース・サーバーが失われています。QMF の使用を続行したい

ときには、QMF 接続喪失プロンプト・パネルを使用して別のロケーションに接続するか、または QMF の終了を選ぶことができます。

ユーザーの処置: 別のロケーションに接続することを選んだ場合、有効なロケーションに接続するためには正しい値を入力してください。そうでないときは、QMF を終了する必要があります。

SQLCODE: -00900 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36901 - DSQ36903

メッセージ: DSQ36533 を参照してください。

DSQ36904

メッセージ: リソースを使用できなかったため、実行は不成功に終わりました。理由コードは &V1、リソースのタイプは &V2、リソース名は &V3. です。

説明: タイプ '&V2' のリソース '&V3' が '&V1' で示される理由のため使用できず、要求は実行できませんでした。理由コード &V1 の詳細については「*DB2 UDB for z/OS Messages and Codes*」を参照してください。

これは一時的な条件です。

この条件の一般的な原因は次のとおりです。

- ローカルのオブジェクトを参照したが、リモート・ロケーションに接続されている。たとえば、リモート・ロケーションに接続されているときは、ローカルの表を CREATE、DROP または SELECT できません。
- 参照したリソースが、別のユーザーに所有されている。
- DB2 分散データ機能 (DDF) が停止されていた。CONNECT コマンドがサポートされており、QMF が現在のロケーションから切断されている場合は、接続喪失プロンプト・パネルが表示されます。

ユーザーの処置:

MVS JES ログ情報にアクセスできる場合は、この使用不可リソース・エラーのログ・レコードをブラウズしてください。

ローカルのオブジェクトを参照する必要がありますが、現在リモート・ロケーションに接続されている場合は、ローカルのロケーションに接続して、ローカルのオブジェクトを参照できます。

リソースが一時的に使用不可の場合は、照会を再度行ってください。

DDF が停止して、接続喪失指示が表示される場合、ローカルの DB2 にのみ接続可能になります。

エラー状態が続く場合、QMF 管理者に援助を求めてください。

SQLCODE: -00904 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36905

メッセージ: DB2 のリソース限界を超えたので、実行が失敗しました。リソース名 = &V1.、限界 = &V2.

説明: DB2 のリソース限界を超えたので、SQL ステートメントの実行が終了しました。

- リソースの名前は &V1. です。
- CPU 秒の超過した限度は &V2. です。
- サービス装置の超過した限度は &V3. です。
- 限度を引き出すのに使用されたリソースは、DB2 リソース限定表または DB2 システム・パラメーターのどちらかの名前です。制限リソース名は &V4. です。

ユーザーの処置: DB2 のリソース限界を超えないようにするため、SQL ステートメントの単純化、表および索引の再構成、またはリソース限界の変更を検討してください。さらに援助が必要な場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQLCODE: -00905 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36906

メッセージ: DSQ36533 を参照してください。

DSQ36907

メッセージ: リモートの位置で実行された更新が、成功したかどうか判断できません。

説明: システム・エラーが、更新の実行されたりリモート位置で発生したか、そこの通信に失敗しました。エラーは更新のコミット要求をリモート・ロケーションに送信した後で起きました。DB2 ではコミット操作が成功したかどうか判断できません。コミットが成功した場合、データベースは更新されます。コミットが失敗した場合、更新は取り消されます。

ユーザーの処置: 通信が再確立した後、データ照会をして、コミット操作が成功したかどうか判断してください。

SQLCODE: -00907 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36908 - DSQ36910

メッセージ: DSQ36533 を参照してください。

DSQ36911

メッセージ: DSQ31911 を参照してください。

DSQ36912

メッセージ: DSQ36533 を参照してください。

DSQ36913

メッセージ: DSQ31911 を参照してください。

DSQ36914 - DSQ36917

メッセージ: DSQ36533 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ36918

メッセージ: QMF の使用を続行するにはロケーションに接続する必要があります。

説明: 前のエラーのためにデータベース・サーバーが失われています。QMF の使用を続行したいときには、QMF 接続喪失プロンプト・パネルを使用して別のロケーションに接続するか、または QMF の終了を選ぶことができます。

ユーザーの処置: 別のロケーションに接続することを選んだ場合、有効なロケーションに接続するためには正しい値を入力してください。そうでないときは、QMF を終了する必要があります。

SQLCODE: -00918 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36919 - DSQ36929

メッセージ: DSQ36533 を参照してください。

DSQ36930

メッセージ: ステートメントを処理するのに使用できる記憶域が十分にありません。

説明: 別のメモリー・ページを必要とする要求がデータベース・マネージャーになされましたが、データベース・マネージャーで使用できるメモリーはもうありません。次のような原因が考えられます。

- 実記憶域が不十分である。
- 仮想記憶域が不十分である。
- 実行中のバックグラウンド・プロセスが多すぎる。

ユーザーの処置: 問題を訂正して、照会を再実行してください。

SQLCODE: -00930 **Database:** DB2
QMF Function: Table Edit

DSQ36931 - DSQ36947

メッセージ: DSQ36533 を参照してください。

DSQ36948

メッセージ: DSQ35948 を参照してください。

DSQ36949 - DSQ36999

メッセージ: DSQ36533 を参照してください。

第 7 章 メッセージ DSQ40001・DSQ40594

DSQ40001

メッセージ: プリンターのレコード長が短すぎます。

説明: 使用しているプリンターのレコード長が短すぎて、QMF での最も短い行が収まりません。

ユーザーの処置: QMF の外部でのなんらかの操作によって、プリンターのレコード長を少なくとも 22 に変更し、そして、そのレコード長を超えない行の幅を使用してください。

DSQ40002

メッセージ: ページ行数が &V4 から 999 までの GDDM プリンターを使用してください。

説明: GDDM プリンター &V2 は、ページ行数が少なすぎて &V1 を印刷することができません。このプリンターは、ページ行数 &V3 として定義されています。GDDM プリンターの名前は、PRINT コマンド、PROFILE パネル、または PRINT コマンドのプロンプト・パネルのいずれかで、オプションとして指定できます。

ユーザーの処置: &V4 から 999 までのページ行数をもつ GDDM プリンターの名前を入力してください。

DSQ40013

メッセージ: インポートしようとしているファイルが不完全です。

説明: IMPORT コマンドの中で指名されている外部データ・セットには、QMF 照会に必要なレコードのいくつかが含まれていません。そのファイルは、エクスポートのさいの外部スペースの不足が原因で一部が切り捨てられるか、または QMF の外部で編集された可能性があります。(書式または QBE 照会を QMF の外部で編集し

ようとししないでください。)

ユーザーの処置: ファイルを再度エクスポートして、インポートしなおしてください。

DSQ40014

メッセージ: インポートしようとしているファイルが空です。

説明: なにも入っていない QBE 照会または書式をインポートしようとしています。

ユーザーの処置: インポートする書式または QBE 照会は、まず QMF のもとで作成され、そのあとでエクスポートされたものでなければなりません。ファイルを再度エクスポートして、インポートしなおしてください。また、それを QMF の外部で変更しようとはしないでください。

DSQ40051 - DSQ40066

メッセージ: GDDM エラー &1、重大度 &2、関数 &3。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ40067

メッセージ: 記憶スペースがありません。

説明: 仮想記憶域または QMF 内部バッファー

にスペースがないので、コマンドを実行できません。

ユーザーの処置: RESET DATA コマンドを使用してください。これにより、追加の記憶スペースを使用できます。現在 DATA を使用していない場合、セッションでさらに記憶スペースが必要である可能性があります。エラーが繰り返される場合は、QMF 管理者に連絡してください。QBE 照会を実行中の場合は、メッセージを受け取らなくなるまで、照会操作行を減らしてください。

DSQ40068

メッセージ: 記憶域の解放が失敗しました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ40075 - DSQ40085

メッセージ: DSQ40051 を参照してください。

DSQ40101

メッセージ: DSQ40067 を参照してください。

DSQ40102 - DSQ40104

メッセージ: DSQ40051 を参照してください。

DSQ40105

メッセージ: DSQ40068 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ40106 - DSQ40107

メッセージ: DSQ40067 を参照してください。

DSQ40108 - DSQ40112

メッセージ: DSQ40051 を参照してください。

DSQ40113

メッセージ: DSQ40067 を参照してください。

DSQ40114 - DSQ40117

メッセージ: DSQ40051 を参照してください。

DSQ40118

メッセージ: DSQ40068 を参照してください。

DSQ40119, DSQ40120

メッセージ: DSQ40051 を参照してください。

DSQ40121 - DSQ40122

メッセージ: DSQ40067 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ40123 - DSQ40128

メッセージ: DSQ40068 を参照してください。

DSQ40129, DSQ40130

メッセージ: DSQ40067 を参照してください。

DSQ40131

メッセージ: DSQ40068 を参照してください。

DSQ40132

メッセージ: ウィンドウ・マネージャーは無効なパラメーター・データを渡されました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ40151

メッセージ: DSQ40067 を参照してください。

DSQ40152 - DSQ40154

メッセージ: DSQ40068 を参照してください。

DSQ40155 - DSQ40157

メッセージ: DSQ40067 を参照してください。

DSQ40158, DSQ40159

メッセージ: DSQ40068 を参照してください。

DSQ40160

メッセージ: DSQ40067 を参照してください。

DSQ40161

メッセージ: DSQ40068 を参照してください。

DSQ40201 - DSQ40327

メッセージ: DSQ40051 を参照してください。

DSQ40328

メッセージ: DSQ40067 を参照してください。

DSQ40329

メッセージ: DSQ40068 を参照してください。

DSQ40371 - DSQ40427

メッセージ: DSQ40051 を参照してください。

DSQ40428

メッセージ: DSQ40067 を参照してください。

DSQ40429

メッセージ: DSQ40068 を参照してください。

DSQ40430

メッセージ: DSQ40051 を参照してください。

DSQ40431, DSQ40432

メッセージ: モジュール &1 は無効なパラメーター・データを渡されました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ40433 - DSQ40435

メッセージ: パネル・マネージャーは無効な結果コードを戻されました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ40436

メッセージ: モジュール &1 は、エラーを検出しました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ40437

メッセージ: パネル・マネージャーはパネル変換を決定できません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ40438 - DSQ40439

メッセージ: モジュール &1 は、エラーを検出しました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ40441, DSQ40442

メッセージ: DSQ40067 を参照してください。

DSQ40443 - DSQ40445

メッセージ: FROM のあとの表名 &V1 は表ラベルを必要とします。

説明: FROM のあとに 2 回以上出てくる表名が、修飾子として SQL コマンドに含まれていません。その表名は固有のものではないので、FROM のあとの各表名は、列名を修飾するための固有の表ラベルを必要とします。

ユーザーの処置: FROM のあとの表名にそれぞれ固有の表ラベルを付加して、照会を再実行してください。

DSQ40446, DSQ40447

メッセージ: DSQ40067 を参照してください。

DSQ40451

メッセージ: &V1 は有効なスクロールの値ではありません。

説明: 入力されたスクロールの値は数値でない

か、またはリストに対応する数値がありません。

ユーザーの処置: スクロール先の項目の番号を入力し、ENTER キーを押してください。

DSQ40452, DSQ40453

メッセージ: スクロールの値とスクロール・キーが対応しません。

説明: ある方向へリストをスクロールさせるスクロールの値を入力しましたが、リストをそれとは逆方向にスクロールさせるキーが押されました。

ユーザーの処置: スクロールの値を入力して ENTER キーを押すか、スクロール・キーのどちらかを押してください。

DSQ40455

メッセージ: ここがパネルの境界です。

説明: &V1 による画面の変更は行われませんでした。なぜなら、コマンドを出した時点で、すでにパネルの境界に達していたからです。

ユーザーの処置: 別の操作を続けてください。

DSQ40456

メッセージ: &V1 コマンドは現在実行できません。

説明: このパネルでは無効なコマンドを実行しようとした。または、この操作環境 (例: CICS) では有効でないコマンドを実行しようとした。

ユーザーの処置: 他のコマンドを選択してください。

DSQ40461

メッセージ: パッケージ &2 からの予期されない結果 &1 です。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストー

ルおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ40462

メッセージ: &V1 は有効な選択番号ではありません。

説明: 入力した値は数値でないか、リストで選択できる番号ではありません。

ユーザーの処置: リスト内の有効な選択の前には、番号が前に付いています。この番号を選択し、リストの上部の入力域に入力して、ENTER キーを押してください。

DSQ40463

メッセージ: &V1 は、選択できません。

説明: 入力した値は、リスト内で現在選択できる番号ではありません。

ユーザーの処置: リスト内の有効な選択の前には、番号が前に付いています。この番号を選択し、リストの上部の入力域に入力して、ENTER キーを押してください。

DSQ40464

メッセージ: リストから項目を選択してください。

説明: リストから必要な項目を選択しませんでした。

ユーザーの処置: リストの選択可能な項目には番号が付けられています。リストの最上位のスペースにこれらの番号のいずれかを入力して項目を選択してください。ENTER キーを押してください。

DSQ40465

メッセージ: DSQ40068 を参照してください。

DSQ40466

メッセージ: TOC または索引に対してオブジェクト・タイプは SQL でも QBE でもありません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ40467

メッセージ: &V1 は、文字、または有効なトピック番号ではありません。

説明: 入力した値は、文字、またはリスト内の選択番号ではありません。

ユーザーの処置: 各索引項目には、番号が付いています。番号を選択するか、索引の他の部分に移動する索引文字を入力してください。ENTER キーを押してください。

DSQ40468, DSQ40469

メッセージ: 入力された文字 &V1 の索引にトピックがありません。

説明: 索引に項目がないのに文字が入力されました。

ユーザーの処置: 各索引項目には、番号が付いています。番号を選択するか、索引の他の部分に移動する索引文字を入力してください。ENTER キーを押してください。

DSQ40470

メッセージ: DSQ40068 を参照してください。

DSQ40471

メッセージ: TOC または索引に対してオブジェクト・タイプは SQL でも QBE でもありません。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ40472

メッセージ: &V1 は、固有のトピック・ワードではありません。

説明: 入力されたトピック・ワード &V1 が、無効、または不完全です。

ユーザーの処置: 目次の各項目の前には番号が、後ろにはキーワードが付いています。トピックを見るには、そのトピックの番号、またはキーワードのどちらかを入力してください。キーワードの一部だけを入力した場合、適合するキーワードが2つ以上ある可能性があります。必要とする項目のキーワードを完全に入力して、ENTER キーを押してください。

DSQ40473 - DSQ40476

メッセージ: &V1 は、トピック・ワード、または番号として有効ではありません。

説明: 入力した値 &V1 は、キーワード、または選択番号として無効です。

ユーザーの処置: 目次の各項目の前には番号が、後ろにはキーワードが付いています。トピックを見るには、そのトピックの番号、またはキーワードのどちらかを入力してください。

DSQ40477

メッセージ: DSQ40464 を参照してください。

DSQ40478

メッセージ: TOC または索引に対してオブジェクト・タイプは SQL でも QBE でもありません。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ40479

メッセージ: ヘルプ・パネルで誤ったフォーマットが検出されました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ40480

メッセージ: パッケージ &2 からの予期されない結果 &1 です。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ40481

メッセージ: 必要な記憶域を割り当てることができませんでした。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ40482

メッセージ: DSQ40068 を参照してください。

DSQ40483, DSQ40484

メッセージ: DSQ40481 を参照してください。

DSQ40485

メッセージ: DSQ40068 を参照してください。

DSQ40486

メッセージ: ヘルプ・パネルの置換変数の値が見つかりませんでした。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ40487

メッセージ: ヘルプ・パネルの置換変数の値が長すぎます。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ40488

メッセージ: DSQ40486 を参照してください。

DSQ40489

メッセージ: DSQ40068 を参照してください。

DSQ40490

メッセージ: 特別な QMF メッセージ・ヘルプ変数です。

説明: このセッションの特別なメッセージ・ヘルプ変数は、以下のとおりです。

- QMF 許可 ID の最大長は &LQ です。
- QMF オブジェクト名の最大長は &LN です。
- データベース許可 ID の最大長は &LA です。
- データベースのテーブル名の最大長は < です。
- データベースの列名の最大長は &LC です。
- 指示照会式の最大長は &LE です。
- 現行データベース・サーバー名は &LS です。

DSQ40492

メッセージ: DSQ40487 を参照してください。

DSQ40493

メッセージ: DSQ40481 を参照してください。

DSQ40494

メッセージ: DSQ40068 を参照してください。

DSQ40495

メッセージ: DSQ40481 を参照してください。

DSQ40496

メッセージ: DSQ40068 を参照してください。

DSQ40497

メッセージ: DSQ40486 を参照してください。

DSQ40498

メッセージ: DSQ40486 を参照してください。

DSQ40501

メッセージ: DSQ40479 を参照してください。

DSQ40502 - DSQ40504

メッセージ: DSQ40481 を参照してください。

DSQ40505 - DSQ40507

メッセージ: DSQ40068 を参照してください。

DSQ40508

メッセージ: DSQ40481 を参照してください。

DSQ40509

メッセージ: DSQ40068 を参照してください。

DSQ40510

メッセージ: DSQ40479 を参照してください。

DSQ40511, DSQ40512

メッセージ: DSQ40481 を参照してください。

DSQ40513, DSQ40514

メッセージ: DSQ40487 を参照してください。

DSQ40515

メッセージ: DSQ40068 を参照してください。

DSQ40516

メッセージ: プロンプト・パネル名が長すぎて表示されません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ40517

メッセージ: DSQ40481 を参照してください。

DSQ40518

メッセージ: DSQ40068 を参照してください。

DSQ40519

メッセージ: DSQ40481 を参照してください。

DSQ40520

メッセージ: DSQ40068 を参照してください。

DSQ40521

メッセージ: &V1 がリストできないか、&V2 コマンドに対して無効です。

説明: オブジェクト・タイプ &V1 を入力し、リスト機能キーを使用しましたが、次のいずれかの理由で無効です。

1. オブジェクト・タイプが &V2 コマンドでは無効。
2. リストに対して、有効なオブジェクトではない。

コマンドのプロンプト・パネルで有効なオブジェクト・タイプのリストを調べてください。以下の少なくとも 1 つは有効です。

QUERY FORM PROC TABLE

ユーザーの処置: 入力したオブジェクト・タイプを調べて、それが有効か確認してください。すべてのオブジェクト・タイプを見るには、このフィールドをブランクのままにして、LIST 機能キーを押してください。

DSQ40522

メッセージ: DSQ40481 を参照してください。

DSQ40523

メッセージ: DSQ40479 を参照してください。

DSQ40524

メッセージ: パネル &1 は存在しません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求め、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ40525 - DSQ40526

メッセージ: DSQ40068 を参照してください。

DSQ40527

メッセージ: DSQ40462 を参照してください。

DSQ40528

メッセージ: DSQ40463 を参照してください。

DSQ40529, DSQ40464

メッセージ: DSQ40464 を参照してください。

DSQ40531

メッセージ: DSQ40481 を参照してください。

DSQ40532

メッセージ: DSQ40068 を参照してください。

DSQ40533

メッセージ: このデータベースは 3 部分名をサポートしていません。

説明: 指定された名前にはロケーション修飾子 "&V1" があります。使用中のデータベースはロケーション修飾子をサポートしていません。

ユーザーの処置: ロケーション修飾子 "&V1" を除去してコマンドを再試行してください。QMF 管理者に連絡して、正しいデータベースを使用していることを確認してください。

DSQ40534

メッセージ: このフィールドは、LIST 機能をサポートしていません。

説明: LIST 機能は、フィールドの右に + があるものだけを使用できます。

ユーザーの処置: カーソルを適切なフィールドに移動して、再度 LIST を要求してください。

DSQ40535

メッセージ: 位置が指定された場合、QMF オブジェクトはリストされません。

説明: QMF オブジェクト (照会、プロシージャ、書式) のリスト要求で位置名を使用しました。QMF オブジェクトを参照するためにロケーション名を使用することはできません。現在のデータベースに保管されている QMF オブジェクトだけが使用できます。

ユーザーの処置: 現在のデータベースに保管されている QMF オブジェクトのリストを表示させたい場合、リスト要求に位置名を使用しないでください。

DSQ40540 - DSQ40544

メッセージ: DSQ40481 を参照してください。

DSQ40545 - DSQ40549

メッセージ: DSQ40068 を参照してください。

DSQ40550

メッセージ: DSQ40479 を参照してください。

DSQ40551

メッセージ: DSQ40481 を参照してください。

DSQ40552

メッセージ: DSQ40068 を参照してください。

DSQ40553 - DSQ40556

メッセージ: DSQ40481 を参照してください。

DSQ40557 - DSQ40560

メッセージ: DSQ40068 を参照してください。

DSQ40562

メッセージ: DSQ40481 を参照してください。

DSQ40563

メッセージ: DSQ40068 を参照してください。

DSQ40570 - DSQ40574

メッセージ: DSQ40481 を参照してください。

DSQ40575 - DSQ40578

メッセージ: DSQ40068 を参照してください。

DSQ40579

メッセージ: DSQ40479 を参照してください。

DSQ40594

メッセージ: パネル &1 は存在しません。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

第 8 章 メッセージ DSQ50001・DSQ51305

DSQ50001 - DSQ50011

メッセージ: FP 機能のシステム問題です。
FPCODE = &1。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ50015, DSQ50016

メッセージ: 記憶域の解放が失敗しました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ50017

メッセージ: 無効な機能コード '&1' がモジュールに渡されました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ50018

メッセージ: DSQ40667 を参照してください。

DSQ50019

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50020

メッセージ: &V1. をオープンできません。

説明: ファイルが正常にオープンされない理由として、以下が考えられます。システム・エラー、ハードウェアの問題、またはファイルが空であることなどが考えられます。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して、ファイル &V1. をオープンしようとしたときの詳細を説明してください。

DSQ50021

メッセージ: BLDL エラー。戻りコードは &1。理由コードは &2。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* イン

「ストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ50022, DSQ50023

メッセージ: DSQ40067 を参照してください。

DSQ50024

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50025

メッセージ: DSQ40067 を参照してください。

DSQ50026

メッセージ: 入出力エラー &V1

説明: 入出力エラーが検出されました。システム・メッセージまたは他のオペレーティング・システム情報は次のとおりです。&V1

ユーザーの処置: システム・メッセージの資料がある場合は、エラーに関する詳細を調べてください。エラーを修正して作業を続行してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50027

メッセージ: &V1 をオープンできません。&V2

説明: データ・セットが正常にオープンされない場合、いくつかの原因が考えられます。システム・エラー、ハードウェアの問題、空のデータ・セット、システム・リソースが不十分、または区分化されていないデータ・セットのメンバー名を指定したことなどが考えられます。

ユーザーの処置: メンバー名を特定したら、それを除去し、コマンドを再試行してください。それ以外の原因で問題が起こっている場合には、QMF 管理者に連絡を取り、ファイル &V1 をオープンし、メッセージに付加されたデータを組み込もう

としたときの状況を詳しく説明してください。

DSQ50028

メッセージ: DSQ40067 を参照してください。

DSQ50029

メッセージ: ファイル &V1 がクローズされませんでした。&V2

説明: ファイルが正常にクローズされなかった理由として、以下が考えられます。システム・エラーが生じたか、またはハードウェアに関する問題が生じたか、あるいは要求を満たすシステム・リソースが十分でないことが考えられます。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡を取り、ファイル &V1 をクローズしようとし、また、メッセージに付加されたデータを組み込もうとしたときの詳細を説明してください。

DSQ50030

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50031

メッセージ: DSQ50026 を参照してください。

DSQ50033

メッセージ: DD 名 &1 で自由プールに障害が起きました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50035, DSQ50036

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手

続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。*QMF* は継続して使用できます。

DSQ50037

メッセージ: DSQ40067 を参照してください。

DSQ50038

メッセージ: FILEDEF エラー。戻りコードは &1。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび *QMF* トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。*QMF* は継続して使用できます。

DSQ50039

メッセージ: DYNALLOC エラー。戻りコードは &1。エラー理由コードは &2。情報理由コードは &3。関数 &4。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ50040

メッセージ: DSQ50038 を参照してください。

DSQ50041

メッセージ: DSQ50039 を参照してください。

DSQ50043

メッセージ: DSQ40067 を参照してください。

DSQ50044

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50045

メッセージ: インポートするレコードはデータベースには大きすぎます。

説明: データベースに直接インポートする指示照会レコードの長さは 3,592 文字を超えることはできません。したがって、インポートするファイルの論理レコード長は 3,592 を超えてはなりません。

ユーザーの処置: 3,592 文字を超えるレコードがある場合、そのサイズを小さくする必要があります。3,592 を超える長さの論理レコードを持つ入力ファイルがある場合、小さくしてください。

DSQ50046

メッセージ: DSQ40067 を参照してください。

DSQ50047

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50048

メッセージ: エクスポートするレコードが出力ファイルに対して大きすぎます。

説明: データベースからエクスポートされる照会のレコードのいくつかが作成される出力ファイルのレコード長の最大値を超えています。

ユーザーの処置: 出力ファイルの論理レコード長がエクスポートされる照会中で最大のレコードより大きいかどうか確認してください。データベース中の照会レコードの最大長は 3,200 です。

HTML レコードの最大長は、CMS または CICS で 32,752、MVS では 32,756 です。

DSQ50050, DSQ50051

メッセージ: バッファが小さすぎて、引用符の二重化と一重化を行えません。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ50052

メッセージ: DSQ50017 を参照してください。

DSQ50053

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50054

メッセージ: DSQ50017 を参照してください。

DSQ50055

メッセージ: 無効なパラメーターがモジュール &1 に渡されました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ50056

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50057

メッセージ: DSQ40067 を参照してください。

DSQ50058

メッセージ: 一時データ・キュー &V1 が空です。

説明: コマンドに一時データ・キュー "&V1" の指定がありましたが、それは空です。

ユーザーの処置: 正しいキュー名を入力するか、またはデータが確実に一時データ・キューに書き込まれることを確認してください。その後、コマンドを再実行してください。

DSQ50059

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50060, DSQ50061

メッセージ: DSQ40067 を参照してください。

DSQ50062

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50063

メッセージ: キュー &V1 に対する &V2 の実行中に入出力エラー。

説明: CICS ステートメント "&V2" の処理中に、CICS キュー "&V1" が入出力エラーを受け取りました。

ユーザーの処置: 入出力エラーを訂正するか、または正しいキュー名を使用していることを確認してください。一時データ・キューが CICS DCT に正しく記述されていることを確認してください。OUTPUT として記述されている一時デー

タ・キューからインポートすることはできません。同様に、INPUT として記述されている一時データ・キューにエクスポートすることはできません。入出力エラーを訂正して、コマンドを再実行してください。

DSQ50064

メッセージ: DSQ50017 を参照してください。

DSQ50065, DSQ50066

メッセージ: DSQ50055 を参照してください。

DSQ50067, DSQ50068

メッセージ: &V1 は、有効な CICS キュー・タイプではありません。

説明: キュー・タイプ "&V1" が、コマンドで見つかりましたが、サポートされているキュー・タイプではありません。有効なキュー・タイプは、次のとおりです。

TD 一時データ (CICS を使用している場合)

TS 一時 (補助) 記憶域 (CICS を使用している場合)

ユーザーの処置: 正しいキュー・タイプを入力し、再度コマンドを実行してください。

DSQ50069 - DSQ50072

メッセージ: 名前 &V1 は、キュー・タイプ &V2 を使っている場合、無効です。

説明: キュー名 "&V1" がコマンドで見つかりましたが、CICS キュー・タイプ &V2 を使っている場合は有効ではありません。次の 1 つが、問題の原因である可能性があります。

- 対応するキューのタイプが 'TS' の場合、キュー名が 8 文字を超えている。
- 対応するキューのタイプが 'TD' の場合、キュー名が 4 文字を超えている。

- キュー名の最初の文字として予約されている文字を使用した。最初の文字として、X'FA' から X'FF' を使用してはなりません。これらの文字は CICS での使用が予約された文字です。

ユーザーの処置: 正しい文字を入力し、再度コマンドを実行してください。

DSQ50073

メッセージ: 一時データを削除することはできません。&1 は一時データです。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ50074

メッセージ: CICS キュー &V1 を使用する許可がありません。

説明: コマンドまたはグローバル変数が "&V1" の名前で CICS キューを使用していますが、使用する許可がありません。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して、適切な許可を得てください。

DSQ50075

メッセージ: &V1 が見つかりません。

説明: コマンドに CICS キュー名 "&V1" が見つかりません。

ユーザーの処置: つづりに間違いがないか調べ、キュー名を CICS 環境に定義してください。QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ50076

メッセージ: キュー名 &1 を処理できません。
&2 からのエラー、EIBRESP=&3、EIBRESP2=&4

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ50077

メッセージ: CICS リソース名 &V1 が、使用可能ではありません。

説明: CICS キュー名 "&V1" は、他のユーザーまたはプロセスにより使用されています。

ユーザーの処置: リソースが使用可能になるまで待つか、または QMF 管理者に連絡してヘルプを得てください。

DSQ50078

メッセージ: CICS リソース &V1 には、使用可能なスペースが不十分です。

説明: CICS キュー名 "&V1" には、データを入れるのに十分なスペースがありません。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して追加スペースを得るか、またはデータのサイズを縮小してください。

DSQ50079, DSQ50080

メッセージ: CICS リソース名 &V1 が、使用可能ではありません。

説明: CICS キュー名 "&V1" は "DISABLED" または "NOT OPEN" のいずれかです。

ユーザーの処置: リソースが使用可能になるまで待つか、または QMF 管理者に連絡してヘルプを得てください。

DSQ50081

メッセージ: &V2 のレコード長は、CICS キュー &V1 に対して無効です。

説明: キュー名 "&V1" がコマンドで検出されましたが、"&V2" のレコード長は CICS キューの定義では無効です。次の 1 つが、問題の原因である可能性があります。

1. CICS キューの定義が、QMF 項目のレコードの大きさと一致しない。たとえば、レコードの大きさが CICS キューの定義より大きい QMF オブジェクトを印刷しようとしている場合。プリンターの印刷幅は、PRINT コマンド・オプションとして指定されているか、または QMF プロファイル・オブジェクトで指定されている。
2. CICS から MVS リソースへの一時データ・キューのマッピングが正確ではない。

ユーザーの処置: QMF リソース長または CICS 定義を訂正して、コマンドを再試行してください。

注: リソース変更のタイプによって、CICS 定義を修正する必要がある場合には、CICS を再始動しなければならないことがあります。

DSQ50082

メッセージ: QMF オブジェクトが CICS キュー &V1. に対して大きすぎます。

説明: QMF オブジェクトに 32,767 を超えるレコードが含まれています。これは CICS の一時記憶域キューに書き込める最大値を超えています。

ユーザーの処置: QMF オブジェクトのサイズを小さくするか、またはそのオブジェクトを一時データ・キューに書き込むことが可能な場合には、一時データ・キューを使用してください。一時データ・キューの定義、またはオブジェクト中のレ

コード数の削減については、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ50086 - DSQ50095

メッセージ: ISPF インターフェース・モジュールからエラーが戻されました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50096

メッセージ: DSQ50017 を参照してください。

DSQ50105

メッセージ: 機能コードの指定がないか、または誤っています。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ50106

メッセージ: ID の最初の文字として、"." は指定できません。

説明: "." (ピリオド) は、引用符で囲まれていない名前の最初の文字として使用できません。

ユーザーの処置: 最初の文字として使用されている "." を削除するか、または ".ABC" のように名前全体を二重引用符で囲んでください。ENTER キーを押してください。

DSQ50107, DSQ50108

メッセージ: ID のすべてまたは一部が欠落しています。

説明: 必須の ID を入力していないか、不完全な ID を入力しています。不完全な ID は必要な部分が欠落しています。たとえば、次の例は正しい例です。

SMITH.

これは、"." の後に名前が予期されるので不完全です。この ID を完全な名前として使用したい場合は、次のように二重引用符で囲んでください。たとえば、次のようになります。

"SMITH."

ユーザーの処置: ID を完全な形にするか、または二重引用符で囲み、ENTER キーを押してください。

DSQ50109

メッセージ: ID に対になっていない二重引用符が含まれています。

説明: 名前の先頭、または末尾に二重引用符を使用しましたが、末尾と先頭の二重引用符の数が対応していません。たとえば、次のようになります。

"MY*TABLE

これは、末尾の二重引用符がないので無効です。

ユーザーの処置: 対応する二重引用符を入力して、ENTER キーを押してください。

DSQ50110

メッセージ: DSQ50107 を参照してください。

DSQ50111

メッセージ: ID の中に二重引用符が含まれています。

説明: ID の中に二重引用符は指定できません。たとえば、ABC"XYZ は無効です。二重引用符は名前を囲むために使用できます。たとえば、表の名前、"MY*TABLE*" は有効です。

ユーザーの処置: 途中の二重引用符を削除し、ENTER キーを押してください。

DSQ50112

メッセージ: &C1 が長すぎます。

説明: 有効な ID としては長すぎる名前を入力しました。現在ご使用の、&LS. へのデータベース接続は、以下の長さをサポートします。

- QMF オブジェクト許可 ID には、最大 &LQ. 文字まで指定できます。
- QMF オブジェクト名には、最大 &LN. 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト許可 ID には、最大 &LA. 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト名には、最大 <. 文字まで指定できます。
- データベース列名には、最大 &LC. 文字まで指定できます。

ユーザーの処置: 短い名前を入力して、ENTER を押してください。

DSQ50114

メッセージ: DSQ50109 を参照してください。

DSQ50115, DSQ50116

メッセージ: DSQ50111 を参照してください。

DSQ50121

メッセージ: 変数 &1 の設定が失敗しました。理由コードは &2。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ50150

メッセージ: DSQ50105 を参照してください。

DSQ50151

メッセージ: DSQ40067 を参照してください。

DSQ50152

メッセージ: レコード形式は固定長または可変長でなければなりません。

説明: EXPORT、IMPORT、または PRINT で使用するファイルは、レコード形式が固定長または可変長でなければなりません。RECFM の関する正しい属性については、「*DB2 QMF 解説書*」でコマンドの使用法を調べてください。

ユーザーの処置: QMF の外部の操作によって、使用するファイルのレコード形式を変更してください。

DSQ50153

メッセージ: 誤った DDNAME コード。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ50154

メッセージ: ファイル &V1 はオープンされませんでした。 &V2

説明: ファイルが正常にオープンされない理由として、以下が考えられます。システム・エラーが生じたか、またはハードウェアに関する問題が生じたか、あるいは要求を満たすシステム・リソースが十分でないことが考えられます。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡を取り、ファイル &V1 をオープンしようとし、また、メッセージに付加されたデータを組み込もうとしたときの詳細を説明してください。

DSQ50155

メッセージ: DSQ50026 を参照してください。

DSQ50156

メッセージ: DSQ40067 を参照してください。

DSQ50160

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50161

メッセージ: DSQ40067 を参照してください。

DSQ50162, DSQ50163

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50164

メッセージ: DSQ50029 を参照してください。

DSQ50165

メッセージ: DSQ40067 を参照してください。

DSQ50167

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50168

メッセージ: DSQ50017 を参照してください。

DSQ50169

メッセージ: DSQ50055 を参照してください。

DSQ50170

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50171, DSQ50172

メッセージ: DSQ40067 を参照してください。

DSQ50173

メッセージ: (&1) IXF レコード・タイプが予期されていますが、(&2) が見つかりました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ50174

メッセージ: IXF データ・レコードに到達する前に、予期しないデータの終わりになりました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手

続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ50175

メッセージ: 不明の FSSTATE エラー - エラー・コード - &1。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ50176

メッセージ: OBTAIN エラー。戻りコードは &1。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ50177

メッセージ: DEVTYPE エラー。戻りコードは &1。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しまし

た。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ50179

メッセージ: インポートされるデータ・レコード &V1 の列 &V2 のデータの長さが無効です。

説明: インポートしようとしているファイルまたはデータ・セットのレコード &V1、列 &V2 の可変長データの長さのフィールドの値 &V3 が無効です。この列のデータ・タイプの場合、長さは &V4 から &V5 までの範囲でなければなりません。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: データ・オブジェクトの修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合には、「*QMF* アプリケーション開発の手引き」を参照して、可変長データ・タイプの形式に関する詳しい説明を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50180

メッセージ: インポートされるデータ・レコード &V1 の列 &V2 のヌル標識が無効です。

説明: インポートしているファイルまたはデータ・セットのレコード &V1、列 &V2 のヌル標識が &V3 になっていますが、この値は無効です。列 &V2 の値をヌルにできる場合には、ヌル標識は以下のいずれかにすることができます。

&V4 &V5 &V6 &V7

列 &V2 のデータをヌルにできない場合には、ヌル標識は &V4. でなければなりません。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: データ・オブジェクトの修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して、NULL 標識に関する説明を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50182

メッセージ: インポートされるデータ・レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明: インポートしているファイルまたはデータ・セットのレコード &V1.、列 &V2 の 10 進数データの値が無効です。この値には、10 進数と符号コードだけが含まれていなければなりません。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: データ・オブジェクトの修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して、10 進データの形式に関する説明を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50183

メッセージ: インポートされるデータ・レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明: インポートしているファイルまたはデータ・セットのレコード &V1.、列 &V2 の浮動小数点データの値が無効です。(この値は、正規化されるとアンダーフローを起こします。) このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: データ・オブジェクトの修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して、浮動小数点データの形式に関する説明を調べてください。あるいは、

QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50184, DSQ50185

メッセージ: インポートされるデータ・レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明: インポートしているファイルまたはデータ・セットのレコード &V1. の列 &V2 の漢字 (DBCS) の値が無効です。この値には有効な漢字コードだけが含まれ、漢字フィールド区切り文字が含まれてはなりません。ただし、QMF 形式または IXF 文字フォーマットの列全体を区切る区切り文字は含まれていてもかまいません。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: データ・オブジェクトの修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合には、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して、漢字 (DBCS) データの形式および使用法に関する説明を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50186

メッセージ: DSQ50179 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ50187, DSQ50188

メッセージ: DSQ50184 を参照してください。

DSQ50189, DSQ50190

メッセージ: インポートされるデータ・レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明: インポートしようとしているファイルまたはデータ・セットのレコード &V1.、列 &V2 の文字データ値は無効です。この値には、文字、および漢字フィールド区切り文字で囲まれた漢字 (DBCS) コードだけが含まれていなければなりません。

せん。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: データ・オブジェクトの修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合には、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して、文字と漢字 (DBCS) データの結合に関する説明を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50191

メッセージ: DSQ50179 を参照してください。

DSQ50192, DSQ50193

メッセージ: DSQ50189 を参照してください。

DSQ50194

メッセージ: インポートされるデータ・レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明: インポートするファイルまたはデータ・セットのレコード &V1. の列 &V2 の単精度浮動小数点の値が無効です。データの 5 桁目から 8 桁目が使われていますが、単精度の浮動小数点データでは、この位置は消去されていなければなりません。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: データ・オブジェクトの修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して、浮動小数点データの形式に関する説明を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50195 - DSQ50197

メッセージ: インポートされるデータ・レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明: インポートするファイルまたはデータ・セットのレコード &V1. の列 &V2 の日付データ、

時刻データ、またはタイム・スタンプ・データの値が無効です。このデータはインポートされませんでした。日付、時刻、タイム・スタンプのデータ形式は次のとおりです。

日付データ yyyy-mm-dd
時間データ hh.mm.ss
タイム・スタンプ・データ
 yyyy-mm-dd-hh.mm.ss.nnnnnn

ユーザーの処置: データ・オブジェクトを修正、または作成するアプリケーションを開発している場合は、「QMF アプリケーション開発の手引き」の、日付、時刻、およびタイム・スタンプのデータ形式に関する説明を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50198

メッセージ: DSQ50180 を参照してください。

DSQ50199

メッセージ: DSQ50179 を参照してください。

DSQ50200

メッセージ: 時刻システム・サービスで障害が発生しました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ50202

メッセージ: DSQ50105 を参照してください。

DSQ50203

メッセージ: 検索された照会のレコード &V1 にフィールドがありません。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。T レコード (コード &V1) で始まる表は、フィールド &V2. を含んでいなければなりません。

ユーザーの処置: 照会を作成または修正するアプリケーションを作成している場合、示されたフィールドを追加してください。フィールド番号および記述のリストは、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50204

メッセージ: データベース・オブジェクトを使用しようとしたときに、エラーが検出されました。

説明: データベースからの書式または表示照会を使用しようとしていますが、エラーが発生しました。オブジェクトのロードは完了していません。オブジェクトはそのままでは使用できません。データベースに保管されている書式または指示照会は修正しないでください。

ユーザーの処置: オブジェクトを再度取り出すかまたは再作成し、データベースに保管してください。保管した後、それを使用してください。それでもエラーが発生する場合は、作業の進め方について QMF 管理者に相談してください。

DSQ50205

メッセージ: 検索した照会のレコード &V1 の列のカウン트가無効です。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。検索する照会のレコード &V1 は T レコードで、位置 &V2. に列カウント・フィールド値 &V3 があります。この値は &V4. でなければなりません。

ユーザーの処置: 照会を作成または修正するアプリケーションを作成する場合には、列カウント値を訂正します。指示照会の外部形式の詳細については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50206

メッセージ: 検索した照会のレコード &V1 の列の長さが無効です。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。検索する照会のレコード &V1 は T レコードで、位置 &V2. に無効な列の長さ値 &V3 があります。この値は &V4. でなければなりません。

ユーザーの処置: 照会を作成または修正するアプリケーションを作成する場合には、列の長さ値を訂正してください。指示照会の外部形式の詳細については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50207

メッセージ: 検索する照会のレコード &V1 の列位置は無効です。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。T レコード (レコード&V1) の列 &V3 の R レコード列位置が判別できません。

ユーザーの処置: 照会を作成または修正するアプリケーションを作成する場合、レコード・フィールド値については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50208

メッセージ: 検索した照会のレコード &V1 のデータ値が欠落しています。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあり

ます。レコード &V1. の位置 &V2 に R レコードの列フィールド値が予期されましたが、見つかりません。

ユーザーの処置: 照会を作成または修正するアプリケーションを作成する場合には、示された場所に必要なフィールド値を追加して R レコードを訂正してください。R レコードのフィールド値の詳細については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50209, DSQ50210

メッセージ: DSQ40067 を参照してください。

DSQ50211

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50212

メッセージ: REXX は計算の評価に使えません。

説明: QMF 報告書の計算には REXX が必要です。使用システムでは REXX が使えません。FORM で計算式を作成することはできますが、FORM はエラーになり、報告書を表示することはできません。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ50213

メッセージ: 式に構文エラーがあります。
&V1.

説明: REXX は、式に関し次のエラー・メッセージを返しました。

&V3

以下を行ってください。

ユーザーの処置: 式を訂正し ENTER キーを押

してください。検出されたエラーが FORM.CALC にあり QMF の外 (CMS、TSO または ISPF) で訂正する場合、訂正後 F.CALC を表示し必要な修正を行うことにより、QMF に処置を知らせる必要があります。変更が必要でなくなったら (たとえば式が正しく現われたら)、再び式に文字をタイプしてください。これにより、QMF は、書式を正しく作成したかを確認する妥当性検査を行います。この書式の修正を行わないと、予期しない結果を招く可能性があります。

DSQ50214

メッセージ: 式を評価できません。&V1.

説明: REXX は次のエラー・メッセージを返しました。

&V3

これは、次の式を評価中に発生しました。

&V2 &V4

注: 式の後に '>>>' が続く場合、式は長すぎて右側から切り捨てられます。

ユーザーの処置: 式または置き換える値を訂正し、コマンドを再試行してください。

DSQ50215

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50216

メッセージ: DSQ40067 を参照してください。

DSQ50217

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50218

メッセージ: QMF REXX プログラム DSQCXPR をロードできません。

説明: QMF 報告書の計算には QMF REXX プロ

グラム DSQCXPR が必須です。プログラムがロードできません。計算式、列定義、または書式の条件を作成できますが書式にエラーがあり、報告書は表示できません。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ50219, DSQ50220

メッセージ: レコード &V1. に、予期しないレコード・コード &V2 があります。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。検索した照会のレコード &V1 には &V2 のレコード・コードが含まれています。このレコード・コードは、検索された照会のこの場所では、許可されていません。

ユーザーの処置: 照会を組み立てたり、修正したりするアプリケーションを作成している場合、レコード・コードを訂正してください。指示照会の外部形式の詳しい情報は、「QMF アクセス・リポジトリ・データ解説書」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50221

メッセージ: DSQ40067 を参照してください。

DSQ50222

メッセージ: REXX プログラムは実行されませんでした

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50223

メッセージ: REXX プログラムの処理は中断されました。

説明: システムは REXX プログラムの実行を中

断しました。通常は出した HI (解釈停止) 即時コマンドによるものです。あるユーティリティ・モジュールは、重大なエラー状態を検出した場合、この状態を強制する場合があります。

ユーザーの処置: ユーザーが HI コマンドを出した場合は、ユーザーの対処を継続してください。あるいは、exec または macro から呼び出されたユーティリティ・モジュールに問題がないか調べてください。

DSQ50224

メッセージ: 式 &C1. の結果は REXX 構文エラーになる可能性があります。

説明: REXX 式への PASS NULLS が YES に設定されている場合は、離散データ値に基づいた実行時間に構文エラーが発生するのかを判別するため、NULL データの状態がシミュレートされます。しかし、実行時間のエラーはデータ値が原因である場合がほとんどなので、式は現状のままとなる可能性があります。

ユーザーの処置: 式、PASS NULLS の使用、ターゲット・データを評価してください。次のいずれかを、検討してください。

- この式の PASS NULLS を NO に設定する。
- PASS NULLS 値でデータを処理するために @IF 関数を使用する。
- 現状のままの式を使用する。

DSQ50225 - DSQ50230

メッセージ: CS 機能が無効な入力パラメーターを受け取りました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50232, DSQ50233

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50236

メッセージ: DSQ40067 を参照してください。

DSQ50237

メッセージ: DI 機能の入力として、無効な機能コード '&1' が見つかりました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ50238

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50239

メッセージ: DSQ40067 を参照してください。

DSQ50240

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50245

メッセージ: DSQ50017 を参照してください。

DSQ50246

メッセージ: DSQ50017 を参照してください。

DSQ50247

メッセージ: 2 か国語変換モジュール &1 は、ロードできませんでした。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しまし

た。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ50249

メッセージ: DSQ40067 を参照してください。

DSQ50250 - DSQ50275

メッセージ: CS 機能が無効な入力パラメーターを受け取りました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ50288

メッセージ: DSQ50017 を参照してください。

DSQ50289

メッセージ: モジュール &1 に対する DSQ50055 を参照してください。

DSQ50301

メッセージ: 無効な理由コードが、メッセージ・モジュールに入力されました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しまし

た。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ50302

メッセージ: 無効なタイプの置換変数です。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ50303

メッセージ: メッセージ・バッファーとして使用可能な記憶域がありません。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ50304

メッセージ: 置換変数シンボルの番号が、置換変数の数を超えています。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ50305

メッセージ: 無効なメッセージが見つかりました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ50306

メッセージ: 無効な置換変数の番号がメッセージ・モジュールに入力されました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してくだ

さい。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。 QMF は継続して使用できます。

DSQ50307

メッセージ: 無効な置換変数の長さがメッセージ・モジュールに入力されました。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。オペレーティング・システムについては、「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。 QMF は継続して使用できます。

DSQ50308

メッセージ: メッセージ・モジュールに、未定義のメッセージ番号が見つかりました。未定義のメッセージ番号が見つかりました。

DSQ50309

メッセージ: メッセージの置換情報が多すぎます。未定義のメッセージ番号が見つかりました。

DSQ50310

メッセージ: 無効な理由コードが、メッセージ・モジュールに入力されました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ50311

メッセージ: DSQ50302 を参照してください。

DSQ50312

メッセージ: 無効なメッセージが見つかりました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ50313

メッセージ: メッセージ・バッファを解放することができませんでした。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50314 - DSQ50316

メッセージ: メッセージの置換情報が多すぎます。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ50318

メッセージ: 無効なメッセージ送信元がメッセージ処理プログラムに入力されました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50331

メッセージ: DSQ40067 を参照してください。

DSQ50332

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50333

メッセージ: DSQ40067 を参照してください。

DSQ50334

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50336

メッセージ: 警告メッセージが生成されました。

説明: QMF での作業中に検出された条件に関して、QMF が警告メッセージを生成しました。これらのメッセージは、QMF トレース・データに入ります。そのメッセージは、PF キーの定義、インストール先定義コマンドの定義、QMF コマンド・インターフェースの初期化、または QMF 管理プログラム・ルーチンの初期化、またはリポジトリ管理プログラムが使用可能でないことに関連するものです。リポジトリ管理プログラムが使用可能でない場合、モデルはこのセッションに対して ER から REL に変更されました。

ユーザーの処置: QMF トレース・データの警告メッセージを見てください。これを行う方法がわからない場合、またはメッセージで指定された QMF 事項を熟知していない場合には、QMF 管理者に相談してください。

DSQ50337

メッセージ: 管理プログラム出口が戻りコード &V1. で取り消されました。

説明: QMF 管理プログラム出口の実行中に取り消し要求が行われました。取り消し要求に関する戻りコードは &V1. です。

ユーザーの処置: この特定条件についての詳細は、QMF 管理者に問い合わせてください。

DSQ50338

メッセージ: OK、コマンドは取り消されました。

DSQ50339

メッセージ: 管理プログラムの終了によって、セッションは終了されました。メッセージ・ログを参照してください。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50340

メッセージ: 警告メッセージが生成されました。

説明: CONNECT コマンドの実行中に検出された条件に関して、QMF が警告メッセージを生成しました。QMF トレース・データは、これらのメッセージを含んでいます。このメッセージは、PF キーの定義、インストール先定義コマンドの定義、またはリソース表の処理、またはリポジトリ管理プログラムが使用可能でないことに関連するものです。リポジトリ管理プログラムが使用可能でない場合、モデルはこのセッションに対して ER から REL に変更されました。

ユーザーの処置: QMF トレース・データの警告メッセージを見てください。これを行う方法がわからない場合、またはメッセージで指定された QMF 事項を熟知していない場合には、QMF 管理者に相談してください。

DSQ50341

メッセージ: DSQ50017 を参照してください。

DSQ50342

メッセージ: メッセージ &V2 の定義が無効であるか、または欠落しています。

説明: 指定した ISPF メッセージが存在していないか、またはメッセージ構文に誤りがあります。メッセージ構文はまた、エラーを含んでいる可能性がある ISPF ヘルプ・パネルも定義します。

ユーザーの処置: 既存の ISPF メッセージ名をタ

イプするか、ISPF メッセージ・ライブラリーでの定義を訂正するかしてください。メッセージ構文は、該当の ISPF 資料を参照してください。

DSQ50343

メッセージ: ヘルプ・パネル &V2 がパネル・ライブラリーにありません。

説明: 指定されたヘルプ・パネルは、現行の ISPF パネル・ライブラリーのメンバーではありません。

ユーザーの処置: MESSAGE コマンドの HELP キーワードまたは出口提供のパネル名を訂正するか、パネル・ライブラリーを訂正するかしてください。

DSQ50345

メッセージ: DSQ40067 を参照してください。

DSQ50346

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50351

メッセージ: DDNAME DSQSPILL が割り当てられませんでした。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50352

メッセージ: RDJFCF SYNAD エラー。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50353

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50356, DSQ50357

メッセージ: DSS サーバー機能 (&2) からのエラー・戻りコード (&1)。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50358

メッセージ: DSQ50017 を参照してください。

DSQ50364

メッセージ: SQL ステートメントを入れるにはバッファが小さすぎます。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50365

メッセージ: コマンド・ステートメントを入れるにはバッファが小さすぎます。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50374

メッセージ: CS 機能が無効な入力パラメーターを受け取りました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ50380 - DSQ50391

メッセージ: DSQ40067 を参照してください。

DSQ50392

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50400

メッセージ: プログラム・パラメーター &1 が誤っています。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50401

メッセージ: プログラム・パラメーター &1 の値が欠落しています。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50402

メッセージ: プログラム・パラメーター &2 の値 &1 が正しくありません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50403

メッセージ: プログラム・パラメーターの値 &1 は &2 文字以下でなければなりません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50404

メッセージ: プログラム・パラメーターの値 &1 は、&2 ではなく、数値でなければなりません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50405

メッセージ: 戻される REXX プログラムのパラメーターの数は、&2 ではなく、&1 でなければなりません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50406

メッセージ: K オプションのセッション値は、'&1' ではなく、YES または NO でなければなりません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50407

メッセージ: M オプションのセッション値は、'&1' ではなく、I または B でなければなりません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50408

メッセージ: QMF がバッチ・モードで起動された場合、初期プロシージャを使う必要があります。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50409

メッセージ: QMF セッションが端末装置と関連していない場合は、DSQSSPQN が必要です。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50410

メッセージ: DSQ50017 を参照してください。

DSQ50411

メッセージ: すでに割り当てられているファイルを割り当てようとしてしました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50412

メッセージ: 割り当てられていないファイルをオープンしようとしてしました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50413

メッセージ: すでにオープンされているファイルをオープンしようとしてしました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50414

メッセージ: インポートされるデータの幅がレコード長と一致しません。

説明: インポートしているデータの列の幅がファイルまたはデータ・セットの論理レコード長 (LRECL) と一致していません。QMF 形式のデータでは、LRECL はデータ幅に等しくなければなりません、それは列の幅の合計です。IXF データでは、LRECL はデータ幅に等しくなければなりません、それはこのデータの最小許容幅です。データ幅は &V1. です。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: データ・オブジェクトの修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合には、「*QMF* アプリケーション開発の手引き」を参照して、データ・タイプ幅の説明を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50415

メッセージ: インポートされるデータが不完全です。

説明: 必要なすべてのヘッダー・レコードを読み取る前に、インポートするファイル、またはデータ・セットがキューの終わりに達しました。

CICS において、一時データ・キューからのデータのインポートで、インポートされるデータを入れるのに十分な仮想記憶域がない場合に、この条件が起こります。

読み取られた最後のレコードは、レコード &V1.

でした。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: データ・オブジェクトの修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して、データのヘッダー・レコードの形式と数に関する説明を調べてください。

CICS において、一時データ・キューからのデータのインポートで、ヘッダー・レコードが正しい場合、データ用に使用される仮想記憶域を増やす必要があります。データ用に使用される記憶域を増やす場合、QMF プログラム・パラメーター DSQSBSTG を参照してください。このパラメーターは QMF を開始する場合に指定されます。オペレーティング・システムについては、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」または「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50416

メッセージ: インポートされるデータの列カウントが許容範囲外になっています。

説明: インポートしているデータのヘッダーに列カウント &V1. が含まれていますが、この値は許容範囲である &V2 から &V3. までの範囲に入っていません。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: データ・オブジェクトの修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して、ヘッダー・レコードのデータ列と形式に関する説明を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50417

メッセージ: インポートされるデータのヘッダー・レコード・カウントが無効です。

説明: インポートしているデータのヘッダーには、&V1. のヘッダー・レコード・カウントが含まれています。ファイルの論理レコード長およびデータの列の数から計算すると、ヘッダー・レコードのカウントは &V2. のはずですが、このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: データ・オブジェクトの修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して、ヘッダー・レコードの形式と数に関する説明を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50418, DSQ50419

メッセージ: DSQ50415 を参照してください。

DSQ50420

メッセージ: インポートされるデータ列 &V1 のデータ・タイプ・コードが無効です。

説明: インポートしているデータのヘッダーに、列 &V1. のデータ・タイプ・コードとして認識されない値 "&V2." が含まれています。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: データ・オブジェクトの修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合には、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して、有効なデータ・タイプ・コードのリストを調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50421, DSQ50422

メッセージ: インポートされるデータ列 &V1 の幅が無効です。

説明: インポートしているデータのヘッダーに、列 &V1. の幅として無効な値 &V2 が含まれています。この列のデータ・タイプの場合、幅は &V3. でなければなりません。このデータはイン

ポートされませんでした。

ユーザーの処置: データ・オブジェクトの修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して、データ・タイプと列幅に関する説明を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50423

メッセージ: インポートされるデータ列 &V1 の幅が無効です。

説明: インポートするデータのヘッダーに入っている浮動小数点タイプの列 &V1. の列幅 &V2 が間違っています。列幅の値は、短精度の浮動小数点データの場合は 4、長精度の浮動小数点データの場合は 8 でなければなりません。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: データ・オブジェクトを修正、または作成するアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」のデータ・オブジェクト・ヘッダー・レコードの形式、および浮動小数点データ・タイプを参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50424

メッセージ: インポートされるデータ列 &V1 の幅が無効です。

説明: インポートしているデータのヘッダーに、10 進数タイプの列 &V1. に対して無効な精度または位取りの値が含まれています。精度は &V5.、位取りは &V6.、および幅は &V2. です。位取りの値を精度よりも大きくすることはできず、また、幅は &V3 から &V4. までの範囲でなければなりません。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: データ・オブジェクトを修正、または作成するアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手

引き」のデータ・オブジェクト・ヘッダー・レコードの形式、および 10 進データ・タイプを参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50425 - DSQ50428

メッセージ: インポートされるデータ列 &V1 の幅が無効です。

説明: インポートしているデータのヘッダーに、列 &V1. の幅として無効な値 "&V2." が含まれています。この列のデータ・タイプの場合、幅は &V3 から &V4. までの範囲でなければなりません。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: データ・オブジェクトの修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して、データ・タイプと列幅に関する説明を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50429

メッセージ: インポートされるデータ列 &V1 に対する "NULLS ALLOWED" は無効です。

説明: インポートしているデータのヘッダーに、列 &V1. の "NULLS ALLOWED" 標識の値として認識することのできない値、"&V2." が含まれています。この値は "Y" または "N" でなければなりません。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: データ・オブジェクトの修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して、NULL 標識に関する説明を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50430

メッセージ: DSQ50415 を参照してください。

DSQ50431

メッセージ: 割り当てられていないファイルを読み込もうとしました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50432

メッセージ: オープンされていないファイルを読み込もうとしました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50433

メッセージ: 割り当てられていないファイルをクローズしようとしてしました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50434

メッセージ: オブジェクトのタイプまたはレベルが認識できません。

説明: インポートに関与しているファイルのオブジェクト・タイプまたはレベルが認識できません。インポートしようとするファイルの内容を判別するには、この情報が必要です。

ユーザーの処置: インポートしようとしているオブジェクトが QBE の照会またはバージョン 1 の書式である場合には、再度エクスポートし直してください。これらのオブジェクトは、*QMF* の外部では修正しないようにしてください。バージョン 2 の書式またはデータをインポートしようとしている場合には、「*DB2 QMF* アプリケーシ

ョン開発の手引き」の中の、これらのオブジェクト・タイプのためのヘッダー・レコードの指定に関する説明を参照してください。それでも、問題が解決しない場合は、*QMF* 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50435

メッセージ: DSQ40067 を参照してください。

DSQ50436

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50437

メッセージ: FORM、REPORT、または QUERY オブジェクトを DATA としてインポートできません。

説明: IMPORT DATA コマンドを出しましたが、指定されたソースには FORM、REPORT または QUERY が含まれていました。

ユーザーの処置: データをインポートする場合は、DATA オブジェクトが含まれているソースを指定して、コマンドを再実行してください。別のタイプのオブジェクトをインポートする場合は、IMPORT コマンドを正しい形式で使用してください。

DSQ50438 - DSQ50440

メッセージ: DSQ50421 を参照してください。

DSQ50441

メッセージ: 割り当てられていないファイルを開こうとしました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ50442

メッセージ: ファイル・ポインターはすでにデータの始めを過ぎています (ファイル・レコード番号 = &1)。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50443

メッセージ: インポートされるデータ・ファイルを読み込んだときに、バッファのオーバーフローが生じました。(ファイル・レコード番号 = &1)。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50444

メッセージ: &V1 のレコード形式は &V2. でなければなりません。

説明: インポートまたはエクスポートに関連するファイルのレコード形式が &V1. です。この形式は、インポートまたはエクスポートしようとしているオブジェクトのタイプのレコード形式、すなわち &V2. と適合していません。

ユーザーの処置: コマンドを訂正して、インポート先またはエクスポート先として、別のファイルまたは別のオブジェクト・タイプを指定してください。

DSQ50445

メッセージ: 記憶スペースがありません。

説明: 仮想記憶域または *QMF* 内部バッファにスペースがないので、コマンドを実行できません。

ユーザーの処置: RESET DATA コマンドを使用してください。これにより、追加の記憶スペースを使用できます。現在 DATA を使用していない場合、セッションでさらに記憶スペースが必要である可能性があります。エラーが繰り返される場合は、*QMF* 管理者に連絡してください。QBE 照会を実行中の場合は、メッセージを受け取らなくなるまで、照会操作行を減らしてください。

DSQ50446, DSQ50447

メッセージ: FORM、REPORT、または QUERY オブジェクトを DATA としてインポートできません。

説明: IMPORT DATA コマンドを出しましたが、指定されたソースには FORM、REPORT または QUERY が含まれていました。

ユーザーの処置: データをインポートする場合は、DATA オブジェクトが含まれているソースを指定して、コマンドを再試行してください。別のタイプのオブジェクトをインポートする場合は、IMPORT コマンドを正しい形式で使用してください。

DSQ50448

メッセージ: DSQ50017 を参照してください。

DSQ50449

メッセージ: DSQ50444 を参照してください。

DSQ50450

メッセージ: レコード長は少なくとも &V2. でなければなりません。

説明: インポートに関連するファイルのレコード長が、&V1. です。必要とされる有効なデータを含むにはこの長さでは不足です。インポートしようとしている形式のオブジェクトのレコード長は最低 &V2. が必要です。

ユーザーの処置: 別のファイルを指定するようコ

マンドを修正するか、別のタイプのオブジェクトをインポートしてください。

DSQ50451

メッセージ: インポートされるデータ・レコード・カウントが無効です。

説明: インポート中の IXF 形式のデータの H-タイプのレコード (レコード &V1.) のレコード数フィールドの値 "&V2." が無効です。このフィールドの値は、正の整数でなければなりません。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: IXF 形式のデータ・オブジェクトを修正または作成するアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」の H タイプのレコード内のフィールド、およびそこで使用できる値の説明を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50452

メッセージ: インポートされるデータが不完全です。

説明: 必要なすべてのヘッダー・レコードを読み取る前に、インポートするファイル、またはデータ・セットがキューの終わりに達しました。

CICS において、一時データ・キューからのデータのインポートで、インポートされるデータを入れるのに十分な仮想記憶域がない場合に、この条件が起ります。

読み取られた最後のレコードは、レコード &V1. でした。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: データ・オブジェクトを修正または作成するアプリケーションを開発する場合、データ・ヘッダー・レコードの形式および番号の情報については、「QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。

CICS において、一時データ・キューからのデー

タのインポートで、ヘッダー・レコードが正しい場合、データ用に使用される仮想記憶域を増やす必要があります。データ用に使用される記憶域を増やす場合、QMF プログラム・パラメーター DSQSBSTG を参照してください。このパラメーターは QMF を開始する場合に指定されます。オペレーティング・システムについては、「QMF アプリケーション開発の手引き」または「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50453

メッセージ: インポートされるデータ・レコード &V1 のレコード・タイプ・コードが無効です。

説明: インポート中の IXF 形式データのレコード &V1 は、予期していたタイプ・コード "&V3." の代わりに、"&V2." のレコード・タイプ・コードをもっています。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: IXF 形式のデータ・オブジェクトを修正または作成するアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」の IXF レコード・タイプおよび必要なレコード順序の説明を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50454

メッセージ: インポートされるデータのデータ基準コードが無効です。

説明: インポート中の IXF 形式のデータの T-タイプ・レコードのデータ基準フィールドにある値 "&V1." が無効です。QMF がサポートするこのフィールドの値は、"&V2." だけです。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: IXF 形式のデータ・オブジェクトを修正または作成するアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」の T タイプのレコード内のフィールド、およびそこで使用できる値の説明を参照

してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50455

メッセージ: インポートされるデータのデータ形式コードが無効です。

説明: インポート中の IXF 形式のデータの T-タイプ・レコードのデータ基準フィールドにある値 "&V1." が無効です。QMF がサポートするこのフィールドの値は、"&V2." と "&V3." だけです。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: IXF 形式のデータ・オブジェクトを修正または作成するアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」の T タイプのレコード内のフィールド、およびそこで使用できる値の説明を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50456

メッセージ: インポートされるデータのデータ位置コードが無効です。

説明: インポート中の IXF 形式のデータの T-タイプ・レコードのデータ基準フィールドにある値 "&V1." が無効です。QMF がサポートするこのフィールドの値は、"&V2." だけです。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: IXF 形式のデータ・オブジェクトを修正または作成するアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」の T タイプのレコード内のフィールド、およびそこで使用できる値の説明を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50457

メッセージ: インポートされるデータの列 &V1 のデータ・タイプはサポートされません

説明: インポート中のデータ・オブジェクトの列 &V1 は、短精度の浮動小数点のデータ・タイプをもっていますが、ユーザーが使用しているデータベース・マネージャーの現在のリリースは、このタイプをサポートしません。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: 別のシステムからデータをインポートしている場合は、現在使用中のデータベース・マネージャーがサポートするデータ・タイプをもつ列だけを使って、ほかのシステムにデータをエクスポートするか、または他のシステムにデータを作り直してください。その後、再度、インポート操作を行ってください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50458

メッセージ: インポートされるデータの列カウントが許容範囲外になっています。

説明: インポートしているデータのヘッダーに列カウント &V1. が含まれていますが、この値は許容範囲である &V2 から &V3. までの範囲に入っていません。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: データ・オブジェクトの修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して、ヘッダー・レコードのデータ列と形式に関する説明を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50459

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ50460, DSQ50461

メッセージ: DSQ50452 を参照してください。

DSQ50462

メッセージ: DSQ50453 を参照してください。

DSQ50463 - DSQ50466

メッセージ: インポートされるデータの列 &V1 のデータ・タイプはサポートされません

説明: インポート中のデータ・オブジェクトの列 &V1 は、&V2. のデータ・タイプ・コードをもっています。これは、データ・タイプ DATE、TIME、または TIMESTAMP のいずれかです。ユーザーが使用しているデータベース・マネージャーのリリース・レベルでは、これらのデータ・タイプはサポートされません。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: 別のシステムからデータをインポートしている場合には、現在使用中のデータベース・マネージャーがサポートするデータ・タイプをもつだけを使って、他のシステムにデータをエクスポートするか、またはほかのシステムにデータを作り直してください。その後、再度、インポート操作を行ってください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50467

メッセージ: DSQ50453 を参照してください。

DSQ50468

メッセージ: インポートされるデータの列 &V1 のデータ・クラス・コードが無効です。

説明: インポート中の IXF 形式のデータの C-タイプのレコード &V1 のデータ・クラス・フィールドの値 "&V2." が無効です。QMF がサポートするこのフィールドの値は、&V3. だけです。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: IXF 形式のデータ・オブジェクトを修正または作成するアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」の C タイプのレコード内のフィールド、およびそこで使用できる値の説明を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50469

メッセージ: インポートされるデータの列 &V1 のコード・ページの値が無効です。

説明: インポート中の IXF 形式のデータの C-タイプのレコード &V1 のコード・ページ・フィールドの値 "&V2." が無効です。QMF がサポートするこのフィールドの値は、&V3. だけです。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: IXF 形式のデータ・オブジェクトを修正または作成するアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」の C タイプのレコード内のフィールド、およびそこで使用できる値の説明を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50470

メッセージ: インポートされるデータ列 &V1 のデータ・タイプ・コードが無効です。

説明: インポートしているデータのヘッダーに、列 &V1. のデータ・タイプ・コードとして認識されない値 "&V2." が含まれています。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: データ・オブジェクトの修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合には、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して、有効なデータ・タイプ・コードのリストを調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50471, DSQ50472

メッセージ: インポートされるデータの列 &V1 の開始位置が無効です。

説明: インポート中の IXF 形式のデータの C-タイプのレコード &V1 の開始位置フィールドの値 "&V2." が無効です。この列の開始位置は、&V3. より大きな正の整数でなければなりません。

ん。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: IXF 形式のデータ・オブジェクトを修正または作成するアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」の C タイプのレコード内のフィールド、およびそこで使用できる値の説明を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50473

メッセージ: インポートされるデータ列 &V1 に対する "NULLS ALLOWED" は無効です。

説明: インポートしているデータのヘッダーに、列 &V1. の "NULLS ALLOWED" 標識の値として認識することのできない値、"&V2." が含まれています。この値は "Y" または "N" でなければなりません。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: データ・オブジェクトの修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して、NULL 標識に関する説明を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50474

メッセージ: DSQ50457 を参照してください。

DSQ50475

メッセージ: インポートされるデータ列 &V1 の幅が無効です。

説明: インポートしているデータのヘッダーに、10 進数タイプの列 &V1. に対して無効な精度または位取りの値が含まれています。精度は &V5.、位取りは &V6.、および幅は &V2. です。位取りの値を精度よりも大きくすることはできず、また、幅は &V3 から &V4. までの範囲でなければなりません。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: データ・オブジェクトを修正、または作成するアプリケーションを開発している場合は、「QMF アプリケーション開発の手引き」資料の、データ・オブジェクト・ヘッダー・レコードの形式、および 10 進データ・タイプを参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50476 - DSQ50481

メッセージ: インポートされるデータ列 &V1 の幅が無効です。

説明: インポートしているデータのヘッダーに、列 &V1. の幅として無効な値 "&V2." が含まれています。この列のデータ・タイプの場合、幅は &V3 から &V4. までの範囲でなければなりません。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: データ・オブジェクトの修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して、データ・タイプと列幅に関する説明を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50482 - DSQ50484

メッセージ: DSQ50463 を参照してください。

DSQ50485

メッセージ: DSQ50470 を参照してください。

DSQ50486

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ50487

メッセージ: インポートされるデータ・ファイルを読み込んだときに、バッファのオーバーフローが生じました。(ファイル・レコード番号 = &1)。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。

システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50488

メッセージ: DSQ50453 を参照してください。

DSQ50489

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50490

メッセージ: インポートされるデータの幅がレコード長と一致しません。

説明: インポートしているデータの列の幅がファイルまたはデータ・セットの論理レコード長 (LRECL) と一致していません。QMF 形式のデータでは、LRECL はデータ幅に等しくなければなりません、それは列の幅の合計です。IXF データでは、LRECL はデータ幅に等しくなければなりません、それはこのデータの最小許容幅です。データ幅は &V1. です。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: データ・オブジェクトの修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合は、「*DB2 QMF* アプリケーション開発の手引き」を参照して、データ・タイプの幅に関する説明を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50491

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ50492

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50493

メッセージ: DSQ50446 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ50494, DSQ50495

メッセージ: DSQ50476 を参照してください。

DSQ50496

メッセージ: DSQ50458 を参照してください。

DSQ50501

メッセージ: オブジェクトのタイプまたはレベルが認識できません。

説明: インポートに関与しているファイルのオブジェクト・タイプまたはレベルが認識できません。インポートしようとするファイルの内容を判別するには、この情報が必要です。

ユーザーの処置: インポートしようとしているオブジェクトが QBE の照会またはバージョン 1 の書式である場合には、再度エクスポートし直してください。これらのオブジェクトは、QMF の外部では修正しないようにしてください。バージョン 2 の書式またはデータをインポートしようとしている場合には、「*DB2 QMF* アプリケーション開発の手引き」の中の、これらのオブジェクト・タイプのためのヘッダー・レコードの指定に関する説明を参照してください。それでも、問題が解決しない場合は、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50502

メッセージ: &V1 コマンドに指定されたオブジェクトは処理できません。

説明: ファイルまたはデータ・セット &V2 で、QMF 形式に必要なデータの一部が含まれていないか、データが変更されているか、または新しい

行が &V2 に挿入されたかの状況が生じています。(QMF の外部で QMF 第 1 版の書式または QBE 照会を編集してはなりません。)

ユーザーの処置: オブジェクトを再度エクスポートし、&V1 コマンドを再度入力してください。

DSQ50503 - DSQ50505

メッセージ: DSQ50501 を参照してください。

DSQ50511

メッセージ: ISPF サービス &1 が失敗しました。ISPF エラー・コードは &2 です。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50512

メッセージ: DSQ50017 を参照してください。

DSQ50527 - DSQ50530

メッセージ: PCB ID、MDL ID、ADS フィールド ID、またはインスタンス・カウントは、ゼロでした。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50531

メッセージ: DSQ50502 を参照してください。

DSQ50532

メッセージ: &V1 コマンドに指定されたオブジェクトは処理できません。

説明: &V2 によって所有されているデータベース・オブジェクト &V3 が、QMF 形式に必要な

データの一部を含んでいないか、データが変更されているか、または新しい行が Q.OBJECT_DATA に挿入されているかのいずれかの状況が生じています。(Q.OBJECT_DATA 表に保管されているオブジェクトに対して、行の変更、削除、または挿入してはなりません。)

ユーザーの処置: オブジェクトを再度保管して、&V1 コマンドを再入力してください。

DSQ50540

メッセージ: ISPF サービス &1 が失敗しました。ISPF エラー・コードは &2 です。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ50541

メッセージ: DSQ50017 を参照してください。

DSQ50571, DSQ50572

メッセージ: 入力の処理に必要な記憶域が十分ではありません。

説明: 入力の処理に必要な記憶域が十分ではありません。

ユーザーの処置: 作業域に必要なでないデータが入っている場合は、データをリセットしてください。この方法がうまくいかない場合は、作成した書式を保管するために SAVE または EXPORT コマンドを入力し、QMF を終了し、記憶域を大きくしてください。同じ状態が続く場合には、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ50573

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50576

メッセージ: DSQCISPM から予期しない理由コード、&1 が戻されました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50578

メッセージ: EOF が検出されましたが、トークンが予期されていました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50590

メッセージ: CS 機能が無効な入力パラメーターを受け取りました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50602

メッセージ: 無効な入力パラメーターに '&1' の値があります。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50607

メッセージ: ISPF サービス &1 が失敗しました。ISPF エラー・コードは &2 です。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ50608

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ50621

メッセージ: DSQ50105 を参照してください。

DSQ50622 - DSQ50629

メッセージ: &V1. を使用中に GDDM エラー。詳細はメッセージ・ヘルプを参照してください。

説明: GDDM によって返されるエラー・メッセージは、以下のとおりです。&V2

QMF は、GDDM 機能 &V4 を実行していました。

GDDM 重大度は、&V3 です。

ユーザーの処置:

- 正しい通称を使用しているかを検査してください。
- ADM デフォルト・モジュール内の ADMMNICK ステートメントのロケーションを検査してください。そのステートメントは、"ADMMDFE END" ステートメントの前になければなりません。
- ADMMNICK ステートメントが正しいかどうかを検査してください。
- プリンターへのパスが正しく、操作可能であることを検査してください。
- GDDM エラー・メッセージを見て、指定された処置を取ってください。

DSQ50630

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ50631 - DSQ50640

メッセージ: DSQ50622 を参照してください。

DSQ50641

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50642 - DSQ50646

メッセージ: DSQ50622 を参照してください。

DSQ50650

メッセージ: &V1 の試行期間が期限切れとなりました。

説明: 試行期間が期限切れとなりました。 QMF ライセンス・フィーチャーを注文およびインストールするまでは、これ以上 QMF を使用することはできません。

ユーザーの処置: QMF の発注担当者に連絡してください。

DSQ50651

メッセージ: 試行期間は &V1 日間で終了します。

説明: &V1 日が過ぎると、QMF ライセンス・フィーチャーをインストールするまでは、QMF を使用できなくなります。

ユーザーの処置: 特にありません。必要に応じて、QMF の発注担当者に連絡してください。

DSQ50652 - DSQ50655

メッセージ: QMF プログラム &V1 に予期しない内容が含まれています。

説明: QMF プログラム &V1 の内容が予期しない内容です。正しい &V1 プログラムを提供するまでは、QMF 製品を使用することはできません。

ユーザーの処置:

1. QMF 製品またはフィーチャーが正しくインストールされていることを検査してください。エラーが起きる場合は、修正してから、QMF を使用してみてください。

2. QMF がエラーもなくインストールされていて、QMF プログラム &V1 に正しくアクセスできる場合は、IBM お客様サポートに連絡してください。
-

DSQ50661 - DSQ50663

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50665 - DSQ50668

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ50669

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50670

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ50680, DSQ50681

メッセージ: ISPF サービス &1 が失敗しました。ISPF エラー・コードは &2 です。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ50690

メッセージ: DSQ50017 を参照してください。

DSQ50700

メッセージ: ISPF インターフェース・モジュールからエラーが戻されました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50710

メッセージ: コマンド・インターフェースを初期化するための記憶域が使用できません。

説明: QMF の初期化時に、コマンド・インターフェースの初期化が試みられました。記憶域が不十分なので、この初期化は行うことができません。このセッションでは、コマンド・インターフェース機能は使用できません。

ユーザーの処置: おそらく、記憶域を追加して操作を行う必要があります。ログオフして、やり直すことができます。このエラーが繰り返される場合には、QMF 管理者に相談してください。

DSQ50711, DSQ50712

メッセージ: コマンド・インターフェースのアンカー・ブロックが作成されませんでした。

説明: QMF の初期化時に、コマンド・インターフェースの初期化が試みられました。記憶域のエラーのために、この初期化は行うことができません。このセッションでは、コマンド・インターフェース機能は使用できません。

ユーザーの処置: おそらく、記憶域を追加して操作を行う必要があります。ログオフして、やり直すことができます。このエラーが繰り返される場合には、QMF 管理者に相談してください。

DSQ50713

メッセージ: QMF の終了の過程で、アンカー・ブロックを削除できませんでした。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50714

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50715

メッセージ: DSQ50017 を参照してください。

DSQ50716

メッセージ: DSQ50710 を参照してください。

DSQ50717

メッセージ: QMF の終了の過程で、アンカー・ブロックを削除できませんでした。

DSQ50718

メッセージ: 警告メッセージが生成されました。

説明: QMF での作業中に検出された条件に関して、QMF が警告メッセージを生成しました。これらのメッセージは、QMF トレース・データに入ります。そのメッセージは、PF キーの定義、インストール先定義コマンドの定義、QMF コマンド・インターフェースの初期化、または QMF 管理プログラム・ルーチンの初期化、またはリポジトリ管理プログラムが使用可能でないことに関連するものです。リポジトリ管理プログラムが使用可能でない場合、モデルはこのセッションに対して ER から REL に変更されました。

ユーザーの処置: QMF トレース・データの警告メッセージを見てください。これを行う方法がわからない場合、またはメッセージで指定された QMF 事項を熟知していない場合には、QMF 管理者に相談してください。

DSQ50719, DSQ50720

メッセージ: QMF はすでにアクティブです。2 次セッションは許されません。

説明: すでに QMF がアクティブになっているのに、QMF セッションを呼び出そうとしました。これは許されません。QMF を基本 ISPF アプリケーションとして呼び出したあとで ISPF の分割機能を使用したり、ユーザー・アプリケーション

ョンを実行したりすると、この問題が生じることがあります。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ50730

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ50731

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50740

メッセージ: DSQ50017 を参照してください。

DSQ50741

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ50742

メッセージ: DXEEFI の割り当てに無効なオブジェクト・タイプが指定されました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50743

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ50744 - DSQ50746

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50758

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ50759

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

562 QMF: QMF メッセージおよびコード

DSQ50760

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ50761

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50762

メッセージ: 内部 PCB/MDL/ADS ID の &1/&2/&3 を見付けることができません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50763

メッセージ: パネル ID '&1' が DXEPCB チェーンに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50764

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ50765

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50766

メッセージ: 内部 PCB/MDL/ADS ID の &1/&2/&3 を見付けることができません。

DSQ50767

メッセージ: パネル ID '&1' が DXEPCB チェーンに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ50768

メッセージ: OK、&1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ50769

メッセージ: DSQ50017 を参照してください。

DSQ50770, DSQ50771

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50772, DSQ50773

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ50774

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50775, DSQ50776

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ50777 - DSQ50779

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50780

メッセージ: レコード &V1. の位置 &V2 に無効な表番号 &V3 があります。

説明: T レコード &V1. で有効な表番号が指定されていない書式または指示照会を検索しようとしています。無効な表番号 &V3 は、レコード内の位置 &V2 です。表番号は 4 桁の数字でな

ればなりません。ブランクは指定できません。この T レコードの後の R レコードのすべてのデータ値は無視されます。

ユーザーの処置: 書式または指示照会の、修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合には、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して有効な表番号の全リストを調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、その後の進め方についての援助を受けてください。

DSQ50781

メッセージ: レコード &V1. の位置 &V2 に無効なフィールド番号 &V3 があります。

説明: T レコード &V1. で有効な表番号が指定されていない書式または指示照会をインポートしようとしています。無効なフィールド番号 &V3 は、レコード内の位置 &V2 です。フィールド番号は 4 桁の数字でなければなりません。ブランクは指定できません。このフィールドに関連する後続Rレコード内のすべてのデータ値は無視されます。

ユーザーの処置: 書式または指示照会の、修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合には、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して有効なフィールド番号の全リストを調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、その後の進め方についての援助を受けてください。

DSQ50782

メッセージ: レコード &V1 のフィールド番号 &V3 は表番号 &V4. に属していません。

説明: 列に対する有効なフィールド番号を持つ書式をインポートしようとしたますが、この列は表番号 &V4. に属していません。このフィールド番号はレコードの位置 &V2 にあります。この列のフィールド番号に関連する後続の R レコード内のデータ値は、すべて無視されます。

ユーザーの処置: 書式の修正または組み立てを行なうアプリケーションを開発している場合には、「*QMF アプリケーション開発の手引き*」を参照して、表番号および各表に属する列フィールド番号の完全リストを調べてください。表番号またはフィールド番号のどちらかを変更してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、その後の進め方についての援助を受けてください。

DSQ50783

メッセージ: レコード &V1. の位置 &V2 のデータ・タイプが無効です。

説明: COLUMNS 表に関する R レコードで有効なデータ・タイプが指定されていない書式をインポートしようとしてしました。書式のインポートを完了させることはできません。有効なデータ・タイプは次のとおりです。

CHAR - 文字データ列用
NUMERIC - 数値データ列用
GRAPHIC - グラフィック・データ列用
DATE - 日付データ列用
TIME - 時間データ列用
TIMEST - タイム・スタンプ・データ列用

ユーザーの処置: 書式の修正または組み立てを行なうアプリケーションを開発している場合には、「*DB2 QMF アプリケーション開発の手引き*」を参照して、有効なデータ・タイプの詳細を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、その後の進め方についての援助を受けてください。

DSQ50784

メッセージ: COLUMNS 表のデータ・タイプは変更できません。

説明: 2 つ以上の COLUMNS 表を含む書式をインポートしようとしていますが、2 番目の表のデータ・タイプが最初の表のデータ・タイプと異なっています。たとえば、最初の表の列 3 が NUMERIC で、2 番目の表の列 3 が CHAR になっている場合などが考えられます。同じ列は、データ・タイプを同じにしてください。2 番目の

表のデータ・タイプは、レコード &V1. の位置 &V2 にあります。

ユーザーの処置: 書式の修正または組み立てを行なうアプリケーションを開発している場合には、「*DB2 QMF アプリケーション開発の手引き*」を参照して、COLUMNS 表のデータ・タイプの詳細を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、その後の進め方についての援助を受けてください。

DSQ50785

メッセージ: R レコードが多すぎます。レコード &V1 は無視されます。

説明: T レコードのあとの R レコードの数が多すぎて FORM オブジェクトに収容できないような書式をインポートしようとしてしました。番号 &V1 の R レコード内のデータ値は、すべて無視されます。

ユーザーの処置: 書式の修正または組み立てを行なうアプリケーションを開発している場合には、「*DB2 QMF アプリケーション開発の手引き*」を参照してください。T レコードのあとの R レコードの数は、T レコードで記述された書式の部分に収まる数を超えないようにしてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、その後の進め方についての援助を受けてください。

DSQ50786

メッセージ: レコード &V1. の位置 &V2 に無効なフィールド番号 &V3 があります。

説明: レコード &V1. で有効なフィールド番号が指定されていない書式または指示照会をインポートしようとしています。無効なフィールド番号 &V3 は、V レコードの位置 &V2 に入っていません。フィールド番号は 4 桁の数字でなければなりません。ブランクは指定できません。V レコード内の後続のデータ値は無視されます。

ユーザーの処置: 書式の修正または組み立てを行なうアプリケーションを開発している場合には、

「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して有効なフィールド番号の全リストを調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、その後の進め方についての援助を受けてください。

DSQ50787

メッセージ: レコード &V1 の位置 &V2 の &V3 は表番号ではありません。

説明: レコード &V1. で表番号が指定されていない書式をインポートしようとしています。レコードの位置 &V2 の数字は、A または V レコードのフィールド番号です。この T レコードの後の R レコードのすべてのデータ値は無視されます。

ユーザーの処置: 書式の修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合には、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して表番号の全リストを調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、その後の進め方についての援助を受けてください。

DSQ50788

メッセージ: レコード &V1 の &V3 は有効なフィールド番号ではありません。

説明: レコード &V1. でフィールド番号が指定されていない書式をインポートしようとしています。レコードの位置 &V2 の数字 &V3 は、列に関する表番号またはフィールド番号のいずれかです。この V レコード内のデータ値は無視されます。

ユーザーの処置: 書式の修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合には、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してフィールド番号の全リストを調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、その後の進め方についての援助を受けてください。

DSQ50789

メッセージ: レコード &V1 の位置 &V2 のデータ値は切り捨てられました。

説明: 書式オブジェクトに収められない長さのデータ値を含む書式をインポートしようとしています。このデータ値は、レコード &V1 の位置 &V2 にあります。データ値は、このフィールドの最大長 &V3 に合わせて切り捨てられました。

ユーザーの処置: 書式の修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合には、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して、レコード形式が正しくなるようにしてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、その後の進め方についての援助を受けてください。

DSQ50790

メッセージ: 予期された R レコードの数は &V2 ですが、&V3 だけが読み取られました。

説明: &V2 個の R レコードがあとに続くことを示す T レコードを含む書式をインポートしようとしてしました。しかし、あとに続く R レコードの数は &V3 だけでした。この T レコードに対して処理された最後の R レコードは、番号 &V1 の R レコードです。

ユーザーの処置: 書式の修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合には、T レコード内のカウントが正しいかどうか確認してください。また、これが正しかった場合には、正しい数の R レコードがあとに続くようにしてください。詳細については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、その後の進め方についての援助を受けてください。

DSQ50791

メッセージ: レコード &V1 の位置 &V2 の行カウントは &V3. でなければなりません。

説明: COLUMNS 表部分を 2 つ以上含む書式をインポートしようとしています。COLUMNS 表用の T レコードが 2 つ以上ある場合、各レコードの行カウントが同じでなければなりません。初の T レコードの行カウントが、その COLUMNS 表用の後続の T レコードすべてに対して用いられます。

ユーザーの処置: 書式の修正または組み立てを行なうアプリケーションを開発している場合には、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、その後の進め方についての援助を受けてください。

DSQ50792

メッセージ: レコード &V2. の &V3 の位置のバリエーション番号 &V1 は無効です。

説明: V レコード (番号 &V2.) に、正しいパネル・バリエーション番号を持っていない書式をインポート。無効なバリエーション番号 &V1.

は、そのレコード &V3 の位置にあります。パネル・バリエーションの番号は、1 から 99 までの数字でなければなりません。それは、どのパネル・バリエーションがインポートされたファイルのその次の部分によって影響されるかを QMF に示します。

ユーザーの処置: 書式を組み立てたり、修正したりするアプリケーションを開発している場合、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して、エクスポートされる書式のパネル・バリエーション番号の詳細な説明を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、その後の進め方についての援助を受けてください。

DSQ50793

メッセージ: レコード &V2. の &V3 の位置にあるパネル番号 &V1 が無効です。

説明: V レコード (番号 &V2.) に、有効な切れ目パネル番号のない書式をインポートしようとしています。無効なパネル番号 &V1. は、レコード

の &V3 の位置にあります。切れ目パネル番号は 1 から 6 までの番号で、インポートされたファイルの次の部分で影響を受けるのはどの切れ目パネルかを、QMF に示します。

ユーザーの処置: 書式を変更、または作成するアプリケーションを開発している場合、エクスポートされた書式内の切れ目パネル番号についての詳しい情報は「QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、その後の進め方についての援助を受けてください。

DSQ50810

メッセージ: 必要な情報を入手する前に最後のレコードに到達しました。

説明: 書式をインポートしようとしていましたが、予想外に早く最後のレコードに到達しました。それぞれの書式には、ヘッダー・レコードと、その書式の COLUMNS 表の部分がなくてはなりません。

ユーザーの処置: 書式の修正または組み立てを行なうアプリケーションを開発している場合には、ヘッダー・レコードおよびその書式の COLUMNS 表の部分がインポートしようとしている書式に存在することを確認してください。詳細については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、その後の進め方についての援助を受けてください。

DSQ50811

メッセージ: DSQ50017 を参照してください。

DSQ50812

メッセージ: 警告タイプのメッセージには理由コードがなければなりません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストー

ルおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50813

メッセージ: 書式のインポート時にエラーが検出されました。

説明: 書式をインポートしようとしていた時にエラーが起こり、インポートが完了しませんでした。書式を予定どおりに使用できません。この書式を訂正する必要があります。

ユーザーの処置: 書式の修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合には、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」資料を参照して、発生したエラーの訂正方法に関する詳しい説明を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、その後の進め方についての援助を受けてください。

DSQ50814

メッセージ: データベース・オブジェクトを使用しようとしたときに、エラーが検出されました。

説明: データベースからの書式または表示照会を使用しようとしていますが、エラーが発生しました。オブジェクトのロードは完了していません。オブジェクトはそのままでは使用できません。データベースに保管されている書式または指示照会は修正しないでください。

ユーザーの処置: オブジェクトを再度取り出すかまたは再作成し、データベースに保管してください。保管した後、それを使用してください。それでもエラーが発生する場合は、作業の進め方について QMF 管理者に相談してください。

DSQ50815

メッセージ: パネル ID '&1' が DXEPCB チェーンに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ50816

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ50817

メッセージ: パネル ID '&1' が DXEPCB チェーンに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ50818

メッセージ: レコード &V1 の位置 &V2 の行カウントは 1 から &V3. までです。

説明: 有効な行カウントが FORM.COLUMNS 表用の T レコードに入っていない書式をインポートしようとしています。COLUMNS 表用の T レコードには、1 から &V3 までの数が指定されている必要があります。この数値は、書式内の列の数を知らするために必要です。書式のインポートは完了しませんでした。

ユーザーの処置: 書式の修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合には、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して、COLUMNS 表用の T レコードに関する詳しい説明を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、その後の進め方についての援助を受けてください。

DSQ50819

メッセージ: レコード &V1. 位置 &V2 のデータ・タイプはサポートされません。

説明: ユーザーは、サポートされていないデータ・タイプが (COLUMNS 表のための R レコード内) に入っている書式をインポートしようとしています。書式のインポートを完了させることはできません。サポートされるデータ・タイプは、次のとおりです。

CHAR - 文字データ列用
NUMERIC - 数値データ列用
GRAPHIC - グラフィック・データ列用

ユーザーの処置: 書式の修正または組み立てを行なうアプリケーションを開発している場合には、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して、有効なデータ・タイプの詳細を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、その後の進め方についての援助を受けてください。

DSQ50820

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50821, DSQ50822

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ50823

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50830

メッセージ: CS 機能が無効な入力パラメーターを受け取りました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ50850

メッセージ: 出力レコード・タイプ &1 はサポートされません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求め、ご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50851

メッセージ: 出力バッファが書式レコード &1 に対して小さすぎます。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求め、ご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50860

メッセージ: DSQ50017 を参照してください。

DSQ50861

メッセージ: 列 &V1 は長すぎてエクスポートできません。

説明: CMS のもとでは、LONG VARCHAR 列を持った表をエクスポートすることはできません。

TSO のもとでは、許容最大長が 254 を超える VARCHAR 列を持った表をエクスポートすることはできません。

ユーザーの処置: 列 &V1 を、エクスポートしたいオブジェクトから除去した上で、コマンドを再入力してください。

DSQ50870

メッセージ: パネル ID '&1' が DXEPCB チェーンに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ50871, DSQ50872

メッセージ: 内部 PCB/MDL/ADS ID の &1/&2/&3 を見付けることができません。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ50890

メッセージ: 入力バッファがレコード &1 に対して短すぎます。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。

システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50891

メッセージ: レコード &V1. の位置 &V2 のレコード・タイプ &V3 が無効です。

説明: 許容されるレコード・タイプは、次のとおりです。

- H - ヘッダー・レコード
- T - データ表記述レコード
- R - データ表行レコード
- V - データ値レコード
- E - オブジェクトの終わりレコード
- * - アプリケーション・データ・レコード

ユーザーの処置: 書式または指示照会の、修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合には、レコード・タイプを H、T、R、V、E、または * に変更してください。この事項の詳細は、「*QMF* アプリケーション開発の手引き」を参照してください。それ以外の場合には、*QMF* 管理者に連絡を取って、作業の進め方を相談してください。

DSQ50892

メッセージ: レコード &V1 は短すぎてレコード・タイプを判別できません。

説明: 書式または指示照会をインポートしようとしています。レコード &V1 は短すぎてそのレコード・タイプを判別できません。必要な最小レコード長は、VM の場合 23 バイトで、MVS の場合 27 バイトです。

ユーザーの処置: 書式または指示照会の、修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合には、「*DB2 QMF* アプリケーション開発の手引き」を参照してこの問題に関する詳細を調べてください。あるいは、*QMF* 管理者に連絡し、その後の進め方についての援助を受けてください。

DSQ50893

メッセージ: レコード &V1. に予期しないレコード &V2 が入っています。

説明: 書式のインポート時に、レコード &V1 が予期されたとおりに並べられていませんでした。

レコード レコードの順序

H	最初のレコード
T	T の行のカウント > 0 の場合、 R レコードのみ後に置ける その他の場合は、T または V レコード を他に置ける
R	T レコードまたは別の R レコードの 後に続く
V	H レコードの前にはない
*	H レコードの前でなければ、どこに 出てきてもよい
E	最後のレコード

ユーザーの処置: アプリケーションを開発している場合は、詳細に関して「*DB2 QMF* アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、*QMF* 管理者に連絡し、その後の進め方についての援助を受けてください。

DSQ50894

メッセージ: ヘッダー・レコードから無効なプロダクト ID が見つかりました。

説明: ヘッダー・レコードの位置 &V2 のプロダクト ID が誤っているか、または欠落しています。入力にプロダクト ID が必要です。'QMF'、'QRW'、または 'QM4' のいずれかでなければなりません。

ユーザーの処置: 書式または指示照会の、修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合には、プロダクト ID を使用できる値に変更してください。この件に関する詳細は、「*DB2 QMF* アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、*QMF* 管理者に連絡を取り、作業の進め方を相談してください。

DSQ50895

メッセージ: レコード &V1. の位置 &V2 の列の長さがゼロです。

説明: T レコード内で列の長さがゼロになっていると、後続の R レコード内の列にデフォルトの値がセットされます。後続の R レコードで指定したデータ値は無視されます。

ユーザーの処置: 書式または指示照会の、修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している、R レコードの後続行にデフォルトの値をセットする必要がなければ、列の長さとして正の数を指定してください。この件に関する詳細は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者に連絡を取り、作業の進め方を相談してください。

DSQ50896

メッセージ: ヘッダー・レコードのオブジェクト・タイプ &V3 が無効です。

説明: レコード &V1. の位置 &V2 で無効なオブジェクト・タイプ &V3 が検出されました。オブジェクト・タイプを空白にすることはできません。指定できるオブジェクト・タイプは次のとおりです。

- F - 書式用
- R - 報告書用
- T - 指示照会用

ユーザーの処置: 書式または指示照会の、修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合には、オブジェクト・タイプを書式の場合は F に、指示照会の場合は T に変更してください。オブジェクト・タイプに関する詳細は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者に連絡を取り、作業の進め方を相談してください。

DSQ50897

メッセージ: レコード &V1. の位置 &V2 のフィールド長がゼロです。

説明: V レコード内でフィールドの長さがゼロになっていると、そのフィールドにデフォルトの値がセットされます。V レコードで指定したデータ値は無視されます。

ユーザーの処置: 書式または指示照会の、修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合、このフィールドにデフォルトの値をセットしたくなければ、位置 &V2. の LENGTH フィールドで、実際のデータ値の長さを指定するか、または * を指定してそのあとに 2 つのblank・スペースを続けるかしてください。この件に関する詳細は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者に連絡を取り、作業の進め方を相談してください。

DSQ50898

メッセージ: ヘッダー・レコードのオブジェクト形式 &V3 が無効です。

説明: レコード &V1 の位置 &V2 のオブジェクトの形式は、エンコード形式を表す場合は E でなければなりません。オブジェクト形式にblankは指定できません。

ユーザーの処置: 書式または指示照会の、修正または組み立てを行なうアプリケーションを開発している場合には、エンコード形式の場合はオブジェクトの形式を E に変更してください。オブジェクト形式に関する詳細は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者に連絡を取り、作業の進め方を相談してください。

DSQ50899

メッセージ: ヘッダー・レコードのオブジェクト・レベル &V3 が無効です。

説明: 無効なオブジェクト・レベル &V3 が、レコード &V1. の位置 &V2 で検出されました。オブジェクト・レベルをblankにすることはできません。指定できるオブジェクト・レベルは次のとおりです。

- 01 - 報告書オブジェクト用
- 03, 04 - 書式オブジェクト用
- 01 - 指示照会オブジェクト用

ユーザーの処置: 書式または指示照会を、修正または組み立てるアプリケーションを開発している場合には、現在使用しているオブジェクトのタイプにしたがって、オブジェクト・レベルを変更してください。オブジェクト・レベルに関する詳細は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者に連絡を取り、作業の進め方を相談してください。

DSQ50900

メッセージ: レコード &V1 の列カウント &V3 が長すぎます。

説明: 書式または指示照会をインポートしようとしています。列カウントが長すぎます。T レコード &V1 の位置 &V2 の列カウントは、任意の表に許されている最大列カウントである &V4 を超えています。先頭から &V4 列だけ処理されます。

ユーザーの処置: 書式または指示照会の、修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合には、レコード &V1 の列カウントを変更してください。この件に関する詳細は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者に連絡を取り、作業の進め方を相談してください。

DSQ50901

メッセージ: DSQ50781 を参照してください。

DSQ50902

メッセージ: ヘッダー・レコードのオブジェクト処置 &V3 が無効です。

説明: レコード &V1 の位置 &V2 の作業域オブジェクトに対する処置が無効です。オブジェクト処置をブランクにすることはできません。処置 R

は、作業域のオブジェクトを置き換えるために使用されています。

ユーザーの処置: 書式または指示照会の、修正または組み立てを行なうアプリケーションを開発している場合には、ヘッダー・レコード内の位置 &V2 の処置を R に変更し、オブジェクトを置き換えてください。この件に関する詳細は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者に連絡を取り、作業の進め方を相談してください。

DSQ50903

メッセージ: レコード &V1 の T レコードには &V3 の列がありません。

説明: 書式または指示照会をインポートしようとしています。位置 &V2 の列カウントの値が T レコード内の後続の列フィールド番号および長さの個数と一致しません。ただし後続の列情報は処理されます。

ユーザーの処置: 書式の修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合には、位置 &V2 の列カウントの値を T レコード内の列カウントに一致するように訂正してください。この件に関する詳細は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者に連絡を取り、作業の進め方を相談してください。

DSQ50904

メッセージ: レコード &V1 のデータ値の長さ &V3 が短すぎます。

説明: V レコードの位置 &V2 で指定されたデータ値の長さが、指定されたデータ値よりも短くなっています。このデータは、指定の長さに合わせて切り捨てられます。V レコード内の長さには、実際のデータの長さを指定するか、または、Vレコードの終わりでデータ値が区切られることを示すために、* を指定してからそのあとに 2 つのブランクを指定するかしてください。

ユーザーの処置: 書式または指示照会の、修正または組み立てを行なうアプリケーションを開発している場合には、データ値の長さを長くするか、または V レコード内のデータを短くするかしてください。詳細については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者に連絡を取り、作業の進め方を相談してください。

DSQ50905

メッセージ: レコード &V1 のデータ値の長さ &V3 が長すぎます。

説明: データ値に対して指定された長さが、提供されたデータ値よりも長くなっています。レコードの終わりまでの長さしか使用されません。

ユーザーの処置: 書式または指示照会の、修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合は、V レコード内のデータ値の長さを変更してください。この件に関する詳細は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者に連絡を取り、作業の進め方を相談してください。

DSQ50906

メッセージ: レコード &V1. の位置 &V2 の行カウント &V3 が無効です。

説明: 書式または指示照会をインポートしようとしていますが、T レコード内の行カウントが無効です。行カウントは 3 桁の数字かまたは * でなければなりません。空白は指定できません。* の後に空白・スペースが 2 つ続いている場合は、表が後続の R レコードすべてによって構成されていることを示しています。しかし、書式 COLUMNS 表および指示照会 TABLES 表の T レコードには、行カウントが数字で入っていない必要があります。

ユーザーの処置: 書式または指示照会の、修正または組み立てを行うアプリケーションを開発する場合には、T レコード内の行カウントの値を訂正してください。この件に関する詳細は、「DB2

QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者に連絡を取り、作業の進め方を相談してください。

DSQ50907

メッセージ: レコード &V1. の位置 &V2 のデータ長 &V3 が無効です。

説明: 長さが正しくない書式または指示照会をインポートしようとしています。V レコードの位置 &V2 の &V3 が無効です。データ値の長さは、3 桁の数字かまたはアスタリスクでなければなりません。* の後に空白・スペースが 2 つ続く場合は、データ値の長さが V レコードの終わりで区切られていることを示しています。データの長さを空白にすることはできません。

ユーザーの処置: 書式または指示照会を変更するアプリケーションを開発している場合には、V レコードに有効な長さを指定してください。この件に関する詳細は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者に連絡を取り、作業の進め方を相談してください。

DSQ50909

メッセージ: DSQ50786 を参照してください。

DSQ50910

メッセージ: DSQ50907 を参照してください。

DSQ50911

メッセージ: DSQ50780 を参照してください。

DSQ50912, DSQ50913

メッセージ: レコード &V1. の位置 &V2 の DBCS データが無効です。

説明: T または V レコードに無効な DBCS データが入っている書式または指示照会をインポートしようとしています。無効な DBCS データ

は、レコード &V1. の位置 &V2 にあります。

ユーザーの処置: 書式または指示照会の、修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合には、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してこの問題に関する詳細を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、その後の進め方についての援助を受けてください。

DSQ50914

メッセージ: DSQ50906 を参照してください。

DSQ50915

メッセージ: レコード &V1. の位置 &V2 に無効な列カウント &V3 があります。

説明: 書式または指示照会をインポートしようとしていますが、このレコード内に列カウントの正しい数字が入っていません。列カウントは 3 桁の数字です。ブランクは指定できません。T レコード内の後続列の情報は処理されます。

ユーザーの処置: 書式または指示照会の、修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合には、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して T レコードの正しい形式の詳細を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、その後の進め方についての援助を受けてください。

DSQ50916

メッセージ: レコード &V1. の位置 &V2 のフィールド長 &V3 が無効です。

説明: 書式または指示照会をインポートしようとしていますが、T レコード内の列のフィールド長が有効ではありません。列のフィールド長は 3 桁の数字でなければなりません。ブランクまたは '*' は使用できません。T レコード内のこの列および後続列に関連する R レコード値は無視されます。

ユーザーの処置: 書式または指示照会の、修正ま

たは組み立てを行うアプリケーションを開発している場合には、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して T レコードの正しい形式の詳細を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、その後の進め方についての援助を受けてください。

DSQ50917

メッセージ: DS!Q50896 を参照してください。

DSQ50918

メッセージ: DSQ50899 を参照してください。

DSQ50919

メッセージ: DSQ50898 を参照してください。

DSQ50920

メッセージ: DSQ50902 を参照してください。

DSQ50921

メッセージ: ヘッダー・レコードに無効な各国語コード '&V3' があります。

説明: 指定した書式は、レコード &V1. の位置 &V2. 'E'(英語) と '&V4.'(セッション言語と一致) だけが、セッションに受け入れることのできる各国語言語です。書式は一時記憶域にロードされましたが、エラー標識が立ち、与えられた言語では使用できません。

ユーザーの処置: 英語かセッション言語で保管されている書式を IMPORT、または DISPLAY コマンドに指定してください。これらの書式は、'E' または '&V4' の各国語コードを . 指定した書式が作業を行いたいものである場合は、この警告は無視できます。エラー標識を取り除くには、CHECK コマンドを使用してエラーを見つけ、認識できないキーワードを訂正してください。

DSQ50922

メッセージ: 各国語コード '&V3.' を持つ書式は変換することはできません。

説明: 指定した書式は、レコード &V1. の位置 &V2. 英語用の '&V4.'(現在のセッション言語) だけが、セッションに受け入れられる各国語コードです。書式は一時記憶域にロードされましたが、エラー標識が立ち、与えられた言語では使用できません。

ユーザーの処置: 英語で保管されている書式を IMPORT、または DISPLAY コマンドに指定してください。これらの書式には、 '&V4.' の各国語コードがあります。指定した書式が作業を行いたいものである場合は、この警告は無視できます。エラー標識を取り除くには、CHECK コマンドを使用してエラーを見つけ、認識できないキーワードを訂正してください。

DSQ50930, DSQ50931

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ50932

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50933

メッセージ: DSQ50017 を参照してください。

DSQ50934

メッセージ: OK、&1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ50940

メッセージ: &1 は有効な PF キー定義索引ではありません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストー

ルおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50941

メッセージ: &1 は有効な PF キーラベル索引ではありません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50942

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ50950

メッセージ: DSQ50017 を参照してください。

DSQ50955

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ50956

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50957

メッセージ: DSQ50017 を参照してください。

DSQ50958

メッセージ: 複数の位置からの表は結合できません。

説明: 照会の表はすべて同じ位置でなければなりません。

ユーザーの処置: 照会から、異なる位置からの表を削除してください。

DSQ50959

メッセージ: OK、&1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ50960

メッセージ: DSQ50017 を参照してください。

DSQ50965

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ50968

メッセージ: CICS のローカル日時 / 時刻ルーチン &1 は、AMODE 31 でなければなりません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50969

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50970

メッセージ: ローカルの日付ルーチンまたは時刻ルーチンがありません。

説明: 日付データまたは時刻データの処理中に、データをローカルの形式に変換するためのユーザー・ルーチンへの呼び出しが行われました。データベース・マネージャーは、使用中のデータを取り扱うローカルの形式がないことを示しています。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ50971

メッセージ: ローカル日時 / 時刻ルーチン &1 は、ロードできませんでした。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50972

メッセージ: ローカルの日付または時刻ルーチン &V1 がインストールされていません。

説明: 日付データまたは時刻データの処理中に、データをローカルの形式に変換するためのユーザー・ルーチンへの呼び出しが行われました。データベース・マネージャーは、ローカルの形式をサポートされないことを示していますが、実際には、データベース・マネージャーが提供したルーチン &V1 が、ユーザー・ルーチンに置き換えられていなかったということです。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーを変更して、ローカルの日付データまたは時刻データを取り扱わないようにすること、または、QMF のアクセス可能なユーザー・ルーチン &V1 をインストールことについての援助は、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ50973

メッセージ: ローカルの日付 / 時刻ルーチン &V1 が戻りコード &V2. を出しました。

説明: 日付データまたは時刻データの処理中に、データをローカルの形式に変換するためのユーザー・ルーチンへの呼び出しが行われました。ユーザー・ルーチンが、予期しない戻りコード &V2 を設定しました。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ50974

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ50975

メッセージ: DSQ50972 を参照してください。

DSQ50976

メッセージ: DSQ50973 を参照してください。

DSQ50977

メッセージ: DSQ50972 を参照してください。

DSQ50978

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ50979

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ50980, DSQ50981

メッセージ: インポートされるデータ・レコード &V1 の列 &V2 のヌル標識が無効です。

説明: インポートしているファイルまたはデータ・セットのレコード &V1、列 &V2 のヌル標識が &V3 になっていますが、この値は無効です。列 &V2 にヌル値を入れることができる場合は、&V4 または &V5 をヌル標識にできます。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: データ・オブジェクトの修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合は、「*DB2 QMF アプリケーション開発の手引き*」を参照して、NULL 標識に関する説明を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50982

メッセージ: インポートされるデータ・レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明: インポートしているファイルまたはデータ・セットのレコード &V1、列 &V2 の 10 進数データの値が無効です。この値には、10 進数と符号コードだけが含まれていなければなりません。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: データ・オブジェクトの修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合は、「*DB2 QMF アプリケーション開発*

の手引き」を参照して、10 進データの形式に関する説明を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50983

メッセージ: インポートされるデータ・レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明: インポートしているファイルまたはデータ・セットのレコード &V1、列 &V2 の浮動小数点データの値が無効です。(この値は、正規化されるとアンダーフローを起こします。) このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: データ・オブジェクトの修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合は、「*DB2 QMF アプリケーション開発の手引き*」を参照して、浮動小数点データの形式に関する説明を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50984, DSQ50985

メッセージ: インポートされるデータ・レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明: インポートしているファイルまたはデータ・セットのレコード &V1 の列 &V2 の漢字 (DBCS) の値が無効です。この値には有効な漢字コードだけが含まれ、漢字フィールド区切り文字が含まれてはなりません。ただし、QMF 形式または IXF 文字フォーマットの列全体を区切る区切り文字は含まれていてもかまいません。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: データ・オブジェクトの修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合には、「*DB2 QMF アプリケーション開発の手引き*」を参照して、漢字 (DBCS) データの形式および使用法に関する説明を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50986

メッセージ: インポートされるデータ・レコード &V1 の列 &V2 のデータの長さが無効です。

説明: インポートしようとしているファイルまたはデータ・セットのレコード &V1、列 &V2 の可変長データの長さのフィールドの値 &V3 が無効です。この列のデータ・タイプの場合、長さは &V4 から &V5 までの範囲でなければなりません。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: データ・オブジェクトの修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して、可変長データ・タイプの形式に関する説明を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50987, DSQ50988

メッセージ: DSQ50984 を参照してください。

DSQ50989, DSQ50990

メッセージ: インポートされるデータ・レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明: インポートしようとしているファイルまたはデータ・セットのレコード &V1、列 &V2 の文字データ値は無効です。この値には、文字、および漢字フィールド区切り文字で囲まれた漢字 (DBCS) コードだけが含まれていなければなりません。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: データ・オブジェクトの修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合には、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して、文字と漢字 (DBCS) データの結合に関する説明を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50991

メッセージ: DSQ50986 を参照してください。

DSQ50992, DSQ50993

メッセージ: DSQ50989 を参照してください。

DSQ50994

メッセージ: インポートされるデータ・レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明: インポートしているファイルまたはデータ・セットのレコード &V1 の列 &V2 の整数値が無効です。データの値が小さな整数ならば、-32,768 から 32,767 までの文字値であってかまいません。データの値が整数ならば、-2,147,483,648 から 2,147,483,647 までの文字値であれば有効です。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: データ・オブジェクトの修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して、整数データの形式に関する説明を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ50995 - DSQ50997

メッセージ: インポートされるデータ・レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明: インポートするファイルまたはデータ・セットのレコード &V1 の列 &V2 の日付データ、時刻データ、またはタイム・スタンプ・データの値が無効です。このデータはインポートされませんでした。日付、時刻、タイム・スタンプのデータ形式は次のとおりです。

日付データ	yyyy-mm-dd
時間データ	hh.mm.ss
タイム・スタンプ・データ	yyyy-mm-dd-hh.mm.ss.nnnnnn

ユーザーの処置: データ・オブジェクトを修正、

または作成するアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」の、日付、時刻、およびタイム・スタンプのデータ形式に関する説明を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ51006, DSQ51007

メッセージ: インポートされるデータ・レコード &V1 の列 &V2 のデータの長さが無効です。

説明: インポート中のファイルまたはデータ・セットのレコード &V1. の列 &V2 の可変長データの長さフィールドは、&V3 から &V4 までの範囲の 5 文字の値でなければなりません。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: データ・オブジェクトの修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して、可変長データ・タイプの形式に関する説明を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ51008

メッセージ: インポートされるデータ・レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明: インポート中のファイルまたはデータ・セットのレコード &V1. の列 &V2 の 10 進数は無効です。値は、符号 (ブランク、プラス、またはマイナス) とそれに続く 10 進数と小数点 (値の精度と位取りによって決まります) で構成されません。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: データ・オブジェクトの修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して、10 進データの形式に関する説明を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ51009

メッセージ: インポートされるデータ・レコード &V1. の列 &V2 のデータが無効です。

説明: インポート中のファイルまたはデータ・セットのレコード &V1. の列 &V2 の浮動小数点数の値が無効です。短精度の値は、SD.DDDDDDDDESDD の形式でなければなりません。ただし S は符号 (1 桁めが符号の場合にはプラス、マイナス、またはブランク)、D は任意の数字です。長精度の値は、SD.DDDDDDDDDDDDDDDDESDD の形式でなければなりません。その値は $+/- (5.4E-79, 7.2E+75)$ の範囲でなければなりません。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: データ・オブジェクトの修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して、浮動小数点データ形式に関する説明を調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ51010

メッセージ: 照会が長すぎて変換できません。

説明: CONVERT コマンドを使用して照会の書式化を行うには、現在使用できるメモリー以上のメモリーが必要です。

ユーザーの処置: 照会を短くするか、複数の照会に書き換えるか、または RESET DATA コマンドを使用してください。これにより、追加の記憶スペースを使用できます。現在 DATA を使用していない場合、セッションでさらに記憶スペースが必要である可能性があります。このエラーが繰り返される場合には、QMF 管理者に相談してください。

DSQ51011

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ51012

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ51015 - DSQ51017

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ51024

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ51027

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ51033, DSQ51034

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ51037

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ51041

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ51045

メッセージ: ISPF エラー・コードは &2 です。ISPF インターフェース・モジュールからの理由コードは &1 です。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ51051

メッセージ: CS 機能が無効な入力パラメーターを受け取りました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ51052

メッセージ: DSQ50017 を参照してください。

DSQ51053, DSQ51054

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ51055 - DSQ51057

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ51058, DSQ51059

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ51061

メッセージ: DI 機能の入力として、無効な機能コード '&1' が見つかりました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ51062, DSQ51063

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ51064

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ51065

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ51066

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ51067

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ51068

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ51071

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ51072

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ51073 - DSQ51074

メッセージ: DSQ50105 を参照してください。

DSQ51090 - DSQ51091

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ51100

メッセージ: システム・エラーが発生しました。コマンドは実行されませんでした。

説明: コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。

Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」資料を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ51101

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ51102

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ51103

メッセージ: QMF が、致命的なエラーを見つけました。セッションは終了します。

説明: データベース・マネージャーが使用可能でないか、または他のコマンドを処理するのに十分な記憶域がありません。

ユーザーの処置: 詳しい情報は、トレースの出力ファイルを参照してください。

DSQ51108

メッセージ: DSQ50017 を参照してください。

DSQ51109

メッセージ: QMF サーバーのコマンド (&1) がサポートされていません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ51110

メッセージ: QMF クライアントがサポートされていないコード (&1) を要求したか、またはコンテキストが無効です。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ51111

メッセージ: OK、&1 コマンドは正常に実行されました。

DSQ51112

メッセージ: DVR のサイズが小さすぎます : &1

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ51113

メッセージ: DVR タイプ (&1) が予期されました。&2 を受け取りました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ51114

メッセージ: DVR のサイズが小さすぎます : &1

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ51115

メッセージ: OK、&1 コマンドは正常に実行されました。

DSQ51116

メッセージ: CONFIRM オプションを完了させてください。

説明: CONFIRM キーワードが見つかりましたが、値が入っていませんでした。CONFIRM キーワードを入力する場合、値は YES または NO でなければなりません。CONFIRM オプションの使用をやめる場合は、プロファイルからデフォルトの値が使用されます。

ユーザーの処置:

1. 確認パネルを表示する必要がない場合、CONFIRM=NO と入力してください。
2. セッションでデフォルトの確認パネルが必要な場合には、CONFIRM=YES と入力してください。

リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。パネルに *QMF* コマンドをどのように入力するかを見るためには、リスト・パネルを表示している間に、ヘルプ・キーを押してください。

DSQ51120

メッセージ: システム検索の失敗 - バリエーションを見つけることができません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システムのマニュアルを参照してください。

DSQ51121 - DSQ51124

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ51125, DSQ51126

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ51127, DSQ51128

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ51129

メッセージ: &V2..&V3 が見つかりません。

説明: &V3 は、&V2. が所有しているデータベース内のどのような名前にも該当しません。&V1 コマンドに、表 &V2.&V3. に基づく同義語が指定されていると考えられます。この表はもはやデータベースにありません。したがって、この表に基づく同義語を使用するコマンドも、実行できません。

ユーザーの処置: 別の操作を続けてください。

DSQ51140

メッセージ: DSQ50105 を参照してください。

DSQ51141

メッセージ: 必要な記憶域を割り当てることができませんでした。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ51142 - DSQ51144

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ51145

メッセージ: 必要な記憶域を割り当てることができませんでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ51146

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ51154

メッセージ: CGCOL サービスに対して、オブジェクト・レコードが無効です。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ51155

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ51156

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ51157

メッセージ: DSQ59445 を参照してください。

DSQ51158

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ51159

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ51160

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ51161

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ51162

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ51163

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ51164

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ51165

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ51166

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ51167

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ51168

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ51169

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ51170

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ51180

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ51181

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ51182

メッセージ: コマンド &V1 の使用法が無効です。

説明: &V1 コマンドは、コマンド行またはコマンド・インターフェースからは使用できません。&V1 コマンドは、パラメーターを指定して呼び出し可能インターフェースから出されるか、または REXX プロシージャー内だけで有効です。

ユーザーの処置: 入力したコマンドの機能を使用したい場合、QMF の資料で呼び出し可能インターフェースまたは REXX プロシージャーを説明している情報を参照してください。

DSQ51183

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ51184

メッセージ: REXX エラー。戻りコードは &2 です。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ51185

メッセージ: '&V1' は &V2 変数名には無効です。

説明: 少なくとも名前の中の文字の 1 つが無効です。変数名は文字か各国語文字で始め、その後文字、数字、または適当な変数名として、「*TSO/E REXX 解説書*」または「*DB2 QMF 解説書*」で定義されているような他の文字を後に続けなければなりません。エラーとなった変数名がメッセージに表示されます。長すぎる場合には、完全な REXX 名が表示されない場合があります。

ユーザーの処置: エラーとなった名前を訂正し、コマンドを再実行してください。

DSQ51186

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ51187

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ51200

メッセージ: テキストまたは式が、言語翻訳のために切り捨てられました。

説明: 作業中の書式は、英語とセッション言語間で変換されました。この変換の処理中に、テキストと式のフィールドが使用可能な長さ &V2. を超えました。結果として、&V1. の長さから &V2. へと切り捨てられました。切り捨てられる前の変換フィールドは &V4 です。このフィールドは、'&V3.' のエンコードされた書式フィールド番号。

ユーザーの処置: 書式上のこのテキスト、または式を修正すれば、言語の変換に使用するための十分なブランクがフィールドの終わりにとれます。テキスト・フィールドには、フィールドを分割したテキスト行に分ける必要が起る場合があります。

す。その後、永久記憶域に元の形式を入れ換えてください。

DSQ51201 - DSQ51207

メッセージ: キーワード '&V1' は、言語翻訳として認識できませんでした。

説明: 作業中の書式は、英語とセッション言語間で変換されました。この変換の処理中に、キーワード '&V1.' が検出されました。QMF はこれを有効な書式のキーワードとして認識することができませんでした。このため、要求された変換は、このフィールドで実行することができませんでした。このフィールド、'&V2.' のエンコードされた書式フィールド番号。

ユーザーの処置: CHECK コマンドを使用して、QMF が認識できない (一時記憶域の) 書式のキーワードを示すことができます。キーワードを有効なキーワードに変更して、永久記憶域の元の書式に入れ換えてください。

DSQ51210 - DSQ51212

メッセージ: DSQ50017 を参照してください。

DSQ51214

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ51215

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ51216, DSQ51217

メッセージ: DSQCISPM から予期しない理由コード、&1 が戻されました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ51220

メッセージ: DSQ50017 を参照してください。

DSQ51221

メッセージ: OK、クライアントによって DVR 転送は取り消されました。

DSQ51222

メッセージ: OK、EXIT 要求によって DVR 転送は取り消されました。

DSQ51223

メッセージ: DVR 転送のクライアントから予期しない要求コード (&1)

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ51230

メッセージ: DSQ50017 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ51231

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ51232

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ51233

メッセージ: 変数 &V1. は設定できません。

説明: QMF は英字 DSQ を自分専用に予約しています。一般的に DSQ で始まるグローバル変数は設定できません。例外はいくつかあります。それらの DSQ 変数は「*DB2 QMF* 解説書」にリストされています。指定できない名前を選択しています。

ユーザーの処置: DSQ 変数名を指定できる名前

に変更するか、または DSQ の文字以外で始まる変数を使用してください。

DSQ51234

メッセージ: この CICS 変数名は設定できません。

説明: 入力されたグローバル名 &V1 は、CICS 環境以外では無効です。現在の環境でのこの変数の設定値には、意味がありません。

ユーザーの処置: 他のグローバル変数を設定しようとしていた場合は、正しいグローバル変数名を指定して、再試行してください。

DSQ51235

メッセージ: 指定された CICS グローバル変数のキュー名が長過ぎます。

説明: 次のいずれかの理由で、入力されたキュー名 &V1 は無効です。

- 対応するキューのタイプが 'TS' の場合、キュー名が 8 文字より長い。
- 対応するキューのタイプが 'TD' の場合、キュー名が 4 文字より長い。

キューのタイプが 'TD' の場合、キュー名は 4 文字よりも長くすることはできません。キュー名およびキュー・タイプの両方を変更するときは、その両方にグローバル変数を設定する場合、キュー名を指定する前にキューのタイプを指定してください。

ユーザーの処置: 指定したキュー名より短いキュー名を指定するか、キュー名を指定する前にキューのタイプを 'TS' に変更してください。キュー名は 8 文字より長くすることができない点に、注意してください。

DSQ51236

メッセージ: このキュー・タイプには、現在の CICS キュー名は長過ぎます。

説明: 入力されたキュー・タイプ &V1 は、現在

の CICS キュー名では無効です。説明の概要には、次の 1 つがあげられます。

- 現在のキュー名が 4 文字より長い場合に、キューのタイプが 'TD' に変更されている。
- キューのタイプが 'TD' に変更され、4 文字かそれ以下のキュー名に変更されているが、SET GLOBAL コマンドが単独で使用されているか、現在のキュー名が 4 文字より長い。

ユーザーの処置:

キューのタイプが 'TD' の場合、キュー名は 4 文字よりも長くすることはできません。キュー名とキュー・タイプの両方を変更しようとする場合、次の順序で変更してください。

1. 現在のキュー・タイプが 'TS' であることを確認する。確認するには SET GLOBAL コマンドを出すか、SHOW GLOBALS を使用する。
2. SET GLOBAL コマンドまたは SHOW GLOBALS のどちらかを使用して、キュー名を新しい短いキュー名に変更する。
3. 最後に、キュー・タイプを 'TD' に変更する。

キュー名は 8 文字より長くすることができない点に、注意してください。

DSQ51240

メッセージ: 必要な記憶域を割り当てることができませんでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ51241

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ51242

メッセージ: CS エラー - 呼び出し側が与えている領域が小さすぎます。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。

システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ51243

メッセージ: REXX はプログラム実行には使用不可です。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ51244

メッセージ: REXX プログラムは実行されませんでした

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ51250

メッセージ: DSQ50105 を参照してください。

DSQ51251 - DSQ51261

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ51262

メッセージ: そのモジュールでは、パネル ID '&I' は処理されません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ51265 - DSQ51273

メッセージ: 必要な記憶域を割り当てることができませんでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ51278

メッセージ: ファイル &1 は CMS に定義されていません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ51279

メッセージ: 必要な記憶域を割り当てることができませんでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ51280

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ51281

メッセージ: ファイル &1 が CMS にありません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ51282, DSQ51283

メッセージ: CMS のファイル &1 のオープンに失敗しました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ51284

メッセージ: CMS でファイル &1 の終わりに到達しました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ51285

メッセージ: CMS のファイル &1 の読み取りに失敗しました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ51286

メッセージ: CMS のファイル &1 のオープンに失敗しました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ51287

メッセージ: CMS のファイル &1 をクローズすることができません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ51291, DSQ51292

メッセージ: ファイル &1 は TSO で定義されていません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ51293

メッセージ: VSAM ファイル &1 の LRECL の獲得に失敗しました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ51294

メッセージ: TSO でファイル &1 のオープンに失敗しました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ51295

メッセージ: TSO のファイル &1 の読み取りに失敗しました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ51296

メッセージ: VSAM ファイル &1 は TSO で管理エラーを記録しています。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ51297

メッセージ: VSAM ファイル &1 の LRECL を入手できません。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ51298

メッセージ: TSO でファイル &1 のクローズに失敗しました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ51299

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ51300

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ51304

メッセージ: CICS でファイル &1 が見つかりませんでした。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ51305

メッセージ: CICS で EIBRESP コード &2 のファイル &1 エラー。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

第 9 章 メッセージ DSQ60001・DSQ60902

DSQ60001

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60002

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60003

メッセージ: FM エラー - 列の無効な集約番号の設定

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60010, DSQ60011 -

メッセージ: 固定域は左または右にはスクロールできません。

説明: 報告書の固定域は、正方向または逆方向にだけスクロールできます。固定域の幅が画面幅を超えるため、左または右にはスクロールできません。

ユーザーの処置: 左または右にスクロールする場合、固定域の幅を小さくしてください。

DSQ60020 - DSQ60024

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60030

メッセージ: FM エラー - 無効な終了オプション

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペ

レーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60031

メッセージ: FM エラー - レポート・オブジェクトが断片化されています。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60032, DSQ60033

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60034

メッセージ: DSQ60030 を参照してください。

DSQ60035 - DSQ60039

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60040

メッセージ: プリンターのレコード長が短すぎます。

説明: 使用しているプリンターのレコード長が短すぎて、*QMF* での最も短い行が収まりません。

ユーザーの処置: *QMF* の外部でのなんらかの操作によって、プリンターのレコード長を少なくとも 22 に変更し、そして、そのレコード長を超えない行の幅を使用してください。

DSQ60041 - DSQ60044

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60045

メッセージ: ページ行数が &V4 から 999 までの GDDM プリンターを使用してください。

説明: GDDM プリンター &V2 は、ページ行数が少なすぎて &V1 を印刷することができません。このプリンターは、ページ行数 &V3 として定義されています。GDDM プリンターの名前は、PRINT コマンド、PROFILE パネル、または PRINT コマンドのプロンプト・パネルのいずれかで、オプションとして指定できます。

ユーザーの処置: &V4 から 999 までのページ行数をもつ GDDM プリンターの名前を入力してください。

DSQ60046

メッセージ: このオブジェクトの印刷には、&V3 - 999 の LENGTH を指定してください。

説明: LENGTH に指定する値は &V3 から 999 までの数値でなければなりません。この値は、PRINT コマンド、PROFILE パネル、または PRINT コマンドのプロンプト・パネルで、オプションとして指定できます。

ユーザーの処置: &V2 オブジェクトに対する LENGTH として、&V3 から 999 までの値を入力してください。

DSQ60047

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60048

メッセージ: &V1 は固定ページ長で印刷できません。

説明: ページ・ヘッダー、詳細ヘッダー、およびページ後書きの書式化に必要な行数 (&V2) が、許容最大印刷行数 (&V3) 以上です。したがって、固定ページ長で &V1 を印刷できません。

ユーザーの処置: &V1 を、印刷長 CONT で印

刷してください。これは、プロファイルまたは PRINT コマンドで指定できます。

または、

FORM.PAGE、COLUMNS または DETAIL パネル (あるいはそのすべて) を使用して、報告書内のページ・ヘッダー、ページ後書き、または詳細後書き (あるいはそのすべて) に必要な行数を減らしてください。

DSQ60049

メッセージ: 報告書を印刷できません。固定域が広すぎます。

説明: 固定域の幅は、印刷幅より 2 バイト以上小さくしなければなりません。

ユーザーの処置: 固定域の幅を小さくするか、または PRINT コマンドに指定する印刷幅を大きくしてください。

DSQ60050

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60051

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60052

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60053

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60054

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60055

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60056

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60057

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60059

メッセージ: 報告書に解決されないグローバル変数があります。

説明: 報告書内のグローバル置換変数に値が割り振られていません。報告書の変数は、書式に示したのと同じ変数名が示してあります。

ユーザーの処置: テキストで変数を置換したい場合、報告書に表示されたグローバル変数に対して SET GLOBAL コマンドを入力してください。

DSQ60060

メッセージ: 列 &V1 の列幅が狭すぎて、DBCS データが折り返せません。

説明: 列 &V1 (&V2) は、書式の中で、4 未満の列幅を持つものとして定義されていますが、中に DBCS データが含まれています。報告書の列の中で DBCS データの列内折り返しができるのは、列幅が 4 以上の場合だけです。

ユーザーの処置: FORM. COLUMNS(または FORM. MAIN) パネルで、列 &V1 の列幅を 4 から 32,767 までの範囲内の値にセットしてください。その上で、コマンドを再入力してください。

DSQ60062

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60063, DSQ60064

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60070

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60071, DSQ60072

メッセージ: スキャン初期化で RP 障害です。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60073 - DSQ60075

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60076 - DSQ60078

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60079, DSQ60080

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60081

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60090

メッセージ: 無効な機能コード '&I' がモジュールに渡されました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60091 - DSQ60095

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60096 - DSQ60109

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60110

メッセージ: フィールド ID '&I' は FORM オブジェクトとして有効ではありません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60120

メッセージ: 字下げには '&V1' ではなく 0 から 999 までの数値を使用してください。

説明: '&V1' は列間幅の値には無効です。列間幅は、前列の右端から当列の左端までの間のブランクの数を示します。

ユーザーの処置: 列間幅の値を 0 から 999 までの数値にセットし、ENTER キーを押してください。

DSQ60121

メッセージ: 列幅には '&V1' ではなく 1 から 32767 までの数値を使用してください。

説明: '&V1' は列幅の値には無効です。列幅は、1 つの列に入り得る最大文字数を指示します。列幅の値より長い列の中の数値データは、アスタリスク (*****) で置き換えられます。列幅の値より長い文字データは、列の継続が指定されていなければ、右側の部分が切り捨てられます。

ユーザーの処置: 列幅の値を 1 から 32767 までの数値にセットし、ENTER キーを押してください。

DSQ60123

メッセージ: &V1 は有効な取扱コードではありません。

説明: 有効な取扱コードは次の通りです。

ACROSS	LAST
AVERAGE (or AVG)	MAXIMUM
BREAK1...BREAK6	MINIMUM
BREAK1X...BREAK6X	OMIT
CALC1...CALC999	PCT
COUNT	STDEV
CPCT	SUM
CSUM	TPCT
FIRST	TCPCT
GROUP	(blank)

ユーザーの処置: 上記のコードから選択してください。

DSQ60125

メッセージ: 日付編集コードをブランクのままにすることはできません。

説明: 日付データには、以下のコードのいずれかを使用します。

コード	効果	意味
TDYx	YYYYxMMxDD	4 桁の年、 最初が年
TDMx	MMxDDxYYYY	4 桁の年、 最初が月
TDDx	DDxMMxYYYY	4 桁の年、 最初が日
TDYAx	YYxMMxDD	短縮された年、 最初が年
TDMAx	MMxDDxYY	短縮された年、 最初が月
TDDAx	DDxMMxYY	短縮された年、 最初が日
TDL	インストール先が日付形式設定ルーチンを提供する	
TD	データベース・システムのデフォルトの日付形式	

ここで、X には、英数字以外 (ブランクを含みます) の文字を指定できます。文字編集コードまたはユーザー編集コードは、日付データと併用できます。

ユーザーの処置: 上記の編集コードを 1 つ使用してください。

DSQ60126

メッセージ: &V1 は編集コードではありません。

説明: &V1 が編集コードとして使用されました。指定できるコードは次のとおりです。

使用できる編集コード	適用される列のデータ・タイプ
-- B BW	文字
-- X XW	文字
-- C CW CT CDx	文字 日付 時刻 タイム・スタンプ
-- L<Z>xx I<Z>xx J<Z>xx K<Z>xx P<Z>xx D<Z><C>xx E<Z>	数値
-- G GW	グラフィック
-- TDYx TDMx TDDx TDL TDYAx TDMAx TDDAx TD	日付
-- TTSx TTCx TTUx TTL TTAx TTAN TT	時刻
-- TSI	タイム・スタンプ
-- Uxxxx Vxxxx	ユーザーの編集 ルーチンで 許される値

数値の編集コードの 2 桁目の任意選択の Z は、対応する編集コードと同じ機能を実行します。それに加えて、ゼロの値をブランクとして表示する機能も実行します。

2 桁目または 3 桁目の任意選択の C は、標準の通貨記号の代わりに、ユーザーが定義できる通貨記号を表示させます。この記号は、グローバル変数の DSQDC_CURRENCY で定義されます。Z と C の両方を指定する場合、Z の後に C を指定します。

ユーザーの処置: 上記の編集コードを 1 つ使用してください。

DSQ60127

メッセージ: &V1 は日付、時間またはタイム・スタンプの編集コードではありません。

説明: &V1 が編集コードとして使用されました。指定できるコードは次のとおりです。

使用できる編集コード	適用される列のデータ・タイプ
TDYx TDMx TDDx TDL	文字

TDYAx TDMAx TDDAx TD

TTSx TTCx TTUx TTL 時刻
TTAx TTAN TT

TSI タイム・スタンプ

ユーザーの処置: 上記の編集コードを 1 つ使用してください。

DSQ60128

メッセージ: DSQ60123 を参照してください。

DSQ60130

メッセージ: フィールド ID '&I' は有効な COLUMNS フィールドではありません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60131

メッセージ: 列ヘッダーにエラーがあってはなりません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60132

メッセージ: フィールド ID '&I' は有効な COLUMNS フィールドではありません。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60137

メッセージ: 「編集」に編集コードを使用してください。

説明: 「編集」をblankにすることはできません。

有効な編集コード	適用される列のデータ・タイプ
-----	-----
-- B BW	文字
-- X XW	文字
-- C CW CT CDx	文字
	日付、時刻
-- L<Z>xx I<Z>xx J<Z>xx	タイム・スタンプ
K<Z>xx P<Z>xx D<Z><C>xx	数値
E<Z>	
-- G GW	グラフィック
-- TDYx TDMx TDDx TDL	日付
TDYAx TDMAx TDDAx TD	
-- TTSx TTCx TTUx TTL	時刻
TTAx TTAN TT	
-- TSI	タイム・スタンプ
-- Uxxxx Vxxxx	ユーザーの編集ルーチンで許される値

数値の編集コードの 2 桁目の任意選択の Z は、対応する編集コードと同じ機能を実行します。それに加えて、ゼロの値をblankとして表示する機能も実行します。

2 桁目または 3 桁目の任意選択の C は、標準の通貨記号の代わりに、ユーザーが定義できる通貨記号を表示させます。この記号は、グローバル変数の DSQDC CURRENCY で定義されます。Z と C の両方を指定する場合、Z の後に C を指定します。

ユーザーの処置: 上記の編集コードを 1 つ使用してください。

DSQ60143

メッセージ: 列間幅には、0 から 999 までの数値を指定してください。

説明: 列間幅は、前列の右端から当列の左端までの間のblankの数を示します。値そのものをblankにすることはできません。列と列の間にスペースを設けたくない場合には、列間幅をゼロに設定してください。

ユーザーの処置: 列間幅の値を 0 から 999 まで

の数値にセットし、ENTER キーを押してください。

DSQ60144

メッセージ: 列幅には、1 から 32,767 までの数値を指定してください。

説明: 列幅は、1 つの列に入れることのできる最大文字数を示すもので、これは 0 またはblankであってはなりません。列の全体を報告書から抹消したい場合には、その列の取扱コードとして OMIT を使用してください。

ユーザーの処置: 列幅を 1 から 32,767 までの範囲内の数字にセットし、ENTER を押してください。

DSQ60145

メッセージ: 時刻編集コードをblankにしておくことはできません。

説明: 時刻データには、以下のコードのいずれかを使用します。

コード	効果	意味
TTSx	HHxMMxSS	秒を含む、24 時間のクロック
TTCx	HHxMMxSS	秒を含む 12 時間のクロック
TTAx	HHxMM	秒はなし、短縮形
TTAN	HHMM	秒はなし、短縮形 区切り文字なし
TTUx	HHxMM AM HHxMM PM	USA スタイル
TTL		導入先が時刻形式設定
TT		データベース・システムのデフォルトの時刻形式

ここで、X には、英数字以外 (blankを含みます) の文字を指定できます。文字編集コードまたはユーザー編集コードを、時刻データと併用できます。

ユーザーの処置: 上記の編集コードを 1 つ使用してください。

DSQ60146

メッセージ: 'E' 編集コードの後には 'Z' を除いては何も付けることはできません。

説明: 小数点以下の桁数を指定することはできません。

'E' または 'EZ' 編集コードは、数値データを科学計算表記形式で表すことを示します。

'E' 編集コードの 2 番目のオプション 'Z' は、ゼロの値をブランクとして表示する追加の機能を伴う、'E' 編集コードと同じ機能を実行します。

1,234,567 という数値が与えられたとすると、'E' または 'EZ' 編集コードは、この数を次のような形式にします。

1.234567E+06

0 という数値が与えられたとすると、'E' または 'EZ' 編集コードは、この数を次のような形式にします。

E は 0.00000E+00 を表示する。
EZ はブランクを表示する。

ユーザーの処置: 編集には 'E' または 'EZ' を単独で使用してください。

DSQ60147 - DSQ60148

メッセージ: '&V1' 編集コードの位取りが 0 から 99 までの範囲内にありません。

説明: 編集コード D<Z><C><XX>, I<Z><XX>, J<Z><XX>, K<Z><XX>, L<Z><XX>, および P<Z><XX>は、数値編集コードです。Z、C および XX は任意指定の形式の修飾子で、使用するときにはここで示された順序で表示されなければなりません。XX の値は数値の位取りで、0 から 99 までの任意の整数を使用できます。データをその小数点以下の桁数で形式設定します。

ユーザーの処置: 正しい位取りを表すように編集コードを変更してください。値を検査して、編集コードの範囲内に含めてください。

DSQ60149

メッセージ: フィールドにはエラーがあってはなりませんし、書式は変更されてはなりません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60151

メッセージ: 「順」には 1 から 999 の数字を使用してください。

説明: 「順」は、特定の列の報告書内の相対列順序を示しています。0 またはブランクは指定できません。FORM.OPTIONS パネルの自動再配置オプションが YES に指定されているか、または ACROSS 取り扱いが指定されている場合、この順序値は報告書の書式化には使用されません。

ユーザーの処置: SEQ を 1 から 999 の数字に設定し、ENTER キーを押してください。

DSQ60152

メッセージ: 「順」には '&V1' ではなく、1 から 999 の数字を使用してください。

説明: '&V1' は「順」の有効な値ではありません。「順」は、報告書内の特定の列の相対列順序を示しています。FORM.OPTIONS パネルの自動再配置オプションが YES に指定されているか、または ACROSS 取り扱いが指定されている場合、この順序値は報告書の書式化には使用されません。

ユーザーの処置: SEQ を 1 から 999 の数字に設定し、ENTER キーを押してください。

DSQ60159

メッセージ: ID には、&V1 ではなく、1 から 999 の固有な数字を使用してください。

説明: &V1 は無効な ID 値であるか、または

FORM.CALC パネルの ID 値の間で固有ではありません。ID 値は、同じ行の計算式を FORM.COLUMNS の CALCID 取り扱いと関係するか、または FORM テキスト・パネルの &CALCID 変数と関係します。ここで、"ID" は ID 値です。たとえば、FORM.CALC の最初の行の ID 値が 3 である場合、書式化された報告書内に &CALC3 があるたびに最初の行の式が評価されます。

ユーザーの処置: ID を 1 から 999 の固有な数字に設定し、ENTER キーを押してください。

DSQ60160

メッセージ: NULL 置換値に YES または NO を使用してください。

説明: NULL 置換値は、データ行のヌルかヌルに似た値のどちらかが、式の変数に置換されるのを制御します。有効な値は YES と NO です。NO がデフォルト値です。

NO を入力した場合には、QMF は式の変数値がヌルのときに、結果もヌルと見なします。QMF は式の評価をしません。

YES を入力した場合には、QMF は無効な数字や文字データ (例、ヌルや定義されていないデータ) の変数を、あらかじめ定義された文字ストリングで置換します。あらかじめ定義するストリングに、たとえば 0 のような便利な値を置換する REXX EXEC や式を書くことができます。また、定義したストリングを使用して、条件付きで報告書の行を書式化することもできます。

次の表は、NULL 置換オプションに YES と指定した場合に使用される、定義済みのストリングを要約しています。

データ値	定義済み ストリング
-----	-----
ヌル	DSQNULL
オーバーフロー	DSQOFLOW
未定義	DSQUNDEF

非関連 (RM データのみ)	DSQNOREL
非インスタンス (RM データのみ)	DSQNOINS

ユーザーの処置: NULL 置換オプションに YES か NO を入力してください。

DSQ60163

メッセージ: フィールド ID &1 は有効な CONDITION フィールドではありません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60164

メッセージ: フィールドにはエラーがあってはなりませんし、書式は変更されてはなりません。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60165

メッセージ: パネル ID '&1' が DXEPCB チェーンに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60166

メッセージ: マップ ID '&1' は、DXEMDL チェーンに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60170

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60171

メッセージ: &V1 は、有効な計算式の変数ではありません。

説明: 以下の変数だけが、計算式で有効です。

&COUNT	&DATE	&TIME	&PAGE
&n	&COUNTn	&AVGn	&STDEVn
&CSUMn	&PCTn	&CPCTn	&TPCTn
&FIRSTn	&LASTn	&MAXn	&MINn
&ROW	&SUMn	&TCPCTn	

上記で、“n” は書式内の列番号です。

グローバル変数はさらに、計算式にも使用できます。

ユーザーの処置: 変数を有効な変数に変更するか、または削除してください。

DSQ60172

メッセージ: 条件式では、変数 &V1 は許されません。

説明: 入力された置換変数は FORM.CONDITIONS 式フィールド内で許されている変数の 1 つではありません。

条件式で許される変数は、:

&n	&DATE	&TIME
&ROW	&global	

ここで、“n” は、既存の列の数です。

ユーザーの処置: 変数のスペルを修正してください。SET GLOBAL コマンドでグローバル変数を入力するか、条件式を変更してください。

DSQ60173, DSQ60174

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60175

メッセージ: '&V1' に無効な列番号が入っています。

説明: ゼロ、または書式の列の数 (&V2) より大

きい数を、列番号として指定することはできません。

ユーザーの処置: 列番号を訂正し、ENTER を押してください。

DSQ60176

メッセージ: 変数 &V1 は定義式で使用できません。

説明: 入力した置換変数は、定義式で使用できるものではありません。

定義式で使用できる変数は次のとおりです。

&n	&DATE	&TIME	&ROW	&global
----	-------	-------	------	---------

ここで、“n” は存在している列の数、“GLOBAL” はグローバル変数の名前です。

ユーザーの処置: 変数名のスペルを訂正するか、定義式を変更してください。

DSQ60177

メッセージ: 無効な機能コード '&I' がモジュールに渡されました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60178

メッセージ: 計算式では &V1 を使用できません。

説明: 計算式は、&CALCID 変数を使用して別の計算式で定義することはできません。ただし、以下の FORM 変数は計算式の中で有効です。

&COUNT	&DATE	&TIME	&PAGE
&n	&COUNTn	&AVGn	&STDEVn
&CSUMn	&PCTn	&CPCTn	&TPCTn
&FIRSTn	&LASTn	&MAXn	&MINn
&ROW	&SUMn	&TCPCTn	

上記で、“n” は書式内の列番号です。グローバル変数も計算式に使用できます。

ユーザーの処置: 必要に応じて、上記の任意の変数

を使用して &V1 を式で置き換えてください。

DSQ60179

メッセージ: &V1 は、定義式では使用できません。

説明: 定義式は &CALCID 変数を使用して、計算式を定義することはできません。ただし、次の書式変数はいずれも、定義式で有効です。

&ROW &DATE &TIME &PAGE &n

上記で、“n” は書式内の列番号です。グローバル変数も定義式に使用することができます。

ユーザーの処置: 必要に応じ、上記の任意の変数を使用して &V1 を式で置き換えてください。

DSQ60190 - DSQ60202

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60203

メッセージ: 記憶域のスペースが足りません。

説明: コンピューター記憶域のスペースが足りないために、コマンドを実行することができません。予約されているスペース (ISPSTART コマンドのパラメーター R) が大きすぎるようです。

ユーザーの処置: QMF 管理者に記憶域スペースの増量を依頼してください。QMF によってこの問題を訂正することはできません。

DSQ60204 - DSQ60206

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60207

メッセージ: FM エラー - 無効な機能コード

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60208, DSQ60209

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60210

メッセージ: FM エラー - 再呼び出しバッファが無効な状況にあります。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60211

メッセージ: FM エラー - 再呼び出し予備バッファが利用できません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60212

メッセージ: FM エラー - バッファ制御レコードが見つかりません。トレース・データが書き込まれました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60213

メッセージ: FM エラー - バッファ・プール・レコードが使用できません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60214

メッセージ: FM エラー - 障害が起こったバッファ制御レコードを削除してください。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60215

メッセージ: FM エラー - 障害が起こったバッファ・プールを削除してください。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60216

メッセージ: FM エラー - 障害が起こったバッファ・プールレコードを削除してください。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60220

メッセージ: FM エラー - 無効な機能コード

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60221

メッセージ: FM エラー -ライブラリー行が使用不可です。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60222

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60223

メッセージ: FM エラー - 無効な列データ・タイプ

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60224

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60225 - DSQ60239

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60240 - DSQ60243

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60244

メッセージ: FM エラー - ヘッダー・レコードにまたがる挿入が失敗しました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60245

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60246, DSQ60247

メッセージ: FMエラー。報告書レコードの検索が失敗しました。レコードが見つかりません。

説明: 次のような原因が考えられます。

1. QMF 集合体の処理中に、データベースが更新された。
2. QMF の内部エラーが起きた。

ユーザーの処置: データベースが更新されたかどうかを調べてください。その上で照会と書式を再実行してください。

DSQ60248

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60249

メッセージ: DSQ60246 を参照してください。

DSQ60250

メッセージ: FM エラー - 報告書の線のタイプが無効です。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60251

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60252, DSQ60253

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60260

メッセージ: FM エラー - 無効な機能コード

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60261, DSQ60262

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60263

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60264

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60265

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60266

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60267

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60268

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60269, DSQ60270

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60272

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60273

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60274

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60280

メッセージ: FM エラー - 無効な機能コード

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60281

メッセージ: FM エラー - 要約チェックポイント・バッファが使用できません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60282 - DSQ60285

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60286

メッセージ: FM エラー - チェックポイント索引から記録を取ることができませんでした。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60287

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60288

メッセージ: スキャン初期化で RP 障害です。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60289

メッセージ: 右方スキャンでの RP 障害です。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60290

メッセージ: FM エラー - チェックポイント索引から記録を削除できませんでした。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60291

メッセージ: FM エラー - 更新したチェックポイント索引に記録を挿入できませんでした。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60293, DSQ60294

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60300

メッセージ: FM エラー - 無効なソース・データのタイプ

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60301

メッセージ: FM エラー - 無効な編集コード

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60310

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60311

メッセージ: そのモジュールでは、パネル ID '&1' は処理されません。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60312

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60313 - DSQ60316

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60320

メッセージ: DSQ60246 を参照してください。

DSQ60322

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60324 - DSQ60326

メッセージ: DSQ60246 を参照してください。

DSQ60332

メッセージ: マップ ID '&1' は、DXEMDL チェーンに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60333

メッセージ: パネル ID '&1' が DXEPCB チェーンに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60334 - DSQ60337

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60350

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60360

メッセージ: マップ ID '&1' は、DXEMDL チェーンに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60380

メッセージ: 浮動小数点値を変換できません。エラー・コード : &1

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60390

メッセージ: DXEORC のデータ・タイプ '&1' が無効です。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60391

メッセージ: マップ ID '&1' は、DXEMDL チェーンに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60392

メッセージ: デフォルトの書式では、ユーザーの日付データを作成できません。

説明: 列 &V2 に日付データが入っています。インストール先のデフォルト値の日付の形式は、ユ

ユーザー独自の形式です。ユーザー形式を使用するには、ユーザーの日付データを編集する、日付ルーチンが必要です。ユーザーの日付ルーチンを使用できません。エラーを説明するメッセージは、以下のとおりです。

&V3

ユーザーの処置: QMF 管理者 に連絡してください。

DSQ60393

メッセージ: デフォルトの書式では、ユーザーの時刻データを作成できません。

説明: 列 &V2 に時刻データが入っています。インストール先のデフォルト値の時刻の形式は、ユーザー独自の形式です。ユーザー形式を使用するには、ユーザーの時刻データを編集する、時刻ルーチンが必要です。ユーザーの時刻ルーチンを使用できません。エラーを説明するメッセージは、以下のとおりです。

&V3

ユーザーの処置: QMF 管理者 に連絡してください。

DSQ60394

メッセージ: パネル ID '&1' が DXEPCB チェーンに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60399

メッセージ: マップ ID '&1' は、DXEMDL チェーンに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60400

メッセージ: 記憶域の解放が失敗しました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60401

メッセージ: マップ ID '&1' は、DXEMDL チェーンに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60402, DSQ60403

メッセージ: そのモジュールでは、パネル ID '&1' は処理されません。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60404

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60405

メッセージ: ソース・バリエーション MDL '&1' はターゲット・バリエーション MDL '&2' と一致しません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60406

メッセージ: パネル ID '&1' が DXEPCB チェーンに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60430, DSQ60431

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60432, DSQ60433

メッセージ: 失敗した DSQ50015 を参照してください。

DSQ60434

メッセージ: 編集コード &V2 に関するユーザー・エラー・コード &V1 を受け取りました。

説明: 編集コード &V2 にしたがってデータを編集しようとしているときに、システムの編集プログラムがエラー・コード &V1 を返してきました。

ユーザーの処置: システムで編集コード &V2 の使用上の規則を調べてください。

DSQ60435, DSQ60436

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60437, DSQ60438

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60439

メッセージ: ユーザーの編集プログラムのメモリーは上書きされます。編集コード &2

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60440

メッセージ: 編集コード &V2 は認識されていません。

説明: 書式に使用されている編集コード &V2 は

無効です。次のいずれかの状態が起きているものと思われます。

1. インストール先システムの編集ルーチンがこの編集コードをサポートしていない。
2. インストール先システムに、編集ルーチンがインストールされていない。

ユーザーの処置: コードを再度調べて、正しい編集コードを指定してください。編集コードが正しい場合には、*QMF* 管理者に連絡してください。

DSQ60441

メッセージ: 編集コード &V2 に対する入力データの値が無効です。

説明: 編集コード &V2 は、一定の値のセットだけに有効なものです。書式で、このコードを、無効なデータ値の入った列に対して指定しています。

このエラーは、システムの編集プログラムが発見しました。

ユーザーの処置: システムの編集プログラムがこの編集コードに対してどのようなデータ値を予期しているかを調べてください。

DSQ60442

メッセージ: 編集コード &V2 に対する入力データが短すぎます。

説明: 編集コード &V2 には、一定の長さの入力データが必要です。書式で、このコードを長さの不十分なデータ値が入っている列に対して指定しています。

このエラーは、システムの編集プログラムが発見しました。

ユーザーの処置: システムの編集プログラムがこの編集コードに対してどのような入力データ長を予期しているかを調べてください。

DSQ60443

メッセージ: 編集コード &V2 に対する入力データ・タイプが正しくありません。

説明: 編集コード &V2 は、一定のデータ・タイプだけに使用できるものです。書式で、このコードを、それがサポートしないデータ・タイプの入った列に対して指定しています。

このエラーは、システムの編集プログラムが発見しました。

ユーザーの処置: システムの編集プログラムがこの編集コードに対してどのようなデータ・タイプを予期しているのかを調べてください。

DSQ60444

メッセージ: 編集コード &V2 の列幅 (WIDTH) が小さすぎます。

説明: 編集コード &V2 は、編集結果を入れるための最小列幅を必要とします。書式で、このコードを現報告書の列幅が不十分な列に対して指定しています。

このエラーは、システムの編集プログラムが発見しました。

ユーザーの処置: システムの編集プログラムがこの編集コードに対してどのような最小列幅を予期しているのかを調べるか、または書式の報告書列幅 (WIDTH) を拡大するか、またはこの両方の処置をしてください。

DSQ60445

メッセージ: DSQ60440 を参照してください。

DSQ60446

メッセージ: DSQ60441 を参照してください。

DSQ60447

メッセージ: ユーザーの編集出入口ルーチン・モジュール &1 を処理できません。 &2 からのエラ

ー、EIBRESP=&3、EIBRESP2=&4

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60448

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60449

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60470

メッセージ: FORM TEXT PANEL の無効なフィールド ID &1。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60471

メッセージ: FORM TEXT PANEL のパネル ID &1 が見つかりません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60472

メッセージ: 「テキスト前のブランク行数」の後に 0 ~ 999 までの数字を指定してください。

説明: テキスト前のブランク行数フィールドは、書式化されるテキスト (ページ・ヘッダー、ページ後書きテキスト、制御の切れめヘッダー) の上のブランク行の行数を示すものです。このフィールドをブランクのままにすることはできません。

ユーザーの処置: 「テキスト前のブランク行数

====>」には、0 から 999 までの数字を入力してください。

DSQ60473

メッセージ: 「テキスト後の空白行数」の後に 0 ～ 999 までの数字を指定してください。

説明: 「テキスト後の空白行数」フィールドは、書式化されるテキストのあとに続く空白行の行数を示すものです。このフィールドを空白のままにすることはできません。

ユーザーの処置: 「テキスト後の空白行数====>」には、0 から 999 までの数字を入力してください。

DSQ60474

メッセージ: 「テキスト前の空白行数」に 0 ～ 999 の数字か、BOTTOM を指定してください。

説明: 「テキスト前の空白行数」フィールドは、書式化されるテキスト (切れ目後書きテキスト、最終テキスト) の前に入れる空白行の数を示すものです。このフィールドを空白のままにすることはできません。

BOTTOM を指定すると、切れ目後書きテキストまたは最終テキストは、印刷ページの最下部に書式化されます。

ユーザーの処置: 「テキスト前の空白行数====>」に、0 から 999 までの範囲内の数字または BOTTOM を入力してください。

DSQ60475

メッセージ: 「合計行の位置」には、1 ～ 999 までの数字か、NONE を指定してください。

説明: 「合計行の位置」フィールドは、切れ目合計または最終合計の情報を書式化するかどうか、およびどの行に書式化するかを示すものです。合計情報がない場合には、この値は無視されます。

このフィールドを空白のままにすることはできません。

1 から 999 までの数字を指定すると、合計情報は、切れ目後書きテキストまたは最終テキストの行に書式化されます。

NONE を指定すると、合計情報は書式化されません。

ユーザーの処置: 「合計行の位置====>」に、1 から 999 までの範囲内の数字または NONE を入力してください。

DSQ60476

メッセージ: 「改ページ」のあとに YES または NO を指定してください。

説明: 改ページ・フィールドは、印刷される報告書の後続部分を新しいページに形式設定するかどうかを示します。このフィールドを空白のままにすることはできません。

YES - 報告書の後続部分は、新しいページに形式設定されます。

NO - 報告書の後続部分は、ページ末の状態でない限り新しいページには形式設定されません。

ユーザーの処置: 「改ページ====>」に、YES または NO だけを入力してください。

DSQ60477

メッセージ: 「明細ヘッダーの反復」の後には YES か NO を入力してください。

説明: 「明細ヘッダーの反復」フィールドは、切れ目レベルのメンバー行の前で明細ヘッダーを繰り返すかどうか示しています。このフィールドを空白のままにすることはできません。

YES - 明細ヘッダーは、切れ目のメンバー行の前で反復されます。

NO - 明細ヘッダーは、切れ目のメンバー行の前で反復されません。

ユーザーの処置: 「明細ヘッダーの反復====>」

の後には、YES または NO だけを入力してください。====>

DSQ60478

メッセージ: 調整の下に、RIGHT、LEFT、CENTER、APPEND か数字を指定してください。

説明: 「調整」で、報告書の行の中でのテキストの位置調整を制御します。このフィールドをブランクのままにすることはできません。指定できる値は次のとおりです。

RIGHT	- テキストを右寄せします
LEFT	- テキストを左寄せします
CENTER	- テキストを中央に合わせます。
APPEND	- 関連するテキストを、先行の テキストの次の位置へ位置づ けます

1 から 999999 - 行上でテキストを開始する位置

ユーザーの処置: 「調整」の下に、1 から 999999 までの数字か LEFT、RIGHT、CENTER、または APPEND を入力してください。

DSQ60479

メッセージ: 「行」に、1 から 999 までの数字か、ブランクを指定してください。

説明: 「行」の列は、ヘッダーまたは後書きテキストのための個々のテキスト部分の配置を制御します。たとえば、「5」を入力すると、該当のテキストは 5 行目に書式化されます。2 つのテキスト部分に同じ行番号を指定すると、両方とも同じ行に書式化されます。

ブランクを入力すると、当該テキストはすべて無視され、そのテキストは書式化されません。

ユーザーの処置: 「行」に、1 から 999 までの範囲内の数字、またはブランクを入力してください。

DSQ60480

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60481

メッセージ: フィールドにはエラーがあってはなりませんし、書式は変更されてはなりません。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60482

メッセージ: 「列ヘッダーを明細ヘッダーに含める」の後には YES または NO を指定します。

説明: 「列ヘッダーを明細ヘッダーに含める」フィールドには、列ヘッダーを明細ヘッダーの一部に含むかどうかを指定します。(表示されるかどうか。) このフィールドをブランクにすることはできません。

YES - 列見出しを、明細見出しテキストがある場合にはその後に入れます。

NO - 列見出しは形式設定されません。

ユーザーの処置: 「列ヘッダーを明細ヘッダーに含める====>」の後には YES または NO だけを指定してください。====>

DSQ60483

メッセージ: &V1 は、現在の文脈では無効です。

説明: ページ、切れ目ヘッダー、および明細ヘッダーのテキストでは以下の変数だけが有効です。

&DATE
&TIME
&PAGE
&ROW
&n (ここでは "n" は書式の列番号)

グローバル変数は切れ目後書き、明細ブロックおよび最終テキストでは、上記のものと同様にテキスト・フィールドの中で使用できます。

ユーザーの処置: 変数を有効な変数に変更するか、または &V1 を切れ目の後書き、明細ブロック、または最終テキストの中で使用してください。

DSQ60484, DSQ60485

メッセージ: &V1 は、有効な書式変数ではありません。

説明: ページ、切れ目のヘッダー、および明細ヘッダーのテキストには以下の変数だけが有効です。

&n &DATE &TIME &PAGE &ROW
&global

上記以外には、下記の変数が切れ目の後書き、明細ブロックおよび最終テキストにかぎって有効です。

&COUNT &COUNTn &AVGn &STDEVn
&SUMn &CSUMn &PCTn &CPCTn
&TPCTn &TCPCTn &FIRSTn &LASTn
&MAXn &MINn &CALCid

上記で、“N” は書式内の列番号で、“ID” は FORM.CALC 内の式 ID です。そして、“GLOBAL” は SET GLOBAL コマンドでグローバル変数のために使う名前を表すのにここでは使用されます。

ユーザーの処置: 変数を有効な変数に変更するか、または削除してください。

DSQ60486

メッセージ: 「表データ表示行」の後には 1 から 999 か NONE を指定してください。

説明: 「表データ表示行」フィールドは、表データを報告書の明細行に出力するか、および出力する場合は、どの行に出力するかを示しています。報告書に列がない場合は、この値は無視されません。このフィールドをブランクにすることはできません。

1 から 999 の数字を指定すると、表データは明細ブロックの対応する行に書式化されます。

NONE を指定すると、表データは報告書から省略されます。

ユーザーの処置: 表データ表示行 ==> の後に

は 1 から 999 までの数字または NONE を入力してください。

DSQ60487

メッセージ: 「ブロックをページ内に維持」の後には YES か NO を指定してください。

説明: このフィールドは、ページの終わり条件が発生したときに、ページ境界にまたがる明細ブロック行の書式化を制御します。このフィールドをブランクのままにすることはできません。

YES - 明細ブロック行は、ページ境界にまたがって形式設定はされません。YES の値は、すべての行が現ページに収まるようにします。行全体が収まりきらない場合は、新しいページが始まります。

NO - ページの終わり条件により、明細ブロック行がページ境界をまたいで形式設定されることがあります。

ユーザーの処置: ブロックをページ内に維持 ==> の後には YES または NO だけを入力してください。

DSQ60489

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60490

メッセージ: 「明細ヘッダーの反復」の後には YES か NO を入力してください。

説明: 「明細ヘッダーの反復」フィールドは、報告書内で各明細行およびグループ要約に対し詳細ヘッダーを繰り返すかどうかを示します。このフィールドをブランクにすることはできません。

YES - 明細ヘッダーが反復されます。

NO - 明細ヘッダーは反復されません。

ユーザーの処置: 「明細ヘッダーの反復 ==>」の後には、YES または NO だけを入力してください。 ==>

DSQ60491, DSQ60492

メッセージ: DSQ60175 を参照してください。

DSQ60493

メッセージ: 条件 ID &V1 がありません。

説明: 条件 IDとして、「パネル・バリエーションの選択」フィールドに &V1 を指定しましたが、FORM.CONDITIONS パネルにその名前の条件 ID はありません。

ユーザーの処置: &V1 を既存の条件式の ID 番号に変更するか、FORM.CONDITIONS パネルに ID &V1 に対する条件式を作成してください。

DSQ60494

メッセージ: 条件 ID &V1 に対する式がありません。

説明: 「パネル・バリエーションの選択」フィールドに入力した条件 ID に対応する式がありません。

ユーザーの処置: 条件 ID &V1 に対する式を作成するか、または条件 ID を FORM.CONDITIONS パネル上にあり、対応する式を持つ ID に変更してください。

DSQ60495

メッセージ: &V1 には、無効な計算 ID が指定されています。

説明: &CALCID 置換変数の "ID" は 1 999 の整数だけが有効で、FORM.CALC パネルの計算行の ID の値に等しくなければなりません。

ユーザーの処置: 有効な "ID" が含まれるように &V1 を変更し ENTER キーを押してください。

DSQ60496

メッセージ: DSQ60483 を参照してください。

DSQ60497

メッセージ: バリエーションには YES、NO、E1 ~ E999 か C1 ~ C999 を指定してください。

説明: 「パネル・バリエーションの選択」の入力域は、現パネルで指定された値 (バリエーション) が、いつテキストを書式化するのに使用されるかを決定します。指定できる値は次のとおりです。

- YES - このパネルからの値は、必ず (ALWAYS) 選択されます。
- NO - このパネルからの値は、決して (NEVER) 選択されません。
- E1-E999 - 列「存在」標識。
このパネルは、データが指示された列番号に「存在する」場合に選択されます。
- C1-C999 - 条件 ID。
このパネルは関連する条件 (FORM.CONDITIONS にある) が真であるときに選択されます。

ユーザーの処置: YES、NO、E1 から E999 または C1 から C999 を入力してください。

DSQ60498

メッセージ: 集約取扱コードの変数 '&V1' には、列番号が必要です。

説明: 集約取扱コード変数の形式は、'&Xn' です。

- x - は集約取扱コードです。認められる集約取扱コードは次のとおりです。COUNT、MAX、MIN、FIRST、LAST、AVG、SUM、CSUM、STDEV、PCT、CPCT、TPCT、および TCPCT。COUNT は、列番号が必要ない唯一の変数です。

- n - は集約される列の番号です。この番号は、ゼロ、または書式中の列の数を超えてはなりません。

ユーザーの処置: 集約取扱コードを実行したい列の番号を、変数に追加してください。

DSQ60500

メッセージ: FORM TEXT PANEL に、マップ DXEMDL id &1 が見つかりません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60510

メッセージ: フィールド ID &1 は有効な CALC フィールドではありません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60511

メッセージ: DSQ60159 を参照してください。

DSQ60513

メッセージ: 列幅には、1 から 32,767 までの数値を指定してください。

説明: 幅は、&CALCID 変数の式の結果を編集するために使用できる最大文字数を示しています。ここで、“ID” は計算式および幅の値が含まれている FORM.CALC 行の ID 値です。幅は、0 またはブランクであってはなりません。

ユーザーの処置: 列幅の値を 1 から 32767 までの数値にセットし、ENTER キーを押してください。

DSQ60514

メッセージ: 幅には &V1. ではなく、1 から 32767 の数字を指定してください。

説明: &V1 は、幅の有効な値ではありません。幅は、&CALCID 変数の式の結果を編集するために使用できる最大文字数を示しています。ここで、“ID” は式および幅の値が含まれている FORM.CALC 行の ID 値です。

数字編集コード (D、E、I、J、K、L、または P) で編集され、幅の値より長い数字の結果はアスタ

リスク (*****) で置き換えられます。

幅の値より長い文字の結果は右側から切り捨てられます。

ユーザーの処置: 列幅を 1 から 32,767 までの範囲内の数字にセットし、ENTER を押してください。

DSQ60515 - DSQ60517

メッセージ: &V1 は CALC 変数として有効な編集コードではありません。

説明: 編集は &CALCID 変数の式の結果を編集する方法を示しています。次の *QMF* 編集コードだけが有効です。

- 数値の結果の数値編集について:
D<Z><C>xx, E<Z>, I<Z>xx, J<Z>xx,
K<Z>xx, L<Z>xx, または P<Z>xx

例:

D	-\$123,456	E	-1.23E+05
I	-00123456	J	000123456
K	-123,456	L	-123456
P	-123,456%		

数値の編集コードの 2 桁目の任意選択の Z は、対応する編集コードと同じ機能を実行します。それに加えて、ゼロの値をブランクとして表示する機能も実行します。

2 桁目または 3 桁目の任意選択の C は、標準の通貨記号の代わりに、ユーザーが定義できる通貨記号を表示させます。この記号はグローバル変数の DSQDC CURRENCY で定義されます。Z と C の両方を指定する場合、Z の後に C を指定します。

数値変数コードは、E を除き、その後に 0 から 99 を付けて、小数点以降の桁数を示すことができます。

- 任意の結果のユーザー編集について: 数値以外の結果には、編集コード C を使用します。
- 任意の結果のユーザー編集について: Uxxxx または Vxxxx "xxxx" は文字の任意の組み合わせです。ただし、ブランクまたはヌルを除く、ユーザー編集ルーチンで許される値です。

ユーザーの処置: 上記の編集コードのいずれかを設定してください。

DSQ60518

メッセージ: CALC 変数に有効な編集コードを指定してください。

説明: 編集は &CALCID 変数の式の結果を編集する方法を示しています。次の QMF 編集コードだけが有効です。

- 数値の結果の数値編集について:
D<Z><C>xx, E<Z>, I<Z>xx, J<Z>xx,
K<Z>xx, L<Z>xx または P<Z>xx

例:

D	-\$123,456	E	-1.23E+05
I	-00123456	J	000123456
K	-123,456	L	-123456
P	-123,456%		

数値の編集コードの 2 桁目の任意選択の Z は、対応する編集コードと同じ機能を実行します。それに加えて、ゼロの値をブランクとして表示する機能も実行します。

2 桁目または 3 桁目の任意選択の C は、標準の通貨記号の代わりに、ユーザーが定義できる通貨記号を表示させます。この記号は、グローバル変数 DSQDC_CURRENCY で定義されます。Z と C の両方を指定する場合、Z の後に C を指定します。

数値変数コードは、E を除き、その後に 0 から 99 を付けて、小数点以降の桁数を示すことができます。

- 任意の結果の文字編集について: 数値以外の結果には、編集コード C を使用します。
- 任意の結果のユーザー編集について: Uxxxx または Vxxxx "xxxx" は文字の任意の組み合わせです。ただし、ブランクまたはヌルを除く、ユーザー編集ルーチンで許される値です。

ユーザーの処置: 上記の編集コードのいずれかを設定してください。

DSQ60519

メッセージ: DSQ60146 を参照してください。

DSQ60520, DSQ60521

メッセージ: DSQ60147 を参照してください。

DSQ60522

メッセージ: フィールドにはエラーがあってはなりませんし、書式は変更されてはなりません。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60523

メッセージ: DSQ60160 を参照してください。

DSQ60530

メッセージ: FM エラー - 無効な機能コード

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60531

メッセージ: フィールド ID '&1' は FORM オブジェクトとして有効ではありません。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60532

メッセージ: 制御ブロックは書式のエラーを示していますが、フィールドにはエラーは検出されませんでした。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60533

メッセージ: 制御ブロックは書式の警告を示していますが、フィールドには警告は検出されませんでした。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60550

メッセージ: ID '&1' をもつフィールドは従属関係をもつことはできません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60551

メッセージ: フィールド ID '&2' のフィールド値 '&1' は従属関係をもつことができません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60552

メッセージ: DXEADS ステータス・フラグはエラーまたは警告を示していますが、検出されませんでした。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60553

メッセージ: 行の折り返しは無視されました。取扱コード ACROSS と同時に指定できません。

説明: 行の折り返しには一定の制約があります。下記の *QMF* 書式化機能は行折り返しのある報告書では使用することができません。

1. FORM.COLUMNS パネルの編集フィールドに指定された列内折り返し
2. FORM.COLUMNS パネルに指定された ACROSS 取扱コード

ユーザーの処置: これは警告メッセージです。ACROSS 列を使用したい場合は、オプション・パネルで「行の折り返し幅」を NONE に変更してください。そうでない場合には、ACROSS 取扱コードを取り除いてください。

DSQ60554

メッセージ: 行の折り返しは無視されました。列内折り返しと同時に指定できません。

説明: 行の折り返しには一定の制約があります。下記の *QMF* 書式化機能は行折り返しのある報告書では使用することができません。

1. FORM.COLUMNS パネルの編集フィールドに指定された列内折り返し
2. FORM.COLUMNS パネルに指定された ACROSS 取扱コード

ユーザーの処置: これは警告メッセージです。列内折り返しを使用したい場合には、OPTIONS パネルで「行の折り返し幅」を NONE に変更してください。そうでない場合には、列内折り返しの編集コードを変更してください。

DSQ60555

メッセージ: 並べ替えオプション NO は無視されました。横方向報告書では列が並べ替えられません。

説明: 横方向報告書の形式化では列書式パネル上の列「順」の値は無視されます。報告書の中で列を並べ替えるには、「報告書列の並べ替え」オプションを YES にすることで行なわれます。

ユーザーの処置: これは警告メッセージです。方

向列が必要であれば、オプション書式パネルの「報告書列の並べ替え」オプションを YES に変更してください。そうでない場合には、ACROSS 取扱コードを取り除いてください。

DSQ60556

メッセージ: テキストまたは式が大きすぎるので切り捨てられました。

説明: ユーザーのテキストか式の置き換え変数は拡張されました。これは書式に列を挿入したり、または言語変換が必須な書式に IMPORT か DISPLAY 処理をしたさいに発生します。変数の拡張によりテキストか式の行が切り捨てられることがあります。切り捨てが起こると書式パネルの最上部に警告の標識が表示されます。

列が挿入されても、グローバル変数の数字は付け直されません。

ユーザーの処置: CHECK コマンドを使用して、切り捨てが起こった行を見つけられます。切り捨ての警告を取り除くには、切り捨てられた行に、別の文字を入力してください。必要であれば、テキストか式を修正してください。

DSQ60560

メッセージ: 列が省略されました。GROUP とブランクの取扱コードは使用できません。

説明: 書式内のどちらかの列に GROUP 取扱コードが指定され、別の列に集約取扱コードが指定されている場合、取扱コードがブランクの列があってはなりません。ブランクが指定されていた列は報告書から省略されました。

ユーザーの処置: この列を省略しないためには、その取扱コードを BREAKN、GROUP、または集約取扱コードに変更してください。指定可能な集約取扱コードは次のとおりです。

SUM	PCT	TPCT	FIRST	MAXIMUM
AVERAGE	COUNT	CSUM	CPCT	TCPCT
LAST	MINIMUM	STDEV	CALC1...	CALC999

DSQ60561

メッセージ: ACROSS が使用されています。ほかの ACROSS 列は除外されます。

説明: ACROSS が複数の列に入力されています。ACROSS は、1 つの列だけで使用できるものです。複数の ACROSS が入力された場合には、最初の ACROSS 列だけが使用され、2 番め以降の ACROSS 指定の列は報告書から除外されます。この列が、取扱コードに ACROSS が指定されている最初の列です。

ユーザーの処置: これは警告メッセージです。この列を ACROSS 列として用いたくない場合には、GROUP、OMIT、BREAKN、BREAKNX、または集約取扱コードに変更してください。

DSQ60562

メッセージ: ACROSS には GROUP および集約取扱コードが必要です。

説明: ACROSS が列の取扱コードとして入力されましたが、ほかの列には GROUP または集約取扱コードが指定されていません。ACROSS が使用される場合は、GROUP が少なくとも 1 つの列に指定され、別の列に集約取扱コードが指定されている必要があります。少なくとも 1 つの GROUP および以下の集約取扱コードのどちらかが追加されるまで、ACROSS が指定されている列は報告書から省略されます。

SUM	PCT	TPCT	FIRST	MAXIMUM
AVERAGE	COUNT	CSUM	CPCT	TCPCT
LAST	MINIMUM	STDEV	CALC1...	CALC999

ユーザーの処置: ACROSS を指定する列がある場合は、少なくとも 1 つの列に GROUP を指定し、ほかの列に集約取扱コードを指定してください。

DSQ60563

メッセージ: 列が省略されました。GROUP は集約取扱コードが必要です。

説明: 取扱コード GROUP を使用する場合、そ

のほかの列の少なくとも 1 つには集約取扱コードを指定する必要があります。以下の関数が使用できます。

SUM	PCT	TPCT	FIRST	MAXIMUM
AVERAGE	COUNT	CSUM	CPCT	TCPCT
LAST	MINIMUM	STDEV	CALC1...	CALC999

集約取扱コードが指定されていないため、GROUP が指定された列は報告書から省略されました。

ユーザーの処置: 報告書でグループ化が必要な場合は、少なくとも 1 つの列に集約取扱コードを指定してください。グループ化する場合、取扱コードがブランクの列があってはなりません。

DSQ60564

メッセージ: 列が省略されました。列 &V1 に対して ACROSS が使用されます。

説明: ACROSS が、複数の列に対して取扱コードとして入力されています。取り扱いに ACROSS の指定された列は 1 つだけです。取り扱いに ACROSS の指定された列が 2 つ以上ある場合には、ACROSS のある最初の列 (番号 &V1) が ACROSS 列として使用されます。ACROSS 指定のある残りの列は、報告書から除外されます。

ユーザーの処置: これは警告メッセージです。列 &V1 を ACROSS 列にしたい場合には、その取り扱いを GROUP、OMIT、BREAKN、BREAKNX、または集約取扱コードに変更してください。

DSQ60580

メッセージ: リリース 1 からリリース 2 への変換中のエラー。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60581, DSQ60582

メッセージ: FP 機能のシステム問題です。

FPCODE = &1。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60583

メッセージ: パネル ID '&1' が DXEPCB チェーンに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60584

メッセージ: マップ ID '&1' は、DXEMDL チェーンに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60585

メッセージ: リリース 1 の書式に、変換できない無効な使用方法があります。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60600

メッセージ: マップ ID '&1' は、DXEMDL チェーンに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60601

メッセージ: パネル ID '&1' が DXEPCB チェーンに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60620

メッセージ: DXEFCLX の列数が FCI の列数と一致しません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60630

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60631

メッセージ: &V1 に無効な属性があります。

説明: EXPORT REPORT に使用されるデータ・セットは、最低の論理レコード長が &V2. の可変長レコード形式でなくてはなりません。

ユーザーの処置: 十分な論理レコード長を持つ可変長レコード形式のデータ・セットに対して、報告書をエクスポートしてください。または、まだ存在していないデータ・セットの名前を指定して、QMF に自動的に割り振らせてください。

DSQ60632

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60633, DSQ60634

メッセージ: エクスポートするレコードが出力ファイルに対して大きすぎます。

説明: データベースからエクスポートされる照会のレコードのいくつかが作成される出力ファイル

のレコード長の最大値を超えています。

ユーザーの処置: 出力ファイルの論理レコード長がエクスポートされる照会中で最大のレコードより大きいかどうか確認してください。データベース中の照会レコードの最大長は、3,200 です。

HTML レコードの最大長は、CMS または CICS で 32,752、MVS では 32,756 です。

DSQ60647 - DSQ60649

メッセージ: 「固定列の数」の後には 1 から 999 か、NONE を指定してください。

説明: 「固定列の数」フィールドには、報告書の左側に固定する列数を指定します。1 から 999 または NONE を指定できます。NONE がデフォルト値です。このフィールドをブランクのままにすることはできません。

ユーザーの処置: 次の後に 1 から 999 までの数字または NONE を入力してください。

報告書の固定列の数 ===>

DSQ60650

メッセージ: FORM.OPTIONS パネルに対してフィールド ID '&1' は無効です。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60651

メッセージ: 「切れ目列の一括表示」のあとには YES か NO を指定してください。

説明: 制御列 (取扱コードが BREAKN であるもの) の中の値の重複を抑止します。このフィールドをブランクのままにすることはできません。

YES - 「一括表示」を行い、制御列の重複値を抑止します。

NO - 「一括表示」を行わず、制御列のすべての値を表示します。

ユーザーの処置: 「切れ目列の一括表示 ==>」のあとには、YES または NO だけを使用してください。

DSQ60652

メッセージ: 「グループ化した時の列ヘッダーの関数名使用」には YES か NO を指定します。

説明: このフィールドには、列ヘッダーに集約取扱コード名を含めるかどうかを指定します。これが指定できるのは、書式で GROUP を指定した場合 (取扱コードに GROUP が指定された列) です。このフィールドをブランクのままにすることはできません。

YES - 列ヘッダーに、集約取扱コード名を含めます。

NO - 列ヘッダーに、統計機能名を含めません。

ユーザーの処置: 「グループ化した時の列ヘッダーの関数名使用 ==>」に YES または NO だけを入力してください。

DSQ60653

メッセージ: 「列ヘッダーの区切り文字」に YES または NO を指定してください。

説明: 「列ヘッダーの区切り文字」フィールドは、列ヘッダーの下のダッシュ行を報告書に含めるかどうかを示します。このフィールドをブランクのままにすることはできません。

YES - 列ヘッダーの区切り文字が、報告書に表示されます。

NO - 列ヘッダーの区切り文字が、報告書に表示されません。

ユーザーの処置: 「列ヘッダーの区切り文字 ==>」に、YES または NO だけを入力してください。

DSQ60654

メッセージ: 「列内折り返し行の同一ページ内表示」に、YES か NO を指定してください。

説明: このフィールドは、ページ終わり条件に達

したときに、別のページの列内折り返し行の形式設定を制御するものです。このフィールドをブランクのままにすることはできません。

YES - 列内折り返し行は、別のページ上では形式設定されません。
YES の値は、すべての行が現ページに収まるようにします。
行が全部収まりきらない場合には、新しいページが始まります。

NO - ページの終わり条件により、列内折り返し行が別のページで形式設定されることがあります。

ユーザーの処置: 「列内折り返し行の同一ページ内表示 ==>」に、YES または NO だけを入力してください。

DSQ60655

メッセージ: 「デフォルトの切れ目テキスト」に、YES または NO を指定してください。

説明: このフィールドは、報告書の中のデフォルトの切れ目テキストの形式設定を制御するものです。デフォルトの切れ目テキストとは、制御の切れ目は指定されているがそれに関連する切れ目テキストが指定されていない場合に、制御の切れ目に現れるアスタリスクのことです。このフィールドをブランクのままにすることはできません。

YES - アスタリスクが報告書に組み込まれます。

NO - アスタリスクが報告書に組み込まれません。

ユーザーの処置: 「デフォルトの切れ目テキスト ==>」に、YES または NO だけを入力してください。

DSQ60656

メッセージ: 「横方向合計列の表示」に YES または NO を指定してください。

説明: このフィールドは、報告書の横方向合計列の形式設定を制御するものです。横方向合計列は、右端の '合計' という横方向ヘッダーの値の下にある、合計情報が入っている列です。このフ

フィールドを空白のままにすることはできません。

YES - 横方向合計列は報告書に組み込まれます。

NO - 横方向合計列は報告書に組み込まれません。

ユーザーの処置: 「横方向合計列の表示 ==>」に、YES または NO だけを入力してください。

DSQ60657

メッセージ: 「明細行の行送り」に、1 から 999 を指定してください。

説明: 明細行の行送りは、報告書の各明細行のあとの行送りを制御するものです。指定できる値は 1 から 999 の内のどれかで、1 は行間をつめた行送り、2 は 1 行おきの行送りと順に表します。ゼロまたは空白の値は許されません。

ユーザーの処置: 「明細行の行送り ==>」に、1 から 999 の数値を入力してください。

DSQ60658

メッセージ: フィールドにはエラーがあってはなりませんし、書式は変更されてはなりません。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60659

メッセージ: DSQ60657 を参照してください。

DSQ60660

メッセージ: 「区切りヘッダーの切れ目合計」には、YES か NO を指定してください。

説明: 「区切りヘッダーの切れ目合計」フィールドは、制御の切れ目の合計行の前のダッシュ行を報告書に含めるかどうかを示すものですこのフィールドを空白のままにすることはできません。

YES - 切れ目合計区切りヘッダーが報告書に表示されます。

NO - 切れ目合計区切りヘッダーが報告書に表示されません。

ユーザーの処置: 「区切りヘッダーの切れ目合計 ==>」には、YES または NO だけを入力してください。

DSQ60661

メッセージ: 「横方向ヘッダーの区切り文字」には YES か NO を指定してください。

説明: 「横方向ヘッダーの区切り文字」フィールドは、横方向列ヘッダーの中のダッシュ、より大、および、より小の各シンボルを報告書に含めるかどうかを示すものです。このフィールドを空白のままにすることはできません。

YES - 横方向ヘッダーの区切り文字が報告書に表示されます。

NO - 横方向ヘッダーの区切り文字が報告書に表示されません。

ユーザーの処置: 「区切り文字の横方向ヘッダー ==>」には、YES または NO だけを入力してください。

DSQ60662

メッセージ: 「区切り線の最終合計」のあとに YES か NO を指定してください。

説明: 「区切り線の最終合計」フィールドは、最終合計行の前の等号を報告書に含めるかどうかを示すものです。このフィールドを空白のままにすることはできません。

YES - 最終合計区切り線が報告書に表示されます。

NO - 最終合計区切り線は報告書に表示されません。

ユーザーの処置: 「区切り線の最終合計 ==>」には、YES または NO だけを入力してください。

DSQ60663, DSQ60664

メッセージ: 「行の折り返し幅」には 1 ~ 999 の数字または NONE を指定してください。

説明: このフィールドは、報告書の一定の行を折り返すかどうかを示します。指定できる値は、1 から 999 までの数字、または NONE です。このフィールドを空白のままにすることはできません。デフォルトの値は NONE です。NONE は、行の折り返しを行なわないことを示します。

1 から 999 までの値を指定すると、その値でどこで行を折り返して次の行に継続させるかが決まります。

ユーザーの処置: 1 から 999 までの範囲内の数字または NONE を入力してください。

行の折り返し幅 ? ====>

DSQ60665

メッセージ: DSQ60657 を参照してください。

DSQ60666, DSQ60667

メッセージ: DSQ60663 を参照してください。

DSQ60668

メッセージ: 「報告書列の並べ替え (自動的)」の後には、YES か NO を入力してください

説明: このフィールドは、報告書内で列を自動的に再配置するかどうかを示しています。再配置または ACROSS 取り扱いが指定されている場合は、報告書での列の順序は左から右に次のようになります。切れ目取り扱いの列、グループ取り扱いの列、非総計列、総計取り扱いの列。それ以外の場合は、FORM.COLUMNS パネルの順の値が報告書の書式化に使用されます。このフィールドを空白のままにすることはできません。

YES - 列が自動的に報告書上で再配置されます。

NO - SEQ 列値が報告書の形式設定に使用されます。

ユーザーの処置: 「報告書列の並べ替え (自動

的)====>」の後には、YES または NO だけを入力してください。

DSQ60669

メッセージ: 「最高位の切れ目ごとに新しいページ番号」には YES か NO を指定します。

説明: このフィールドでは、印刷報告書の最高切れ目レベル (最小の切れ目番号のレベル) ごとにページ番号を 1 から付け直すのかどうかを指定します。このフィールドを空白のままにすることはできません。

YES 次の場合には、最高切れ目レベルで作成される最初のページには、ページ番号 1 が付けられます。

1. 列の書式パネルで列に対して BREAK 取扱コードが指定されていて、
2. 対応する切れ目の書式パネルの「切れ目での改ページ」フィールドに YES が指定されている。

NO ページ番号の変更が不要な場合。

ユーザーの処置: 「最高位の切れ目ごとに新しいページ番号====>」のあとに YES または NO を入力してください。

DSQ60672 - DSQ60674

メッセージ: 「報告書のテキストの幅」には DEFAULT、COLUMNS か 0 ~ 999999 を指定する。

説明: これらの値はページ・テキストを除いた報告書テキスト域幅を指定します。指定できる値は次のとおりです。

DEFAULT -- テキストは、合計データ列の左に形式設定されます。切れ目または最終合計データがない場合には、報告書列の合計幅が用いられます。(切れ目後書きと最終テキストのみ提供されます。)

COLUMNS -- 報告書列の合計幅は、FORM.COLUMNS パネルに示されているとおりです。

0 から -- 報告書のテキスト域を正確に定義
999999 する数です。ゼロを指定すると、
テキストは形式設定されません。

ユーザーの処置: 報告書のテキストの幅に、0 から
999999 の数字、DEFAULT または COLUMNS
を入力してください。

DSQ60700

メッセージ: 無効な機能コード '&1' がモジュール
に渡されました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従って
ください。

DSQ60701

メッセージ: ここにはこれ以上行を挿入できませ
ん。

説明: 行を挿入しようとしている区域には、許容
最大行数 (&V1.) がすでに含まれています。

ユーザーの処置: 必要でない行を削除してくださ
い。

DSQ60702

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60703, DSQ60704

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60705 - DSQ60707

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60708

メッセージ: 最後の行または唯一の行は削除でき
ません。リセットされています。

説明: 最低1行は書式のこの区域に残っていなけ
ればなりません。削除しようとした行は消去さ
れ、フィールドはデフォルト値にリセットされま
した。

ユーザーの処置: 処理を続行してください。

DSQ60709

メッセージ: 挿入行のフィールドに値を指定して
ください。

説明: ブランクであるかまたはデフォルト値に事
前設定されている新しい行が挿入されました。こ
れらのフィールドを必要な値に設定してくださ
い。

ユーザーの処置: フィールドを必要な値に設定し
た後、処理を続行してください。

DSQ60710

メッセージ: OK、&1 は実行されました。処理
を続けてください。

DSQ60711

メッセージ: マップ ID '&1' は、DXEMDL チ
ェーンに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従って
ください。

DSQ60712

メッセージ: パネル ID '&1' が DXEPCB チ
ェーンに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従って
ください。

DSQ60713

メッセージ: DSQ60494 を参照してください。

DSQ60714

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60720

メッセージ: 取扱コード '&V1' は数値データにしか使用できません。

説明: '&V1' が使用できるのは数値データだけであり、文字データ、図形データ、日付、時刻、またはタイム・スタンプには使用できません。数値と見なされる列の編集コードは、D、E、I、J、K、L、または P です。

AVERAGE、SUM、CSUM、PCT、CPCT、TPCT、TCPCT、および STDEV は、数値列にしか使用できません。

ユーザーの処置: 取扱コードを変更し、ENTER キーを押してください。

DSQ60721

メッセージ: 間隔には '&V1' ではなく 1 から 999 までの数字を指定してください。

説明: '&V1' は、漢字列のための字下げの有効な値ではありません。列間幅は、前列の右端から当列の左端までの間のブランクの数を示します。

ユーザーの処置: 間隔を 1 から 999 までの範囲内の数字に設定し、再入力してください。

DSQ60722

メッセージ: 列幅は '&V1' ではなく、1 から 16,383 までの数字を指定してください。

説明: '&V1' は、漢字列のための列幅の有効な値ではありません。列幅は、1 つの列に入り得る最大文字数を指示します。列幅の値より長いグラフィック・データは、列の折り返しが指定されていないかぎり、右端で切り捨てられます。

ユーザーの処置: 列幅を 1 から 16383 までの範囲内の数字にセットし、ENTER を押してください。

DSQ60723

メッセージ: &V1 は、列 &V2. では有効な変数ではありません。

説明:
SUM、CSUM、PCT、CPCT、TPCT、TCPCT、STDEV、および AVG の各集約取扱コードは、数値データだけに実行できます。
MAX、MIN、FIRST、LAST および COUNT は、すべての列に実行できます。

列 &V2. のデータ・タイプは、FORM.COLUMNS パネルの編集列を参照してください。

ユーザーの処置: 列 &V2. で集約取扱コードを実行したい場合は、データ・タイプと互換性がある関数を選択してください。

DSQ60724

メッセージ: ID '&1' をもつフィールドは従属関係をもつことはできません。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60725

メッセージ: DSQ60159 を参照してください。

DSQ60726

メッセージ: 指定された &V1 は「パネル・バリエーションの選択」では無効です。

説明: 「パネル・バリエーションの選択」に &V1 が指定されています。このコードを指定するには FORM.COLUMNS パネルで NO に &V2 が指定された列が必須ですが、そのような列はありません。

ユーザーの処置: &V1 を修正して存在する列の列番号を使用するか、&V1 を YES または NO に変更するかのどちらかを行ってください。

DSQ60727

メッセージ: 固定列には、行の折り返しは指定できません。

説明: 行の折り返しと固定列は相互に排他的です。同じ報告書にこの両方を指定することはできません。

ユーザーの処置: 折り返しが必要な場合は、固定列の数を NONE に変更してください。そうでない場合は、行折り返し幅を NONE に変更してください。

DSQ60728

メッセージ: 取り扱い &V1. 用の式が FORM.CALC に存在しません。

説明: FORM.COLUMNS に取り扱い &V1 を指定しました。しかし、この取り扱いには FORM.CALC パネルに &V2 という ID が付いた計算式が必要です。この ID の式がありません。

ユーザーの処置: 既存の計算式の ID を使用するために &V1 を修正するか、またはその ID が &V2. である式を FORM.CALC に定義してください。

DSQ60729

メッセージ: DSQ60493 を参照してください。

DSQ60730

メッセージ: 変数 &V1. の式が FORM.CALC に存在しません。

説明: 報告書テキストに変数 &V1 を指定しました。しかし、この変数の場合 FORM.CALC パネル上に &V2 という ID の計算式が必要です。この ID の式がありません。

ユーザーの処置: 既存の計算式の ID を使用するために &V1 を修正するか、またはその ID が &V2. である式を FORM.CALC に定義してください。

DSQ60731

メッセージ: DSQ60494 を参照してください。

DSQ60732

メッセージ: 条件 ID 番号 &V1 が固有ではありません。

説明: 「パネル・バリエーションの選択」フィールドに入力された条件 ID 番号が固有ではありません。FORM.CONDITIONS パネルに &V1 の ID が 2 つ以上あります。

ユーザーの処置: FORM.CONDITIONS パネルの ID 番号を、それぞれ固有なものに変更して、同じ ID 番号が 2 つにならないようにしてください。

DSQ60733

メッセージ: DSQ60493 を参照してください。

DSQ60740

メッセージ: FORM 内の列の数が DATA と一致しません。

説明: 式の定義がない FORM (&V1.) で示されている列の数と、DATA (&V2.) の列の数が正確に一致しないので、報告書を作成できません。FORM 列に式の定義を任意の数で指定できます (最大 999 まで)。しかし定義がない列の数と、DATA の列の数は報告書を作成するために、一致していなければなりません。

ユーザーの処置: INSERT または DELETE コマンドを使用して、ユーザー自身が FORM の桁数を DATA に合わせてください。または、RESET コマンドを使用して FORM (または FORM.COLUMNS) をデフォルト値に設定することもできます。

DSQ60741

メッセージ: 数値コード &V1 は数値データ用の有効な編集コードではありません。

説明: 数値データには次のいずれかのコードを使用してください。

コード	意味
D<Z><C>xx	通貨記号 (-\$123,456) 区切り記号
E<Z>	浮動小数 (浮動小数) (-1.23456E+05) 表記
I<Z>xx	先行ゼロ (-00123456)
J<Z>xx	先行ゼロ (00123456) 負符号なし
K<Z>xx	区切り記号 (-123,456)
L<Z>xx	正規 (-123456)
P<Z>xx	パーセント記号 (-123456%)
Uxxxx	ユーザー編集コード (後に 4 文字を置く)
Vxxxx	ユーザー編集コード (後に任意の 4 文字を置く)

数値編集コードの 2 番目のオプション Z は、ゼロの値を空白として表示する追加の機能を伴う、対応する編集コードと同じ機能を実行します。

2 番目か 3 番目のオプション C は、標準の通貨記号ではなく、ユーザーが定義できる通貨記号を表示します。この通貨記号は、グローバル変数 DSQDC_CURRENCY で定義されます。Z と C の両方が指定される場合は、C が Z に続きます。

数値編集コードは、E を除いては、0 から 99 が後に続き、小数点の後の桁数を示します。

ユーザーの処置: 上記の編集コードだけを使用してください

DSQ60742

メッセージ: &V1 が、日付データ用の有効な編集コードではありません。

説明: 日付データには、以下のコードのいずれかを使用します。

コード	効果	意味
TDYx	YYYYxMMxDD	4 桁の年、 最初が年
TDMx	MMxDDxYYYY	4 桁の年、 最初が月
TDDx	DDxMMxYYYY	4 桁の年、 最初が日
TDYAx	YYxMMxDD	短縮された年、 最初が年
TDMAx	MMxDDxYY	短縮された年、 最初が月
TDDAx	DDxMMxYY	短縮された年、 最初が日
TDL		インストール先が日付形式設定ルーチン を提供する
TD		データベース・システムのデフォルトの 日付形式

ここで、X には、英数字以外 (空白を含みます) の文字を指定できます。文字編集コードまたはユーザー編集コードは、日付データと併用できません。

ユーザーの処置: 上記の編集コードだけを使用してください

DSQ60743

メッセージ: 日付編集コード &V1 が使えません。

説明: 編集コード &V1 を使用するためには、列 &V2 に指定されている日付データを編集するための個別の日付ルーチンが必要です。個別の日付ルーチンが使用できません。

&V3

ユーザーの処置: 別の日付編集コードを使用してください。編集コード &V1 を使用しなければならない場合は、QMF 管理者に相談してください。

DSQ60744

メッセージ: &V1 が、時刻データ用の有効な編集コードではありません。

説明: 時刻データには、以下のコードのいずれかを使用します。

コード	効果	意味
TTSx	HHxMMxSS	秒を含む、 24 時間のクロック
TTCx	HHxMMxSS	秒を含む、 12 時間のクロック
TTAx	HHxMM	秒はなし、短縮形
TTAN	HHMM	秒はなし、短縮形 区切り文字なし
TTUx	HHxMM AM HHxMM PM	米国スタイル
TTL		導入先が時刻形式設定ルーチンを 提供する
TT		データベース・システムのデフォルト の時刻形式

ここで、X には、英数字以外 (ブランクを含みます) の文字を指定できます。文字編集コードまたはユーザー編集コードを、時刻データと併用できます。

ユーザーの処置: 上記の編集コードだけを使用してください

DSQ60745

メッセージ: 時刻編集コード &V1. が使えません。

説明: 編集コード &V1 を使用するためには、列 &V2. に指定されている時刻データを編集するための個別の時刻ルーチンが必要です。個別の時刻ルーチンが使用できません。

&V3

ユーザーの処置: 別の時刻編集コードを使用してください。編集コード &V1 を使用しなければならぬ場合は、QMF 管理者に相談してください。

DSQ60746

メッセージ: &V1 がタイム・スタンプ・データの有効な編集コードではありません。

説明: タイム・スタンプ・データには、以下のコードのいずれかを使用します。

コード	効果
TSI	データは次のように形式設定される yyyy-mo-dd-hh.mm.ss.nnnnnn.

	(yyyy = 年、mo = 月、dd = 日付、 hh = 時間、mm = 分、ss = 秒、 nnnnnn = マイクロ秒)
C	データは列の幅が十分でなければ、 右端で折り返される
CT	データは、列の幅が十分でなければ、 テキストで折り返される
CD	データは、列の幅が十分でなければ、 区切り文字で折り返される (後に、区切り記号として用いられる 文字を置ける)
CW	データは、列の幅が十分でなければ、 列幅で折り返される
U	ユーザー編集コード (後に任意の 4 文字を置ける)
V	ユーザー編集コード (後に任意の 4 文字を置ける)

ユーザーの処置: 上記の編集コードだけを使用してください

DSQ60747

メッセージ: &C1 は、文字データ用の編集コードではありません。

説明: 文字データには、以下のコードのいずれかを使用します。

コード 効果

C	文字編集。列の長さが十分でない場合、 データは右端で切り詰められる。
CW	データは、列の幅が十分でない場合、 列幅で折り返される。
CT	データは、列の幅が十分でない場合、 テキストで折り返される。
CD	データは、列の幅が十分でない場合、 区切り文字で折り返される。
X, XW	16 進編集。
B, BW	ビット編集。
U, V	ユーザー編集コード (後に任意の 4 文字を置ける)。
M	列メタデータのデータ・タイプと 長さを表示する。

ユーザーの処置: 上記の編集コードを 1 つ使用してください。

DSQ60748

メッセージ: LONG VARCHAR または LOB 列 (&C1) が正しく使用されていません。

説明: 書式内の列 &C1 は、データ内のLONG VARCHARまたは LOB列に対応しています。報告書は、以下のどちらかの条件が満たされるまで作成できません。

1. &C1 の取り扱いが OMIT か、または
2. &C1 の取り扱いが空白で、書式内の別の列に GROUP または ACROSS の取り扱いが指定されていない。

ユーザーの処置: 書式を上記の条件のどちらかに合致するように変更し、コマンドを再試行してください。

DSQ60749

メッセージ: 定義済み LONG VARCHAR 列 (&V1) が誤って使用されています。

説明: 書式のこの列は定義済み列であり、列幅が 254 より大きく指定されているため、LONG VARCHAR 列であると見なされています。報告書は、次の条件のいずれかが満足されるまで作成することはできません。

- 列幅を 254 以内の値に変更する
- 列の使用コードを OMIT にするか、
- 列の使用コードは空白にし、書式の他の列に GROUP あるいは ACROSS を使用しない

ユーザーの処置: 書式を上記の条件のどちらかに合致するように変更し、コマンドを再試行してください。

DSQ60750

メッセージ: &V1 は、グラフィック・データ用の有効な編集コードではありません。

説明: 図形データの場合には、次に示すコードのどれかを使用してください。

コード 効果

- G データは、列の幅が十分でなければ、右端で切り詰められる。
- GW データは、列の幅が十分でなければ、列幅で折り返される。
- U ユーザー編集コード (後に任意の

- 4 文字を置ける)。
- V ユーザー編集コード (後に任意の 4 文字を置ける)。

ユーザーの処置: 上記の編集コードだけを使用してください

DSQ60751

メッセージ: LONG VARGRAPHIC 列 (&V1) が間違って使用されています。

説明: 書式内の列 &V1 は、データの LONG VARGRAPHIC 列に対応しています。報告書は、以下のどちらかの条件が満たされるまで作成できません。

1. &V1 の取り扱いが OMIT か、または
2. &V1 の取り扱いが空白で、書式内の別の列に GROUP または ACROSS の取り扱いが指定されていない。

ユーザーの処置: 書式を上記の条件のどちらかに合致するように変更し、コマンドを再試行してください。

DSQ60752

メッセージ: 総計用法 '&V1' は、数値データについてのみ有効です。

説明: この列には数値データを必要とする取扱コードがありますが、データベースから取り出されたデータが数値ではありません。

AVERAGE、SUM、CSUM、PCT、CPCT、TPCT、TCPCT、および STDEV は、数値列にしか使用できません。

ユーザーの処置: 取扱コードを変更し、ENTER キーを押してください。

DSQ60753

メッセージ: 書式変数 '&V1.&V2.&V3.' は、数値データでのみ有効です。

説明: この書式変数は数値データを必要とします

が、データベースから取り出されたデータは数値ではありません。

AVG、SUM、CSUM、PCT、CPCT、TPCT、TCPCT、および STDEV は、数値列でのみ使用されます。

ユーザーの処置: 参照を見つけて変更し、ENTER を押して報告書を再表示してください。エラーは FORM.DETAIL、FORM.BREAK または FORM.FINAL にあると思われます。

DSQ60754

メッセージ: 編集コード &C1 はラージ・オブジェクト (LOB) データ・タイプと互換性がありません。

説明: CLOB または BLOB データに対しては、以下に示すいずれかのコードを使用してください。

コード	効果
C	文字編集。列の長さが十分でない場合、データは右端で切り詰められる。
CW	データは、列の幅が十分でなければ、列幅で折り返される。
X, XW	16 進編集。
B, BW	ビット編集。
M	列メタデータのデータ・タイプと長さを表示する。

DBCLOB データについては、以下に示すいずれかのコードを使用してください。

コード	効果
X, XW	16 進編集。
B, BW	ビット編集。
M	列メタデータのデータ・タイプと長さを表示する。

ユーザーの処置: 上記の編集コードを 1 つ使用してください。

DSQ60765

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60766

メッセージ: &V1 は、書式変数として認識できません。

説明: 入力された置換変数は、正しい書式変数または既存のグローバル変数として認識されません。正しい書式変数は、次のとおりです。

&n	&AVGn	&CALCid	&CSUMn
&MAXn	&MINn	&STDEVn	&SUMn
&DATE	&TIME	&PAGE	&ROW
&TCPCT	&TPCTn	&FIRSTn	&LASTn
&COUNT	&COUNTn	&PCTn	&CPCT

ここで、n は存在する列の数です。

ユーザーの処置: 変数名のスペルを訂正し、グローバル変数のための SET GLOBAL コマンドを入力するか、ユーザー・プロファイルの文字 (CASE) ユーザー・プロファイルの文字 (CASE) オプションが UPPER または STRING の場合、書式パネルで入力された名前のすべての文字は自動的に大文字に変更されます。MIXED の場合、入力したそのままの名前を受け入れます。

DSQ60769

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60770

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60771

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60772

メッセージ: EOF が検出されましたが、トークンが予期されていました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60773

メッセージ: フィールド ID '&I' は FORM オブジェクトとして有効ではありません。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60774

メッセージ: マップ ID '&1' は、DXEMDL チェーンに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60775 - DSQ60790

メッセージ: パネル ID '&1' が DXEPCB チェーンに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60800 - DSQ60810

メッセージ: 無効なタイプの置換変数です。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60811

メッセージ: DSQ60059 を参照してください。

DSQ60820

メッセージ: フィールド ID '&1' は有効な COLUMNS フィールドではありません。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60821

メッセージ: 調整値には、LEFT、CENTER、RIGHT、または DEFAULT を使用してください。

説明: 調整値は、報告行内の列ヘッダーとデータ列の位置を制御します。このフィールドをブランクのままにすることはできません。指定できる値は次のとおりです。

- LEFT - 列ヘッダーまたはデータを左寄せする。
- CENTER - 列ヘッダーまたはデータを中央に合わせる。
- RIGHT - 列ヘッダーまたはデータを右寄せする。
- DEFAULT - 列ヘッダーまたはデータを、列編集コードに従ってそろえる。ヘッダーおよびデータは、数値編集コードでは右寄せされ、それ以外の編集コードでは左寄せされる。

ユーザーの処置: ヘッダー調整とデータ調整に、LEFT、RIGHT、CENTER、または DEFAULT を入力してください。

DSQ60822

メッセージ: DSQ60160 を参照してください。

DSQ60825

メッセージ: 列 &V1 はそれ自体の項目で定義することはできません。

説明: 式

&V2

は定義として使用できません。定義式は、それ自体の項目で定義される列が 1 つもないかぎり、ほかの列を参照する置換変数 (&1 など) を使用することができます。

無効な定義の例は、次のとおりです。

列番号	定義式
1	&2 + 5000
2	&1 * 30

この例では、列 1 の定義が列 2 を参照していますが、列 2 は列 1 の項目で定義されています。この形式の定義は無効です。

ユーザーの処置: 式、または置換変数を変更し、それ自身の項目での列の定義を避けてください。

DSQ60830

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ60831

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ60832

メッセージ: パネル ID '&1' が DXEPCB チェーンに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60840

メッセージ: パネル処理エラー : パネル=&1、コード=&2。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60841

メッセージ: PCB ID、MDL ID、ADS フィールド ID、またはインスタンス・カウントは、ゼロでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60850 - DSQ60851

メッセージ: FM エラー - 無効な機能コード

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60860, DSQ60681

メッセージ: パネル処理エラー : パネル=&1、コード=&2。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60862

メッセージ: フィールド ID '&1' は有効な COLUMNS フィールドではありません。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60880

メッセージ: パネル処理エラー : パネル=&1、コード=&2。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60881

メッセージ: 列 &V1. の前に列がありません。

説明: 列 &V1 は現在の書式の最初の列です。

ユーザーの処置: ほかの列を見るには、次の列キーを使用してください。

DSQ60882

メッセージ: 列 &V1. の前に定義された列はありません。

説明: 列 &V1 は現在の書式で、定義式を持つ最初の列です。

ユーザーの処置: 定義式を持つほかの列を見るには、次の定義キーを使用してください。ほかのすべての列を見るには、前の列または次の列キーを使用してください。

DSQ60883

メッセージ: 列 &V1. の後に列がありません。

説明: 列 &V1 は現在の書式の最後の列です。

ユーザーの処置: ほかの列を見るには、前の列キーを使用してください。

DSQ60884

メッセージ: 列 &V1. の後に定義された列はありません。

説明: 列 &V1 は現在の書式で、定義式を持つ最後の列です。

ユーザーの処置: 定義式を持つほかの列を見るには、前の定義キーを使用してください。ほかのすべての列を見るには、前の列または次の列キーを使用してください。

DSQ60885

メッセージ: &V1 は有効な選択番号ではありません。

説明: 入力した値は数値でないか、リストで選択できる番号ではありません。

ユーザーの処置: リスト内の有効な選択の前には、番号が前に付いています。この番号を選択し、リストの上部の入力域に入力して、ENTER キーを押してください。

DSQ60886

メッセージ: &V1 は、選択できません。

説明: 入力した値は、リスト内で現在選択できる番号ではありません。

ユーザーの処置: リスト内の有効な選択の前には、番号が前に付いています。この番号を選択し、リストの上部の入力域に入力して、ENTER キーを押してください。

DSQ60887

メッセージ: リストから項目を選択してください。

説明: リストから必要な項目を選択しませんでした。

ユーザーの処置: リストの選択可能な項目には番号が付けられています。リストの最上位のスペー

スにこれらの番号のいずれかを入力して項目を選択してください。ENTER キーを押してください。

DSQ60888

メッセージ: マップ ID '&1' は、DXEMDL チェーンに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60889

メッセージ: パネル ID '&1' が DXEPCB チェーンに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60890 - DSQ60892

メッセージ: このコマンドは現行パネルに対して無効です。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60900

メッセージ: フィールド ID '&1' は FORM オブジェクトとして有効ではありません。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60901

メッセージ: マップ ID '&1' は、DXEMDL チェーンに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ60902

メッセージ: パネル ID '&1' が DXEPCB チェーンに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

第 10 章 メッセージ DSQ70001・DSQ70171

DSQ70001

メッセージ: 無効な機能コード '&1' がモジュールに渡されました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ70002, DSQ70042

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ70045

メッセージ: DSQ70001 を参照してください。

DSQ70047

メッセージ: 報告書には図形化すべきデータがありません。

説明: 図形データは報告書の列から取られます。報告書の中には少なくとも 1 行および 2 列のデータが存在しなくてはならず、また、そのうち少なくとも 1 列に数値データが含まれていなくてはなりません。

報告書に 2 つの列しか存在せず、また数値データを含む列が 1 つしかない場合、非数値列は報告書の左端にあるか、または書式パネルで **BREAK** または **GROUP** 取扱コードが指定されているかのどちらかでなくてはなりません。

また、報告書から選択されるべきすべての列の値がヌル ('-'), オーバーフロー ('>>>'), または狭すぎる列 ('***') の中にある状態のどちらかの場合にも、図形用のデータは存在しなくなります。

ユーザーの処置: 上記の規準に適合する報告書を使用してください。

DSQ70048

メッセージ: 報告書には Y データ列が必要です。

説明: 報告書の列のうちで、図形のための Y データが含まれているものとして修飾された列がありません。次の場合、図形用の Y データを提供するために列を選択することはできません。

1. 報告書の中にほかの列がない場合
2. その列が数値以外のデータを含む場合
3. ユーザー (U または V) 編集コードで編集された列の場合
4. 書式パネルで取扱コード **BREAK** または **GROUP** が指定されている場合
5. 報告書の左端の列である場合 (ただし、書式パネル上で残りの 1 つまたは複数の列に **BREAK** または **GROUP** 取扱コードが指定されている場合を除く)

ユーザーの処置: 上記の規準に適合する報告書を使用してください。

DSQ70049

メッセージ: 999 を超える Y データ列が見つかりました。

説明: GDDM 対話式図形ユーティリティで取り扱える Y データ・グループの数は、最高 999 までです。現在の報告書では、Y データ・グループとして選択可能な列が 999 を超えています。

ユーザーの処置: これよりも数値の列が少ない報告書を使用してください。たとえば、書式パネルで列をいくつか除外して、報告書の列の数を減らしてください。

DSQ70050

メッセージ: DSQ70047 を参照してください。

DSQ70056 - DSQ70058

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ70060 - DSQ70062

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ70066

メッセージ: 報告書に列見出しがありません。
(図表キーには必要です)

説明: 図表キーは FORM.MAIN または FORM、COLUMNS パネルで表示される列見出しから取られます。列見出しは空にできず、また報告書に含まれていなければなりません。

ユーザーの処置: 上記の規準に適合する報告書を使用してください。

DSQ70072

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ70080 - DSQ70084

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ70087

メッセージ: 999 を超える X 値が見つかりました。

説明: GDDM 対話式図形ユーティリティで取り扱える X 値は、最高 999 までです。現在の報告書では、999 以上の行から X 値が取られています。

ユーザーの処置: これよりも明細行の少ない報告書を使用してください。たとえば、書式パネルで、1 つまたは複数の列に GROUP 取扱コードを使ってデータを要約します。

DSQ70088

メッセージ: DSQ70047 を参照してください。

DSQ70089

メッセージ: 図形を作成できません。報告書のデータが多すぎます。

説明: 図形を作成するために GDDM 対話式図形ユーティリティ (ICU) が使用することができるデータよりも、報告書のデータの方が多くなっています。

ユーザーの処置: これよりも小さな報告書を作成してください。列を除去するか、書式パネルで GROUP 取扱コードを使ってデータを要約するか、またはこの両方を行なってください。

DSQ70092

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ70100

メッセージ: 図形を作成できません。ICU エラー・コードは &V1. です。

説明: 次の理由で GDDM 対話式図形ユーティリティが図形を作成できません。

1. &V2
2. &V3

ユーザーの処置: 解決可能であれば問題を解決して、コマンドを入力し直してください。さらに援助が必要であれば「*GDDM メッセージの手引き*」を参照してください。

DSQ70101

メッセージ: ICU 図形書式 &V4 が存在しません。

説明: GDDM 対話式図形ユーティリティ (ICU) が名前が &V4. の図形書式を検出できません。

ユーザーの処置: コマンドの ICUFORM オプションに別の図形書式名を指定してください。このメッセージが誤っていると思われる場合には、QMF 管理者に連絡して問題の詳細を伝えてください。ICU コード: &V1

DSQ70102 - DSQ70105

メッセージ: ICU 図形書式 &V4 は使用できません。

説明: 図形書式 &V4 の内容が無効なため、GDDM 対話式図形ユーティリティ (ICU) が図形を作成できません。この図形書式が実際には図形書式でないのか、またはその内容が誤って変更されているのかのどちらかです。ICU によって戻された実際のメッセージは次のとおりです。

ICU コード: &V1
&V2
&V3

ユーザーの処置: コマンドの ICUFORM オプションに別の図形書式名を指定してください。QMF 管理者に連絡して、問題の詳細について説明してください。

DSQ70108

メッセージ: DSQ70089 を参照してください。

DSQ70109

メッセージ: 図形を作成するために十分な記憶域がありません。

説明: GDDM 対話式図形ユーティリティ (ICU) で使用可能な記憶域が足りず、図形が作成できません。

ICU コード: &V1

ユーザーの処置: これよりも小さな報告書を作成してください。列を除去するか、書式パネルで GROUP 取扱コードを使ってデータを要約するか、またはこの両方を行なってください。またはより大きな記憶域が使用できるようになってからやり直してください。

DSQ70110

メッセージ: 図形が作成できません。ICU で異常終了が発生しました。

説明: 図形を作成しようとしたときに、GDDM 対話式図形ユーティリティ (ICU) またはその基礎となるサブシステムが異常終了を起こしました。ICU は、次のエラー・メッセージを戻しました。

ICU コード: &V1
&V2
&V3

ユーザーの処置: 詳細については「GDDM メッセージの手引き」を参照してください。援助が必要であれば、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ70111

メッセージ: CWIDTH の値が印刷幅を超えています。

説明: CWIDTH は、UNITS オプションで識別される単位による図形域の横幅です。選択した値は、プリンターに対して定義されたページ幅を超えています。CWIDTH の値も、その値と HOFFSET (図形の左側余白) 値との合計も、ともに、図形が印刷される用紙の幅を超えることはできません。

ICU コード: &V1

ユーザーの処置: CWIDTH の数値として、0 よりも大きくてしかも HOFFSET 値との合計が印刷幅を超えないような値を指定してください。

DSQ70112

メッセージ: CLENGTH の値が印刷縦幅を超えています。

説明: CLENGTH は、UNITS オプションで識別される単位による図形域の縦幅です。選択した値は、プリンターに対して定義されたページ縦幅を超えています。CLENGTH の値も、その値と VOFFSET (図形の上側余白) 値との合計も、とも

に、図形が印刷される用紙の縦幅を超えることはできません。

ICU コード: &V1

ユーザーの処置: CLENGTH の数値として、0 よりも大きく、しかも VOFFSET 値との合計が印刷縦幅を超えないような値を指定してください。

DSQ70113

メッセージ: HOFFSET の値が印刷横幅を超えています。

説明: HOFFSET は、UNITS で指定した単位による、出力域の左端から図形域までの余白です。選択した値は、プリンターに対して定義されたページ横幅を超えています。HOFFSET の値も、その値と CWIDTH (図形の上側余白) 値との合計も、ともに、図形が印刷される用紙の縦幅を超えることはできません。

ICU コード: &V1

ユーザーの処置: HOFFSET の数値として、0 よりも大きくてしかも CWIDTH 値との合計が印刷縦幅を超えないような値を指定してください。

DSQ70114

メッセージ: VOFFSET の値が印刷縦幅を超えています。

説明: VOFFSET は、UNITS で指定した単位による、出力域の上端から図形域までの余白です。選択した値は、プリンターに対して定義されたページ縦幅を超えています。VOFFSET の値も、その値と CLENGTH (図形の上側余白) 値との合計も、ともに、図形が印刷される用紙の縦幅を超えることはできません。

ICU コード: &V1

ユーザーの処置: VOFFSET の数値として、0 よりも大きくてしかも CLENGTH 値との合計が印刷縦幅を超えないような値を指定してください。

DSQ70115

メッセージ: CWIDTH と HOFFSET の合計値が印刷横幅を超えています。

説明: CWIDTH は、UNITS オプションで識別される単位による図形域の横幅です。HOFFSET は、出力域の左端から図形域までの余白です。この 2 つの値の合計が、プリンターに対して定義されたページ横幅を超えています。

ICU コード: &V1

ユーザーの処置: CWIDTH に対しては 0 よりも大きな値を指定し、HOFFSET に対しては 0 以上の値を指定してください。ただし、2 つの値の合計が印刷横幅を超えないようにしてください。

DSQ70116

メッセージ: CLENGTH と VOFFSET の合計値が印刷縦幅を超えています。

説明: CLENGTH は、UNITS オプションで識別される単位による図形域の縦幅です。VOFFSET は、出力域の上端から図形域までの余白です。この 2 つの値の合計が、プリンターに対して定義されたページ縦幅を超えています。

ICU コード: &V1

ユーザーの処置: CLENGTH に対しては 0 よりも大きな値を指定し、VOFFSET に対しては 0 以上の値を指定してください。ただし、2 つの値の合計が印刷縦幅を超えないようにしてください。

DSQ70117

メッセージ: CWIDTH と HOFFSET の百分率値の合計が 100 を超えています。

説明: CWIDTH は図形域の横幅であり、HOFFSET は出力域の左端から図形域までの余白です。UNITS=PERCENT が指定されているので、これらの値は、図形が印刷されるページの合計横幅に対する百分率で表されます。この 2 つの値の合計は、ページ横幅の 100 % 超えることはできません。

ICU コード: &V1

ユーザーの処置: CWIDTH に対しては 0 よりも大きな値を指定し、HOFFSET に対しては 0 以上の値を指定してください。ただし、2 つの値の合計が 100 (%) を超えないようにしてください。

DSQ70118

メッセージ: CLENGTH と VOFFSET の百分率値の合計が 100 を超えています。

説明: CLENGTH は図形域の縦幅であり、VOFFSET は出力域の上端から図形域までの余白です。UNITS=PERCENT が指定されていますので、これらの値は、図形が印刷されるページの合計縦幅に対する百分率で表されます。この 2 つの値の合計は、ページ縦幅の 100 % を超えることはできません。この 2 つの値の合計は、ページ縦幅の 100 % を超えることはできません。

ICU コード: &V1

ユーザーの処置: CLENGTH に対しては 0 よりも大きな値を指定し、VOFFSET に対しては 0 以上の値を指定してください。ただし、2 つの値の合計が 100 (%) を超えないようにしてください。

DSQ70120

メッセージ: 図形を &V9 するにはディスク記憶域が不十分です。

説明: このデータのためにはこれ以上のディスク・スペースが使用できないので、GDDM 対話式図形ユーティリティ (ICU) が図形を '&V8' に &V9 できません。

ICU コード: &V1

ユーザーの処置: より大きなディスク・スペースを用意してください。援助が必要であれば、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ70121

メッセージ: DSQ70110 を参照してください。

DSQ70124 - DSQ70129

メッセージ: ICU で入出力エラーが起きました。

説明: 図形を作成しようとしたときに、GDDM 対話式図形ユーティリティ (ICU) またはその基礎となるサブシステムで入出力エラーが起きました。ICU は、次のエラー・メッセージを戻しました。

&V2

&V3

ICU コード: &V1

ユーザーの処置: 詳細は GDDM メッセージを参照してください。援助が必要であれば、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ70132, DSQ70133

メッセージ: 図表は作成されません。 &V7 をオープンできませんでした。

説明: GDDM 対話式図表ユーティリティ (ICU) は図表の作成中に &V7 をオープンできませんでした。次のエラー・メッセージが返されました。

ICU コード: &V1

&V2

&V3

ユーザーの処置: 詳細は GDDM メッセージを参照してください。援助が必要であれば、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ70134

メッセージ: 図形が作成できません。 &V8 がオープンされていません。

説明: 図形を作成しようとしていたときに、GDDM 対話式図形ユーティリティ (ICU) が &V8 のオープンに失敗し、次のエラー・メッセージを戻しました。

ICU コード: &V1

&V2

&V3

ユーザーの処置: 詳細は *GDDM* メッセージを参照してください。援助が必要であれば、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ70135

メッセージ: DSQ70132 を参照してください。

DSQ70137

メッセージ: 図形が印刷できません。要求キューがいっぱいです。

説明: 印刷要求キューがいっぱいなので、印刷の要求が完了できません。

ICU コード: &V1

ユーザーの処置: すでに印刷要求キューに入っている項目が印刷されるまで待って、PRINT CHART コマンドを入力し直してください。援助が必要であれば、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ70138

メッセージ: GDDM プリンター &V7 が要求キューで定義されていません。

説明: 指定のプリンター &V7. が GDDM 印刷要求キューにあらかじめ定義されていなかったため、印刷の要求を完了させることができませんでした。

ICU コード: &V1

ユーザーの処置: PRINT CHART コマンドに、定義済みのプリンターを指定してください。援助が必要であれば、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ70151

メッセージ: 図形が作成できません。GDDM ファイルにアクセスできません。

説明: 図形を作成しようとしていたときに、GDDM 対話式図形ユーティリティ (ICU) が必

要なファイルにアクセスできず、次のエラー・メッセージを戻しました。

ICU コード: &V1
&V2
&V3

ユーザーの処置: 詳細は *GDDM* メッセージを参照してください。援助が必要であれば、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ70152 - DSQ70154

メッセージ: 図形が作成できません。&V8 を使用できません。

説明: 要求されたファイル &V8 には無効なデータが入っているため、GDDM 対話式図形ユーティリティ (ICU) はこのファイルを使用できません。ICU によって戻された実際のメッセージは次のとおりです。

ICU コード: &V1
&V2
&V3

ユーザーの処置: 詳細は *GDDM* メッセージを参照してください。援助が必要であれば、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ70155

メッセージ: 図形が作成できません。&V7 を使用できません。

説明: 要求されたファイル &V7 には無効なデータが入っているため、GDDM 対話式図形ユーティリティ (ICU) はこのファイルを使用できません。ICU によって戻された実際のメッセージは次のとおりです。

ICU コード: &V1
&V2
&V3

ユーザーの処置: 詳細は *GDDM* メッセージを参照してください。援助が必要であれば、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ70156 - DSQ70159

メッセージ: DSQ70151 を参照してください。

DSQ70160, DSQ70161

メッセージ: ICU が目標装置上に図形を &V9 できません。

説明: ターゲット装置が互換性を持たないため、GDDM 対話式図形ユーティリティ (ICU) が図形を &V9 できません。ユーティリティは次のエラー・メッセージを戻しました。

ICU コード: &V1
&V2
&V3

ユーザーの処置: 詳細は *GDDM* メッセージを参照してください。援助が必要であれば、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ70171 - DSQ70177

メッセージ: ICU がエラー・メッセージを受け取りました。 : &2 &3。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

第 11 章 メッセージ DSQ80011・DSQ85729

DSQ80011

メッセージ: 同じ照会で、ある表の全体とその表の一部とを削除しようとしています。 D. 行を少なくとも 1 つ除去してください。

説明: 1 つの D. 行にはまったく条件が指定されておらず、これは表のすべての行の削除を指定しています。ところが、第 2 の D. 行には少なくとも 1 つの条件があり、これは、その条件を満たす行だけの削除を意味します。

ユーザーの処置: すべての行を削除するのか、それとも一部の行だけを削除するのかを決定し、意図に反する方の D.行を除去してください。

DSQ80012

メッセージ: 照会が長すぎます。

説明: QBE 照会は、実行の前に SQL に変換されます。この照会の場合は、変換後の SQL 照会が長すぎて内部記憶域に収容しきれず、したがって実行できません。

ユーザーの処置: もっと短い複数の照会に分けて実行してください。

DSQ80031

メッセージ: 例示表 &V1 の行 &V3 に、I. 演算子がありません。

説明: 例示表の 1 つの行に I. 演算子がある場合には、ほかのすべての行にも I. 演算子がない限りなりません。

ユーザーの処置: 表 &V1. のすべての行の演算子域に、I. 演算子を入れてください。

DSQ80032

メッセージ: 例示表 &V1 の行 &V3 の列 &V2 に、挿入データがありますが列名がありません。

説明: ある列に挿入データが入っている場合には、その列には、そのデータの挿入先となる列の名前も含まれていなければなりません。

ユーザーの処置: 列名を指定するか、または挿入データを除去してください。

DSQ80033

メッセージ: 例示表 &V1 の行 &V3 に I. があるのに挿入データがありません。

説明: 少なくとも 1 つの列に挿入データを含めなければなりません。全部分がヌルの行を表に挿入することはできません。

ユーザーの処置: 挿入すべきデータを、表の少なくとも 1 つの行に入れるか、または I. を除去してください。

DSQ80034

メッセージ: DSQ80012 を参照してください。

DSQ80049

メッセージ: 表 &V1 の行 &V2 は、グループから行データを検索しようとしています。

説明: グループから行データを検索することはできません。次の無効な例を見てください。

無効な
照会:

```
Q.STAFF | NAME | DEPT |
-----+-----+-----|
          |  _N  | G._Y |
```

P.	_N
----	----

この例の目標表は、NAME を検索しようとしていますが、NAME は DEPT グループの一部です。

ユーザーの処置: グループへの行参照を取り除いてください。

DSQ80050

メッセージ: グループ化の指定された行に無効な連係があります。

説明: グループ化の指定された行は、データの検索先である行にしか連係できません。次の例では、Q. STAFF 行にグループ化が指定されており、Q. ORG 行への連係が無効です。

次に無効な照会の例を示します。

Q.EMP	DEPT	SALARY
P.G.	P.AVG._S	_S

CONDITIONS
AVG._S > AVG._S1

Q.STAFF	SALARY	DEPT
_S1	_D G.	

Q.ORG	DEPT	LOCATION
_D G.	BOSTON	

ユーザーの処置: 無効な連係を取り除いてください。

DSQ80051

メッセージ: 例示表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 の中の例示エレメント &V4 は、指定の例示表の列を示していなければなりません。

説明: メッセージに示されている例示エレメントは、照会の中で指定されたどの表の列も表してい

ません。したがって、その照会を実行することはできません。

ユーザーの処置: 未定義の例示エレメントに対するすべての参照を除去するか、またはその例示エレメントを定義してください。それを定義するためには、その例示エレメントが表す列の中に、その例示エレメントの名前だけを (QBE 演算子の場合を除く) 入れます。例:次に示す照会では、Q. EMP の給与列に _SAL を追加して、その列を表すものとして _SAL を定義しています。

Q.EMP	NAME	SALARY	COMM
P.	P._SAL	>_SAL	

DSQ80052

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ80057

メッセージ: 目標表 &V1 の行 &V2 に、グループ化データと行データの両方はいれられません。

説明: 目標表の中の 1 つの行に、グループ化データと行データの両方を入れることはできません。例:

次に無効な照会の例を示します。

Q.STAFF	NAME	SALARY	DEPT
_N	_S	G.	

P.	_N	AVG._S
----	----	--------

この目標表は、_N リンクで行データを参照していると同時に、AVG._S への参照でグループ・データをも参照しています。

ユーザーの処置: 行データだけ、またはグループ・データだけを参照するように、目標表の行を訂正してください。

の、少なくとも 1 つの列に U. を入れてください。

DSQ80072

メッセージ: 例示表 &V1 の行 &V2 に U. があるのにデータがありません。

説明: 表 &V1. の行 &V2 の少なくとも 1 つの列に、更新データを含めなければなりません。

ユーザーの処置: 例示表の少なくとも 1 つの列に更新データを入れてください。

DSQ80073

メッセージ: 例示表 &V1 の列 &V3 に U. があるのに列名がありません。

説明: ある列に U. がある場合には、その列には、更新すべき列の名前も示されていなければなりません。

ユーザーの処置: U. のある列に、更新すべき列の名前を指定してください。

DSQ80074

メッセージ: 例示表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 に、U. がありますが更新データがありません。

説明: ある列および行に U. がある場合、その列には更新データも示されていなければなりません。

ユーザーの処置: U. のある列および行に、更新データを入れてください。

DSQ80075

メッセージ: 例示表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 の &V4 は、同じ行の中のデータを表していません。

説明: ある行の中のデータは同じ行の中のデータでしか更新できません。たとえば、次のようになります。

Q.STAFF	SALARY	SALARY
U. _SAL*1.15		_SAL

各行の給与が、同じ行の既存の値をもとにして更新される点に注意してください。たとえば、給与列の中の 10000 という値は 11500 に更新されます。

ユーザーの処置: 例示要素 &V4 が、例示表 &V1 の行 &V2 の中のデータを表すようにしてください。

DSQ80076 - DSQ80080

メッセージ: DSQ80012 を参照してください。

DSQ80090 - DSQ80092

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ80100

メッセージ: 条件ボックス &V1 の条件 &V2 が、ある行とその行を含むグループを参照しています。

説明: 次の照会の条件ボックスの中の最初の条件には、同じ行 (Q.EMP の 2 行目) に対するグループ参照 (AVG._CO) と行参照 (_S) の両方が含まれているため、これは無効です。

次に無効な照会の例を示します。

Q.EMP	NAME	SALARY	COMM	DEPT
P.		_S	_CO	

CONDITIONS
_S > AVG._CO

このタイプの照会が無効なのは、グループが、条件を満たすいくつかの行で形成されなければならないのに、グループが形成されるまではどの行が条件を満たすかがわからないからです。

ユーザーの処置: 条件が別の行を参照するように照会を書きなおしてください。たとえば、上記の照会は次のように書きなおすことができます。

Q.EMP	NAME	SALARY	COMM	DEPT
P.		_S	_CO	

CONDITIONS
_S > AVG._CO

DSQ80101

メッセージ: 例示表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 中の条件が、ある行と、その行を含むグループを参照しています。

説明: グループは条件を満たす行で形成されますが、グループが形成されるまではどの行が条件を満たすのかがわかりません。たとえば、次のようになります。

次に無効な照会の例を示します。

Q.STAFF	NAME	SALARY	COMM
P.	_N	< AVG._C	_C

ユーザーの処置: 同じ行に対するグループ参照と行参照を除去してください。たとえば、上記の照会は次のように書きなおすことができます。

Q.STAFF	NAME	SALARY	COMM
P.	_N	< AVG._C	_C

DSQ80102

メッセージ: 条件ボックス &V1 の条件 &V2 は、グループ化された行を、P.、D.、または U. 演算子のない行にリンクします。

説明: 次の例では、条件ボックスの中の条件が、グループ化された 3 行目を 2 行目にリンクしていますが、2 行目には P. 演算子が指定されていません。

次に無効な照会の例を示します。

Q.EMP	DEPT	SALARY	COMM
P.		>_X+_Z	_Z
	G.	_X	_Y

CONDITIONS
_Z > AVG._Y

ユーザーの処置: 無効なリンクを取り除いてください。2 つの別個の QBE 照会を用いて、希望の結果を得ることができます。

DSQ80103

メッセージ: 例示表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 は、グループ化された行を、P.、D.、U.、または I. 演算子のない行に接続します。

説明: 次の例では、3 行目が 2 行目に接続されていますが、2 行目には P. 演算子が指定されていません。

次に無効な照会の例を示します。

Q.STAFF	DEPT	SALARY	COMM
P.		>_X	>AVG._Y
	G.	_X	_Y

ユーザーの処置: 無効な接続を取り除いてください。2 つの QBE 照会を用いて、希望の結果を得ることができます。

DSQ80104

メッセージ: 条件ボックス &V1 の条件 &V2 は、2 つのグループ化される行を参照していません。

説明: 次の例では、条件ボックスの中の条件が 2 つのグループ化される行を参照しているので、無効です。

次に無効な照会の例を示します。

Q.STAFF	NAME	DEPT	SALARY	COMM

P.		G._D	_C
----	--	------	----

Q.EMP	DEPT	SALARY
	G.	_S

CONDITIONS
AVG._C < AVG._S

ユーザーの処置: グループ化される 2 つの行を参照している条件を、除去または変更してください。2 つの QBE 照会を用いて、希望の結果を得ることができます。

DSQ80105

メッセージ: 例示表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 は、グループ化された 2 つの行をリンクしません。

説明: 次の例では、Q.EMP の 2 行目はグループ化された行ですが、Q.SALE のグループ化された行にリンクされています。

無効な照会:

Q.EMP	DEPT	SALARY	COMM
P.	G._D	>AVG._X	_X

Q.SALE	DEPARTMENT	ITEM
	G._D	PEN

ユーザーの処置: グループ化された行の間の連係を取り除いてください。2 つの QBE 照会を用いて、希望の結果を得ることができます。

DSQ80108

メッセージ: 例示表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 は、グループ化行を別の複数の行にリンクさせています。

説明: グループ化行は別の 1 行だけにリンクしなければなりません。

無効な照会:

Q.EMP	NAME	SALARY
P.		>AVG._S
P.		>MAX._C

Q.STAFF	DEPT	SALARY	COMM
	G.	_S	_C

Q.STAFF 中の DEPT が Q.EMP 中の 2 つの行にリンクするため、この照会は無効です。

ユーザーの処置: 可能な場合には、次の例のように別々の行を使用してください。たとえば、次のようになります。

Q.EMP	NAME	SALARY
P.		>AVG._S
P.		>MAX._C

Q.STAFF	DEPT	SALARY	COMM
	G.	_S	_C
	G.		

DSQ80109

メッセージ: 条件ボックス &V1 の条件 &V2 は、1 つのグループ化行を別の複数の行に連係させています。

説明: グループ化行は別の 1 行だけにリンクしなければなりません。次に無効な照会の例を示します。

Q.EMP	SALARY	CONDITIONS
P.	_SA	_SA>AVG._S
P.	_CO	_CO>MAX._C

Q.STAFF	DEPT	SALARY	COMM
	G.	_S	_C

Q.STAFF は条件によって両方の Q.EMP 行に無効に連係されています。

ユーザーの処置: 可能な場合には、次の例のように別々の行を使用してください。たとえば Q.STAFF を変更します

Q.STAFF	DEPT	SALARY	COMM
	G.	_S	_C
	G.		

DSQ84100

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ84101, DSQ84102

メッセージ: FP 機能のシステム問題です。
FPCODE = &1。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ84110, DSQ84111

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ84113

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ84120

メッセージ: 各変数名に値を入力してください。

説明: &V2 と、プロシージャまたは照会に使用されているその他の変数名に値を指定してください。

ユーザーの処置: &V2 のプロンプト・パネルと、使用されているその他の変数名に値を入力してください。入力した後、ENTER キーを押してコマンドを完了してください。次の例のように、置換変数を使用することもできます。

```
RUN QUERY (&NAME = 'JASON SMITH',  
           &YEARS=5  
RUN PROC (&DNO = DEPARTMENT  
CONVERT QUERY (&ID = 10
```

DSQ84121

メッセージ: &V3. は &V2 の値として無効です。

説明: &V2 の値はメッセージ内で切り捨てられた可能性があります。無効な値の例は次のとおりです。

無効な
値:

32A54 - 無効な整数値
'JAMES - 終了アポストロフィが欠落
"Q"DEPT" - 無効な組み込み引用符

ユーザーの処置: 値を正しい形式で入力してください。

DSQ84122

メッセージ: &V2 の値の長さが、55 文字を超えています。

説明: 次の形式の RUN オプションが使用されています。

&&V2 = 値

この「値」が、55 文字の限度を超えています。(このオプションに別のオプションを続けて指定していた場合には、両者をコンマまたはブランクで区切ってください。)

ユーザーの処置: 別の値を指定し、照会を再実行してください。

DSQ84125

メッセージ: &V2 で始まる変数の長さが、18 文字を超えています。

説明: 変数名は 18 文字以下でなければなりません。

ユーザーの処置: より短い変数名を選択してください。

DSQ84126

メッセージ: 参照されている置換変数の数が 100 を超えています。

説明: '&変数' の形式をした異なった名前が照会またはプロシージャの中で 100 個を超えている場合、その照会またはプロシージャは実行されず、また照会に変換もされません。

ユーザーの処置: 参照されている置換変数の数を

100 個以下に減らし、再試行してください。

DSQ84150

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ84151

メッセージ: 表 &V1. の行 &V2 の列 &V3 で、'(' の数と ')' の数が一致していません。

説明: 式の中の左括弧と右括弧は同数でなければなりません。

ユーザーの処置: 式を訂正してください。

DSQ84152

メッセージ: 表 &V1. の行 &V2 の列 &V3 で、'&V4' を '&V5' の次に指定することはできません。

説明: 条件の最初のエレメント以外のものに比較演算子を使用したか、または、例示表の中で AND または OR を使用しようとした可能性がありますたとえば、次の照会の中で、_S のあとでの > の使用は無効です。

次に無効な照会の例を示します。

```
Q.STAFF | NAME | SALARY | COMM |
-----+-----+-----+-----+
P.      |      | _S > 20000 | < _S |
```

ユーザーの処置: 条件ボックスを次のように使用してください。

```
Q.STAFF | NAME | SALARY | COMM |
-----+-----+-----+-----+
P.      |      | _S      | _C   |
```

```
CONDITIONS |
-----+-----+
_S > 20000 AND _C < _S |
```

DSQ84153

メッセージ: DSQ80012 を参照してください。

DSQ84154, DSQ84115

メッセージ: FP 機能のシステム問題です。
FPCODE = &1。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ84156

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ84157

メッセージ: FP 機能のシステム問題です。
FPCODE = &1。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ84158

メッセージ: DSQ50445 を参照してください。

DSQ84159 - DSQ84161

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ84162

メッセージ: '&V3' は、条件ボックス &V1. の条件 &V2 で終わることはできません。

説明: 条件が不完全です。条件ボックスの各条件は、1 行で完結していなければなりません。

ユーザーの処置: 条件が 1 行で完全なものとなるようにしてください。必要に応じて、ENLARGE コマンドを用いて条件ボックスを拡大してください。

DSQ84163

メッセージ: 条件ボックス &V1. の条件 &V2 で、'(' の数と ')' の数が一致していません。

説明: 条件の中の左括弧と右括弧は同数でなければなりません。

ユーザーの処置: 条件を訂正してください。

DSQ84164

メッセージ: 条件ボックス &V1. の条件 &V2 で、'&V3' を '&V4' のあとに指定することはできません。ここには、'AND'、'OR'、または条件終了を示すものが必要です。

説明: 条件が不完全です。各条件は、条件ボックス内の 1 行で完結していなければなりません。

ユーザーの処置: 条件が 1 行で完全なものとなるようにしてください。必要に応じて、ENLARGE コマンドを用いて条件ボックスを拡大してください。

DSQ84165

メッセージ: 条件ボックス &V1. の条件 &V2 で、'&V3' を '&V4' のあとに指定することはできません。ここには比較演算子が必要です。

説明: 条件が '&V3' で終わっています。算術演算子が欠けているか、または '&V4' と '&V3' の間に誤って空白を入れてしまったものと思われる。

ユーザーの処置: 条件を訂正してください。

DSQ84166, DSQ84167

メッセージ: 表 &V1. の行 &V2 の列 &V3 では、'&V4' で式または条件を終わらせることはできません。

説明: 式または条件が不完全です。

ユーザーの処置: 式または条件を完全なものにしてください。

DSQ84168

メッセージ: 表 &V1. の行 &V2 の列 &V3 で、'&V4' を '&V5' の次に指定することはできません。

説明: 例示エレメントまたは数値定数のあとに、

構文エラーの原因となるエレメントがあります。次のようなエラーが考えられます。

1. +、-、*、または / を入力し忘れた。
2. 数値定数または例示エレメントの途中で、誤って空白を入れた。
3. 左括弧を誤って使用した。
4. 上記に類する何らかの誤りがあった。

ユーザーの処置: 式または条件を修正してください。

DSQ84169

メッセージ: 表 &V1. の行 &V2 の列 &V3 で、'&V4' を '&V5' の次に指定することはできません。ここには比較演算子が必要です。

説明: NOT のあとには、次のいずれかを指定しなければなりません。

1. = < > <= >=
2. LIKE
3. IN
4. BT または BETWEEN
5. NULL

ユーザーの処置: 条件を訂正してください。

DSQ84170

メッセージ: 表 &V1. の行 &V2 の列 &V3 で、'&V4' を '&V5' の次に指定することはできません。ここには文字データが必要です。

説明: LIKE のあとには文字データが続いていなければなりません。たとえば、JA で始まる名前を持つ従業員の名前と給与を表示する場合には次のようになります。

```
Q.STAFF | NAME | SALARY |  
-----+-----+-----  
P.      | LIKE JA% |
```

ユーザーの処置: 条件を訂正してください。

DSQ84171

メッセージ: 表 &V1. の行 &V2 の列 &V3 で、'IN' の次に ')' が必要です。

説明: IN のあとには、括弧で囲まれた定数値のリストが続いていなければなりません。

ユーザーの処置: 括弧の指定エラーを訂正してください。

DSQ84172

メッセージ: '&V4' は、表 &V1. の行 &V2 の列 &V3 の 'IN' のあとに続くエレメントのリストの中に含めることはできません。

説明: IN リストの中に含めることができるのは定数値だけです。たとえば、次のようになります。

```
IN (NY,PA,CA,MD)
```

ユーザーの処置: IN リストを訂正してください。

DSQ84173

メッセージ: 表 &V1. の行 &V2 の列 &V3 で、'&V4' を '&V5' の次に指定することはできません。'IN' の次の定数リストは、各定数をコンマで区切り、リストの最後に ')' を付けなければなりません。

説明: コンマまたは右括弧を指定し忘れたものと思われる。正しい IN 条件の例を次に示します。

```
IN (NY,PA,CA,MD)
```

ユーザーの処置: 条件を訂正してください。

DSQ84174

メッセージ: 表 &V1. の行 &V2 の列 &V3 で、BT または BETWEEN のあとにある '(' と ')' が同数ではありません。

説明: BT または BETWEEN と AND との間に

指定された式に、左または右の括弧がどちらか 1 つ抜けています。

ユーザーの処置: 条件を訂正してください。

DSQ84175

メッセージ: 表 &V1. の行 &V2 の列 &V3 で、BETWEEN 条件の最初の式と 2 番目の式の間は 'AND' で区切らなければなりません。

説明: BT または BETWEEN の次にくる最初の式のあとには、AND および 2 番目の式が続いていなければなりません。たとえば、次のようになります。

```
BETWEEN 20000 AND 30000
```

ユーザーの処置: 条件を訂正してください。

DSQ84176

メッセージ: 表 &V1. の行 &V2 の列 &V3 で、'&V4' が式の最初のエレメントとなることはできません。

説明: 式は、次のいずれかで始まっていなければなりません。

1. 例示エレメント
2. 定数値
3. 組み込み関数の名前
4. 左括弧
5. + または -

ユーザーの処置: 式を訂正してください。

DSQ84177

メッセージ: 表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 で、組み込み関数の次の式には例示エレメントが含まれていなければなりません。

説明: 組み込み関数の後に続く式は、例示エレメントがないかぎり意味のないものになります。次に例を示します。

無効な照会 :

```
Q.STAFF | NAME | SALARY | COMM |
-----+-----+-----+-----+
P.      |      |      | >AVG.(200) |
```

ユーザーの処置: 組み込み関数を訂正してください。次に例を示します。

```
Q.STAFF | NAME | SALARY | COMM |
-----+-----+-----+-----+
P.      |      |      | >AVG._C
         |      |      |      _C |
```

DSQ84178

メッセージ: 表 &V1. の行 &V2 の列 &V3 で、'&V4' を '&V5' の次に指定することはできません。

説明: 文字定数、USER、または NULL の次に無効なエレメントがあります。次のようなエラーが考えられます。

1. ブランクを含む文字定数に、それを囲む引用符が付いていない。
2. 例示エレメントの最初の文字である_が抜けている。
3. 式の中で文字定数を用いようとした。
4. 式の中で NULL または USER を用いようとした。

ユーザーの処置: 式を訂正してください。

DSQ84179

メッセージ: 表 &V1. の行 &V2 の列 &V3 で、'&V4' を '&V5' の次に指定することはできません。

説明: ここには、次のいずれかを指定しなければなりません。

1. 左括弧
2. 例示エレメント
3. 数値定数
4. 組み込み関数

ユーザーの処置: 式を訂正してください。

DSQ84180

メッセージ: 表 &V1. の行 &V2 の列 &3 で、組み込み関数の中に別の組み込み関数を含めることはできません。

説明: 組み込み関数の中に別の組み込み関数を含めることはできません。無効な形式の例を次に示します。

```
SUM.(AVG._SAL)
```

ユーザーの処置: 式を訂正してください。

DSQ84181

メッセージ: 表 &V1. の行 &V2 の列 &V3 で、'&V4' を '&V5' の次に指定することはできません。

説明: ここには、次のいずれかを指定しなければなりません。

1. 左括弧
2. 例示エレメント
3. UNQ.
4. ALL.

ユーザーの処置: 式を訂正してください。

DSQ84182

メッセージ: 表 &V1. の行 &V2 の列 &V3 で、'&V4' を '&V5' の次に指定できません。

説明: ここには、次のいずれかを指定しなければなりません。

1. 左括弧
2. 例示エレメント
3. 数値定数
4. + または -
5. 組み込み関数

ユーザーの処置: 式を訂正してください。

DSQ84183

メッセージ: 表 &V1. の行 &V2 の列 &V3 の式の中では'UNQ.' または 'COUNT.' は使用できません。

説明: UNQ.、COUNT.、および CNT. は、式の一部となっている組み込み関数の中で使用することはできません。UNQ. および COUNT. の有効な使用例と無効な使用例を次に示します。

無効	有効
.5*AVG.UNQ._SAL	.5*AVG._SAL
COUNT.(_SAL+_COMM)	COUNT._SAL
SUM.UNQ.(_SAL+_COMM)	SUM.(_SAL+_COMM)
CNT._SAL/2	CNT._SAL

ユーザーの処置: 式を訂正してください。

DSQ84185

メッセージ: 表 &V1. の行 &V2 の列 &V3 で、'UNQ.' または 'ALL.' の次には例示エレメントまたは '()' がなければなりません。

説明: 組み込み関数の次には、例示エレメント、または左括弧で始まる式を指定しなければなりません。

ユーザーの処置: 組み込み関数を訂正してください。

DSQ84186

メッセージ: 条件ボックス &V1 の条件 &V2 に、例示エレメントが入っていません。

説明: 条件ボックスの中の条件には、照会の中で定義されている例示エレメントが少なくとも 1 つは含まれていなければなりません。例:

無効な照会 :

Q.STAFF	NAME	SALARY
-----	-----	-----
P.		_S

CONDITIONS

_S > 20000
30000

上記の照会の中の条件 1 には、Q. STAFF の SALARY 列を表すものとして定義されている例示エレメント _S が含まれており、したがってこれは有効です。しかし、条件 2 は、例示エレメントが含まれていないため無効です。

ユーザーの処置: 条件には少なくとも 1 つの例示エレメントを含めてください。

DSQ84188

メッセージ: 表 &V1. の行 &V2 の列 &V3 で、'COUNT.' または 'CNT.' の次には例示エレメントまたは 'UNQ.' がなければなりません。

説明: CNT. または COUNT. のあとに ALL. または式を指定することはできません。

ユーザーの処置: 組み込み関数を訂正してください。

DSQ84196, DSQ84197

メッセージ: 条件ボックス &V1 の条件 &V2 が不完全です。

説明: 条件ボックスの各条件は、1 行で完結していなければなりません。1 つの条件を 2 行めに続けようとしたと思われます。

ユーザーの処置: 条件が 1 行で完全なものとなるようにしてください。必要に応じて ENLARGE コマンドを用いて条件ボックスを拡大してください。

DSQ84198

メッセージ: 条件ボックス &V1. の条件 &V2 で、'&V3' を '&V4' のあとに指定することはできません。

説明: 例示エレメントまたは数値定数のあとに、構文エラーの原因となるエレメントがあります。

次のようなエラーが考えられます。

1. +、-、*、または / を入力し忘れた。
2. 数値定数または例示エレメントの途中に、誤ってブランクを入れた。
3. AND や OR などのキーワードのスペルを間違えた。
4. 左括弧を誤って使用した。
5. 上記に類する何らかの誤りがあった。

ユーザーの処置: 式または条件を修正してください。

DSQ84199

メッセージ: 条件ボックス &V1. の条件 &V2 で、'&V3' を '&V4' のあとに指定することはできません。ここには比較演算子が必要です。

説明: 条件が '&V3' で終わっています。算術演算子が欠けているか、または '&V4' と '&V3' の間に誤ってブランクを入れてしまったものと思われる。

ユーザーの処置: 条件を訂正してください。

DSQ84200

メッセージ: 条件ボックス &V1. の条件 &V2 で、'&V3' を '&V4' のあとに指定することはできません。ここには文字データが必要です。

説明: LIKE のあとには文字データが続いていなければなりません。たとえば、JA または SM で始まる名前を持つ従業員の名前と給与を表示する場合には、次のようになります。

```
Q.STAFF | NAME | SALARY |
-----+-----+-----
P.      |  _N  |          |
|
| CONDITIONS |
|-----+-----+-----
|  _N LIKE JA% OR _N LIKE SM% |
```

ユーザーの処置: 条件を訂正してください。

DSQ84201

メッセージ: 条件ボックス &V1. の条件 &V2 で 'IN' の次に '(' が必要です。

説明: IN のあとには、括弧で囲まれた定数値のリストが続いていなければなりません。

ユーザーの処置: 括弧の指定エラーを訂正してください。

DSQ84202

メッセージ: '&V3' は、条件ボックス &V1. の条件 &V2 の 'IN' のあとに続くエレメントのリストに含めることはできません。

説明: IN リストの中に含めることができるのは定数値だけです。たとえば、次のようになります。

```
IN (NY,PA,CA,MD)
```

ユーザーの処置: IN リストを訂正してください。

DSQ84203

メッセージ: 条件ボックス &V1. の条件 &V2 で、'&V3' を '&V4' のあとに指定することはできません。'IN' の次の定数リストは、各定数をコンマで区切り、リストの最後に ')' を付けなければなりません。

説明: コンマまたは右括弧を指定し忘れたものと思われる。正しい IN 条件の例を次に示します。

```
IN (NY,PA,CA,MD)
```

ユーザーの処置: 条件を訂正してください。

DSQ84204

メッセージ: 条件ボックス &V1. の条件 &V2 で、BT または BETWEEN のあとにある '(' と ')' が同数ではありません。

説明: BT または BETWEEN と AND との間に

指定された式に、左または右の括弧がどちらか 1 つ抜けています。

ユーザーの処置: 条件を訂正してください。

DSQ84205

メッセージ: 条件ボックス &V1. の条件 &V2 で、BETWEEN のあとに続く最初の式と 2 番目の式の間は 'AND' で区切らなければなりません。

説明: BT または BETWEEN の次にくる最初の式のあとには、AND および 2 番目の式が続いていなければなりません。たとえば、次のようになります。

```
BETWEEN 20000 AND 30000
```

ユーザーの処置: 条件を訂正してください。

DSQ84206

メッセージ: 条件ボックス &V1. の条件 &V2 で、'&V3' が式の最初のエレメントとなることはできません。

説明: 式は、次のいずれかで始まっていなければなりません。

1. 例示エレメント
2. 定数値
3. 組み込み関数の名前
4. 左括弧
5. + または -

ユーザーの処置: 式を訂正してください。

DSQ84207

メッセージ: 条件ボックス &V1 の条件 &V2 で、組み込み関数の次の式には例示エレメントが含まれていなければなりません。

説明: 組み込み関数の後に続く式は、例示エレメントがないかぎり意味のないものになります。次に例を示します。

無効な照会 :

```
Q.STAFF | NAME | COMM |
-----+-----+-----|
P.      |      |   _C |
```

```
CONDITIONS
-----|
_C > AVG.(10000) |
```

正しい照会は次のようになります。

```
Q.STAFF | NAME | COMM |
-----+-----+-----|
P.      |      |   _C |
          |      | _COMS |
```

```
CONDITIONS
-----|
_C > AVG._COMS |
```

ユーザーの処置: 組み込み関数を訂正してください。

DSQ84208

メッセージ: 条件ボックス &V1. の条件 &V2 で、'&V3' を '&V4' のあとに指定することはできません。

説明: 文字定数、USER、または NULL の次に無効なエレメントがあります。次のようなエラーが考えられます。

1. ブランクを含む文字定数に、それを囲む引用符が付いていない。
2. 例示エレメントの最初の文字である_が抜けている。
3. 式の中で文字定数を用いようとした。
4. 式の中で NULL または USER を用いようとした。

ユーザーの処置: 式を訂正してください。

DSQ84209

メッセージ: 条件ボックス &V1. の条件 &V2 で、'&V3' を '&V4' のあとに指定することはできません。

説明: ここには、次のいずれかを指定しなければなりません。

1. 左括弧
2. 例示エレメント
3. 数値定数
4. 組み込み関数

ユーザーの処置: 式を訂正してください。

DSQ84210

メッセージ: 条件ボックス &V1. の条件 &V2 で、組み込み関数に他の組み込み関数を含めることはできません。

説明: 組み込み関数の中に別の組み込み関数を含めることはできません。無効な形式の例を次に示します。

SUM.(AVG._SAL)

ユーザーの処置: 式を訂正してください。

DSQ84211

メッセージ: 条件ボックス &V1. の条件 &V2 で、'&V3' を '&V4' のあとに指定することはできません。

説明: ここには、次のいずれかを指定しなければなりません。

1. 左括弧
2. 例示エレメント
3. UNQ.
4. ALL.

ユーザーの処置: 式を訂正してください。

DSQ84212

メッセージ: 条件ボックス &V1. の条件 &V2 で、'&V3' を '&V4' のあとに指定することはできません。

説明: ここには、次のいずれかを指定しなければなりません。

1. 左括弧
2. 例示エレメント
3. 数値定数
4. + または -
5. 組み込み関数

ユーザーの処置: 式を訂正してください。

DSQ84213

メッセージ: 条件ボックス &V1. の条件 &V2 の式の中では 'UNQ.' または 'COUNT.' は使用できません。

説明: UNQ.、COUNT.、および CNT. は、式の一部となっている組み込み関数の中で使用することはできません。UNQ. および COUNT. の有効な使用例と無効な使用例を次に示します。

無効

有効

.5*AVG.UNQ._SAL

COUNT.(_SAL+_COMM)

SUM.UNQ.(_SAL+_COMM)

CNT._SAL/2

.5*AVG._SAL

COUNT._SAL

SUM.(_SAL+_COMM)

CNT._SAL

ユーザーの処置: 式を訂正してください。

DSQ84215

メッセージ: 条件ボックス &V1. の条件 &V2 で、'UNQ.' または 'ALL.' の次には例示エレメントまたは '(' がなければなりません。

説明: 組み込み関数の次には、例示エレメント、または左括弧で始まる式を指定しなければなりません。

ユーザーの処置: 組み込み関数を訂正してください。

DSQ84216

メッセージ: 条件ボックス &V1. の条件 &V2 で、'&V3' の前に 'NOT' を指定することはできません。

説明: 条件ボックスで、NOT を

説明: DBCS 定数はシフトイン文字で終わって
なければなりません。

ユーザーの処置: DBCS 定数を訂正してくださ
い。

DSQ84225

メッセージ: 条件ボックス &V1. の条件 &V2
の '&V3' は、無効な DBCS 定数です。

説明: DBCS は次のような形になっていなければ
なりません。

```
G'...DBCS...'
```

ユーザーの処置: DBCS 定数を訂正してくださ
い。

DSQ84226

メッセージ: 条件ボックス &V1. の条件 &V2
の '&V3' は、認識されない特殊文字です。

説明: QBE は、'&V3' を意味のある文字として
認識しません。その特殊文字をそのまま残したい
のであれば、それが入っている定数を単一引用符
で囲まなければなりません。次の例では、
; は、P;SMITH という定数に含まれている特殊文字
として扱われます。

```
CONDITIONS  
-----  
'P;SMITH'
```

ユーザーの処置: '&3' を照会から除去するか、
またはそれを単一引用符で囲んでください。

DSQ84227

メッセージ: 表 &V1. の行 &V2 の列 &V3 に
ある '&V4' は、認識されない特殊文字です。

説明: QBE は、'&V4' を有意文字として認識し
ません。この特殊文字を使用したい場合には、そ
れが含まれている定数全体を単一引用符で囲まな
ければなりません。次の例では、; は、P;SMITH
という定数に含まれている特殊文字として扱われ
ます。

```
Q.STAFF | NAME |  
-----+-----  
P. | 'P;SMITH' |
```

ユーザーの処置: 照会から '&V4' を除去する
か、または定数全体を単一引用符で囲んでくださ
い。

DSQ84228

メッセージ: 照会の中の定数の長さが 254 文字
を超えています。

説明: 254 文字を超える定数は使用できません。

ユーザーの処置: 定数の長さを短くしてくださ
い。

DSQ84300

メッセージ: 記憶スペースがありません。

説明: 仮想記憶域または QMF 内部バッファ
ーにスペースがないので、コマンドを実行できませ
ん。

ユーザーの処置: RESET DATA コマンドを使用
してください。これにより、追加の記憶スペース
を使用できます。現在 DATA を使用していない
場合、セッションでさらに記憶スペースが必要であ
る可能性があります。エラーが繰り返される
場合は、QMF 管理者に連絡してください。QBE
照会を実行中の場合は、メッセージを受け取らな
くなるまで、照会操作行を減らしてください。

DSQ84301

メッセージ: 無効な機能コード '&1' がモジュール
に渡されました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。
システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペ
レーティング・システム用の「QMF インストー
ルおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ84302

メッセージ: 視点はまだ指定されていません。

説明: 視点を指定するまで ER 指示照会の実行はできません。

ユーザーの処置: 照会が表示されたとき、「指定」(SPECIFY VIEW)機能を使用して照会の視点を指定してください。

DSQ84310

メッセージ: 無効な機能コード '&1' がモジュールに渡されました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ84311

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ84312

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ84313, DSQ84314

メッセージ: 無効な記憶域プール ID : &1。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ84315, DSQ84316

メッセージ: 無効なリストの項目索引 : &1。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ84317

メッセージ: ツール・グループ &V1 は存在しません。

説明: 指名されたツール・グループは存在していないか、スペルが誤っています。LIST 機能を使って、照会に含めることのできるツール・グループの名前をリストできます。

ユーザーの処置: ツール・グループ名のスペルを確認してください。その名前を再度、入力するか、ツール・グループのリストから選択してください。

DSQ84330

メッセージ: 指示照会の管理プログラム・エラー - 予期しない入力。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ84331

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ84332

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ84333

メッセージ: テンプレート ID が見つかりませんでした。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ84334

メッセージ: テンプレート名が見つかりませんでした。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ84335

メッセージ: パッケージ &2 からの予期されない結果 &1 です。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ84350

メッセージ: 指示照会の管理プログラム・エラー - 予期しない入力。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ84351

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ84352

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ84353

メッセージ: テンプレート ID が見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ84354

メッセージ: テンプレート名が見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ84355

メッセージ: パッケージ &2 からの予期されない結果 &1 です。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ84362

メッセージ: 属性とフィールドのデータ・タイプに互換性がありません。

説明: 比較値として入力されたテンプレート・フィールドのデータ・タイプが条件の左側の属性のデータ・タイプと一致しません。比較演算子の左側の属性のデータ・タイプが文字の場合、テンプレート・フィールドのデータ・タイプも文字でなければいけません。また、比較演算子の左側の属性がリポジトリ管理プログラムの数値データ・タイプの場合は、テンプレート・フィールドもリポジトリ管理プログラムの数値データ・タイプとして正しいデータ・タイプでなければなりません。

ユーザーの処置: 有効なテンプレート・フィールド (またはほかの比較値) を入力してください。または、リスト機能を使用して現在の文脈でどのフィールドが有効かを調べてください。

DSQ84363

メッセージ: テンプレートの選択式が長過ぎます。

説明: 照会中の、あるテンプレートの選択式が長過ぎます。式の長さは最大で 3,300 文字です。照会を構成するテンプレートの一覧中で、関連するテンプレートの索引は &V1. です。選択式を構成する選択句の一覧で、関連する句の索引は &V2. です。この値に置換変数が使われている可能性があります。

ユーザーの処置: 選択式を変更して、照会を再実行してください。

DSQ84364

メッセージ: 比較式が無効です。

説明: リポジトリ管理プログラムは入力した比較式を無効と判断しました。これは以下の理由の1つに原因するものと考えられます。

- 比較式の右側のリテラルのデータ・タイプと左側の属性のデータ・タイプが一致しません。比較式を有効にするには一致しなければなりません。たとえば、比較演算子の左側の属性が文字のデータ・タイプの場合は、右側の属性は文字ストリングでなければなりません。属性がリポジトリ管理プログラムの数値データ・タイプの場合は、リテラルは有効なリポジトリ管理プログラムの数値定数でなければなりません。
- リポジトリ管理プログラムがエンティティを保管した表を使用する権限が与えられていません。

ユーザーの処置: 比較演算子の右の比較値フィールドの値が左の属性のデータ・タイプと一致するか確認してください。一致しない場合は、比較値フィールドに有効なリテラル (またはほかの比較値) をタイプしてください。リテラルが有効な場合は、リポジトリ管理プログラムが正しくインストールされており、適切な表をアクセスしたかどうか、QMF 管理者との確認をとってください。

DSQ84365, DSQ84366

メッセージ: 指定した属性の数が 999 を超えています。

説明: 照会で指定できる属性の最大数は 999 です。現在の照会はこの限界を超えています。

ユーザーの処置: 指定する属性の数を減らしてください。

DSQ84367 - DSQ84369

メッセージ: OK、&1 は実行されました。処理を続行してください。

DSQ84370

メッセージ: 無効な機能コード '&1' がモジュールに渡されました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ84371

メッセージ: パッケージ &2 からの予期されない結果 &1 です。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ84372

メッセージ: パネル状態エラー : パネル=&1、コード=&2。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ84373

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ84374

メッセージ: 無効な記憶域プール ID : &1。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ84375

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ84376

メッセージ: 無効な記憶域プール ID : &1。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ84377

メッセージ: パッケージ &2 からの予期されない結果 &1 です。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ84378

メッセージ: エンティティ &V1 がリポジトリに見つかりません。

説明: 指定したエンティティが存在しないか、リポジトリに見つからないかのどちらかです。

ユーザーの処置: エンティティ名のスペルが正しい場合は (リスト機能を使用することによって、アクセスするエンティティのリストを表示できます)、QMF 管理者に連絡してリポジトリ管理プログラムに関する詳細を調査してください。

DSQ84379

メッセージ: 集約 &V1 がリポジトリに見つかりません。

説明: 指定した集約は存在しないか、リポジトリに見つからないかのどちらかです。

ユーザーの処置: 集約名のスペルが正しい場合は (リスト機能を使用することによって、アクセスするエンティティのリストを表示できます)、QMF 管理者に連絡してリポジトリ管理プログラムに関する詳細を調査してください。

DSQ84380

メッセージ: パッケージ &2 からの予期されない結果 &1 です。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ84381

メッセージ: ルート・エンティティの削除は指定できません。

説明: 削除を指定したエンティティはルート・エンティティです。ルート・エンティティは視点の開始点を定義しているので削除することはできません。

ユーザーの処置: すべての視点を削除したい場合、エンティティ関係指示照会基本パネルに戻り RESET コマンドを使用してください。視点の一部を削除したい場合、該当するエンティティの次にカーソルを置いて削除機能を再度使用してください。

DSQ84382

メッセージ: &V1 は無効な変数名です。

説明: 変数名は最初がアンパーサンドで始まり 17 文字までです。アンパーサンドの次の文字は英字か各国文字でなければなりません。残りの文字は、英字、数字、または「DB2 QMF 解説書」に定義されているその他の文字にできます。

ユーザーの処置: &V1 を有効な名前に替えてコマンドを再試行してください。

DSQ84383 - DSQ84385

メッセージ: パッケージ &2 からの予期されない結果 &1 です。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ84386

メッセージ: テンプレートが現在のテンプレートに先行していません。

説明: テンプレート・フィールドの比較値に指定されているテンプレートが無効です。テンプレート・フィールドが条件中の比較値に使用されている場合は、このテンプレートは条件を作成するエ

ンティティー関連を表すテンプレートに先行しなければなりません。

ユーザーの処置: 有効な TEMPLATE.FIELD (またはほかの比較値) をタイプして続けるか、リスト機能を使って現在の文脈の中で有効なテンプレートはなにかを見つけるか、または条件を取り消してください。

DSQ84387

メッセージ: カーソルが &V1. の位置にありません。

説明: 行または変数を削除するためには、スクロール可能域にカーソルを移動させなければなりません。

ユーザーの処置: 削除したい行にカーソルを移動させ、削除 PF キー (使用可能な場合)、またはコマンド行に DELETE と入力した後カーソルを該当の行に移動し ENTER キーを押してください。

DSQ84388

メッセージ: カーソルが &V1. の位置にありません。

説明: 行を挿入する場合、カーソルは表示装置のスクロール可能域に表示されていなければなりません。

ユーザーの処置: 挿入か所の直前の行にカーソルを移動し、挿入機能キー (存在する場合) を押すかまたはコマンド行に INSERT を入力し、カーソルを適当な行に移動した後に ENTER キーを押してください。

DSQ84390

メッセージ: 無効な機能コード '&1' がモジュールに渡されました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ84391

メッセージ: パネル処理エラー : パネル=&1、コード=&2。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ84392

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ84393

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ84394

メッセージ: 探索基準に一致するエンティティーが見つかりません。

説明: エンティティー・リスト探索基準ストリングを指定しましたが、指定されたツール・グループの中で基準に一致するエンティティーが見つかりません。

ユーザーの処置: 探索基準を修正してください。選択シンボル (未指定) 文字として"%および_"が使用できます。指定したツール・グループのすべてのエンティティーをリストしたい場合、カーソルのある入力フィールドが空かどうかを確認してください。

DSQ84395

メッセージ: 視点はすでに指定されています。

説明: すでに視点名を指定しており、現在「指定」(SPECIFY VIEW) 機能は使用できません。

ユーザーの処置: 照会で異なる視点を使用したい場合、RESET QUERY コマンドを使用してください。現在の視点を使って続けたい場合、「視点」(SHOW VIEW) 機能を使用してください。

DSQ84396

メッセージ: 探索基準に一致する集約が見つかりません。

説明: 集約リスト探索基準ストリングを指定しましたが、指定されたツール・グループの中で基準に一致する集約が見つかりません。

ユーザーの処置: 探索基準を修正してください。選択シンボル (未指定) 文字として"%および"_"が使用できます。指定したツール・グループの中のすべての集約をリストしたい場合、カーソルのある入力フィールドが空かどうかを確認してください。

DSQ84397

メッセージ: ツール・グループが見つかりません。

説明: ツール・グループ・リスト検索を指定しましたがツール・グループがまったく見つかりません。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して、ツール・グループにアクセスできない原因を調べてください。

DSQ84398 - DSQ84401

メッセージ: 要求リストに項目がありません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ84402

メッセージ: 値の比較で使われるテンプレートが見つかりません。

説明: テンプレート・リスト探索を指定している場合、現在の条件を適用している視点のエンティティ関連を表しているテンプレートに先行するテンプレートだけが戻ります。現在の条件を視点

のルート・エンティティに適用しているため、ルート・エンティティを表すテンプレートに先行できるテンプレートがありません。

ユーザーの処置: 比較値フィールドに比較値をタイプし、現在の条件を先行するか取り消してください。

DSQ84403

メッセージ: 要求リストに項目がありません。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ84404

メッセージ: 視点を変数名で定義されました。

説明: 視点を変数名で定義しましたが、照会の中では、ほかの視点の指定はできません。

ユーザーの処置: 照会で異なる視点を使用したい場合、RESET QUERY コマンドを使用してください。

DSQ84405

メッセージ: 視点はまだ指定されていません。

説明: 視点を指定するまで「視点」(SHOW VIEW) 機能は使用できません。

ユーザーの処置: 「指定」(SPECIFY VIEW) 機能を使って照会の視点を指定してください。

DSQ84406

メッセージ: ツール・グループにエンティティが見つかりませんでした。

説明: 指定されたツール・グループにはエンティティが含まれていません。

ユーザーの処置: ツール・グループの指定を変更してください。リスト・キーを押せばすべての使用できるツール・グループがリストできます。

DSQ84407

メッセージ: ツール・グループに集約が見つかりませんでした。

説明: 指定されたツール・グループには、集約が含まれていません。

ユーザーの処置: ツール・グループの指定を変更してください。リスト・キーを押せばすべての使用できるツール・グループがリストできます。

DSQ84408

メッセージ: &V1 データ・タイプのフィールドが見つかりません。

説明: 条件を完成するために選択されたテンプレートに、比較演算子の左側の属性と同じデータ・タイプのフィールドがありません。

ユーザーの処置: 比較演算子の左側の属性は文字か数値のどちらかです。条件を完成するためにはデータ・タイプが一致するフィールドを少なくとも 1 つは含むテンプレートを選択してください。数値にはすべての非文字データ・タイプが含まれます。

DSQ84410

メッセージ: 指示照会の管理プログラム・エラー - 予期しない入力。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ84411

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ84412

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ84413

メッセージ: テンプレート ID が見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ84414

メッセージ: テンプレート名が見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ84415

メッセージ: テンプレート・フィールドが見つかりませんでした。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ84430

メッセージ: 指示照会の管理プログラム・エラー - 予期しない入力。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ84431

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ84432

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ84433

メッセージ: RUN コマンドに渡された置換変数が多すぎます。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。

システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ84434

メッセージ: パッケージ &2 からの予期されない結果 &1 です。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ84435

メッセージ: テンプレート名が見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ84436

メッセージ: エンティティ &V2. に属性 &V1 がありません。

説明: 置換値として、属性名 &V1 が使用されましたが、エンティティ &V2. に見つかりません。置換値が名前には長過ぎるか、名前のスペルを誤ったか、または指定した属性が別のエンティティに属しています。

ユーザーの処置: 正しいエンティティに属している属性名かどうか、正しいスペルかどうかを検査してください。

DSQ84437

メッセージ: リポジトリ管理プログラムがエンティティ &V1. を見つけることができませんでした。

説明: リポジトリ管理プログラムで検索しようとしている集約に関連するエンティティ名を見つけれられません。

ユーザーの処置: リポジトリ管理プログラムについては、*QMF* 管理者に連絡してください。

DSQ84438

メッセージ: リポジトリ管理プログラムが関連 &V1 を見つけることができませんでした。

説明: リポジトリ管理プログラムは、集約に関連するエンティティ名を現在は見つけることができません。

ユーザーの処置: リポジトリ情報については、*QMF* 管理者に連絡してください。

DSQ84439

メッセージ: 集約 &V1 の定義は無効です。

説明: その定義はいくつかの異なる理由によって無効です。1 つの可能性として、その集約がリポジトリから削除されているエンティティまたは関連を参照していることが考えられます。リポジトリ・メッセージ &V2 を参照してください。

ユーザーの処置: リポジトリ内の定義を訂正するか、または詳細を *QMF* 管理者に連絡してください。

DSQ84440

メッセージ: 集約視点がリポジトリに見つかりません。

説明: 実行する *ER* 指示照会の視点として集約を指定しましたが、リポジトリ管理プログラムはその集約名を見つけることができません。この値に置換変数が使われている可能性があります。その場合、置換値で表される名前がスペルが間違えているか、長過ぎます。

ユーザーの処置: 集約名を訂正してください。

DSQ84441

メッセージ: エンティティ視点がリポジトリに見つかりません。

説明: 実行すべき *ER* 指示照会の視点としてエンティティが指定されましたが、リポジトリ

管理プログラムは指定されたエンティティ名を見つけることができません。この値に置換変数が使われている可能性があります。その場合、置換値で表される名前がスペルが間違えているか、長過ぎます。

ユーザーの処置: エンティティ名を訂正してください。

DSQ84470

メッセージ: 無効な機能コード '&1' がモジュールに渡されました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ84471

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ84472

メッセージ: 無効な記憶域プール ID : &1。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ84473

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ84474

メッセージ: 無効な記憶域プール ID : &1。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ84475

メッセージ: このパネルでは ENTER キーはアクティブではありません。

説明: このパネルは通知パネルです。項目の選択や値の入力を行う必要はありません。

ユーザーの処置: パネルの内容を見終わったら、取

り消しキーを押してください。

DSQ84476

メッセージ: &V1 は有効な選択番号ではありません。

説明: 入力した値は数値でないか、リストで選択できる番号ではありません。

ユーザーの処置: リスト内の有効な選択の前には、番号が前に付いています。この番号を選択し、リストの上部の入力域に入力して、ENTER キーを押してください。

DSQ84477

メッセージ: &V1 は、選択できません。

説明: 入力した値は、リスト内で現在選択できる番号ではありません。

ユーザーの処置: リスト内の有効な選択の前には、番号が前に付いています。この番号を選択し、リストの上部の入力域に入力して、ENTER キーを押してください。

DSQ84478

メッセージ: リストから項目を選択してください。

説明: リストから必要な項目を選択しませんでした。

ユーザーの処置: リストの選択可能な項目には番号が付けられています。リストの最上位のスペースにこれらの番号のいずれかを入力して項目を選択してください。ENTER キーを押してください。

DSQ84479

メッセージ: リストから 1 つまたは複数の項目を選択してください。

説明: リストから必要な項目を選択しませんでした。リストから複数の項目を選択できます。

ユーザーの処置: 各項目の前のスペースに文字を入力し、1 つまたはそれ以上の項目を選択した後 ENTER キーを押してください。

DSQ84480

メッセージ: ENTER キーを押す前に値をタイプしてください。

説明: このパネルには入力が必要です。ENTER キーを押す前に、テキスト項目に割り振られているスペースに値をタイプしなければなりません。

ユーザーの処置: 値をタイプし、ENTER キーを押してください。

DSQ84481, DSQ84482

メッセージ: カーソルが &V1. の有効な位置にありません。

説明: 機能 &V1 を完了するには、カーソルがパネルの有効なフィールドに位置づけられていなければなりません。

ユーザーの処置: カーソルを正しいフィールドに移動して、機能 &V1 を再指定してください。

DSQ84483

メッセージ: 入力は許されません。選択にはカーソルを使用してください。

説明: エンティティーを選択するには、カーソルの位置と機能キーを使用してください。パネルの入力フィールドには入力できません。

ユーザーの処置: エンティティー名に先行するすべての文字を除去してください。カーソルと機能キーを用いて、前進してください。

DSQ84484

メッセージ: DSQ84481 を参照してください。

DSQ84485

メッセージ: DSQ84475 を参照してください。

DSQ84486

メッセージ: 片方または両方のリストから項目を選択してください。

説明: 選択が必要なときに、リストから項目を選択していません。

ユーザーの処置: 片方または両方のリストから項目を選択し、ENTER キーを押してください。

DSQ84487

メッセージ: SPECIFY コマンドに指定された名前は無効です。

説明: SPECIFY コマンドの形式は、SPECIFY 名前です。この「名前」は指示照会機能です。有効な ER 指示照会機能は VIEW です。ER 指示照会には名前が必須です。

ユーザーの処置: ER 指示照会に対して有効な名前前で、SPECIFY コマンドを再入力してください。

DSQ84488

メッセージ: &V1 コマンドは現在実行できません。

説明: このパネルでは無効なコマンドを実行しようとした。または、この操作環境 (例: CICS) では有効でないコマンドを実行しようとした。

ユーザーの処置: 他のコマンドを選択してください。

DSQ84530

メッセージ: モジュール DSQGDRCI で内部論理エラーです。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ84531

メッセージ: このフィールドはヌルにはできません。

説明: ヌル・データを示すヌル標識 (&V1.) がこのフィールドに入力されましたが、このフィールドはヌル・データを許さないものとしてデータベースに定義されています。

ユーザーの処置: このフィールドには、ヌル以外の値を入力してください。

DSQ84532

メッセージ: &V1 は許される整数値ではありません。

説明: 値は -32768 から 32767 までの値です。

ユーザーの処置: フィールドに有効な値を入力してください。

DSQ84533

メッセージ: &V1 は、許されない小数点の値です。

説明: 値は、'smmm&V4.nnn' の形式でなければなりません。ここで、

s はオプションの符号 (正または負)
m は小数点より前にある数字
n は小数点の後の数字

この列で、小数点の前で許される桁の最大数は &V3. で、小数点の後に許される桁の最大数は &V2. です。

ユーザーの処置: フィールドに有効な値を入力してください。

DSQ84534

メッセージ: &V1 は浮動小数点値には使用できません。

説明: 値は 'sm&V4.mmmmmmmEsee' の形式でなければなりません。ここで、

s はオプションの符号 (正または負)
m は仮数部の数字 (8 桁まで)
E は指数部の先頭
e は指数の数字 (1 桁または 2 桁)

指数部は省略できます。値は +/- (5&V4.4E-79, 7&V4.2E+75)

ユーザーの処置: フィールドに有効な値を入力してください。

DSQ84535

メッセージ: &V1 はタイム・スタンプの値として使用できません。

説明: 正しい形式は、次のとおりです。

yyyy-mm-dd-hh.mm.ss.nnnnnn

ここで、

yyyy-mm-dd は、年、月、および日
hh.mm.ss は、時間、分、および秒
nnnnnn は、マイクロ秒

マイクロ秒は任意指定です。

ユーザーの処置: フィールドに有効な値を入力してください。

DSQ84536 - DSQ84538

メッセージ: &V1 は日付の値として使用できません。

説明: 正しい形式は

「mm/dd/yyyy」、「yyyy-mm-dd」、または「dd.mm.yyyy」です。

mm は月です。(1 または 2 桁)

dd は日です。(1 または 2 桁)

yyyy は年です。年として 2 桁を指定すると、年の最初の 2 桁はその日の世紀と見なされます。

ユーザーの処置: 有効な形式の日付を入力してください。

DSQ84539

メッセージ: &V1 は日付の値として使用できません。

説明: 正しい形式は「mm/dd/yyyy」、
「yyyy-mm-dd」、「dd.mm.yyyy」、またはイン
ストール先のユーザー設定の日付形式です。

mm は月です。(1 または 2 桁)

dd は日です。(1 または 2 桁)

yyyy は年です。年として 2 桁を指定する
と、年の最初の 2 桁はその日の世紀と
見なされます。

ユーザーの処置: 有効な形式の日付を入力して
ください。

DSQ84540

メッセージ: モジュール DSQGDRCI で内部論理
エラーです。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従っ
てください。

DSQ84541 - DSQ84543

メッセージ: &C1 は時刻の値として使用でき
ません。

説明: 正しい形式は :q.hh&&colon.mm AM:eq.
または :q.hh&&colon.mm PM:eq. または
:q.hh&&colon.mm&colon.ss:eq. または
:q.hh.mm.ss:eq. です。

hh は時刻です。(1 または 2 桁)

mm は分です。(1 または 2 桁)

ss は秒です。(1 または 2 桁)

秒は任意指定です。

ユーザーの処置: 有効な形式の時刻を入力して
ください。

DSQ84544

メッセージ: &V1 は時刻の値として使用でき
ません。

説明: 正しい形式は「hh:mm AM」、「hh:mm
PM」、「hh:mm:ss」、「hh.mm.ss」、またはイン
ストール先のユーザー時刻の形式です。

hh は時刻です。(1 または 2 桁)

mm は分です。(1 または 2 桁)

ss は秒です。(1 または 2 桁)

秒は任意指定です。

ユーザーの処置: 有効な形式の時刻を入力して
ください。

DSQ84545 - DSQ84551

メッセージ: モジュール DSQGDRCI で内部論理
エラーです。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従っ
てください。

DSQ84552

メッセージ: このフィールドをブランクにするこ
とはできません。

説明: このフィールドをブランクにしています。
しかし、このフィールドのデータ・タイプでは、
ブランクの入力はできません。

ユーザーの処置: このフィールドにはブランクで
ない値を入力してください。

DSQ84553

メッセージ: モジュール DSQGDRCI で内部論理
エラーです。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従っ
てください。

DSQ84554

メッセージ: DSQ84552 を参照してください。

DSQ84555 - DSQ84558

メッセージ: モジュール DSQGDRCI で内部論理エラーです。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ84559, DSQ84560

メッセージ: DSQ84552 を参照してください。

DSQ84561

メッセージ: &V1 の小数点の後の桁が多すぎます。

説明: このフィールドで小数点の後に許されている桁の最大数は &V2. です。

ユーザーの処置: 余分な数字を除去してください。

DSQ84562

メッセージ: &V1 は許される整数値ではありません。

説明: 有効な値は -2,147,483,648 から 2,147,483,647 までの範囲の値です。

ユーザーの処置: フィールドに有効な値を入力してください。

DSQ84563

メッセージ: &V1 は浮動小数点値には使用できません。

説明: 値の形式は 'sm&V4.mmmmmmmmmmmmmmmmmEsec' です。

s はオプションの符号 (正または負)
m は仮数部の数字 (8 桁まで)
E は指数部の先頭
e は指数の数字 (1 桁または 2 桁)

指数部は省略できます。値は +/- (5&V4.4E-79, 7&V4.2E+75)

ユーザーの処置: フィールドに有効な値を入力してください。

DSQ84564 - DSQ84566

メッセージ: モジュール DSQGDRCI で内部論理エラーです。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ84567

メッセージ: 列のデフォルトは使用できません。

説明: デフォルト標識 (&V1.) は、サポートされていません。 QMF で列デフォルト情報を判別できませんでした。理由として、編集時の表が次のようになっている可能性があります。

- リモート・ロケーションを参照している3部分名で識別されている。
- 視点が以下に位置している。
 - DB2 (MVS 版) (V4 またはそれ以降)
 - DB2 共通サーバー (V2.1.1 またはそれ以降)

ユーザーの処置: この編集セッション中は、デフォルト標識 (&V1.) を使用しないでください。デフォルト標識 (&V1.) を入力フィールドから除去して、別の値を指定してください。使用したい値がデフォルト標識文字 (&V1.) と同じである場合は、編集セッションを終了して、図形データ・フィールドのグローバル変数 DSQCP_TEDFLT または DSQCP_TEDFLT_DBCS に別の文字を設定してください。次の編集セッションでは、このフィールドを使用できます。詳細については、QMF I2 トレースを参照してください。

DSQ84568

メッセージ: この列には、デフォルト値はありません。

説明: この列に対して、フィールドにデフォルト標識 (&V1.) を入力しました。しかし、この列には、データベースに定義されているデフォルト値はありません。

ユーザーの処置: フィールドのデフォルト標識 (&V1.) を、別の値に置き換えてください。使用したい値がデフォルト標識文字 (&V1.) と同じである場合は、編集セッションを終了して、図形データ・フィールドのグローバル変数

DSQCP_TEDFLT または DSQCP_TEDFLT_DBCS に別の文字を設定してください。次の編集セッションでは、このフィールドを使用できます。

DSQ84569

メッセージ: 検索における RP 障害です。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ84570

メッセージ: デフォルトは検索モードではサポートされません。

説明: この列に対して、フィールドにデフォルト標識 (&V1.) を入力しました。デフォルト標識 (&V1.) は、検索モードではサポートされません。

ユーザーの処置: フィールドのデフォルト標識 (&V1.) を、別の値に置き換えてください。使用したい値がデフォルト標識文字 (&V1.) と同じである場合は、編集セッションを終了して、図形データ・フィールドのグローバル変数

DSQCP_TEDFLT または DSQCP_TEDFLT_DBCS に別の文字を設定してください。次の編集セッションでは、このフィールドを使用できます。

DSQ84571

メッセージ: &V1 は有効な HEX 値ではありません。

説明: 1 つの 16 進文字は 2 つの英字または数字で表されます。したがって、16 進数値は、0 から 9 までの数字および英字 A、B、C、D、E、または F の偶数個の組み合わせにより表されていなければなりません。誤りのある 16 進数値は、奇数個の数字または英字により表されているか、または無効な英字か、そのほかの文字が含まれています。

ユーザーの処置: フィールドに有効な HEX 値を入力してください。

DSQ84600

メッセージ: 失敗した DSQ50015 を参照してください。

DSQ84612

メッセージ: レコード &V1. の位置 &V2 の項目名の長さが無効です。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。検索した照会のレコード &V1 は位置 &V2 に &V3 のデータ長を持った V レコードです。この値は最大で &V4. です。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ84613

メッセージ: 視点の V レコードに、集約名またはエンティティー名がありません。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。検索した照会の視点を記述している V レコードに、有効な集約名やエンティティーが含まれていません。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ84614

メッセージ: DSQ84612 を参照してください。

DSQ84615

メッセージ: 視点が変数の場合、その後にレコードがあってはなりません。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。検索した照会の視点で指定されている集約またはエンティティは変数です。E レコード以外のレコードが視点の後ろに続いてはなりません。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ84616

メッセージ: レコード &V1 の親関連データはブランクにしてください。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 は照会のルート・エンティティを表します。ですから、親関連と親テンプレート ID は、ブランクでなければなりません。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ84617

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ84618

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ84619

メッセージ: レコード &V1. に無効なテンプレート名 &V2 があります。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあり

ます。レコード &V1 で指定したテンプレート名 &V2 は関連表 (ある場合) またはデータベースの中にありません。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ84620

メッセージ: レコード &V1 の条件の比較値は無効です。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 で条件中の比較値をテンプレート・フィールドとして指定しました。テンプレート・フィールドの記述形式は、最初の 32 文字がテンプレート名、次の 32 文字がフィールド名、その後の 32 属性名 (またはそれ以上) が欠落しています。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ84621

メッセージ: レコード &V1. に無効な比較値のタイプがあります。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の条件で指定された比較値のタイプは有効なタイプではありません。有効なテキスト・タイプは、L、V、TF です。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ84622

メッセージ: レコード &V1. に、予期しないレコード・コード &V2 があります。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。検索した照会のレコード &V1 には &V2 のレコード・コードが含まれています。このレコード・コードは、検索された照会のこの場所では、許可されていません。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ84623

メッセージ: DSQ84365 を参照してください。

DSQ84624

メッセージ: レコード &V1 のエンティティ名は、視点レコードのエンティティ名と一致しません。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。&V2. と指名されたルート・エンティティに基づく視点を指定しました。また、テンプレート・ツリーが &V3. であるルート・エンティティを示す R レコードを与えました。エンティティ名がルート・テンプレートに含まれている場合、それは視点レコードのエンティティ名と一致しなくてはなりません。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ84625, DSQ84626

メッセージ: DSQ84612 を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ84627 - DSQ84629

メッセージ: DSQ84622 を参照してください。

DSQ84630

メッセージ: レコード &V1. に無効な条件結合子があります。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 で指定された条件結合子は、正しくありません。有効な条件結合子は IF、AND、OR です。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ84631

メッセージ: レコード &V1. に無効な条件演算子があります。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 に指定された条件演算子は無効な演算子です。有効な演算子は EQ、NE、GT、LT、GE、LE、LK、NLです。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ84632

メッセージ: レコード &V1 の条件演算子に誤りがあります。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 で指定された条件演算子は有効な演算子ですが、その条件の左側と互換性がありません。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ84633

メッセージ: DAQ84619 を参照してください。

DSQ84634

メッセージ: 集約視点がリポジトリーに見つかりません。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。検索される ER 指示照会の視点に対して集約を指定しましたが、リポジトリー管理プログラムは集約名を見つけれられません。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ84635

メッセージ: ルート・エンティティー名がリポジトリに見つかりません。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。検索される指示照会の視点としてルート・エンティティー名を指定したが、リポジトリ管理プログラムでそのルート・エンティティー名が見つかりません。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ84636

メッセージ: レコード &V1 のテンプレート ID が固有ではありません。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 に指定されたテンプレート ID は関連表のどこかで重複しているので、リポジトリに受け入れられません。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ84637

メッセージ: レコード &V1 のテンプレート ID がリポジトリと一致しません。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 のテンプレート ID は、関連表 (存在する場合) またはそのリポジトリによって作成されたテンプレート・ツリーのどのテンプレート ID と一致しません。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ84638

メッセージ: レコード &V1 の親が前のレコードに見つかりません。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。リレーショナル表の 1 つの R レコードの

親テンプレート ID は、先の R レコードのテンプレート ID としても現われなければなりません。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ84639

メッセージ: レコード &V1 の関連がリポジトリに見つかりません。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 で指定された関連はそのデータベースで有効な関連の名前ではありません。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ84640

メッセージ: レコード &V1 の関連は指定されたエンティティーにマップできません。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 で指定された関連はデータベースに存在しますが、同一レコードで指定された親テンプレート ID にマップできません。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ84641

メッセージ: レコード &V1. の関連の使用は許可されていません。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 で指定した関連はデータベースに存在しますが、あなたはそれを使用することを許可されていません。

ユーザーの処置: 関連を使用する許可については QMF 管理者に連絡してください。

DSQ84642

メッセージ: レコード &V1 の関連はリポジトリと一致しません。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 で指定された関連はデータベースに存在します。しかし、それは指定された集約視点の構成内に正しく位置付けられてはいません。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ84643

メッセージ: レコード &V1 のエンティティはリポジトリと一致しません。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 で指定したエンティティは同じレコードで指定した関連に関係しているエンティティ名と合いません。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ84645

メッセージ: レコード &V1 に指定された属性は現在の視点にありません。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の条件の左側は現在の V レコードのテンプレートに関係する属性ではありません。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ84646

メッセージ: レコード &V1 で指定された変数が無効です。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 で、条件中の比較値は変数

として指定されていますが、有効な QMF 変数の形式ではありません。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ84647

メッセージ: レコード &V1 の比較値テンプレートが見つかりません。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 で条件の比較値はテンプレートと指定されていますが、そのテンプレートは現在の視点に存在しません。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ84648

メッセージ: レコード &V1 のテンプレートが最後の V レコードのテンプレートの前にありません。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 で条件の比較値はテンプレート・フィールドです。テンプレート・フィールド中のテンプレートは視点の構成の中で最後の V レコードのテンプレートの前に現れなければなりません。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ84649

メッセージ: レコード &V1 で、比較値の属性がテンプレートにありません。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の条件の比較値に指定された属性は、その比較値で指定されたテンプレートに属していません。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ84650

メッセージ: レコード &V1. の比較値でフィールドと属性が一致しません。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の条件の比較値に指定したフィールド名が、それに続く属性に対応しません。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ84651

メッセージ: レコード &V1 の属性が指定されたテンプレートに見つかりません。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 で指定した属性はその直前に指定したテンプレートの一部ではありません。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ84652

メッセージ: 行 &V1 のテンプレートに対して使用する式が長過ぎます。

説明: 検索された照会の行 &V1 の特定のテンプレートの使用説明が長過ぎます。式の長さは最大で 3,300 文字です。この値に置換変数が使われている可能性があります。

ユーザーの処置: 情報センターに連絡して援助を求めてください。

DSQ84653

メッセージ: &V1. 行目のリテラルは無効です。

説明: 条件を完成させるために入力された &V1 行目のリテラルは比較演算子の左側の属性タイプと一致しません。比較演算子の左側の属性は文字か数値のどちらかです。属性が数字の場合、リテラル・ストリングも数字でなくてはなりません。

674 QMF: QMF メッセージおよびコード

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ84654

メッセージ: &V1 行目の属性フィールドのデータ・タイプは一致していません。

説明: &V1 行目のテンプレート・フィールドの右側のデータ・タイプは、条件の左側の属性のデータ・タイプと一致していません。数値データ・タイプは数値に対して、文字は文字に対してだけ比較できます。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ84670

メッセージ: INTEGER: -2,147,483,648 から 2147483647 で、デフォルト値があり、ヌルは使用できません。

説明: この列は整数のデータ・タイプです。この列は -2,147,483,648 から 2,147,483,647 の範囲の数を入れることができます。(最大 10 桁)

この列でデフォルト値 (&V2.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できます。

この列でヌル (&V1.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されます。

DSQ84671

メッセージ: INTEGER: -2,147,483,648 から 2147483647 で、デフォルト値があり、ヌルは使用できます。

説明: この列は整数のデータ・タイプです。この

列は -2,147,483,648 から 2,147,483,647 の範囲の数をに入れることができます。(最大 10 桁)

この列でデフォルト値 (&V2.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できます。

この列でヌル (&V1.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されません。

DSQ84672

メッセージ: SMALL INTEGER: -32,768 から 32,767 で、デフォルト値があり、ヌルは使用できません。

説明: この列は SMALLINT のデータ・タイプです。この列は -32,768 から 32,767 の範囲の数をに入れることができます。

この列でデフォルト値 (&V2.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できます。

この列でヌル (&V1.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されません。

DSQ84673

メッセージ: SMALL INTEGER: -32,768 から 32,767 で、デフォルト値があり、ヌルは使用できます。

説明: この列は SMALLINT のデータ・タイプで

す。この列は -32,768 から 32,767 の範囲の数をに入れることができます。

この列でデフォルト値 (&V2.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できます。

この列でヌル (&V1.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されません。

DSQ84674

メッセージ: FLOAT: (+/-)&V1&V2&V3.E(+/-)ee は、デフォルト値があり、ヌルは使用できません。

説明: 上記の形式で、

- (+/-) は、任意の符号です (プラス、またはマイナス)
- &V1&V2&V3 は仮数部の桁です。(倍精度は 17 桁まで、単精度は 8 桁までです)
- E は指数部の先頭です。
- (+/-) は、任意の指数符号です (プラス、またはマイナス)
- ee は、指数に対する桁です (1 または 2 桁)

指数部は省略できます。

この列でデフォルト値 (&V5.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できます。

この列でヌル (&V4.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されません。

DSQ84675

メッセージ: FLOAT: (+/-)&V1&V2&V3.E(+/-)ee は、デフォルト値があり、ヌルは使用できます。

説明: 上記の形式で、

- (+/-) は、任意の符号です (プラス、またはマイナス)
- &V1&V2&V3 は仮数部の桁です。(倍精度は 17 桁まで、単精度は 8 桁までです)
- E は指数部の先頭です。
- (+/-) は、任意の指数符号です (プラス、またはマイナス)
- ee は、指数に対する桁です (1 または 2 桁)

指数部は省略できます。

この列でデフォルト値 (&V5.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できます。

この列でヌル (&V4.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されます。

DSQ84676

メッセージ: DECIMAL: &V1 は仮数部の前の桁、&V2 は後の桁、デフォルト値があり、ヌルは使用できません。

説明: この列は、DECIMAL データ・タイプです。プラス、またはマイナスの符号は 10 進数の前に使用します。符号を省略するとプラスと見なされます。

この列でデフォルト値 (&V4.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できます。

この列でヌル (&V3.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されません。

DSQ84677

メッセージ: DECIMAL: &V1 は仮数部の前の桁、&V2 は後の桁、デフォルト値があり、ヌルは使用できます。

説明: この列は、DECIMAL データ・タイプです。プラス、またはマイナスの符号は 10 進数の前に使用します。符号を省略するとプラスと見なされます。

この列でデフォルト値 (&V4.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できます。

この列でヌル (&V3.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されません。

DSQ84678

メッセージ: VARYING CHARACTER(&V1): デフォルト値があり、ヌルは使用できません。

説明: この列は VARCHAR のデータ・タイプです。&V1 の文字まで入れることができます。後ろのブランクはデータから除外されます。

この列でデフォルト値 (&V3.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できます。

この列でヌル (&V2.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。
ENTER キーを押すと、メッセージは消去されません。

DSQ84679

メッセージ: VARYING CHARACTER(&V1): デフォルト値があり、ヌルは使用できます。

説明: この列は VARCHAR のデータ・タイプです。&V1 の文字まで入れることができます。後ろのブランクはデータから除外されます。

この列でデフォルト値 (&V3.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できます。

この列でヌル (&V2.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。
ENTER キーを押すと、メッセージは消去されません。

DSQ84680

メッセージ: CHARACTER(&V1): デフォルト値があり、ヌルは使用できません。

説明: この列は &V1 文字まで入れることができます。データベース内の列は常に &V1 文字の長さです。 &V1 文字より少ないキーが入力されると列の最後にブランクが追加されます。

この列でデフォルト値 (&V3.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できます。

この列でヌル (&V2.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。
ENTER キーを押すと、メッセージは消去されません。

DSQ84681

メッセージ: CHARACTER(&V1): デフォルト値があり、ヌルは使用できます。

説明: この列は &V1 文字まで入れることができます。データベース内の列は常に &V1 文字の長さです。 &V1 文字より少ないキーが入力されると列の最後にブランクが追加されます。

この列でデフォルト値 (&V3.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できます。

この列でヌル (&V2.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。
ENTER キーを押すと、メッセージは消去されません。

DSQ84682

メッセージ: VARYING GRAPHIC(&V1): デフォルト値があり、ヌルは使用できません。

説明: この列は DBCS で、&V1 文字まで入力できます。後ろのブランクはデータから除外されます。

この列でデフォルト値 (&V3.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できます。

この列でヌル (&V2.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。

ENTER キーを押すと、メッセージは消去されま
す。

DSQ84683

メッセージ: VARYING GRAPHIC(&V1): デフォ
ルト値があり、ヌルは使用できます。

説明: この列は DBCS で、&V1 文字まで入力で
きます。後ろの空白はデータから除外され
ます。

この列でデフォルト値 (&V3.) の予約文字を、追
加モードでも変更モードでも使用できます。

この列でヌル (&V2.) の予約文字を、追加モード
でも変更モードでも使用できます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しま
せん。

ユーザーの処置: この列にデータを入力したい場
合は、このメッセージを参考にしてください。

ENTER キーを押すと、メッセージは消去されま
す。

DSQ84684

メッセージ: GRAPHIC(&V1): デフォルト値があ
り、ヌルは使用できません。

説明: この列は DBCS で、&V1 文字まで入力で
きます。データベース内の列は常に &V1 文字
の長さです。&V1 文字より少ないキーが入力さ
れると列の最後に空白が追加されます。

この列でデフォルト値 (&V3.) の予約文字を、追
加モードでも変更モードでも使用できます。

この列でヌル (&V2.) の予約文字を、追加モード
でも変更モードでも使用できます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しま
せん。

ユーザーの処置: この列にデータを入力したい場
合は、このメッセージを参考にしてください。

ENTER キーを押すと、メッセージは消去されま
す。

DSQ84685

メッセージ: GRAPHIC(&V1): デフォルト値があ
り、ヌルは使用できます。

説明: この列は DBCS で、&V1 文字まで入力で
きます。データベース内の列は常に &V1 文字
の長さです。&V1 文字より少ないキーが入力さ
れると列の最後に空白が追加されます。

この列でデフォルト値 (&V3.) の予約文字を、追
加モードでも変更モードでも使用できます。

この列でヌル (&V2.) の予約文字を、追加モード
でも変更モードでも使用できます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しま
せん。

ユーザーの処置: この列にデータを入力したい場
合は、このメッセージを参考にしてください。

ENTER キーを押すと、メッセージは消去されま
す。

DSQ84686

メッセージ: DATE: &V1 はデフォルト値があ
り、ヌルは使用できません。

説明: デフォルトの日付の形式は上で示したとお
りです。入力しようとしたデータの正しい形式は
「mm/dd/yyyy」、「yyyy-mm-dd」、
「dd.mm.yyyy」、またはインストール先のユーザ
ー設定の日付形式です。

yyyy は年です。年として 2 桁を指定する
と、年の最初の 2 桁はその日の世紀と
見なされます。

mm は月です。(1 または 2 桁)

dd は日です。(1 または 2 桁)

この列でデフォルト値 (&V3.) の予約文字を、追
加モードでも変更モードでも使用できます。

この列でヌル (&V2.) の予約文字を、追加モード
でも変更モードでも使用できません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: 有効な形式の日付を入力してください。

DSQ84687

メッセージ: DATE: &V1 はデフォルト値があり、ヌルは使用できません。

説明: デフォルトの日付の形式は上で示したとおりです。入力しようとしたデータの正しい形式は「mm/dd/yyyy」、「yyyy-mm-dd」、「dd.mm.yyyy」、またはインストール先のユーザー設定の日付形式です。

yyyy は年です。年として 2 桁を指定すると、年の最初の 2 桁はその日の世紀と見なされます。

mm は月です。(1 または 2 桁)

dd は日です。(1 または 2 桁)

この列でデフォルト値 (&V3.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できます。

この列でヌル (&V2.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: 有効な形式の日付を入力してください。

DSQ84688

メッセージ: TIME: &V1 はデフォルト値があり、ヌルは使用できません。

説明: デフォルトの時間の形式は上で示したとおりです。入力データの正しい形式は、「hh:mm AM (または PM)」、「hh:mm:ss」、「hh.mm.ss」、またはインストール先のユーザー時刻の形式です。

hh は時刻です。(1 または 2 桁)

mm は分です。(1 または 2 桁)

ss は秒です。(1 または 2 桁)

秒は任意指定です。

この列でデフォルト値 (&V3.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できます。

この列でヌル (&V2.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: 有効な形式の時刻を入力してください。

DSQ84689

メッセージ: TIME: &V1 はデフォルト値があり、ヌルは使用できません。

説明: 時間のデフォルトの形式はメッセージ・テキストで示されています。入力データの正しい形式は、「hh:mm AM (または PM)」、「hh:mm:ss」、「hh.mm.ss」、またはインストール先のユーザー時刻の形式です。

hh は時刻です。(1 または 2 桁)

mm は分です。(1 または 2 桁)

ss は秒です。(1 または 2 桁)

秒は任意指定です。

この列でデフォルト値 (&V3.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できます。

この列でヌル (&V2.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: 有効な形式の時刻を入力してください。

DSQ84690

メッセージ: TIMESTAMP:

yyyy-mm-dd-hh.mm.ss.nnnnnn にはデフォルト値があり、ヌルは使用できません。

説明: 上に表示されたタイム・スタンプ形式で、

yyyy-mm-dd は、年、月、および日
hh.mm.ss は、時間、分、および秒
nnnnnn は、マイクロ秒

マイクロ秒は任意指定です。

この列でデフォルト値 (&V2.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できます。

この列でヌル (&V1.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されません。

DSQ84691

メッセージ: TIMESTAMP:

yyyy-mm-dd-hh.mm.ss.nnnnnn にはデフォルト値があり、ヌルは使用できます。

説明: 上に表示されたタイム・スタンプ形式で、

yyyy-mm-dd は、年、月、および日
hh.mm.ss は、時間、分、および秒
nnnnnn は、マイクロ秒

マイクロ秒は任意指定です。

この列でデフォルト値 (&V2.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できます。

この列でヌル (&V1.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されません。

DSQ84692

メッセージ: OK、表示された VARYING CHARACTER (&1) にはデフォルト値があり、ヌルは使用できません。

DSQ84693

メッセージ: OK、表示された VARYING CHARACTER (&1) にはデフォルト値があり、ヌルは使用できます。

DSQ84694

メッセージ: OK、表示された CHARACTER (&1) にはデフォルト値があり、ヌルは使用できません。

DSQ84695

メッセージ: OK、表示された CHARACTER (&1) にはデフォルト値があり、ヌルは使用できます。

DSQ84696

メッセージ: OK、表示された VARYING GRAPHIC (&1) にはデフォルト値があり、ヌルは使用できません。

DSQ84697

メッセージ: OK、表示された VARYING GRAPHIC (&1) にはデフォルト値があり、ヌルは使用できます。

DSQ84698

メッセージ: OK、表示された GRAPHIC (&1) にはデフォルト値があり、ヌルは使用できません。

DSQ84699

メッセージ: OK、表示された GRAPHIC (&1) にはデフォルト値があり、ヌルは使用できます。

DSQ84700

メッセージ: OK、HEX で表示された ROWID にはデフォルト値があり、ヌルは使用できません。

DSQ84701

メッセージ: OK、表示された CLOB (&1) にはデフォルト値があり、ヌルは使用できません。

DSQ84702

メッセージ: OK、表示された CLOB (&1) にはデフォルト値がなく、ヌルは使用できません。

DSQ84703

メッセージ: OK、表示された CLOB (&1) にはデフォルト値があり、ヌルは使用できます。

DSQ84704

メッセージ: OK、表示された CLOB (&1) にはデフォルト値がなく、ヌルは使用できます。

DSQ84705

メッセージ: OK、表示された BLOB (&1) にはデフォルト値があり、ヌルは使用できません。

DSQ84706

メッセージ: OK、表示された BLOB (&1) にはデフォルト値がなく、ヌルは使用できません。

DSQ84707

メッセージ: OK、CLOB(&1) が表示されました。SEARCH は LIKE を使用します。

DSQ84708

メッセージ: OK、BLOB(&1) が表示されました。SEARCH は LIKE を使用します。

DSQ84709

メッセージ: OK、DBCLOB(&1) が表示されました。SEARCH は LIKE を使用します。

DSQ84710

メッセージ: OK、表示された BLOB (&1) にはデフォルト値があり、ヌルは使用できます。

DSQ84711

メッセージ: OK、表示された BLOB (&1) にはデフォルト値がなく、ヌルは使用できます。

DSQ84712

メッセージ: OK、表示された DBCLOB (&1) にはデフォルト値があり、ヌルは使用できません。

DSQ84713

メッセージ: OK、表示された DBCLOB (&1) にはデフォルト値がなく、ヌルは使用できません。

DSQ84714

メッセージ: OK、表示された DBCLOB (&1) にはデフォルト値があり、ヌルは使用できます。

DSQ84715

メッセージ: OK、表示された DBCLOB (&1) にはデフォルト値がなく、ヌルは使用できます。

DSQ84970

メッセージ: 表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 に、既存のデータを参照していない条件があります。

説明: 条件によって参照できるのは、すでにデータベースの中に入っているデータだけです。条件の入っている列に名前が付いていなければ、ユーザーがどの既存のデータを意図しているのかわかりません。また、条件が I 行の中にある場合には、その行のデータは、その行が挿入されるまでは存在しません。

ユーザーの処置: 照会からその条件を除去してください。

DSQ84971

メッセージ: DSQ84228 を参照してください。

DSQ84972

メッセージ: 表 &V1. の行 &V2 の列 &V3 では、二重引用符は無効です。

説明: この文脈の中では二重引用符は無効です。

ユーザーの処置: 無効な二重引用符を除去してください。

DSQ84973

メッセージ: 表 &V1. の行 &V2 の行フィールドでは、二重引用符は無効です。

説明: この文脈の中では二重引用符は無効です。

ユーザーの処置: 無効な二重引用符を除去してください。

DSQ84974

メッセージ: 表 &V1. の列 &V2 の列名の中に奇数個の二重引用符があります。

説明: 列名を囲む二重引用符は、次の例に示すように偶数個でなければなりません。

```
"SALARY + COMM"
```

ユーザーの処置: 二重引用符の数が偶数になるように注意して、列名を訂正してください。

DSQ84975

メッセージ: 表 &V1. の表名の中に奇数個の二重引用符があります。

説明: 表名を囲む二重引用符は、次の例に示すように偶数個でなければなりません。

```
"DEPT 45".STAFF  
Q."MY STAFF"
```

ユーザーの処置: 二重引用符の数が偶数になるように注意して、表名を訂正してください。

DSQ84976

メッセージ: 表 &V1. の行 &V2 の列 &V3 では、'&V4' は無効な DBCS 定数です。

説明: DBCS は次のような形になっていなければなりません。

```
G'...DBCS...'
```

ユーザーの処置: DBCS 定数を訂正してください。

DSQ84977

メッセージ: 表 &V1. の行 &V2 の列 &V3 で、'&V4' にシフトイン文字が欠けています。

説明: DBCS 定数はシフトイン文字で終わってなければなりません。

ユーザーの処置: DBCS 定数を訂正してください。

DSQ84978

メッセージ: 表 &V1. の行 &V2 の列 &V3 では、二重引用符は無効です。

説明: データ・フィールドに二重引用符を入力することはできません。

ユーザーの処置: データ・フィールドから二重引用符を除去してください。

DSQ84979

メッセージ: 表 &V1. の行 &V2 の行フィールドでは、二重引用符は無効です。

説明: 行フィールドに二重引用符を入力することはできません。

ユーザーの処置: 行フィールドから二重引用符を除去してください。

DSQ84980

メッセージ: 表 &V1. の列 &V2 の列名の中の隣接する二重引用符は無効です。

説明: 二重引用符を互いに隣合う形で指定することはできません。二重引用符の無効な使用例と有効な使用例を次に示します。

無効	有効
"LOCAL STAFF"	""

ユーザーの処置: 定数を訂正してください。

DSQ84981

メッセージ: 表 &V1. の表名の中の隣接する二重引用符は無効です。

説明: 二重引用符を互いに隣合う形で指定することはできません。二重引用符の無効な使用例と有効な使用例を次に示します。

無効	有効
"LOCAL STAFF"	""

ユーザーの処置: 定数を訂正してください。

DSQ84982

メッセージ: 表 &V1. の行 &V2 の列 &V3 の '&V4' に、指数がありません。

説明: この数字の中には、次の例のように指数が指定されていなければなりません。

456783E2

ユーザーの処置: 定数を訂正してください。

DSQ84983

メッセージ: 表 &V1. の行 &V2 の列 &V3 で、 '&V4' は無効な比較演算子です。

説明: 有効な比較演算子は次のとおりです。

> < >= <= = <=>

ユーザーの処置: 比較演算子を訂正してください。

DSQ84984

メッセージ: 表 &V1. の行 &V2 の列 &V3 で、単一引用符の数が偶数ではありません。

説明: 単一引用符は定数を囲むために使用できません。また、2 つの隣接する単一引用符を用いて単一の引用符を表します。次に例を示します。

0'BOYLE (0'BOYLE の意味に解釈される)
'P. LANGAN' (P. LANGAN の意味に解釈される)

ユーザーの処置: 定数の中に含まれる単一引用符の数が偶数になるようにしてください。

DSQ84985

メッセージ: 例示表 &V1 の表名域の修飾子の次には、表名が続いていなければなりません。

説明: 修飾子のあとには表名が必要です。例:

"Q".STAFF		NAME		SALARY	
-----+		-----+		-----+	
P.				>20000	

修飾子 (Q) の次には、表名 (STAFF) が続いています。

ユーザーの処置: 欠落している表名を補ってください。

DSQ84990

メッセージ: 例示表には、少なくとも 1 つは列が入っていないければなりません。

説明: QBE 照会の各例示表には、少なくとも 1 つずつ、列が入っていないければなりません。

ユーザーの処置: DELETE コマンドを用いて例示表を削除し、DRAW コマンドを用いて例示表を再作成してください。

DSQ84991 - DSQ85000

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ85001

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ85002 - DSQ85005

メッセージ: FP 機能のシステム問題です。
FPCODE = &1。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ85006 - DSQ85016

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ85018

メッセージ: 照会には、名前の付いた例示表が少なくとも 1 つは含まれていないければなりません。

説明: 照会は、少なくとも 1 つ、既存の表を名前で参照していないければなりません。

ユーザーの処置: DRAW コマンドを用いて、照

会の中で使用したい 1 つまたは複数の表を作成してください。

DSQ85019

メッセージ: 例示エレメント &V1 は不要です。

説明: 照会が実行されました。しかし、この例示エレメントは照会のどこにも使用されませんでした。したがって、必要ありません。

ユーザーの処置: この例示エレメントを照会のどこかで参照するつもりであった場合は、そのための必要な訂正を加えた上で、照会を再実行してください。

DSQ85020

メッセージ: 照会には、名前の付いた例示表が少なくとも 1 つは含まれていないければなりません。

説明: 照会の中のどの例示表にも、表の名前が示されていません。表のうちの少なくとも 1 つは、表名区域に入っている既存の表の名前を備えたものでなければなりません。

ユーザーの処置: DRAW コマンドを用いて、照会で使用したい 1 つまたは複数の表を表示してください。各例示表には、それが表す表の名前が自動的に入ります。

DSQ85021

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ85022

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ85023

メッセージ: 照会には、P.、D.、U.、または I. 演算子が必要です。

説明: 照会は、表示 (P.)、削除(D.)、更新(U.)、または挿入 (I.) を行うために使用するものです。

ユーザーの処置: 照会の中の例示表の該当行に、P.、D.、U.、または I. のいずれかの演算子を追加してください。

DSQ85024

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ85025 - DSQ85027

メッセージ: FP 機能のシステム問題です。
FPCODE = &1。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ85028

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ85029

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ85030

メッセージ: 例示表 &V1 の表名の中の二重引用符は無効です。

説明: 表名全体を二重引用符で囲むことはできませんが、名前自体の途中に二重引用符を用いることはできません。

正: "DEPT 46 SALES"
"DEPT '46' SALES"

誤: "DEPT "46" SALES"

ユーザーの処置: 表名から二重引用符を取り除いてください。

DSQ85031

メッセージ: DSQ84985 を参照してください。

DSQ85032

メッセージ: DSQ85030 を参照してください。

DSQ85033

メッセージ: 例示表 &V1. の行 &V2 の列 &V3 の中のソート形式が無効です。

説明: 有効なソート形式の例を下に示します。

A0. D0. A0(1). D0(2).

ゼロではなく英字のOを使用するよう注意してください。

ユーザーの処置: 正しいソート形式を使用してください。

DSQ85034

メッセージ: 照会が長すぎます。

説明: QBE 照会は、実行の前に SQL に変換されます。この照会の場合は、変換後の SQL 照会が長すぎて内部記憶域に収容しきれず、したがって実行できません。

ユーザーの処置: もっと短い複数の照会に分けて実行してください。

DSQ85035

メッセージ: 表 &V1 の行 &V2 の中の重複 D. は無視されました。

説明: 照会は実行されました。

ユーザーの処置: 特にありません。

DSQ85036

メッセージ: 表 &V1 の行 &V2 の中の重複 I. は無視されました。

説明: 照会は実行されました。

ユーザーの処置: 特にありません。

DSQ85037

メッセージ: 表 &V1 の行 &V2 の中の重複 P. は無視されました。

説明: 照会は実行されました。

ユーザーの処置: 特にありません。

DSQ85038, DSQ85039

メッセージ: 例示表 &V1 の行 &V2 に、複数の ALL. または UNQ. が含まれています。

説明: ALL. または UNQ. を行演算子として使用できるのは、1 つの行で一度だけです。

ユーザーの処置: 余分な UNQ. 演算子および ALL. 演算子をすべて除去してください。

DSQ85040

メッセージ: 例示表 &V1 の行 &V2 に ALL. または UNQ. がありますが、これは P. 演算子を持つ行でしか使用できません。

説明: P. 演算子が必要です。なぜなら、行演算子としての ALL. および UNQ. が参照するのは検索されたデータだけであり、データを検索するためには P. 演算子を使わなければならないからです。

ユーザーの処置: ALL. または UNQ. を取り除くか、あるいはこの行に少なくとも 1 つの P. 演算子を入れてください。

DSQ85041

メッセージ: 例示表 &V1 の列 &V2 の列名の中にある二重引用符は無効です。

説明: 列名全体を二重引用符で囲むことはできませんが、名前自体に二重引用符が含まれてはなりません。例：

正: "SALARY + COMM"
 "DEPT 'NUM' "

誤: "PART "NUM" "

ユーザーの処置: 列名の中の二重引用符を取り除いてください。

DSQ85042

メッセージ: 表 &V1 の行 &V2 の中の重複した G. が無視されました。

説明: 照会は実行されました。

ユーザーの処置: 特にありません。

DSQ85043

メッセージ: 例示表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 の D. は、列の中に使用すると無効です。

説明: D. は、行全体を削除する場合にかぎり使用してください。列からデータを削除する場合には D. は使用できません。

ユーザーの処置: D. を列から取り除いてください。列からデータを削除したい場合には、U. 演算子を使用します。例:

Q.STAFF	NAME	SALARY	COMM
	SMITH		U.NULL

行全体を削除するには、D. を次のように使用します。

Q.STAFF	NAME	SALARY	COMM
D.	SMITH		

DSQ85044

メッセージ: 例示表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 の I. は、列に使用すると無効です。

説明: I. は、行全体を挿入したい場合にかぎり使用してください。

ユーザーの処置: I. を列から取り除いてください。既存の列にデータを挿入したい場合には、U. を使用します。例:

Q.STAFF	NAME	SALARY	COMM
	SMITH	U.20000	

行全体を挿入するには、I. を次のように使用します。

Q.STAFF	NAME	ID
I.	SMITH	702

DSQ85045

メッセージ: 例示表 &V1 の行 &V2 の中の重複 U. は無視されました。

説明: 照会の中で複数の U. が使われています。2 番目以降の U. は無視されます。

ユーザーの処置: 更新したい事項がまだ残っているのであれば、新たな照会を書いて実行してください。

DSQ85046

メッセージ: 例示表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 の重複する演算子 P. は無視されました。

説明: 照会は、重複する P. 演算子を用いずに実行されました。

ユーザーの処置: P. 演算子をどこかほかの場所に使用するつもりだった場合には、照会を修正し、再実行してください。

照会を保管したい場合には、重複する P. 演算子は除去しなければなりません。

DSQ85047

メッセージ: 例示表 &V1 の列 &V3 に、複数のソート演算子 (AO. または DO.) が含まれていません。

説明: 1 つの列には、分類演算子は 1 つしか使用できません。次の例は、名前列に分類演算子が 2 つ指定されているために、無効です。

次に無効な照会の例を示します。

Q.STAFF	NAME	SALARY	COMM
P.	AO.	>20000	
P.	DO.		>800

ユーザーの処置: 列に、AO. 演算子または DO. 演算子を 1 つだけ指定してください。

DSQ85048

メッセージ: 表 &V2. の列 &V4 で、行 &V3 の &V1 は無効です。

説明: 例示表 &V2 の行 &V3 の列 &V4 の &V1 で始まる項目は、その行および列に別の入力があるので、無効です。

たとえば、20 P. 30 という入力 (この入力は正しくありません) が列の中に現われたとします。ここでは、入力 30 が無効であり、このメッセージが表示されます。

ユーザーの処置: &V1 で始まる部分をすべて取り除き、残った値が正しいことを確認して、照会を再実行してください。

DSQ85049

メッセージ: 表 &V1. の演算子の組み合わせが無効です。

説明: 同じ例示表または目標表の中で、演算子 I.、U.、D.、および P. を 2 つ以上使用することはできません。(同じ演算子を複数使用することはできます。)

ユーザーの処置: 表 &V1 を訂正し、照会を再実行してください。

DSQ85050

メッセージ: D.、I.、U.、または P. 演算子は、1 つの表にしか指定できません。

説明: 1 つの照会で複数の表の削除、挿入、更新、または検索を行うことはできません。

ユーザーの処置: 削除、挿入、更新、および検索のそれぞれに対して、別個の照会を作成し実行してください。

DSQ85051

メッセージ: 例示表 &V1 の行 &V2 には D.、U.、または I. 演算子があるので、G. を使用することはできません。

説明: 上記の演算子のどれかを含む行をグループ化することはできません。例:

```
無効      Q.STAFF | DEPT | SALARY |
照会:     -----+-----+-----+
          I.    | G._D | _SAL   |
```

ユーザーの処置: グループ化演算子を除去してください。

DSQ85052

メッセージ: 例示表 &V1 の表名の修飾子が、8文字を超えています。

説明: 修飾子は、表の所有者を識別するためのものです。修飾子は、8文字より長くすることはできません。

ユーザーの処置: 修飾子を訂正してください。正しい修飾子が思い出せない場合には、次のコマンドを出して見つけてください。

```
LIST TABLES (OWNER=ALL)
```

このコマンドは、使用を許可されているすべての表をリストします。使用したい表の名前をこのリストから探しだしてください。表の修飾子はオブジェクト所有者 (OWNER) という列に示されています。

DSQ85053

メッセージ: 例示表 &V1 の列 &V2 の名前が18文字を超えています。

説明: 列名は、18文字を超えてはなりません。

ユーザーの処置: 無効な列名を表に対して定義された列名と置き換えてください。有効な列名がわからない場合には、次のコマンドを出してください。

```
DRAW tablename
```

ここで、「表名」は調べたい表の名前です。これによって、その表のすべての列の名前を備えた例示表が表示されます。

DSQ85054

メッセージ: DSQ85041 を参照してください。

DSQ85055

メッセージ: 例示表 &O1 の表名が < 文字を超えています。

説明: 現在ご使用の &LS. へのデータベース接続は、最大 <. 文字までのデータベース表名をサポートします。

ユーザーの処置: 表名を訂正してください。名前を忘れた場合、次のコマンドを実行してください。

```
LIST TABLES (OWNER=ALL)
```

このコマンドは、使用を許可されているすべての表をリストします。

DSQ85056

メッセージ: 例示表 &V1 に I、D、または U がありますが、名前がありません。

説明: 変更したい表の名前を指定しなければなりません。

ユーザーの処置: 変更したい表の名前を例示表 &V1. に入力してください。

DSQ85057

メッセージ: 例示表 &V1内の AO、または DO、は、P、演算子で指定された表で使用しなければなりません。

説明: ソートできるのは検索されたデータだけです。データを検索するためには、P、演算子を使用しなければなりません。

ユーザーの処置: ソート演算子を除去するか、または、ソート演算子を含む行に P、演算子を入れてください。

DSQ85058

メッセージ: DSQ85052 を参照してください。

DSQ85059

メッセージ: 表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 には G. 演算子が含まれています。この列には名前が付いていなければなりません。

説明: G. の使用は、特定の列の値で行をグループ化することを意味します。G. 列の名前が、同じ列の G. の上に入力されていなければなりません。たとえば、次のようになります。

```
Q.STAFF | SALARY | DEPT |
-----+-----+-----+-----+
          |  _S   | P.G. | P.AVG._S |
```

ユーザーの処置: G. を含む列の列名を、その列の G. の上に入力するか、または G. 演算子を除去してください。

DSQ85060

メッセージ: DSQ85055 を参照してください。

DSQ85062

メッセージ: 例示表 &V2 の行 &V3 の &V1 は、行演算子域では無効です。

説明: 行演算子域で有効な QBE の演算子は次のものだけです。

P., D., I., UNQ., または ALL.

ユーザーの処置: &V1 を有効な演算子と置き換えるか、あるいは、行演算子域からそれを取り除いてください。次に示す QBE の演算子は、

U., A0., D0., および G.

行演算子域での使用は無効なので、注意してください。

DSQ85063

メッセージ: DSQ85053 を参照してください。

DSQ85066

メッセージ: 例示表 &V2 の行 &V3 の列 &V4 の例示エレメント &V1 の長さが、18 文字を超えています。

説明: 例示エレメント名は、長さが 18 文字以下でなければなりません。

ユーザーの処置: 短い例示エレメント名を選択してください。

DSQ85067

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ85068

メッセージ: 例示表 &V1 には、名前付きの列が少なくとも 1 つは必要です。

説明: 名前付きの例示表には、少なくとも 1 つは名前付きの列が含まれていなければなりません。

ユーザーの処置: DELETE コマンドを用いて、名前のない表を削除してください。その上で、DRAW コマンドを用いて表とその列を描きなおしてください。

DSQ85074

メッセージ: DSQ85034 を参照してください。

DSQ85075

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ85076 - DSQ85078

メッセージ: FP 機能のシステム問題です。
FPCODE = &1.

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ85079

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ85082

メッセージ: 例示表 &V1 の列 &V3 に項目が入っていますが、列名ではありません。

説明: 列の中の項目は、参照される表の特定の列を参照するものでなければなりません。そのためには、列に名前を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 列 &V3 に、例示表を定義している列の名前を指定するか、またはその項目を除去してください。

DSQ85084

メッセージ: 例示表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 は、P.、D.、または U. 演算子を持つ 2 つの行を関係します。

説明: P.、D.、または U. を含む 2 つの行を関係することはできません。2 つの行が関係されるのは、一方に他方が参照する例示エレメントが入っている場合、または別の行を通じて関係される場合です。

例: 次に示す照会は無効です。なぜなら、2 つの P. 行が例示エレメント `_S` によってリンクされるからです。

次に無効な照会の例を示します。

```
Q.STAFF | NAME | SALARY | COMM |
-----+-----+-----+-----+
P.      |      |      | >_S  |
P.      |      | _S | >1200|
```

ユーザーの処置: 無効な関係を取り除いてください。

DSQ85085

メッセージ: 条件ボックス &V1 の条件 &V2 が、P.、D.、または U. 演算子を含む 2 つの行を関係しています。

説明: P.、D.、または U. の指定された 2 つの行を、条件ボックスの条件によって関係することはできません。この事態が起きるのは、条件が両方の行を参照している場合、または条件がほかの行を介して両方の行をリンクしている場合です。

次に無効な照会の例を示します。

```
Q.STAFF | NAME | SALARY | COMM |
-----+-----+-----+-----+
P.      |      |      | -C    |
P.      |      | _S |      |
```

```
CONDITIONS |
-----+-----+
C > _S    |
_S > 20000|
```

この照会は、条件ボックスの最初の条件が 2 つの P. 行を関係することになるので、無効です。

ユーザーの処置: 無効な関係を取り除いてください。

DSQ85087

メッセージ: 例示表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 の中の例示エレメント &V4 は、指定の例示表の列を示していなければなりません。

説明: 例示エレメントが、照会に名前が指定されているどの表の列をも表していません。

ユーザーの処置: その例示エレメントに対するすべての参照を除去するか、または、その例示エレメントが表す列に、(QBE の演算子は別として) 例示エレメントだけを入れてください。

例:次に示す照会では、Q. EMP の給与列に `_SAL` を追加して、その列を表すものとして `_SAL` を定義しています。

```
Q.EMP | NAME | SALARY | COMM |
-----+-----+-----+-----+
      | P.   | P. _SAL | >_SAL |
```

DSQ85090

メッセージ: 条件ボックス &V1 の条件 &V2 に D、U、または I 演算子を持つ行へのグループ参照があります。

説明: D、U、または I が指定された行をグループ化することはできません。組み込み関数の中でこの種の行を参照すると、その行のグループ化を暗に示すこととなります。たとえば、次のようになります。

次に無効な照会の例を示します。

Q.EMP	NAME	SALARY
D.		_S _SA

CONDITIONS
_SA > AVG._S

次の例では、条件が D 行のグループ化を暗黙に指定しています。

ユーザーの処置: 次の例のように、暗黙のグループ化を変更してください。たとえば、次のようになります。

Q.EMP	NAME	SALARY
D.		_S _SA

CONDITIONS
_S <= AVG._SA

DSQ85091

メッセージ: 例示表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 に D、U、または I 演算子を持つ行へのグループ参照があります。

説明: D、U、または I が指定された行をグループ化することはできません。組み込み関数の中でこの種の行を参照すると、その行のグループ化を暗に示すこととなります。たとえば、次のようになります。

次に無効な照会の例を示します。

Q.EMP	NAME	SALARY	COMM
D.		>AVG._CM	_CM

2 行目の条件が D 行のグループ化を暗黙に指定しています。

ユーザーの処置:

次の例のように、暗黙のグループ化を変更してください。

Q.EMP	NAME	SALARY	COMM
D.		>AVG._CM	_CM

DSQ85094

メッセージ: 条件ボックス &V1 の条件 &V2 の例示エレメント &V3 は、指定された表の列を表すものでなければなりません。

説明: メッセージに示されている例示エレメントは、照会の中で指定されたどの表の列も表していません。

ユーザーの処置: 未定義の例示エレメントに対するすべての参照を条件ボックスから取り除くか、またはその例示エレメントを定義してください。それを定義するためには、その例示エレメントが表す列の中に、その例示エレメントの名前だけを (QBE 演算子の場合を除く) 入れます。

例: 以下の照会で、Q.STAFF の SALARY 列に _S を追加することは、S をその列を表すものとして定義し、それを条件ボックスで使用できるようにするという事です。

Q.STAFF	NAME	SALARY	COMM
P.		A0._S	_C

CONDITIONS
_S _C > 20000

DSQ85098

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ85099, DSQ85100

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ85103

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ85104

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ85105, DSQ85106

メッセージ: DSQ85034 を参照してください。

DSQ85114

メッセージ: 例示表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 に P. 演算子が指定されていますが、名前がありません。

説明: データを検索したい列の名前を指定しなければなりません。

ユーザーの処置: P. を除去するか、または、その列に名前を指定しなければなりません。列に名前を指定する場合には、それが例示表を定義している列の名前であることを確認してください。

DSQ85115, DSQ85116

メッセージ: 例示表 &V1 の中の P. 演算子を含む行はすべて、同じ列からデータを検索するものでなければなりません。

説明: 照会の中に、P. 演算子を含む行が 2 行以上あります。このような行の 1 つで検索されている個々の列は、ほかのすべての行でも検索されていなければなりません。

次に無効な照会の例を示します。

Q.STAFF | NAME | SALARY | COMM |

692 QMF: QMF メッセージおよびコード

```
-----+-----+-----+
| P. | P.>20000 | P.>1200 |
| P. |          |        |
```

この照会は無効です。なぜなら、1 行目は SALARY の列からデータを検索しているのに 2 行目はそうではなく、また、2 行目は COMM の列からデータを検索しているのに 1 行目はそうでないからです。

ユーザーの処置: P. 演算子を含む行がすべて同じ列 (複数も可) から検索を行うように、P. 演算子を配置してください。

DSQ85130

メッセージ: 例示表 &V1 には表名がありません。表名を付けるか、またはこの表の列名を除去してください。

説明: 名前のない例示表 (ターゲット表) は、名前の付いた列を含むことはできません。

ユーザーの処置: この例示表を目標表にするつもりであれば、列名を除去してください。そうでない場合には、例示表に、その例示表が表す表の名前を指定してください。

DSQ85131

メッセージ: 目標表 &V1 の行 &V2 には、P. 演算子が必要です。

説明: メッセージに示されている行には、少なくとも 1 個は列項目が含まれています。目標表では、このような行はデータの検索を行うために使用されるものです。したがって P. 演算子が含まれていなければなりません。

ユーザーの処置: この行の行演算子域に P. を指定してください。または、項目のあるすべての列に、P. 演算子を入力してください。

DSQ85132

メッセージ: 目標表 &V1 の行 &V2 に、P. 演算子しか含まれていません。

説明: 目標表 &V1 の行 &V2 の P. は、データの検索を指示するものです。しかし、何を検索するのが指定されていません。

ユーザーの処置: 行 &V1 の各列に項目を入れて、各列に必要な処理を示してください。次に例を示します。

Q.STAFF	NAME	SALARY	COMM
	_N	_S	_C
P.	_N	_S+_C	

この例では、目標表の項目は _N および _S+_C です。照会を実行すると、従業員名 (_N) と、各従業員の 1 か月分の総収入 (_S+_C) がリストされます。

DSQ85133

メッセージ: 目標表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 には、項目はありますが P. 演算子がありません。

説明: 目標表の各列項目は、検索すべきデータを指定しています。データの検索は、P. 演算子によって指示しなければなりません。

ユーザーの処置: 行 &V2 に P. 演算子を入れてください。P. 演算子は、行演算子域または列 &V3. に指定します。

DSQ85134

メッセージ: 例示表 &V1 の中の P. 演算子を含む行はすべて、同じ列からデータを検索するものでなければなりません。

説明: 照会の中に、P. 演算子を含む行が 2 行以上あります。このような行の 1 つで検索されている個々の列は、ほかのすべての行でも検索されていなければなりません。

次に無効な照会の例を示します。

Q.STAFF	NAME	SALARY	COMM

P.	P.>20000	P.>1200
P.		

この照会は無効です。なぜなら、1 行目は SALARY の列からデータを検索しているのに 2 行目はそうではなく、また、2 行目は COMM の列からデータを検索しているのに 1 行目はそうでないからです。

ユーザーの処置: P. 演算子を含む行がすべて同じ列 (複数も可) から検索を行うように、P. 演算子を配置してください。

DSQ85135

メッセージ: 目標表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 に、P. 演算子がありますが、なにを検索するのが示されていません。

説明: 目標表の列に P. 演算子が入っている場合には、検索目標も同時に示されていなければなりません。

ユーザーの処置: 列から P. を除去するか、または検索したいものの指示を追加してください。検索できるものは、定数 ('J. JONES' など)、例示エレメント (_S など)、または式 (_S _C など) のいずれかです。

DSQ85136

メッセージ: 例示表 &V1 の中の P. 演算子を含む行はすべて、同じ列からデータを検索するものでなければなりません。

説明: 照会の中に、P. 演算子を含む行が 2 行以上あります。このような行の 1 つで検索されている個々の列は、ほかのすべての行でも検索されていなければなりません。

次に無効な照会の例を示します。

Q.STAFF	NAME	SALARY	COMM
P.		P.>20000	
P.			P.>1200

この照会は無効です。なぜなら、1 行目は SALARY の列からデータを検索しているのに 2 行目はそうではなく、また、2 行目は COMM の列からデータを検索しているのに 1 行目はそうでないからです。

ユーザーの処置: P. 演算子を含む行がすべて同じ列 (複数も可) から検索を行うように、P. 演算子を配置してください。

DSQ85150

メッセージ: 例示表 &V1 の列 &V2 内の AO. または DO. は、データの検索先となる列に指定する必要があります。

説明: データのソートは、検索されたデータに基づいてだけ行うことができます。そして、データを検索するためには、P. 演算子を使用しなければなりません。

ユーザーの処置: AO. か DO. を取り除くか、AO. または DO. が指定されているのと同じ列に P. を入力してください。

DSQ85151

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ85152

メッセージ: 行 &V1. の列 &V2 の AO. または DO. のあとにソートの優先順位が必要です。

説明: QBE 照会に 2 つ以上の AO. または DO. が存在する場合、それぞれの AO. および DO. のあとに数値が必要です。この数値が、ソートの優先順位となります。たとえば、次のようになります。

Q.STAFF	NAME	DEPT	SALARY
P.	AO(2).	AO(1).	

DEPT でソートされ、各 DEPT 内では NAME によってソートされます。

ユーザーの処置: 照会でのそれぞれの AO. また

は DO. のあとに数値を挿入してください。

DSQ85153

メッセージ: 2 つの AO. または DO. 演算子の中に同じソート優先順位があってはなりません。

説明: ソート演算子の中の数値が、そのソート優先順位を表します。たとえば、次のようになります。

Q.STAFF	NAME	DEPT	SALARY
P.	AO(2).	AO(1).	

DEPT でソートされ、各 DEPT 内では NAME によってソートされます。

ユーザーの処置: 重複したソート優先順位を取り除いてください。

DSQ85155

メッセージ: DXEECP ベース値がエコー機能を要求しました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ85156

メッセージ: 機能を実行するためにはエコー・ベースを表示する必要があります。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ85157

メッセージ: DSQ85155 を参照してください。

DSQ85158

メッセージ: エコー・ベースが表示されていません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ85159

メッセージ: エコー行トークンまたは ID が見つかりませんでした。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ85160, DSQ85161

メッセージ: DSQ85156 を参照してください。

DSQ85162

メッセージ: DSQ85159 を参照してください。

DSQ85163

メッセージ: DXEECP ベース値がエコー機能を要求しました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ85164

メッセージ: DSQ85156 を参照してください。

DSQ85165

メッセージ: エコー照会機能の値が提供されていません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペ

レーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ85166

メッセージ: エコー行 ID、トークン、または行番号のいずれかが必要です。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ85167

メッセージ: エコーの調整に無効な行番号が使われました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ85168

メッセージ: エコー行トークンまたは ID が見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ85169

メッセージ: エコー行 ID、トークン、または行番号のいずれかが必要です。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ85170, DSQ85171

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ85172

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ85180, DSQ85181

メッセージ: FP 機能のシステム問題です。
FPCODE = &1。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ85189 - DSQ85200

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ85201

メッセージ: 無効な機能コード '&1' がモジュールに渡されました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ85202

メッセージ: 部分照会のアクセスはできません。

説明: 照会が部分照会だったため、コマンドは実行されませんでした。部分照会は、確認域にアクティブ省略符号 ">..." があり、更新中です。

ユーザーの処置: 照会の更新を終了してください。

DSQ85203

メッセージ: 変数を置換した結果、式の長さが &01. 文字を超えます。

説明: 照会には、変数のある式が含まれます。これらの変数が値に置換されると、式の結果は、許容される最大文字数 &01 文字を超えます。

ユーザーの処置: 式からデータを削除して、式を許可された最大文字数以内にしてください。

DSQ85210

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ85211

メッセージ: 列情報は検索されませんでした。

説明: 記述キーを使って、データベースから情報が検索できない列に関しての情報を検索しました。これは、列情報を見る権限を持たないか、この情報の検索に使用される視点の名前を含んでいるグローバル変数が正しく設定されていなかったことを意味します。

ユーザーの処置: QMF 管理者 に連絡してください。

DSQ85212 - DSQ85214

メッセージ: RPT: &1 から予期されていない戻りコードです。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ85220

メッセージ: 無効な機能コード '&1' がモジュールに渡されました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ85221

メッセージ: パネル処理エラー : パネル=&1、コード=&2。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ85222

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ85223

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ85225

メッセージ: 照会にはソート可能な列または式がありません。

説明: SORT を指定しましたが、照会にはソートに使用できる列または式がありません。

ユーザーの処置: ソートの基準を指定する前に、COLUMNS に 1 つ以上の列または式 (定数ではないもの) を指定してください。

DSQ85226

メッセージ: 指示照会に表がありません。

説明: 指示照会に表が含まれていないとき、COLUMNS、ROWS、または DUPLICATE ROWS を指定できません。

ユーザーの処置: 照会の別の部分を指定する前に、指示照会に表を指定してください。

DSQ85227

メッセージ: リスト探索基準に一致する表がありません。

説明: 指定した表リスト探索基準ストリングに一致する表がありません。

ユーザーの処置: 探索基準を修正してください。文字 "%" と "_" を「共通文字」(無指定)として使用できます。使用許可されているすべての表のリストを使用したい場合、カーソルを含む入力フィールドが空であることを確認してください。

DSQ85228, DSQ85229

メッセージ: 要求リストに項目がありません。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ85234

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ85235

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ85236 - DSQ85238

メッセージ: 式の長さは 01 文字を超えます。

説明: 式は、処理されると許容される最大文字数 01 を超える、修飾されていない列名を持っている可能性があります。

ユーザーの処置: 式が許可された最大文字数以下になるまで、式からデータを削除してください。

DSQ85239

メッセージ: DSQ84488 を参照してください。

DSQ85240

メッセージ: 無効な機能コード '&1' がモジュールに渡されました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ85241

メッセージ: リストから選択項目を選択するか、または式を選択してください。

説明: リストから項目を選択しさらに式を選択したか、またはどちらも選択していません。

ユーザーの処置: 1 つだけ選択し、ENTER キーを押してください。

DSQ85242

メッセージ: DSQ84476 を参照してください。

DSQ85243

メッセージ: DSQ84477 を参照してください。

DSQ85244

メッセージ: DSQ84478 を参照してください。

DSQ85245

メッセージ: DSQ84479 を参照してください。

DSQ85246

メッセージ: 選択した表は結合できません。

説明: 両方の表リスト内で同じ表を選択していません。照会の場合、表はそれ自体で正常には結合しません。

実際に表自体で結合させたい場合は、表パネル上に 2 つ以上同じ表名を指定してください。それで表名は、結合表パネルの表リストに 2 つ以上示され、いろいろ異なる表の結合を選べます。

ユーザーの処置: 結合表パネルのリストの中から異なる表を選択するか、または表パネルに戻って上記のように、2 つ以上同じ表を指定してください。

DSQ85247

メッセージ: DSQ85241 を参照してください。

DSQ85248

メッセージ: DSQ84486 を参照してください。

DSQ85249 - DSQ85252

メッセージ: DSQ85241 を参照してください。

DSQ85253

メッセージ: DSQ85226 を参照してください。

DSQ85254

メッセージ: 選択した列には互換性のあるデータ・タイプがありません。

説明: データ・タイプの互換性がない列を使用して 2 つの表を結合しようとしています。たとえば、数字列と数字でない列を使って結合しようとしています。

ユーザーの処置: 互換性のある 2 つの列を選択して、ENTER キーを押してください。列のデータ・タイプを調べるには、列名にカーソルを移動して、記述キーを押してください。

DSQ85255

メッセージ: 選択した項目は入力フィールドに収まりません。

説明: 選択した項目は、その項目が移動される入力フィールドの残りのスペースに収まりません。たとえば、「式」パネルに入力する列名を選択しましたが、その列名が入力される入力フィールドには十分な余裕がありません。

ユーザーの処置: 選択した項目が収まるように、入力フィールドの内容を圧縮するか、短い項目を選択してください。

DSQ85256, DSQ85257

メッセージ: 各リストから項目を選択してください。

説明: リストから 1 つだけ選択したか、なにも選択しなかったか、どちらかです。このパネルでは各リストにこの選択が必要です。

ユーザーの処置: パネルの各リストから選択を行ってください。ENTER キーを押してください。

DSQ85258

メッセージ: DSQ84481 を参照してください。

DSQ85259

メッセージ: このパネルでは、表名にだけ記述が使用できます。

説明: カーソルが表名を含まない行に位置してい

るときに、記述キーを使用しました。このパネルでは、カーソルが表名を含む行に位置している時
にだけ、記述キーが使用できます。

ユーザーの処置: カーソルを表名のある行に移動してから、記述キーを使用して、その表に関する情報を検索してください。

DSQ85260

メッセージ: このパネルでは列名にだけ記述が使用できます。

説明: カーソルが列名を含まない行に位置しているときに、記述キーを使用しました。このパネルでは、カーソルが列名を含む行に位置している時にだけ記述キーが使用できます。

ユーザーの処置: カーソルを列名のある行に移動してから、記述キーを使用して、その列に関する情報を検索してください。

DSQ85261

メッセージ: DSQ84475 を参照してください。

DSQ85262

メッセージ: DSQ84480 を参照してください。

DSQ85263

メッセージ: 各入力フィールドに値をタイプしなければなりません。

説明: 片方の入力フィールドには値を入力しましたが他方には入力していません。

ユーザーの処置: 両方の入力フィールドに値をタイプした後、ENTER キーを押してください。

DSQ85264

メッセージ: DSQ84480 を参照してください。

DSQ85266

メッセージ: &V2 で始まる変数の長さが、18 文字を超えています。

説明: 変数名は 18 文字以下でなければなりません。

ユーザーの処置: より短い変数名を選択してください。

DSQ85267

メッセージ: 合計機能の中で合計機能を使うことはできません。

説明: 他の合計機能の中で合計機能 (SUM、AVG、MIN、MAX、または COUNT) を指定しようとした。これは指示照会では許されません。

ユーザーの処置: 内部の合計機能を削除するように照会を変更してください。

DSQ85268, DSQ85269

メッセージ: 合計機能は行条件には使用できません。

説明: 行条件のなかで合計機能 (SUM、AVG、MIN、MAX、または COUNT) を指定しようとした。これは指示照会では許されません。

ユーザーの処置: 行条件から合計機能を取り除くか、または WHERE 文節で合計機能が使用できる SQL 照会に指示照会を変換してください。

DSQ85270

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ85271

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ85272

メッセージ: データが最大長を超えています。引用符を検査してください。

説明: 文字定数は引用符で囲まなければなりません。引用符で囲むことを省略すると、データは最大長 &LE を超えてしまいます。

ユーザーの処置: データを訂正し、照会を再実行してください。

DSQ85273

メッセージ: 式が長すぎます。

説明: 文字位置の最大許容数は、255 です。特別な DBCS 識別文字をタイプしすぎた、または単一引用符 (式を処理する時に 2 個になります) を多く使用したために、式が長くなりすぎました。

ユーザーの処置: 式からデータを削除して、文字位置の最大許容数の範囲内に納めてください。

DSQ85274 - DSQ85278

メッセージ: DSQ85236 を参照してください。

DSQ85280

メッセージ: 無効な機能コード '&1' がモジュールに渡されました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ85281

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ85282

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ85283

メッセージ: 無効なタイプのコード : &1。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ85288

メッセージ: 無効なリストの項目索引 : &1。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ85289, DSQ85290

メッセージ: 無効な記憶域プール ID : &1。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ85291

メッセージ: 無効なリストの項目索引 : &1。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ85300

メッセージ: 無効な機能コード '&1' がモジュールに渡されました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ85301

メッセージ: ターゲット域の長さがソース・エリアの長さの倍ではありません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ85302

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ85305

メッセージ: 指示照会の管理プログラム・エラー
- 予期しない入力。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ85306

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ85307

メッセージ: 照会が空であるか、またはコメントしか入っていません。

説明: 空の照会またはコメントだけを含む照会には、処置を指示する命令が入っていないため、実行することはできません。

照会が指示照会の場合、SQL へ変換することはできません。また、“SHOW SQL” コマンドを使用しても、同等の SQL 文は表示されません。

ユーザーの処置: 別の照会を作成してください。

DSQ85308

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ85309 - DSQ85321

メッセージ: 指示照会の管理プログラム・エラー
- 予期しない入力。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ85322

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ85323

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ85325

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ85326 - DSQ85330

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ85335

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ85336

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ85345

メッセージ: 指示照会の管理プログラム・エラー
- 予期しない入力。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ85346

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ85347 - DSQ85350

メッセージ: 指示照会の管理プログラム・エラー
- 予期しない入力。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ85351

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ85352

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ85353, DSQ85354

メッセージ: 指示照会の管理プログラム・エラー
- 予期しない入力。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ85360

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ85361

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ85370

メッセージ: 指示照会によって生成された SQL は大きすぎます。

説明: QMF はユーザーの指示照会と同値の SQL 照会を生成します。SQL 生成は、生成された SQL の長さがデータベースが処理可能なものより大きくなったため失敗しました。

ユーザーの処置: 照会文は複数の小さな照会文に分割してください。

DSQ85371

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ85372

メッセージ: DSQ85272 を参照してください。

DSQ85380 - DSQ85384

メッセージ: 指示照会の管理プログラム・エラー
- 予期しない入力。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ85385

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ85386 - DSQ85390

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ85391

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ85400

メッセージ: 列 &V1 が複数の表にあります。

説明: 列名 &V1 は、2 つ以上のリストされた表に存在します。対応する表に列が合うように列名を修飾してください。例を次に示します。

PERS.DEPT は、表 PERS の "DEPT" という名前の列である。
Q.STAFF.DEPT は、表 Q.STAFF の "DEPT" という名前の列である。

ユーザーの処置: 列名の &V1 を修飾してください。

DSQ85401

メッセージ: &V1 で始まる式が不完全です。

説明: おそらく、この式は置換変数で作成されており、区切り文字が欠落しています。対応する表に列が合うように列名を修飾してください。例を次に示します。

SUM(SALARY は、右括弧が欠落している。
Q.STAFF. は、列修飾子が欠落している。

ユーザーの処置: 欠落している区切り文字を付け加えてください。

DSQ85402

メッセージ: &V1 で始まる列名が無効です。

説明: この列名が照会の表のどの有効な列名とも一致しません。表、または位置の修飾子が指定さ

れている場合、それらにエラーがある可能性があります。

ユーザーの処置: 列名を訂正してください。

DSQ85410 - DSQ85412

メッセージ: 指示照会の管理プログラム・エラー - 予期しない入力。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ85413 - DSQ85420

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ85421 - DSQ85425

メッセージ: 指示照会の管理プログラム・エラー - 予期しない入力。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ85430

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ85431

メッセージ: 「列」の ALL キーワードは削除できません。

説明: 選択された表（1 つまたは複数）からのすべての列を選択するように指定しているデフォルトの ALL キーワードを削除しようとしています。この項目は削除できません。照会で任意の列を選択すると、ALL キーワードは削除されます。

ユーザーの処置: カーソルを DELETE に有効な位置に移動してください。列をユーザーの照会用に選択したい場合は、SPECIFY コマンドを入力しパネルから COLUMNS を選択してください。

DSQ85432

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ85433

メッセージ: 指示照会の管理プログラム・エラー - 予期しない入力。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ85440

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ85441

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ85450

メッセージ: DSQ84388 を参照してください。

DSQ85451

メッセージ: DSQ84387 を参照してください。

DSQ85452

メッセージ: カーソルが &V1. の位置にありません。

説明: 照会の一部を変更する場合は、カーソルを列の明細行、行条件、ソート条件、または重複行情報に位置付けなければなりません。

ユーザーの処置: カーソルを変更したい行に移動して「変更」の機能キー（利用可能な場合）を押すかまたはコマンド行に CHANGE とタイプして、カーソルを適切な行に移動して ENTER キーを押してください。

DSQ85455

メッセージ: OK、&1 は実行されました。処理を続けてください。

DSQ85456

メッセージ: ここにはこれ以上行を挿入できません。

説明: 行を挿入しようとしている区域には、許容最大行数 (&V1.) がすでに含まれています。

ユーザーの処置: 必要でない行を削除してください。

DSQ85457

メッセージ: DSQ84388 を参照してください。

DSQ85458

メッセージ: 指示照会には表が 1 つしかないため削除できません。

説明: 指示照会に 1 つしかない表を削除しようとしています。削除すると照会が完全に空になるため、削除できません。空の照会は、RESET コマンドによって作成できます。

ユーザーの処置: カーソルを DELETE の有効な位置に移動し、DELETE コマンドをふたたび出してください。照会からこの表を削除したい場合は、コマンド RESET QUERY (LANGUAGE=PROMPTED) を出します。

DSQ85459

メッセージ: 指示照会では表名の変更はできません。

説明: 指示照会で表名の変更をしようとしています。表名の変更はできません。

ユーザーの処置: 「変更」が可能な位置にカーソルを移動してください。この表名をほかのもので置き換える場合は、DELETE および INSERT コマンドを使って照会からこの表を除去し、別の表を追加してください。

DSQ85460

メッセージ: 指示照会では結合条件の変更はできません。

説明: 指示照会で結合条件の変更をしようとしています。結合条件の変更はできません。

ユーザーの処置: 「変更」が可能な位置にカーソルを移動してください。この結合条件を別のものに置き換える場合は、DELETE コマンドを使って結合条件を全部除去してください (全部が削除されることに注意してください)。その後、新しい結合条件を指定するためのパネルが表示されます。

DSQ85461

メッセージ: 列の ALL キーワードは変更できません。

説明: 表のすべての列を選択することを指定するデフォルトの ALL キーワードを変更しようとした。この入力の変更はできません。照会で任意の列を選択すると、ALL キーワードは削除されます。

ユーザーの処置: 「変更」が可能な位置にカーソルを移動してください。列をユーザーの照会用に選択したい場合は、SPECIFY コマンドを入力しパネルから COLUMNS を選択してください。

DSQ85462

メッセージ: この列の選択は長すぎて変更できません。

説明: 指示照会で、65 文字以上の列の選択を変更しようとしています。この選択は QMF の外部で作成されており、その式が「列の変更」ウィンドウに合わないため、QMF 内では変更できません。

ユーザーの処置: 「変更」が可能な位置にカーソルを移動してください。この列選択を変更したい場合、照会をエクスポートし、編集プログラムを使って照会を修正し、修正された照会をインポートしてください。

DSQ85463

メッセージ: この行条件には、長すぎて変更できない式が含まれています。

説明: 指示照会で左辺が 65 文字以上の長さの式か、右辺が 45 文字以上の長さの式のどちらかが含まれる行条件を変更しようとしています。この行条件は QMF の外部で作成されており、ウィンドウに表示するには長すぎる式なので QMF 内では変更できません。

ユーザーの処置: 「変更」が可能な位置にカーソルを移動してください。この行条件を変更したい場合、照会をエクスポートし、編集プログラムを使って照会を修正し、修正された照会をインポートしてください。

DSQ85465

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ85490

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ85491

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ85500

メッセージ: DSQ85266 を参照してください。

DSQ85501

メッセージ: 検索された照会のレコード &V1 に予期しない T レコードがあります。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。検索された照会のレコード &V1 に予期しない T レコードが存在しています。TABLE T レコードが最初の T レコードで (H レコードの後で)、JOIN T レコードが 2 番目です。残りの T レコードはどのような順序でもかまいません。

ユーザーの処置: 照会を作成または修正するアプ

リケーションを作成している場合、T レコードの順序を修正してください。指示照会の外部形式の詳細については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ85502

メッセージ: 結合条件の両側に同じ表が指定されています。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 では結合条件の両側に同じ表が指定されています。照会は 1 表だけでは結合できません。自分自身へ表を結合する必要があるときは、検索する照会の表定義表に 2 回以上表を指定することで可能になります。その後、結合する表を 2 回指定ができます。

ユーザーの処置: 照会を作成または修正するアプリケーションを作成する場合は、結合条件が照会で指定された 2 つ表を結合するように訂正してください。指示照会の結合条件の詳細については「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ85503

メッセージ: 結合条件で列名を使っていません。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の結合条件では、結合条件の部分に使う式またはリテラル定数を指定しています。結合条件の両側は照会で指定した 2 つの表の列名でなければなりません。

ユーザーの処置: 照会を作成または修正するアプリケーションを作成する場合は、結合条件が、照会で指定した 2 つの表の 2 つの列を参照するように訂正してください。検索された指示照会の結合条件の詳細については「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ85504

メッセージ: 結合条件で指定した表は、すでに結合されています。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の結合条件で、前の結合条件によりすでに結合されている 2 つの表を指定しています。

ユーザーの処置: 照会を作成または変更するアプリケーションを開発している場合は、結合条件を、すでに結合されている 1 つの表と現在結合されていない 1 つの表を参照するように訂正してください。検索された指示照会の結合条件の詳細については「*DB2 QMF アプリケーション開発の手引き*」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ85505

メッセージ: 検索する指示照会の右側の式が多過ぎます。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。照会の 1 つの行条件の右側の式が &V2 を超えています。エラーはレコード &V1. にあります。

ユーザーの処置: 照会を作成または修正するアプリケーションを作成する場合には、各行条件の行条件 R レコードの右側の指定数を超えないようにしてください。指示照会の外部形式の詳細については、「*DB2 QMF アプリケーション開発の手引き*」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ85506 - DSQ85508

メッセージ: 検索された照会の条件結合子が無効です。

説明: レコード &V1 の位置 &V2 の条件結合子の値が無効です。最初の行条件では条件結合子の値は以下のとおりでなければなりません。

I - If

その後の行条件結合の値は以下の 1 つでなければなりません。

A - And
O - Or

ユーザーの処置: 照会を作成または修正するアプリケーションを作成している場合、示された位置の条件結合子の値を修正してください。指示照会の外部形式の詳細については、「*DB2 QMF アプリケーション開発の手引き*」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ85509

メッセージ: 照会する列セクションでソート列が選択されていません。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の結合条件で、照会の列セクションで選択されていない式または列名を指定しています。ソート式として使う場合、式は列セクションで選択しなければなりません。

ユーザーの処置: 照会を作成または修正するアプリケーションを作成する場合には、結合条件が、照会の列セクションらかの列名または式と合致させるか、列セクションにソート式を追加するかしなければなりません。詳細については、「*DB2 QMF アプリケーション開発の手引き*」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ85510

メッセージ: DSQ85501 を参照してください。

DSQ85511

メッセージ: 検索された照会の表の数が多すぎます。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。指示照会は最大 &V2 までの表を含むことができます。検索しようとした照会はそれ以上の

表を含んでいます。問題は照会のレコード &V1 で見つかりました。

ユーザーの処置: 照会を作成または修正するアプリケーションを作成している場合、照会のなかの表の数を減らしてください。指示照会の外部形式の詳細については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ85512

メッセージ: 検索された照会の相関変数が無効です。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の位置 &V2 に相関変数があるはずでしたが無効な値が検出されました。次のグループに属している 1 文字は、すべて有効です。

大文字 A - Z
特殊文字 # \$ @

ユーザーの処置: 照会を作成または修正するアプリケーションを作成している場合、上にリストされているものに相関変数を修正してください。検索された照会のフィールド値の詳細については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ85513

メッセージ: 表 &V3 は存在しません。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の位置 &V2 に指定された表 &V3 が存在しません。この名前はスペルを誤ったと思われます。

ユーザーの処置: 照会の示された場所の表名を検査してください。表名が正しい場合は、表名が不注意に削除されていないか検査してください。

DSQ85514

メッセージ: 表 &V3 の使用許可がありません。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1. の位置 &V2 に指定された表 &V3 の使用許可がありません。

ユーザーの処置: 表の使用許可を所有者から入手するか、検索する照会に別の表を指定してください。

DSQ85515

メッセージ: レコード &V1. の位置 &V2 に無効なフィールド番号 &V3 があります。

説明: レコード &V1. で有効なフィールド番号が指定されていない書式または指示照会をインポートしようとしています。無効なフィールド番号 &V3 は、V レコードの位置 &V2 に入っています。フィールド番号は 4 桁の数字でなければなりません。ブランクは指定できません。V レコード内の後続のデータ値は無視されます。

ユーザーの処置: 書式の修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合には、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して有効なフィールド番号の全リストを調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、その後の進め方についての援助を受けてください。

DSQ85516

メッセージ: 検索された照会の重複後処理が無効です。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の位置 &V2 の値は、照会結果の重複行の後処理を示していなければなりません。有効な値は次のとおりです。

K - 重複行を保持する。
D - 各行の単一コピーを保持する。

ユーザーの処置: 照会を作成または修正するアプリケーションを作成している場合、上のリスト内

の値で、示された位置の値を置き換えてください。指示照会の外部形式の詳細については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ85517

メッセージ: レコード &V1. の位置 &V2 に無効な表番号 &V3 があります。

説明: T レコード &V1. で有効な表番号が指定されていない書式または指示照会を検索しようとしています。無効な表番号 &V3 は、レコード内の位置 &V2 です。表番号は 4 桁の数字でなければなりません。ブランクは指定できません。この T レコードの後の R レコードのすべてのデータ値は無視されます。

ユーザーの処置: 書式または指示照会の、修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合には、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して有効な表番号の全リストを調べてください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、その後の進め方についての援助を受けてください。

DSQ85518

メッセージ: 検索された照会の列タイプ値が無効です。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の位置 &V2 の値は、R レコードの列項目のタイプを示していなければなりません。有効な値は以下のとおりです。

- C - 列
- E - 式
- S - 式を伴う合計機能
- F - 合計機能 (列名のみ)

ユーザーの処置: 照会を作成または修正するアプリケーションを作成している場合、上のリスト内の値で、示された位置の値を置き換えてください。指示照会の外部形式の詳細については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」

を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ85519

メッセージ: 検索された照会の行条件タイプ値が無効です。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の位置 &V2 の値は、タイプ &V3 行の条件項目を示す &V3 ではありませんでした。有効なタイプは次のとおりです。

- 1 - 演算子の左方
- 2 - 演算子
- 3 - 演算子の右方
- 4 - 結合子

ユーザーの処置: 照会を作成または修正するアプリケーションを作成している場合、項目タイプ値を修正してください。検索された指示照会の行条件フィールドの詳細については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ85520

メッセージ: 検索された照会の行条件タイプ値が無効です。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の位置 &V2 の値は、行条件の演算子の左側のタイプを示していなければなりません。有効な値は以下のとおりです。

- C - 列
- E - 式

ユーザーの処置: 照会を作成または修正するアプリケーションを作成している場合、上のリスト内の値で、示された位置の値を置き換えてください。指示照会の外部形式の詳細については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ85521

メッセージ: DSQ85519 を参照してください。

DSQ85522

メッセージ: 検索された照会の行条件動詞が無効です。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の位置 &V2 の値は、行条件動詞でなければなりません。有効な値は次のとおりです。

IS
ISN (Is Not の短縮形)

ユーザーの処置: 照会を作成または修正するアプリケーションを作成している場合、上のリスト内の値で、示された位置の値を置き換えてください。指示照会の外部形式の詳細については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ85523

メッセージ: 検索された照会の行条件演算子が無効です。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の位置 &V2 の値は、行条件演算子でなければなりません。「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」に、このフィールドに対する有効な選択がリストされています。

ユーザーの処置: 照会を作成または修正するアプリケーションを作成している場合、有効な行条件演算子コードで、示された位置の値を置き換えてください。指示照会の外部形式の詳細については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ85524, DSQ85525

メッセージ: DSQ85519 を参照してください。

DSQ85526

メッセージ: DSQ85506 を参照してください。

DSQ85527

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ85529

メッセージ: 検索した照会に重複する相関変数があります。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。指示照会での各表の相関変数は固有でなければなりません。レコード &V1 の位置 &V2 に相関変数 &V3 があります。これが列の表の相関変数と同じです。

ユーザーの処置: 照会を作成または修正するアプリケーションを作成する場合には、示された表に固有の相関変数を割り当ててください。検索された指示照会の詳細については「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ85530

メッセージ: インポートされた照会のソート順序の値が無効です。

説明: インポートしている指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の位置 &V2 の値は、ソート順序の値でなければなりません。有効な値は以下のとおりです。

A - 昇順
D - 降順

ユーザーの処置: 照会を作成または修正するアプリケーションを作成している場合、上のリスト内の値で、示された位置の値を置き換えてください。インポートされた指示照会の形式の詳細については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ85531

メッセージ: インポートした照会に含まれる結合条件が多すぎます。

説明: インポートしている指示照会にエラーがあります。インポートしようとした照会に、この照会で使用できる最大 &V2 以上の結合条件が含まれます。条件の最大数は照会の中の表の数より 1 つ以上少なくなければなりません。問題は照会のレコード &V1 で見つかりました。

ユーザーの処置: 照会を作成または修正するアプリケーションを作成している場合、照会結合条件の数を減らしてください。インポートされた指示照会の形式の詳細については、「*DB2 QMF アプリケーション開発の手引き*」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ85532

メッセージ: 検索した照会の比較演算子が誤りです。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の位置 &V2 の比較演算子は、条件の左側とともに使用することはできません。たとえば、比較演算子がストリング機能なのに、条件の左側が数値の場合が考えられます。

ユーザーの処置: 照会を作成または修正するアプリケーションを作成する場合には、条件の左側とともに使用できる比較演算子を使用してください。詳細については、「*DB2 QMF アプリケーション開発の手引き*」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ85533

メッセージ: DSQ85516 を参照してください。

DSQ85536

メッセージ: DSQ85519 を参照してください。

DSQ85537

メッセージ: 検索された指示照会のレコード &V1 にエラーがあります。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。問題はレコード &V1. で見つかりました。

&V2

ユーザーの処置: 照会を作成または修正するアプリケーションを作成している場合、エラーを修正するための詳細は、「*DB2 QMF アプリケーション開発の手引き*」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ85538, DSQ85539

メッセージ: 検索する照会での合計機能の用法が無効です。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の位置 &V2 の式に合計機能 (たとえば、SUM、AVG、MIN、MAX、または COUNT) がありますが、このレコードは行条件の一部分で、合計機能は指示照会の行条件では使えません。

ユーザーの処置: 照会を作成または修正するアプリケーションを作成する場合には、この合計機能を除去するか、指示照会ではなく SQL 照会を使います (SQL 照会では WHERE 文節に合計機能を使うことができます)。指示照会の外部形式の詳細については、「*DB2 QMF アプリケーション開発の手引き*」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ85540

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ85545 - DSQ85547

メッセージ: 検索する照会に照会セクションが複数回現われます。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。表フィールド番号 &V2 をもつ T レコード (またはそのフィールド番号をもつ V レコード) が、検索する照会に複数個あります。すなわち同一の照会セクションを記述する 2 つの T (または V) レコードがあります。重複はレコード &V1. にあります。

ユーザーの処置: 照会を作成または修正するアプリケーションを作成する場合には、重複している照会セクションの一方を除去してください。指示照会の外部形式の詳細については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ85548 - DSQ85553

メッセージ: DSQ85537 を参照してください。

DSQ85554 - DSQ85558

メッセージ: 検索された照会の中で表のデータが欠落しています。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 で始まる照会のセクションは照会のエレメントを含んでいますが、照会には表が含まれていません。検索する照会の表セクションにどの表もリストされていない場合は、それ以降のセクションの照会エレメントをリストできません。

ユーザーの処置: 照会を作成または修正するアプリケーションを開発中の場合は、照会の表セクションに少なくとも 1 つの表を追加してください。指示照会の外部形式の詳細については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ85559 - DSQ85563

メッセージ: レコード &01. の式は実行される時に &02. 文字を超えます。

説明: 検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &01. の式は、修飾されていない列名を持っている場合があり、この列名が修飾されると使用可能な最大 &02. 文字を超える原因となります。

ユーザーの処置: 照会を作成または修正するアプリケーションを作成している場合は、列名が完全に修飾された後も式の長さが &02. 文字を超えないことを確認してください。指示照会の外部形式の詳細については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡し、援助を受けてください。

DSQ85570

メッセージ: 照会には &V1 を超える表は指定できません。

説明: 作成している照会で許容最大個数を超える表が入力されました。

ユーザーの処置: 合計が &V1. を超えないように選択する表の数を減らし、ENTER キーを押してください。

DSQ85571

メッセージ: DSQ84475 を参照してください。

DSQ85572

メッセージ: DSQ84480 を参照してください。

DSQ85574

メッセージ: &V1.&V2.&V3.&V4.&V5 は存在しません。

説明: 指定した表は存在しません。間違っって入力した可能性があります。LIST 機能を使用することで、照会を含むことができる表の名前のリストを出力できます。

ユーザーの処置: 表名のスペルを検査してください。表名を正しく入力するか、または表名のリス

トから選択してください。

DSQ85575

メッセージ: &V1.&V2.&V3.&V4.&V5. の使用権限がありません。

説明: メッセージに表示されている表を照会の中で指定しましたが表のアクセス許可がありません。

ユーザーの処置: その表の所有者から表の使用許可を得るか、またはほかの表を指定してください。

DSQ85580

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ85581

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ85600

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ85601

メッセージ: 無効な機能コード '&1' がモジュールに渡されました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ85602

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ85620

メッセージ: 無効な機能コード '&1' がモジュールに渡されました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ85621

メッセージ: パネル処理エラー : パネル=&1、コード=&2。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ85622

メッセージ: 記憶域のスペースが足りません。

説明: コンピューター記憶域のスペースが足りないために、コマンドを実行することができません。予約されているスペース (ISPSTART コマンドのパラメーター R) が大きすぎるようです。

ユーザーの処置: QMF 管理者に記憶域スペースの増量を依頼してください。QMF によってこの問題を訂正することはできません。

DSQ85623

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ85640

メッセージ: 無効な機能コード '&1' がモジュールに渡されました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ85642

メッセージ: 以前に入力がありません。

説明: 保管されたデータが入力されていないので、コマンドの実行ができません。

ユーザーの処置: PREVIOUS コマンドを使用して変更された入力を検索する前に、列中にデータを入力し、適切なコマンド (ADD または SEARCH) を実行してください。

DSQ85643

メッセージ: このフィールドのデータはオーバーフローしています。

説明: DBCS 文字ストリングが入力フィールドの最後に予想されていましたが、このフィールドのデータあふれを起こすようなデータが入力されました。

ユーザーの処置: 入力フィールドの最後に DBCS 文字を入力してください。

DSQ85644

メッセージ: このフィールドのデータはオーバーフローしています。

説明: DBCS 文字ストリングの一部が重ね書きされ、このフィールドのデータのオーバーフローが起きました。

ユーザーの処置: 文字ストリングの終わりからデータを削除して、データがフィールド内に収まるようにしてください。

DSQ85645

メッセージ: 現在 REFRESH は、使用できません。

説明: 表示されたデータベースの行の内容は、行の更新が失敗したため、再表示できません。

ユーザーの処置: データの編集を継続するか、または検索モードに戻ってください。現在表示された行を再表示するには、次のようにしてください。1) 検索モード・キーを押してください。2) 前入力キーを押してください。3) 検索キーを押してください。4) 行が表示されない場合は、表示されるまで NEXT コマンドを使用してください。

DSQ85651

メッセージ: パネル処理エラー : パネル=&1、コード=&2。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ85652

メッセージ: DSQ85622 を参照してください。

DSQ85653

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ85654

メッセージ: SAVE=IMMEDIATE の場合には、CANCEL は実行できません。

説明: SAVE=IMMEDIATE が指定されていません。これは、追加、変更、および削除が、実行時にデータベース中に永続されることを意味します。したがって、CANCEL コマンドでこれらを破棄することはできません。

ユーザーの処置: CANCEL コマンドを出すことはできません。SAVE=IMMEDIATE を指定した場合は、END コマンドだけが表編集プログラム・セッションを終了するのに使用できます。

DSQ85670

メッセージ: 無効な機能コード '&1' がモジュールに渡されました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ85671

メッセージ: パネル処理エラー : パネル=&1、コード=&2。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ85672

メッセージ: &V1 が実行されました。検索条件に合う行はこれ以上ありません。

説明: 入力した検索条件に合う行はすべてアクセスされています。

ユーザーの処置: PREVIOUS コマンドの後に SEARCH コマンドを使用して行セットを再度アクセスするか、または新しい検索条件をタイプして、別の行セットを検索するかしてください。

DSQ85673

メッセージ: 検索条件に合う行が見つかりません。

説明: 入力された検索条件に合う行が見つかりません。

ユーザーの処置: 検索条件にエラーがないか検査するか、または別の検索条件をタイプしてください。

DSQ85674

メッセージ: このパネルで SHOW &V1 は使用できません

説明: SHOW &V1 は、このパネルでの有効な操作ではありません。

ユーザーの処置: このパネルで、この演算子を使用しないでください。この演算子が使用できるパネルに進んでください。

DSQ85675

メッセージ: 表示不能なデータのある列に「入力域」は使用できません。

説明: 通常、「入力域」キーは、選択した列でデータを変更するために使用します。しかし、現行の行で選択された列に、表示不可能なデータが含まれています。

ユーザーの処置: この列のデータを変更するには、SQL のようなほかの方法を使用しなければなりません。この行のほかの列のデータを変更したり、またはこの行を削除することはできます。

DSQ85676

メッセージ: 変更したい行を検索してください。

説明: 行セットの検索を行った後でなければ、行の修正はできません。

ユーザーの処置: 検索条件をタイプして特定の行セットを検索するか、全部の列をヌル標識 (&V1.) のままにして、表の全行を検索してください。

DSQ85677, DSQ85678

メッセージ: パネル処理エラー : パネル=&1、コード=&2。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ85679

メッセージ: この広い列では「入力域」は使用できません。

説明: 254 文字 (または 127 DBCS 文字) 以上の列では「入力域」キー (SHOW FIELD) 使用して、検索条件を入力することはできません。これは使用しているデータベースによって限定されます。

ユーザーの処置: 検索条件を入力する前に 254 文字 (または 127 DBCS 文字) 以下の列に移動してください。

DSQ85680

メッセージ: この表示装置では GRAPHIC 列の「入力域」は使用できません。

説明: 表示装置が 2 バイト文字セットをサポートしていない場合、GRAPHIC または VARGRAPHIC を定義されている列に対して「入力域」キーは使用できません。

ユーザーの処置: GRAPHIC タイプでない列へカーソルを移動するか、別のディスプレイ装置を使用してください。

DSQ85681

メッセージ: SHOW FIELD を使用するには、カーソルが列の上になければなりません。

説明: カーソルが列を指していません。

ユーザーの処置: 「入力域」キーを使う前に、カーソルを列の入力域に移動させてください。

DSQ85682

メッセージ: INTEGER: -2147483648 から 2147483647 で、デフォルト値はなく、ヌルは使用できません。

説明: この列は整数のデータ・タイプです。この列は -2147483648 から 2147483647 の範囲の数を入れることができます。(最大 10 桁)

この列でデフォルト値 (&V2.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できません。

この列でヌル (&V1.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されません。

DSQ85683

メッセージ: INTEGER: -2147483648 から 2147483647 で、デフォルト値はなく、ヌルは使用できます。

説明: この列は整数のデータ・タイプです。この列は -2147483648 から 2147483647 の範囲の数を入れることができます。(最大 10 桁)

この列でデフォルト値 (&V2.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できません。

この列でヌル (&V1.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されません。

DSQ85684

メッセージ: SMALL INTEGER: -32768 から 32767 で、デフォルト値はなく、ヌルは使用できません。

説明: この列は SMALLINT のデータ・タイプです。この列は -32768 から 32767 の範囲の数を入れることができます。

この列でデフォルト値 (&V2.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できません。

この列でヌル (&V1.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されません。

DSQ85685

メッセージ: SMALL INTEGER: -32768 から 32767 で、デフォルト値はなく、ヌルは使用できます。

説明: この列は SMALLINT のデータ・タイプです。この列は -32768 から 32767 の範囲の数を入れることができます。

この列でデフォルト値 (&V2.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できません。

この列でヌル (&V1.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されません。

DSQ85686

メッセージ: FLOAT: (+/-)

&V1&V2&V3.E(+/-)ee、デフォルト値はなく、ヌルは使用できません。

説明: 上記の形式で、

- (+/-) は、任意の符号です (プラス、またはマイナス)
- &V1&V2&V3 は仮数部の桁です。(倍精度は 17 桁まで、単精度は 8 桁までです)
- E は指数部の先頭です。
- (+/-) は、任意の指数符号です (プラス、またはマイナス)
- ee は、指数に対する桁です (1 または 2 桁)

指数部は省略できます。

この列でデフォルト値 (&V5.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できません。

この列でヌル (&V4.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されません。

DSQ85687

メッセージ: FLOAT:

(+/-)&V1&V2&V3.E(+/-)ee、デフォルト値はなく、ヌルは使用できます。

説明: 上記の形式で、

- (+/-) は、任意の符号です (プラス、またはマイナス)
- &V1&V2&V3 は仮数部の桁です。(倍精度は 17 桁まで、単精度は 8 桁までです)
- E は指数部の先頭です。
- (+/-) は、任意の指数符号です (プラス、またはマイナス)
- ee は、指数に対する桁です (1 または 2 桁)

指数部は省略できます。

この列でデフォルト値 (&V5.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できません。

この列でヌル (&V4.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されません。

DSQ85688

メッセージ: DECIMAL: &V1 は仮数部の前の桁、&V2 は後の桁、デフォルト値はなく、ヌルは使用できません。

説明: この列は、DECIMAL データ・タイプです。プラス、またはマイナスの符号は 10 進数の前に使用します。符号を省略するとプラスと見なされます。

この列でデフォルト値 (&V4.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できません。

この列でヌル (&V3.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。

ENTER キーを押すと、メッセージは消去されま
す。

DSQ85689

メッセージ: DECIMAL: &V1 は仮数部の前の
桁、&V2 は後の桁、デフォルト値はなく、ヌル
は使用できます。

説明: この列は、DECIMAL データ・タイプで
す。プラス、またはマイナスの符号は 10 進数の
前に使用します。符号を省略するとプラスと見な
されます。

この列でデフォルト値 (&V4.) の予約文字を、追
加モードでも変更モードでも使用できません。

この列でヌル (&V3.) の予約文字を、追加モード
でも変更モードでも使用できます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しま
せん。

ユーザーの処置: この列にデータを入力したい場
合は、このメッセージを参考にご覧ください。
ENTER キーを押すと、メッセージは消去されま
す。

DSQ85690

メッセージ: VARYING CHARACTER(&V1): デ
フォルト値はなく、ヌルは使用できません。

説明: この列は VARCHAR のデータ・タイプで
す。&V1 の文字まで入れることができます。後
ろのブランクはデータから除外されます。

この列でデフォルト値 (&V3.) の予約文字を、追
加モードでも変更モードでも使用できません。

この列でヌル (&V2.) の予約文字を、追加モード
でも変更モードでも使用できません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しま
せん。

ユーザーの処置: この列にデータを入力したい場
合は、このメッセージを参考にご覧ください。

ENTER キーを押すと、メッセージは消去されま
す。

DSQ85691

メッセージ: VARYING CHARACTER(&V1): デ
フォルト値はなく、ヌルは使用できます。

説明: この列は VARCHAR のデータ・タイプで
す。&V1 の文字まで入れることができます。後
ろのブランクはデータから除外されます。

この列でデフォルト値 (&V3.) の予約文字を、追
加モードでも変更モードでも使用できません。

この列でヌル (&V2.) の予約文字を、追加モード
でも変更モードでも使用できます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しま
せん。

ユーザーの処置: この列にデータを入力したい場
合は、このメッセージを参考にご覧ください。
ENTER キーを押すと、メッセージは消去されま
す。

DSQ85692

メッセージ: CHARACTER(&V1): デフォルト値
はなく、ヌルは使用できません。

説明: この列は &V1 文字まで入れることがで
きます。データベース内の列は常に &V1 文字の長
さです。 &V1 文字より少ないキーが入力され
ると列の最後にブランクが追加されます。

この列でデフォルト値 (&V3.) の予約文字を、追
加モードでも変更モードでも使用できません。

この列でヌル (&V2.) の予約文字を、追加モード
でも変更モードでも使用できません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しま
せん。

ユーザーの処置: この列にデータを入力したい場
合は、このメッセージを参考にご覧ください。
ENTER キーを押すと、メッセージは消去されま
す。

DSQ85693

メッセージ: CHARACTER(&V1): デフォルト値はなく、ヌルは使用できます。

説明: この列は &V1 文字まで入れることができます。データベース内の列は常に &V1 文字の長さです。 &V1 文字より少ないキーが入力されると列の最後にブランクが追加されます。

この列でデフォルト値 (&V3.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できません。

この列でヌル (&V2.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考してください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されません。

DSQ85694

メッセージ: VARYING GRAPHIC(&V1): デフォルト値はなく、ヌルは使用できません。

説明: この列は DBCS で、&V1 文字まで入力できます。後ろのブランクはデータから除外されます。

この列でデフォルト値 (&V3.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できません。

この列でヌル (&V2.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考してください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されません。

DSQ85695

メッセージ: VARYING GRAPHIC(&V1): デフォルト値はなく、ヌルは使用できます。

説明: この列は DBCS で、&V1 文字まで入力できます。後ろのブランクはデータから除外されます。

この列でデフォルト値 (&V3.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できません。

この列でヌル (&V2.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考してください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されません。

DSQ85696

メッセージ: GRAPHIC(&V1): デフォルト値はなく、ヌルは使用できません。

説明: この列は DBCS で、&V1 文字まで入力できます。データベース内の列は常に &V1 文字の長さです。 &V1 文字より少ないキーが入力されると列の最後にブランクが追加されます。

この列でデフォルト値 (&V3.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できません。

この列でヌル (&V2.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考してください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されません。

DSQ85697

メッセージ: GRAPHIC(&V1): デフォルト値はなく、ヌルは使用できます。

説明: この列は DBCS で、&V1 文字まで入力できます。データベース内の列は常に &V1 文字の長さです。&V1 文字より少ないキーが入力されると列の最後に空白が追加されます。

この列でデフォルト値 (&V3.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できません。

この列でヌル (&V2.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。

ENTER キーを押すと、メッセージは消去されません。

DSQ85698

メッセージ: DATE: &V1、デフォルト値はなく、ヌルは使用できません。

説明: デフォルトの日付の形式は上で示したとおりです。入力しようとしたデータの正しい形式は「mm/dd/yyyy」、「yyyy-mm-dd」、「dd.mm.yyyy」、またはインストール先のユーザー設定の日付形式です。

yyyy は年です。年として 2 桁を指定すると、年の最初の 2 桁はその日の世紀と見なされます。

mm は月です。(1 または 2 桁)

dd は日です。(1 または 2 桁)

この列でデフォルト値 (&V3.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できません。

この列でヌル (&V2.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: 有効な形式の日付を入力してください。

DSQ85699

メッセージ: DATE: &V1、デフォルト値はなく、ヌルは使用できます。

説明: デフォルトの日付の形式は上で示したとおりです。入力しようとしたデータの正しい形式は「mm/dd/yyyy」、「yyyy-mm-dd」、「dd.mm.yyyy」、またはインストール先のユーザー設定の日付形式です。

yyyy は年です。年として 2 桁を指定すると、年の最初の 2 桁はその日の世紀と見なされます。

mm は月です。(1 または 2 桁)

dd は日です。(1 または 2 桁)

この列でデフォルト値 (&V3.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できません。

この列でヌル (&V2.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: 有効な形式の日付を入力してください。

DSQ85700

メッセージ: TIME: &V1;、デフォルト値はなく、ヌルは使用できません。

説明: デフォルトの時間の形式は上で示したとおりです。入力データの正しい形式は、「hh:mm AM (または PM)」、「hh:mm:ss」、「hh.mm.ss」、またはインストール先のユーザー時刻の形式です。

hh は時刻です。(1 または 2 桁)

mm は分です。(1 または 2 桁)

ss は秒です。(1 または 2 桁)

秒は任意指定です。

この列でデフォルト値 (&V3.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できません。

この列でヌル (&V2.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: 有効な形式の時刻を入力してください。

DSQ85701

メッセージ: TIME: &V1、デフォルト値はなく、ヌルは使用できます。

説明: デフォルトの時間の形式は上で示したとおりです。入力データの正しい形式は、「hh:mm AM (または PM)」、「hh:mm:ss」、「hh.mm.ss」、またはインストール先のユーザー時刻の形式です。

hh は時刻です。(1 または 2 桁)

mm は分です。(1 または 2 桁)

ss は秒です。(1 または 2 桁)

秒は任意指定です。

この列でデフォルト値 (&V3.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できません。

この列でヌル (&V2.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: 有効な形式の時刻を入力してください。

DSQ85702

メッセージ: TIMESTAMP:

yyyy-mm-dd-hh.mm.ss.nnnnnn にはデフォルト値はなく、ヌルは使用できません。

説明: 上に表示されたタイム・スタンプ形式で、

yyyy-mm-dd は、年、月、および日
hh.mm.ss は、時間、分、および秒
nnnnnn は、マイクロ秒

マイクロ秒は任意指定です。

この列でデフォルト値 (&V2.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できません。

この列でヌル (&V1.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されます。

DSQ85703

メッセージ: TIMESTAMP:

yyyy-mm-dd-hh.mm.ss.nnnnnn にはデフォルト値はなく、ヌルは使用できます。

説明: 上に表示されたタイム・スタンプ形式で、

yyyy-mm-dd は、年、月、および日
hh.mm.ss は、時間、分、および秒
nnnnnn は、マイクロ秒

マイクロ秒は任意指定です。

この列でデフォルト値 (&V2.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できません。

この列でヌル (&V1.) の予約文字を、追加モードでも変更モードでも使用できます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置: この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。
ENTER キーを押すと、メッセージは消去されません。

DSQ85704

メッセージ: OK、表示された VARYING CHARACTER(&1) にはデフォルト値がなく、ヌルは使用できません。

DSQ85705

メッセージ: OK、表示された VARYING CHARACTER(&1) にはデフォルト値がなく、ヌルは使用できます。

DSQ85706

メッセージ: OK、表示された CHARACTER(&1) にはデフォルト値がなく、ヌルは使用できません。

DSQ85707

メッセージ: OK、表示された CHARACTER(&1) にはデフォルト値がなく、ヌルは使用できます。

DSQ85708

メッセージ: OK、表示された VARYING GRAPHIC(&1) にはデフォルト値がなく、ヌルは使用できません。

DSQ85709

メッセージ: OK、表示された VARYING GRAPHIC(&1) にはデフォルト値がなく、ヌルは使用できます。

DSQ85710

メッセージ: OK、表示された GRAPHIC(&1) にはデフォルト値がなく、ヌルは使用できません。

DSQ85711

メッセージ: OK、表示された GRAPHIC(&1) にはデフォルト値がなく、ヌルは使用できます。

DSQ85712 - DSQ85719

メッセージ: '&1' の無効なデータ・タイプが見つかりました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ85720

メッセージ: OK、VARYING CHARACTER (&1) が表示されました。検索は LIKE を使用します。

DSQ85721

メッセージ: OK、VARYING GRAPHIC (&1) が表示されました。検索は LIKE を使用します。

DSQ85722

メッセージ: '&1' の無効なデータ・タイプが見つかりました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ85723, DSQ85724

メッセージ: これを行う権限がありません。

説明: 行う内容によって次の権限が必要です。

1. 追加モードでは表または視点の編集に SELECT および INSERT の権限が必須です。

2. 検索モードでは表または視点の編集の SELECT 権限が必須です。
3. 更新モードでは表または視点に SELECT 権限が必須です。
 - 表の少なくとも 1 つの列に対する UPDATE 権限 (行の変更のため)
 - DELETE 権限 (行の削除のため)
4. 読み取り専用の視点では行の追加、変更または削除はできません。しかし、行の探索、または表示ができます。

ユーザーの処置: 必要な権限を得るには QMF 管理者に相談してください。

DSQ85725

メッセージ: 無効な機能コード '&1' がモジュールに渡されました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ85726

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ85727

メッセージ: DSQ85723 を参照してください。

DSQ85728

メッセージ: &V1.&V2 は空の表、または視点です。

説明: 編集しようとしている表または視点が空です。表編集プログラムの変更モードは使用できません。

ユーザーの処置: ほかの表か視点を選択するか、行を挿入したい場合には、表編集プログラムの追加モードを使用してください。

DSQ85729

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

第 12 章 メッセージ DSQ90001・DSQ90575

DSQ90001 - DSQ90027

メッセージ: LTT のリテラル定数が長すぎます。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ90400

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ90401

メッセージ: 端末割り込みハンドラーの設定に失敗しました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ90402

メッセージ: 端末割り込みハンドラーの取り消しは失敗しました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ90403

メッセージ: DSQ50015 を参照してください。

DSQ90404

メッセージ: CSECT DSQCSTAX に対する内部の論理問題です。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ90405

メッセージ: GDDM アテンション出口ルーチンを使用可能にすることができませんでした。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ90406

メッセージ: GDDM アテンション出口ルーチンを使用禁止にすることができませんでした。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システムのマニュアルを参照してください。

DSQ90461

メッセージ: QMF 異常終了ハンドラーを設定することができませんでした。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ90462

メッセージ: QMF 異常終了ハンドラーを取り消すことができませんでした。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ90480 - DSQ90490

メッセージ: ISPF インターフェース・モジュールからエラーが戻されました。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ90491

メッセージ: **DSQ84300** を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ90500

メッセージ: IKJEFTSR エラー。戻りコード = &1。P4 = &2。P5 = &3。P6 = &4。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ90501

メッセージ: 記憶域の解放が失敗しました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ90502

メッセージ: **DSQ84300** を参照してください。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ90510 - DSQ90530

メッセージ: ISPF インターフェース・モジュールからエラーが戻されました。

ユーザーの処置: 参照メッセージの指示に従ってください。

DSQ90550

メッセージ: **DSQ84300** を参照してください。

DSQ90551

メッセージ: システム・エラーが発生しました。コマンドは実行されませんでした。

説明: &DSQSMMSG1

コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。

Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

DSQ90554

メッセージ: ライセンス・マネージャーは、ライセンスをリリースするときにエラーを検出しました。

説明: IBM ライセンス・マネージャーは、ライセンスをリリースするときにエラーを検出しまし

た。z/OS ジョブ・ログには、問題を診断するために役立つ追加情報が含まれます。QMF は終了を続けます。ライセンス証明書をリリースするために、ユーザーはログオフしてから再度ログオンする必要があります。

ユーザーの処置: z/OS コンソールに表示される戻りコードおよび状況コードの意味を判別するには、IBM ライセンス・マネージャーの資料を参照してください。

DSQ90556

メッセージ: OK、コマンドを入力してください。

DSQ90557

メッセージ: OK、ユーザーの QMF セッションは終了しました。

DSQ90558

メッセージ: 警告メッセージが生成されました。

説明: QMF での作業中に検出された条件に関して、QMF が警告メッセージを生成しました。これらのメッセージは、QMF トレース・データに入ります。そのメッセージは、PF キーの定義、インストール先定義コマンドの定義、QMF コマンド・インターフェースの初期化、または QMF 管理プログラム・ルーチンの初期化、またはリポジトリ管理プログラムが使用可能でないことに関連するものです。リポジトリ管理プログラムが使用可能でない場合、モデルはこのセッションに対して ER から REL に変更されました。

ユーザーの処置: QMF トレース・データの警告メッセージを見てください。これを行う方法がわからない場合、またはメッセージで指定された QMF 事項を熟知していない場合には、QMF 管理者に相談してください。

DSQ90559

メッセージ: 管理プログラム出口ルーチンをロードできません。

説明: QMF の初期化時に、QMF 管理プログラム出口ルーチンをロードしようと試みましたが、このロードは正常に行なわれていません。セッションは続けられますが、管理プログラム出口ルーチンはアクティブになりません。

CICS で実行している場合には、管理プログラム出口ルーチンは、AMODE 31 の指定でリンク・エディットされる必要があります。

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ90560

メッセージ: 管理プログラム出口ルーチンをロードできません。

説明: QMF の初期化時に、QMF 管理プログラム出口ルーチンをロードしようと試みましたが、このロードは正常に行なわれていません。QMF セッションは続けられますが、管理プログラム出口ルーチンは利用不能です。

CICS で実行している場合には、管理プログラム出口ルーチンは、AMODE 31 の指定でリンク・エディットされる必要があります。

ユーザーの処置:

CICS のもとで稼働している場合には、次の CICS コマンドを実行して、QMF の外側で、ネイティブ CICS から、編集ルーチンをロードしよう試みてください。

CECI LOAD PROGRAM(DSQUECIC)

QMF 管理者に連絡して、QMF 管理者に連絡して援助を受けてください。

DSQ90561, DSQ90562

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ90563

メッセージ: DSQ90560 を参照してください。

DSQ90564

メッセージ: DSQ90559 を参照してください。

DSQ90565

メッセージ: DSQ84300 を参照してください。

DSQ90566

メッセージ: 制御表をトレースするモジュールをロードできません。

説明: QMF 初期化中に、制御表 DSQUTRAC をトレースする QMF モジュールをロードしようとしたが、失敗しました。QMF セッションは継続されますが、特定のモジュールのトレース・データを獲得することはできなくなります。

ユーザーの処置: 情報センターに連絡して援助を求めてください。

DSQ90567, DSQ90568

メッセージ: LE モジュール CEEPIPI をロードできません。

ユーザーの処置: これはシステム・エラーです。システム管理者に援助を求めるか、ご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ90569

メッセージ: インストール・ユーザー出口 (DSQUOPTS) をロードできませんでした。

説明: QMF の初期化中に、QMF インストール・ユーザー出口 (DSQUOPTS) をロードしようとした。このロードは正常に行なわれていません。QMF セッションは続けられますが、インストール・ユーザー出口はアクティブではありません。

726 QMF: QMF メッセージおよびコード

ユーザーの処置: QMF 管理者に連絡して援助を求めてください。

DSQ90570

メッセージ: インストール・ユーザー出口 (DSQUOPTS) は、QMF では無効です。

説明: QMF の初期化中に、QMF インストール・ユーザー出口 (DSQUOPTS) をロードしようとした。ロードは正常に終了しましたが、インストール・ユーザー出口は無効であることが判明しました。QMF セッションは続けられますが、インストール・ユーザー出口はアクティブではありません。考えられる問題は、以下のとおりです。

- 最小の長さ要件を満たしていない
- 破壊された、または無効な目印
- 破壊された、または無効なレベル ID

この内容の詳細については、「*QMF* 導入および管理の手引き」を参照してください。

ユーザーの処置: インストール・ユーザー出口は、検査、修正、アSEMBル、およびリンク作成する必要があります。QMF 管理者に連絡して援助を求めてください。

DSQ90571

メッセージ: QMF とインストール・ユーザー出口のレベルが一致しません。

説明: QMF の初期化中に、QMF インストール・ユーザー出口ルーチンをロードしようとした。ロードは正常に終了しましたが、インストール・ユーザー出口 (DSQUOPTS) は QMF とレベルが異なることが判明しました。QMF セッションは続けられ、有効なオプションの活動レベルは以下のようになります。

- QMF レベル: &C1
- インストール・ユーザー出口 (DSQUOPTS) レベル: &C2
- オプションの活動レベル: &C3

ユーザーの処置: インストール・ユーザー出口は、有効にするすべてのユーザー・オプションについて、QMF と同じレベルでなければなりません。QMF 管理者に連絡して援助を求めてください。

DSQ90572 - DSQ90575

メッセージ: システム・エラーが発生しました。コマンドは実行されませんでした。

説明: モジュール &V1 に予期せぬ結果が戻されました。*** CMD=HELP。コンピューターは内部エラーを検出しました。エラー情報は表 Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データに記録されています。

ユーザーの処置: インストール先で定められた手続きに従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG および QMF トレース・データのエラー情報の解釈に役に立つご使用のオペレーティング・システム用の「*QMF* インストールおよび管理の手引き」資料を参照してください。また、コマンドが正しく実行されたかどうかチェックしてください。QMF は継続して使用できます。

第 13 章 SQLSTATE コード

SQLSTATE (理由コード) には、2 つのクラスがあります。警告とエラーです。それぞれに、3 つのメッセージ・トークンが伴っています。そのうちの 2 つは、DB2 により、他の 1 つは、QMF により提供されます。最初のトークンは、ルーチンまたは機能名です。(たとえば、APPL_AUTHNAMES) 2 番目のトークンは、特定の名前です。(たとえば、DSQABA1E_FIC) 3 番目のトークンは、QMF により提供されます。

DB2 の SPUFI QUERY インターフェースを使用する、ユーザー定義関数表からのエラーの例です。

```
-----
SELECT * FROM TABLE( Q.APPL_AUTHNAMES('A A1 1B C') ) AS U;    00010004
-----
AUTHNAME  NAMEKIND
-----
DSNE610I NUMBER OF ROWS DISPLAYED IS 0
DSNT408I SQLCODE = -443, ERROR: EXTERNAL FUNCTION APPL_AUTHNAMES
        (SPECIFIC NAME DSQABA1E_FIC) HAS RETURNED AN ERROR SQLSTATE
        WITH DIAGNOSTIC TEXT DSQABA1E-PARM 1 ERROR-"1", 6
DSNT418I SQLSTATE = 3810G SQLSTATE RETURN CODE
DSNT415I SQLERRP  = DSNXRRTN SQL PROCEDURE DETECTING ERROR
DSNT416I SQLERRD  = -891  0  0 -1  0  0 SQL DIAGNOSTIC INFORMATION
DSNT416I SQLERRD  = X'FFFFFFC85' X'00000000' X'00000000' X'FFFFFFF'
        X'00000000' X'00000000' SQL DIAGNOSTIC INFORMATION
```

表 1. SQLCODE +462 に関連した SQLSTATE 警告

理由コード (SQLSTATE)	(第 3 メッセージ・トークン)	説明
01H01	データが切り捨てられました、11111	<ul style="list-style-type: none"> DB2 から取得した許可名が、予期したものより長くなりました。 FETCH より戻されたデータ値は、切り捨てられました。 オリジナルの長さは、11111 により指定されます。

表 1. SQLCODE +462 に関連した SQLSTATE 警告 (続き)

理由コード (SQLSTATE)	(第 3 メッセージ・トークン)	説明
01H02	パラメータ n が切り捨てられました	<ul style="list-style-type: none"> データ値の長さが、DB2 に登録された関数に与えられた結果パラメーターより長くなりました。 以前のバージョンの DB2 用の関数登録が、アクティブになっていると思われます。廃棄し、再インストールしてください。 切り捨てられたデータを伴うパラメーターの数は、n により提供されます。
01H03	データが切り捨てられました、pcsxx	<ul style="list-style-type: none"> DB2 から取得した、1 つ以上の許可名が、ストアード・プロシージャ呼び出しの OUTPUT パラメーター内で切り捨てられました。 理由コード (pcsxx) は、パラメーターが影響を受けたことを示しています。 <ul style="list-style-type: none"> - 1- - - - : 基本 ID - - 1 - - - : 現行 SQLID - - - 1xx: xx が、切り捨てられた最初の 2 次 ID の 16 進数インデックスである、2 次 ID

表 2. SQLCODE -463 の関連した SQLSTATE エラー

理由コード (SQLSTATE)	(第 3) メッセージ・トークン	説明
38105	無効な特定名の値	<ul style="list-style-type: none"> 外部プログラムに、無効な (サポートされていない) 特定名パラメーター値が見つかりました。 DB2 の登録に誤りがないか、確認してください。 特定名および外部名のオプションを検査してください。
38106	不明な DB2SQL パラメーター	外部プログラムに、DB2 により渡された未認識のパラメーターが見つかりました。IBM サービス担当員に連絡してください。

表 2. SQLCODE -463 の関連した SQLSTATE エラー (続き)

理由コード (SQLSTATE)	(第 3) メッセージ・トークン	説明
38107	パラメーターの 過多	<ul style="list-style-type: none"> 外部プログラムに、予期していたより多くのデータ・パラメーターが見つかりました。 DB2 の登録に誤りがないか、確認してください。 パラメーター宣言および RETURNS の仕様を確認してください。
38108	パラメーターの 過少	<ul style="list-style-type: none"> 外部プログラムに、予期していたより少ないデータ・パラメーターが見つかりました。 DB2 の登録に誤りがないか、確認してください。 パラメーター宣言および RETURNS の仕様を確認してください。
38109	FINAL CALL オプションの欠落	<ul style="list-style-type: none"> 外部プログラムは、予期していた CALL タイプのパラメーターを検出ませんでした。 DB2 の登録に誤りがないか、確認してください。 FINAL CALL オプションの検査が、正しく指定されました。
3810A	FINAL CALL の 無効	<ul style="list-style-type: none"> 外部プログラムは、予期していなかった CALL タイプのパラメーターを検出しました。 DB2 の登録に誤りがないか、確認してください。 FINAL CALL オプションの検査が、正しく指定されました。
3810B	FINAL CALL の 無効	<ul style="list-style-type: none"> 外部プログラムは、予期していなかった値を持つ CALL タイプのパラメーターを検出しました。 DB2 の登録に誤りがないか、確認してください。 FINAL CALL オプションの検査が、正しく指定されました。

表 2. *SQLCODE -463* の関連した *SQLSTATE* エラー (続き)

理由コード (SQLSTATE)	(第 3) メッセージ・トークン	説明
3810C	SCRATCHPAD オプションの 欠落	<ul style="list-style-type: none"> 外部プログラムは、予期していたスクラッチパッド・パラメーターを検出ませんでした。 DB2 の登録に誤りがないか、確認してください。 FINAL CALL オプションの検査が、正しく指定されました。
3810D	DBINFO オプションの欠落	<ul style="list-style-type: none"> 外部プログラムは、予期していた DBINFO パラメーターを検出ませんでした。 DB2 の登録に誤りがないか、確認してください。 FINAL CALL オプションの検査が、正しく指定されました。
3810E	SCRATCHPAD の 過小	<ul style="list-style-type: none"> 外部プログラムは、長さが予期していたより短いスクラッチパッド域を検出しました。 DB2 の登録に誤りがないか、確認してください。 FINAL CALL オプションの検査が、正しく指定されました。
3810F	PARM nn の過小	<ul style="list-style-type: none"> 外部プログラムは、予期したものより小さいサイズ、または長さのデータ・パラメーターを検出しました。 DB2 の登録に誤りがないか、確認してください。パラメーター番号は、nn によって提供されます。 パラメーター宣言および RETURNS の仕様を確認してください。

表 2. *SQLCODE -463* の関連した *SQLSTATE* エラー (続き)

理由コード (SQLSTATE)	(第 3) メッセージ・トークン	説明
3810G	パラメーター n のエラー -"c",pos	<ul style="list-style-type: none"> • 入力パラメーターに無効内容があります。これは通常、入力データに無効な DB2 ID が指定された場合に発生します。 • パラメーター番号は、n によって提供されます。最初の無効な文字は c で、pos で示される位置の入力で発生します。 • 入力エラーを訂正し、再試行してください。必ず空白で区切られた SQL ID を指定してください。IDは、区切り IDとして指定しなければなりません。
3810H	PTF ssssss の必要	<ul style="list-style-type: none"> • 外部プログラムは、前提条件である DB2 のサービス・レベルに達していません。 • 必要な DB2 PTF 番号は、ssssss により示されます。 • 再試行する前に、前提条件となるサービスを取得、適用してください。
3810I	DSNWLI エラー xxxxxxx	<ul style="list-style-type: none"> • 外部プログラムは、DSNWLI から予期しない応答を受け取りました。 • DSNWLI の理由コードは、xxxxxxx により提供されます。 • 解説および推奨アクションについては、DB2 メッセージおよびコードを参照してください。
3810J	VALUE TOO LONG, c,pos	<ul style="list-style-type: none"> • 入力パラメーターは、現行の DB2 コンテキストには長すぎる DB2 ID を指定しました。 • パラメーター番号は、n によって提供されます。許可された最大長を超えた部分の最初の文字は c で、その位置は pos で示されます。 • 入力エラーを訂正し、再試行してください。必ず空白で区切られた SQL ID を指定してください。

表2. *SQLCODE -463* の関連した *SQLSTATE* エラー (続き)

理由コード (SQLSTATE)	(第 3) メッセージ・トークン	説明
3810K	CALL エラー、 nnnnnnnn	<ul style="list-style-type: none"> 外部プログラムに、DB2 からのサポートされていない CALL タイプ要求が見つかりました。 CALL タイプの値は、nnnnnnnn よって示されます。 IBM サービス担当員に連絡してください。
3810L	データ・エラー、 nnnnnnnn	<ul style="list-style-type: none"> 外部プログラムは、DB2 許可名のデータの予期しない状況を検出しました。 CALL タイプの値は、nnnnnnnn よって示されます。 IBM サービス担当員に連絡してください。
3810M	データの喪失 パ ラメーター n,ppp	<ul style="list-style-type: none"> DB2 の許可名のデータは、外部プログラムの容量を超過しました。データが失われました。 該当する出力パラメーターは、n により示されます。 IBM サービス担当員に連絡してください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032

東京都港区六本木 3-2-31

IBM World Trade Asia Corporation

Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
J46A/G4
555 Bailey Avenue
San Jose, CA 95141-1003
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

AIX	iSeries
C/370	MVS
CICS	
COBOL/370	OS/390
DataJoiner	Parallel Sysplex
DB2	PL/I
DB2 Information Integrator	QMF
	RACF S/390
DB2 Universal Database	SQL/DS
Distributed Relational	VM/ESA
Database Architecture	VSE/ESA
DRDA	VTAM
GDDM	WebSphere
IBM	z/OS
IBMLink	zSeries
IMS	

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標です。

参考文献

以下の資料リストは、特定のライブラリーの全資料を示しているものではありません。
このリストにある資料の注文、または特定ライブラリーの詳細については、IBM 担当員
にお問い合わせください。

APPC の資料

- *Communicating with APPC and CPI-C: A Technical Overview*
- *Networking with APPC: An Overview*

CICS の資料

CICS Transaction Server for OS390

- *CICS/OS390 User's Handbook*
- *CICS/OS390 Application Programmers Reference*
- *CICS/OS390 Application Programming Guide*
- *CICS/OS390 DB2 Guide*
- *CICS/OS390 Resource Definition (Macro)*
- *CICS/OS390 Resource Definition (Online)*
- *CICS/OS390 Problem Determination Guide*
- *CICS/OS390 System Definition Guide*
- *CICS/OS390 Intercommunication Guide*
- *CICS/OS390 Performance Tuning Handbook*

CICS for VSE

- *CICS for VSE/ESA User's Handbook*
- *CICS for VSE/ESA Application Programmer's Reference*
- *CICS for VSE/ESA Application Programming Guide*
- *CICS for VSE/ESA Resource Definition (Macro)*
- *CICS for VSE/ESA Resource Definition (Online)*
- *CICS for VSE/ESA Problem Determination Guide*
- *CICS/OS390 System Definition Guide*
- *CICS for VSE/ESA Intercommunication Guide*
- *CICS for VSE/ESA Performance Tuning Handbook*

COBOL の資料

- *VS COBOL II Application Programming Guide for VSE*
- *COBOL/VSE Language Reference*
- *COBOL/VSE Programming Guide*

DB2 UDB の資料

DB2 UDB (z/OS 版)

- *DB2 UDB for z/OS Installation Guide*
- *DB2 UDB for z/OS Administration Guide*
- *DB2 UDB for z/OS SQL Reference*
- *DB2 UDB for z/OS Command reference*
- *DB2 UDB for z/OS Application Programming and SQL Guide*
- *DB2 UDB for z/OS Messages and Codes*
- *DB2 UDB for z/OS Reference Summary*
- *DB2 UDB for z/OS Reference for Remote DRDA Requesters and Servers*

DB2 (VSE および VM 版)

- *DB2 Server for VM Installation Guide*
- *DB2 Server for VSE Installation Guide*
- *DB2 サーバー (VSE および VM 版) データベース管理*
- *DB2 サーバー (VM 版) システム管理*
- *DB2 サーバー (VSE 版) システム管理*
- *DB2 サーバー (VSE および VM 版) オペレーション*
- *DB2 サーバー (VSE および VM 版) SQL リファレンス*
- *DB2 サーバー (VSE および VM 版) アプリケーション・プログラミング*
- *DB2 Server for VSE & VM Interactive SQL Guide and Reference*
- *DB2 サーバー (VSE および VM 版) データベース・サービス・ユーティリティー*
- *DB2 サーバー (VM 版) メッセージおよびコード*
- *DB2 サーバー (VSE 版) メッセージおよびコード*
- *DB2 Server for VSE & VM Diagnostic Guide and Reference*
- *DB2 サーバー (VSE および VM 版) パフォーマンス・チューニング・ハンドブック*

DB2 Universal Database (iSeries 版)

- *DB2 Univesral Database for iSeries SQL Reference*
- *DB2 Universal Database for iSeries SQL Programming with Host Languages*

パラレル・エディション

- *DB2 パラレル・エディション 管理の手引きおよび解説書*

DB2 ユニバーサル・データベース

- *DB2 ユニバーサル・データベース コマンド解説書*
- *DB2 ユニバーサル・データベース SQL 解説書*
- *DB2 ユニバーサル・データベース Message Reference*

DataJoiner

- *DataJoiner Application Programming and SQL Reference Supplement*

DCF の資料

- *DCF and DLF General Information*

DRDA の資料

- *DRDA Every Manager's Guide*
- *DRDA 接続の手引き*

図形データ表示管理プログラム (GDDM) の資料

- *GDDM 概説書*
- *GDDM Base Programming Reference*
- *GDDM Base Programming Guide*
- *GDDM 使用者の手引き*
- *GDDM Installation and System Management for VSE*
- *GDDM メッセージ*

HLASM の資料

- *IBM High-Level Assembler Programmer's Guide for OS/390, VM and VSE*
- *IBM High-Level Assembler Language Reference for OS/390, VM and VSE*

ISPF/PDF の資料**OS/390**

- *ISPF (OS/390 版) Installation and Customization*
- *Interactive System Productivity Facility for OS/390 Dialog Management Guide*

参考文献

- *Interactive System Productivity Facility for OS/390 Dialog Management Services and Examples*

VM

- *ISPF for VM Dialog Management Services and Examples*

OS/390 の資料

ユーティリティー

- *OS/390 Administration: Utilities*
- *OS/390 Extended Architecture Utilities*

JCL

- *OS/390 Extended Architecture JCL Reference*
- *OS/390 Extended Architecture JCL User's Guide*
- *OS/390 JCL Reference*
- *OS/390 JCL Users Guide*

Pageable Link Pack Area (PLPA)

- *OS/390 Extended Architecture Initialization and Tuning*
- *OS/390 SPL: Initialization and Tuning*

VSAM

- *OS/390 VSAM Administration Guide*
- *OS/390 VSAM Catalog Administration Access Method Services*

TSO

- *OS/390 TSO 入門*
- *OS/390 使用者の手引き*

SMP/E

- *OS/390 System Modification Program Extended Messages and Codes*
- *OS/390 System Modification Program Extended Primer*
- *OS/390 System Modification Program Extended Reference*
- *OS/390 System Modification Program Extended User's Guide*

PL/I の資料

- *PL/I VSE Language Reference*
- *PL/I VSE Programming Guide*

REXX の資料

z/OS 環境

- *Compiler and Library for REXX on z/Series User's Guide and Reference*
- *TSO/E REXX 解説書*

VM 環境

- *Procedures Language VM/REXX Reference*
- *Procedures Language VM/REXX User's Guide*

ServiceLink の資料

- *ServiceLink User's Guide*

VM の資料

- *Virtual Machine Planning Guide and Reference*
- *Virtual Machine CMS Command and Macro Reference*

VSE の資料

- *VSE Planning Guide*
- *VSE Guide to System Functions*
- *VSE System Utilities*
- *VSE Guide for Solving Problems*



プログラム番号: 5625-DB2

Printed in Japan

GC88-9835-00



日本アイ・ビー・エム株式会社

〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12